KONICA MINOLTA

The essentials of imaging

bizhub C353/C253/C203

ユーザーズガイド　コピー機能編



はじめに

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このユーザーズガイドには、bizhub C353/C253/C203 の機能と操作方法、使用上のご注意、簡単なトラブルの処理方法などについて記載しています。本機の性能を十分に発揮させて、効果的にご利用いただくために、必要に応じてこのユーザーズガイドをお読みください。

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全にお使いいただくために」をお読みください。

商標およびライセンスについては、別冊の「商標／ライセンスについて」をごらんください。

ユーザーズガイド内で使用しているイラストなどは、実際の装置とは異なる場合があります。

もくじ

はじめに 1
もくじ 2
こんな機能があります 10
ページの見かた 16
原稿と用紙の表示について 17
マニュアル体系について 18
印刷物のユーザーズガイド 18
ユーザーズガイド CD 収録のユーザーズガイド 18

第 1 章　ご使用いただく前に

1.1　各部の名称とはたらき 1-2
1.1.1　オプション構成 1-2
1.1.2　本体外部 1-5
1.1.3　本体内部 1-9
1.1.4　フィニッシャー FS-519 ／排紙トレイ OT-602 ／パンチキット PK-515 1-10
1.1.5　中綴じ機 SD-505 ／メールビンキット MT-502 1-12
1.1.6　フィニッシャー FS-609 ／パンチキット PK-501 1-14
1.1.7　セパレータ JS-505 1-16
1.1.8　操作パネル 1-18
1.1.9　基本的な設定をする画面（基本設定画面） 1-20
1.1.10　タッチパネル内で表示されるアイコンについて 1-22
1.2　操作パネルの角度をかえる 1-23
1.2.1　操作パネルの角度のかえかた 1-23
1.3　主電源と副電源を入れる 1-26
1.3.1　電源の入れかた 1-26
1.3.2　ウォームアップ中に読込みする 1-27
1.3.3　電源の切りかた 1-28
1.3.4　自動的に設定を取消す（オートリセット） 1-28
1.3.5　自動的に機能画面を取消す（システムオートリセット） 1-28
1.3.6　自動的に節電状態にする（低電力） 1-29
1.3.7　自動的に節電状態にする（スリープ） 1-29
1.3.8　手動で節電状態にする 1-30
1.3.9　自動的に電源を OFF ／ ON する（ウィークリータイマー） 1-30
1.3.10　ユーザーごとに本機の使用者を制限する（ユーザー認証） 1-32
1.3.11　部門ごとに本機の使用者を制限する（部門認証） 1-34
1.3.12　認証装置（指静脈 生体認証タイプ）を使って本機の使用者を制限する 1-37
1.3.13　認証装置（IC カード認証タイプ）を使って本機の使用者を制限する 1-39
1.4　トレイ 1/2/3/4 へ用紙をセットする 1-41
1.5　LCT へ用紙をセットする 1-43
1.6　手差しトレイへ用紙をセットする 1-45

第 2 章　基本機能

2.1　コピー操作の流れ 2-2
2.2　組合わせできない操作について 2-4
2.2.1　あとから設定した機能が優先される場合 2-4
2.2.2　先に設定した機能を優先する場合 2-5
2.3　原稿をセットする 2-6
2.3.1　ADF に原稿をセットする 2-6
2.3.2　原稿ガラス上に原稿をセットする 2-7

2.3.3 原稿を分割して読込む（連続読込み設定）.....2-9
2.3.4 複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットする.....2-12
2.4 原稿の設定をする.....2-16
2.4.1 原稿のサイズを設定する（原稿サイズ）.....2-16
2.4.2 サイズの異なる原稿をセットする（混載原稿）.....2-18
2.4.3 折りぐせのついた原稿をセットする（Z 折れ原稿）.....2-19
2.4.4 原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）.....2-20
2.4.5 原稿セット方向の設定のしかた.....2-21
2.4.6 とじしろを設定する（原稿のとじしろ）.....2-22
2.4.7 原稿のとじしろの設定のしかた.....2-23
2.4.8 スリットガラスの汚れの影響を軽減する（汚れ軽減モード）.....2-24
2.4.9 原稿ごとに読込み設定を変更する.....2-24
2.5 印刷カラーを選ぶ.....2-27
2.5.1 印刷カラーを選択する.....2-27
2.6 用紙を選ぶ.....2-29
2.6.1 自動的に用紙を選択する（自動用紙）.....2-29
2.6.2 手動で目的の用紙を指定する.....2-30
2.7 倍率を選ぶ.....2-31
2.7.1 自動的に倍率を設定させる（自動倍率）.....2-31
2.7.2 原稿と同じ倍率にする（等倍）.....2-32
2.7.3 テンキーで倍率を指定する（ズーム）.....2-33
2.7.4 原稿を少しだけ縮小させる（小さめ）.....2-34
2.7.5 「拡大」、「縮小」から倍率を選択する（固定倍率）.....2-35
2.7.6 テンキーで倍率を指定する（独立ズーム）.....2-36
2.7.7 登録倍率から選択する.....2-38
2.7.8 目的の倍率を登録する.....2-38
2.8 原稿＞コピー機能を選ぶ.....2-40
2.8.1 片面コピーを選択する.....2-41
2.8.2 両面コピーを選択する.....2-42
2.9 ページ集約を選ぶ.....2-44
2.9.1 複数枚の原稿を 1 枚の用紙に収める（集約）.....2-45
2.10 原稿の画質を選ぶ.....2-47
2.10.1 小さな文字や写真の入った原稿をセットする（原稿画質）.....2-47
2.10.2 原稿画質の設定のしかた.....2-48
2.11 濃度を選ぶ.....2-50
2.11.1 印刷濃度を調整する（濃度）.....2-51
2.11.2 下地濃度を調整する（下地調整）.....2-52
2.11.3 文字の再現レベルを調整する.....2-53
2.11.4 印刷画像に光沢をつける（光沢コピー）.....2-54
2.12 仕上り機能を選ぶ.....2-55
2.12.1 部数ごとに分けて排紙する（ソート）.....2-58
2.12.2 ページごとに分けて排紙する（グループ）.....2-59
2.12.3 排紙先を指定して排紙する.....2-60
2.12.4 ステープルでとじて排紙する（ステープル）.....2-61
2.12.5 パンチ穴をあけて排紙する（パンチ）.....2-64
2.13 紙折り機能を選ぶ.....2-66
2.13.1 2 つ折りにして排紙する（中折り）.....2-66
2.13.2 用紙の中央をとじて排紙する（中とじ）.....2-68
2.14 回転しないを選ぶ.....2-71
2.15 印刷中に次のコピー原稿を読込む（コピー予約）.....2-72

2.16 読込み・印刷を一時停止する 2-73
2.17 一時停止したジョブを削除する 2-74

第 3 章 コピー補助機能

3.1 コピー条件を確認する（設定内容） 3-2
3.1.1 設定の確認のしかた 3-2
3.1.2 設定の変更のしかた 3-4
3.2 1 部印刷してコピーの仕上りを確認する（確認コピー） 3-5
3.3 プレビュー画像でコピーの仕上りを確認する（仕上りプレビュー） 3-8
3.3.1 プレビュー詳細画面 3-8
3.3.2 仕上りプレビューを確認する 3-10
3.4 割込んでコピーする（割込み） 3-13
3.5 コピー条件を登録する（プログラム登録） 3-14
3.5.1 コピープログラムの削除のしかた 3-16
3.6 登録したコピー条件でコピーする（コピープログラム呼出し） 3-17
3.7 機能説明画面を表示させる（ヘルプ機能） 3-19
3.7.1 ヘルプ基本画面の概要 3-19
3.7.2 ヘルプ基本画面を表示させる 3-21
3.8 操作パネルの設定をする（ユニバーサル設定） 3-23
3.8.1 ユニバーサル設定画面を表示させる 3-23
3.8.2 タッチパネルの調整をする 3-23
3.8.3 キーリピート開始 / 間隔時間の設定をする 3-24
3.8.4 拡大表示が自動的に解除されるときに確認画面を表示する 3-26
3.8.5 拡大表示中に設定がオートリセットされるときに確認画面を表示する 3-28
3.8.6 拡大表示に切換えるときに、設定解除の確認画面を表示する 3-29
3.8.7 メッセージ表示時間の設定をする 3-31
3.8.8 装置の状態を知らせる音の設定をする 3-32

第 4 章 トラブルの処理

4.1 「トラブル」が表示されたら（サービスコール） 4-2
4.2 「紙づまりです」と表示されたら 4-4
4.2.1 表示と紙づまり箇所 4-4
4.2.2 紙づまり位置表示 4-4
4.2.3 ADF での紙づまり処理のしかた（給紙部） 4-7
4.2.4 ADF での紙づまり処理のしかた（搬送部） 4-9
4.2.5 ADF での紙づまり処理のしかた（読取り部） 4-13
4.2.6 ADF での紙づまり処理のしかた（排紙部） 4-16
4.2.7 ADF での紙づまり処理のしかた（反転部） 4-18
4.2.8 定着部での紙づまり処理のしかた 4-21
4.2.9 本体内部での紙づまり処理のしかた 4-24
4.2.10 自動両面ユニットでの紙づまり処理のしかた 4-27
4.2.11 手差しトレイでの紙づまり処理のしかた 4-28
4.2.12 用紙縦搬送部での紙づまり処理のしかた 4-31
4.2.13 トレイ 1 での紙づまり処理のしかた 4-32
4.2.14 トレイ 2 での紙づまり処理のしかた 4-35
4.2.15 給紙キャビネット（トレイ 3/4）での紙づまり処理のしかた 4-37
4.2.16 LCT での紙づまり処理のしかた 4-39
4.2.17 長尺紙の紙づまり処理のしかた 4-41
4.2.18 フィニッシャー FS-519 での紙づまり処理のしかた 4-45

4.2.19 メールビンでの紙づまり処理のしかた 4-48
4.2.20 中綴じ機での紙づまり処理のしかた 4-50
4.2.21 フィニッシャー FS-609 での紙づまり処理のしかた 4-52
4.2.22 セパレータでの紙づまり処理のしかた 4-55
4.3 「ステープルできませんでした」と表示されたら 4-57
4.3.1 フィニッシャー FS-519 での針づまり処理のしかた 4-58
4.3.2 中綴じ機での針づまり処理のしかた 4-60
4.3.3 フィニッシャー FS-609 での針づまり処理のしかた 4-61
4.4 「用紙を補給してください」と表示されたら 4-64
4.5 「メモリー残量不足のため、…」と表示されたら 4-65
4.6 「以下のユニットが交換時期に達しています」と表示されたら 4-66
4.7 「…交換してください」と表示されたら 4-67
4.8 「リモート操作中です 電源を切断しないでください」と表示されたら 4-68
4.9 簡単なトラブルの処理 4-69
4.10 おもなメッセージと処理のしかた 4-71

第 5 章 仕様

5.1 仕様 5-2
5.1.1 本体仕様 5-2
5.1.2 自動両面ユニット 5-4
5.1.3 自動両面原稿送り装置 DF-611 5-4
5.1.4 給紙キャビネット PC-104 5-5
5.1.5 給紙キャビネット PC-204 5-5
5.1.6 給紙キャビネット PC-405 5-6
5.1.7 フィニッシャー FS-519 5-6
5.1.8 パンチキット PK-515 5-7
5.1.9 中綴じ機 SD-505 5-7
5.1.10 排紙トレイ OT-602 5-7
5.1.11 メールビンキット MT-502 5-8
5.1.12 フィニッシャー FS-609 5-8
5.1.13 パンチキット PK-501 5-9
5.1.14 セパレータ JS-505 5-9

第 6 章 用紙・原稿について

6.1 用紙について 6-2
6.1.1 使用できる用紙サイズ 6-2
6.1.2 用紙種類および用紙容量 6-3
6.1.3 専用紙について 6-4
6.1.4 用紙使用上の注意 6-5
6.1.5 用紙の保管 6-5
6.1.6 ATS 機能（自動トレイ切換え機能） 6-5
6.1.7 給紙トレイ切換え順位 6-6
6.2 用紙設定 6-7
6.2.1 用紙サイズを自動で検出させる（自動検出） 6-7
6.2.2 用紙サイズを指定する（サイズ指定） 6-8
6.2.3 不定形紙をセットする（不定形） 6-9
6.2.4 目的の用紙サイズを登録する（不定形） 6-11
6.2.5 ワイド紙の設定をする 6-13
6.2.6 専用紙として設定する 6-16

6.2.7 手動で両面印刷をする 6-17
6.3 原稿について 6-19
6.3.1 ADF にセットできる原稿 6-19
6.3.2 ADF にセットする原稿についての注意 6-20
6.3.3 原稿ガラス上にセットできる原稿 6-20
6.3.4 原稿ガラス上にセットする原稿についての注意 6-20

第 7 章 応用機能

7.1 カラー画質機能とサンプル 7-2
7.1.1 色についての知識 7-3
7.1.2 赤色 7-5
7.1.3 緑色 7-6
7.1.4 青色 7-7
7.1.5 カラーバランス（カラー CMYK 調整） 7-8
7.1.6 明度 7-10
7.1.7 コントラスト 7-11
7.1.8 彩度 7-12
7.1.9 シャープネス 7-13
7.1.10 色相（色あい） 7-14
7.1.11 コピー濃度 7-15
7.1.12 単色カラー 7-16
7.1.13 2 色カラー 7-17
7.1.14 ベースカラー 7-18
7.1.15 ネガポジ反転 7-19
7.1.16 鏡像 7-20
7.2 OHP フィルムの間に白紙を差込んでコピーする（OHP 合紙） 7-21
7.3 表紙をつける（カバーシート） 7-23
7.4 別の用紙を挿入してコピーする（インターシート） 7-26
7.5 追加原稿を指定したページに差込む（差込みページ） 7-29
7.6 指定したページを必ずオモテ面に配置する（章分け） 7-31
7.7 原稿ごとに異なる設定で読込みまとめてコピーする（プログラムジョブ） 7-34
7.8 カラー反転や補色してコピーする（ネガポジ反転） 7-38
7.9 原稿の左右を反転してコピーする（鏡像） 7-39
7.10 原稿の白地部分に色をつけてコピーする（ベースカラー） 7-42
7.11 カラー画質を調整する 7-44
7.11.1 カラー画質機能の調整のしかた 7-44
7.11.2 カラー画質調整の仕上りを確認する（サンプルコピー） 7-46
7.12 見開き原稿を左右 1 ページずつ分けてコピーする（ブック連写） 7-47
7.13 指定した範囲を繰り返しコピーする（リピート） 7-51
7.14 画像を複数の用紙に分割して拡大コピーする（拡大連写） 7-55
7.15 カタログをコピーする（カタログ連写） 7-58
7.16 とじしろをつくってコピーする（とじしろ） 7-60
7.17 原稿を用紙サイズに合わせてコピーする（画像の収め方） 7-63
7.18 雑誌や週刊誌のようなページレイアウトでコピーする（小冊子） 7-66
7.19 指定部分を消してコピーする（枠消し） 7-68
7.20 日付 / 時刻やページ数などを重ねてコピーする（スタンプ / ページ印字） 7-70
7.20.1 日付 / 時刻を印字するには（日付 / 時刻） 7-70

7.20.2 ページ数を印字するには（ページ番号）..... 7-74
7.20.3 あらかじめ登録されたスタンプを印字するには（スタンプ）..... 7-77
7.20.4 コピープロテクトを印字するには（コピープロテクト）..... 7-80
7.20.5 繰り返しスタンプを印字するには（繰り返しスタンプ）..... 7-85
7.20.6 最初に読込んだ画像を、他の全ての画像と重ね合わせてコピーする（オーバーレイ）..... 7-90
7.20.7 読込んだ画像を、登録オーバーレイとして保存する（オーバーレイ）..... 7-92
7.20.8 登録オーバーレイを使用する（オーバーレイ）..... 7-94
7.20.9 ヘッダー / フッターを印字するには（ヘッダー / フッター）..... 7-95
7.21 読込んだ原稿をボックスに保存する（ボックス保存）..... 7-97

第 8 章 トナーカートリッジ交換／ステープルカートリッジ交換／パンチくず処理

8.1 トナーカートリッジを交換する 8-2
8.1.1 トナーカートリッジ交換のしかた 8-3
8.2 廃棄トナーボックスを交換する 8-6
8.2.1 廃棄トナーボックス交換のしかた 8-7
8.3 イメージングユニットを交換する 8-9
8.3.1 イメージングユニット交換のしかた 8-10
8.4 ステープルカートリッジを交換する 8-16
8.4.1 フィニッシャー FS-519 のステープルカートリッジ交換のしかた 8-16
8.4.2 中綴じ機のステープルカートリッジ交換のしかた 8-18
8.4.3 フィニッシャー FS-609 のステープルカートリッジ交換のしかた 8-21
8.5 パンチくずを処理する 8-25
8.5.1 フィニッシャー FS-519 のパンチくず処理のしかた 8-27
8.5.2 フィニッシャー FS-609 のパンチくず処理のしかた 8-28

第 9 章 日頃の管理

9.1 清掃のしかた 9-2
9.1.1 外装カバー 9-2
9.1.2 原稿ガラス 9-2
9.1.3 スリットガラス 9-2
9.1.4 操作パネル 9-3
9.1.5 原稿押えパッド 9-3
9.1.6 帯電チャージャーワイヤー 9-4
9.1.7 プリントヘッド 9-5
9.2 カウントを確認する 9-6
9.2.1 セールスカウンターを確認する 9-6
9.2.2 カバレッジレートを確認する 9-7
9.3 「装置の定期点検時期です」と表示されたら 9-8

第 10 章 ジョブ確認

10.1 ジョブ表示画面の概要 10-2
10.1.1 ジョブについて 10-2
10.1.2 マルチジョブ機能について 10-2
10.1.3 ジョブ表示画面について 10-3
10.1.4 左エリアジョブリスト 10-5
10.2 ジョブ操作をする 10-6
10.2.1 ジョブを削除する 10-6
10.2.2 ジョブの設定内容を確認する 10-7

10.2.3 ジョブの詳細確認をする 10-7
10.2.4 実行中リスト（蓄積ジョブまたは動作中ジョブ）を表示する 10-9
10.2.5 履歴リストを表示する 10-9
10.2.6 蓄積ジョブを 1 部印刷して確認する 10-10
10.2.7 蓄積ジョブを印刷する 10-11
10.2.8 優先出力の設定をする 10-12

第 11 章 設定メニュー

11.1 設定メニューの概要 11-2
11.1.1 登録・設定項目一覧表 11-2
11.2 宛先登録を選択する 11-7
11.2.1 ファクス / スキャン宛先登録 11-7
11.2.2 ボックス登録 11-7
11.2.3 参照許可設定 11-7
11.2.4 宛先登録画面を表示させる 11-13
11.3 ユーザー設定を選択する 11-14
11.3.1 環境設定 11-14
11.3.2 画面カスタマイズ設定 11-16
11.3.3 コピー設定 11-17
11.3.4 ファクス / スキャン設定 11-19
11.3.5 プリンター設定 11-20
11.3.6 パスワード変更 11-20
11.3.7 E-mail アドレス変更 11-20
11.3.8 アイコン変更 11-20
11.3.9 ユーザー設定画面を表示させる 11-21
11.4 管理者設定を選択する 11-22
11.4.1 環境設定 11-22
11.4.2 管理者 / 本体登録 11-27
11.4.3 宛先 / ボックス登録 11-27
11.4.4 ユーザー認証 / 部門管理 11-28
11.4.5 ネットワーク設定 11-31
11.4.6 コピー設定 11-31
11.4.7 プリンター設定 11-32
11.4.8 ファクス設定 11-32
11.4.9 システム連携 11-33
11.4.10 セキュリティー設定 11-33
11.4.11 ライセンス管理設定 11-36
11.4.12 管理者設定画面を表示させる 11-36
11.5 消耗品確認 11-38
11.5.1 消耗品確認画面を表示させる 11-38
11.6 ウィークリータイマーの設定の概要 11-39
11.7 プリンター調整 11-40
11.7.1 印刷位置：先端 11-40
11.7.2 印刷位置：側端 11-42
11.7.3 両面印刷位置：先端 11-43
11.7.4 両面印刷位置：側端 11-45
11.7.5 メディア調整 11-47
11.8 フィニッシャー調整 11-49
11.8.1 センターステープル位置調整 11-49
11.8.2 中折り位置調整 11-51

11.8.3 パンチ横位置調整 11-53
11.8.4 パンチレジストループ量調整 11-55
11.9 色重ねズレの補正をする 11-57
11.9.1 色重ねズレ補正（イエロー、マゼンタ、シアン） 11-57
11.10 階調補正 11-60
11.11 ヘッダー / フッターを設定する 11-62
11.11.1 ヘッダー / フッターの設定のしかた 11-62
11.11.2 ヘッダー / フッターの編集のしかた 11-64
11.12 認証方式 11-65
11.12.1 ユーザー認証と部門管理について 11-65
11.12.2 ユーザー認証と部門管理を連動する場合 11-65
11.12.3 ユーザー認証と部門管理でそれぞれ認証する場合 11-66
11.12.4 認証方式の設定のしかた 11-66
11.13 ユーザー認証設定 11-70
11.13.1 管理設定－ユーザー名一覧表示 11-70
11.13.2 初期機能制限 11-71
11.13.3 パブリックユーザーの認証 11-72
11.13.4 ユーザー登録 11-72
11.13.5 ユーザーカウンター 11-77
11.13.6 ユーザーカウンターの表示のしかた 11-78
11.14 部門管理設定 11-79
11.14.1 部門登録 11-79
11.14.2 部門カウンター 11-82
11.14.3 部門カウンターの表示のしかた 11-83
11.15 パスワード規約 11-84
11.15.1 パスワード規約による制約 11-84
11.16 セキュリティー強化設定 11-85

第 12 章 付録

12.1 文字を入力するには 12-2
12.1.1 キーボードの拡大表示 12-2
12.1.2 英数字を入力する 12-3
12.1.3 ひらがなを入力する 12-3
12.1.4 カタカナを入力する 12-4
12.1.5 漢字を入力する 12-4
12.1.6 文字コードで入力する 12-6
12.2 入力文字一覧 12-7
12.3 用語集 12-14

第 13 章 索引

13.1 使用別索引 13-2
13.2 項目別索引 13-7

こんな機能があります

印刷カラーを選ぶ

フルカラーやブラックなど、コピーするときの印刷カラーを設定できます。

参照
詳しくは、p. 2-27 をごらんください。

用紙を自動的に選択する

原稿のサイズと選択した倍率に合わせて、用紙を自動的に選択しコピーできます。

参照
詳しくは、p. 2-29 をごらんください。

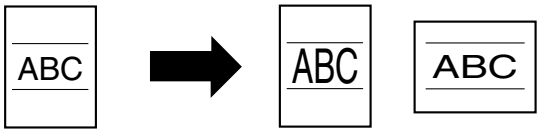
用紙サイズに合わせてコピーする

原稿のサイズと選択した用紙のサイズに合わせて、倍率を自動的に選択しコピーできます。

参照
詳しくは、p. 2-31 をごらんください。

縦と横の倍率を別々に設定する

縦、横それぞれの倍率を変えることで、原稿の画像を変形させてコピーできます。



参照
詳しくは、p. 2-36 をごらんください。

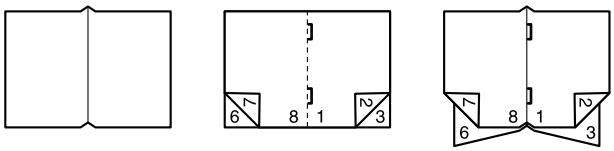
原稿を分割して読込む

大量の原稿を分割して読込ませることができます。原稿ガラスを使用して両面コピーをとったり、ADF と原稿ガラスを切換えて読込み、1 つのジョブとして 1 度にコピーできます。

参照
詳しくは、p. 2-9、p. 2-12 をごらんください。

中折り／中とじする

コピーした用紙を中央で折り曲げたり（中折り）、ステープルでとじる（中とじ）ことができます。

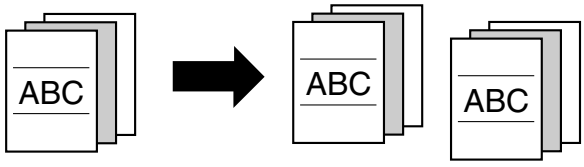


中折り　　中とじ

参照
詳しくは、p. 2-66 をごらんください。

仕分けしてコピーする

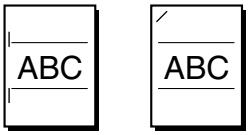
コピーの仕上り方法を選択できます。



参照
詳しくは、p. 2-58、p. 2-59 をごらんください。

ステープルでとじる

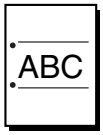
複数枚の原稿をステープルでとじてコピーできます。



参照
詳しくは、p. 2-61 をごらんください。

パンチ穴をあける

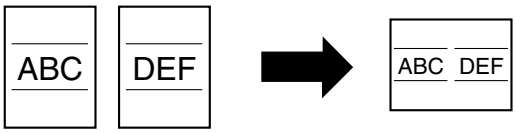
ファイリング用にパンチ穴をあけてコピーできます。



参照
詳しくは、p. 2-64 をごらんください。

複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする

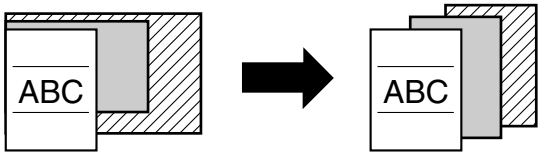
複数枚の原稿を、1 枚の用紙にまとめてコピーできます。



参照
詳しくは、p. 2-45 をごらんください。

サイズが異なる原稿を一緒にコピーする

サイズが異なる原稿を、1 度に読込んでコピーできます。



参照
詳しくは、p. 2-18 をごらんください。

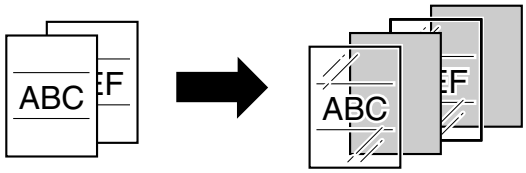
原稿の画質に合わせてコピーする

原稿の画質に合った画像でコピーできます。

参照
詳しくは、p. 2-47、p. 2-50 をごらんください。

OHP フィルムの間に合紙を差込んでコピーする

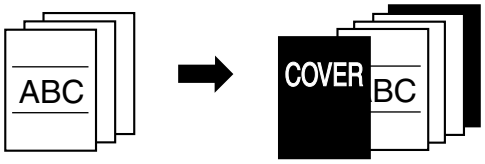
OHP フィルム同士が貼り付くことを防ぐため、OHP フィルム間に用紙（合紙）を挿入してコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-21 をごらんください。

表紙をつける

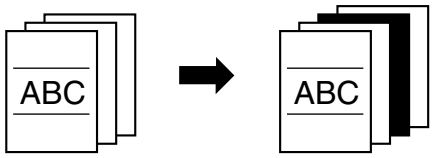
コピーに表紙を挿入したり、表紙のみ別の用紙（色紙等）を使用してコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-23 をごらんください。

別の用紙を挿入してコピーする

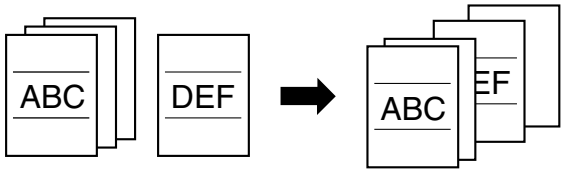
指定のページに別の用紙（色紙等）を挿入してコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-26 をごらんください。

追加原稿を指定ページに差込んでコピーする

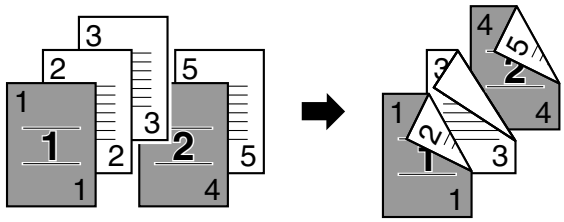
最初に読込んだ原稿の指定ページに、あとから読込んだ原稿を差込んでコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-29 をごらんください。

指定のページをオモテ面にして両面コピーする

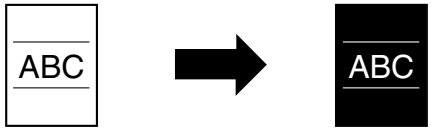
両面コピーする場合、指定のページが必ずオモテ面になるようにコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-31 をごらんください。

ネガポジ反転してコピーする

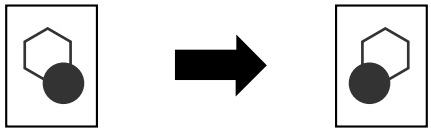
原稿の画像をネガポジ反転してコピーできます。
カラーモードがフルカラーの場合、色相と明度を反転し、カラーモードがブラック、単色カラーの場合、明度を反転してコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-38 をごらんください。

画像の左右を反転してコピーする

原稿の画像の左右を反転して、鏡に映ったイメージでコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-39 をごらんください。

背景色をつけてコピーする

原稿の背景（白地部分）に 18 色の中から指定した 1 色をつけてコピーできます。

参照
詳しくは、p. 7-42 をごらんください。

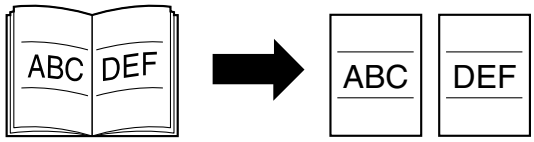
カラーコピー画質を最適にする

カラー原稿を目的のイメージに合った画質に調整します。

参照
詳しくは、p. 7-44 をごらんください。

見開きを左右別々にコピーする

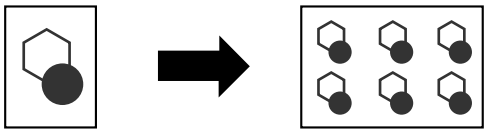
本やカタログなどの見開き原稿を、左右のページごとに分割してコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-47 をごらんください。

画像を繰り返してコピーする

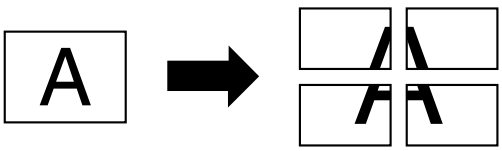
1 枚の原稿の画像を 1 枚の用紙に繰り返してコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-51 をごらんください。

原稿を複数の用紙に分割して拡大コピーする

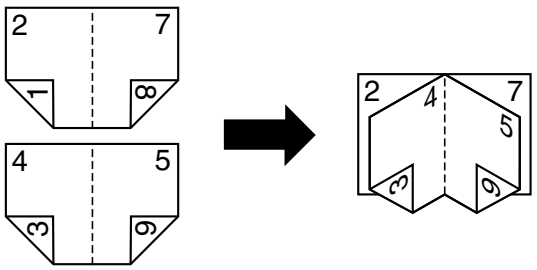
1 枚の原稿を自動的に複数の用紙に分割し、拡大してコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-55 をごらんください。

カタログをコピーして製本する

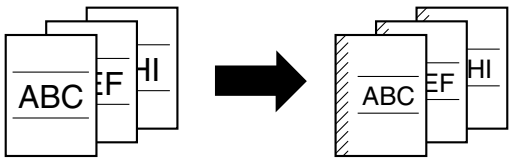
ステープルを外したカタログをコピーし、ステープルでとじてコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-58 をごらんください。

とじしろをつけてコピーする

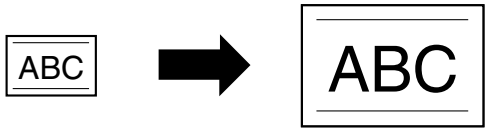
ファイリングしやすいように、用紙にとじしろ（余白）をつくってコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-60 をごらんください。

画像を用紙サイズに合わせてコピーする

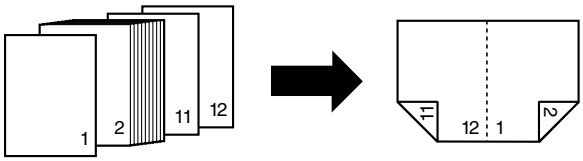
原稿に対して用紙が大きい場合に、原稿の画像を用紙いっぱいにコピーすることができます。



参照
詳しくは、p. 7-63 をごらんください。

雑誌のようなページレイアウトでコピーする

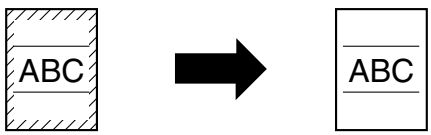
雑誌や週刊誌のような中とじ用のレイアウトになるように、ページを入れ換えてコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-66 をごらんください。

原稿の一部を消してコピーする

パンチ穴の影や受信したファクスの通信記録などを消してコピーできます。



参照
詳しくは、p. 7-68 をごらんください。

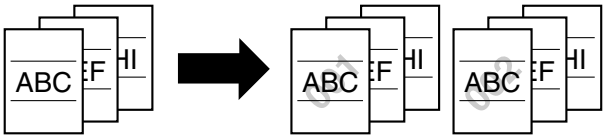
1 部コピーして条件を確認する

大量部数のコピーをする前に 1 部のみテスト印刷し、コピーの仕上りを確認できます。

参照
詳しくは、p. 3-5 をごらんください。

日付 / 時刻やページ数などを重ねてコピーする

コピーに日付 / 時刻やページ数、コピープロテクト（不正コピー防止用の隠し文字）、コピー 1 部ごとの部数管理番号などを印字できます。



参照
詳しくは、p. 7-70 をごらんください。

コピーを管理する

印刷待ち状況の確認をし、管理できます。

参照
詳しくは、p. 10-2 をごらんください。

コピー条件を登録する

よく使うコピー条件を登録し、必要なときに呼出してコピーできます。

参照
詳しくは、p. 3-14 をごらんください。

設定内容を確認する

設定した内容を確認できます。また設定した内容の変更もできます。

参照
詳しくは、p. 3-2 をごらんください。

タッチパネルの文字サイズを大きくする

タッチパネルの文字やキーを見やすい大きな表示にし、基本的な操作をしやすくします。

参照
詳しくは、「ユーザーズガイド 拡大表示機能編」をごらんください。

機能解説の画面を表示させる

各部の名称、はたらき、機能の詳細をヘルプ画面として表示させます。

参照
詳しくは、p. 3-19 をごらんください。

割込んでコピーする

コピーしているジョブを中断し、割込んでコピーできます。

参照
詳しくは、p. 3-13 をごらんください。

ページの見かた

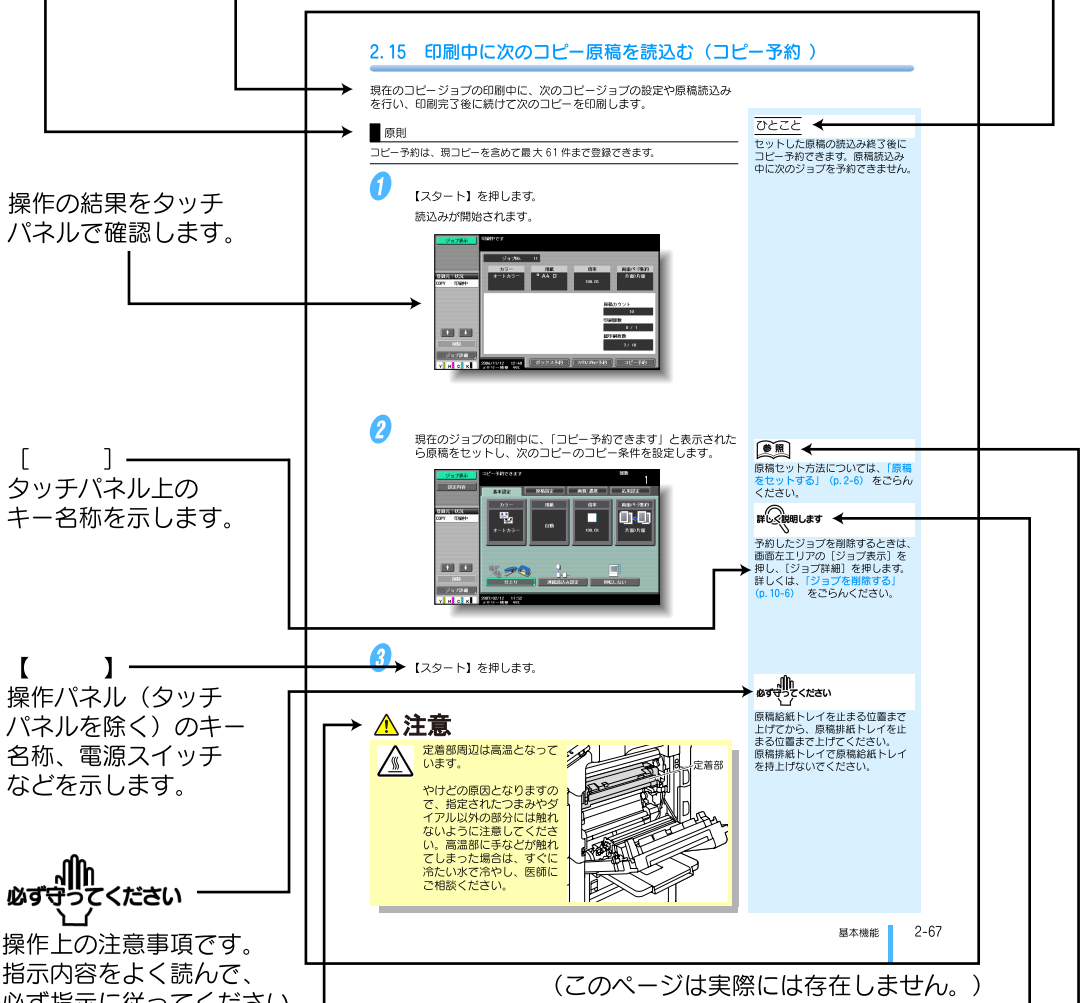
原則

機能を使用するときに必要な
オプションを説明しています。

項目タイトルの概要を
説明しています。

ひとこと

作業手順や内容に関して、
参考となることや補足事項
などが書かれています。
お読みになることを
おすすめします。



操作の結果をタッチ
パネルで確認します。

［　　］
タッチパネル上の
キー名称を示します。

【　　】
操作パネル（タッチ
パネルを除く）のキー
名称、電源スイッチ
などを示します。

必ず守ってください

操作上の注意事項です。
指示内容をよく読んで、
必ず指示に従ってください。

（このページは実際には存在しません。）

⚠ 警告、注意

機械を安全に使用していただくための注意事項です。警告は、表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。注意は、表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性または物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

詳しく説明します

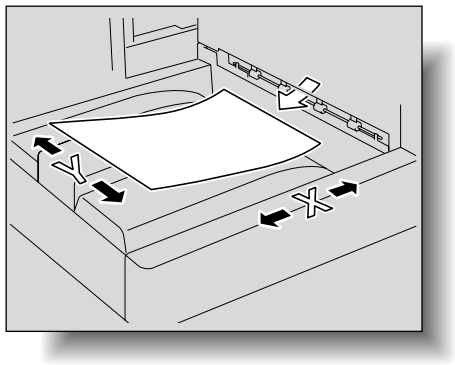
操作手順や内容に関して、
さらに詳しく説明しています。

参照

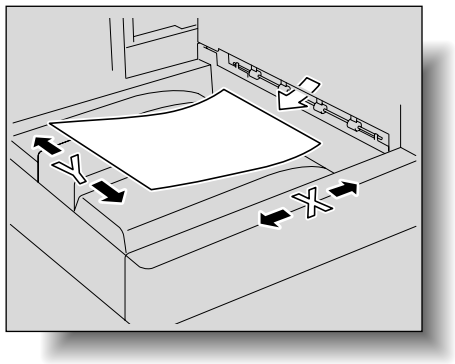
参照先を指示します。
必要に応じてごらんください。

原稿と用紙の表示について

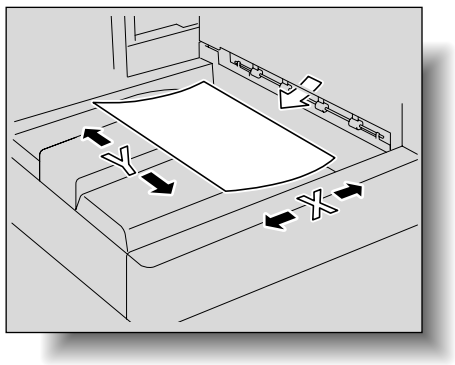
本文中に出てくる原稿と用紙の表示について説明します。
原稿と用紙の大きさを表す場合、Y 辺を幅、X 辺を長さと呼びます。



幅（Y）よりも長さ（X）のほうが大きいものを と表示します。



幅（Y）よりも長さ（X）のほうが小さいものを と表示します。



マニュアル体系について

本製品のユーザーズガイドには、印刷物の冊子でご提供するユーザーズガイドと、ユーザーズガイド CD に収められた PDF のユーザーズガイドがあります。

印刷物のユーザーズガイド

●すぐに使える操作ガイド

すぐに本製品をご利用いただけるよう使用頻度の高い機能や操作方法を紹介しています。

本製品をはじめてお使いになる場合や機能の概要を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい注意事項とお願いを記載しています。

本製品をお使いになる前に必ずお読みください。

ユーザーズガイド CD 収録のユーザーズガイド

●ユーザーズガイド（コピー機能編）＜本書＞

本製品のコピー機能およびメンテナンス方法について記載しています。

用紙と原稿について、便利な応用コピーのとりかた、消耗品の交換方法、紙づまりなどのトラブル対処方法を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（拡大表示機能編）

拡大表示機能の操作について記載しています。

拡大表示画面でのコピー機能、スキャナー機能、G3 ファクス機能、ネットワークファクス機能の使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（プリンター機能編）

標準装着のプリンターコントローラーで設定できるプリンター機能について記載しています。

プリンター機能の使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（ボックス機能編）

ハードディスクを利用したボックス機能について記載しています。

ボックスへのデータ保存、ボックスからのデータ取出し、データ転送方法を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編）

ネットワークスキャン機能、G3 ファクス機能、ネットワークファクス機能について記載しています。

E メールや FTP などによるネットワークスキャン機能や G3 ファクス、インターネットファクス、IP アドレスファクス、SIP ファクスの使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

ファクス機能をご利用になるには、別途オプションの FAX キットを購入していただく必要があります。

●ユーザーズガイド（ファクスドライバー機能編）

コンピューターから直接ファクス送信を行うファクスドライバーの機能について記載しています。

PC-FAX の使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。
ファクス機能をご利用になるには、別途オプションの FAX キットを購入していただく必要があります。

●ユーザーズガイド（ネットワーク管理者編）

ネットワークを利用した各機能について、おもに PageScope Web Connection を使用した設定方法を記載しています。

ネットワーク機能の使い方を知りたい場合は、このユーザーズガイドをごらんください。

●ユーザーズガイド（拡張機能編）

オプションのライセンスキットを登録することで有効化して利用できる各機能と、アプリケーションと連携させることで利用できる各機能の概要と使い方について記載しています。

各機能を効果的にご使用いただくために、このユーザーズガイドをごらんください。

拡張機能は以下の機種に対応しています。

bizhub C650/C550/C451/C353/C253/C203

●商標／ライセンスについて

商標およびライセンスについて記載しています。

本製品をお使いになる前に必ずお読みください。

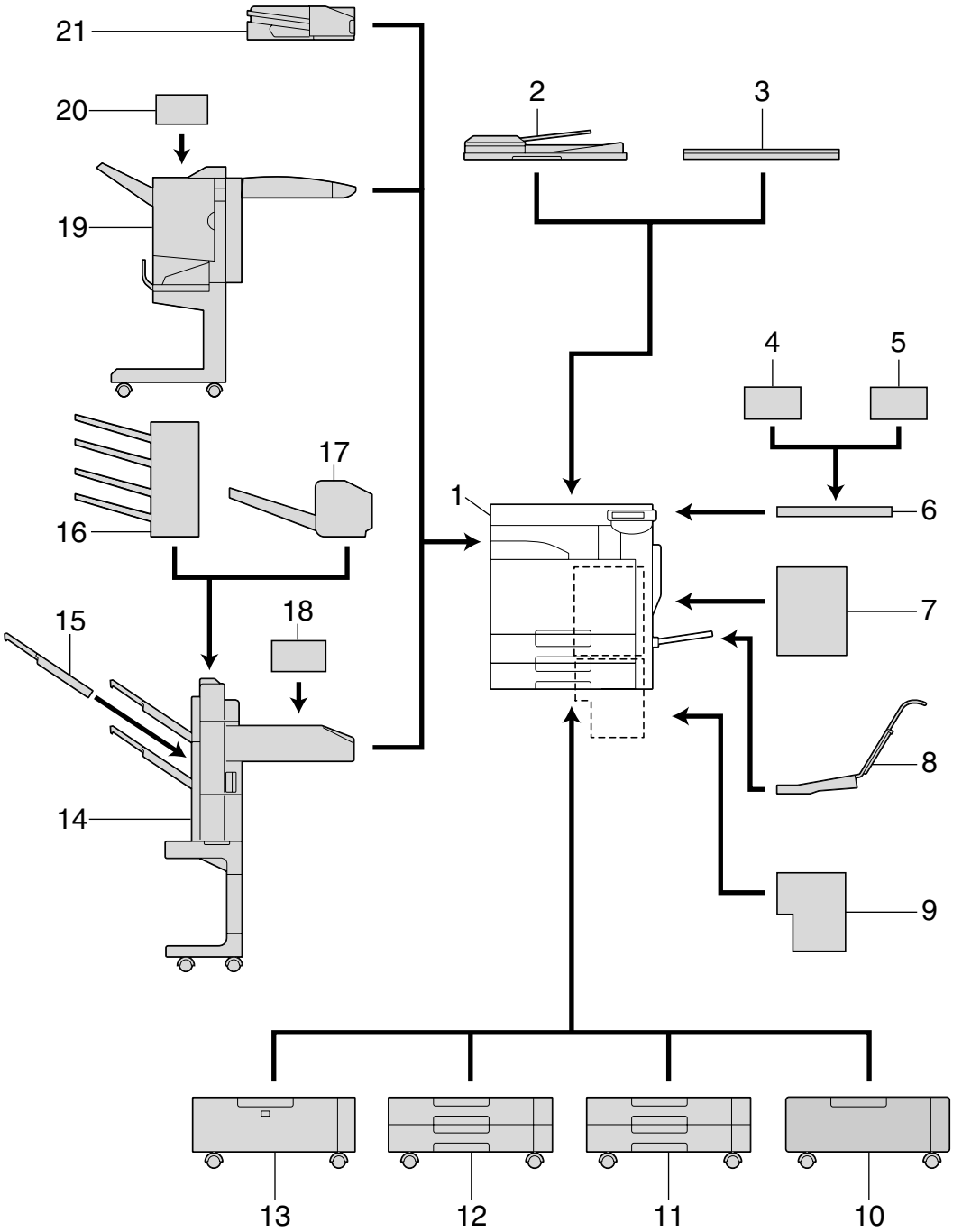
第 1 章
ご使用いただく前に

ご使用いただく前に知っておきたいことや準備しておくことについて説明します。

1.1　各部の名称とはたらき 1-2
1.2　操作パネルの角度をかえる 1-23
1.3　主電源と副電源を入れる 1-26
1.4　トレイ 1/2/3/4 へ用紙をセットする 1-41
1.5　LCT へ用紙をセットする 1-43
1.6　手差しトレイへ用紙をセットする 1-45

1.1 各部の名称とはたらき

1.1.1 オプション構成



No	名称	説明
1	本体部	スキャナー部で原稿が読込まれ、読取った画像がプリンター部で印刷されます。 以降本文中では本機、本体、C353/C253/C203 と呼びます。
2	自動両面原稿送り装置 DF-611	自動的に原稿が 1 枚ずつ送り出され、読込まれます。両面原稿も自動的に反転して読込まれます。 以降本文中では ADF と呼びます。
3	オリジナルカバー OC-507	セットした原稿が動かないように押さえます。 以降本文中ではオリジナルカバーと呼びます。
4	認証装置（指静脈 生体認証タイプ） AU-101	身体内部の指静脈パターンを読取ってユーザー認証を行うことができます。 詳しくは、認証装置に同梱されているマニュアルをごらんください。

No	名称	説明
5	認証装置（IC カード認証タイプ） AU-201	IC カードに記録された情報を読取ってユーザー認証を行うことができます。 詳しくは、認証装置に同梱されているマニュアルをごらんください。
6	ワーキングテーブル WT-502	原稿などを一時的に置くことができます。また、認証装置を設置する場合にも使用します。
7	取り付けキット MK-711	FAX キット、ローカル接続キット、スキャンアクセラレータキット、回線拡張キットを装着するときに使用します。
8	取り付けキット MK-713	長尺紙印刷する場合に使用します。
9	イメージコントローラ IC-409	C353/C253 に装着する外付け型のイメージコントローラです。本機をネットワーク対応のカラープリンターとして使用できます。 詳しくは、各ユーザーズガイドの該当箇所をごらんください。 ※ イメージコントローラを装着するためには、専用デスクか LCT、1 段給紙キャビネット、2 段給紙キャビネットのいずれかを本機に装着する必要があります。
10	専用デスク DK-504	専用デスクを使用することにより、本機をフロアに設置できます。 以降本文中では専用デスクと呼びます。
11	給紙キャビネット PC-104	上段には 500 枚までの用紙をセットでき、下段は収納ボックスとして使用できます。 以降本文中では 1 段給紙キャビネットと呼びます。
12	給紙キャビネット PC-204	上段・下段に各 500 枚までの用紙をセットできます。 以降本文中では 2 段給紙キャビネットと呼びます。
13	給紙キャビネット PC-405	2,500 枚までの用紙をセットできます。 以降本文中では LCT と呼びます。
14	フィニッシャー FS-519	印刷された用紙が仕上がって排紙されます。仕上り機能には、部数単位（ソート）、ページ順単位（グループ）、ステープルとじ（コーナーステープル、2 点ステープル）、中とじ、折りがあります。
15	排紙トレイ OT-602	フィニッシャー FS-519 に装着する排紙トレイです。印刷された用紙を仕分けることができます。 以降本文中では増設排紙トレイと呼びます。
16	メールビンキット MT-502	フィニッシャー FS-519 に装着すると、個人やグループごとに排紙トレイを割当てて（PC プリント時のみ有効）印刷された用紙を仕分けることができます。 以降本文中ではメールビンキットと呼びます。
17	中綴じ機 SD-505	フィニッシャー FS-519 に装着することにより、中とじ / 折りができます。 以降本文中では中綴じ機と呼びます。
18	パンチキット PK-515	フィニッシャー FS-519 に装着することにより、パンチ穴をあけることができます。
19	フィニッシャー FS-609	印刷された用紙が仕上がって排紙されます。仕上り機能には、部数単位（ソート）、ページ順単位（グループ）、ステープルとじ（コーナーステープル、2 点ステープル）、中とじがあります。 ※ フィニッシャーを装着するためには、専用デスクか LCT、1 段給紙キャビネット、2 段給紙キャビネットのいずれかを本機に装着する必要があります。
20	パンチキット PK-501	フィニッシャー FS-609 に装着することにより、パンチ穴をあけることができます。
21	セパレータ JS-505	本体の排紙トレイに装着すると、印刷された用紙を仕分けることができます。 以降本文中ではセパレータ と呼びます。
22	ローカル接続キット EK-603[*1]	認証装置（指静脈 生体認証タイプ）、認証装置（IC カード認証タイプ）、外部メモリー（USB メモリー）を接続する場合に使用します。
23	FAX キット FK-502[*1]	本機をファクス機として使用できます。
24	スキャンアクセラレータキット SA-501[*1]	スキャン送信時に画像を高速で生成できます。
25	回線拡張キット ML-501[*1]	ファクス専用の電話回線を増設することができます。

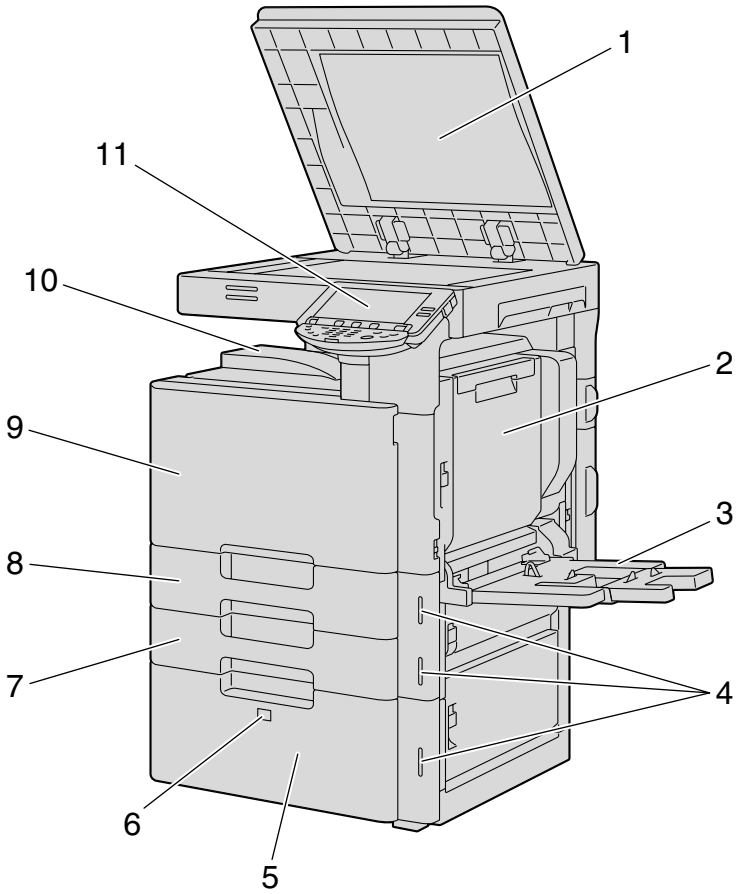
No	名称	説明
26	ビデオインターフェイスキット VI-504*2	イメージコントローラを C353/C253 に装着する場合に必要です。
27	FAX 済みスタンプユニット SP-501*2	原稿が読取られたことをスタンプで確認できます。 詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
28	セキュリティキット SC-503*2	ハードディスクに保存される全てのデータを暗号化します。 不意にハードディスクを持出されたとしても、ハードディスク内のデータは暗号化により保護されているため、データの漏洩を防止します。
29	アシストハンドル AH-101*3	オリジナルカバーまたは ADF を閉じるときに使用します。
30	i-Option LK-101*3	操作パネルで Web ブラウザーやイメージパネル機能が使用できます。 詳しくは、「ユーザーズガイド 拡張機能編」をごらんください。
31	i-Option LK-102*3	スキャン機能やボックス機能で PDF 形式の文書を配信する場合、PDF の暗号化や電子署名、プロパティの設定が行えます。 詳しくは、「ユーザーズガイド 拡張機能編」をごらんください。
32	i-Option LK-103*3	i-Option LK-101/102 の両方の機能が使用できます。
33	アップグレードキット UK-201*3	i-Option LK-101/102/103 を使用する場合に必要です。

*1　印は取り付けキットに取付けるため図解してありません。
*2　印は本体内蔵のため図解してありません。
*3　印は図解してありません。



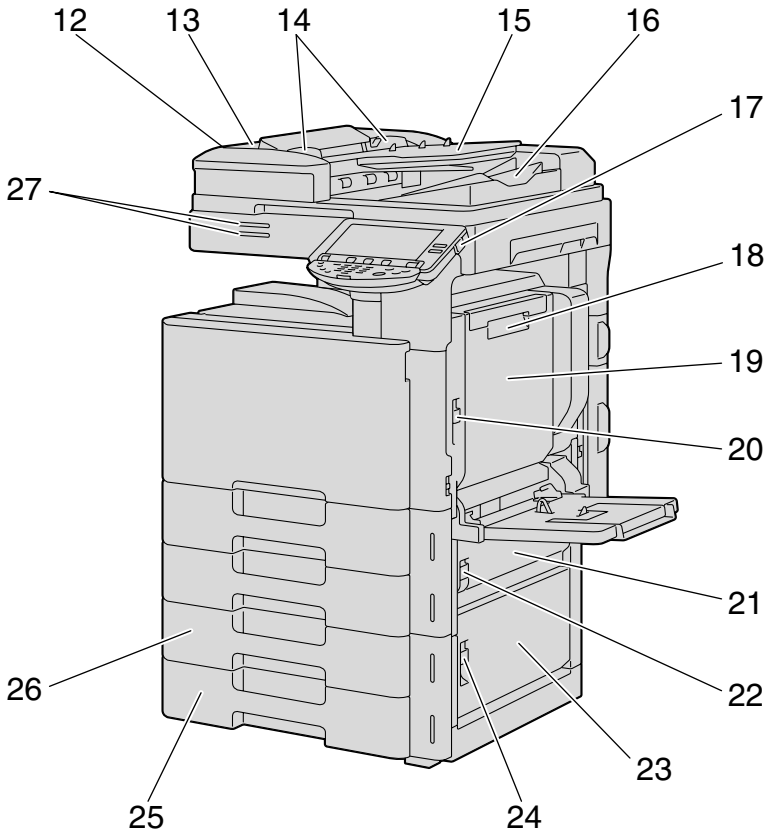
製品の機能、品質を保持するため、床置きする場合には、専用デスクまたは給紙キャビネットを使用してください。

1.1.2　本体外部



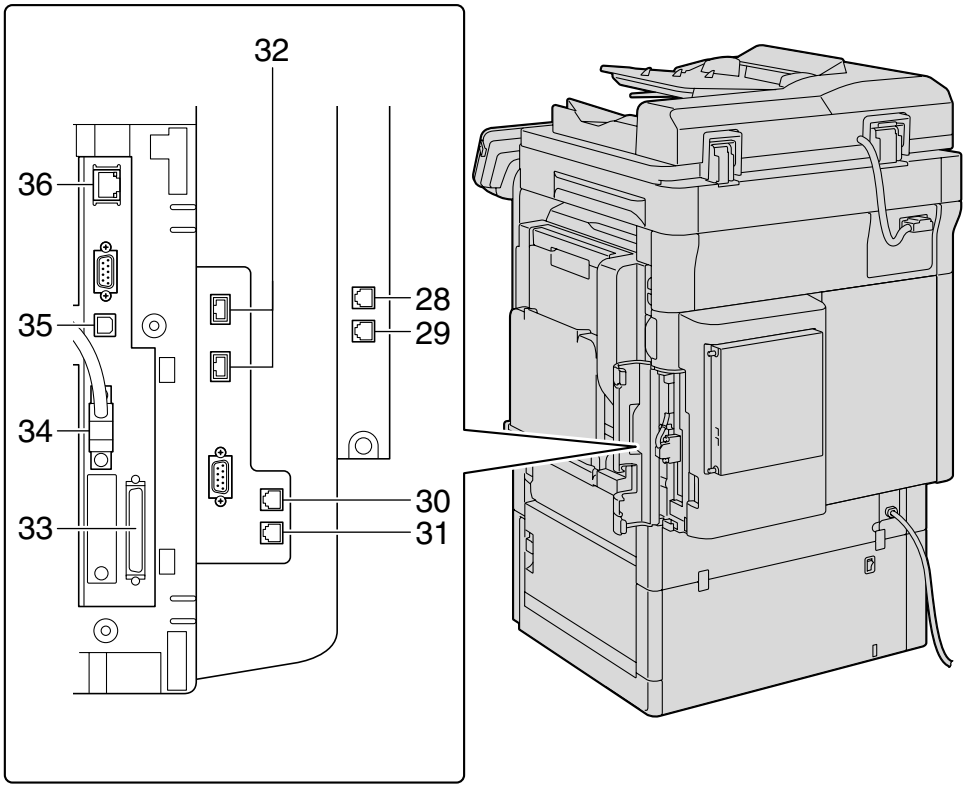
※本図は本体にオプションのオリジナルカバー、LCT を装着しています。

No	名称	説明
1	原稿押えパッド	セットした原稿が動かないように押さえます。
2	自動両面ユニット	両面印刷を行うときに、用紙を反転します。
3	手差しトレイ	給紙トレイにセットされていないサイズの用紙や厚紙、OHP フィルム、はがき、封筒、ラベル用紙、長尺紙に印刷するときに使います。普通紙は 150 枚、厚紙 1、厚紙 2、厚紙 3、厚紙 4、OHP フィルム、はがき、ラベル用紙は 20 枚、封筒は 10 枚、長尺紙は 10 枚までセットできます。
4	用紙エンプティーランプ	トレイの用紙残量が少なくなるとオレンジ色に点滅し、用紙がなくなると点灯します。
5	LCT	2,500 枚までの普通紙をセットできます。 厚紙1、厚紙2、厚紙3 は 1,000 枚までセットできます。
6	トレイ解除ボタン	LCT を引出すときに押します。
7	トレイ 2	500 枚までの普通紙をセットできます。 厚紙1、厚紙2、厚紙3 は 150 枚までセットできます。
8	トレイ 1	500 枚までの普通紙をセットできます。 厚紙1、厚紙2、厚紙3 は 150 枚までセットできます。
9	前ドア	トナーカートリッジの交換、廃棄トナーボックスの交換、イメージングユニットの交換、プリントヘッド清掃時に開きます。
10	排紙トレイ	印刷された用紙が排紙されます。
11	操作パネル	本機での各種設定を行います。

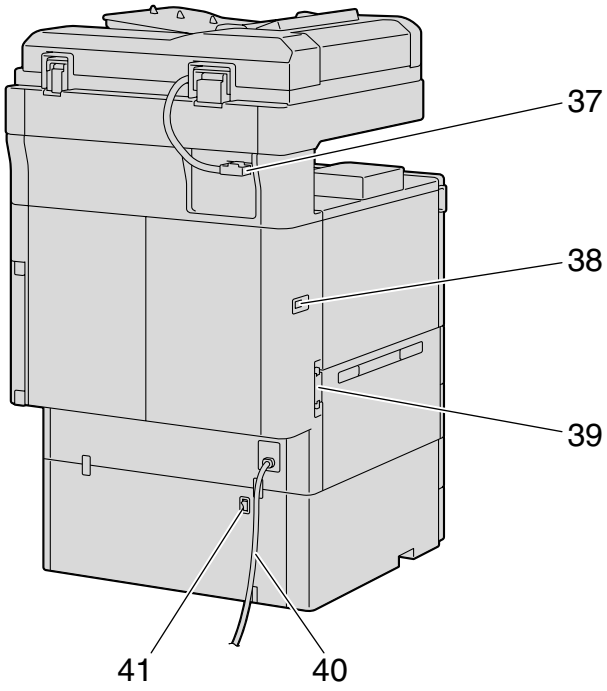


※本図は本体にオプションの ADF、2 段給紙キャビネットを装着しています。

No	名称	説明
12	左カバー解除レバー	左カバーを開くときに使用します。
13	左カバー	紙づまり処理をするときに開きます。
14	ガイド板	原稿の幅に合わせて調整します。
15	原稿給紙トレイ	原稿を上向きにセットします。
16	原稿排出トレイ	読込みの終わった原稿が排出トレイの上に排紙されます。ADF の紙づまりを処理するときには、排出トレイを開きます。
17	副電源スイッチ	本機の動作を ON/OFF します。 OFF のときは節電状態になります。
18	自動両面ユニットロック解除レバー	自動両面ユニットドアを開いて紙づまりを処理するときに使用します。
19	自動両面ユニットドア	自動両面ユニット内で紙づまりを処理するときに開きます。
20	右上ドア解除レバー	右上ドアを開くときに使用します。
21	右中ドア	トレイ 2 給紙部で紙づまりを処理するときに開きます。
22	右中ドア解除レバー	右中ドアを開くときに使用します。
23	右下ドア	トレイ 3/4 で紙づまりを処理するときに使用します。
24	右下ドア解除レバー	右下ドアを開くときに使用します。
25	トレイ 4/ 収納ボックス	1 段給紙キャビネット装着時、収納ボックスとして使用します。 2 段給紙キャビネット装着時、500 枚までの普通紙をセットできます。 厚紙 1、厚紙 2、厚紙 3 は 150 枚までセットできます。
26	トレイ 3	500 枚までの普通紙をセットできます。厚紙 1、厚紙 2、厚紙 3 は 150 枚までセットできます。
27	状態表示ランプ	本機の状態をランプの色と点滅、点灯で表示します。 青色に点滅：正常印刷中 オレンジ色に点滅：警告中 オレンジ色に点灯：機械停止中



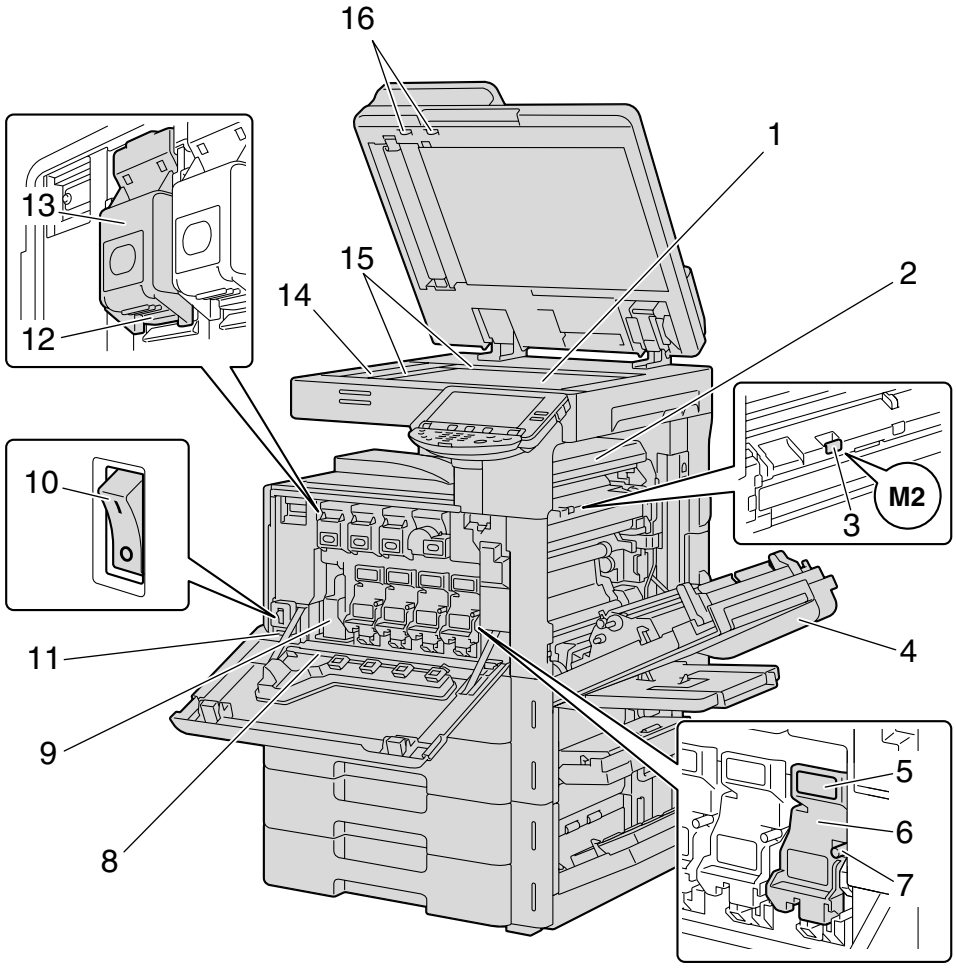
※本図は本体にオプションの ADF、LCT、ビデオインターフェイスキット、取り付けキット（FAX キット、ローカル接続キット、回線拡張キット）を装着しています。



※本図は本体にオプションの ADF、2 段給紙キャビネットを装着しています。

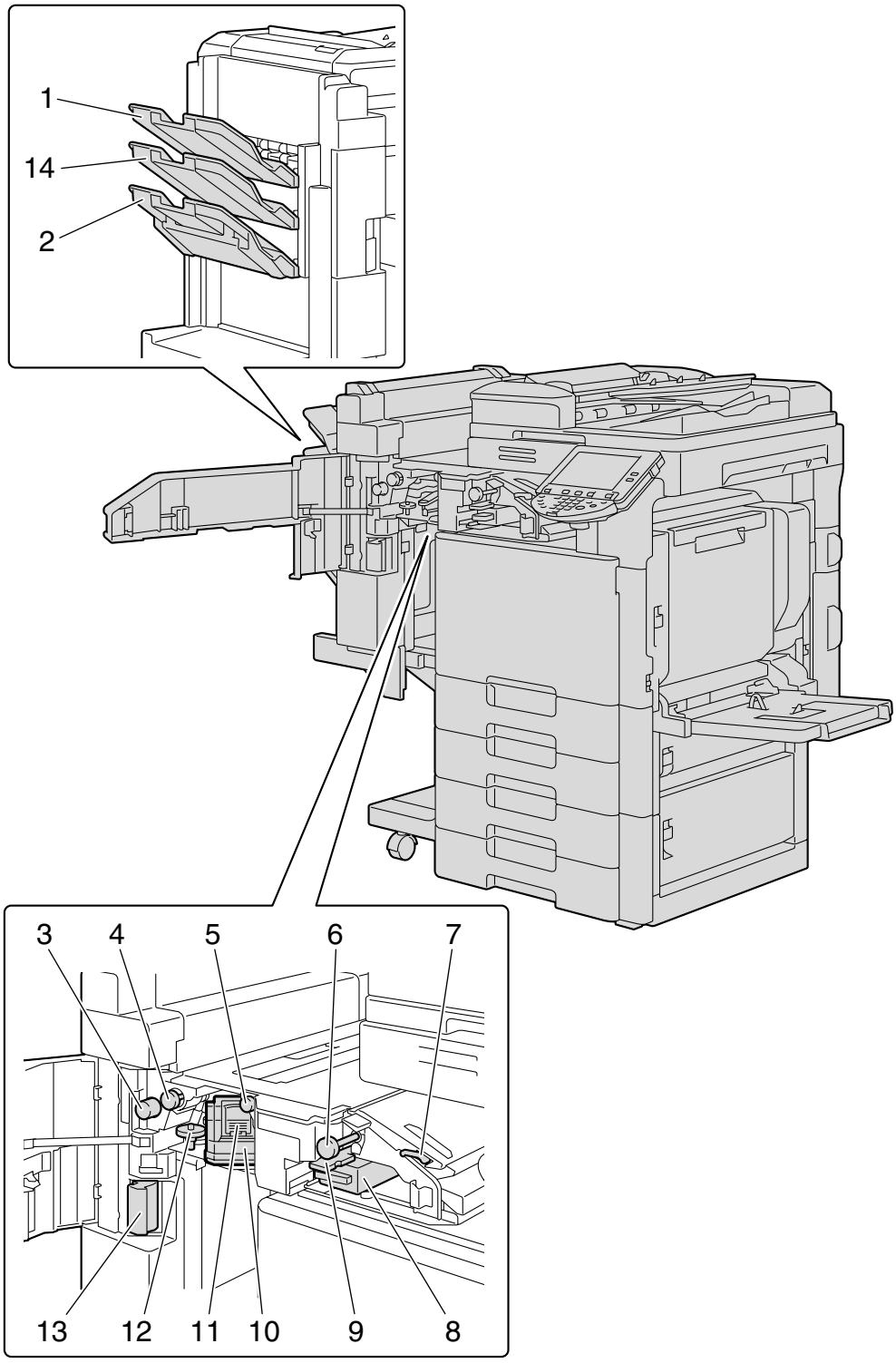
No	名称	説明
28	外付け電話機接続用コネクター (TEL PORT2)	外付け電話機のコードを接続します。
29	ポート 2 回線コネクター (LINE PORT2)	一般加入電話回線を接続するときに使用します。 オプションの回線拡張キットを装着した場合に使用します。
30	外付け電話機接続用コネクター (TEL PORT1)	外付け電話機のコードを接続します。
31	ポート 1 回線コネクター (LINE PORT1)	一般加入電話回線を接続するときに使用します。
32	USB ポート（タイプ A） USB2.0/1.1	USB ケーブルで認証装置（指静脈 生体認証タイプ）、認証装置（IC カード認証タイプ）、外部メモリー（USB メモリー）を接続するときに使用します。
33	外部コントローラー用ポート	イメージコントローラのケーブルを接続するときに使用します。
34	内部コントローラー用ポート	本機と内部コントローラーを接続します。
35	USB ポート（タイプ B） USB2.0/1.1	USB 接続のプリンターとして使用するときに接続します。
36	ネットワーク用ポート (10Base-T/100Base-TX/ 1000Base-T)	本機をネットワークプリンター、ネットワークスキャナーとして使用するときにネットワークケーブルを接続します。
37	ADF 用コネクター	ADF のコードを接続します。
38	フィニッシャー用コネクター	フィニッシャーのコードを接続します。
39	オゾンフィルター	本体内部で発生したオゾンを回収します。
40	電源コード	本機に電源を供給します。
41	防湿ヒーター電源スイッチ	防湿ヒーターの動作を ON/OFF します。ON のとき用紙の湿気を防止します。 防湿ヒーターはオプションの 1 段 /2 段給紙キャビネット、LCT、専用デスクを購入した場合にご利用になれます。

1.1.3　本体内部



No	名称	説明
1	原稿ガラス	セットした原稿の画像を読込みます。
2	定着ユニット上カバー	定着部での紙づまり処理をするときに開きます。
3	定着カバーレバー【M2】	定着部での紙づまり処理をするときに開きます。
4	右上ドア	本体内部での紙づまりの処理をするときに開きます。
5	ロック解除つまみ	イメージングユニットを取外すときに使用します。
6	イメージングユニット	印刷イメージを生成します。
7	チャージャー清掃具	画像異常が発生したときなどに、帯電チャージャーワイヤーを清掃します。
8	プリントヘッド窓清掃具	イメージングユニットの交換時などに、プリントヘッド窓の表面を清掃します。
9	廃棄トナーボックス	使用済みの廃棄トナーをボックス内に回収します。
10	主電源スイッチ	本体の電源の ON または OFF を行います。
11	トータルカウンター	現在までの総印刷枚数を表示します。
12	ロックヅメ	トナーカートリッジを取外すときに使用します。
13	トナーカートリッジ	シアン（C）、マゼンタ（M）、イエロー（Y）、ブラック（K）の 4 色のトナーカートリッジがあります。4 色のトナーを組合わせてフルカラー画像を生成します。
14	スリットガラス	ADF 使用時にこの部分で原稿の画像を読取ります。
15	原稿スケール	スケールに合わせて原稿をセットします。またセットした原稿のサイズを測るときに使用します。
16	紙づまり処理ダイアル	ADF で紙づまりをおこした用紙を取出すときに回します。

1.1.4　フィニッシャー FS-519 ／排紙トレイ OT-602 ／パンチキット PK-515



フィニッシャー FS-519

No	名称	説明
1	第 1 排紙トレイ	印刷された用紙が排紙されます。
2	第 2 排紙トレイ	印刷された用紙が排紙されます。
3	紙づまり処理ダイアル【FN6】	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに回します。
4	紙づまり処理ダイアル【FN5】	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに回します。
5	紙づまり処理ダイアル【FN4】	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに回します。
6	紙づまり処理ダイアル【FN2】	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに回します。
7	ガイドレバー【FN1】	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに押上げます。
8	パンチ廃棄ボックス【FN3.1】	パンチ機能によりたまったパンチくずを処理するときに取出します。
9	ガイドレバー【FN3】	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに押上げます。
10	ステープラ	針づまりの処理をするときに手前に移動させます。
11	ステープルホルダー	ステープルカートリッジ交換や針づまりの処理をするときにステープラから取外します。
12	ダイアル	針づまりの処理をするときに回し、ステープラを手前に移動させます。
13	フィニッシャー解除レバー【1】	紙づまり処理をするときに、フィニッシャーと本体を解除して移動させます。

排紙トレイ OT-602

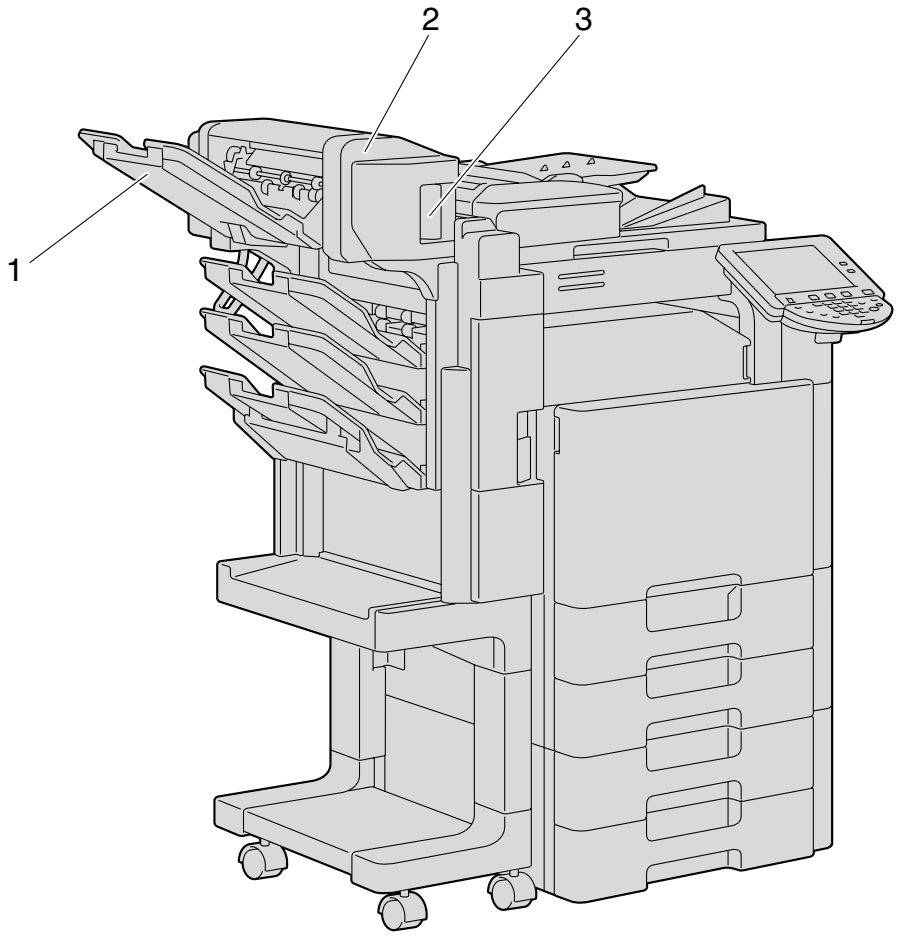
No	名称	説明
14	増設排紙トレイ	印刷された用紙が排紙されます。

パンチキット PK-515

No	名称	説明
15	パンチキット *	フィニッシャーにパンチキットを装着することで、印刷された用紙にファイリング用の穴（パンチ穴）をあけます。

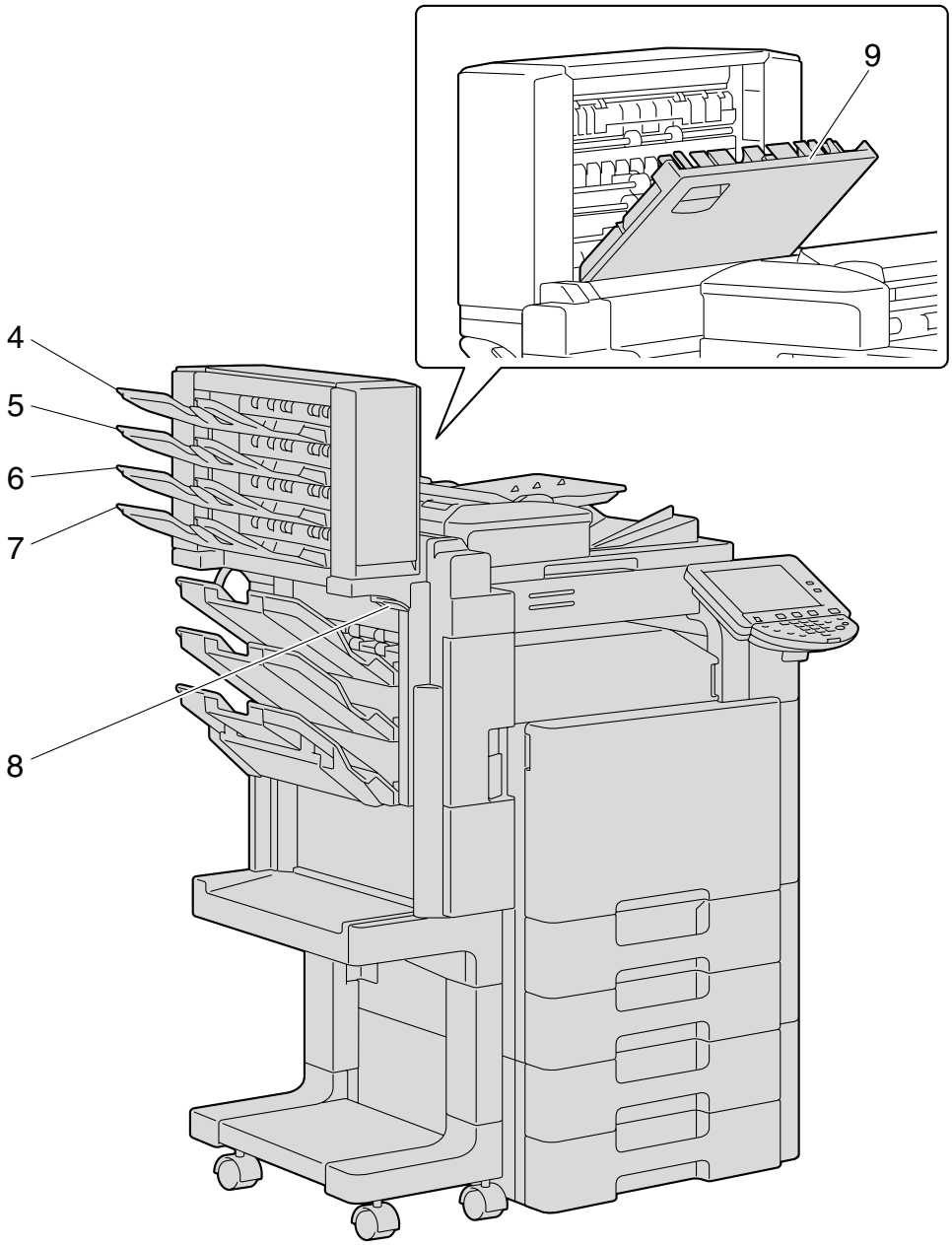
* 印は本体内蔵のため図解してありません。

1.1.5　中綴じ機 SD-505 ／メールビンキット MT-502



中綴じ機 SD-505

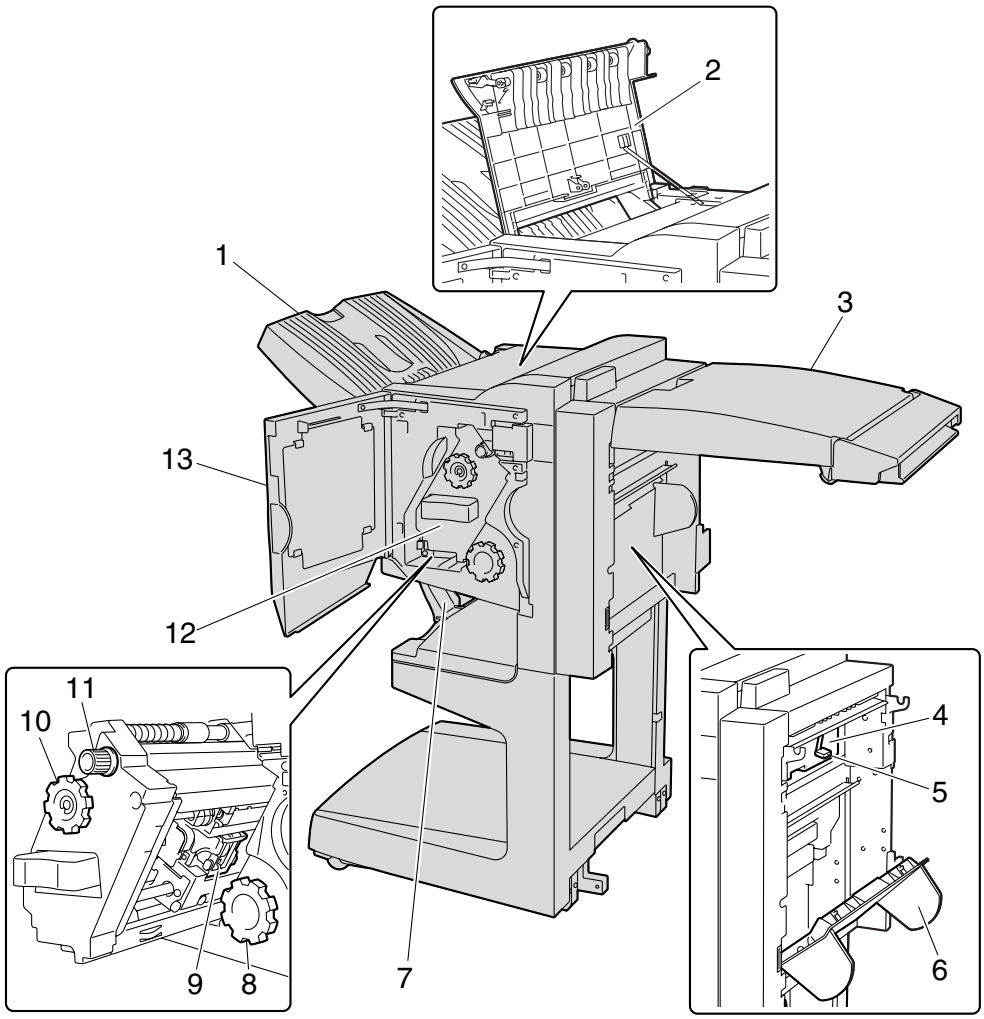
No	名称	説明
1	排紙トレイ	印刷された用紙が排紙されます。
2	紙づまり処理ドア	中綴じ機内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに開きます。
3	紙づまり処理ドア解除レバー	紙づまり処理ドアを開くときに使用します。



メールビンキット MT-502

No	名称	説明
4	ビン 4	印刷された用紙が排紙されます。
5	ビン 3	印刷された用紙が排紙されます。
6	ビン 2	印刷された用紙が排紙されます。
7	ビン 1	印刷された用紙が排紙されます。
8	ガイドレバー【FN7】	メールビンキット内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに開きます。
9	紙づまり処理ドア	メールビンキット内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに開きます。

1.1.6　フィニッシャー FS-609 ／パンチキット PK-501



フィニッシャー FS-609

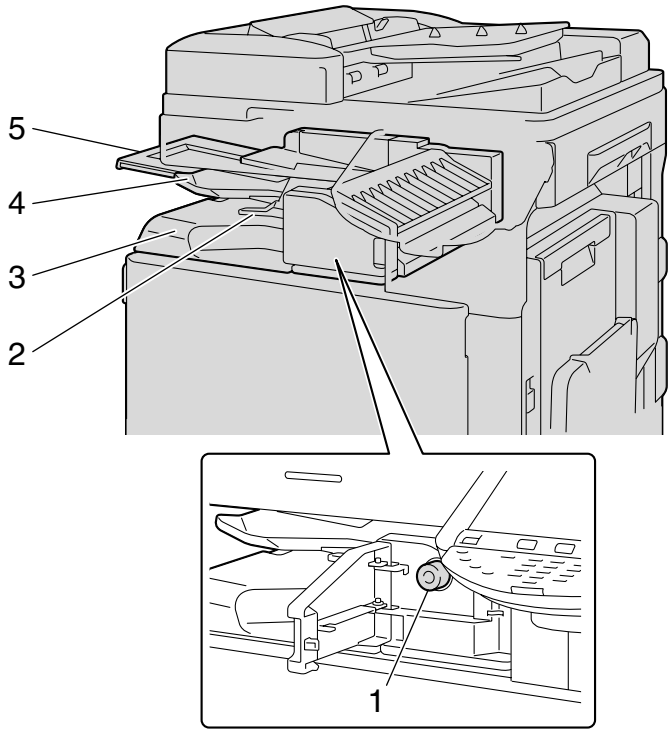
No	名称	説明
1	第 1 排紙トレイ	印刷された用紙が排紙されます。
2	上カバー	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに開きます。
3	水平搬送ユニットカバー	水平搬送部で紙づまりをおこした用紙を取出すときに開きます。
4	パンチ廃棄ボックス	パンチ機能によりたまったパンチくずを処理するときに取出します。
5	紙づまり処理ガイド	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに開きます。
6	右ドア	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに開きます。
7	第 2 排紙トレイ	中とじ機能でプリントされた用紙が排紙されます。
8	折り部紙づまり処理ダイアル	折り部で紙づまりをおこした用紙を取出すときに回します。
9	ステープルホルダー	針づまりやステープルカートリッジ交換時にステープルユニットから取出します。
10	紙づまり処理ダイアル 1	フィニッシャー内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに回します。
11	紙づまり処理ダイアル 2	針づまりやステープルカートリッジ交換時に回し、ステープルホルダーを手前に移動させます。
12	ステープルユニット	針づまりやステープルカートリッジ交換時に引出します。
13	前ドア	紙づまり、針づまり、ステープルカートリッジ交換時に開きます。

パンチキット PK-501

No	名称	説明
14	パンチキット *	フィニッシャーにパンチキットを装着することで、印刷された用紙にファイリング用の穴（パンチ穴）をあけます。

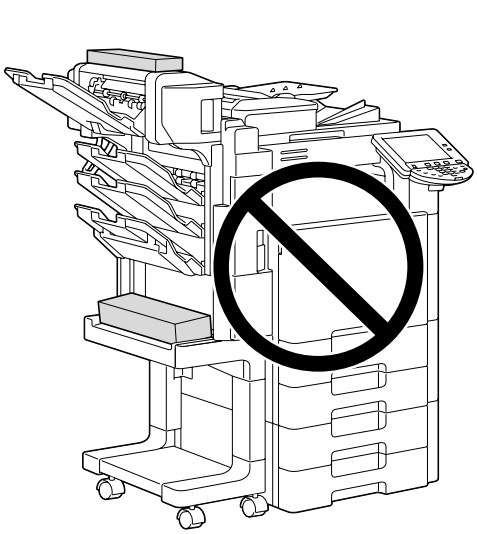
* 印はフィニッシャーに内蔵するため図解してありません。

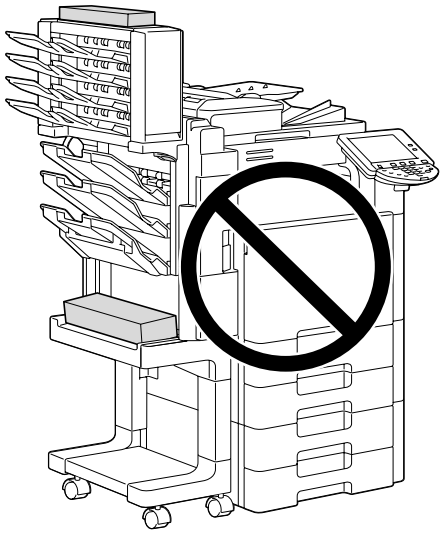
1.1.7　セパレータ JS-505



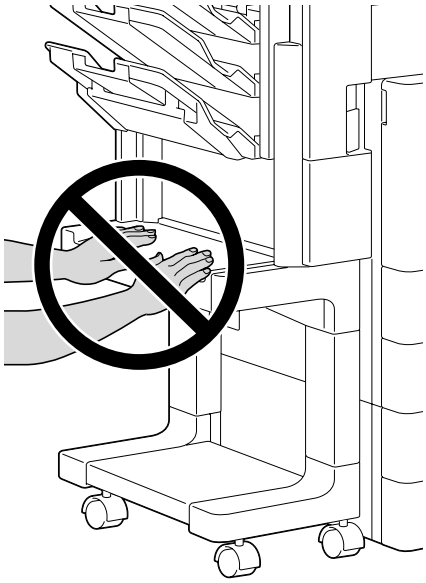
No	名称	説明
1	紙づまり処理ダイアル	セパレータ内で紙づまりをおこした用紙を取出すときに回します。
2	取出し補助レバー	印刷された用紙を取出すときに使用します。
3	第 2 排紙トレイ	印刷された用紙が排紙されます。
4	第 1 排紙トレイ	印刷された用紙が排紙されます。
5	補助トレイ	A4 ◪ より長い用紙のときに引出して使用します。

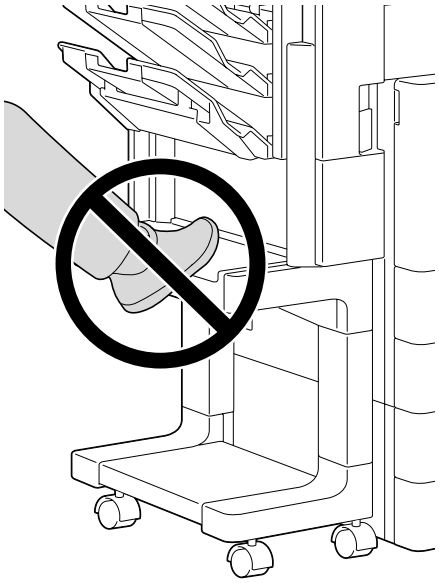
＜フィニッシャー使用時のご注意＞
フィニッシャーの上や排紙トレイの下に物を置かないでください。
故障の原因となるおそれがあります。



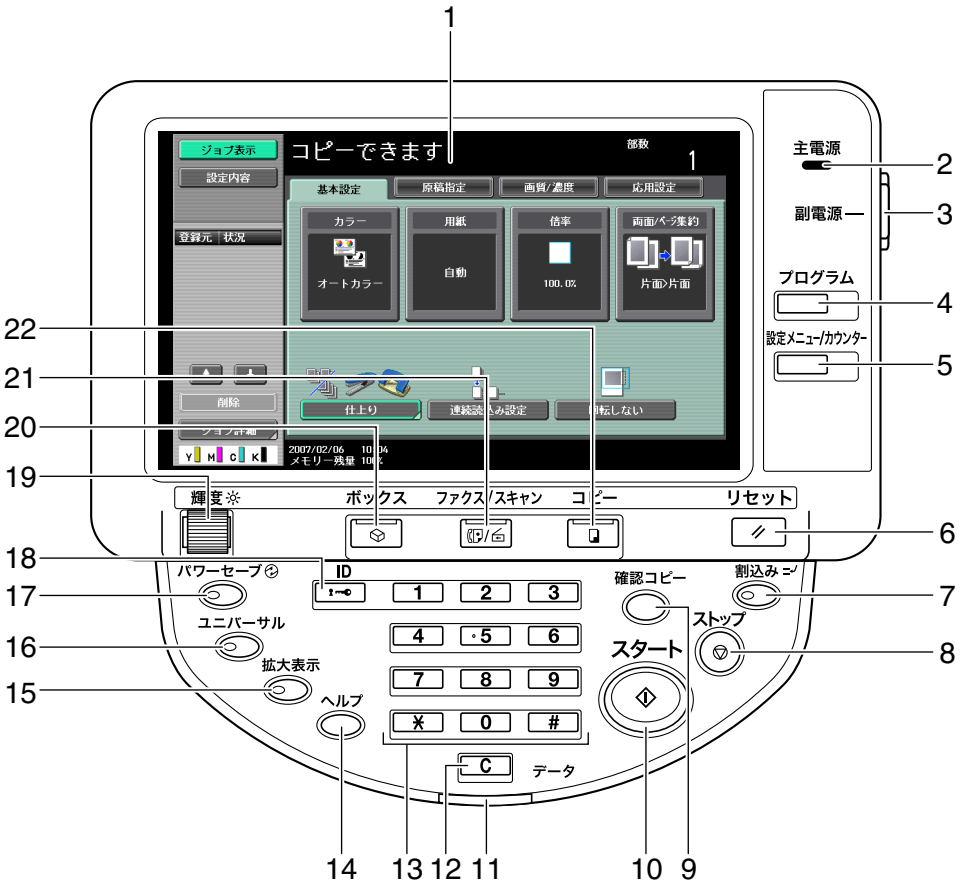


フィニッシャーの排紙トレイの下に手を置いたり、足を掛けたりしないでください。





1.1.8　操作パネル



No	名称	説明
1	タッチパネル	各設定画面やメッセージが表示されます。 タッチパネルに直接タッチして各設定を行うことができます。
2	主電源ランプ	【主電源スイッチ】が ON のときに緑色に点灯します。
3	【副電源スイッチ】	本機の動作を ON/OFF します。OFF のときは節電状態となります。
4	【プログラム】キー	目的のコピー / ファクス / スキャナー機能の条件を登録（書込み）したり、登録した条件を呼出すことができます。（p. 3-17）
5	【設定メニュー / カウンター】キー	設定メニュー画面、セールスカウンター画面に切換えることができます。
6	【リセット】キー	操作パネル、またはタッチパネルで入力した全ての設定（登録した設定は除く）をリセットできます。
7	【割込み】キー	割込み機能に切換わります。割込み機能中は【割込み】が緑色に点灯し、タッチパネルに「割込み中です。」と表示されます。割込み機能中に【割込み】を押すと割込み機能を解除できます。
8	【ストップ】キー	コピー、スキャン、印刷中に【ストップ】を押すと、動作を一時停止できます。
9	【確認コピー】キー	複数部数のコピーを行うとき、先に 1 部のみ印刷して仕上りを確認できます。（p. 3-5） 【スタート】を押す前に【確認コピー】を押すと、現在設定している内容の仕上りイメージをタッチパネル上に表示できます。（p. 3-8）
10	【スタート】キー	コピー、スキャン、ファクスなどの動作を開始します。本機が動作を開始できる状態のときは【スタート】が青色に点灯します。【スタート】がオレンジ色に点灯しているときはコピーを開始できません。 一時停止中のジョブが再開します。ジョブについて詳しくは、「ジョブ表示画面の概要」（p. 10-2）をごらんください。

No	名称	説明
11	データランプ	印刷ジョブを受信中は、青色に点滅します。 印刷ジョブが印刷待ち、および印刷中は、青色に点灯します。未出力のファクスデータ、蓄積されたファクスデータがある場合は青色に点灯します。
12	【C】クリアキー	テンキーで入力した数値（コピー部数、倍率、サイズなど）を取消すことができます。
13	テンキー	部数の設定ができます。 倍率の入力ができます。 各種の設定値の入力ができます。
14	【ヘルプ】キー	ヘルプ画面に切換えることができます。 本機機能の解説や操作方法を画面上に表示できます。 (p. 3-19)
15	【拡大表示】キー	拡大表示画面に切換えることができます。PageScope Authentication Manager にて認証を行っている場合、拡大表示画面に切換わりません。
16	【ユニバーサル】キー	ユニバーサル機能の設定画面に切換わります。
17	【パワーセーブ】キー	パワーセーブ機能に切換わります。パワーセーブ機能中は【パワーセーブ】が緑色に点灯し、タッチパネルの表示が消えます。パワーセーブ機能中に【パワーセーブ】を押すとパワーセーブ機能は解除されます。
18	【ID】キー	ユーザー認証または部門管理を設定している場合、ユーザー名とパスワード（ユーザー認証）、部門名とパスワード（部門管理）を入力したあとにこのキーを押すと本機が使用できるようになります。
19	【輝度】調整ダイアル	タッチパネルの輝度の調整ができます。
20	【ボックス】キー	ボックス機能に切換わります。 ボックス機能中は【ボックス】が緑色に点灯します。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。
21	【ファクス / スキャン】キー	ファクス機能、スキャナー機能に切換わります。 ファクス機能、スキャナー機能中は【ファクス / スキャン】が緑色に点灯します。 詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
22	【コピー】キー	コピー機能に切換わります。（初期設定ではコピー機能が選択されています。）コピー機能中は【コピー】が緑色に点灯します。

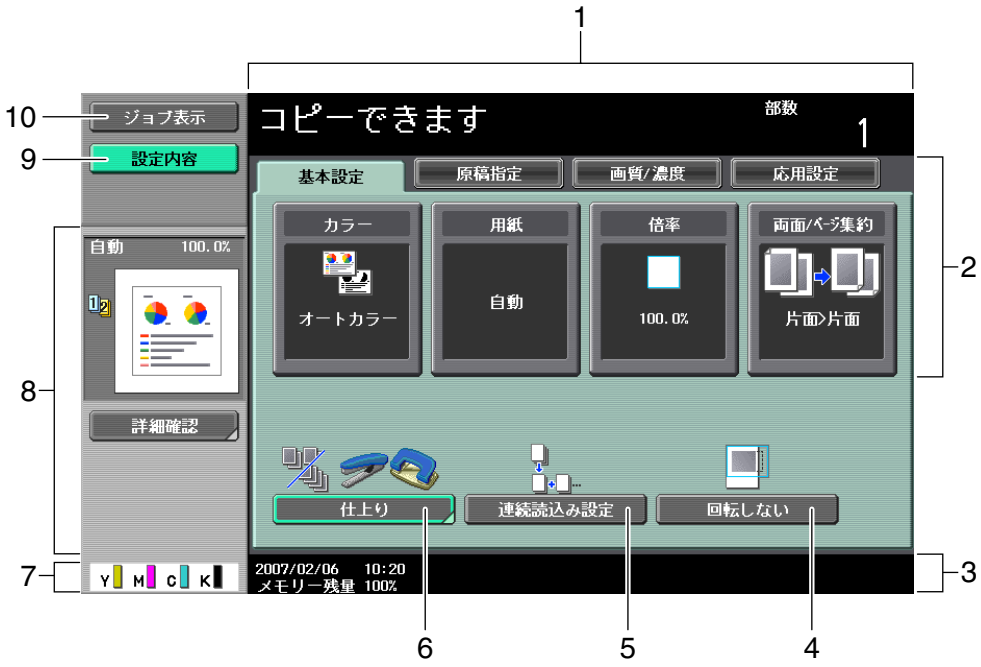
必ず守ってください

タッチパネルに強い力を加えると、タッチパネルに傷が付いて破損の原因となります。
タッチパネルを強く押したり、先のとがったシャープペンシルなどで押さないでください。

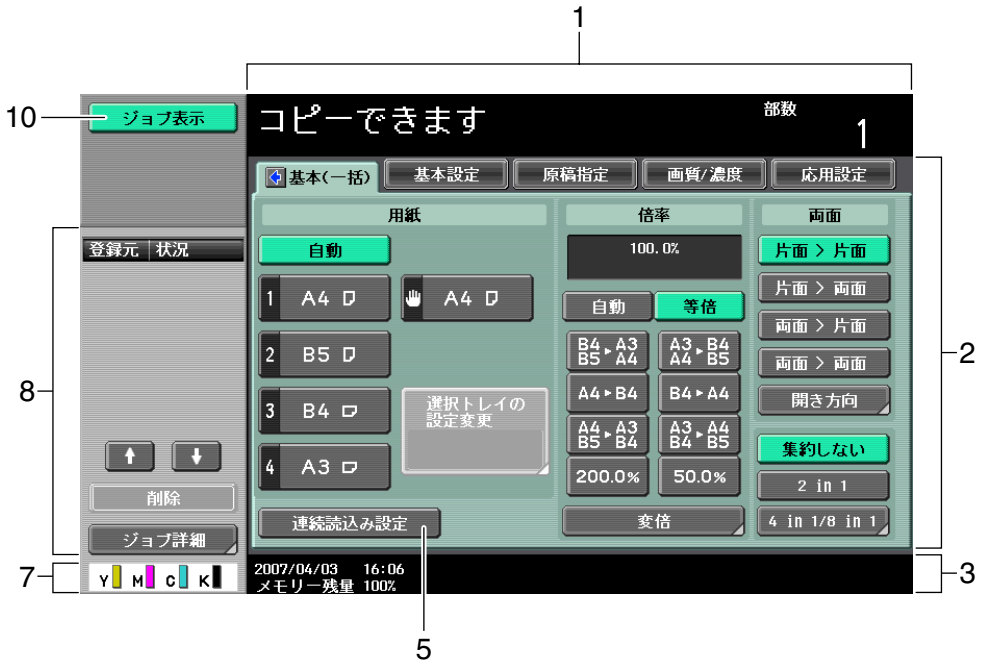
1.1.9　基本的な設定をする画面（基本設定画面）

電源を入れてコピー可能な状態になると、基本設定画面が表示されます。
画面内に表示されたキーを指で軽く押すことにより、表示された機能やモードを選択できます。

基本設定画面



基本（一括）画面



キーを押すと左エリアに「カラー」、[回転しない]キー、[仕上り]キーが表示されます。



No	名称	説明
1	メッセージ表示エリア	本機の状態や操作手順などを表示します。
2	機能表示エリア	機能を選択するキーが表示されています。 キーを押すことにより、画面が各機能の設定画面に切換わります。
3	アイコン表示エリア	ジョブの状態、装置の状態を表すアイコンを表示します。
4	[回転しない]キー	セットされた用紙の向きに合わせて画像を回転させないようにコピーできます。
5	[連続読込み設定]キー	原稿をいくつかに分けて読込ませるときに押します。 いくつかに分けて読込んだ原稿をひとつのコピージョブとして扱うことができます。
6	[仕上り]キー	ソート、グループ、仕分け、ステープルとじ、パンチ穴などの設定をします。
7	トナー残量表示	イエロー（Y）、マゼンタ（M）、シアン（C）、ブラック（K）の各色のトナー残量を表示します。
8	左エリア	[ジョブ表示]キーを押すと現在実行中、および待機中のジョブを表示する画面に切換わります。 [設定内容]キーを押すことにより、設定中の仕上り状態などを表示します。
9	[設定内容]キー	設定中の仕上り状態などを表示します。
10	[ジョブ表示]キー	現在実行中、および待機中のジョブを表示します。 ジョブの確認、ジョブ操作ができます。

詳しく説明します

・基本設定画面には基本設定画面と基本（一括）画面があり、[ユーザー設定]－[画面カスタマイズ設定]－[コピー設定]で設定することができます。基本設定画面と基本（一括）画面では、各機能設定画面の階層やキーの配置などが異なりますが、設定できる機能は同じです。出荷時設定では、[基本設定画面]が設定されています。本書では基本設定画面からの設定方法を説明しています。
・基本（一括）画面は、基本設定画面の設定項目が一画面に表示されているため、複数の設定をする場合に便利です。

参照

基本設定画面の切換えの設定については、「<コピー設定>」（p. 11-16）をごらんください。

ひとこと

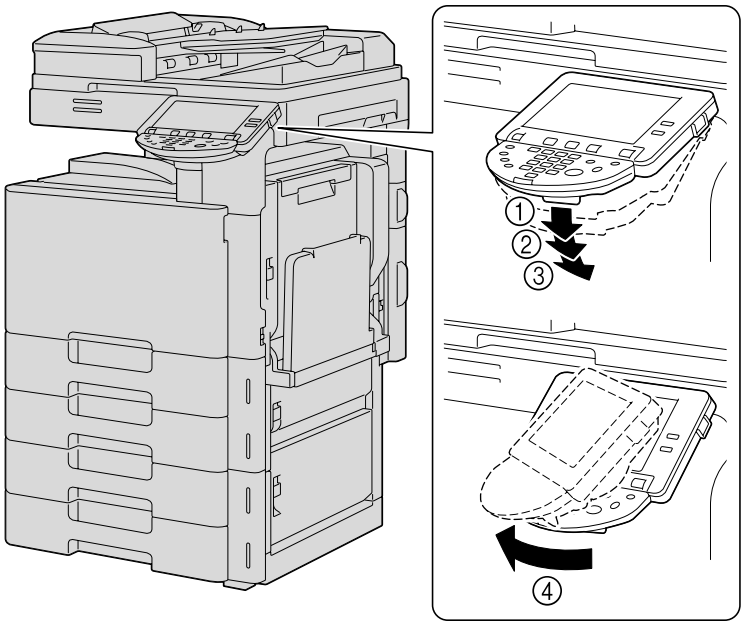
出荷時から設定値が変更された場合、変更された設定画面のタブが緑色枠で表示されます。
緑色枠は「設定メニュー」－「ユーザー設定」－「画面カスタマイズ設定」－「選択色設定」で他の色に変更できます。

1.1.10　タッチパネル内で表示されるアイコンについて

アイコン	説明
	機能に関係なく、本機からデータを送信していることを示します。
	機能に関係なく、本機がデータを受信していることを示します。
	画像安定化機能、印刷機能、スキャナー機能に異常が発生していることを示します。 このアイコンを押すと警告コードを確認できる画面に切換わります。
	警告発生中に警告表示画面を閉じた場合に、このアイコンを押すと再び警告表示画面に切換わります。
	消耗品の交換や装置の点検に関するメッセージがあるときに表示されます。キーを押してメッセージを確認し、交換や点検を行ってください。
	POP サーバーへの接続エラー時に表示されます。
	給紙トレイに用紙がセットされていないことを示します。
	給紙トレイにセットされている用紙が残り少ないことを示します。
	オプションのイメージコントローラを C353/C253 に装着している場合、このアイコンを押すとイメージコントローラの設定画面が表示されます。
	セキュリティー強化設定が適用されていることを示します。
	USB メモリーが接続されている場合に表示されます。

1.2 操作パネルの角度をかえる

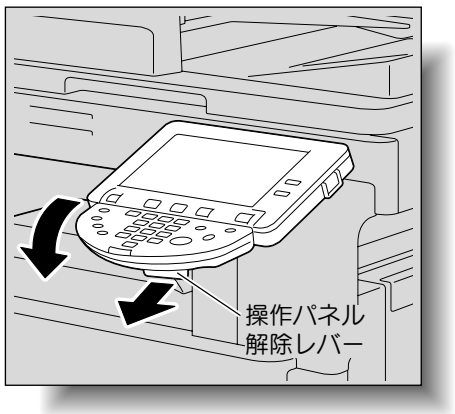
本機の操作パネルは、操作面の角度を 3 段階に設定できます。また、操作パネルを左に傾けることができます。
使いやすい角度を選んでご使用ください。



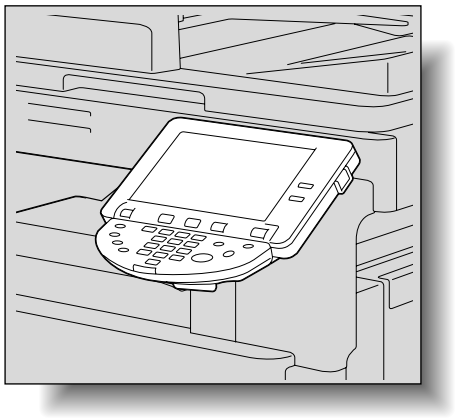
① 上段位置（ホーム位置）
② 中段位置
③ 下段位置
④ 左傾位置

1.2.1 操作パネルの角度のかえかた

1 操作パネル解除レバーを手前に引き、操作パネルを押し下げます。



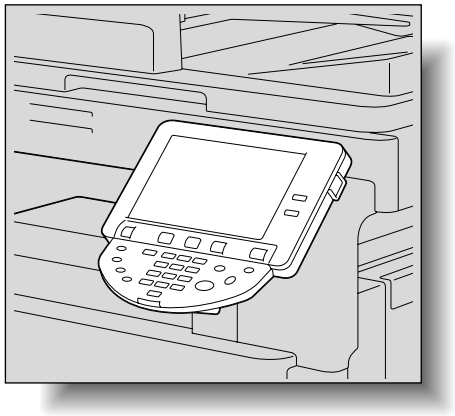
操作パネルが中段位置で止まります。



2

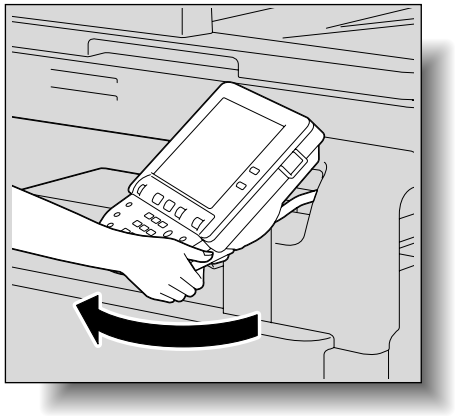
さらに角度を付けたい場合は、再度操作パネル解除レバーを手前に引き、操作パネルを押し下げます。

操作パネルが下段位置で止まります。



3

操作パネルを左に傾ける場合は、操作パネル下部を持って左に傾けます。



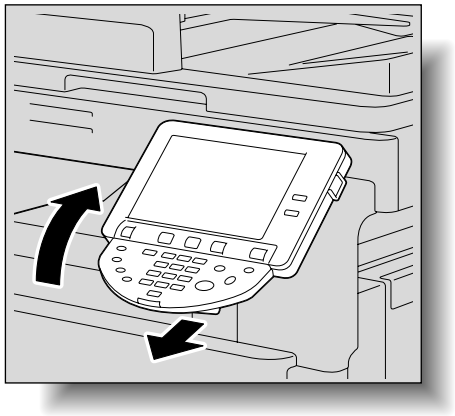
必ず守ってください

操作パネルを傾ける場合にタッチパネルを持っての移動は行わないでください。



4

操作パネルを上段位置に戻す場合は、操作パネル解除レバーを手前に引き、操作パネルを持上げます。



1.3　主電源と副電源を入れる

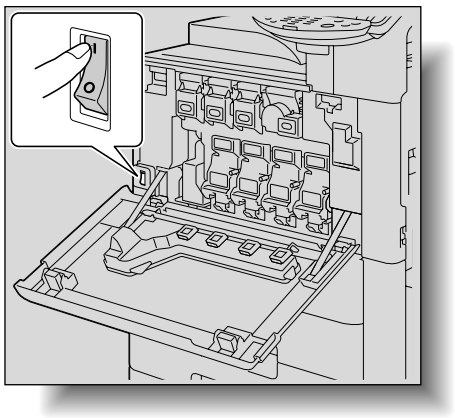
本機には、【主電源スイッチ】と【副電源スイッチ】の 2 つの電源スイッチがあります。

1.3.1　　電源の入れかた

【主電源スイッチ】は、本機の全ての機能に対して ON/OFF します。通常、【主電源スイッチ】は ON の状態にしておきます。

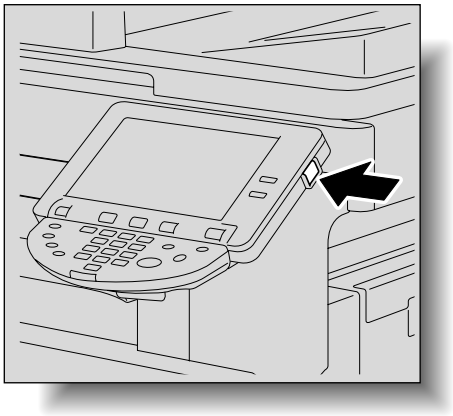
【副電源スイッチ】では、コピー、印刷、スキャナー機能など本機の動作に対して ON/OFF をします。【副電源スイッチ】を OFF にすると節電状態となります。

1　前ドアを開き、【主電源スイッチ】の【 | 】を押します。



2　前ドアを閉じます。

3　【副電源スイッチ】を押します。



タッチパネルの表示を確認します。

詳しく説明します

【副電源スイッチ】を ON にすると、【スタート】がオレンジ色に点灯し、起動中を表す画面が表示されます。
数秒後、メッセージが「ウォームアップ中です。読込みできます」に切換わり、【スタート】が青色に点灯すると、ジョブの予約を受け付けることができます。

ひとこと

【副電源スイッチ】を ON にしたあとのウォームアップ中でも、ジョブを予約できます。詳しくは、「ウォームアップ中に読込みする」（p. 1-27）をごらんください。
ウォームアップ完了後に、読込んだ画像が印刷されます。

参照

ウォームアップ時間については、「本体仕様」（p. 5-2）をごらんください。

詳しく説明します

電源を ON にしてから操作パネル、タッチパネルで設定をする前の状態、または【リセット】を押して操作パネル、タッチパネルで入力した設定を取消した状態を初期設定と呼びます。初期設定は変更できます。詳しくは、「コピー設定」（p. 11-17）をごらんください。
出荷時に設定されている本機の状態を出荷時設定といいます。

1.3.2　ウォームアップ中に読込みする

1 【副電源スイッチ】を ON にします。

【スタート】がオレンジ色に点灯します。

ウォームアップ画面が表示されたあと、基本設定画面が表示され、【スタート】が青色に点灯します。

2 タッチパネルの「ウォームアップ中です。読込みできます」というメッセージを確認します。



3 原稿をセットします。

4 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

5 テンキーでコピー部数を設定します。

6 【スタート】を押します。

原稿の読込みをし、待機中のジョブに追加されます。

- 設定メニューの「印刷中画面表示」を「する」に設定した場合は［コピー予約］を押して、基本設定画面を表示させます。



- ウォームアップが完了したとき、自動的に印刷を開始します。

詳しく説明します

【副電源スイッチ】を ON にして出力できるまでのウォームアップ中に、コピー条件を設定し、原稿を読込むコピー予約ができます。ウォームアップが完了すると自動的に出力できます。

参照

電源の入れ方については、「電源の入れかた」（p. 1-26）をごらんください。

参照

原稿のセットについては、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

参照

コピー部数設定については、「コピー操作の流れ」（p. 2-2）をごらんください。

詳しく説明します

［ジョブ表示］－［ジョブ詳細］の実行中リストで、印刷の順番を変更したり、ジョブを削除できます。詳しくは、「ジョブ確認」（p. 10-1）をごらんください。

参照

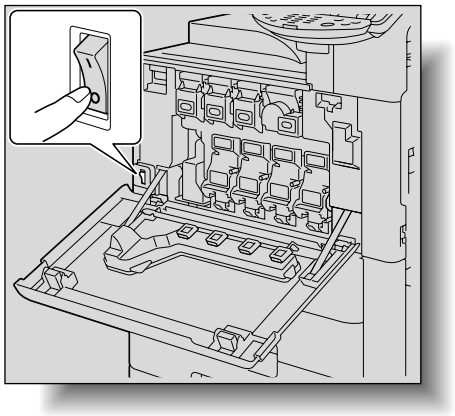
印刷中に印刷ジョブを停止したいときは、【ストップ】を押します。詳しくは、「読込み・印刷を一時停止する」（p. 2-73）をごらんください。

1.3.3　電源の切りかた

1 【副電源スイッチ】を押します。

タッチパネルの表示が消えたことを確認します。

2 前ドアを開き、【主電源スイッチ】の【○】を押します。



3 前ドアを閉じます。

1.3.4　自動的に設定を取消す（オートリセット）

【リセット】を押さなくても、本機を操作しなくなってから一定時間経過したときコピー枚数など登録されていない設定が取消され、初期設定に戻ります。

これをオートリセットといいます。

出荷時設定では 1 分を経過するとオートリセット機能がはたらきます。

1.3.5　自動的に機能画面を取消す（システムオートリセット）

本機を操作しなくなってから一定時間経過すると、自動的に優先機能画面に切換わります。

これをシステムオートリセットといいます。

出荷時設定では、1 分を経過するとコピー機能画面になります。

必ず守ってください

- 【主電源スイッチ】を OFF したあとに、すぐに ON する場合は、主電源を OFF にして、10 秒以上経過してから ON にしてください。間隔をあけないと、正常に機能しないことがあります。
- 印刷中に【主電源スイッチ】、【副電源スイッチ】を OFF にしないでください。紙づまりをおこします。
- 画像の読込み中や、送受信中に【主電源スイッチ】、【副電源スイッチ】を OFF にしないでください。読込み中のデータや、通信中のデータは削除されてしまいます。
- 登録されたジョブや、蓄積されたジョブの印刷待機中に【主電源スイッチ】を OFF にしないでください。印刷されていないジョブは削除されてしまいます。

詳しく説明します

【主電源スイッチ】、【副電源スイッチ】を OFF にすると、以下の項目が取消されます。

·登録されていない設定
·印刷待機中のジョブ

参照

- オートリセット機能がはたらくまでの時間や、オートリセットをするかしないかの設定は、設定メニューで変更できます。詳しくは、「<リセット設定>」（p. 11-26）をごらんください。
- 使用者が交代したときのオートリセットをするかしないかの設定は、設定メニューで変更できます。詳しくは、「<リセット設定>」（p. 11-26）をごらんください。

参照

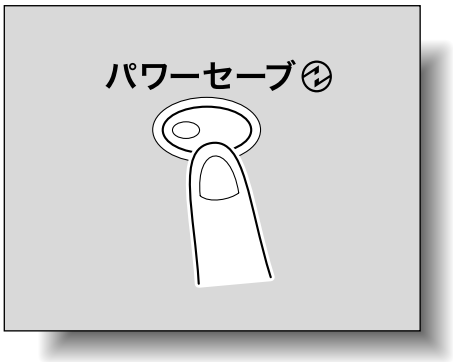
システムオートリセットの切換えは設定メニューで設定できます。詳しくは、「<リセット設定>」（p. 11-26）をごらんください。

1.3.6　自動的に節電状態にする（低電力）

本機は節電のため、本機を操作しなくなってから一定時間経過すると、タッチパネルの表示を消すなど、自動的に節電状態になります。
これを低電力モードといいます。
低電力モードのときでも、本機はジョブを受け付けることができます。
出荷時設定では 15 分を経過すると低電力モードになります。

＜低電力モードからの復帰のしかた＞

➔　【パワーセーブ】を押します。



❍ タッチパネルの表示が点灯し、ウォームアップを開始します。

参照

低電力モードに切換わる時間を変更できます。
詳しくは、「<パワーセーブ設定>」(p. 11-15)、(p. 11-22)をごらんください。

ひとこと

出荷時設定では【パワーセーブ】を押したときは、低電力モードになります。管理者設定でスリープモードに設定を変更できます。詳しくは、「<パワーセーブ設定>」(p. 11-22)をごらんください。

ひとこと

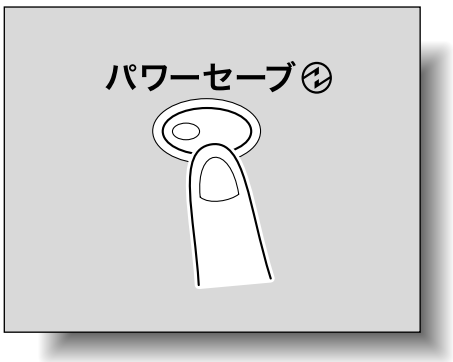
操作パネル上の他のキー、またはタッチパネル面を押しても低電力モードから復帰します。

1.3.7　自動的に節電状態にする（スリープ）

本機は節電のため、本機を操作しなくなってから一定時間経過すると、自動的に節電状態になります。
低電力モードよりも節電効果が得られますが、再度コピーを行うためのウォームアップにかかる時間は低電力モードよりもかかります。
出荷時設定では 20 分を経過するとスリープモードになります。

＜スリープモードからの復帰のしかた＞

➔　【パワーセーブ】を押します。



❍ タッチパネルの表示が点灯し、ウォームアップを開始します。

参照

スリープモードが動作するまでの時間を変更できます。詳しくは、「<パワーセーブ設定>」(p. 11-15)、(p. 11-22)をごらんください。

ひとこと

操作パネル上の他のキー、またはタッチパネル面を押してもスリープモードから復帰します。

詳しく説明します

出荷時設定では本機を操作しなくなってから 15 分が経過すると、低電力モードになり、20 分が経過するとスリープモードに切換わります。

1.3.8　手動で節電状態にする

パワーセーブ（低電力／スリープ）の機能を手動で設定します。

➔ 【パワーセーブ】を押します。または、【副電源スイッチ】を OFF にします。

❍ 出荷時設定では低電力モードになります。



参照

【パワーセーブ】の低電力モードとスリープモードの切換えは管理者設定で設定を変更できます。
詳しくは、「<パワーセーブ設定>」（p. 11-22）をごらんください。

1.3.9　自動的に電源を OFF ／ ON する（ウィークリータイマー）

本機は、管理者が設定した使用時間スケジュールにしたがって自動的にスリープモードに切換え、使用を制限できます。

これをウィークリータイマーといいます。

ウィークリータイマー機能中に、本機を使用するときは、以下の手順を行ってください。

1 【パワーセーブ】を押します。



参照

出荷時設定はウィークリータイマーは設定されてません。ウィークリータイマーの設定については、「<ウィークリータイマー設定>」（p. 11-23）をごらんください。

ひとこと

【副電源スイッチ】を ON にしたとき、「現在、ウィークリータイマー設定により使用時間外です。使用後、スリープモードに移行する時間をテンキーで指定できます」、「現在、ウィークリータイマー設定により使用時間外です。時間外使用パスワードをキーボードまたはテンキーで入力し［OK］キーを押してください」と表示されることがあります。いずれもウィークリータイマーが機能しています。

詳しく説明します

・管理者設定の［時間外パスワード設定］により、時間外パスワード入力画面を表示させないようにできます。
・時間外パスワードの出荷時設定は［しない］（表示させない）です。

参照

時間外パスワードの設定については、「<ウィークリータイマー設定>」（p. 11-23）をごらんください。

2 最大 8 桁の時間外パスワードを入力します。



3 [OK] を押します。

「現在、ウィークリータイマー設定により使用時間外です。使用後、スリープモードに移行する時間をテンキーで指定できます」と表示されます。

4 再度、スリープモードに移行するまでの時間をテンキーで入力します。

❍ 5 分～ 9 時間 59 分までの設定ができます。



5 [OK] を押します。

基本設定画面に「コピーできます」と表示されます。

ひとこと

1 桁を入力する場合は、最初に「0」を入力します。ただし、5 分未満の値が入力された場合は、[OK] を押しても移行しません。また、分の値に 60 分以上の設定はできません。

詳しく説明します

設定した時間内は通常どおりのコピーができます。

1.3.10　ユーザーごとに本機の使用者を制限する（ユーザー認証）

管理者によってユーザー認証設定が行われると、ユーザー登録された特定の方のみが本機を使用できます。また、ユーザーごとに印刷枚数などの管理もできます。

原則

ユーザー認証機能を使用すると、ユーザーに設定されたパスワードを入力した方のみが、本機を使用できます。
ユーザー名、パスワード、サーバー名が不明な場合は、管理者の方に確認してください。

1　［ユーザー名］を押します。







参照

ユーザー認証の設定手順については、「ユーザー認証 / 部門管理」（p. 11-28）をごらんください。

ひとこと

- ユーザー認証設定は部門管理設定と併用できます。ユーザー認証 / 部門認証の設定を［連動しない］に設定している場合はユーザー認証を行ってから、部門管理画面からログインします。
- 本体装置認証または外部サーバー認証を設定した場合は、ユーザーと部門を合わせて 1,000 件まで登録できます。

詳しく説明します

- ユーザー認証は設定メニューの管理者設定で設定します。設定は管理者の方が行ってください。
- ユーザー名の一覧が表示されている場合は、一覧から目的のユーザー名を選択できます。［ユーザー名一覧］を押して目的のユーザー名を選択し、［OK］を押します。
- ユーザー名、パスワードを知らない方でも［パブリックユーザー］を押すと本機を使用できます。パブリックユーザーの設定方法については、「認証方式の設定のしかた」（p. 11-66）、「パブリックユーザーの認証」（p. 11-72）をごらんください。
- ユーザー認証で外部サーバー認証を設定している場合は、［サーバー名称］が表示され、初期値設定のサーバーが表示されます。［サーバー名称］を押すと登録されたサーバーが表示され、目的のサーバーを選択できます。外部サーバー認証の設定方法については、「認証方式の設定のしかた」（p. 11-66）をごらんください。
- 認証 & プリントボックスに印刷ジョブがある場合は、［印刷開始］、［印刷 & ログイン］が表示されます。詳しくは「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。
- セキュリティー強化設定が ON の場合、［パブリックユーザー］と［ユーザー名一覧］は表示されません。
- PageScope Authentication Manager で認証を行っている場合、ログインについてはサーバーの管理者の方にご確認ください。

2 ユーザー名を入力し、［OK］を押します。



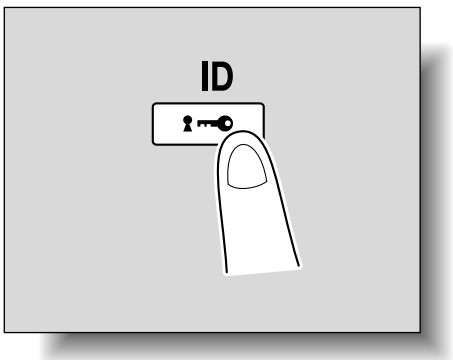
3 ［パスワード］を押します。



4 パスワードを入力し、［OK］を押します。



5 ［ログイン］または、【ID】を押します。



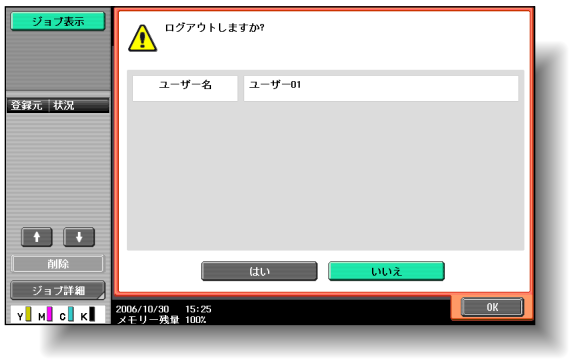
基本設定画面が表示されます。

ひとこと

部門管理設定をしている場合は、部門管理画面が表示されます。ただし、［ユーザー認証 / 部門認証の連動］を［連動する］に設定し、ユーザーと部門の関連付けがされている場合は、部門認証画面は表示されません。

6 目的の機能でコピーします。

7 印刷が終了したら、【ID】を押します。
ログアウト確認画面が表示されます。



8 ［はい］を選択して、［OK］を押します。
ユーザー認証画面が表示されます。

1.3.11　部門ごとに本機の使用者を制限する（部門認証）

管理者によって部門管理設定が行われると、部門登録された特定の方のみが本機を使用できます。また部門ごとに印刷枚数などの管理もできます。
これを部門管理といいます。

原則

部門管理機能を使用すると、各部門に設定されたパスワードを入力した方のみが、本機を使用できます。
部門名、パスワードが不明な場合は、管理者の方にご確認ください。

1 ［部門名］を押します。



ひとこと

ログアウト確認画面を表示しないように設定することができます。詳しくは「＜ユーザー認証 / 部門共通設定＞」（p. 11-30）をごらんください。

参照

部門管理の設定手順については、「認証方式の設定のしかた」（p. 11-66）をごらんください。

詳しく説明します

・部門管理は設定メニューの管理者設定で設定します。設定は管理者の方が行ってください。詳しくは、「ユーザー認証 / 部門管理」（p. 11-28）をごらんください。
・ユーザーと部門を合わせて1,000 件まで登録できます。

❍ 管理者設定によって、「パスワードのみ」が設定されている場合は、以下の画面が表示されます。
［パスワード］を押し手順 4 へ進んでください。



2 部門名を入力し、［OK］を押します。



3 ［パスワード］を押します。



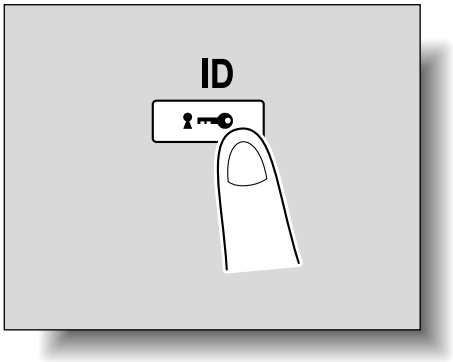
4 パスワードを入力し、［OK］を押します。



詳しく説明します

・管理者設定の部門管理認証方式で［パスワードのみ］が設定されている場合、認証画面に［パスワード］のみ表示されます。認証画面にテンキーにて直接パスワードを入力できます。パスワードが数字のみの場合、キーボード画面を表示させることなく［ログイン］または【ID】を押すことでログインできます。
・パスワードに英字、数字、記号を組合わせて設定している場合、［パスワード］を押し手順 4 へ進んでください。
・テンキーで数字を入力したあと、［パスワード］を押すと英字、記号を続けて入力できます。

5 ［ログイン］または、【ID】を押します。



基本設定画面が表示されます。

6 目的の機能でコピーします。

7 印刷が終了したら、【ID】を押します。
ログアウト確認画面が表示されます。



8 ［はい］を選択して、［OK］を押します。
部門認証画面が表示されます。

ひとこと

ログアウト確認画面を表示しないように設定することができます。詳しくは「<ユーザー認証 / 部門共通設定>」(p. 11-30)をごらんください。

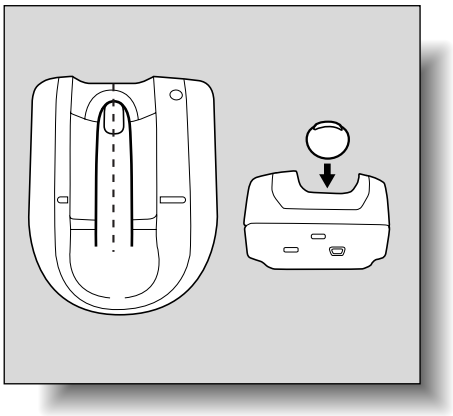
1.3.12　認証装置（指静脈 生体認証タイプ）を使って本機の使用者を制限する

本機は、認証装置を使っての認証ができます。認証装置で指静脈パターンを読取り認証を行います。

1 対多認証が設定されている場合



➔　認証装置に指を置きます。



基本設定画面が表示されます。



ひとこと

・1 対多認証：指を置くだけで認証されます。
　1 対 1 認証：ユーザー名を入力して指を置くことで認証されます。
・認証装置を使用せず、ユーザー名とパスワードを入力してログインする場合は、［本体認証］を押してください。

参照

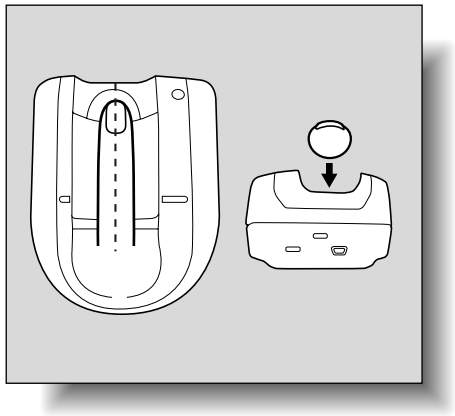
生体認証を行う場合は、あらかじめ指静脈パターンを登録しておいてください。
認証装置の認証設定、指静脈パターンの登録は、認証装置に同梱されているマニュアルをごらんください。

1 対 1 認証が設定されている場合

1 ユーザー名を入力します。



2 認証装置に指を置きます。



基本設定画面が表示されます。



ひとこと

認証装置を使用せず、ユーザー名とパスワードを入力してログインする場合は、［本体認証］を押してください。

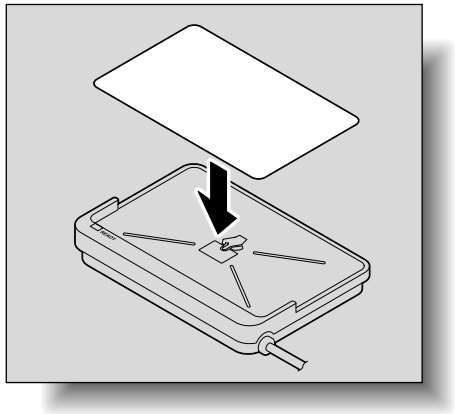
1.3.13　認証装置（IC カード認証タイプ）を使って本機の使用者を制限する

本機は、認証装置を使っての認証ができます。認証装置で IC カードに記録された情報を読取り認証を行います。

IC カード認証が設定されている場合



➔　認証装置に IC カードを置きます。



基本設定画面が表示されます。



ひとこと

・IC カード認証：IC カードを置くだけで認証されます。
IC カード＋パスワード認証：IC カードを置きパスワードを入力することで認証されます。
・認証装置を使用せず、ユーザー名とパスワードを入力してログインする場合は、［本体認証］を押してください。

参照

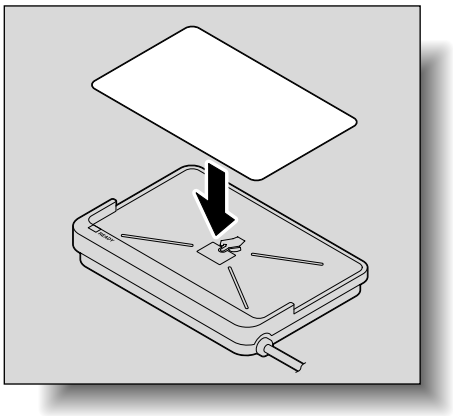
IC カード認証を行う場合は、あらかじめ IC カードの情報を登録しておいてください。
認証装置の認証設定、IC カード情報の登録は、認証装置に同梱されているマニュアルをごらんください。

IC カード認証 + パスワード認証が設定されている場合



1

認証装置に IC カードを置きます。



2

パスワードを入力して、［ログイン］または【ID】を押します。
基本設定画面が表示されます。



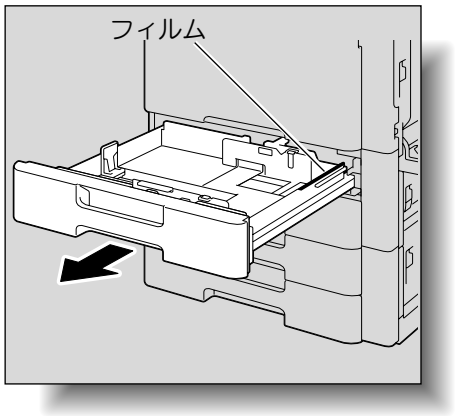
ひとこと

認証装置を使用せず、ユーザー名とパスワードを入力してログインする場合は、［本体認証］を押してください。

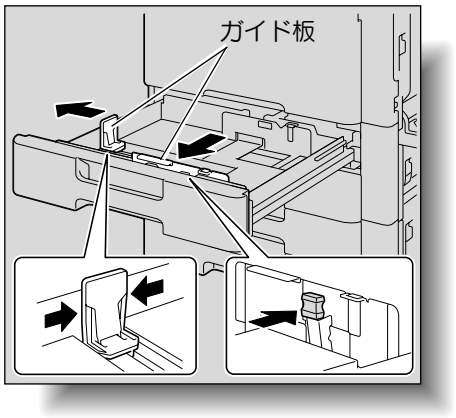
1.4　トレイ 1/2/3/4 へ用紙をセットする

用紙のセット方法は、トレイ 1/2/3/4 で同じ手順です。
ここではトレイ 1 へ用紙をセットする場合の手順を説明します。

1 トレイ 1 を引出します。



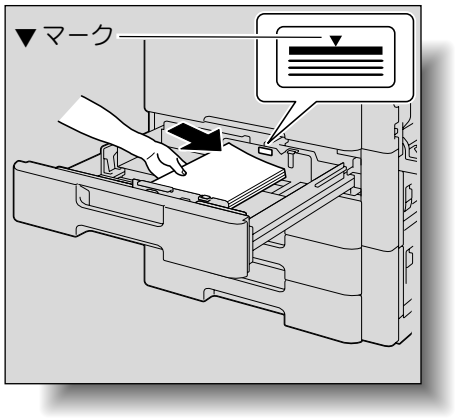
2 ガイド板をスライドさせ、用紙のサイズに合わせます。



3 印刷したい面（用紙の開封した面）を上向きにして用紙をセットします。

❍ レターヘッド紙は、印刷したい面を下向きにしてセットします。

＜普通紙の場合＞



ひとこと

トレイ 3/4 はオプションです。

参照

トレイ 1/2/3/4 へセットできる用紙サイズ、用紙種類については、「用紙について」（p. 6-2）をごらんください。

必ず守ってください

フィルムには手を触れないように注意してください。

必ず守ってください

セットした用紙に対して、ガイド板の位置が合っていない場合、用紙サイズを正しく検出できません。必ずガイド板は、セットした用紙サイズの位置に合わせてください。

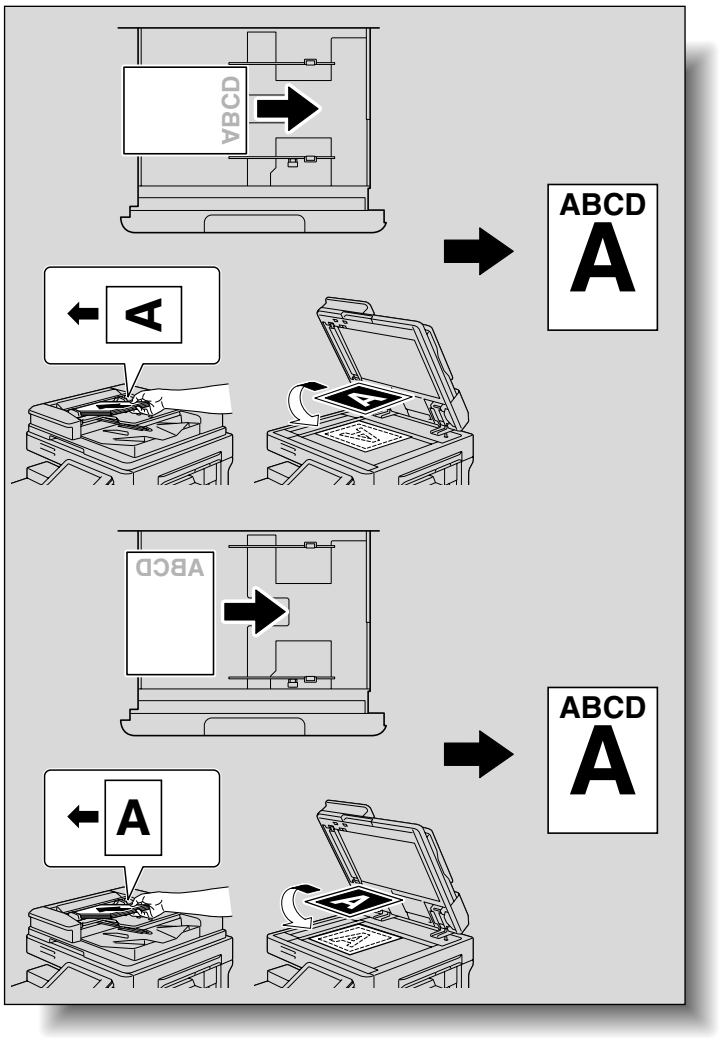
必ず守ってください

・用紙がカールしている場合は、用紙のカールを伸ばしてからセットしてください。
・用紙は▼マークを超えないようにセットしてください。

ひとこと

・OHP フィルム、厚紙 4、封筒、はがきに印刷したい場合は、手差しトレイを使用してください。
・レターヘッド紙とは、あらかじめ社名や定型文などが印刷された用紙を呼びます。

<レターヘッド紙の場合>



4 トレイ 1 を閉じます。

必ず守ってください

・レターヘッド紙をセットする場合は、印刷したい面を下向きにしてセットしてください。
・図のようにレターヘッド紙をセットし、片面コピーを行った場合、原稿の画像をあらかじめ印刷されていた面に重ねてコピーします。用紙は下向きで排紙されます。

参照

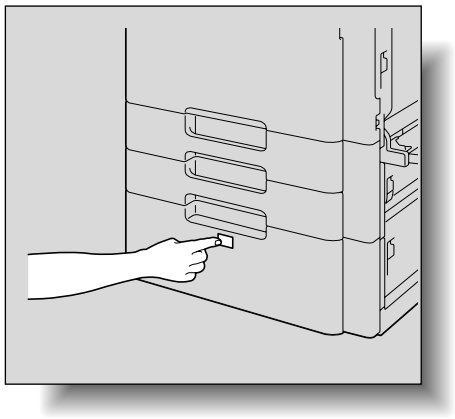
専用紙をセットした場合は、用紙種類の設定が必要です。詳しくは「専用紙として設定する」（p. 6-16）をごらんください。

1.5　LCT へ用紙をセットする

1 トレイ解除ボタンを押します。

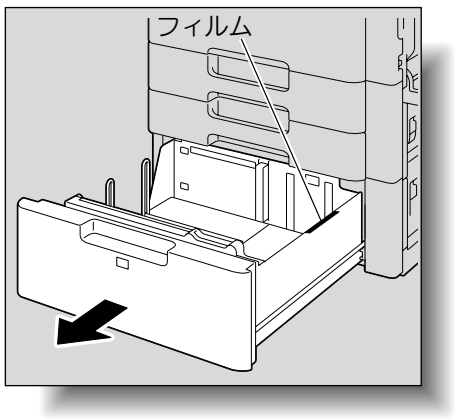
原則

【主電源スイッチ】が ON になっている場合でも、【副電源スイッチ】が OFF になっているときは、トレイ解除ボタンを押しても LCT を引出すことができません。【副電源スイッチ】も ON にしてください。



LCT のロックが解除されて、LCT のトレイが少し前に出てきます。

2 LCT を引出します。



ひとこと

・LCT はオプションです。
・低電力モード時やスリープモード時にトレイ解除ボタンを押しても LCT は引出すことができません。
低電力モード、スリープモードから復帰してください。

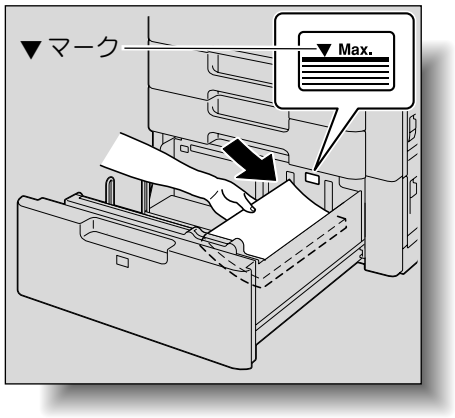
必ず守ってください

フィルムには手を触れないように注意してください。

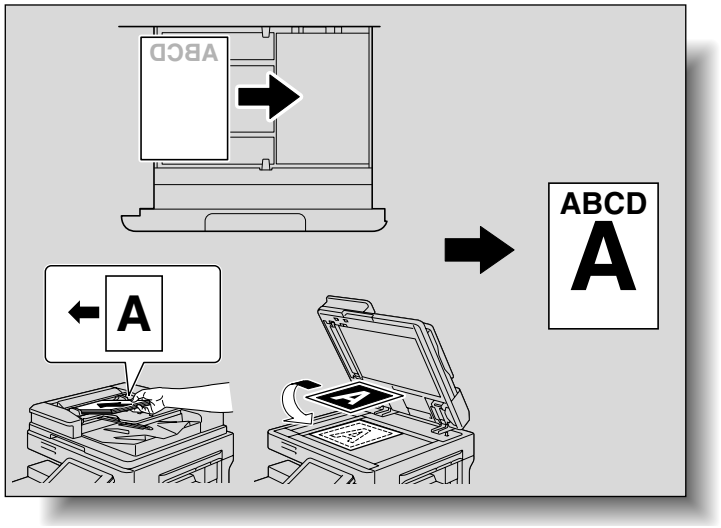
ひとこと

LCT へセットできる用紙サイズ、用紙種類については、「用紙について」（p. 6-2）をごらんください。

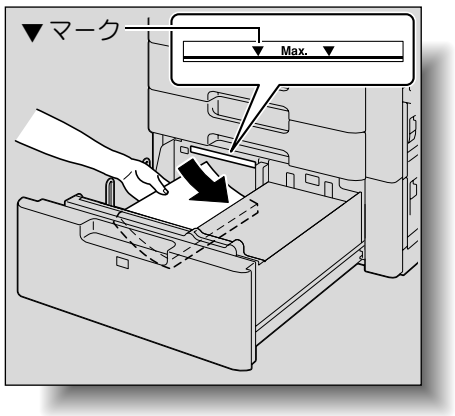
3 LCT の右段に、印刷したい面（用紙の開封した面）を上向きにして、用紙をセットします。



❍ レターヘッド紙は、印刷したい面を下向きにしてセットします。



4 LCT の左段に、印刷したい面（用紙の開封した面）を上向きにして、用紙をセットします。



5 LCT を閉じます。

必ず守ってください

・用紙がカールしている場合は、用紙のカールを伸ばしてからセットしてください。
・用紙は▼マークを超えないようにセットしてください。

ひとこと

・OHP フィルム、厚紙 4、封筒、はがきに印刷したい場合は、手差しトレイを使用してください。
・レターヘッド紙とは、あらかじめ社名や定型文などが印刷された用紙を呼びます。

必ず守ってください

・レターヘッド紙をセットする場合は、印刷したい面を下向きにセットしてください。
・図のようにレターヘッド紙をセットし、片面コピーを行った場合、原稿の画像をあらかじめ印刷されていた面に重ねてコピーします。用紙は下向きで排紙されます。

必ず守ってください

用紙は▼マークを超えないようにセットしてください。

参照

専用紙をセットした場合は、用紙種類の設定が必要です。詳しくは「専用紙として設定する」（p. 6-16）をごらんください。

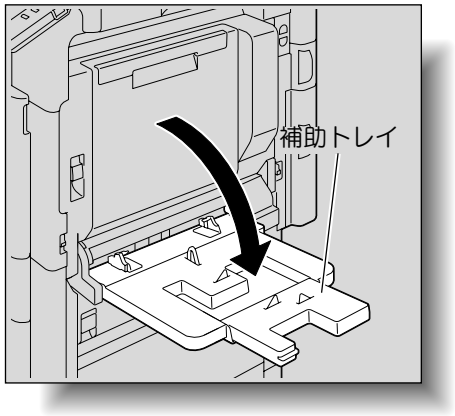
1.6　手差しトレイへ用紙をセットする

給紙トレイにセットされていないサイズの用紙や、厚紙 4、はがき、封筒、OHP フィルム、ラベル用紙に印刷したい場合に手差しトレイを使用します。

1

手差しトレイを開きます。

❍ 大きなサイズの用紙をセットする場合は、補助トレイを開きます。

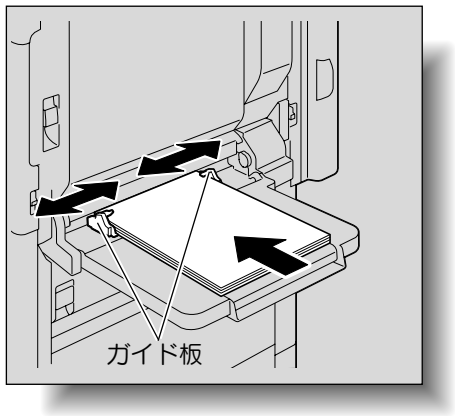


2

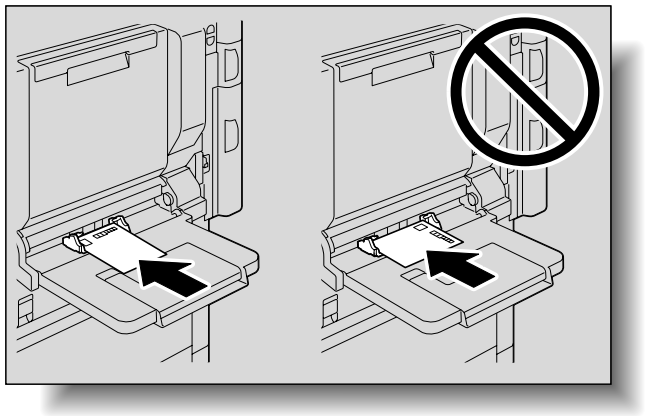
印刷したい面を下向きにし、用紙の先端を奥まで差込んでセットします。

3

ガイド板をスライドさせ、用紙のサイズに合わせます。



＜はがきの場合＞



詳しく説明します

厚紙 4 は A3 ▭、A4 ▯、11 × 17 ▭、8-1/2 × 11 ▯ のみ印刷することができます。

参照

手差しトレイの用紙サイズの設定については、「用紙サイズを指定する（サイズ指定）」（p. 6-8）をごらんください。

必ずお守りください

・用紙は ▼ マークを超えないようにセットしてください。
・ガイド板を確実に用紙の端面に合わせてください。
・用紙がカールしている場合は、用紙のカールを伸ばしてからセットしてください。

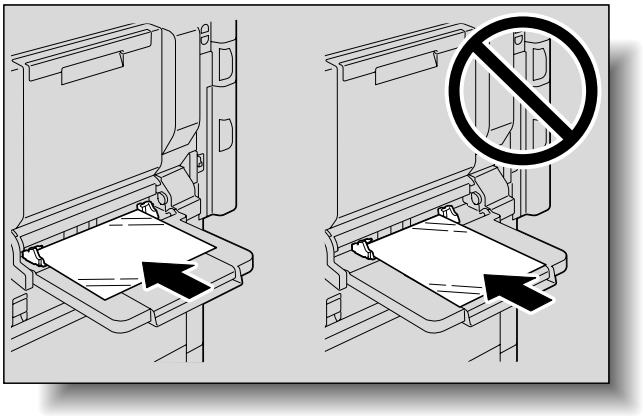
詳しく説明します

セットする用紙の下面に画像が印刷されます。

必ずお守りください

・はがきとは、100 × 148 mm（郵政はがき）を指します。100 × 148mm（郵政はがき）以外のはがきを使用する場合は、使用するはがきのサイズを確認したうえで、不定形サイズ画面にてサイズ設定したのちご使用ください。
・はがきをセットする場合は、図のように ▭ 方向にセットしてください。▯ 方向にはセットしないでください。
・手差しトレイには最大 20 枚のはがきをセットできます。

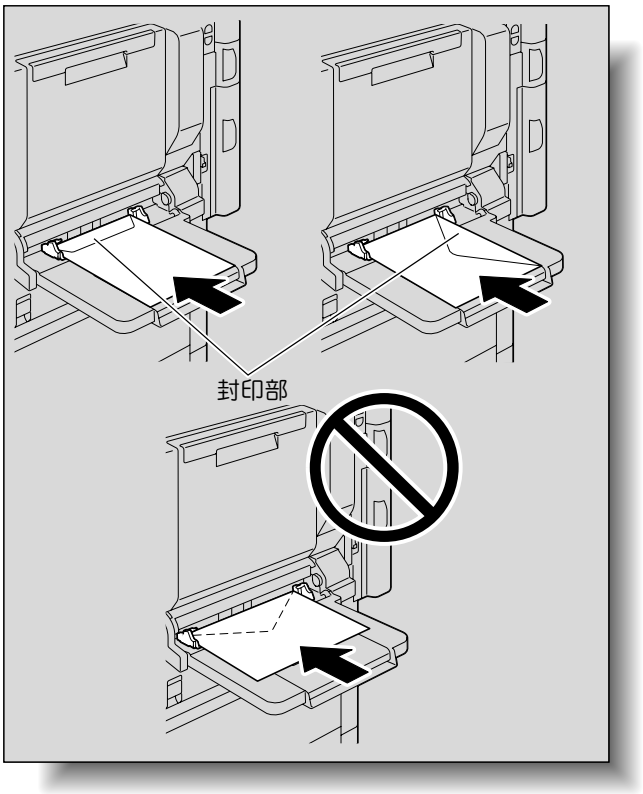
＜ OHP フィルムの場合＞



必ず守ってください

・OHP フィルムをセットする場合は、図のように▯方向にセットしてください。▭方向にはセットしないでください。
・手差しトレイには最大 20 枚の OHP フィルムをセットできます。

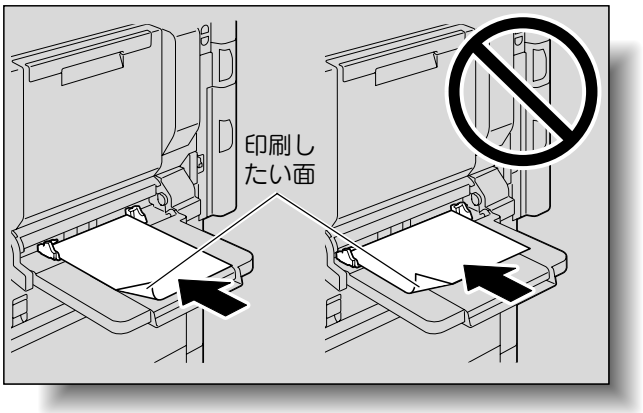
＜封筒の場合＞



必ず守ってください

・封筒をセットする場合は、封筒内部の空気を押出し、封筒の折り目をしっかり押さえてください。空気が残っていたり、折り目がしっかり押さえられていないと、紙にしわができたり、紙づまりの原因になります。
・封筒をセットする場合は、図のように封印部を上側にしてセットしてください。封印部を下側にしてセットすると紙づまりの原因になります。封印部側に印刷はできません。
・手差しトレイには最大 10 枚の封筒をセットできます。

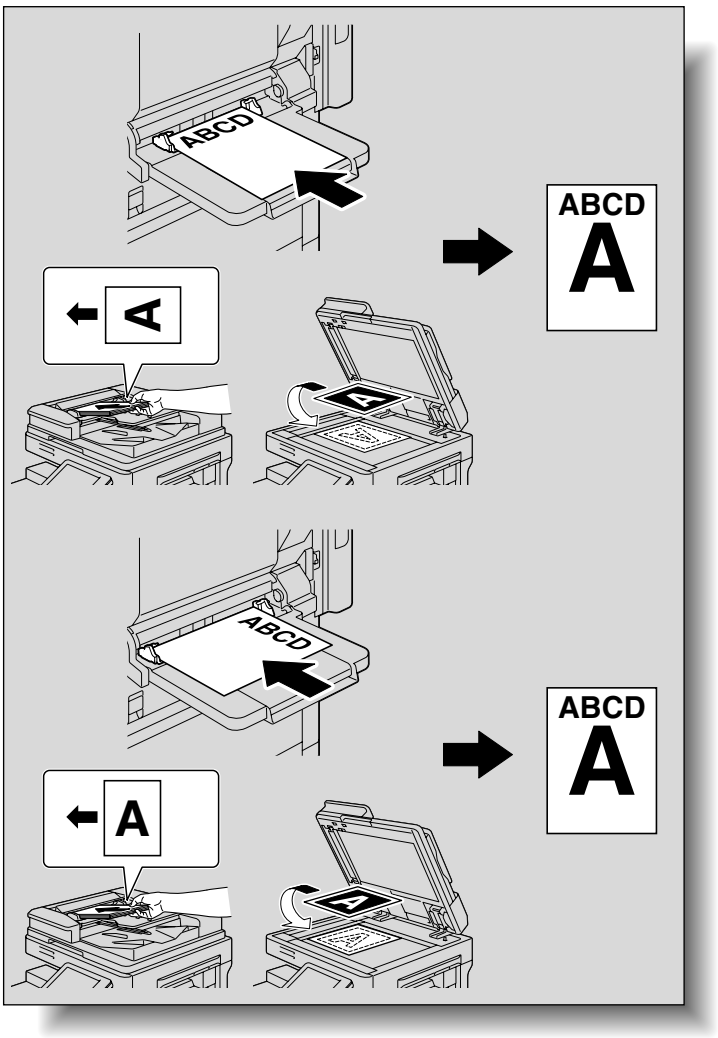
＜ラベル用紙の場合＞



必ず守ってください

・ラベル用紙をセットする場合は、図のように▭方向にセットしてください。▯方向にはセットしないでください。
・手差しトレイには最大 20 枚のラベル用紙をセットできます。

＜レターヘッド紙の場合＞



必ず守ってください

・レターヘッド紙をセットする場合は、印刷したい面を上側に向けてセットしてください。
・図のようにレターヘッド紙をセットし、片面コピーを行った場合、原稿の画像をあらかじめ印刷されていた面に重ねてコピーします。用紙は下向きで排紙されます。

4 用紙種類を選択します。



❍ 色紙、封筒、レターヘッド紙に印刷する場合は、[↓] を押してから選択します。



5 [OK] を 2 回押します。

基本設定画面に戻ります。

必ず守ってください

- はがき以外をセットした場合は、適した用紙種類に変更してください。
- ラベル用紙を使用する場合は、[厚紙 1] に設定してください。
- OHP フィルムはブラック印刷のみに対応しています。OHP フィルムを選択するときは、カラー設定で [ブラック] を指定してから用紙種類を選択してください。

ひとこと

[はがき] を選択すると、用紙の種類は [厚紙 3] に自動設定されます。

参照

- 用紙サイズの詳細については、「用紙について」(p. 6-2) をごらんください。
- 不定形サイズの設定のしかたについては、「不定形紙をセットする（不定形）」(p. 6-9) をごらんください。
- ワイド紙の設定のしかたについては、「ワイド紙の設定をする」(p. 6-13) をごらんください。
- 特殊紙の詳細については、「専用紙について」(p. 6-4) をごらんください。

第２章
基本機能

基本的なコピーのとりかたについて説明します。

2.1　コピー操作の流れ 2-2
2.2　組合わせできない操作について 2-4
2.3　原稿をセットする 2-6
2.4　原稿の設定をする 2-16
2.5　印刷カラーを選ぶ 2-27
2.6　用紙を選ぶ 2-29
2.7　倍率を選ぶ 2-31
2.8　原稿＞コピー機能を選ぶ 2-40
2.9　ページ集約を選ぶ 2-44
2.10　原稿の画質を選ぶ 2-47
2.11　濃度を選ぶ 2-50
2.12　仕上り機能を選ぶ 2-55
2.13　紙折り機能を選ぶ 2-66
2.14　回転しないを選ぶ 2-71
2.15　印刷中に次のコピー原稿を読込む（コピー予約） 2-72
2.16　読込み・印刷を一時停止する 2-73
2.17　一時停止したジョブを削除する 2-74

2.1　コピー操作の流れ

コピーをとるときの操作の流れを説明します。
ここでは、片面原稿を基本的な操作でコピーする方法を説明します。

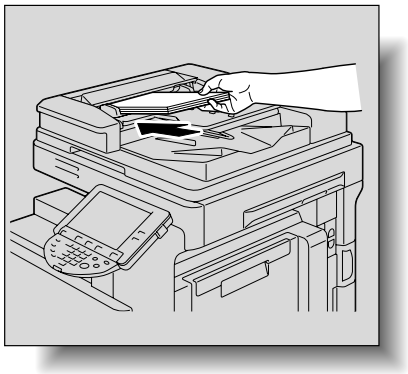
1

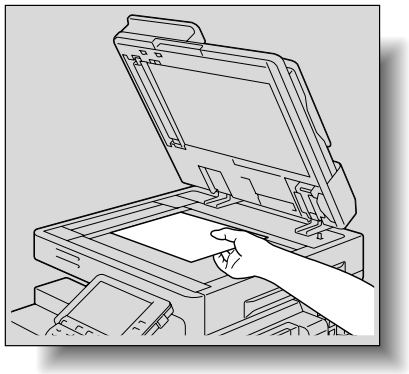
【コピー】を押し、コピー機能画面を表示させます。

2

原稿をセットします。

❍ 原稿のセットのしかたについて詳しくは、（p. 2-6）をごらんください。





3

必要に応じて、各機能の設定をします。



❍ 出荷時設定では、初期設定として以下の設定がされています。
[カラー]：オートカラー
[用紙]：自動用紙
[倍率]：等倍（100.0%）
[両面 / ページ集約]：片面>片面
[画質 / 濃度]：文字 / 写真 - 印刷写真

❍ 原稿設定については、（p. 2-16）をごらんください。

❍ カラーの設定については、（p. 2-27）をごらんください。

❍ 用紙サイズの設定については、（p. 2-29）をごらんください。

❍ 倍率の設定については、（p. 2-31）をごらんください。

❍ 原稿とコピー機能の設定については、（p. 2-40）をごらんください。

❍ 原稿の画質については、（p. 2-47）をごらんください。

❍ コピー濃度の設定については、（p. 2-50）をごらんください。

❍ 集約コピーの設定については、（p. 2-44）をごらんください。

ひとこと

・オプションのフィニッシャーには、用紙サイズ、仕上りの設定によって排紙トレイの積載数量制限があります。
連続して印刷ジョブを行っている場合（マルチジョブ）は排紙トレイ上の用紙を取除いても「トレイの容量オーバーです→のトレイの用紙を取除いてください」の警告が発生する可能性があります。
マルチジョブについて詳しくは、「マルチジョブ機能について」（p. 10-2）をごらんください。

・印刷ジョブが途切れたときに、排紙トレイの積載数量はリセットされます。
排紙トレイの積載枚数制限について詳しくは、「仕様」（p. 5-2）をごらんください。

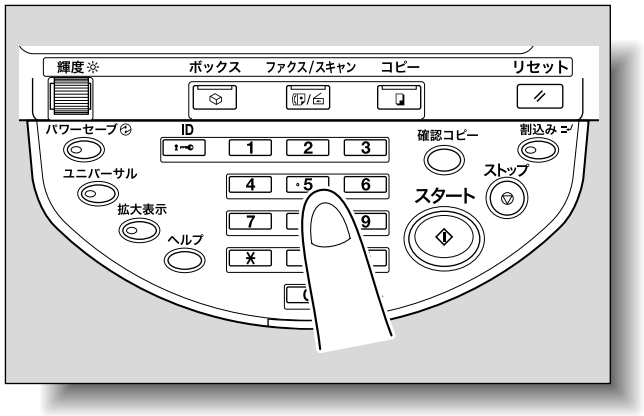
参照

各機能には組合わせて設定できないものがあります。
組合わせて設定できない機能については、「組合わせできない操作について」（p. 2-4）をごらんください。

- コピーの仕上りについては、（p. 2-55）をごらんください。
- 中とじ、折りの設定については、（p. 2-66）をごらんください。
- 画像を回転しない設定については、（p. 2-71）をごらんください。
- 応用機能の設定については、（p. 7-1）をごらんください。

4

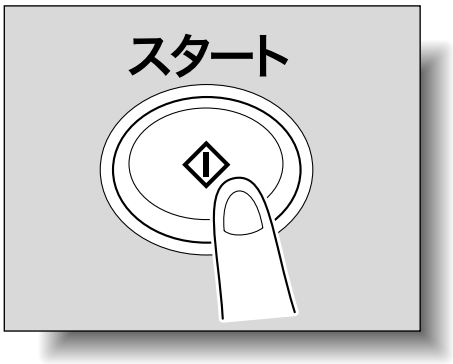
テンキーでコピー部数を入力します。



- コピー部数を間違えて入力した場合は、【C】を押してもう 1 度入力しなおしてください。

5

【スタート】を押します。



- コピーを中断したい場合は、【ストップ】を押してください。詳しくは、（p. 2-73）をごらんください。
- コピーの途中で次のコピーを予約できます。詳しくは、コピー予約をごらんください。（p. 2-72）

2.2　組合わせできない操作について

各機能には組合わせて設定できないものがあります。
組合わせできない操作を行った場合の動作には、以下の 2 種類があります。

- あとから設定したものが優先される。（先に設定したものは解除される。）
- 先に設定したものが優先される。（警告メッセージが表示される。）

2.2.1　あとから設定した機能が優先される場合

ここでは、2 点ステープルを設定してから小冊子を設定する場合について説明します。

1

2 点ステープルを設定します。



2

小冊子を設定します。





2 点ステープルは自動で解除され、小冊子が有効になります。

2 点ステープルを有効にする場合は、小冊子を解除し、再度 2 点ステープルの設定を行います。

2.2.2　先に設定した機能を優先する場合

組合わせ禁止の警告メッセージが表示された場合、それらの機能は組合わせできません。

ここでは、小冊子を設定してから 2 点ステープルを設定する場合について説明します。

1

小冊子を設定します。



2

2 点ステープルを設定します。



「小冊子とは同時設定できません」と表示され、2 点ステープルは設定できません。

小冊子が有効となり、2 点ステープルは無効となります。

2 点ステープルを有効にする場合は、小冊子を解除し、再度 2 点ステープルの設定を行います。

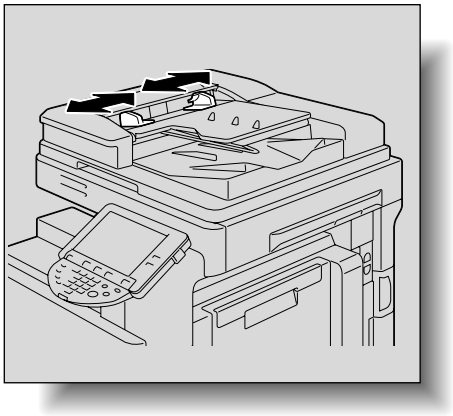
2.3 原稿をセットする

原稿のセット方法には以下の 2 種類の方法があります。原稿の種類に合わせて最適な原稿セットを行ってください。

原稿セット方法	特長
ADF の場合	複数枚の原稿の上から自動的に 1 枚ずつ送り出し、読込みます。両面原稿も自動的に読込むことができます。
原稿ガラスの場合	原稿を原稿ガラス上に直接セットして原稿を読込みます。本などの ADF にセットできない原稿を読込むのに適しています。

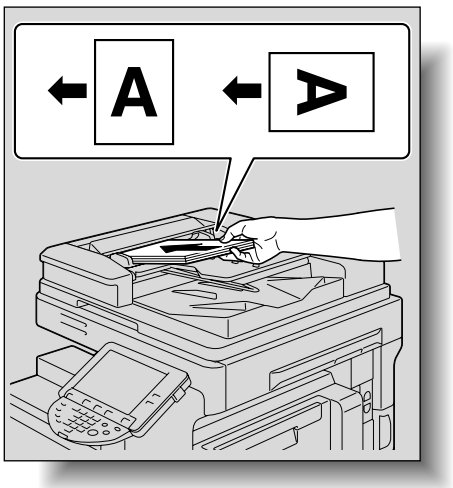
2.3.1 ADF に原稿をセットする

1 ガイド板を原稿のサイズに合わせます。



2 原稿のオモテ面を上にして、原稿を読込み順に原稿給紙トレイにセットします。

❍ 原稿の天部（上側）が奥側、または右側になるようにします。



ひとこと

ADF はオプションです。

必ず守ってください

クリップやステープルなどでとじられた原稿は、絶対にセットしないでください。

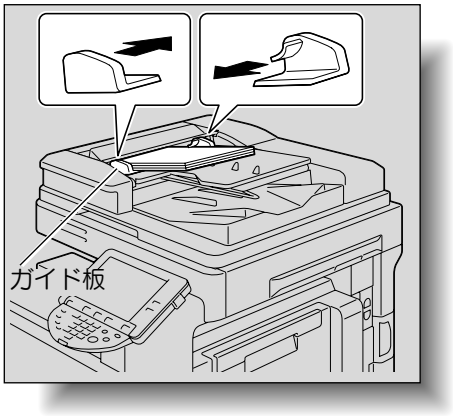
参照

ADF にセットできる原稿については、「原稿について」（p. 6-19）をごらんください。

必ず守ってください

・原稿は 100 枚または▼マークを超えてセットしないでください。原稿づまりや原稿破損の原因となります。また、故障の原因となります。ただし、原稿が 100 枚を超える場合でも、原稿を分割して読込ませることができます。詳しくは、「原稿を分割して読込む（連続読込み設定）」（p. 2-9）をごらんください。
・原稿のセットが不完全な場合、原稿が斜め送りされ、原稿づまりや原稿破損の原因となります。
・原稿の天部（上側）が奥側以外になる向きでセットした場合は、必ず原稿のセット方向を設定してください。詳しくは、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。

3 ガイド板を原稿に沿わせます。



参照

・サイズの異なる原稿（混載原稿）のセットのしかたについては、「サイズの異なる原稿をセットする（混載原稿）」（p. 2-18）をごらんください。
・原稿の向きの指定のしかたについては、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。
・原稿のとじしろ位置の指定のしかたについては、「とじしろを設定する（原稿のとじしろ）」（p. 2-22）をごらんください。

2.3.2　原稿ガラス上に原稿をセットする

1 ADF またはオリジナルカバーを開きます。

原則

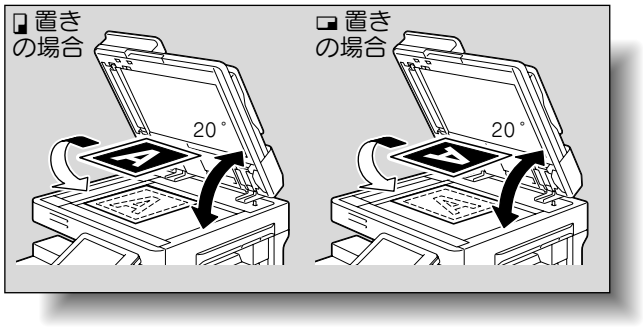
原稿をセットするときは、必ず ADF またはオリジナルカバーを 20 ˚ 以上開いてください。
20 ˚ 以上開けずに原稿をセットすると原稿のサイズを検出できない場合があります。

参照

原稿ガラス上にセットできる原稿については、「原稿について」（p. 6-19）をごらんください。

2 原稿のオモテ面を下にして、原稿を原稿ガラス上にセットします。

❍ 原稿の天部（上側）が奥側、または左側になるようにします。

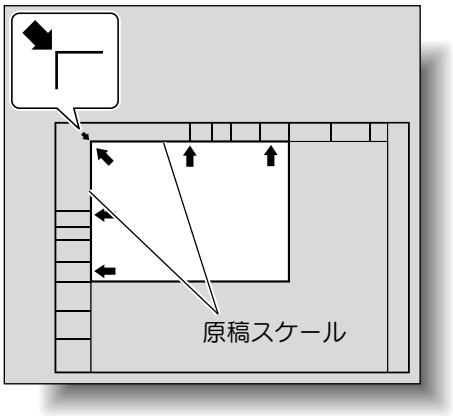


必ず守ってください

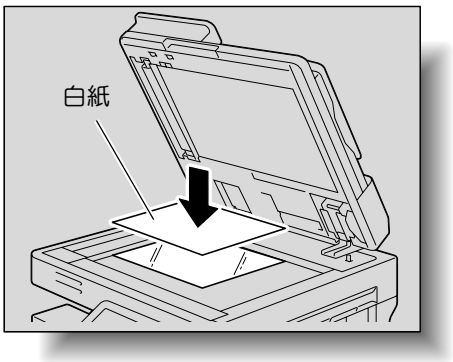
・原稿ガラス上には 2 kg を超えるような重い原稿は載せないでください。また本の見開き原稿などをセットする場合、強い力で上から押さえつけないようにしてください。故障の原因となります。
・原稿が厚い本や立体物である場合は、ADF またはオリジナルカバーを閉じずに読込みを行ってください。ADF またはオリジナルカバーを閉じずに読込みを行った場合、光が漏れることがありますので、原稿ガラス面を直視しないようにしてください。ただし、漏れ出る光はレーザー光線ではありませんので、レーザーの危険にさらされることはありません。

3

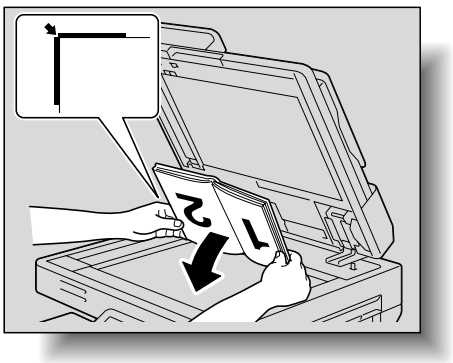
原稿スケール左奥側の ◣ マークに合わせて原稿をセットします。



❍ 透明度の高い原稿をセットする場合、原稿と同じサイズの白紙を原稿の上に重ねます。



❍ 本や雑誌などのとじてある見開き原稿をセットする場合、図のように原稿の天部（上側）を奥側にして原稿を置き、原稿スケール左奥側の ◣ マークに合わせます。



4

ADF またはオリジナルカバーを閉じます。

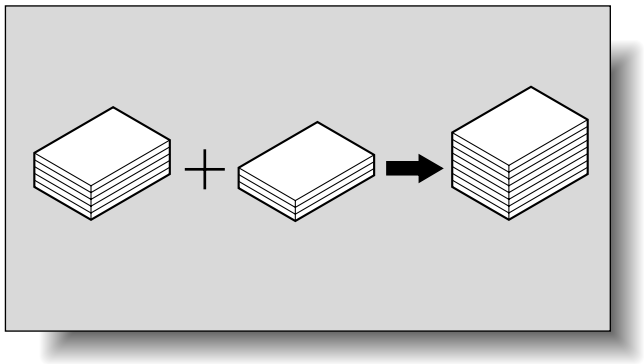
参照

・原稿の向きを指定したい場合は、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。
・原稿のとじしろ位置の指定のしかたについては、「とじしろを設定する（原稿のとじしろ）」（p. 2-22）をごらんください。

2.3.3　原稿を分割して読込む（連続読込み設定）

大量にある原稿を数回に分けて読込ませることができます。

ADF に 1 度にセットできる原稿枚数は最大 100 枚までですが、連続読込み設定を設定することで、100 枚を超える原稿を数回に分けて読込ませ、ひとつのコピージョブとして扱うことができます。また、原稿ガラス上にセットして読込ませたり、途中で ADF に切換えることもできます。



1 原稿をセットします。

2 基本設定画面の［連続読込み設定］を押します。



3 【スタート】を押します。

原稿が読込まれたあと、以下の画面が表示されます。



❍ 次の原稿をセットし、【スタート】を押します。

必ず守ってください

原稿積載量は普通紙（80 g/m^2）使用時で 100 枚、厚紙（210 g/m^2）原稿使用時で 38 枚までです。

ひとこと

連続読込み設定には［自動出力］と［一括出力］があり、出荷時設定では［自動出力］が設定されています。

参照

連続読込み設定については、「コピー設定」（p. 11-17）の「連続読込み方法」をごらんください。

参照

原稿セット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

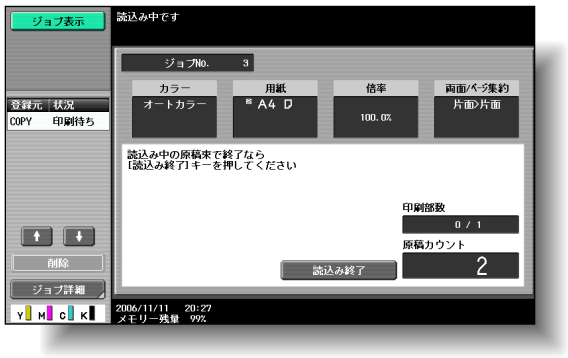
ひとこと

連続読込み設定機能を解除するときは、再度［連続読込み設定］を押します。

詳しく説明します

・画面左下の「メモリー残量」表示で、メモリーの残量が確認できます。
・画像データを削除したいときは、【ストップ】を押して、ジョブの削除を行ってください。詳しくは、「読込み・印刷を一時停止する」（p. 2-73）をごらんください。

- 連続読込み設定で一括出力が設定されている場合は、ADF で原稿読込み中、以下の画面で［読込み終了］を押すと手順 5 に進みます。



- ADF にセットできないような原稿は原稿ガラス上にセットしてください。セットできる原稿については、「原稿について」（p. 6-19）をごらんください。
- 読込み設定を変更する場合は、［設定変更］を押します。読込み設定の変更については、「原稿ごとに読込み設定を変更する」（p. 2-24）をごらんください。



4 全ての原稿を読込んだあと、［読込み終了］を押します。



ひとこと

読込み設定の変更画面は、設定により表示されるキーが異なります。変更できる設定は、以下のとおりです。
片面 / 両面、原稿のとじしろ、倍率、枠消し、折り目消し、原稿サイズ

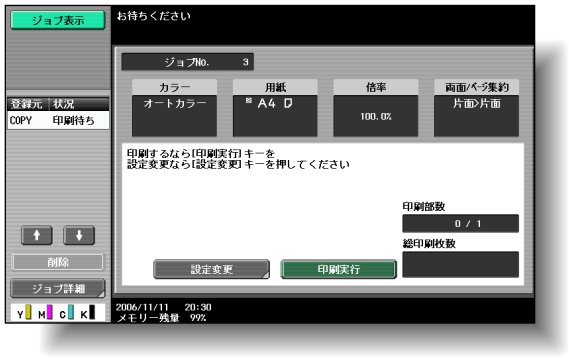
ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

5

【スタート】を押します。

- 連続読込み設定で一括出力が設定されている場合は、［印刷実行］または【スタート】を押します。



- 連続読込み設定で一括出力が設定されている場合は、コピー設定を変更できます。［設定変更］を押し、コピー設定を変更して［OK］を押します。



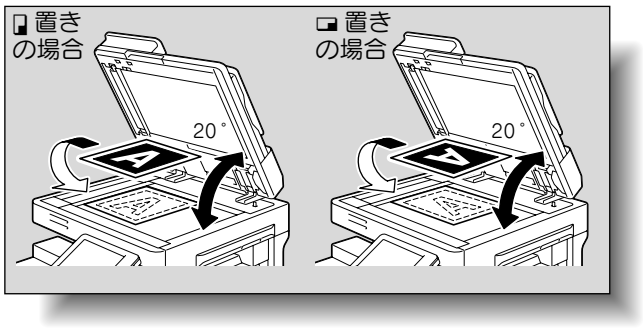
2.3.4　複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットする

ソートや両面コピー、集約コピーなどを原稿ガラスを使用してコピーする場合、複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットし、読込ませます。ここでは、原稿ガラスを使用して片面＞両面コピーをとる場合の手順を説明します。

1 ADF またはオリジナルカバーを開きます。

2 1 枚目または 1 面目の原稿のコピーしたい面を下側に向け、原稿ガラス上にセットします。

❍ 原稿のセットのしかたについては、「原稿ガラス上に原稿をセットする」（p. 2-7）をごらんください。



3 ADF またはオリジナルカバーを閉じます。

4 基本設定画面の［両面 / ページ集約］を押します。



両面 / ページ集約画面が表示されます。

5 ［片面＞両面］を押します。



詳しく説明します

・仕上りのグループが設定されている場合、原稿を 1 枚読込むごとに、設定部数分のコピーが行われます。
・仕上りのソートが設定されている場合、全ての原稿を読込み終えたあと、設定部数単位に分けてコピーが行われます。

ひとこと

連続読込み設定には［自動出力］と［一括出力］があり、出荷時設定では［自動出力］が設定されています。

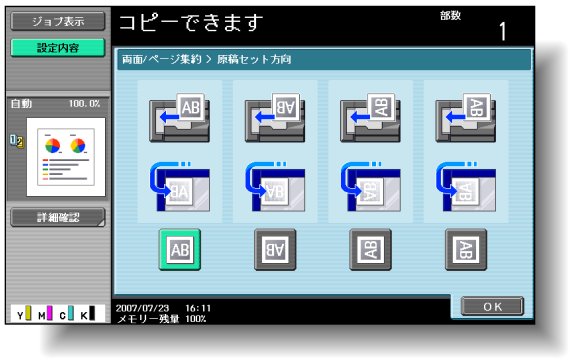
参照

連続読込み設定については、「コピー設定」（p. 11-17）をごらんください。

6 ［開き方向］を押し、コピー開き方向を設定して、［OK］を押します。



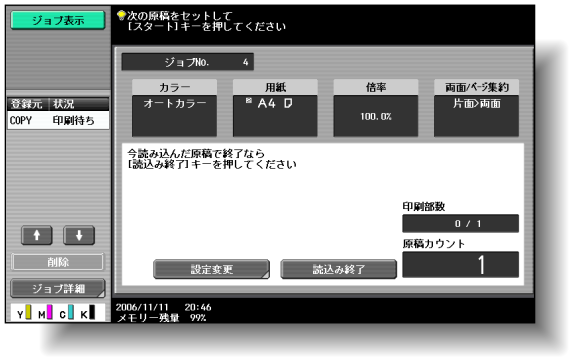
7 ［原稿セット方向］を押し、セットした原稿の方向を設定して、［OK］を押します。



8 ［OK］を押します。

9 【スタート】を押します。

読込みが開始されます。



ひとこと

開き方向の設定については、「両面コピーを選択する」（p. 2-42）をごらんください。

ひとこと

原稿セット方向については、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。

10

2 枚目または 2 面目の原稿をセットし、【スタート】を押します。

- 残りの原稿がある場合、手順 10 を繰り返し行います。
- 読込み設定を変更する場合は、［設定変更］を押します。読込み設定の変更については、「原稿ごとに読込み設定を変更する」（p. 2-24）をごらんください。



11

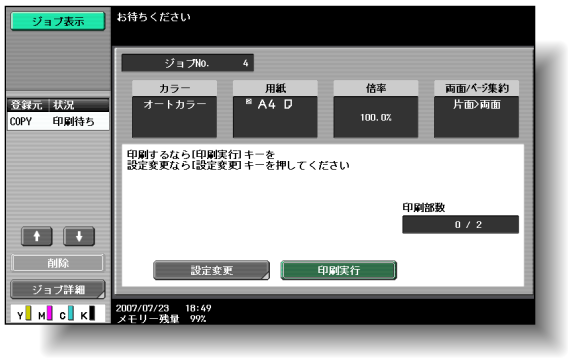
全ての原稿を読込んだあと、［読込み終了］を押します。



12

【スタート】を押します。

- 連続読込み設定で一括出力が設定されている場合は、［印刷実行］または【スタート】を押します。



ひとこと

・読込み設定の変更画面は、設定により表示されるキーが異なります。変更できる設定は、以下のとおりです。
片面 / 両面、原稿のとじしろ、倍率、枠消し、折り目消し、原稿サイズ
・［中止］を押すと設定は変更されません。

❍ 連続読込み設定で一括出力が設定されている場合は、コピー設定を変更できます。［設定変更］を押し、コピー設定を変更して［OK］を押します。



2.4 原稿の設定をする

目的のコピーをとるために、原稿の状態やセット方向などを設定します。

2.4.1 原稿のサイズを設定する（原稿サイズ）

原稿サイズが自動検出されない場合や、原稿サイズを目的に合わせて指定したい場合は、原稿として読取るサイズを設定してコピーできます。

1 原稿をセットします。

2 基本設定画面の［原稿指定］を押します。



原稿指定画面が表示されます。

3 ［原稿サイズ］を押します。



原稿サイズ画面が表示されます。

4 原稿サイズを設定し、［OK］を押します。

＜定形サイズ画面＞

❍ 定形サイズの場合、設定する原稿サイズを押します。



参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

詳しく説明します

・［↑］または［↓］で、定形サイズの表示を切換えます。
・不定形サイズ画面で範囲外の数値を入力した場合は「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または原稿サイズの入力を間違えた場合は、【C】を押して入力しなおします。

＜不定形サイズ画面＞

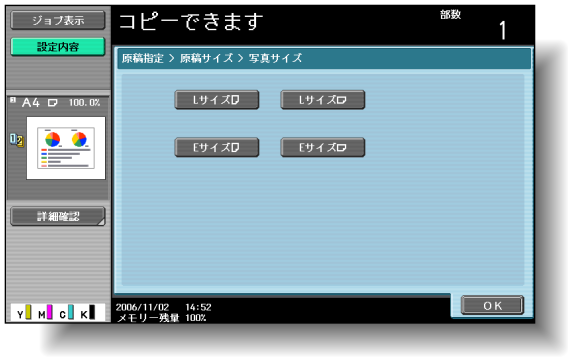
❍ 不定形サイズの場合、［不定形サイズ］を押すと不定形サイズ画面が表示されます。
［X］または［Y］を選択しテンキーで数値を入力し、［OK］を押します。



定形サイズ画面に戻ります。

＜写真サイズ画面＞

❍ 写真サイズの場合、［写真サイズ］を押すと写真サイズ画面が表示されます。
設定する原稿サイズを押して、［OK］を押します。



定形サイズ画面に戻ります。

ひとこと

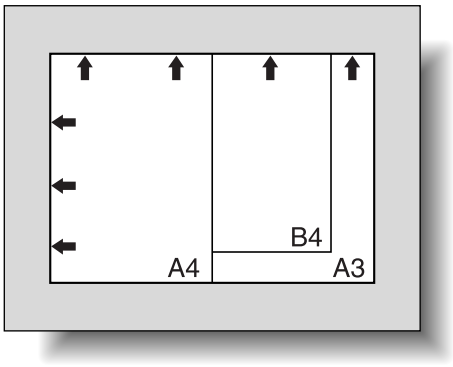
［中止］を押すと設定は変更されません。

2.4.2　サイズの異なる原稿をセットする（混載原稿）

サイズの異なる原稿を ADF に 1 度にセットし、自動的に 1 枚ずつ送り出し、読込みます。

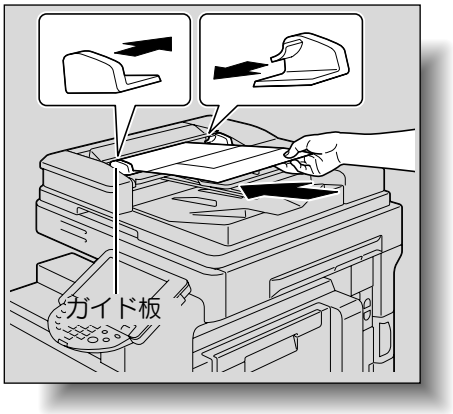
1 ADF のガイド板を最も大きな原稿のサイズに合わせます。

2 コピーしたい面を上向きにし、図のように揃えます。



3 原稿のオモテ面を上にして、原稿を読込み順に原稿給紙トレイにセットします。
ガイド板を原稿に沿わせます。

❍ 原稿は、ADF に対して左側と奥側を基準にしてセットします。



4 基本設定画面の［原稿指定］を押します。



原稿指定画面が表示されます。

詳しく説明します

混載できる原稿サイズの組合わせは、セットする原稿の最大幅（ガイド板の開き幅）により異なります。

参照

ADF に混載できる原稿サイズの組合わせについては、「ADF にセットできる原稿」（p. 6-19）をごらんください。

詳しく説明します

・原稿は 100 枚または▼マークを超えてセットしないでください。原稿づまりや原稿破損の原因となります。また、故障の原因となります。ただし、原稿が 100 枚を超える場合でも、原稿を分割して読込ませることができます。詳しくは、「原稿を分割して読込む（連続読込み設定）」（p. 2-9）をごらんください。
・原稿のセットが不完全な場合、原稿が斜め送りされ、原稿づまりや原稿破損の原因となります。

5 ［混載原稿］を押します。



詳しく説明します

混載原稿機能を解除するときは、再度［混載原稿］を押します。

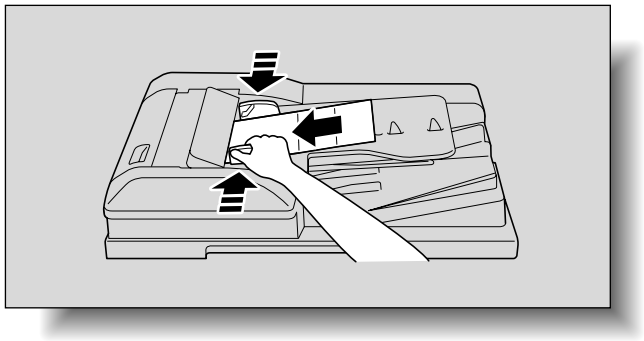
2.4.3　折りぐせのついた原稿をセットする（Z 折れ原稿）

折りぐせのある原稿を ADF にセットしてコピーするときに、原稿サイズを正確に検知できます。

原則

原稿は ADF にセットします。
1 枚目の原稿のサイズ長を検知し、それよりあとは同じサイズとして読込みます。

1 原稿をセットします。



必ず守ってください

折りぐせのついた原稿は、ADF にセットする前に伸ばしてください。伸ばさずにコピーをすると、紙づまりの原因になります。

参照

原稿のセット方法については、「ADF に原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

2 基本設定画面の［原稿指定］を押します。



原稿指定画面が表示されます。

3 ［Z 折れ原稿］を押します。



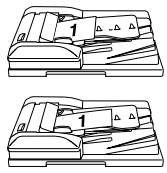
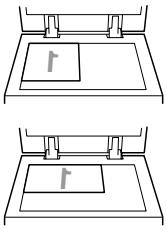
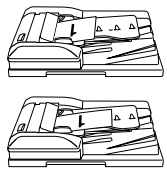
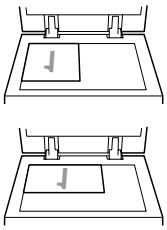
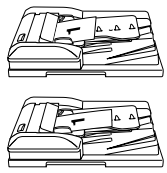
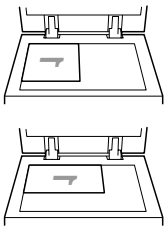
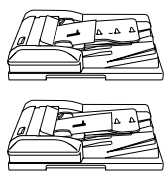
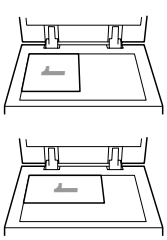
詳しく説明します

設定を中止する場合は、再度［Z 折れ原稿］を押し、反転表示を解除してください。

2.4.4　原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）

両面原稿からのコピー、両面コピーや集約コピーなどをする場合、原稿のセット方向を設定してください。原稿のセット方向を設定しないと、ページ順やオモテ面とウラ面の配置が正しくコピーできないことがあります。

原稿のセット方向について

ADF を使用	原稿ガラスを使用	アイコン	説明
			原稿の天部（上側）を奥側にしてセットした場合に選択します。
			原稿の天部（上側）を手前側にしてセットした場合に選択します。
			・ADF に原稿の天部（上側）を左側にしてセットした場合に選択します。 ・原稿ガラス上に原稿の天部（上側）を右側にセットした場合に選択します。
			・ADF に原稿の天部（上側）を右側にセットした場合に選択します。 ・原稿ガラス上に原稿の天部（上側）を左側にセットした場合に選択します。

ひとこと

出荷時設定では、原稿の天部（上側）を奥側にしてセットが選択されています。

2.4.5　原稿セット方向の設定のしかた

1 原稿をセットします。

2 基本設定画面の［原稿指定］を押します。



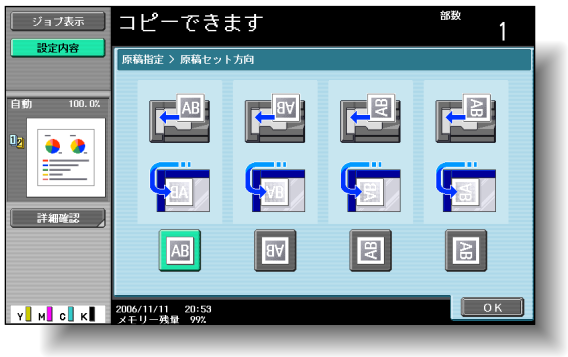
原稿指定画面が表示されます。

3 ［原稿セット方向］を押します。



原稿セット方向画面が表示されます。

4 セットした原稿の方向に合わせて、目的のキーを押し、［OK］を押します。



参照

原稿セット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

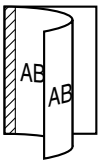
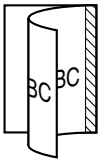
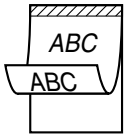
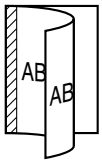
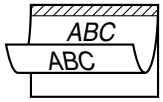
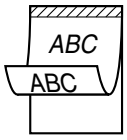
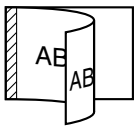
ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

2.4.6　とじしろを設定する（原稿のとじしろ）

ADF に両面原稿をセットする場合、原稿のとじしろ位置を設定することで、原稿ウラ面の天部（上側）を指定します。

原稿のとじしろ位置について

原稿のとじしろ	アイコン	説明
	左開き / とじ 	原稿の左側にとじしろのある原稿をセットした場合に選択します。
	右開き / とじ 	原稿の右側にとじしろのある原稿をセットした場合に選択します。
	上開き / とじ 	原稿の上側にとじしろのある原稿をセットした場合に選択します。
＜原稿の長辺が 297 mm 以下の場合＞   ＜原稿の長辺が 297 mm を超える場合＞  	自動 	原稿のとじしろが自動で選択されます。 原稿の長辺が 297 mm 以下の場合、用紙の長辺にとじしろが設定されます。 原稿の長辺が 297 mm を超える場合、用紙の短辺にとじしろが設定されます。

ひとこと

出荷時設定では、とじ方向は［自動］が選択されています。

ひとこと

［自動］を設定した場合は、上側または左側のとじしろが設定されます。

2.4.7　原稿のとじしろの設定のしかた

1 原稿をセットします。

2 基本設定画面の［原稿指定］を押します。



原稿指定画面が表示されます。

3 ［原稿のとじしろ］を押します。



原稿のとじしろ画面が表示されます。

4 とじ方向を設定し、［OK］を押します。



参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

とじしろのある原稿をセットする場合は、原稿の天部（上側）を奥側にしてセットしてください。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

2.4.8　スリットガラスの汚れの影響を軽減する（汚れ軽減モード）

ADF に原稿をセットする場合に、［汚れ軽減モード］に設定して読取りをスタートすると、スリットガラスの汚れがコピーに及ぼす影響を軽減できます。

1　原稿を ADF にセットします。

2　基本設定画面の［原稿指定］を押します。



3　［汚れ軽減モード］を押します。



2.4.9　原稿ごとに読込み設定を変更する

連続読込み設定で原稿を読込む場合や、複数枚の原稿を原稿ガラスで読込む場合に、原稿ごとに読込み設定を変更できます。

ここでは連続読込み設定の場合の手順を説明します。

1　原稿をセットします。

ひとこと

読取り速度は遅くなります。

参照

・原稿のセット方法については、「ADF に原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。
・スリットガラスの清掃方法については、「スリットガラス」（p. 9-2）をごらんください。

ひとこと

汚れ軽減モードを解除するときは、再度［汚れ軽減モード］を押します。

2 基本設定画面の［連続読込み設定］を押します。



3 【スタート】を押します。

読込みが開始されます。

4 ［設定変更］を押します。



設定変更画面が表示されます。

5 目的のキーを押し、各設定画面で設定を変更して［OK］を押します。



＜原稿のとじしろ画面＞



ひとこと

・読込み設定の変更画面は、設定により表示されるキーが異なります。変更できる設定は、以下のとおりです。
片面 / 両面、原稿のとじしろ、倍率、枠消し、折り目消し、原稿サイズ
・［中止］を押すと設定は変更されません。

参照

［倍率］については「倍率を選ぶ」(p. 2-31)、［枠消し］については「指定部分を消してコピーする（枠消し）」(p. 7-68)をごらんください。

＜倍率画面＞



＜枠消し画面＞



＜折り目消し画面＞



＜原稿サイズ画面＞



6

［OK］を押します。

ひとこと

折り目消し画面が表示されるのは、ブック連写が［する］に設定されている場合のみです。

ひとこと

原稿サイズ画面が表示されるのは、混載原稿が設定されている場合のみです。

2.5　印刷カラーを選ぶ

コピーをとるときの印刷カラーを選択できます。
印刷カラーには以下の 5 つの設定があります。

印刷カラー	説明
オートカラー	読込んだ原稿がフルカラーか白黒かを検知し、フルカラー／ブラックを自動的に選択してコピーできます。
フルカラー	読込んだ原稿の色に関わらずフルカラーでコピーできます。
2 色カラー	読込んだ原稿の中で、カラーと判断した領域が指定した色でコピーされ、ブラックと判断した領域がブラックでコピーできます。（カラー領域で使用する色は、レッド、イエロー、ブルー、マゼンタ、グリーン、シアンから選択できます。p. 7-17）
ブラック	読込んだ原稿の色に関わらずモノクロでコピーできます。
単色カラー	読込んだ原稿が、カラー原稿、白黒原稿に関係なく、指定した 1 色でコピーできます。（色は 21 色の中から選択できます。p. 7-16） 単色カラーを設定した場合、原稿の階調再現方法には以下の 2 つがあります。 比視感度：原稿上の色の違い（目で見た色の濃さ）と階調レベルを単色カラーの濃淡差としてコピーします。マーカーペンの色やグラフ用紙の青線、印鑑の赤色などをくっきりコピーできます。 平均濃度：原稿上の色の違いに関わらず、階調レベルのみを単色カラーの濃淡差としてコピーします。雑誌や新聞など階調差で表現されている原稿に単色カラーを使うときや、下地の黄ばんだ原稿の黄ばみをとばすのに便利です。

2.5.1　印刷カラーを選択する

ここでは、印刷カラーの選択のしかたについて説明します。

1　基本設定画面の［カラー］を押します。



カラー選択画面が表示されます。

ひとこと

出荷時設定では、［オートカラー］が設定されています。

2

目的の印刷カラーを選択します。



❍ 2 色カラーを選択した場合、目的のカラーキーを押し、［OK］を押します。



❍ 単色カラーを選択した場合、目的のカラーキーを押し、［OK］を押します。



3

［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

2 色カラーでは、あらかじめ色の組合わせが設定されています。表示されている以外の色の組合わせを使用することはできません。

詳しく説明します

・［↑］、［↓］を押し、目的のカラーを選択します。
・単色カラーの原稿の階調再現方法を平均濃度に設定する場合は［平均濃度］を押します。
・平均濃度が反転していないときは、比視感度に設定されています。

2.6 用紙を選ぶ

用紙サイズの選択には、原稿のサイズに合わせて自動で用紙を選択する方法と、手動で用紙を指定する方法があります。目的のコピー条件に応じ、いずれかの手順にしたがって設定します。出荷時設定では、[自動]が選択されています。

原則

- 自動用紙と自動倍率は同時に設定できません。
- 用紙種類にて、レターヘッド紙が設定されているトレイを選択してコピーする場合、用紙の面合わせ動作を行うため、片面コピーであっても、コピースピードが遅くなります。

2.6.1 自動的に用紙を選択する（自動用紙）

セットされた原稿サイズを検知し、同じサイズの用紙を選択してコピーします。

倍率が等倍に設定されている場合は、原稿サイズと同じサイズの用紙を選択してコピーします。

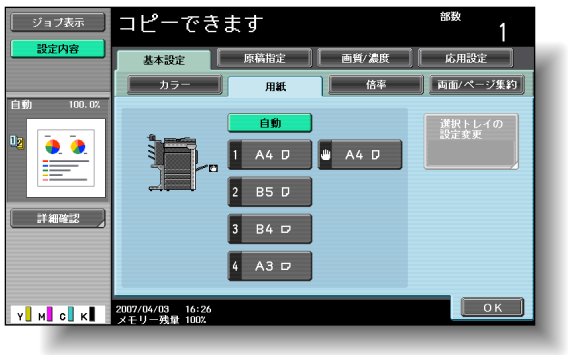
倍率が、拡大または縮小に設定されている場合は、設定されている倍率に対応したサイズの用紙を自動的に選択してコピーします。

1 基本設定画面の［用紙］を押します。



用紙画面が表示されます。

2 ［自動］を押します。



3 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

ひとこと

専用紙設定した給紙トレイは、自動用紙機能で選択されません。（ただし、両面不可紙として設定された給紙トレイは、片面印刷の場合には、優先して選択されます。）特別な用紙を給紙トレイにセットした場合には必ず用紙種類を設定してください。詳しくは、「専用紙として設定する」（p. 6-16）をごらんください。

詳しく説明します

- 自動倍率設定時に自動用紙を選択した場合は、倍率設定画面が表示されますので、目的の倍率を設定してください。
- 給紙トレイの優先順序の設定については、「< 給紙トレイ設定 >」（p. 11-14）をごらんください。

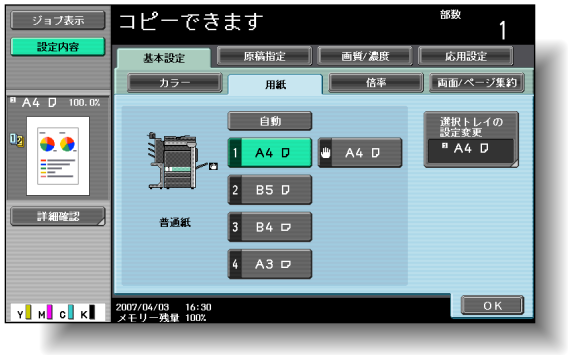
2.6.2　手動で目的の用紙を指定する

1 基本設定画面の［用紙］を押します。



用紙画面が表示されます。

2 目的の用紙がセットされた給紙トレイを選択します。



3 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

ひとこと

あらかじめ、目的の用紙を給紙トレイにセットしておきます。

詳しく説明します

自動倍率と組合わせて設定することで、原稿サイズと用紙サイズに合った最適なコピー倍率が設定されます。自動倍率については、「自動的に倍率を設定させる（自動倍率）」（p. 2-31）をごらんください。

2.7　倍率を選ぶ

原稿と異なるサイズの用紙にコピーするときや、画像のサイズを変えてコピーするときに倍率を設定できます。出荷時設定では、［等倍］が選択されています。
ここでは、倍率の設定のしかたについて説明します。

原則

自動倍率と自動用紙は同時に設定できません。

2.7.1　自動的に倍率を設定させる（自動倍率）

原稿サイズと選択した用紙サイズに合わせて、自動的に最適なコピー倍率を選択します。

1

基本設定画面の［倍率］を押します。



倍率画面が表示されます。

2

［自動］を押します。



3

［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

自動倍率を指定し、原稿よりも大きな用紙に拡大コピーしたい場合は、用紙の向きに合わせて原稿をセットします。

詳しく説明します

自動用紙設定時に自動倍率を選択した場合は、用紙選択画面が表示されますので、目的の用紙を選択してください。

2.7.2　原稿と同じ倍率にする（等倍）

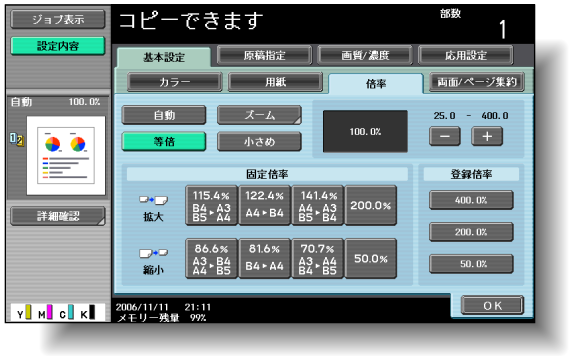
原稿の画像を原寸（等倍）でコピーします。

1 基本設定画面の［倍率］を押します。



倍率画面が表示されます。

2 ［等倍］を押します。



3 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

［+］を押すと拡大側へ、［-］を押すと縮小側へ 0.1% 単位で倍率が設定できます。

2.7.3　テンキーで倍率を指定する（ズーム）

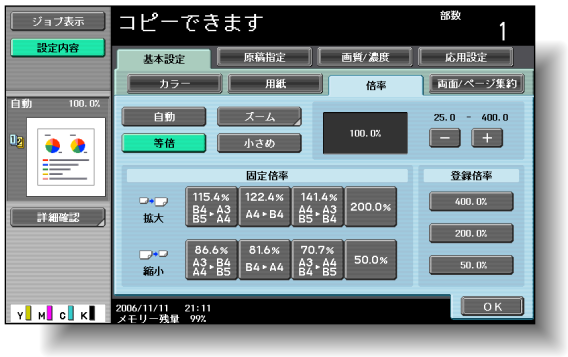
テンキーを使用して、縦と横の比率を変えずに 25.0% ～ 400.0% の間でコピー倍率を直接入力できます。

1 基本設定画面の［倍率］を押します。



倍率画面が表示されます。

2 ［ズーム］を押します。



3 テンキーで目的の倍率を入力します。（25.0% ～ 400.0%）



4 ［OK］を 2 回押します。

基本設定画面に戻ります。

参照

入力した倍率を登録できます。登録のしかたについては、「目的の倍率を登録する」（p. 2-38）をごらんください。

詳しく説明します

・設定可能範囲を超える数値を入力した場合、「入力エラー」となります。設定可能範囲の数値を入力しなおしてください。
・入力を間違えたときは、【C】を押し、正しい数値を入力します。

2.7.4　原稿を少しだけ縮小させる（小さめ）

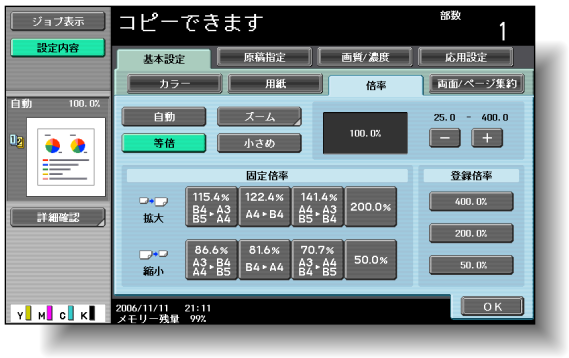
画像を、原稿サイズよりわずかに縮小（93.0%）し、センタリングしてコピーします。

1 基本設定画面の［倍率］を押します。



倍率画面が表示されます。

2 ［小さめ］を押します。



3 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

小さめコピーの倍率は、目的の倍率（90.0% ～ 99.9%）に変更し、登録できます。小さめコピーの倍率変更／登録については、「目的の倍率を登録する」（p. 2-38）をごらんください。

2.7.5　「拡大」、「縮小」から倍率を選択する（固定倍率）

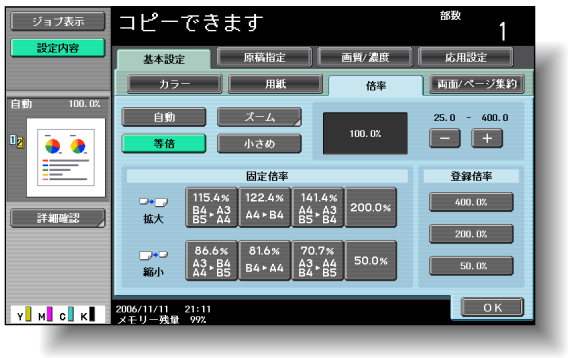
よく使用する定形サイズの原稿から定形サイズの用紙にコピーする場合の最適な倍率が、あらかじめ設定されています。

1 基本設定画面の［倍率］を押します。



倍率画面が表示されます。

2 原稿と用紙サイズから最適な倍率を「拡大」、「縮小」から選択します。

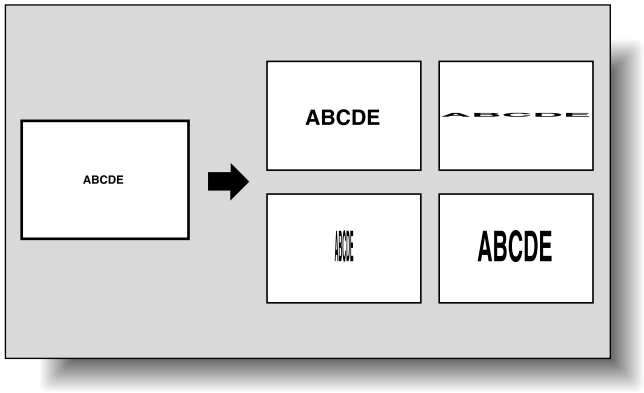


3 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

2.7.6　テンキーで倍率を指定する（独立ズーム）

テンキーを使用して、縦（25.0% ～ 400.0%）と横（25.0% ～ 400.0%）の比率を変えてコピー倍率を直接入力できます。
タテ・ヨコ倍率を組合わせると、下図のような画像が得られます。

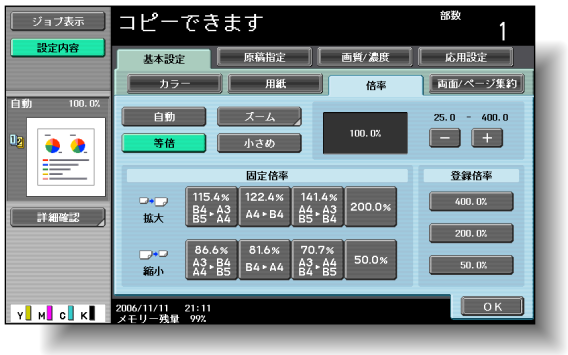


1　基本設定画面の［倍率］を押します。

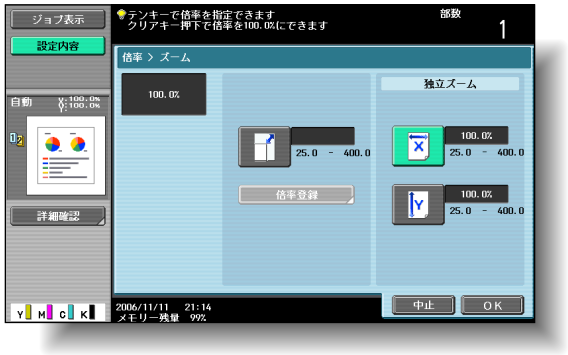


倍率画面が表示されます。

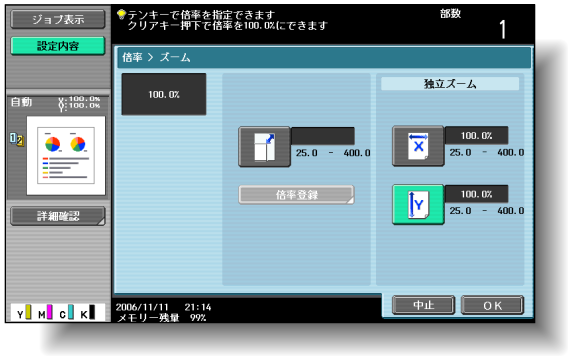
2　［ズーム］を押します。



3 「独立ズーム」の［X］を押し、テンキーで X 辺の倍率を設定します。（25.0% ～ 400.0%）



4 「独立ズーム」の［Y］を押し、テンキーで Y 辺の倍率を設定します。（25.0% ～ 400.0%）



5 ［OK］を 2 回押します。

基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

・設定可能範囲を超える数値を入力した場合、「入力エラー」となります。設定可能範囲の数値を入力しなおしてください。
・入力を間違えたときは、【C】を押し、正しい数値を入力します。

詳しく説明します

・設定可能範囲を超える数値を入力した場合、「入力エラー」となります。設定可能範囲の数値を入力しなおしてください。
・入力を間違えたときは、【C】を押し、正しい数値を入力します。

ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

2.7.7　登録倍率から選択する

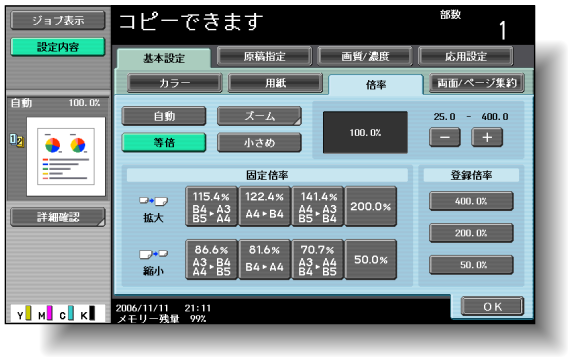
登録されているコピー倍率を、必要に応じて呼出し設定します。
また、登録されているコピー倍率を変更することもできます。

1 基本設定画面の［倍率］を押します。



倍率画面が表示されます。

2 目的の倍率を「登録倍率」から選択します。



3 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

2.7.8　目的の倍率を登録する

よく使用する倍率を 3 件と小さめ倍率を登録できます。

1 基本設定画面の［倍率］を押します。



倍率画面が表示されます。

参照

登録倍率には、目的の倍率を登録することができます。倍率の登録のしかたについては、「目的の倍率を登録する」（p. 2-38）をごらんください。

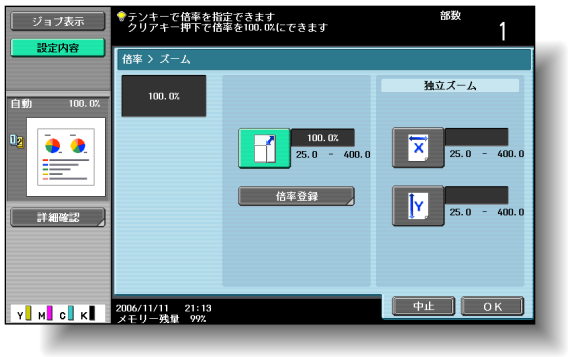
詳しく説明します

・出荷時設定では、［等倍］が選択されています。
・［+］を押すと拡大側へ、［-］を押すと縮小側へ 0.1% 単位で倍率が設定できます。

2 ［ズーム］を押します。



3 テンキーで目的の倍率を入力します。（25.0% ～ 400.0%）



4 ［倍率登録］を押します。

5 登録するいずれかのキー、または［小さめ］を押します。



入力した倍率が登録されます。

6 ［OK］を 3 回押します。
基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

・設定可能範囲を超える数値を入力した場合、「入力エラー」となります。設定可能範囲の数値を入力しなおしてください。
・入力を間違えたときは、【C】を押し、正しい数値を入力します。

ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

詳しく説明します

［小さめ］の倍率を登録する場合は、90.0% ～ 99.9% の範囲の中から目的の倍率を入力してください。

ひとこと

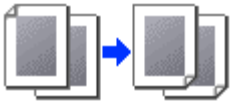
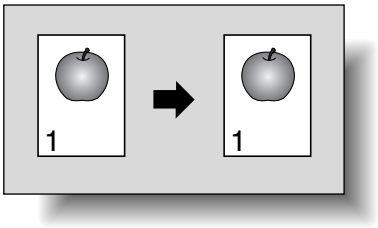
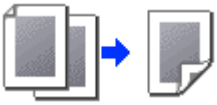
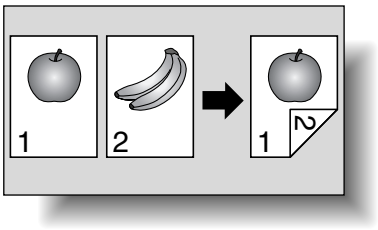
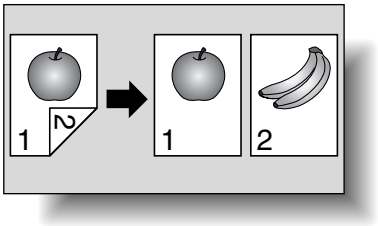
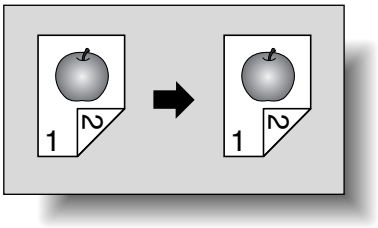
・登録倍率にはあらかじめ、400.0%、200.0%、50.0% が登録されています。選択されたキーに登録されていた倍率は、新たに入力した倍率に上書きされます。
・いずれの登録倍率のキーも押さずに［OK］を押すと設定は変更されません。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

2.8　原稿＞コピー機能を選ぶ

原稿＞コピー機能には以下の 4 つの設定があります。

原稿＞コピー機能	説明
片面＞片面 	片面原稿を用紙の片面にコピーします。 
片面＞両面 	2 枚の片面原稿を 1 枚の用紙の両面にコピーします。 
両面＞片面 	両面原稿を 2 枚の用紙の片面にコピーします。 
両面＞両面 	両面原稿を用紙の両面にコピーします。 

ここでは、原稿＞コピー機能の設定のしかたについて説明します。

2.8.1　片面コピーを選択する

1 基本設定画面の［両面 / ページ集約］を押します。

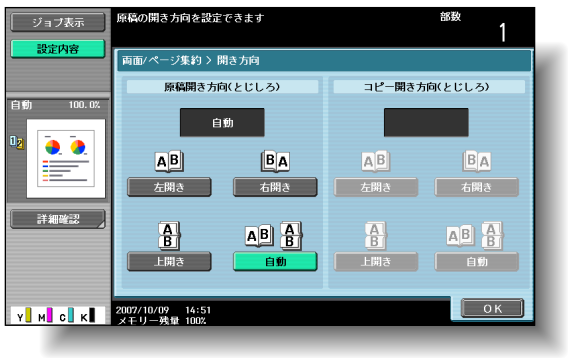


両面 / ページ集約画面が表示されます。

2 ［片面>片面］、または［両面>片面］を押します。



❍ 両面原稿の場合、［開き方向］を押し、原稿開き方向を設定して、［OK］を押します。



3 ［原稿セット方向］を押し、セットした原稿の方向を設定して、［OK］を押します。

4 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

ひとこと

出荷時設定では、［片面>片面］が設定されています。

参照

原稿ガラスを使用して複数枚の原稿を読込む場合は、「複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットする」（p. 2-12）をごらんください。

ひとこと

・［両面>片面］を選択した場合、開き方向および原稿セット方向を設定してください。開き方向および原稿セット方向を設定していない場合、目的のコピーにならないことがあります。
・原稿開き方向で［自動］を押すと、原稿のとじしろが自動で選択されます。原稿の長辺が 297 mm 以下の場合、用紙の長辺にとじしろが設定されます。原稿の長辺が 297 mm を超える場合、用紙の短辺にとじしろが設定されます。
・原稿開き方向で［自動］を設定した場合は、上側または左側のとじしろが設定されます。

ひとこと

原稿セット方向については、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。

2.8.2　両面コピーを選択する

1 基本設定画面の［両面 / ページ集約］を押します。



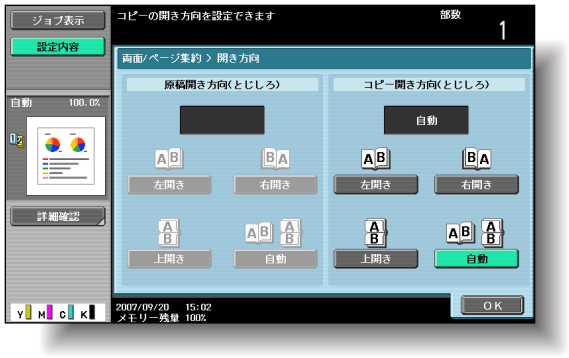
両面 / ページ集約画面が表示されます。

2 ［片面＞両面］、または［両面＞両面］を押します。



3 ［開き方向］を押します。

❍ 片面原稿の場合、コピー開き方向を設定して、［OK］を押します。



ひとこと

出荷時設定では、［片面＞片面］が設定されています。

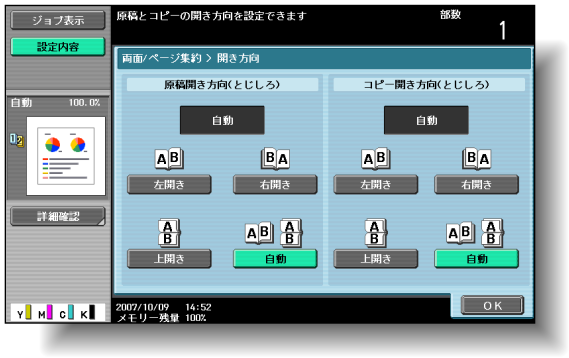
参照

原稿ガラスを使用して複数枚の原稿を読込む場合は、「複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットする」(p. 2-12)をごらんください。

ひとこと

・開き方向および原稿セット方向を設定してください。開き方向および原稿セット方向を設定していない場合、目的のコピーにならないことがあります。
・原稿開き方向で［自動］を押すと、原稿のとじしろが自動で選択されます。原稿の長辺が 297 mm 以下の場合、用紙の長辺にとじしろが設定されます。原稿の長辺が 297 mm を超える場合、用紙の短辺にとじしろが設定されます。
・原稿開き方向で［自動］を設定した場合は、上側または左側のとじしろが設定されます。
・コピー開き方向で［自動］を押すと、原稿の方向から用紙へのとじしろ位置を自動的に判断し、原稿の長辺が 297 mm 以下の場合、用紙の長辺にとじしろ位置を設定し、原稿の長辺が 297 mm を超える場合、用紙の短辺にとじしろ位置を設定します。
・コピー開き方向で［自動］を設定した場合は、上側または左側のとじしろ位置が設定されます。

❍ 両面原稿の場合、原稿開き方向とコピー開き方向を設定して、［OK］を押します。



4 ［原稿セット方向］を押し、セットした原稿の方向を設定して、［OK］を押します。

5 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

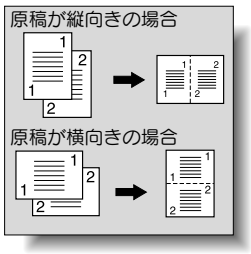
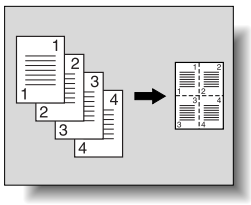
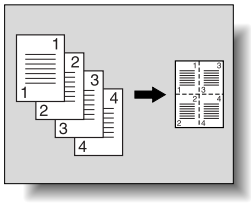
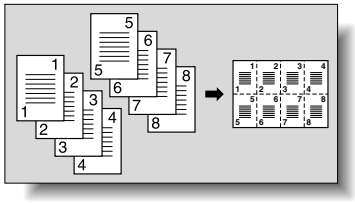
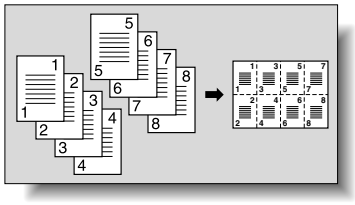
ひとこと

原稿セット方向については、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。

2.9　ページ集約を選ぶ

複数枚（2 枚、4 枚、8 枚）の原稿画像を、1 枚の用紙に集約してコピーします。用紙の使用枚数を節約できます。

ページ集約コピーには以下の 3 つの設定があります。

項目	説明
2 in 1	2 枚の原稿画像を 1 枚の用紙に印刷します。 
4 in 1	4 枚の原稿画像を 1 枚の用紙に印刷します。原稿の集約順（ページ並び）を指定できます。 ＜横順＞  ＜縦順＞ 
8 in 1	8 枚の原稿画像を 1 枚の用紙に印刷します。原稿の集約順（ページ並び）を指定できます。 ＜横順＞  ＜縦順＞ 

ここでは、集約コピーの設定のしかたについて説明します。

詳しく説明します

集約機能を選択すると原稿と用紙のサイズに基づいた適切な倍率を設定してコピーします。（お勧め倍率）

設定された倍率は、手動で変更することができます。

ひとこと

・出荷時設定では、「お勧め倍率」が設定されています。

・ユーザー設定の［集約 / 小冊子倍率］でお勧め倍率を使用しないように設定できます。その場合、倍率は手動で設定してください。詳しくは、「コピー設定」（p. 11-17）をごらんください。

2.9.1　複数枚の原稿を 1 枚の用紙に収める（集約）

1 基本設定画面の［両面 / ページ集約］を押します。

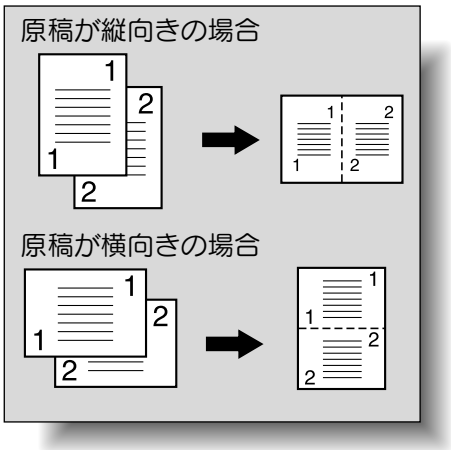


両面 / ページ集約画面が表示されます。

2 目的の集約枚数を選択します。



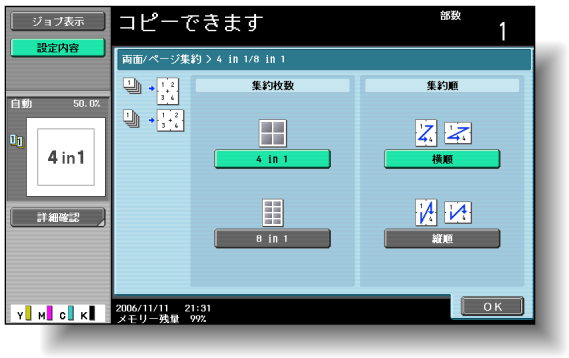
❍［2in1］を選択した場合、集約順は以下のようになります。



詳しく説明します

・集約する原稿の向きおよび枚数に合わせて、機能と集約順を選択します。
［4in1］、［8in1］を選択した場合、［縦順］または［横順］の集約順を画面上で確認できます。
ただし設定メニューの左エリア初期表示設定が［設定内容］の場合にかぎります。
・集約を設定した場合、原稿のとじしろ位置および原稿セット方向を設定してください。原稿のとじしろ位置および原稿セット方向を設定していない場合、目的の集約順にならないことがあります。
原稿のとじしろについては、「とじしろを設定する（原稿のとじしろ）」（p. 2-22）をごらんください。
原稿セット方向については、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。
・集約の設定を解除するときは、［しない］を押します。

❍［4 in1/8 in1］を選択した場合、4 in 1/8 in 1 画面が表示されます。［縦順］または［横順］を押し、原稿の集約順を指定します。



2.10　原稿の画質を選ぶ

2.10.1　小さな文字や写真の入った原稿をセットする（原稿画質）

原稿の文字や画像のタイプに合わせて機能を選択し、よりよいコピー画質に調整します。

原稿画質には以下の設定があります。

アイコン		説明
 文字		文字のみで構成された原稿からコピーするのに適した機能です。 コピーされた文字のエッジをシャープに再現し、読みやすい画像が得られます。
 文字 / 写真	 印画紙写真	文字と写真が混在する原稿の写真部分が、印画紙に印刷されている場合に適した機能です。 滑らかなコピー画像が得られます。
	 印刷写真	文字と写真が混在するパンフレットやカタログなどの印刷された原稿から、コピーするのに適した機能です。
 写真	 印画紙写真	原稿の写真部分が、印画紙に印刷されている場合に適した機能です。 通常の機能では再現できないハーフトーンの原稿画像（写真など）を、可能なかぎり再現します。 滑らかなコピー画像が得られます。
	 印刷写真	パンフレットやカタログなどの印刷された原稿から、コピーするのに適した機能です。 通常の機能では再現できないハーフトーンの原稿画像（写真など）を、可能なかぎり再現します。
 地図		地図などの下地色付原稿や鉛筆、色細線で描かれた原稿からコピーするのに適した機能です。 シャープなコピー画像が得られます。
 薄文字原稿		文字のみで構成された原稿で、原稿の濃度が薄い文字（鉛筆原稿など）からコピーするのに適した機能です。 コピーされた文字の濃度を濃く再現し、読みやすい文字が得られます。
 コピー原稿		本機で印刷した画像（原稿）からコピーするのに適した機能です。

ここでは、原稿画質の設定のしかたについて説明します。

ひとこと

出荷時設定では、文字 / 写真機能の［印刷写真］が設定されています。

2.10.2　原稿画質の設定のしかた

1 原稿をセットします。

2 基本設定画面の［画質 / 濃度］を押します。



画質 / 濃度画面が表示されます。

3 セットした原稿に合った原稿画質機能を選択します。

- 文字のみの原稿の場合、［文字］を押します。



- 文字や写真の混在した原稿の場合、［文字 / 写真］を押すと写真種類画面が表示されます。目的のキーを押し、［OK］を押します。



画質 / 濃度画面に戻ります。

参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

❍ 写真原稿の場合、［写真］を押すと写真種類画面が表示されます。目的のキーを押し、［OK］を押します。



画質 / 濃度画面に戻ります。

❍ 地図原稿の場合、［地図］を押します。
文字の薄い原稿の場合、［薄文字原稿］を押します。
本機で印刷した原稿の場合、［コピー原稿］を押します。



2.11　濃度を選ぶ

原稿の状態に合わせて、コピー濃度や下地濃度を調整します。また画像に光沢をつけたり、文字の再現レベルを調整します。

濃度調整には以下の設定があります。

機能名	説明
濃度	印刷画像濃度を 9 段階で調整できます。 ［うすく］、［こく］を押すごとに、1 段階ずつ濃度が増減します。 ［ふつう］を押すと、9 段階の中央に設定されます。
下地調整	下地色付原稿の下地色の濃度を 9 段階で調整できます。 ［うすく］、［こく］を押すごとに、1 段階ずつ下地濃度が増減します。 ［ふつう］を押すと、うすく側から 7 つ目の位置に設定されます。 ［自動］を押すと、下地色の濃度を自動的に判断し、最適な下地濃度で印刷します。
文字再現	原稿の写真（図やグラフなど）と文字が重なっている場合（背景文字）などに、文字の再現レベルを 9 段階で調整できます。 ［背景優先］、［文字優先］を押すごとに、1 段階ずつ文字再現レベルが増減します。 背景上の文字を強調したい場合は、［文字優先］を押し + 側に調整します。 背景上の文字を強調したくない場合は、［背景優先］を押し - 側に調整します。 ［標準］を押すと、9 段階の中央に設定されます。
光沢コピー	画像に光沢をつけて印刷します。

ここでは、濃度調整の設定のしかたについて説明します。

2.11.1　印刷濃度を調整する（濃度）

1 基本設定画面の［画質 / 濃度］を押します。



画質 / 濃度画面が表示されます。

2 ［濃度］を押します。



濃度調整画面が表示されます。

3 目的の濃度に調整します。



4 ［OK］を押します。

詳しく説明します

・［うすく］、［こく］を押すごとに、1 段階ずつ濃度が増減します。
・［ふつう］を押すと、中央（標準値）に戻ります。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

2.11.2　下地濃度を調整する（下地調整）

1 基本設定画面の［画質 / 濃度］を押します。



画質 / 濃度画面が表示されます。

2 ［下地調整］を押します。



下地調整画面が表示されます。

3 目的の下地濃度に調整します。



4 ［OK］を押します。

詳しく説明します

・［うすく］、［こく］を押すごとに、1 段階ずつ濃度が増減します。
・［ふつう］を押すと、右から 3 番目（標準値）に戻ります。
・［自動］を押すと、下地色の濃度を自動的に判断し、最適な下地濃度で印刷します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

2.11.3　文字の再現レベルを調整する

1 基本設定画面の［画質 / 濃度］を押します。



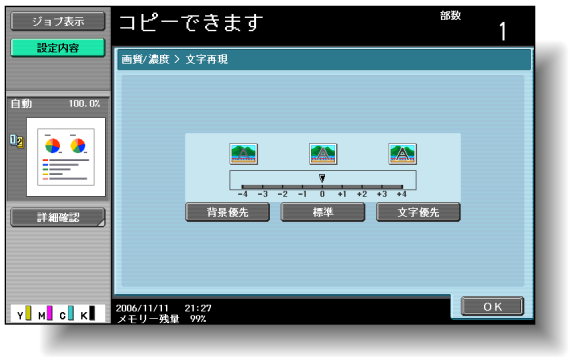
画質 / 濃度画面が表示されます。

2 ［文字再現］を押します。



文字再現レベル調整画面が表示されます。

3 目的の文字再現レベルに調整します。



4 ［OK］を押します。

ひとこと

・出荷時設定では、「0」が設定されています。
・【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

詳しく説明します

［背景優先］、［文字優先］を押すごとに、1 段階ずつ濃度が増減します。
［標準］を押すと、9 段階の中央“0”に設定されます。

2.11.4　印刷画像に光沢をつける（光沢コピー）

1 基本設定画面の［画質 / 濃度］を押します。



画質 / 濃度画面が表示されます。

2 ［光沢コピー］を押します。

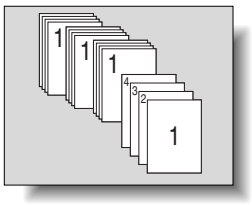
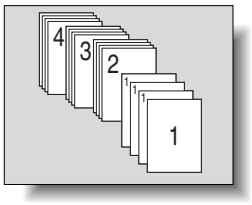
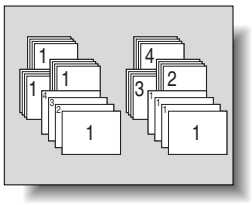
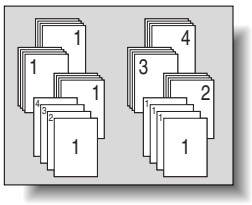
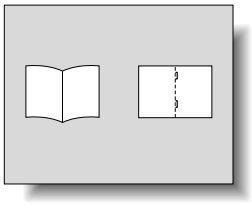


ひとこと

・光沢コピー機能を解除するときは、再度［光沢コピー］を押します。
・【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

2.12　仕上り機能を選ぶ

コピーを排紙トレイに排紙するときの仕分け方法や仕上りの状態を設定できます。

項目	説明
ソート	複数枚の原稿を部数単位に分けて出力します。 
グループ	複数枚の原稿をページ単位に分けて出力します。 
仕分け	<フィニッシャーまたはセパレータを装着していない場合> 仕分け機能の条件を満たすと、コピーの完了した用紙を交互に仕分けして排紙します。 
	<フィニッシャーまたはセパレータ装着時> コピーの完了した用紙をシフトして（ずらして）排紙します。 
中とじ / 折り	コピーの完了した用紙を折って排紙します。またステープルでとじて排紙します。 折りとステープルを同時に行い排紙することもできます。  ［中とじ / 折り］機能はオプションのフィニッシャー FS-519 に中綴じ機を装着している場合に使用できます。
排紙トレイ	コピーの完了した用紙を指定した排紙トレイに排紙します。

詳しく説明します

・ADF に原稿をセットする場合、ソートまたはグループの設定に関わらず、全ての原稿を読込み終えたあとに指定した設定方法にて出力されます。
・原稿ガラスに原稿をセットする場合、ソートまたはグループの設定により、以下のように動作します。
<ソートを設定した場合>
全ての原稿を読込み終えたあと、設定部数単位に分けて出力します。原稿のセット方法について詳しくは、「複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットする」（p. 2-12）をごらんください。
<グループを設定した場合>
原稿を 1 枚読込むごとに、設定部数分の出力をします。

ひとこと

出荷時設定では、グループが設定されています。

詳しく説明します

仕分け機能は、フィニッシャーまたはセパレータが装着されていない場合、以下の条件を全て満たすと、コピーの完了した用紙を交互に仕分けして排紙します。
・A4 または B5 の用紙を使用する
・サイズと種類の同じ用紙を ▭ 方向と ▯ 方向にセットする
・用紙／サイズ機能で自動用紙を設定する
・混載原稿選択時に自動用紙を設定しない

ひとこと

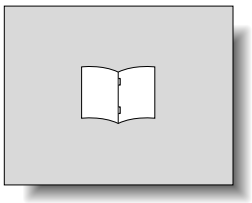
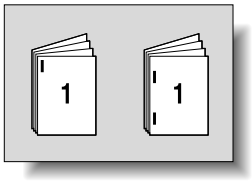
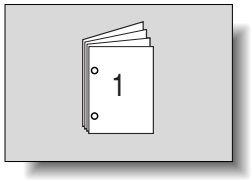
管理者設定で、フィニッシャーまたはセパレータ装着時にコピーの完了した用紙をシフトせずに（ずらさずに）排出することもできます。出荷時設定では、シフト排出するが設定されています。

参照

フィニッシャーまたはセパレータ装着時のシフト排出設定については、「<出力設定>」（p. 11-22）をごらんください。

参照

「中とじ / 折り」「中とじ」については、「紙折り機能を選ぶ」（p. 2-66）をごらんください。

項目	説明
中とじ	コピーの完了した用紙を折り、ステープルでとじて排紙します。  ［中とじ］機能はオプションのフィニッシャー FS-609 を装着している場合に使用できます。
ステープル	コピーの完了した用紙のコーナーまたは 2 点をステープル（針）でとじます。 
パンチ	コピーの完了した用紙にファイリング用のパンチ穴（2 穴）をあけます。 

ここでは、仕上り機能の設定のしかたについて説明します。

原則

- ステープル機能はオプションのフィニッシャーを装着した場合に使用できる機能です。
- パンチ機能はオプションのフィニッシャーにパンチキットを装着した場合に使用できる機能です。

仕上り機能一覧

	標準	FS-519[*1]	FS-519[*1] + パンチキット	FS-519[*1] + パンチキット + 中綴じ機	FS-519[*1] + パンチキット + メールビン
ソート	○	○	○	○	○
グループ	○	○	○	○	○
仕分け	○	○	○	○	○
ステープル	×	○	○	○	○
パンチ	×	×	○	○	○
中とじ	×	×	×	○	×
中折り	×	×	×	○	×
排紙トレイ選択	×	○	○	○	○

	FS-609*2	FS-609*2 + パンチキット	セパレータ
ソート	○	○	○
グループ	○	○	○
仕分け	○	○	○
ステープル	○	○	×
パンチ	×	○	×
中とじ	○	○	×
中折り	×	×	×
排紙トレイ選択	○	○	○

*1　FS-519 はフィニッシャー FS-519 を表します。
*2　FS-609 はフィニッシャー FS-609 を表します。

2.12.1　部数ごとに分けて排紙する（ソート）

1 基本設定画面の［仕上り］を押します。



仕上り画面が表示されます。

2 ［ソート（1 部ごと）］を押します。



❍ 部数ごとに仕分けして排紙したい場合は、「仕分け」の［する］を押します。

3 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

ひとこと

・出荷時設定では、［グループ（ページごと）］が設定されています。
・フィニッシャー FS-519 を装着している場合は、排紙先のトレイを選択できます。詳しくは、「排紙先を指定して排紙する」（p. 2-60）をごらんください。

詳しく説明します

フィニッシャーまたはセパレータを装着していない状態で［仕分け］を選択した場合、以下の条件を全て満たすと、コピーの完了した用紙を ▭ 方向と ▯ 方向の交互に仕分けして排紙します。
・A4 または B5 の用紙を使用する
・サイズと種類の同じ用紙を ▭ 方向と ▯ 方向にセットする
・用紙／サイズ機能で自動用紙を設定する
・混載原稿選択時に自動用紙を設定しない
フィニッシャーまたはセパレータを装着している状態で「仕分け」の［する］を選択した場合、コピーの完了した用紙をシフト（ずらして）して排紙します。

2.12.2　ページごとに分けて排紙する（グループ）

1 基本設定画面の［仕上り］を押します。



仕上り画面が表示されます。

2 ［グループ（ページごと）］を押します。



❍ ページごとに仕分けして排紙したい場合は、「仕分け」の［する］を押します。

3 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

ひとこと

・出荷時設定では、［グループ（ページごと）］が設定されています。
・フィニッシャー FS-519 を装着している場合は、排紙先のトレイを選択できます。詳しくは、「排紙先を指定して排紙する」（p. 2-60）をごらんください。

詳しく説明します

フィニッシャーまたはセパレータを装着していない状態で［仕分け］を選択した場合、以下の条件を全て満たすと、コピーの完了した用紙を ▭ 方向と ▯ 方向の交互に仕分けして排紙します。
・A4 または B5 の用紙を使用する
・サイズと種類の同じ用紙を ▭ 方向と ▯ 方向にセットする
・用紙／サイズ機能で自動用紙を設定する
・混載原稿選択時に自動用紙を設定しない
フィニッシャーまたはセパレータを装着している状態で「仕分け」の［する］を選択した場合、コピーの完了した用紙をシフトして（ずらして）排紙します。

2.12.3　排紙先を指定して排紙する

原則

排紙トレイの指定はフィニッシャー FS-519 を装着した場合に使用できる機能です。

1 基本設定画面の［仕上り］を押します。



仕上り画面が表示されます。

2 ［排紙トレイ］を押します。



3 排紙先トレイのキーを押します。



4 ［OK］を 2 回押します。

基本設定画面に戻ります。

2.12.4　ステープルでとじて排紙する（ステープル）

コーナーステープルまたは 2 点ステープルでとじて出力します。

ひとこと

フィニッシャー装着時のみ、コーナーステープルまたは 2 点ステープルでとじて出力ができます。

<フィニッシャー FS-519 装着時>

トレイの種類	用紙坪量	用紙サイズ	積載量
第 1 排紙トレイ	60 g/m^2 ～ 209 g/m^2	A3 ◪ ～ A5 ▯	32 mm（200 枚相当）*1
第 2 排紙トレイ	60 g/m^2 ～ 209 g/m^2	A4 ◪/▯、B5 ◪/▯、A5 ▯	132 mm（1000 枚相当）*1
		B4 ◪、A3 ◪	64.5 mm（500 枚相当）*1
増設排紙トレイ	60 g/m^2 ～ 209 g/m^2	A3 ◪ ～ A5 ▯	24 mm（200 枚相当）*1

*1 （ ）内の数値は用紙坪量 60 g/m^2 ～ 90 g/m^2 を使用した場合の参考値です。

詳しく説明します

ステープルとじする場合、以下の条件を全て満たす必要があります。
・用紙の幅は 182 mm 以上、297 mm 以下
・用紙の長さは 148.5 mm 以上、431.8 mm 以下
・混載原稿の場合、プリントされる用紙の幅が同じ

とじ枚数
以下は、とじ枚数例です。

- 90 g/m^2 紙 50 枚

<フィニッシャー FS-609 装着時>

用紙坪量	用紙サイズ	積載量（いずれかで検知）
60 g/m^2 ～ 209 g/m^2	A4 ◪/▯、B5 ◪/▯	150 mm（1000 枚相当）*1
	B4 ◪、A3 ◪	75 mm（500 枚相当）*1

*1 （ ）内の数値は用紙坪量 60 g/m^2 ～ 90 g/m^2 を使用した場合の参考値です。

詳しく説明します

ステープルとじする場合、以下の条件を全て満たす必要があります。
・用紙の幅は 182 mm 以上、297 mm 以下
・用紙の長さは 182 mm 以上 432 mm 以下
・混載原稿の場合、プリントされる用紙の幅が同じ

とじ枚数		積載部数		
		奥側 1 箇所	手前側 1 箇所	2 箇所
A4 ◪ 以下	2 枚	100 部	40 部	40 部
	3 枚～ 5 枚	80 部	40 部	40 部
	6 枚～ 10 枚	60 部	40 部	40 部
	11 枚～ 20 枚	30 部	30 部	30 部
	21 枚～ 30 枚	30 部	30 部	30 部
	31 枚～ 50 枚	30 部 /1,000 枚	30 部 /1,000 枚	30 部 /1,000 枚
B4 ◪ 以上	2 枚	100 部	50 部	50 部
	3 枚～ 5 枚	80 部	40 部	40 部
	6 枚～ 10 枚	40 部	40 部	40 部
	11 枚～ 20 枚	30 部 /1,000 枚	30 部 /1,000 枚	30 部 /1,000 枚
	21 枚～ 25 枚	30 部 /1,000 枚	30 部 /1,000 枚	30 部 /1,000 枚

1 基本設定画面の［仕上り］を押します。



2 仕上り画面が表示されます。
ステープルの［コーナー］または［2 点］を押します。



3 ［位置指定］を押します。



ひとこと

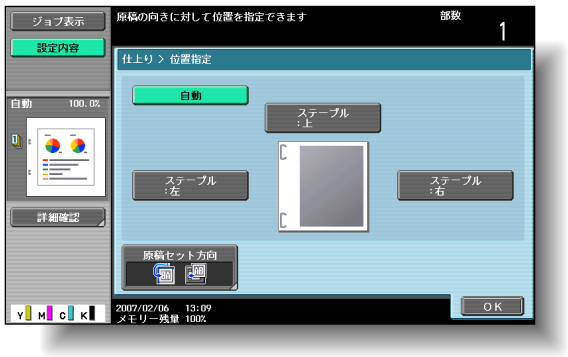
ステープルとじする場合、原稿をセットする方向およびステープルする用紙の方向を設定してください。原稿セット方向およびステープルする用紙の方向が設定されていない場合、目的の位置にステープルとじされないことがあります。原稿セット方向については、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。

ひとこと

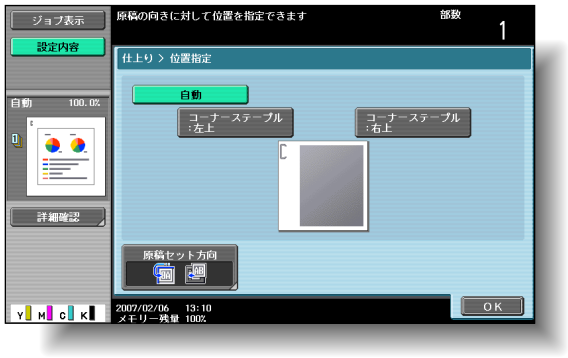
・「ステープル」を選択した場合、自動的に［ソート（1 部ごと）］が選択されます。
・「ステープル」と「仕分け」は組合わせて使用できません。
・ステープル機能を解除するときは、［なし］を押します。

❍ 目的の位置を選択し、[OK] を押します。

＜2 点ステープルの場合＞



＜コーナーステープルの場合＞



4 必要に応じて、[原稿セット方向] を押し、原稿のセットされている向きを指定します。

5 [OK] を押します。

基本設定画面に戻ります。

ひとこと

・[自動] を押すと、セットした原稿の方向から用紙へのステープル位置を自動的に判断し、原稿の長辺が 297 mm 以下の場合、用紙の長辺にステープル位置を設定し、原稿の長辺が 297 mm を超える場合、用紙の短辺にステープル位置を設定します。
・[自動] を設定した場合は、上側または左側のステープル位置が設定されます。
・[自動] によりステープルの位置を指定する場合は、必ず原稿の天部が奥側になるようにセットしてください。それ以外の向きだと、正しく設定できません。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

ひとこと

原稿セット方向については、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。

2.12.5　パンチ穴をあけて排紙する（パンチ）

パンチキットの種類	用紙坪量	用紙サイズ
パンチキット PK-515	60 g/m^2 ～ 256 g/m^2	A3 ～ B5
パンチキット PK-501	60 g/m^2 ～ 209 g/m^2	A3 ～ B5

原則

パンチ機能はオプションのフィニッシャーにパンチキットを装着した場合に使用できる機能です。

1 基本設定画面の［仕上り］を押します。



仕上り画面が表示されます。

2 パンチの［2 穴］を押します。



詳しく説明します

フィニッシャー FS-609 でパンチ穴をあける場合、以下の条件を全て満たす必要があります。
・用紙の幅は 182 mm 以上、297 mm 以下
・用紙の長さは 182 mm 以上、432 mm 以下

ひとこと

パンチ穴をあける場合、原稿をセットする方向を設定してください。原稿セット方向が設定されていない場合、目的のとおりにパンチされないことがあります。
原稿セット方向については、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。

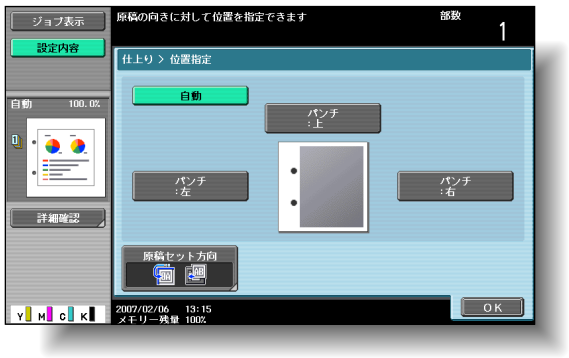
ひとこと

パンチ機能を解除するときは、［なし］を押します。

3 ［位置指定］を押します。



❍ 目的の位置を選択し、［OK］を押します。



4 必要に応じて、［原稿セット方向］を押し、原稿のセットされている向きを指定します。

5 ［OK］を押します。

基本設定画面に戻ります。

ひとこと

・［自動］を押すと、セットした原稿の方向から用紙へのパンチ位置を自動的に判断し、原稿の長辺が 297 mm 以下の場合、用紙の長辺にパンチ位置を設定し、原稿の長辺が 297 mm を超える場合、用紙の短辺にパンチ位置を設定します。
・［自動］を設定した場合は、上側または左側のパンチ位置が設定されます。
・［自動］によりパンチの位置を指定する場合は、必ず原稿の天部が奥側になるようにセットしてください。それ以外の向きだと、正しく設定できません。

ひとこと

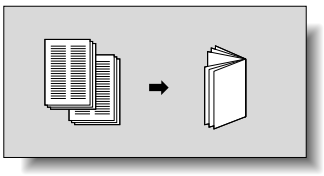
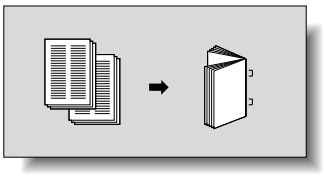
【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

ひとこと

原稿セット方向については、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。

2.13　紙折り機能を選ぶ

オプションを装着することで、コピーした用紙を折って排紙したり、折りとステープルを同時に行い排紙することができます。設定できる機能は装着しているオプションによって異なります。

項目	説明	対応機種
中折り	用紙を 2 つ折りにして、排紙します。（p. 2-66） 	フィニッシャー FS-519 + 中綴じ機
中とじ	用紙のセンター 2ヶ所にステープルし、2 つ折りにして排紙します。（p. 2-61） 	フィニッシャー FS-519 + 中綴じ機 フィニッシャー FS-609

原則

- 中とじ機能はオプションのフィニッシャー FS-609 を装着した場合、またはフィニッシャー FS-519 に中綴じ機を装着した場合に使用できる機能です。
- 中折り機能はオプションのフィニッシャー FS-519 に中綴じ機を装着した場合に使用できる機能です。

2.13.1　2 つ折りにして排紙する（中折り）

＜フィニッシャー FS-519 に中綴じ機 装着時＞

用紙坪量	用紙サイズ	積載量
60 g/m^2 ～ 90 g/m^2	B5 ◪、A4 ◪、B4 ◪、A3 ◪	200 枚または 20 部

中折り枚数

以下は、中折り枚数例です。

- 90 g/m^2 紙 2 ～ 15 枚（最大 60 ページ）

詳しく説明します

中とじ / 中折り出力をする場合、以下の条件を全て満たす必要があります。

・用紙の幅は 182 mm 以上、297 mm 以下

・用紙の長さは 257 mm 以上、431.8 mm 以下

1 基本設定画面の［仕上り］を押します。



仕上り画面が表示されます。

2 ［中とじ / 折り］を押します。



中とじ / 折り画面が表示されます。

3 中折りの［する］を押します。



4 ［OK］を 2 回押します。

詳しく説明します

出荷時設定では、中折りを設定すると、小冊子機能が自動的に選択されるように設定されています。

ひとこと

中折り機能を解除するときは、［しない］を押すか、他の機能のキーを押します。

2.13.2　用紙の中央をとじて排紙する（中とじ）

<フィニッシャー FS-519 に中綴じ機 装着時>

用紙坪量	用紙サイズ	積載量
60 g/m^2 ～ 90 g/m^2	B5 ◪、A4 ◪、B4 ◪、A3 ◪	200 枚または 20 部

とじ枚数
以下は、とじ枚数例です。

- 90 g/m^2 紙 2 ～ 15 枚（最大 60 ページ）

1 基本設定画面の［仕上り］を押します。



仕上り画面が表示されます。

2 ［中とじ / 折り］を押します。



中とじ / 折り画面が表示されます。

詳しく説明します

中とじ / 中折り出力をする場合、以下の条件を全て満たす必要があります。
・用紙の幅は 182 mm 以上、297 mm 以下
・用紙の長さは 257 mm 以上、431.8 mm 以下

詳しく説明します

・カバーシート機能のカバー紙を選択した場合は、カバー紙（60 g/m^2 ～ 209 g/m^2）にステープルすることができます。
・出荷時設定では、中とじを設定すると、以下の機能が自動的に設定されます。
　・片面>両面
　・小冊子
　・小冊子時のお勧め倍率（× 70.7%）
・中とじを設定すると、仕上りで設定した以下の機能設定が無効になります。
　・グループ
　・仕分け
　・ステープル
　・パンチ

ひとこと

中とじ機能を解除するときは、［しない］を押します。

3 中とじの設定をします。

- センター 2 箇所にステープルする場合は、「センターステープル」の［する］、「中折り」の［しない］を押します。
- 中とじをする場合は、「センターステープル」の［する］、「中折り」の［する］を押します。



4 ［OK］を 2 回押します。

<フィニッシャー FS-609 装着時>

用紙坪量	用紙サイズ	とじ枚数
60 g/m^2 ～ 90 g/m^2	A3◪、B4◪、A4◪	2 枚～ 15 枚 *1

とじ枚数	積載部数
2 枚～ 5 枚	20 部
6 枚～ 10 枚	10 部
11 枚～ 15 枚 *1	10 部

*1　とじ枚数は用紙種類により異なります。
64 g/m^2 紙：15 枚
80 g/m^2 紙：10 枚

1 基本設定画面の［仕上り］を押します。



仕上り画面が表示されます。

詳しく説明します

中とじ出力をする場合、以下の条件を全て満たす必要があります。
・用紙の幅は 210 mm 以上、297 mm 以下
・用紙の長さは 279 mm 以上、432 mm 以下

2 ［中とじ］を押します。



折り目消し画面が表示されます。

3 折り目消しを設定します。

❍ 折り目を消す場合は［消去する］を、折り目を消さない場合は［消去しない］を押します。



4 ［OK］を 2 回押します。

詳しく説明します

・カバーシート機能のカバー紙を選択した場合は、カバー紙（60 g/m^2 ～ 150 g/m^2）にステープルすることができます。
・出荷時設定では、中とじを設定すると、以下の機能が自動的に設定されます。
　・片面＞両面
　・ソート
　・小冊子
　・小冊子時のお勧め倍率（70.7%）
・中とじを設定すると、仕上りで設定した以下の機能設定が無効になります。
　・グループ
　・仕分け
　・ステープル
　・パンチ

ひとこと

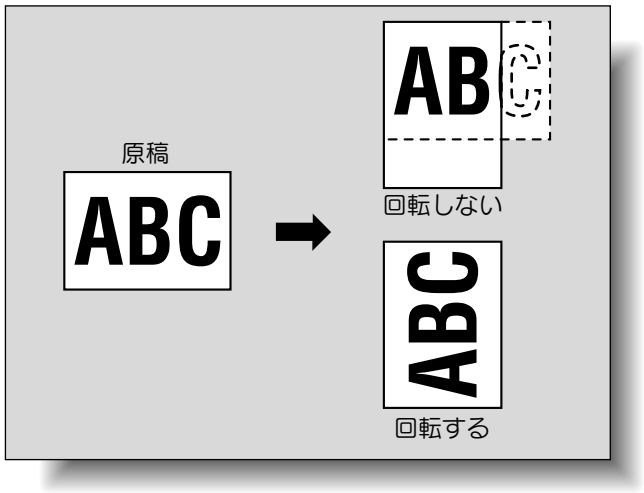
中とじ機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

・折り目消しを［消去する］に設定した場合、折り目の部分 10 mm を消します。
・折り目消しを［消去しない］に設定しているときに、紙づまりが起こりやすい場合は、［消去する］を設定してください。紙づまりしにくくなります。

2.14　回転しないを選ぶ

セットされた用紙の向きに合わせて画像を回転させないようにコピーします。



➔　基本設定画面の［回転しない］を押します。



ひとこと

用紙サイズ、倍率によっては、画像が欠ける場合があります。

2.15　印刷中に次のコピー原稿を読込む（コピー予約）

現在のコピージョブの印刷中に、次のコピージョブの設定や原稿読込みを行い、印刷完了後に続けて次のコピーを印刷します。

原則

コピー予約は、現コピーを含めて最大 61 件まで登録できます。

1

現在のジョブの印刷中に、「コピー予約できます」と表示されたら原稿をセットし、次のコピーのコピー条件を設定します。



- 設定メニューの印刷中画面表示を「する」に設定した場合、印刷中画面の［コピー予約］を押して、基本設定画面を表示します。



2

【スタート】を押します。

3

実行中のコピージョブ終了後、次のコピーを開始します。

ひとこと

セットした原稿の読込み終了後にコピー予約できます。原稿読込み中に次のジョブを予約できません。

参照

原稿セット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

詳しく説明します

予約したジョブを削除するときは、画面左エリアの［ジョブ表示］を押し、［ジョブ詳細］を押します。詳しくは、「ジョブを削除する」（p. 10-6）をごらんください。

詳しく説明します

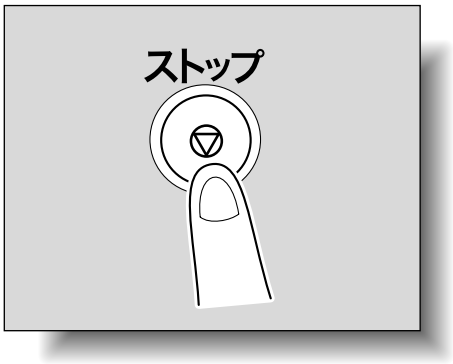
印刷中画面表示の設定については、「画面カスタマイズ設定」（p. 11-16）をごらんください。

2.16　読込み・印刷を一時停止する

原稿の読込みや印刷の動作を一時停止したいときは、以下の手順にしたがってください。

1

ジョブの読込み・印刷中に【ストップ】を押します。



読込み・印刷が停止します。



タッチパネルに停止中ジョブ画面が表示されます。

2

【スタート】を押すと、停止していた全てのジョブが再開されます。

ひとこと

読込み中ジョブがある場合は、【ストップ】を押すと、読込みも同時に停止します。

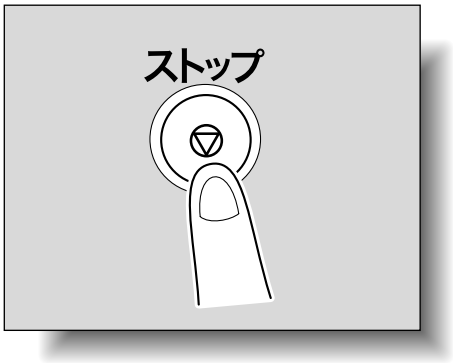
参照

一時停止したジョブの削除のしかたについては、「一時停止したジョブを削除する」(p. 2-74)をごらんください。

2.17　一時停止したジョブを削除する

一時停止したジョブを削除したいときは、以下の手順にしたがってください。

1 ジョブの読込み・印刷中に【ストップ】を押します。



読込み・印刷が停止します。
タッチパネルに停止中ジョブ画面が表示されます。

2 削除したいジョブを選択し、［削除実行］を押します。



選択したジョブが削除されます。

参照

読込み・印刷中のジョブの一時停止のさせ方について、詳しくは、「読込み・印刷を一時停止する」(p. 2-73)をごらんください。

ひとこと

・削除するジョブは 1 つずつ選択します。
・一時停止したジョブを再開する場合は【スタート】を押します。

第 3 章
コピー補助機能

コピーするときに手助けになる機能について説明します。

3.1　コピー条件を確認する（設定内容）.....3-2
3.2　1 部印刷してコピーの仕上りを確認する（確認コピー）.....3-5
3.3　プレビュー画像でコピーの仕上りを確認する（仕上りプレビュー）.....3-8
3.4　割込んでコピーする（割込み）.....3-13
3.5　コピー条件を登録する（プログラム登録）.....3-14
3.6　登録したコピー条件でコピーする（コピープログラム呼出し）.....3-17
3.7　機能説明画面を表示させる（ヘルプ機能）.....3-19
3.8　操作パネルの設定をする（ユニバーサル設定）.....3-23

3.1　コピー条件を確認する（設定内容）

設定内容画面で、現在設定されているコピー条件の確認、変更ができます。

3.1.1　　設定の確認のしかた

1

画面左エリアの［設定内容］を押し、［詳細確認］を押します。
設定内容画面が表示されます。



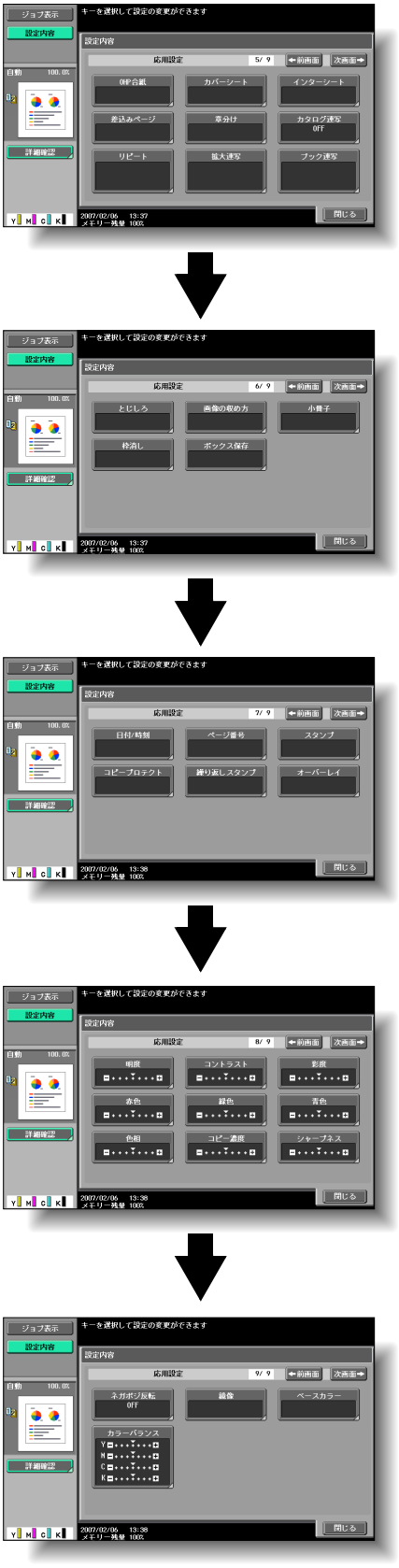






詳しく説明します

- 設定内容画面は 9 画面あります。画面タイトルの右側に現在の画面番号が表示されます。
- ［←前画面］を押すと 1 つ前の画面に、［次画面→］を押すと次の画面に切換わります。
- 出荷時設定から設定を変更した機能は、その項目が色付きの枠で囲まれます。



2 設定内容の確認が終了したら、［閉じる］を押します。
基本設定画面に戻ります。

3.1.2　設定の変更のしかた

1. 画面左エリアの［設定内容］を押し、［詳細確認］を押します。
2. ［←前画面］または［次画面→］を押して変更する機能のある画面を表示します。
3. 変更する機能のキーを押します。
   各機能の設定画面が表示されます。
4. 各機能の設定方法にしたがい、変更を行ってください。

3.2　1 部印刷してコピーの仕上りを確認する（確認コピー）

大量のコピーを行うとき、先に 1 部のみ印刷して仕上りを確認できます。印刷の失敗を未然に防ぐことができます。

1 原稿をセットします。

2 目的のコピー条件を設定します。

3 【確認コピー】を押します。



確認コピー方法選択画面が表示されます。

4 確認方法で［印刷して確認］を押し、原稿セット方向を選択します。

＜原稿ガラスに原稿をセットした場合＞



＜ ADF に原稿をセットした場合＞



5 【スタート】を押します。

参照

原稿セット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

確認コピーをするときは、複数部数を設定してください。

6

原稿ガラスに原稿をセットした場合は、［読込み終了］を押し、【スタート】を押します。

1 部印刷されます。

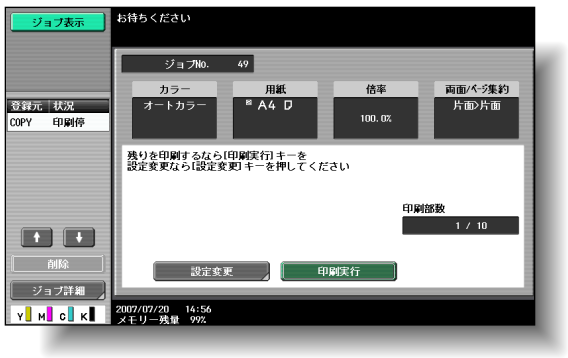
7

コピー結果を確認します。

- コピーを確認して問題なければ、手順 10 へ進みます。
- コピー条件の設定を変更するときは、手順 8 へ進みます。

8

確認コピー画面の［設定変更］を押します。



- この画面が表示された状態で一定時間操作しないでいると、確認コピーを行ったジョブが蓄積ジョブに登録され、基本設定画面に戻ります。
  蓄積ジョブへの登録は、以下のタイミングで行われます。
  - システムオートリセットが動作したとき
  - 1 分後（システムオートリセットを「しない」に設定している場合）

ひとこと

ADF に原稿をセットした場合は、原稿の読込み終了を確認する画面は表示されず、仕上り確認用の印刷が開始されます。

詳しく説明します

- 確認コピー画面表示中にコピーを中断する場合は【リセット】または【C】を押します。
  または、左エリアのジョブ表示リストから中断する確認コピージョブを選んで、［削除］を押します。削除確認画面が表示されたら、［はい］を押し、［OK］を押します。
- 蓄積ジョブについては、p. 10-10 をごらんください。システムオートリセットを「しない」に設定している場合は、操作をしなくなってから 1 分で蓄積ジョブに登録されます。
- システムオートリセットについては、「自動的に設定を取消す（オートリセット）」（p. 1-28）をごらんください。
- 確認コピー画面の「印刷部数」は、「確認コピー済み印刷部数 / 設定総部数」を示しています。
- 確認コピー画面の「総印刷枚数」は、「確認コピー済み印刷枚数 / 確認コピー印刷枚数」を示しています。

設定変更画面でコピー条件を変更して、［OK］を押します。



9 【確認コピー】を押して、確認コピーを繰り返します。

10 ［印刷実行］を押します。
残り部数がジョブとして登録されます。

詳しく説明します

・元の設定に戻す場合は［中止］を押します。
・コピー条件が変更できないときは、確認コピーを中断してください。次に【リセット】を押してコピー条件を取消してから、設定をしなおしてください。
・設定変更画面表示中にコピーを中断する場合は、左エリアのジョブ確認リストから中断する確認コピージョブを選んで、［削除］を押します。削除確認画面が表示されたら、［はい］を押し、［OK］を押します。
・設定変更画面表示中に【リセット】を押すと、設定変更画面で変更した設定がリセットされ、手順 2 で設定した内容に戻ります。
・設定変更画面の「部数」は［印刷実行］を押したときに印刷される部数です。

参照

読込み中または印刷中の確認コピーを中断する場合は、「読込み・印刷を一時停止する」（p. 2-73）をごらんください。

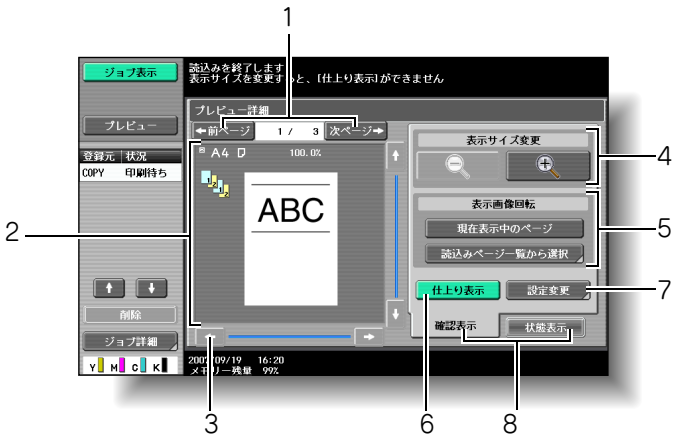
3.3 プレビュー画像でコピーの仕上りを確認する（仕上りプレビュー）

印刷する前に、仕上り状態をプレビュー画像で確認することができます。
印刷の失敗を未然に防ぐことができます。

3.3.1 プレビュー詳細画面

プレビュー詳細画面では、向きを誤って読込んだ原稿を回転させたり、読込む前に行った設定を変更したりすることができます。

＜画面構成＞



No	名称	説明
1	［←前ページ］／［次ページ→］	表示中のページの前ページおよび次ページへ表示を切換えます。
2	－	プレビュー画像が表示されます。 ［仕上り表示］を押すと、プレビュー画像に仕上り状態が反映されます。
3	スクロールバー	プレビュー画像が拡大表示の場合、画像を上下左右にスクロールします。
4	表示サイズ変更	プレビュー画像を拡大／縮小します。 詳しくは、「＜表示サイズ変更＞」（p. 3-9）をごらんください。
5	表示画像回転	プレビュー画像を 180 度回転します。 詳しくは、「＜表示画像回転＞」（p. 3-9）をごらんください。
6	［仕上り表示］	仕上り状態をプレビュー画像に反映します。もう一度押すと、プレビュー画像の仕上り表示が解除されます。 詳しくは、「＜仕上り表示＞」（p. 3-10）をごらんください。
7	［設定変更］	読込んだ原稿の設定を変更できます。 詳しくは、「＜設定変更＞」（p. 3-10）をごらんください。
8	［状態表示］／［確認表示］	プレビュー詳細画面の状態表示と確認表示の切換えを行います。 画像の回転や設定変更は［確認表示］で行います。 ［状態表示］で読込みを終了します。

＜表示サイズ変更＞

表示サイズ変更では、プレビュー画像を拡大して表示し、細部の確認ができます。[+] ／ [-] を押すことで、全体表示／2 倍／4 倍／8 倍の大きさで倍率を変更できます。拡大した画像は、画像の右側と下側のスクロールバーで表示箇所を移動させて確認します。



＜表示画像回転＞

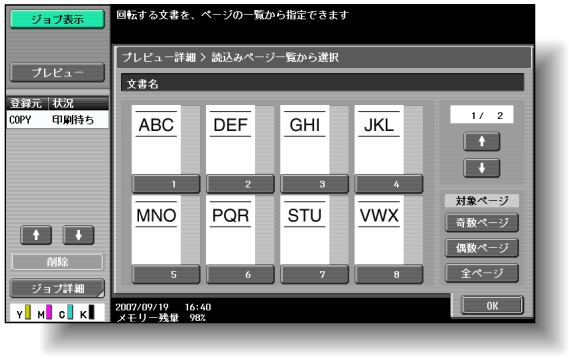
表示画像回転では、プレビュー画像を 180 度回転して、原稿の向きの誤りを補正できます。

[現在表示中のページ] を押すと、表示されているページを 180 度回転します。



[読込みページ一覧から選択] を押すと、読込みページ一覧画面が表示されます。読込みページは最大 8 ページまで表示され、[↑] ／ [↓] を押すとページを切換えることができます。

[奇数ページ] を押すと、読込みページ中の奇数ページを回転します。
[偶数ページ] を押すと、読込みページ中の偶数ページを回転します。
[全ページ] を押すと、読込みページの全ページを回転します。読込みページを直接選択すると、選択した読込みページが回転します。



ひとこと

表示サイズを変更すると、仕上り状態を表示できません。

＜仕上り表示＞

［仕上り表示］を押すと、仕上り設定内容をプレビュー画像にアイコンや文字列で表示し、仕上りの状態を確認できます。［仕上り表示］をもう一度押すと、プレビュー画像の仕上り表示が解除されます。



＜設定変更＞

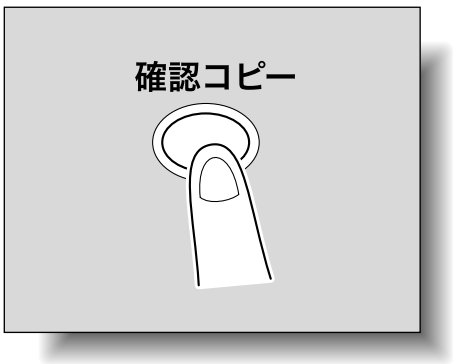
設定変更では、次に読込む原稿の設定を変更することができます。



3.3.2　仕上りプレビューを確認する

仕上りプレビューでコピーの仕上りを確認して印刷します。

1. 原稿ガラスまたは ADF に原稿をセットします。
2. 目的のコピー条件を設定します。
3. 【確認コピー】を押します。



確認コピー方法選択画面が表示されます。

ひとこと

・各設定方法については、各設定の説明ページをごらんください。
・左エリアの［プレビュー］を押すとプレビュー画像が表示されます。プレビュー画像には、全原稿に反映される設定のみが表示されます。

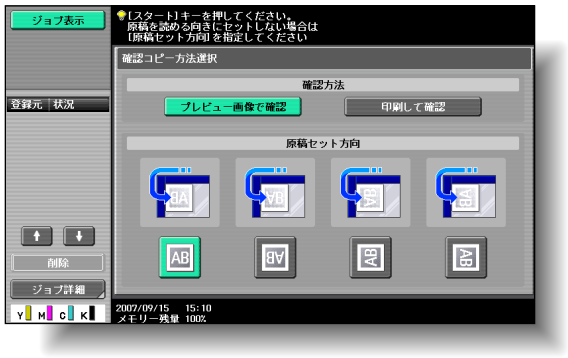
詳しく説明します

・プログラムジョブで原稿を読込む場合は、全ての原稿を読込み、［読込み終了］を押したあとに仕上りプレビューを確認できます。プログラムジョブについて詳しくは、「原稿ごとに異なる設定で読込みまとめてコピーする（プログラムジョブ）」（p. 7-34）をごらんください。
・差込みページを指定して原稿を読込む場合は、最初に原稿を読込んだあとと、差込み原稿を読込んだあとに仕上りプレビューを確認できます。差込みページについて詳しくは、「追加原稿を指定したページに差込む（差込みページ）」（p. 7-29）をごらんください。
・ブック連写、小冊子を設定する場合は、仕上り状態を確認できません。印刷をして仕上りを確認してください。

4

確認方法で［プレビュー画像で確認］を押し、原稿セット方向を選択します。

＜原稿ガラスにセットした場合＞



＜ADF にセットした場合＞



5

【スタート】を押します。

原稿の読込みを開始し、プレビュー詳細画面（状態表示）が表示されます。

6

プレビュー画像を確認します。

- 設定を変更する場合は、［確認表示］を押します。手順 7 へ進みます。
- 印刷を開始する場合は、【スタート】を押します。
- さらに原稿を読込む場合は、［読込み終了］を押したあと、原稿をセットし、【スタート】を押します。



ひとこと

【ストップ】を押すと、プレビュー表示を中止します。

7

設定を変更して、［状態表示］を押します。



8

【スタート】を押します。

印刷を開始します。

ひとこと

確認表示画面について詳しくは、「プレビュー詳細画面」（p. 3-8）をごらんください。

3.4　割込んでコピーする（割込み）

他のジョブの進行を中断し、一時的に異なるコピー条件でコピーできます。
急いでコピーをしたいときなどに便利です。

1 原稿をセットします。

2 【割込み】を押します。
- 現在のジョブが印刷中の場合は、「もうすぐ止まります」と表示されます。



割込みランプが緑色に点灯し、印刷中のジョブは中断されます。

3 目的のコピー条件を設定します。

4 【スタート】を押します。
割込みコピーを開始します。

5 割込みジョブの印刷が終了したら、【割込み】を押します。
割込みランプが消灯し、割込みコピー設定が解除されます。
割込みコピー前のコピー条件が復帰します。

参照
印刷が終了した時点で割込みコピーを行う場合は、「優先出力の設定をする」（p. 10-12）をごらんください。

詳しく説明します
- 原稿読込み中は【割込み】を押すことができません。
- 【割込み】を押すと、コピー条件は初期設定に戻ります。

参照
原稿セット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと
割込みコピーを解除すると、割込み前に中断したジョブの印刷が自動的に再開されます。

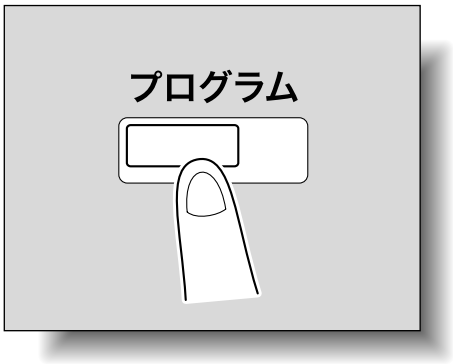
3.5　コピー条件を登録する（プログラム登録）

よく使う各種コピー設定条件の組合わせを、プログラムとして最大 30 件まで本機に登録し、簡単に呼出すことができます。

登録するコピープログラムは、全角で最大 8 文字まで、半角で最大 16 文字までの登録名称を付けることができます。

1 タッチパネルのキーおよび操作パネルのキーを使って、プログラムに登録するコピー条件を設定します。

2 【プログラム】を押します。



コピープログラム呼出し画面が表示されます。

3 画面に表示されているコピープログラムキーの中から、コピー条件を登録したいキーを押し、［プログラム登録］を押します。



登録名称入力画面が表示されます。

4 キーボードおよびテンキーで登録名称を入力します。

❍ 登録名称は全角で最大 8 文字、半角で最大 16 文字で登録できます。



ひとこと

左エリアの［設定内容］を押し、［詳細確認］を押すと、現在設定されているコピー条件を確認できます。詳しくは、「コピー条件を確認する（設定内容）」（p. 3-2）をごらんください。

詳しく説明します

以降の操作途中に登録を中断する場合は、【リセット】または【プログラム】を押します。
いずれの画面が表示されていても、登録操作は中断されます。
または、基本設定画面に戻るまで［中止］を押します。

詳しく説明します

・コピープログラム呼出し画面は 3 画面に分かれています。［↑］または［↓］で切換えて表示します。
・コピープログラムが 30 件登録されている場合は、不要なコピープログラムを削除してから登録してください。コピープログラムの削除については、「コピープログラムの削除のしかた」（p. 3-16）をごらんください。

参照

文字の入力のしかたは「文字を入力するには」（p. 12-2）をごらんください。

詳しく説明します

・既存のコピープログラムキーと同じ登録名称をつけることができます。
・登録名称の入力を中断する場合は、［中止］を押します。

5 入力が完了したら、[OK] を押します。



コピープログラム呼出し画面に戻ります。登録が完了し、入力した登録名称のキーが表示されます。



6 [OK] または、[中止] を押します。

❍【プログラム】を押しても基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

- 入力した登録名称を変更する場合は、変更するコピープログラムキーを押し、[名称変更] を押します。名称変更画面が表示されます。手順 4 からの操作をし、登録名称を変更します。
- コピープログラムキーを押し、[設定内容] を押すと、登録したコピープログラムを確認できます。詳しくは、「登録したコピー条件でコピーする（コピープログラム呼出し）」（p. 3-17）をごらんください。
- コピープログラムの内容は、変更できません。
- コピープログラムロック設定を行ったコピープログラムを選択すると、[名称変更]、[削除] は表示されません。詳しくは、「環境設定」（p. 11-22）をごらんください。

3.5.1　コピープログラムの削除のしかた

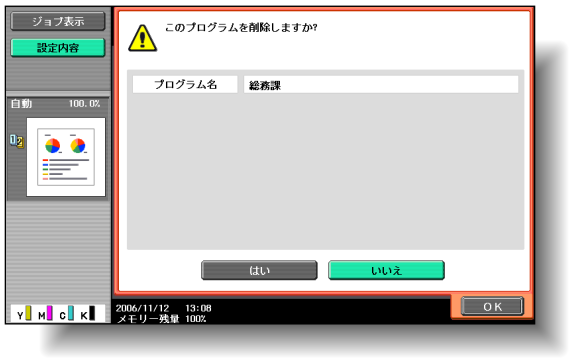
1 コピープログラム呼出し画面で、削除したいコピープログラムキーを押します。

2 ［削除］を押します。



削除確認画面が表示されます。

3 ［はい］を押し、［OK］を押します。



プログラム呼出し画面に戻ります。キーと登録されていたコピー条件は削除されます。

詳しく説明します

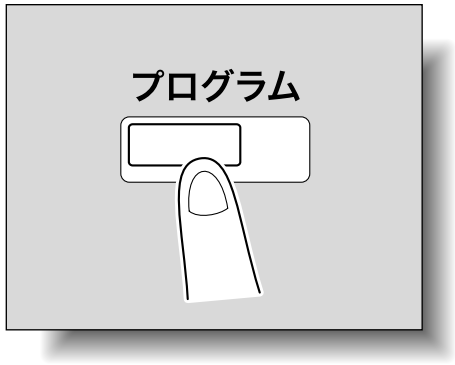
呼出したいコピープログラムが表示されていないときは、［↑］または［↓］で、表示を切換えます。

3.6　登録したコピー条件でコピーする（コピープログラム呼出し）

登録したコピー条件を呼出しコピーします。

1 原稿をセットします。

2 【プログラム】を押します。



コピープログラム呼出し画面が表示されます。

3 呼出したいコピー条件が登録されているコピープログラムキーを押します。



❍ 選択したコピープログラムキーに登録されているコピー条件を確認しない場合は、手順 8 へ進みます。

4 ［設定内容］を押します。



設定内容画面が表示されます。

参照

原稿セット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

詳しく説明します

・コピープログラムの呼出しを中断する場合は、【リセット】、【プログラム】、［中止］いずれかを押します。
・呼出したいコピープログラムが表示されていないときは、［↑］または［↓］で、表示を切換えます。

5

選択したコピープログラムキーに登録されているコピー条件を確認します。



6

［閉じる］を押します。

コピープログラム呼出し画面に戻ります。

7

もう 1 度呼出したいコピー条件が登録されているコピープログラムキーを押します。

8

［OK］を押します。

登録されていたコピー条件を呼出して設定し、基本設定画面に戻ります。

9

【スタート】を押します。

呼出されたコピー条件でコピーを開始します。

詳しく説明します

・設定内容画面は 6 画面あります。画面タイトルの右側に現在の画面番号が表示されます。
・［←前画面］を押すと 1 つ前の画面に、［次画面→］を押すと次の画面に切換わります。
・設定内容画面では、設定変更できません。

詳しく説明します

コピープログラムキーを選択しないで［OK］を押すと、コピープログラムを呼出さずに基本設定画面に戻ります。

3.7　機能説明画面を表示させる（ヘルプ機能）

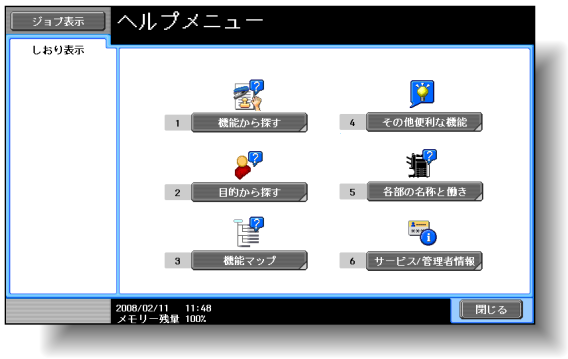
各機能の説明や操作方法を画面上に表示して、確認できます。
ヘルプ画面の表示方法は 2 つあります。

- ヘルプ基本画面（基本設定画面から）
- 設定手順のヘルプ画面（基本設定画面以外の画面から）

3.7.1　　ヘルプ基本画面の概要

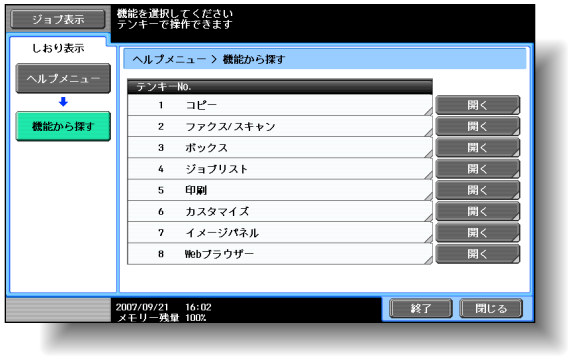
ヘルプは、以下のメニューで構成されています。

- 第 1 階層 ヘルプメインメニュー



項目	説明
[機能から探す]	機能の種類と名称で分類されたヘルプメニューから説明を確認できます。
[目的から探す]	行いたい操作の種類で分類されたヘルプメニューから説明を確認できます。
[機能マップ]	機能マップ画面へ進みます。機能や設定項目が階層表示されます。
[その他便利な機能]	便利な機能で分類されたヘルプメニューから説明を確認できます。
[各部の名称と働き]	各部の名称と働きのヘルプメニューへ進みます。本体とオプションについての説明を確認できます。
[サービス / 管理者情報]	管理者名、内線番号、E-Mail アドレスを確認できます。

- 第 2 階層以下のヘルプメニュー（例：機能から探す）



項目	説明
[コピー]、[ファクス / スキャン]、[ボックス]、[ジョブリスト]、[印刷]、[カスタマイズ]、[イメージパネル]、[Web ブラウザー]	各キーのヘルプ画面の 1 画面目へ進みます。

詳しく説明します

以下の状態のときはヘルプ機能を使用できません。
・スキャン中、確認コピー中、仕上りプレビュー時、拡大表示時、ユニバーサル設定中
ヘルプ機能使用中は、以下の操作パネルのキーは無効となります。
・【スタート】、【ストップ】、【C】、【割込み】、【確認コピー】、【ID】、【プログラム】、【拡大表示】

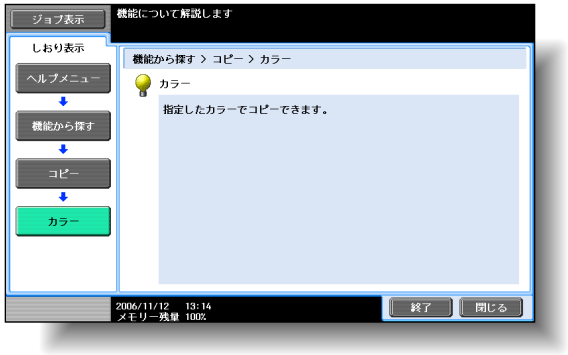
詳しく説明します

・メインメニュー画面とヘルプメニュー画面では、画面のキーを押すか、キーの番号をテンキーで押して項目を選択します。
・[閉じる] を押すと、1 つ上の階層が表示されます。
・[終了] を押すと、ヘルプ機能を終了し、【ヘルプ】を押す前の画面に戻ります。

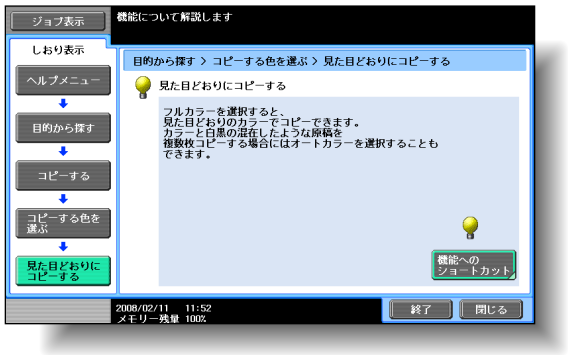
詳しく説明します

各部の名称と働きのヘルプメニューは、装着されているオプションの構成によって表示される項目が異なります。

- 最終階層 ヘルプ画面（例：機能から探す→コピー→カラー）

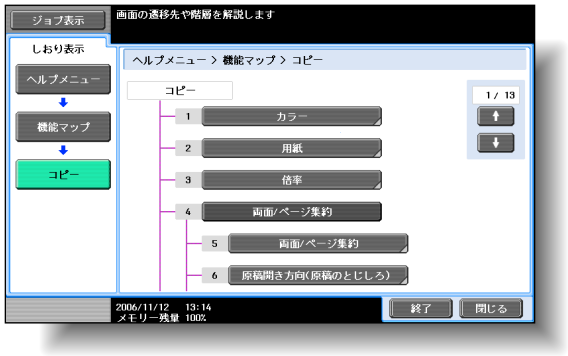


- 最終階層 ヘルプ画面（例：目的から探す→コピーする→コピーする色を選ぶ→見た目どおりにコピーする）



  - ［機能へのショートカット］を押すと、選択した目的の機能を設定することができます。

- 機能マップについて（例：コピー）



  - 機能マップ画面では、機能や設定項目が階層表示されます。一覧から見たいヘルプ画面を選択できます。

詳しく説明します

選択している機能と異なる機能のヘルプをごらんの場合、［機能へのショートカット］を選択することはできません。
例えば、ファクス / スキャン機能を使用している場合に、別機能であるコピー機能のヘルプ画面に表示される［機能へのショートカット］を選択することはできません。

詳しく説明します

- コピーの機能マップ画面は、全部で 13 画面あります。数字の分子が 13 画面のうちの現在表示されている画面番号を示しています。
- ［↑］を押すと 1 つ前の画面に、［↓］を押すと次の画面に切換わります。
- 機能マップ画面では、テンキーで番号を押して選択します。
- 機能マップ画面で選択して表示したヘルプ画面で、［閉じる］を押すと表示した項目を含む［機能から探す］のメニュー階層が表示されます。

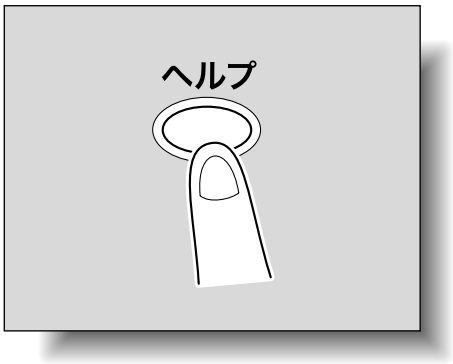
3.7.2　ヘルプ基本画面を表示させる

ここでは、［機能から探す］でコピーに関するヘルプ画面を表示させる場合を例として説明します。

詳しく説明します

ヘルプ機能を終了する場合は、【ヘルプ】または［終了］を押します。

1 基本設定画面で、【ヘルプ】を押します。

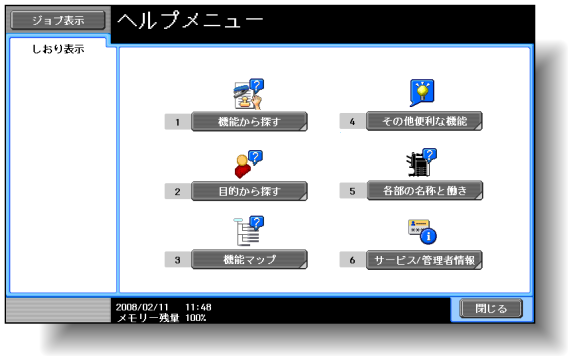


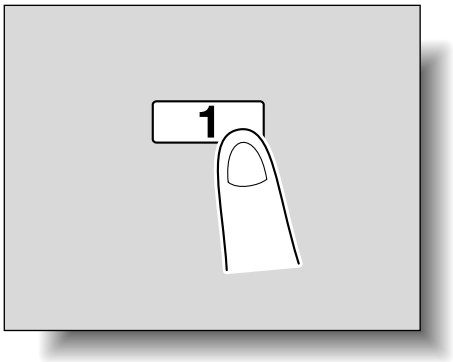
ヘルプメインメニューが表示されます。

参照

ヘルプ画面のキーについては、「ヘルプ基本画面の概要」（p. 3-19）をごらんください。

2 ［機能から探す］またはテンキーの【1】を押します。

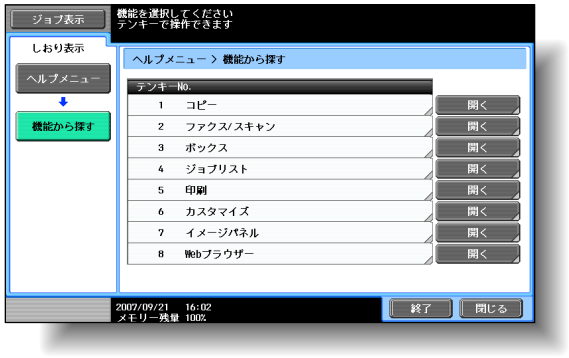




［機能から探す］のメインメニューが表示されます。

3

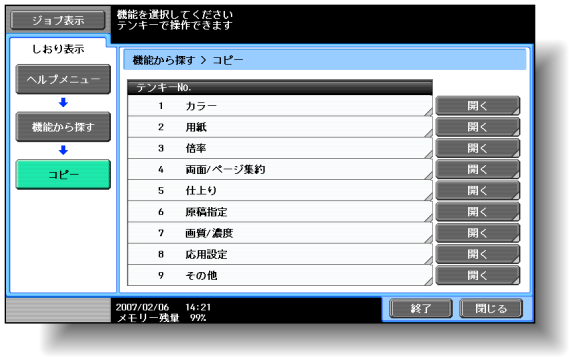
［コピー］、［開く］またはテンキーの【1】を押します。



コピーに関するヘルプメニューが表示されます。

4

知りたい項目または［開く］を押すか、項目左の番号をテンキーで押し、目的のヘルプ画面を表示させます。



5

ヘルプ内容の確認が終了したら、［終了］または【ヘルプ】を押します。

基本設定画面に戻ります。

3.8　操作パネルの設定をする（ユニバーサル設定）

操作パネルに関する設定を変更する方法と、タッチパネルの調整について説明します。

3.8.1　ユニバーサル設定画面を表示させる

➔ 【ユニバーサル】を押します。



ユニバーサル設定画面が表示されます。

詳しく説明します

ユニバーサル設定画面から基本設定画面に戻りたい場合は、【ユニバーサル】または【リセット】、［閉じる］を押します。

ひとこと

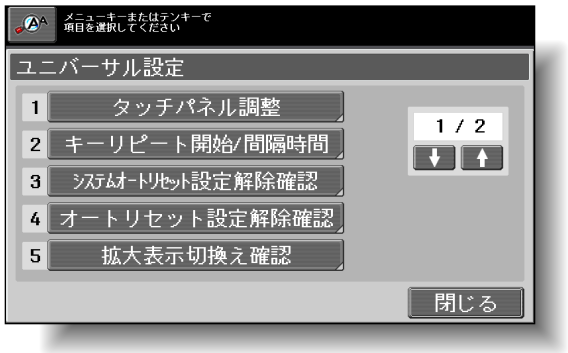
拡大表示にしていた場合、［拡大表示初期設定］が表示され、コピー機能、ファクス / スキャン機能での拡大表示時の初期設定値を設定できます。

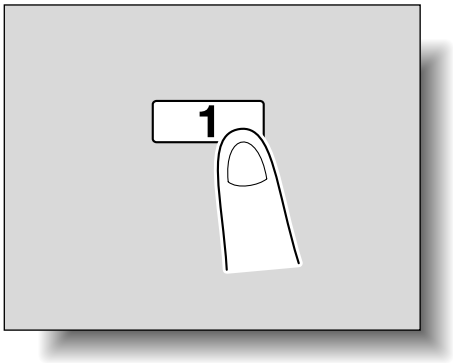
3.8.2　タッチパネルの調整をする

タッチパネルのキーを押しても正常に反応しないときは、パネル内のキー表示位置と実際のタッチセンサの位置がずれている可能性があるため、タッチパネルの表示位置を調整します。

1 ユニバーサル設定画面を表示させます。

2 ［タッチパネル調整］またはテンキーの【1】を押します。





タッチパネル調整画面が表示されます。

参照

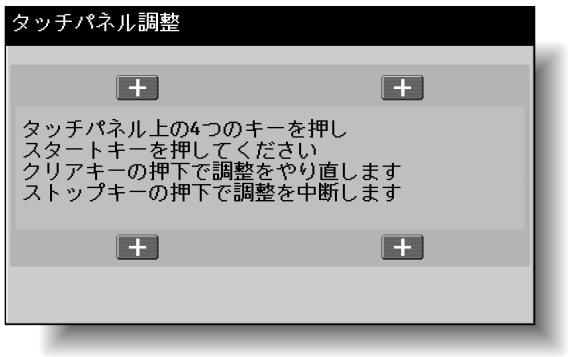
ユニバーサル設定画面の表示のしかたについては、「ユニバーサル設定画面を表示させる」（p. 3-23）をごらんください。

ひとこと

［タッチパネル調整］を押しても反応しない場合は、タッチセンサと画面が合っていません。テンキーの【1】を押してください。

3

4 つのチェックキー［+］を、ブザー音を確認しながら押します。



正しく押されると、【スタート】のランプが青色に点灯します。

4

【スタート】を押します。

タッチパネルの調整が行われ、ユニバーサル設定画面に戻ります。

5

［閉じる］または【ユニバーサル】を押します。

基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

・チェックキー［+］を押す順番は、任意でかまいません。
・調整をやりなおすときは【C】を押し、4 つのチェックキー［+］を押しなおしてください。
・タッチパネルの調整を中断する場合は、【ストップ】または【リセット】を押します。

ひとこと

調整できないときは、サービス実施店にご連絡ください。

3.8.3　キーリピート開始 / 間隔時間の設定をする

タッチパネル内の数値設定のキーを押してから数値が変わり始めるまでの時間と、次の数値に変わるまでの時間を設定できます。

原則

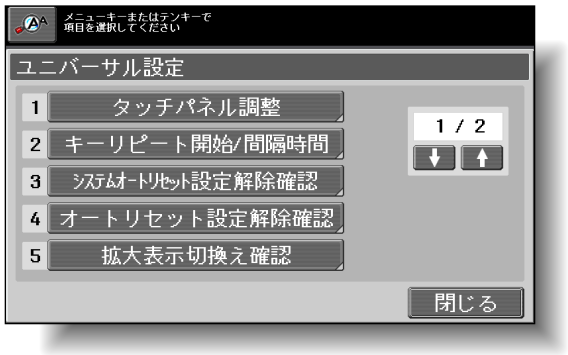
設定したキーリピート時間は拡大表示時にのみ反映されます。

1

ユニバーサル設定画面を表示させます。

2

［キーリピート開始 / 間隔時間］またはテンキーの【2】を押します。

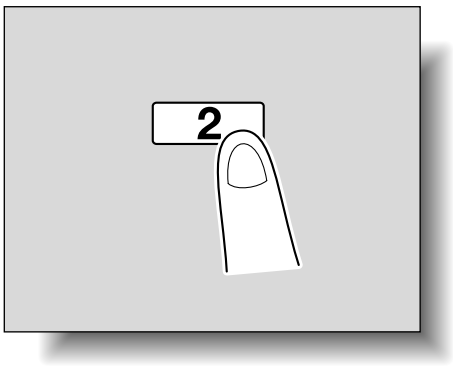


ひとこと

・拡大表示画面は、コピー、スキャナー、ファクスの基本的な機能に対応しています。文字やイラストが拡大サイズで表示されるため見やすくなっています。詳しくは、「ユーザーズガイド 拡大表示機能編」をごらんください。
・出荷時設定では、キーリピート開始は「0.8 秒」、間隔時間は「0.3 秒」に設定されています。

参照

ユニバーサル設定画面の表示のしかたについては、「ユニバーサル設定画面を表示させる」（p. 3-23）をごらんください。



キーリピート開始 / 間隔時間設定画面が表示されます。

3 [+]、[-] を押して、キーリピート開始までの時間と間隔時間を設定します。



4 [OK] を押します。

ユニバーサル設定画面に戻ります。

5 [閉じる] または【ユニバーサル】を押します。

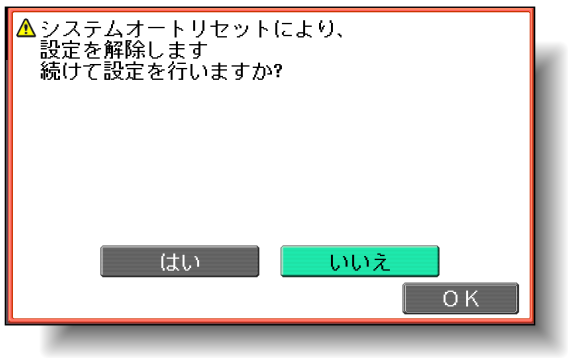
基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

- [+] を押すごとに時間が長くなります。
- [-] を押すごとに時間が短くなります。
- キーリピート開始、間隔時間はともに、0.1 秒～ 3.0 秒の範囲を 0.1 秒単位で設定できます。
- 設定を中止する場合は、【リセット】を押します。

3.8.4　拡大表示が自動的に解除されるときに確認画面を表示する

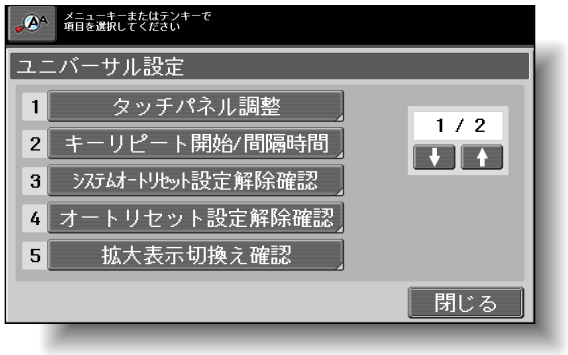
拡大表示中にシステムオートリセット機能が動作し、拡大表示が解除されるときに、拡大表示を解除せずそのまま作業を続けるか、拡大表示を解除して基本設定画面に戻るか確認する画面を表示できます。
また、確認画面が表示される時間を設定できます。

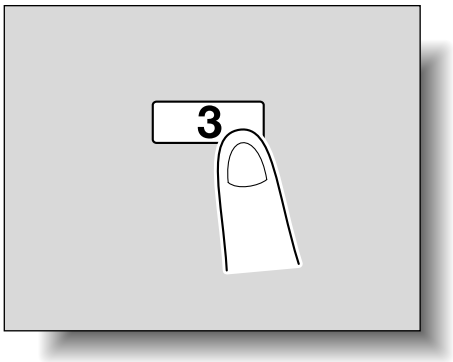


- はい：拡大表示を解除しません。
- いいえ：拡大表示を解除し、基本設定画面に戻ります。

1. ユニバーサル設定画面を表示させます。

2. ［3 システムオートリセット設定解除確認］またはテンキーの【3】を押します。





拡大表示解除確認画面が表示されます。

ひとこと

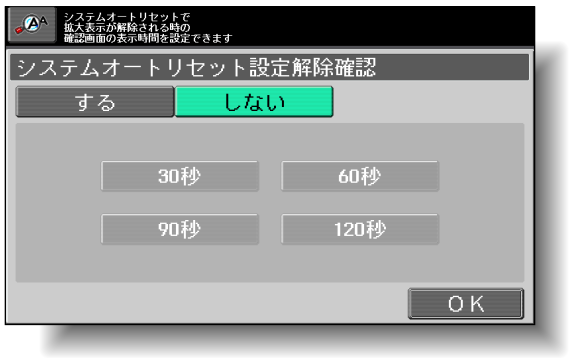
・拡大表示画面は、コピー、スキャナー、ファクスの基本的な機能に対応しています。文字やイラストが拡大サイズで表示されるため見やすくなっています。詳しくは、「ユーザーズガイド 拡大表示機能編」をごらんください。
・出荷時設定では、「しない」に設定されています。

参照

・ユニバーサル設定画面の表示のしかたについては、「ユニバーサル設定画面を表示させる」（p. 3-23）をごらんください。
・システムオートリセットについては、「自動的に機能画面を取消す（システムオートリセット）」（p. 1-28）をごらんください。

3

目的の表示方法を選択します。



4

［OK］を押します。

ユニバーサル設定画面に戻ります。

5

［閉じる］または【ユニバーサル】を押します。

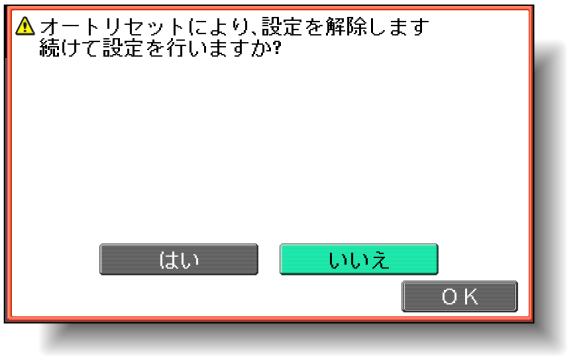
基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

・拡大表示解除確認画面を表示しない場合は、［しない］を押します。
・拡大表示解除確認画面を表示する場合は、目的の時間キーを押します。時間は、［30 秒］、［60 秒］、［90 秒］、［120 秒］から選択できます。
・設定を中止する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

3.8.5　拡大表示中に設定がオートリセットされるときに確認画面を表示する

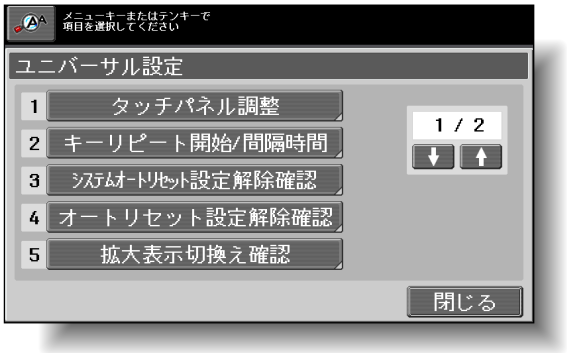
拡大表示中にオートリセット機能が動作し、コピーの設定が初期状態に戻されるときに、現在の設定をリセットせずそのまま作業を続けるか、設定をリセットするか確認する画面を表示できます。
また、確認画面が表示される時間を設定できます。

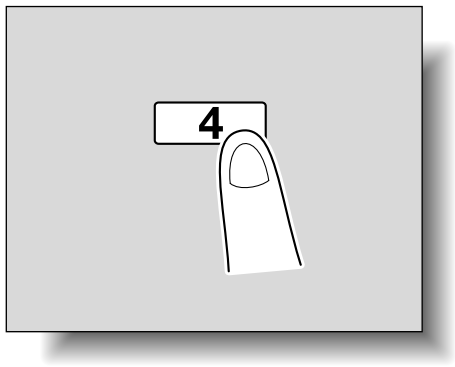


- はい：現在の設定をリセットしません。
- いいえ：現在の設定をリセットし、初期状態に戻します。

1 ユニバーサル設定画面を表示させます。

2 ［オートリセット設定解除確認］またはテンキーの【4】を押します。





オートリセット設定解除確認画面が表示されます。

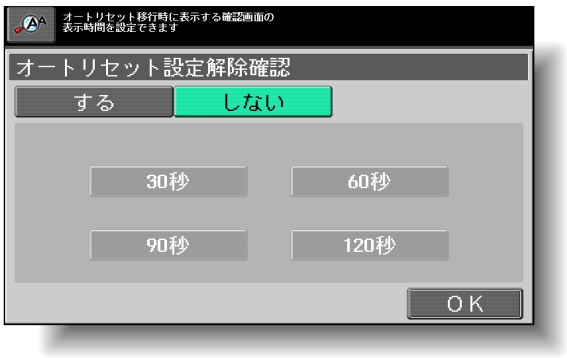
ひとこと

- 拡大表示画面は、コピー、スキャナー、ファクスの基本的な機能に対応しています。文字やイラストが拡大サイズで表示されるため見やすくなっています。拡大表示については、別冊の「ユーザーズガイド 拡大表示機能編」をごらんください。
- 出荷時設定では、「しない」に設定されています。
- オートリセットの時間設定とシステムオートリセットの時間設定が同じ場合は、拡大表示解除確認画面の表示が優先され、拡大表示設定解除確認は表示されません。

参照

- ユニバーサル設定画面の表示のしかたについては、「ユニバーサル設定画面を表示させる」（p. 3-23）をごらんください。
- オートリセットについては、「自動的に設定を取消す（オートリセット）」（p. 1-28）をごらんください。

3 目的の表示方法を選択します。



4 ［OK］を押します。

ユニバーサル設定画面に戻ります。

5 ［閉じる］または【ユニバーサル】を押します。

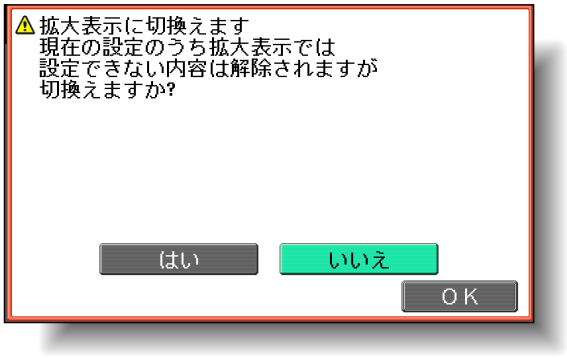
基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

・オートリセット設定解除確認画面を表示しない場合は、［しない］を押します。
・オートリセット設定解除確認画面を表示する場合は、目的の時間キーを押します。時間は、［30秒］、［60 秒］、［90 秒］、［120秒］から選択できます。
・設定を中止する場合は【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

3.8.6　拡大表示に切換えるときに、設定解除の確認画面を表示する

【拡大表示】を押して画面表示を切換えるときに、拡大表示中は設定できない一部の内容が解除される画面を表示できます。



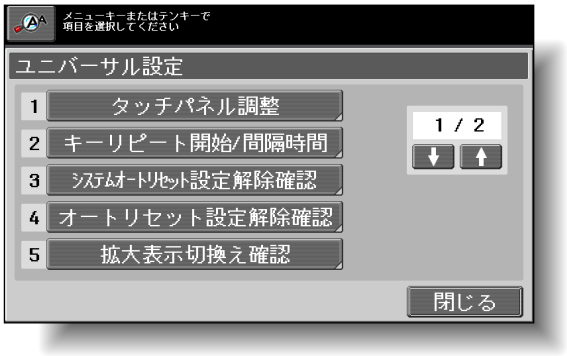
- はい：設定できない内容を解除し、拡大表示に切換えます。
- いいえ：拡大表示への切換えを中止します。

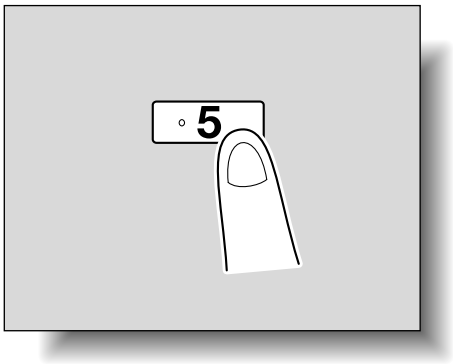
ひとこと

・拡大表示画面は、コピー、スキャナー、ファクスの基本的な機能に対応しています。文字やイラストが拡大サイズで表示されるため見やすくなっています。拡大表示については、別冊の「ユーザーズガイド 拡大表示機能編」をごらんください。
・出荷時設定では、「表示しない」に設定されています。
・拡大表示切換え確認画面で［いいえ］を押すと、画面表示は切換わりません。

1 ユニバーサル設定画面を表示させます。

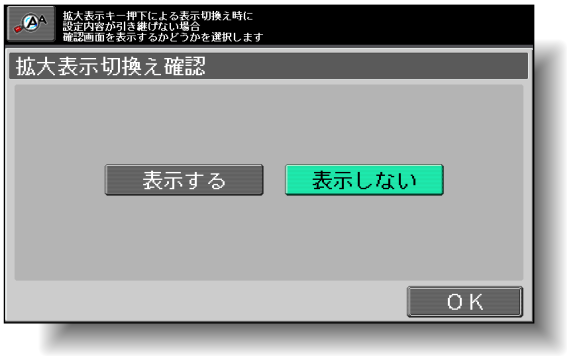
2 ［拡大表示切換え確認］またはテンキーの【5】を押します。





拡大表示切換え確認画面が表示されます。

3 表示方法を選択します。



4 ［OK］を押します。
ユニバーサル設定画面に戻ります。

5 ［閉じる］または【ユニバーサル】を押します。
基本設定画面に戻ります。

参照
ユニバーサル設定画面の表示のしかたについては、「ユニバーサル設定画面を表示させる」（p. 3-23）をごらんください。

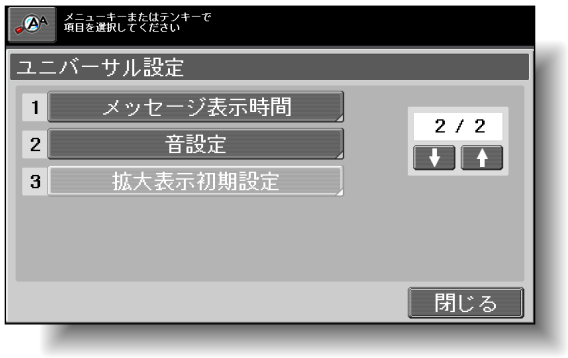
詳しく説明します
設定を中止する場合は【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

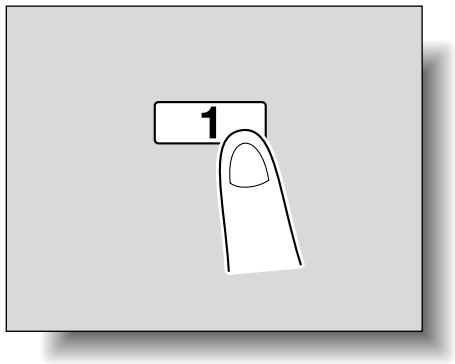
3.8.7　メッセージ表示時間の設定をする

誤った操作を行ったときなどに表示される警告メッセージの表示時間を設定できます。

1 ユニバーサル設定画面を表示させ、[↓]を押して表示を切換えます。

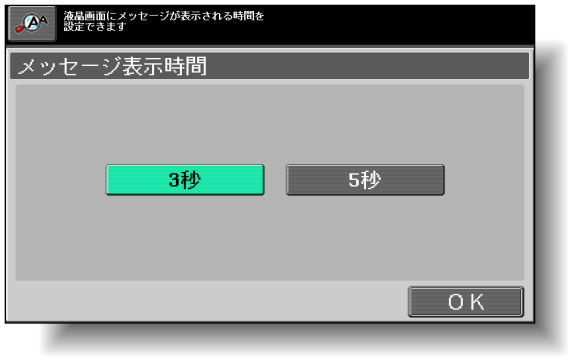
2 [メッセージ表示時間]またはテンキーの【1】を押します。





メッセージ表示時間設定画面が表示されます。

3 メッセージ表示時間を選択します。



4 [OK]を押します。

ユニバーサル設定画面に戻ります。

5 [閉じる]または【ユニバーサル】を押します。

基本設定画面に戻ります。

ひとこと

出荷時設定では、「3 秒」に設定されています。

参照

ユニバーサル設定画面の表示のしかたについては、「ユニバーサル設定画面を表示させる」（p. 3-23）をごらんください。

詳しく説明します

- メッセージ表示時間は、[3 秒]、[5 秒]から選択できます。
- 設定を中止する場合は【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

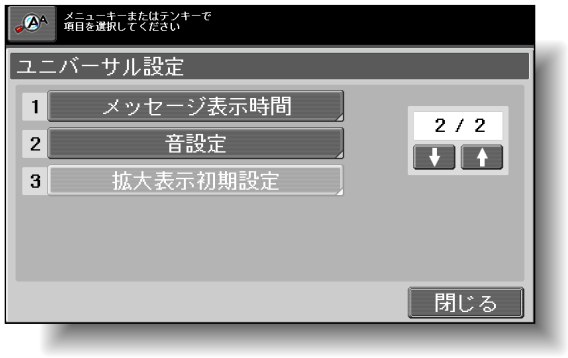
3.8.8　装置の状態を知らせる音の設定をする

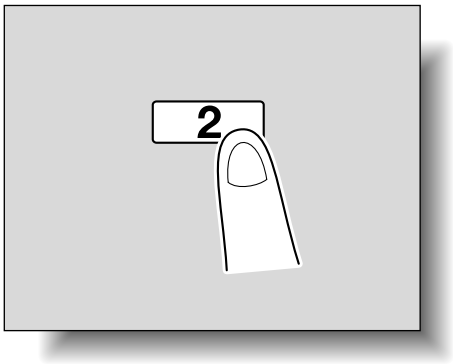
［音設定］では、キー操作などに関連して音を鳴らす設定ができます。
音設定には以下の設定があります。

		音が鳴る状況
操作確認音	入力確認音	操作パネルのキーやタッチパネルのキーを押して入力を行ったとき
	入力無効音	操作パネルのキーやタッチパネルのキーを押したが無効な入力だったとき
	基点音	切換えがローテーションする選択項目で、初期値となる項目が選ばれたとき
正常終了音	操作終了音	操作が正常に終了したとき
	通信終了音	通信関連の操作が正常に終了したとき
準備完了音		装置の準備が完了したとき
注意音	弱注意音（Level 1）	各消耗品および交換部品が交換時期に近づき、タッチパネルにメッセージが表示されたとき
	弱注意音（Level 2）	ユーザーが誤操作を行ったとき
	弱注意音（Level 3）	画面メッセージおよびマニュアルの参照等によりユーザーが対処可能なエラーが発生したとき
	強注意音	ユーザーでは復帰不可能な、サービス技術者対応レベルのエラーが発生したとき

1 ユニバーサル設定画面を表示させ、［↓］を押して表示を切換えます。

2 ［音設定］またはテンキーの【2】を押します。





音設定画面が表示されます。

ひとこと

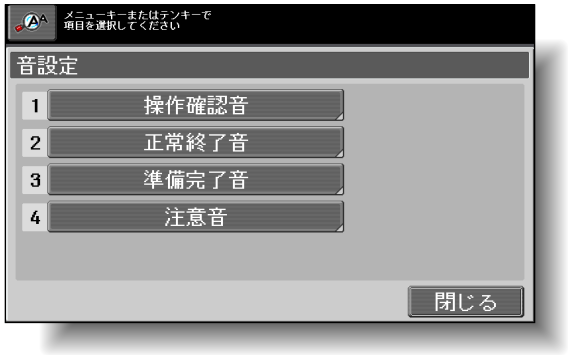
出荷時設定では、全ての操作音は「中」に設定されています。

参照

ユニバーサル設定画面の表示のしかたについては、「ユニバーサル設定画面を表示させる」（p. 3-23）をごらんください。

3

目的の音設定を選択します。または該当するテンキーの数字を押します。



音設定画面が表示されます。

4

音を設定します。

❍ 鳴らす場合は［する］を押し、音量を［小］［中］［大］から選択します。鳴らさない場合は［しない］を押します。



5

［OK］を押します。

音設定画面に戻ります。

6

［閉じる］を押します。

ユニバーサル設定画面に戻ります。

7

［閉じる］を数回押すか、または【ユニバーサル】を押します。

基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

設定を中止する場合は【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

第 4 章
トラブルの処理

トラブルの処理方法について説明します。

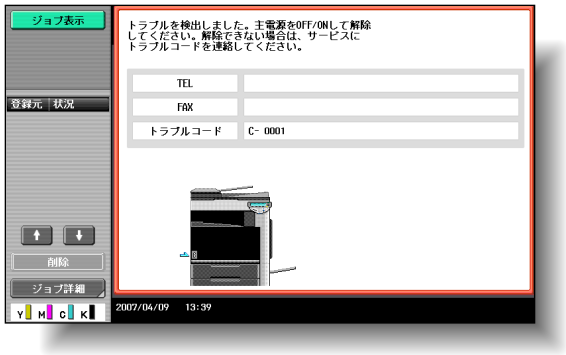
4.1　「トラブル」が表示されたら（サービスコール）.....4-2
4.2　「紙づまりです」と表示されたら 4-4
4.3　「ステープルできませんでした」と表示されたら 4-57
4.4　「用紙を補給してください」と表示されたら 4-64
4.5　「メモリー残量不足のため、…」と表示されたら 4-65
4.6　「以下のユニットが交換時期に達しています」と表示されたら 4-66
4.7　「…交換してください」と表示されたら 4-67
4.8　「リモート操作中です 電源を切断しないでください」と表示されたら 4-68
4.9　簡単なトラブルの処理 4-69
4.10　おもなメッセージと処理のしかた 4-71

4.1 「トラブル」が表示されたら（サービスコール）

トラブルの種類には、前ドアを開閉して処理するトラブル、電源をOFF/ON して処理するトラブル、処理できないトラブルがあります。画面のメッセージにしたがって、トラブル処理をしてください。処理または解除できない場合は、トラブルコードをサービス実施店に連絡してください。

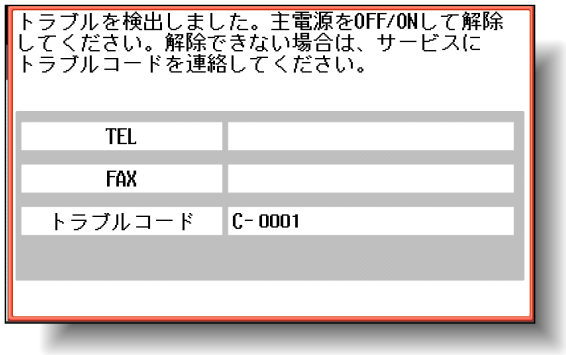
画面の中央には、通常、お客様のサービス実施店の電話番号とファクス番号が表示されます。

例：電源を OFF/ON して処理するトラブル（C0001）



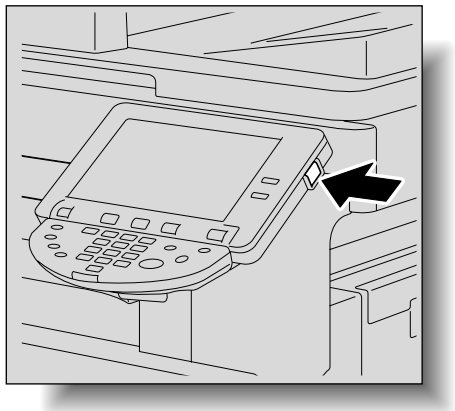
＜拡大表示機能時の表示＞

トラブルが発生すると下図が表示されます。



1 サービスコール画面のトラブルコード（例：C-0001）を書留めてください。

2 【副電源スイッチ】と【主電源スイッチ】を OFF にします。

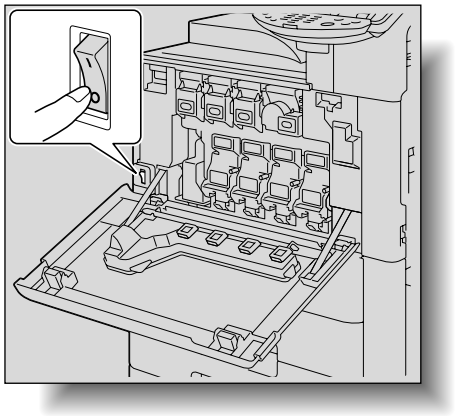


必ず守ってください

- 故障の原因になるおそれがありますので、サービスコール画面が表示されたら、速やかに左記の手順にしたがってサービス実施店にご連絡ください。
- CS Remote Care による管理が行われている機械の場合は、「すでに自動通報により サービスに通知しました お急ぎの方は担当営業所へ連絡願います」の表示後に【副電源スイッチ】、【主電源スイッチ】を OFF にして、本体の電源プラグをコンセントから抜いてください。

ひとこと

サービス実施店による CS Remote Care が行われている機械の場合は、自動でサービス実施店にトラブルコードが連絡されます。



3 本体の電源プラグをコンセントから抜きます。

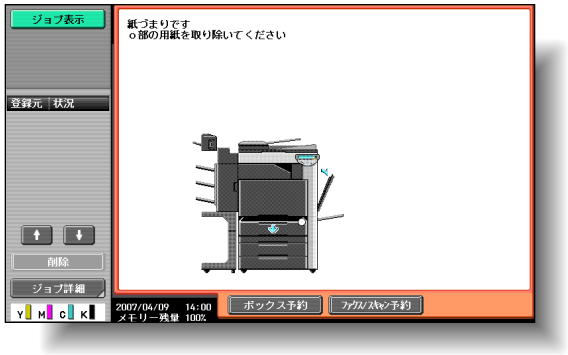
4 サービス実施店に連絡し、書留めたトラブルコードをお知らせください。

4.2 「紙づまりです」と表示されたら

印刷中に紙づまりが発生すると、「紙づまりです」というメッセージと、紙づまりの箇所が画面上に表示されます。（紙づまり位置表示画面）
このとき、紙づまりが適切に処理されるまでは、印刷ができなくなっています。

4.2.1 表示と紙づまり箇所

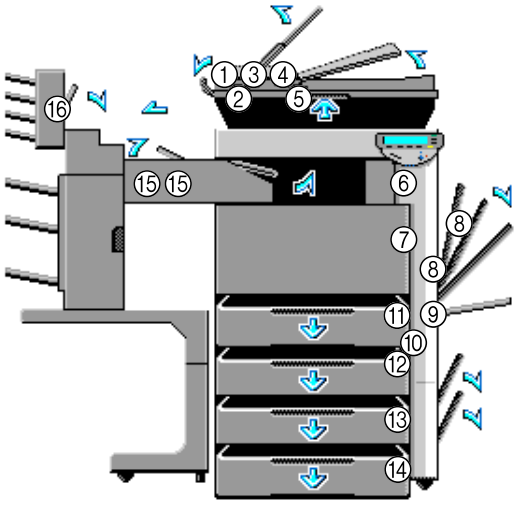
“○”マークが点滅している箇所が紙づまり発生位置です。また、“○”マークが点灯している箇所は、紙づまりの可能性がある位置ですので確認してください。
例：トレイ 1 で紙づまりが発生した場合のメッセージ



＜拡大表示機能時の表示＞
紙づまりが発生すると下図が表示されます。



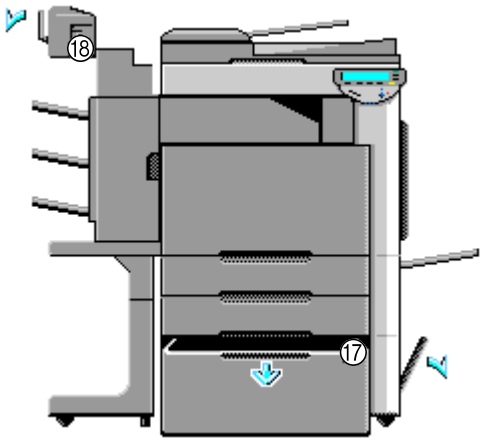
4.2.2 紙づまり位置表示



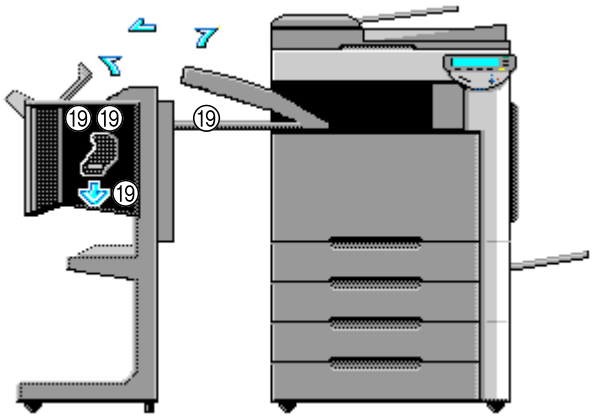
* 本図はオプションのフィニッシャー FS-519、メールビン、2 段給紙キャビネットを装着しています。

ひとこと

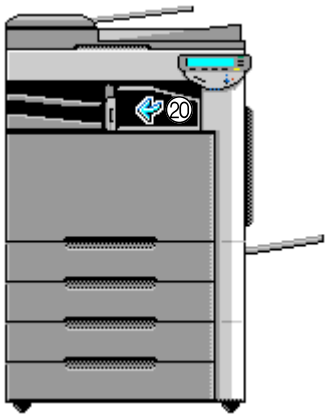
紙づまりが発生した箇所により紙づまり処理手順が異なります。紙づまり位置表示を見て、それぞれの説明にしたがって用紙を取除いてください。



* 本図はオプションのフィニッシャー FS-519、中綴じ機、LCT を装着しています。



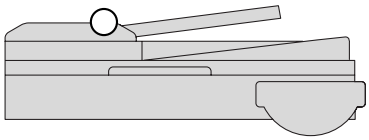
* 本図はオプションのフィニッシャー FS-609、2 段給紙キャビネットを装着しています。



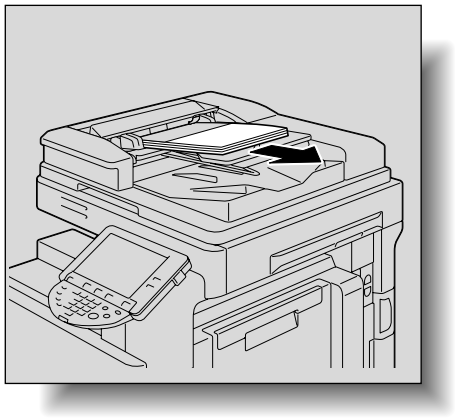
* 本図はオプションのセパレータ、2 段給紙キャビネットを装着しています。

No	説明
1	ADF での紙づまり 搬送部（p. 4-9）
2	ADF での紙づまり 読取り部（p. 4-13）
3	ADF での紙づまり 給紙部（p. 4-7）
4	ADF での紙づまり 排紙部（p. 4-16）
5	ADF での紙づまり 反転部（p. 4-18）
6	定着部での紙づまり（p. 4-21）
7	本体内部での紙づまり（p. 4-24）
8	両面ユニットでの紙づまり（p. 4-27）
9	手差しトレイでの紙づまり（p. 4-28）
10	用紙縦搬送部での紙づまり（p. 4-31）
11	トレイ 1 での紙づまり（p. 4-32）
12	トレイ 2 での紙づまり（p. 4-35）
13	トレイ 3 での紙づまり（p. 4-37）
14	トレイ 4 での紙づまり（p. 4-37）
15	フィニッシャー FS-519 での紙づまり（p. 4-45）
16	メールビンでの紙づまり（p. 4-48）
17	LCT での紙づまり（p. 4-39）
18	中綴じ機での紙づまり（p. 4-50）
19	フィニッシャー FS-609 での紙づまり（p. 4-52）
20	セパレータでの紙づまり（p. 4-55）

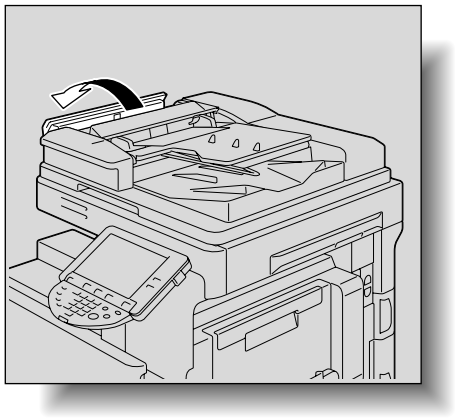
4.2.3 ADF での紙づまり処理のしかた（給紙部）



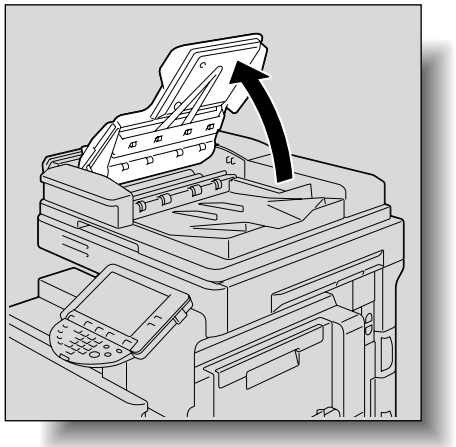
1 原稿給紙トレイに残っている原稿を取除きます。



2 左カバーを開きます。



3 原稿給紙トレイを止まる位置まで上げます。



参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」（p. 4-4）をごらんください。

4

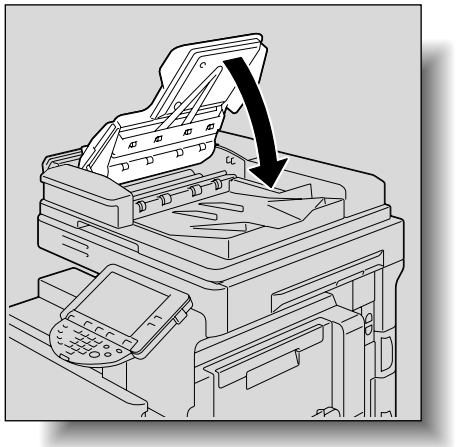
つまっている原稿をゆっくり取除きます。





5

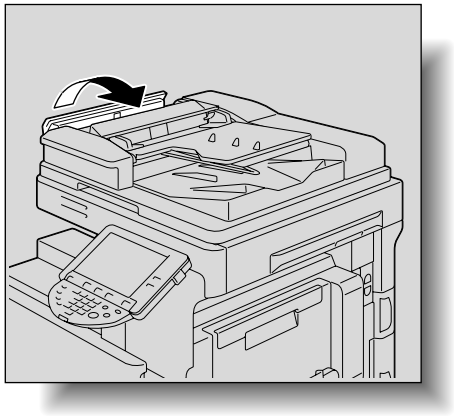
原稿給紙トレイを元の位置に戻します。



必ず守ってください

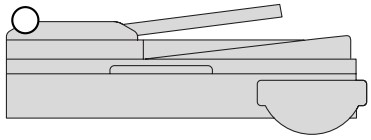
・原稿破損の原因となりますので、原稿給紙トレイを上げてから、つまっている原稿を取除いてください。
・つまっている原稿は、必ず通紙方向に取除いてください。

6 左カバーを閉じます。

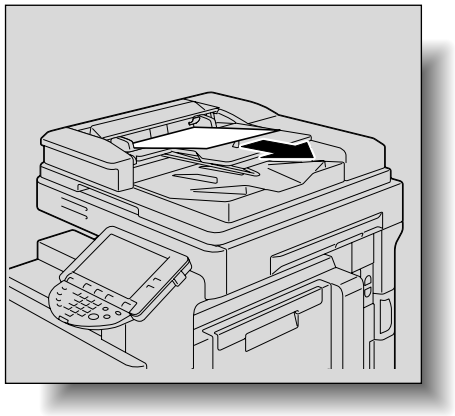


7 画面表示にしたがって、原稿を原稿給紙トレイにセットします。

4.2.4 ADF での紙づまり処理のしかた（搬送部）



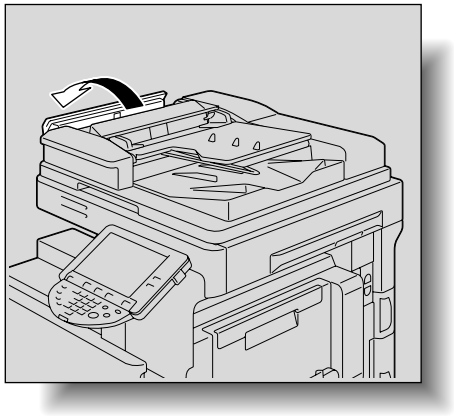
1 原稿給紙トレイに残っている原稿を取除きます。



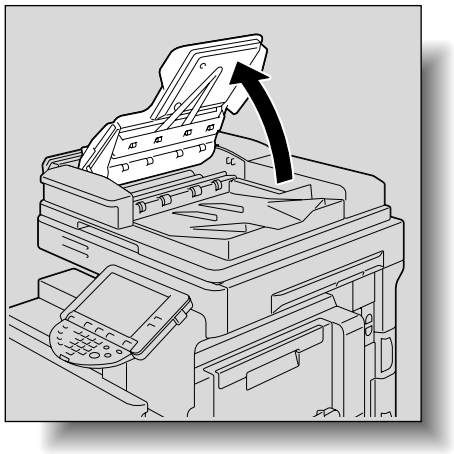
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」（p. 4-4）をごらんください。

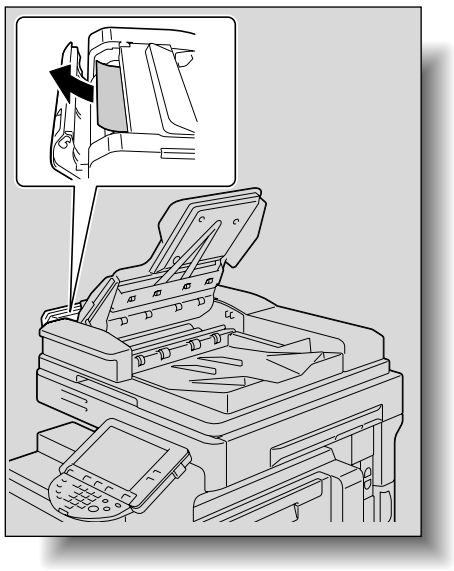
2 左カバーを開きます。



3 原稿給紙トレイを止まる位置まで上げます。

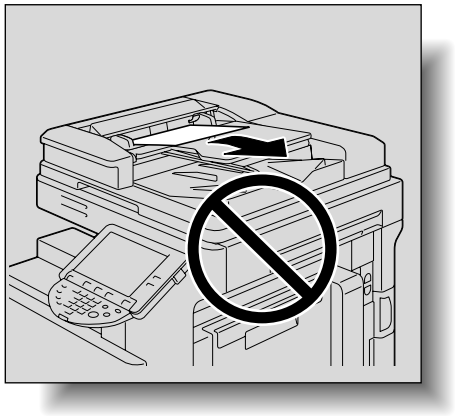


4 つまっている原稿をゆっくり取除きます。



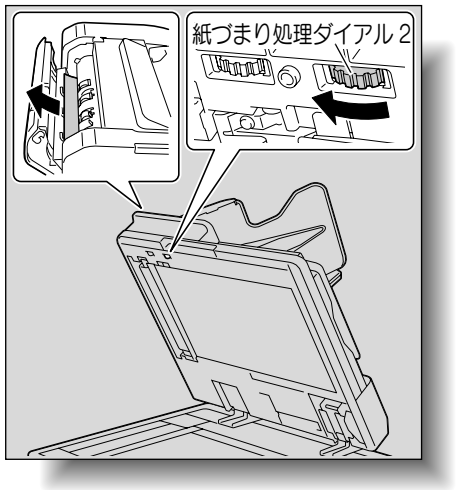
必ず守ってください

・原稿破損の原因となりますので、原稿給紙トレイを上げてから、つまっている原稿を取除いてください。
・つまっている原稿は、必ず通紙方向に取除いてください。

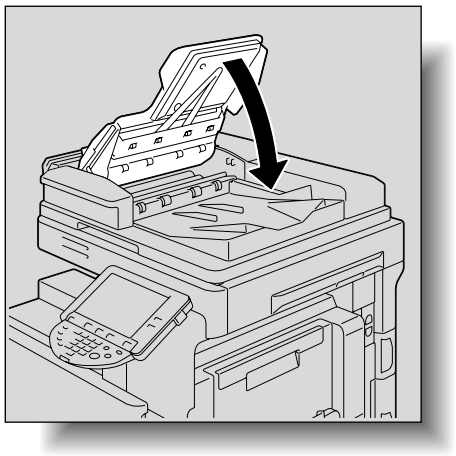


❍ 両面原稿の 2 面目がつまっている場合は、左カバー内側の透明ガイドを開いて、紙づまり処理ダイアル 2 を矢印方向に回して原稿を送り出します。

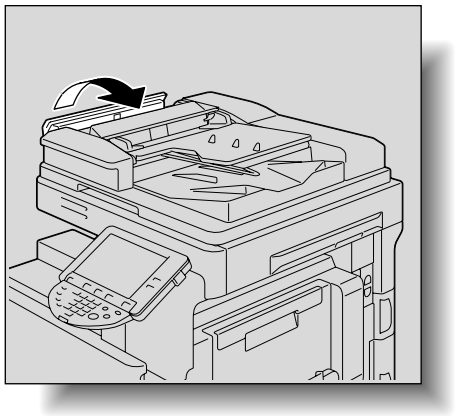




5 原稿給紙トレイを元の位置に戻します。

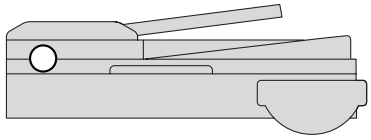


6 左カバーを閉じます。

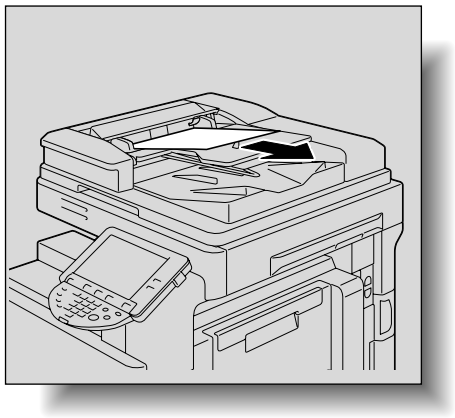


7 画面表示にしたがって、原稿を原稿給紙トレイにセットします。

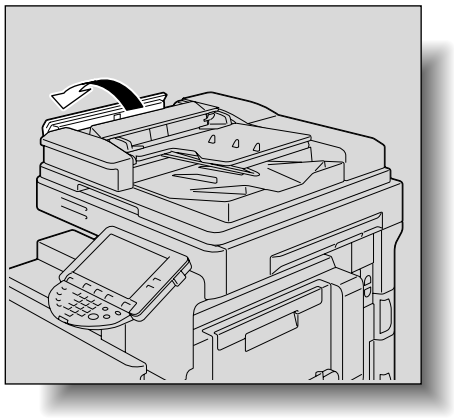
4.2.5 ADF での紙づまり処理のしかた（読取り部）



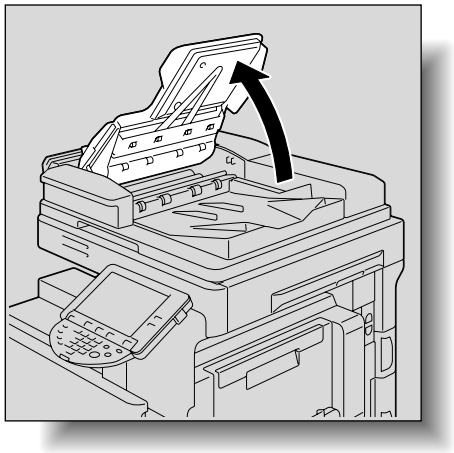
1 原稿給紙トレイに残っている原稿を取除きます。



2 左カバーを開きます。



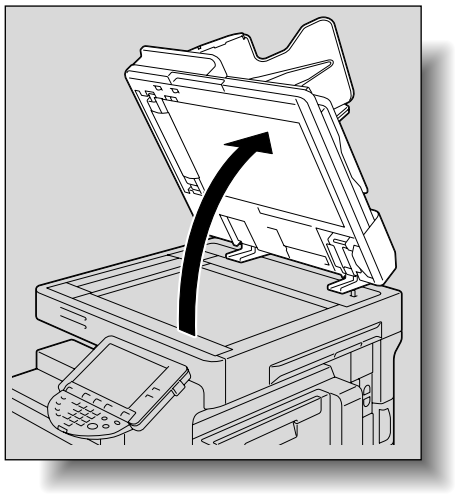
3 原稿給紙トレイを止まる位置まで上げます。



参照
紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」（p. 4-4）をごらんください。

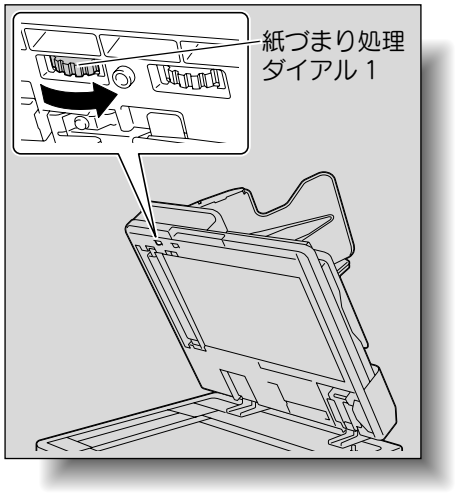
4

ADF を開きます。

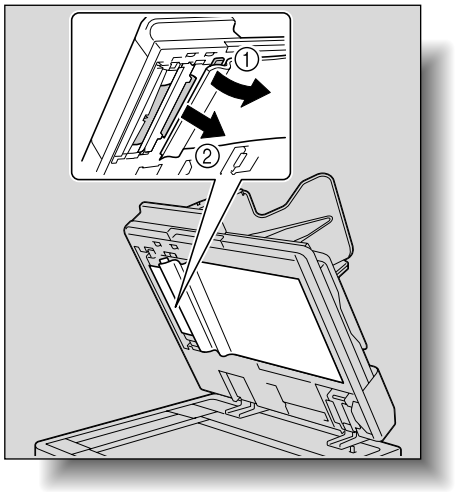


5

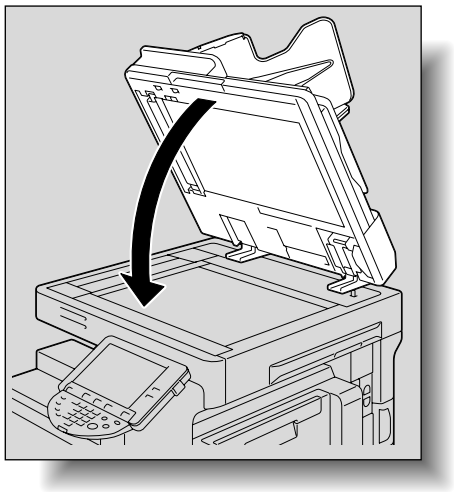
紙づまり処理ダイアル 1 を矢印方向に回して原稿を送り出して取除きます。



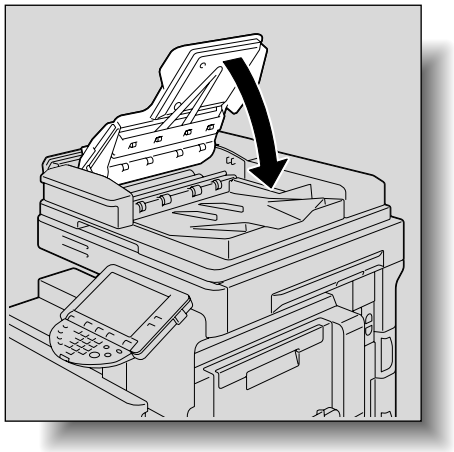
❍ 排紙トレイに原稿の先端が見えない場合は、開閉ガイドを開いて原稿の先端を出してから、紙づまり処理ダイアル 1 を矢印方向に回して原稿を送り出します。



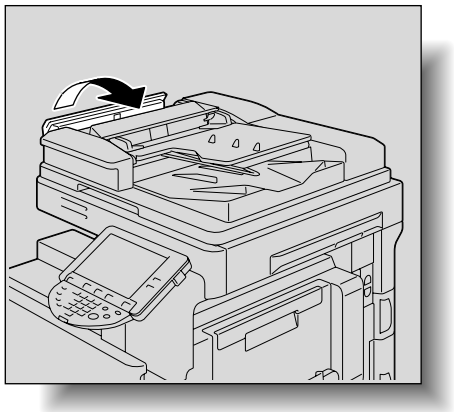
6 ADF を閉じます。



7 原稿給紙トレイを元の位置に戻します。

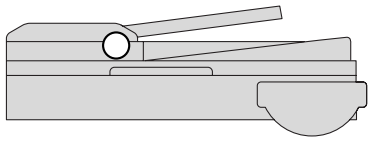


8 左カバーを閉じます。

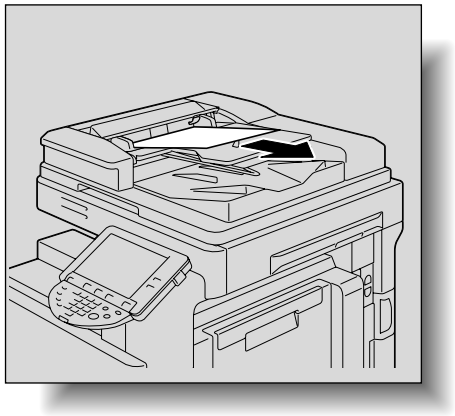


9 画面表示にしたがって、原稿を原稿給紙トレイにセットします。

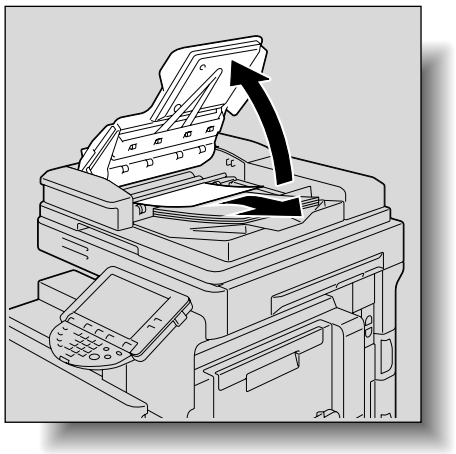
4.2.6 ADF での紙づまり処理のしかた（排紙部）



1 原稿給紙トレイに残っている原稿を取除きます。

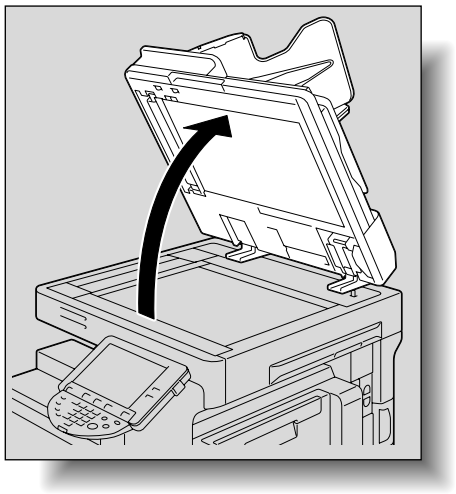


2 原稿給紙トレイを止まる位置まで上げ、つまっている原稿をゆっくり取除きます。

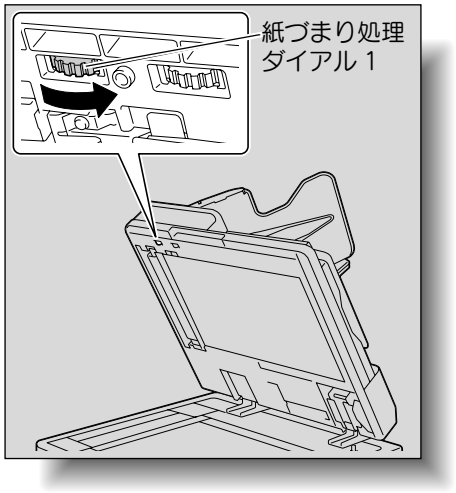


参照
紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」（p. 4-4）をごらんください。

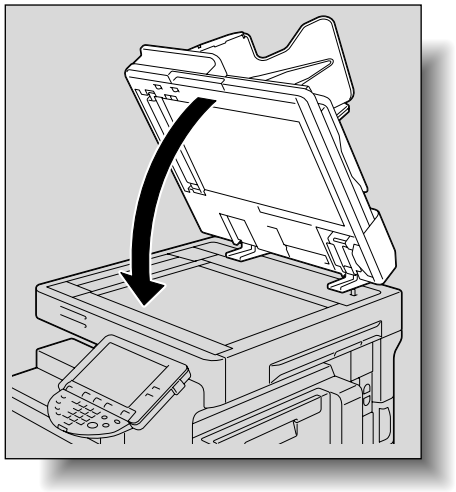
3 取除けなかった場合は、ADF を開きます。



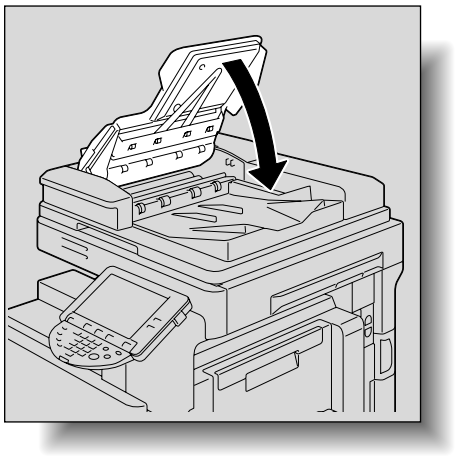
4 紙づまり処理ダイアル 1 を矢印方向に回して原稿を原稿排紙トレイに送り出して取除きます。



5 ADF を閉じます。

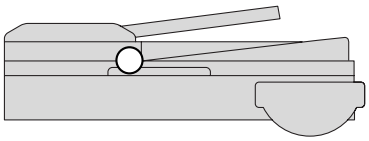


6 原稿給紙トレイを元の位置に戻します。

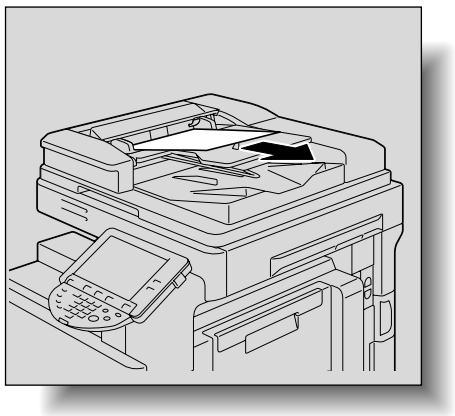


7 画面表示にしたがって、原稿を原稿給紙トレイにセットします。

4.2.7　ADF での紙づまり処理のしかた（反転部）

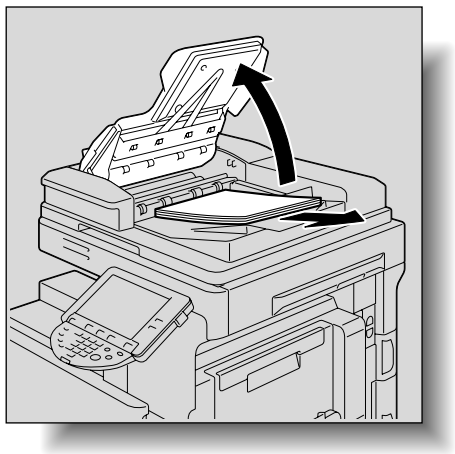


1 原稿給紙トレイに残っている原稿を取除きます。

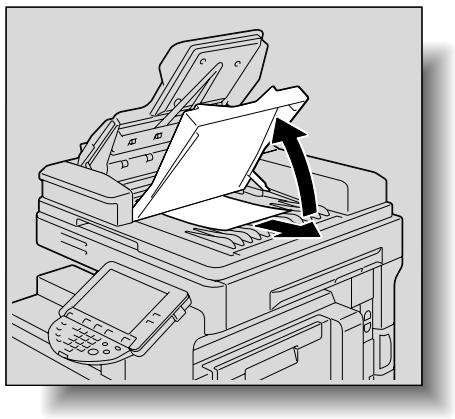


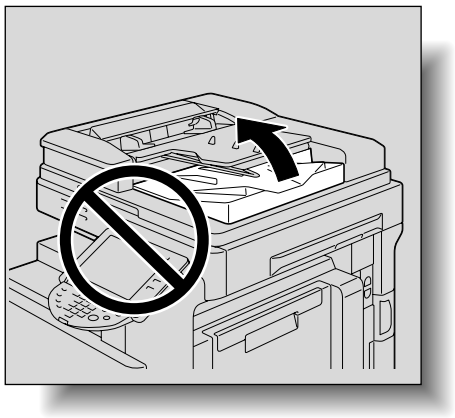
参照
紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」（p. 4-4）をごらんください。

2 原稿給紙トレイを止まる位置まで上げ、原稿排紙トレイの原稿を取除きます。



3 原稿排紙トレイを止まる位置まで上げ、つまっている原稿を取除きます。

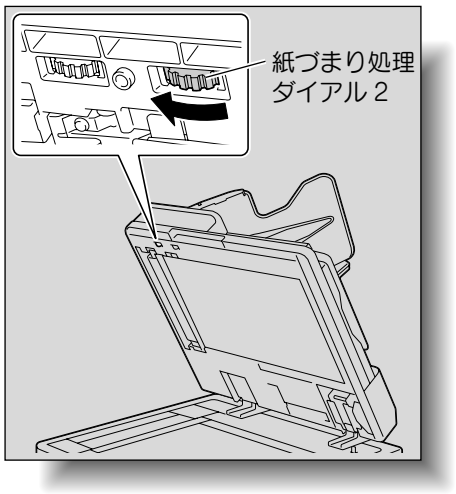




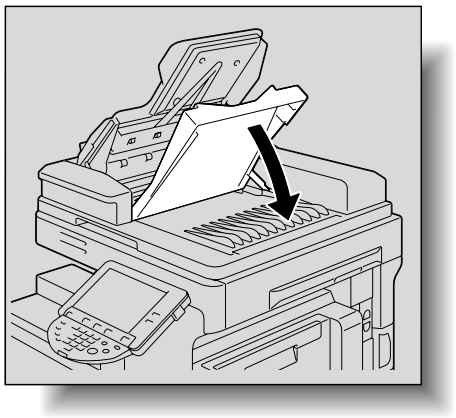
必ず守ってください

原稿給紙トレイを止まる位置まで上げてから、原稿排紙トレイを止まる位置まで上げてください。
原稿排紙トレイで原稿給紙トレイを持上げないでください。

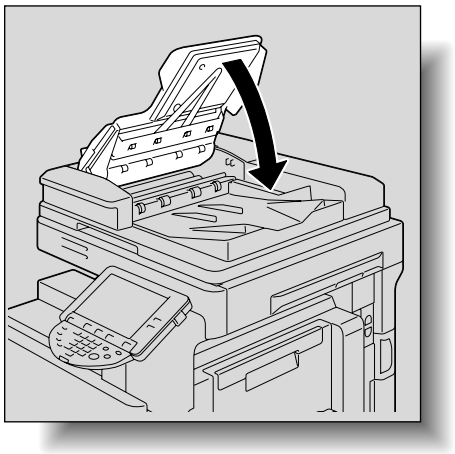
❍ 原稿が取除けない場合は、ADF を開いて紙づまり処理ダイアル 2 を矢印方向に回して原稿を送り出して取除きます。



4 原稿排出トレイを元の位置に戻します。



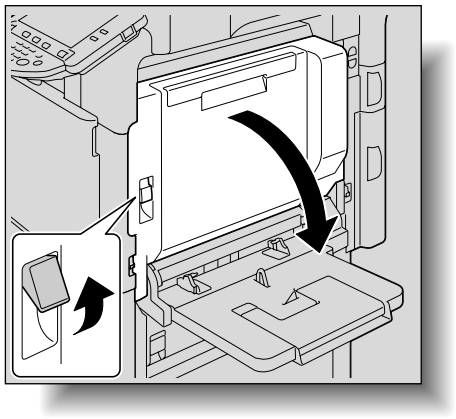
5 原稿給紙トレイを元の位置に戻します。



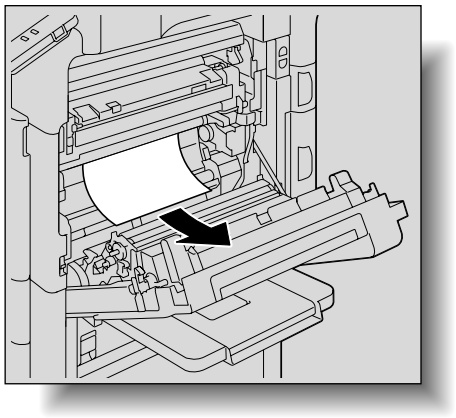
6 画面表示にしたがって、原稿を原稿給紙トレイにセットします。

4.2.8 定着部での紙づまり処理のしかた

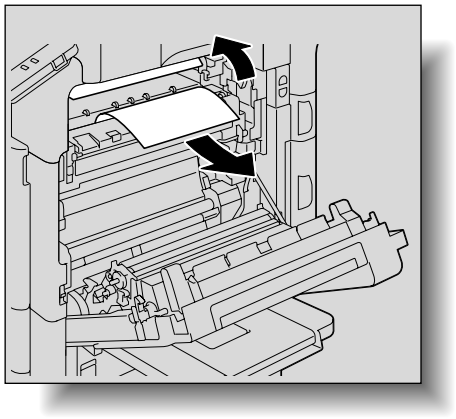
1 右上ドア解除レバーを引き、右上ドアを開きます。



2 定着部につまっている用紙をゆっくり取除きます。



❍ 下側に取除くことができない場合は、定着ユニット上カバーを押上げ、上側に取除きます。



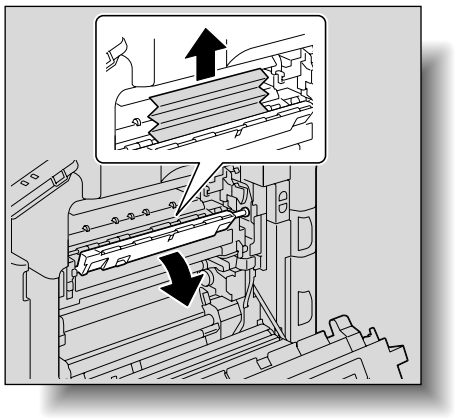
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4) をごらんください。

必ず守ってください

- 定着部につまっている用紙は下側に取除いてください。
- 用紙が以下のような状態になっている場合は、サービス実施店までご連絡ください。
  - 用紙が定着ユニット内部に巻きついている場合
  - 用紙が定着ユニット内部のローラー部に折曲がり、噛みこんでいる場合
  - 取除いた用紙が破れ、定着ユニット内に残ってしまった場合
- 定着部を通っていないトナーは衣服または手などに付着することがあります。取扱いには十分に注意してください。

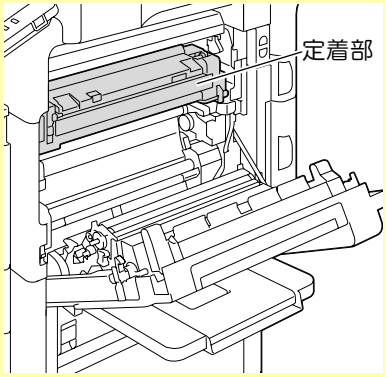
❍ 定着ユニット内部で、じゃばら状に用紙がつまっている場合は、定着カバーを開いて取除きます。



⚠注意

定着部周辺は高温となっています。

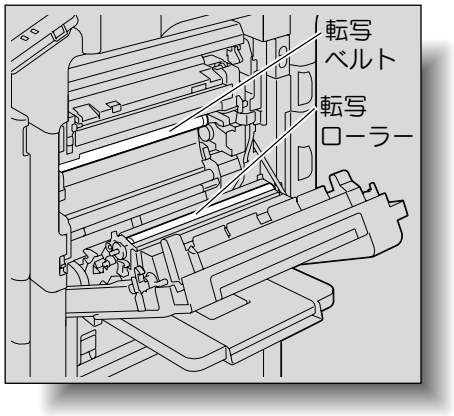
やけどの原因となりますので、指定されたつまみやダイアル以外の部分には触れないように注意してください。高温部に手などが触れてしまった場合は、すぐに冷たい水で冷やし、医師にご相談ください。



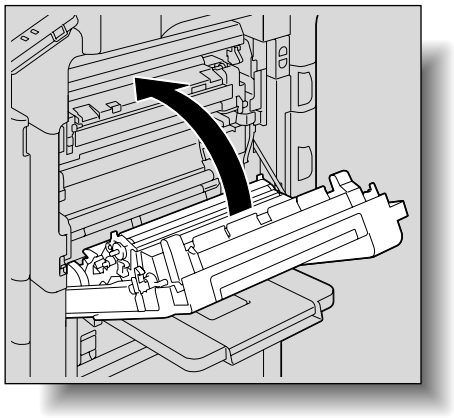
⚠注意

トナーで本体内や衣服または手などを汚さないように注意して取扱ってください。
トナーで手を汚してしまった場合は、水や中性洗剤などを使って洗い流してください。
目に入ってしまった場合は、すぐ水で洗い流し、医師にご相談ください。

❍ 転写ベルトや転写ローラーの表面に触れると、印刷画質が低下する可能性があります。転写ベルトや転写ローラーの表面に触れないように注意してください。

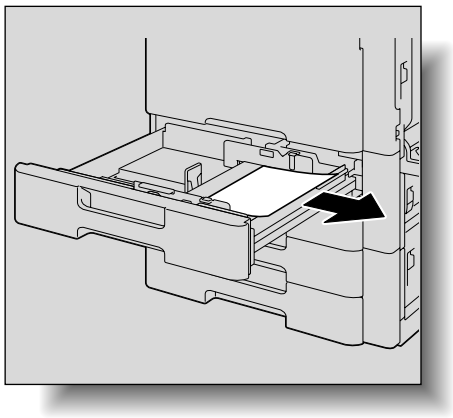


3 右上ドアを閉じます。



4 使用しているトレイを引出します。

5 つまっている用紙を取除きます。



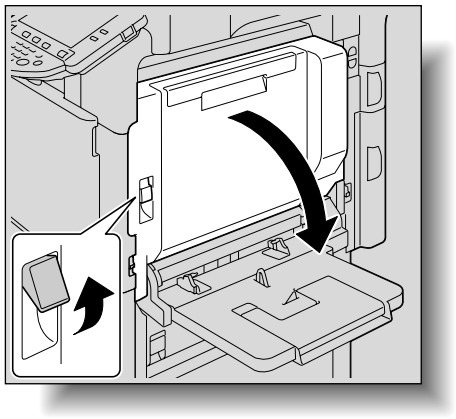
6 トレイを元に戻します。

必ず守ってください

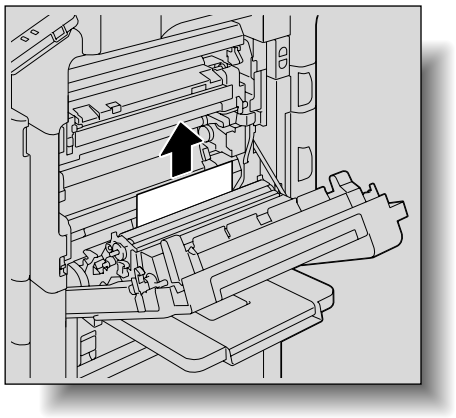
フィルムには手を触れないように注意してください。

4.2.9 本体内部での紙づまり処理のしかた

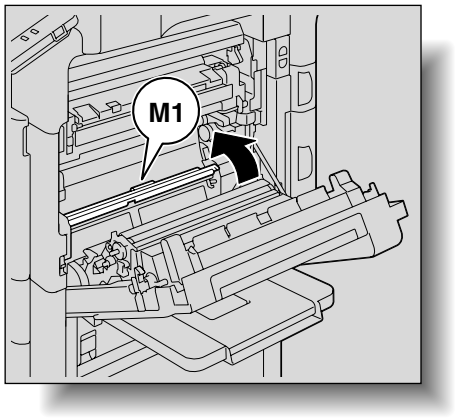
1 右上ドア解除レバーを引き、右上ドアを開きます。



2 本体内部につまっている用紙をゆっくり取除きます。



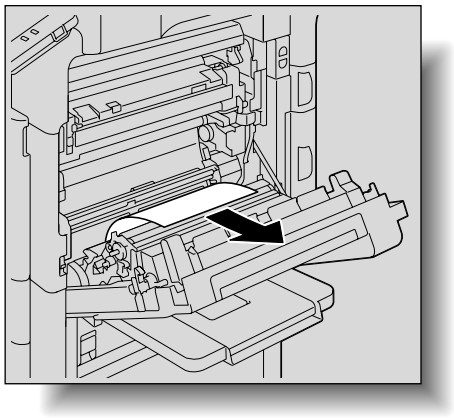
3 用紙の先端がタイミングローラー部にある場合は、内部カバー【M1】を開きます。



参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4)をごらんください。

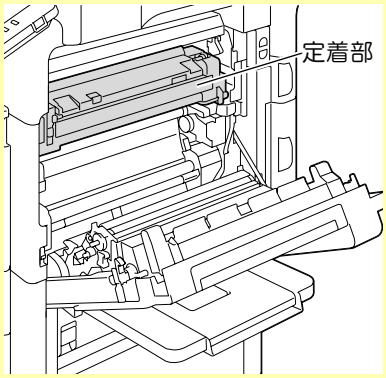
4 タイミングローラー部につまった用紙をゆっくり取除きます。



⚠注意

定着部周辺は高温となっています。

やけどの原因となりますので、指定されたつまみやダイアル以外の部分には触れないように注意してください。高温部に手などが触れてしまった場合は、すぐに冷たい水で冷やし、医師にご相談ください。



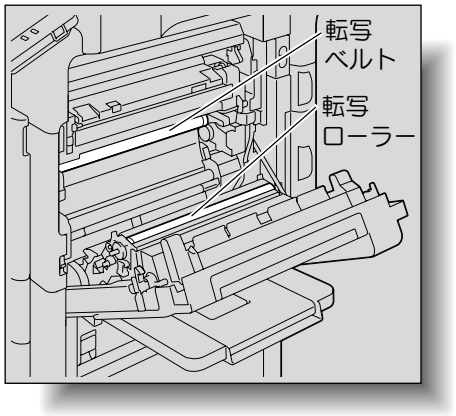
⚠注意

トナーで本体内や衣服または手などを汚さないように注意して取扱ってください。
トナーで手を汚してしまった場合は、水や中性洗剤などを使って洗い流してください。
目に入ってしまった場合は、すぐ水で洗い流し、医師にご相談ください。

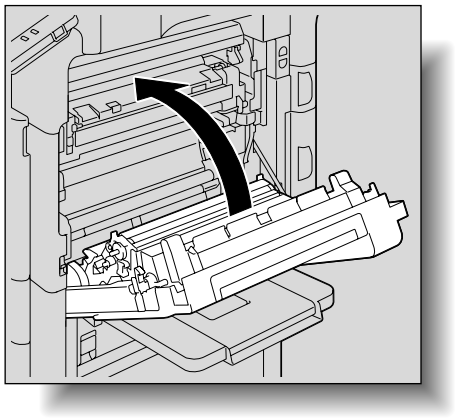
必ず守ってください

・用紙が以下の状態になっている場合は、サービス実施店までご連絡ください。
　・用紙がタイミングローラー内部に巻きついている場合
　・用紙がタイミングローラー内部に折曲がり、噛みこんでいる場合
・定着部を通っていないトナーは衣服または手などに付着することがあります。取扱いには十分に注意してください。

❍ 転写ベルトや転写ローラーの表面に触れると、印刷画質が低下する可能性があります。転写ベルトや転写ローラーの表面に触れないように注意してください。

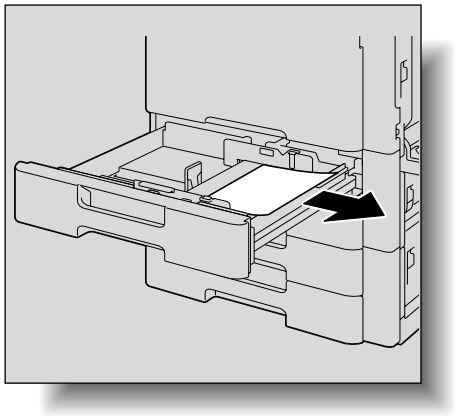


5 右上ドアを閉じます。



6 使用しているトレイを引出します。

7 つまっている用紙を取除きます。



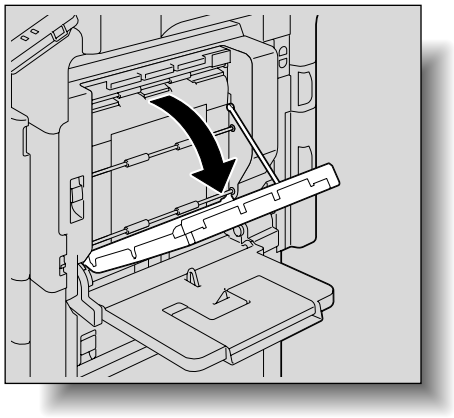
8 トレイを元に戻します。

必ず守ってください

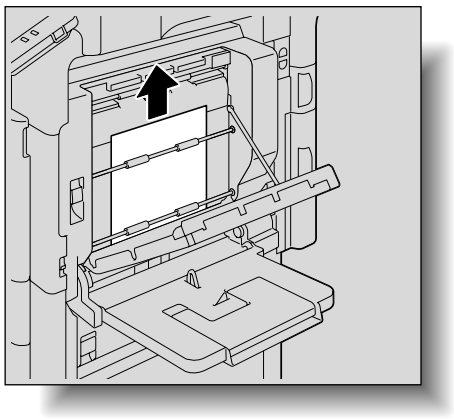
フィルムには手を触れないように注意してください。

4.2.10 自動両面ユニットでの紙づまり処理のしかた

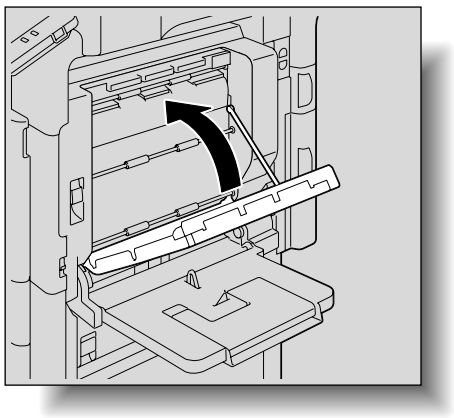
1 自動両面ユニットドアを開きます。



2 自動両面ユニットにつまっている用紙をゆっくり取除きます。



3 自動両面ユニットドアを閉じます。

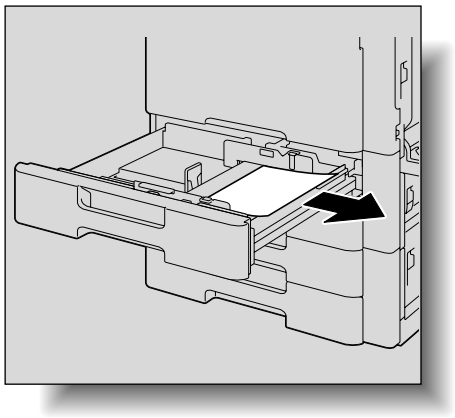


4 使用しているトレイを引出します。

参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4)をごらんください。

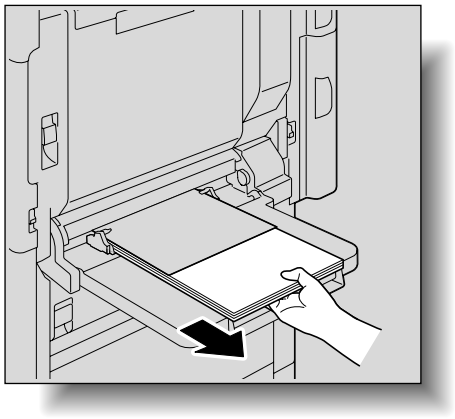
5 つまっている用紙を取除きます。



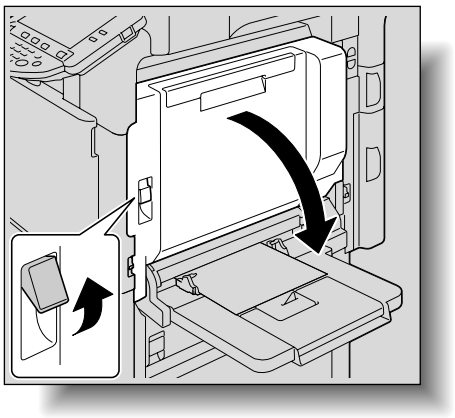
6 トレイを元に戻します。

4.2.11 手差しトレイでの紙づまり処理のしかた

1 手差しトレイの用紙を取除きます。



2 右上ドアを開きます。



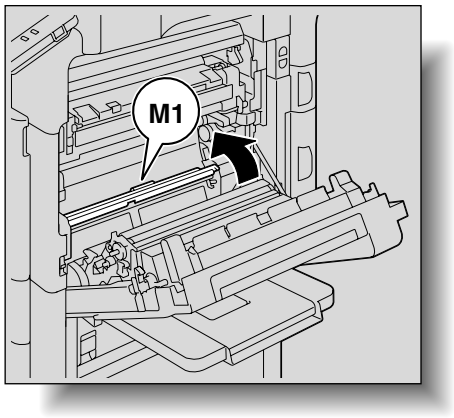
必ず守ってください

フィルムには手を触れないように注意してください。

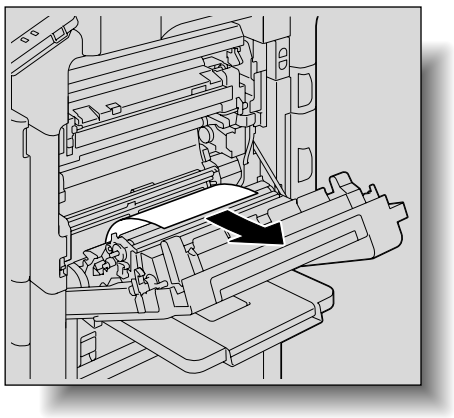
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4)をごらんください。

3 内部カバー【M1】を開きます。



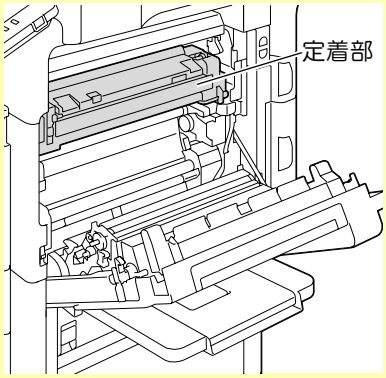
4 用紙をゆっくり取除きます。



⚠注意

定着部周辺は高温となっています。

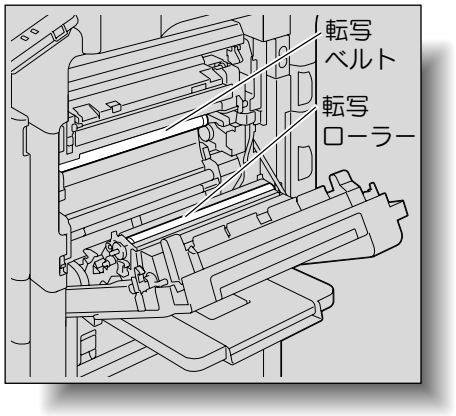
やけどの原因となりますので、指定されたつまみやダイアル以外の部分には触れないように注意してください。高温部に手などが触れてしまった場合は、すぐに冷たい水で冷やし、医師にご相談ください。



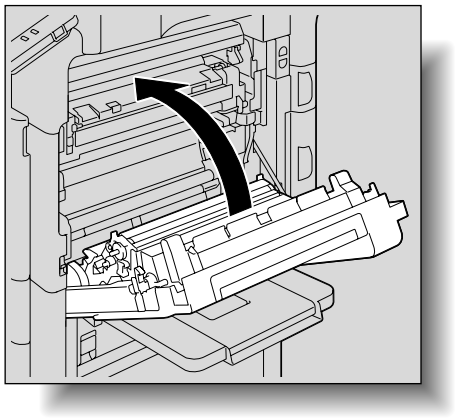
⚠注意

トナーで本体内や衣服または手などを汚さないように注意して取扱ってください。
トナーで手を汚してしまった場合は、水や中性洗剤などを使って洗い流してください。
目に入ってしまった場合は、すぐ水で洗い流し、医師にご相談ください。

❍ 転写ベルトや転写ローラーの表面に触れると、印刷画質が低下する可能性があります。転写ベルトや転写ローラーの表面に触れないように注意してください。

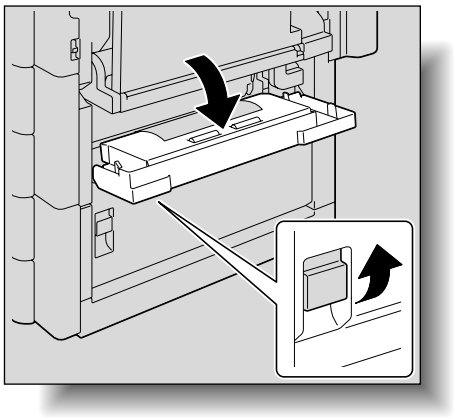


5 右上ドアを閉じます。

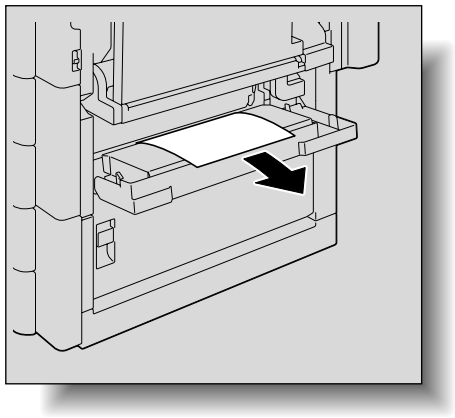


4.2.12 用紙縦搬送部での紙づまり処理のしかた

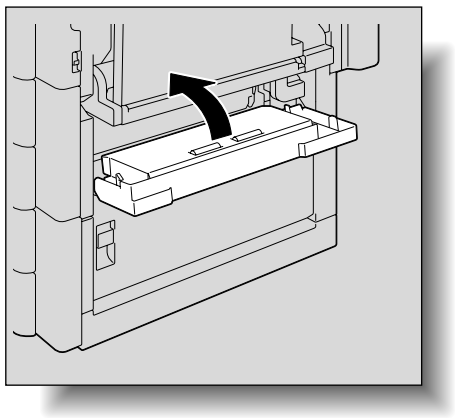
1 右中ドア解除レバーを引き、右中ドアを開きます。



2 用紙をゆっくり取除きます。



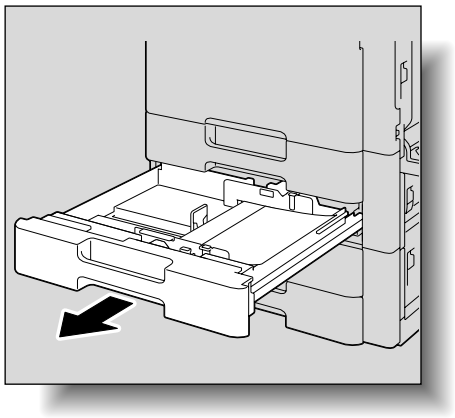
3 右中ドアを閉じます。



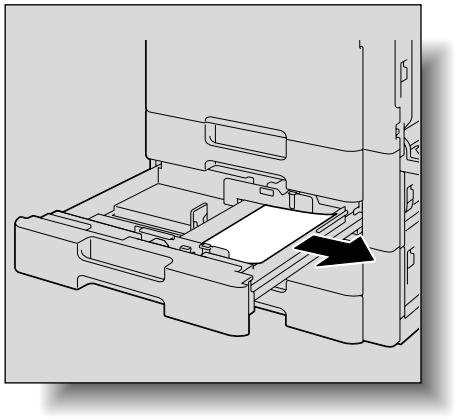
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4)をごらんください。

4 使用しているトレイを引出します。



5 つまっている用紙を取除きます。



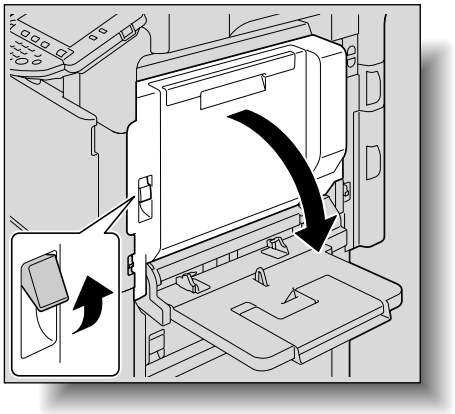
6 トレイを元に戻します。

必ず守ってください

フィルムには手を触れないように注意してください。

4.2.13　トレイ 1 での紙づまり処理のしかた

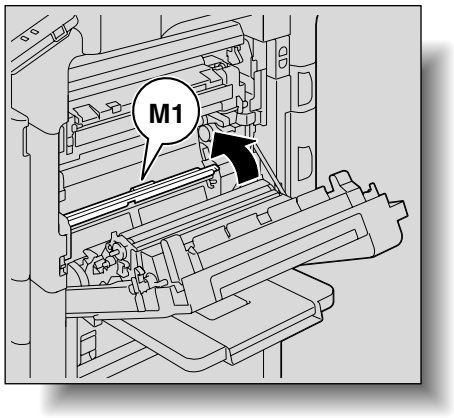
1 右上ドア解除レバーを引き、右上ドアを開きます。



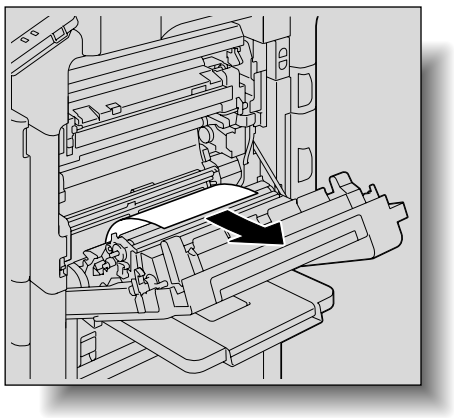
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4)をごらんください。

2 内部カバー【M1】を開きます。



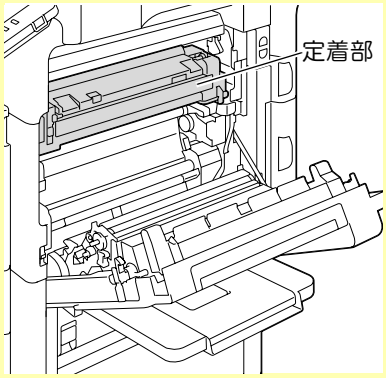
3 用紙をゆっくり取除きます。



⚠注意

定着部周辺は高温となっています。

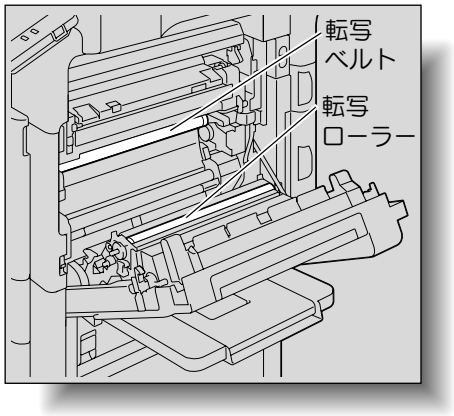
やけどの原因となりますので、指定されたつまみやダイアル以外の部分には触れないように注意してください。高温部に手などが触れてしまった場合は、すぐに冷たい水で冷やし、医師にご相談ください。



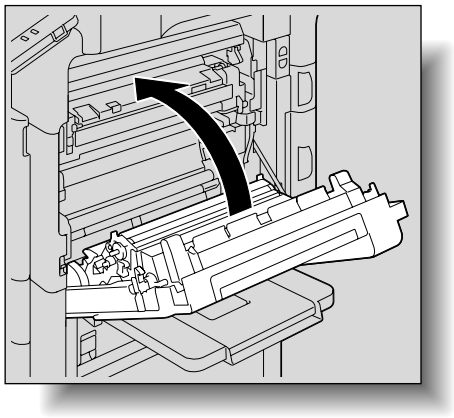
⚠注意

トナーで本体内や衣服または手などを汚さないように注意して取扱ってください。
トナーで手を汚してしまった場合は、水や中性洗剤などを使って洗い流してください。
目に入ってしまった場合は、すぐ水で洗い流し、医師にご相談ください。

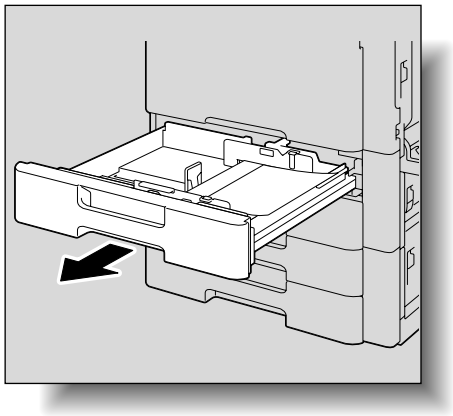
❍ 転写ベルトや転写ローラーの表面に触れると、印刷画質が低下する可能性があります。転写ベルトや転写ローラーの表面に触れないように注意してください。



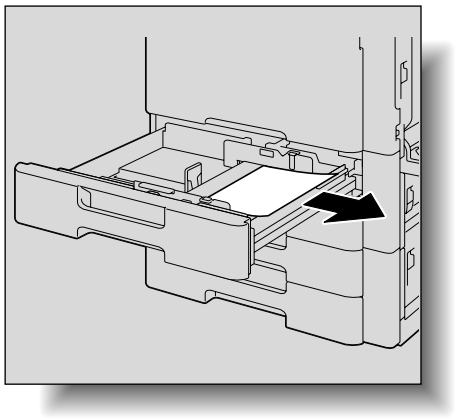
4 右上ドアを閉じます。



5 トレイ 1 を引出します。



6 つまっている用紙を取除きます。



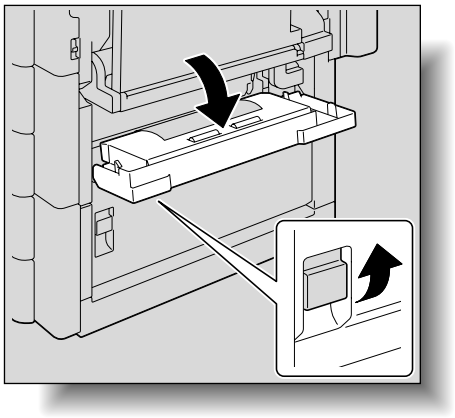
必ず守ってください

フィルムには手を触れないように注意してください。

7 トレイを元に戻します。

4.2.14 トレイ 2 での紙づまり処理のしかた

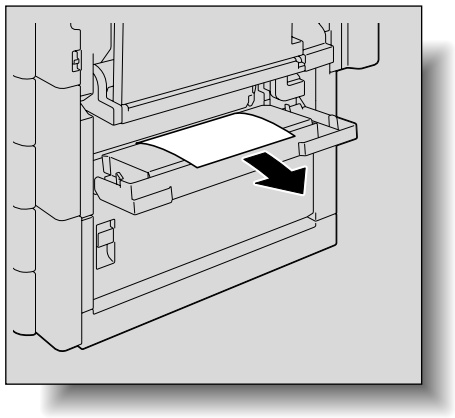
1 右中ドア解除レバーを引き、右中ドアを開きます。



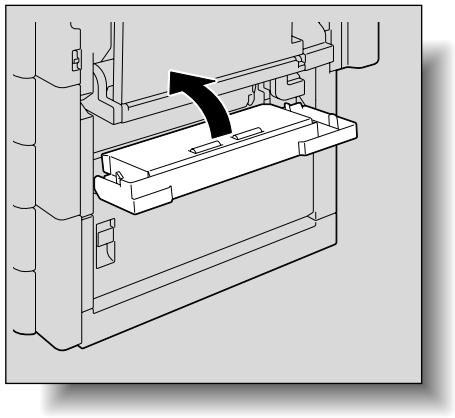
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4)をごらんください。

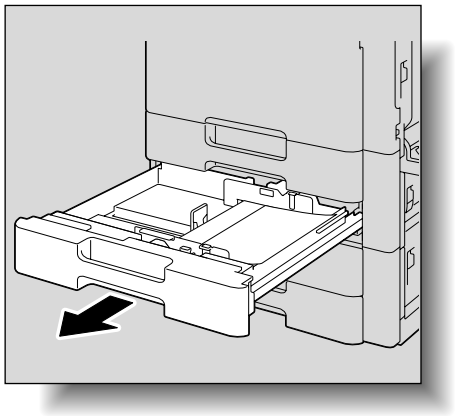
2 用紙をゆっくり取除きます。



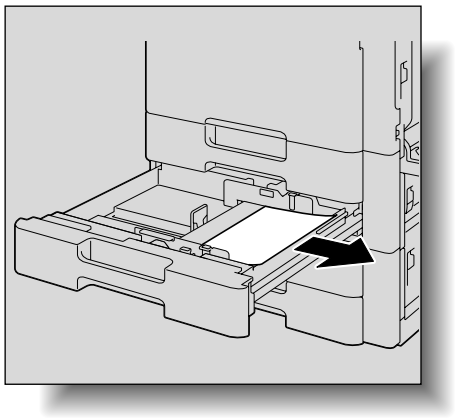
3 右中ドアを閉じます。



4 トレイ 2 を引出します。



5 つまっている用紙を取除きます。



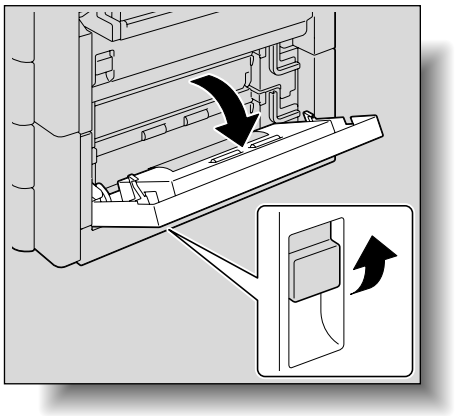
6 トレイを元に戻します。

必ず守ってください

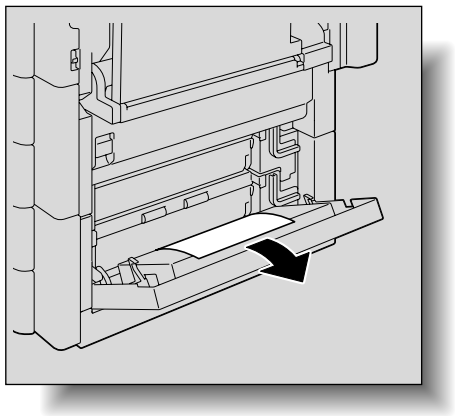
フィルムには手を触れないように注意してください。

4.2.15 給紙キャビネット（トレイ 3/4）での紙づまり処理のしかた

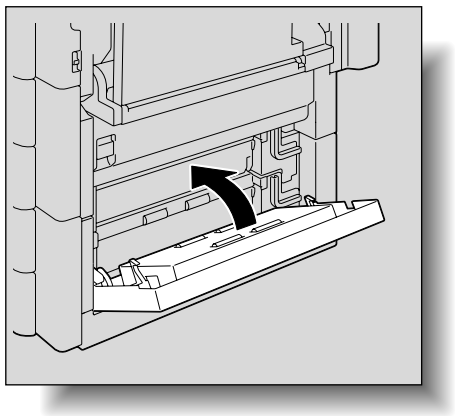
1 右下ドア解除レバーを引き、右下ドアを開きます。



2 用紙をゆっくり取除きます。



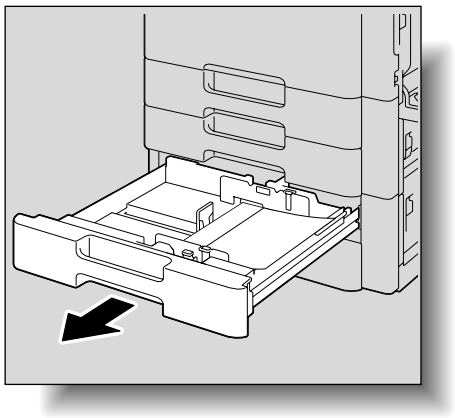
3 右下ドアを閉じます。



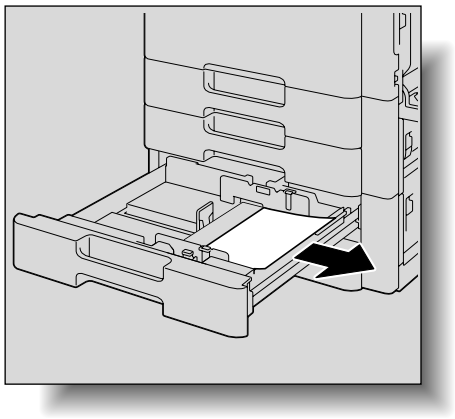
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」（p. 4-4）をごらんください。

4 給紙トレイを引出します。



5 つまっている用紙を取除きます。



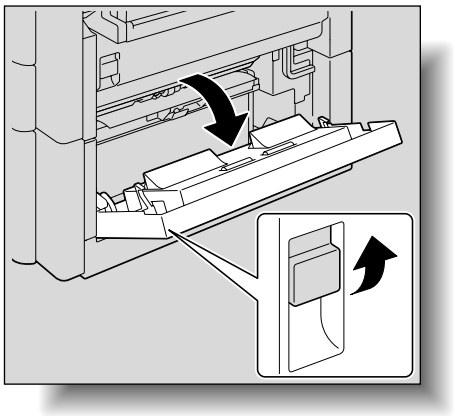
6 トレイを元に戻します。

必ず守ってください

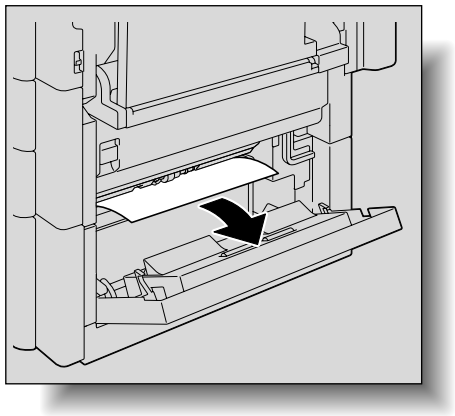
フィルムには手を触れないように注意してください。

4.2.16 LCT での紙づまり処理のしかた

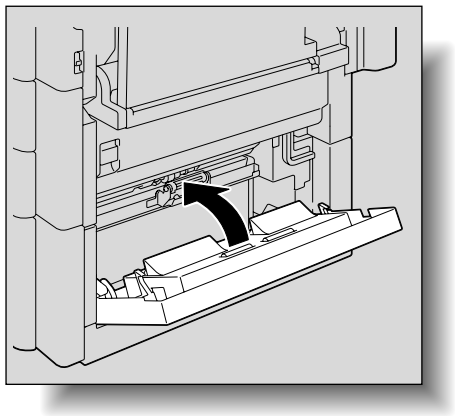
1 右下ドア解除レバーを引き、右下ドアを開きます。



2 用紙をゆっくり取除きます。



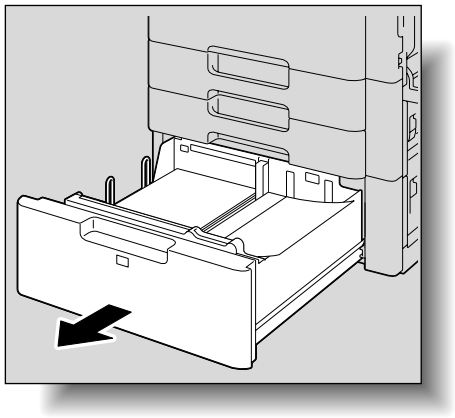
3 右下ドアを閉じます。



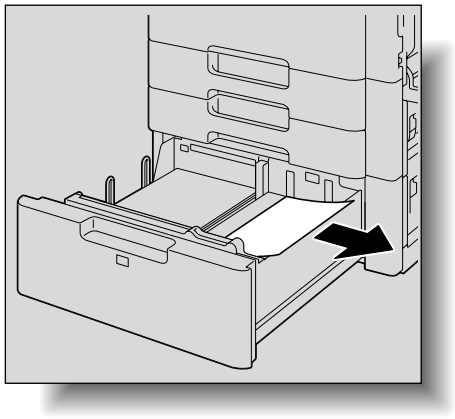
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4)をごらんください。

4 トレイ解除ボタンを押して、LCT を引出します。



5 つまっている用紙を取除きます。



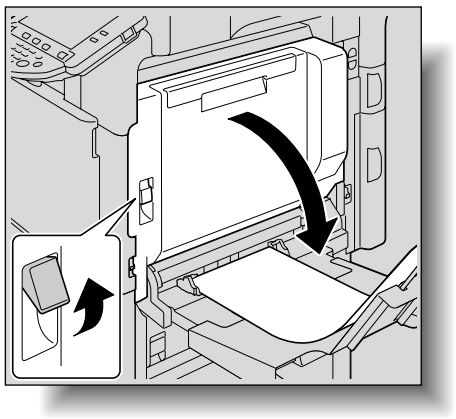
6 トレイを元に戻します。

必ず守ってください

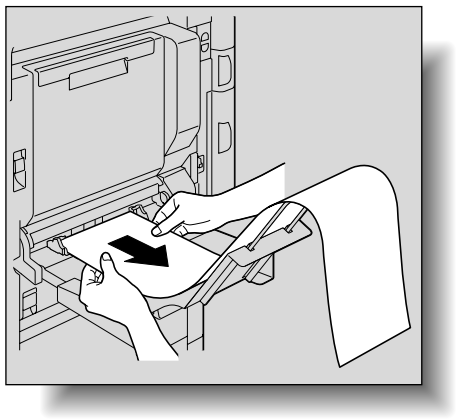
フィルムには手を触れないように注意してください。

4.2.17　長尺紙の紙づまり処理のしかた

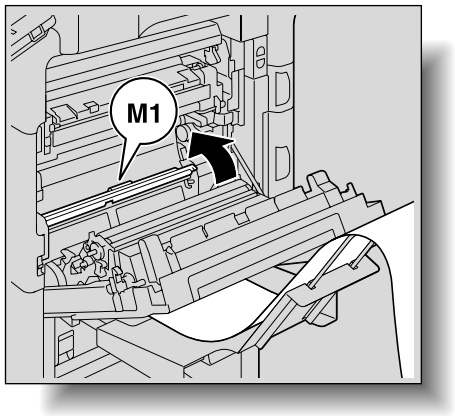
1 右上ドア解除レバーを引き、右上ドアを開きます。



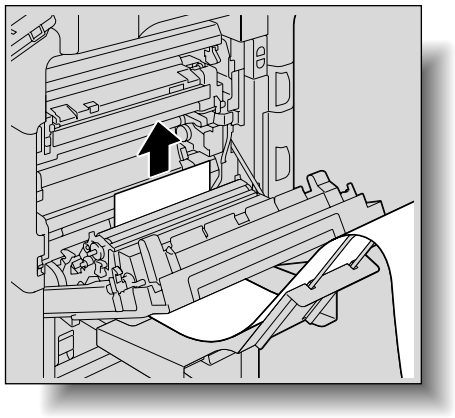
❍ 用紙の先端が見えない場合や用紙の先端がつかめない場合は、矢印の方向に用紙を取除きます。



2 内部カバー【M1】を開きます。



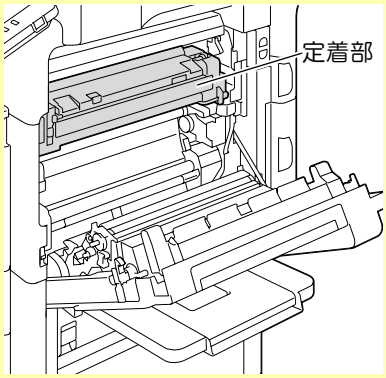
3 タイミングローラー部につまった用紙を取除きます。



⚠注意

定着部周辺は高温となっています。

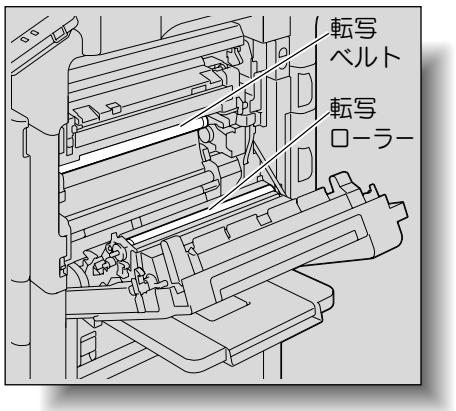
やけどの原因となりますので、指定されたつまみやダイアル以外の部分には触れないように注意してください。高温部に手などが触れてしまった場合は、すぐに冷たい水で冷やし、医師にご相談ください。



⚠注意

トナーで本体内や衣服または手などを汚さないように注意して取扱ってください。
トナーで手を汚してしまった場合は、水や中性洗剤などを使って洗い流してください。
目に入ってしまった場合は、すぐ水で洗い流し、医師にご相談ください。

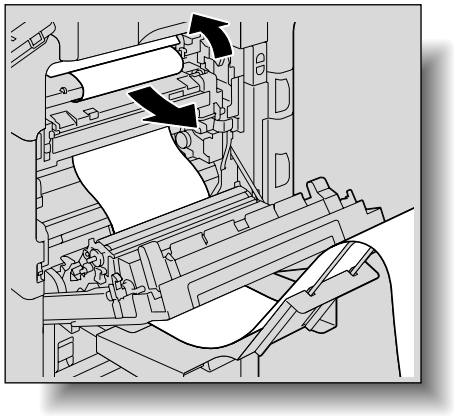
- 転写ベルトや転写ローラーの表面に触れると、印刷画質が低下する可能性があります。転写ベルトや転写ローラーの表面に触れないように注意してください。



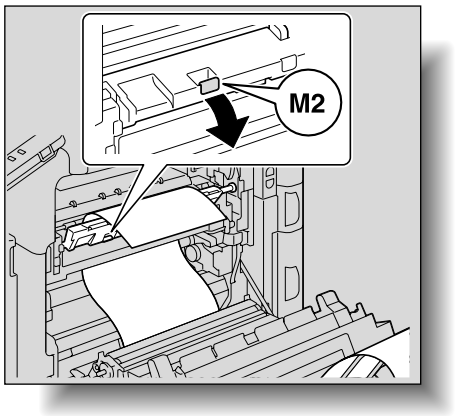
必ず守ってください

用紙が以下のような状態になっている場合は、サービス実施店までご連絡ください。
・用紙がタイミングローラー内部に巻きついている場合
・用紙がタイミングローラー内部に折曲がり、噛みこんでいる場合

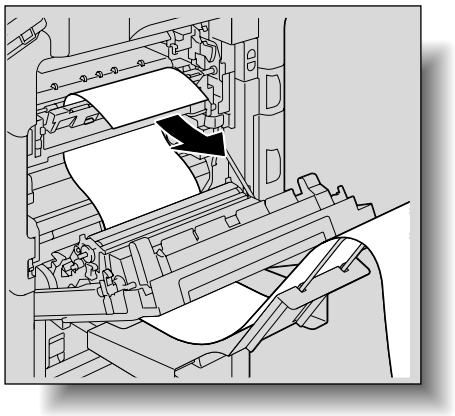
4 定着ユニット上カバーを押上げ、つまった用紙を取除きます。



5 定着カバー【M2】を開きます。



6 つまっている用紙を取除きます。

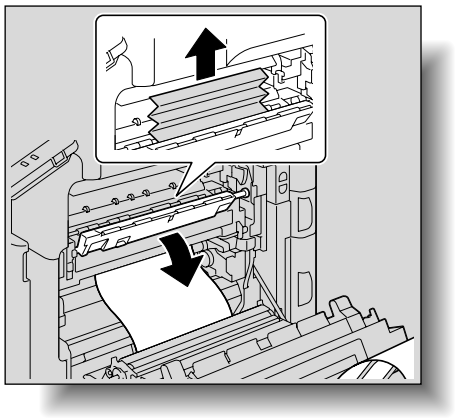


必ず守ってください

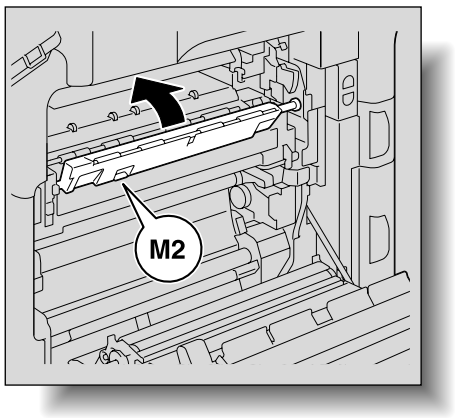
用紙が以下のような状態になっている場合は、サービス実施店までご連絡ください。

・用紙が定着ユニット内部に巻きついている場合
・用紙が定着ユニット内部のローラー部に折曲がり、噛みこんでいる場合
・取除いた用紙が破れ、定着ユニット内に残ってしまった場合

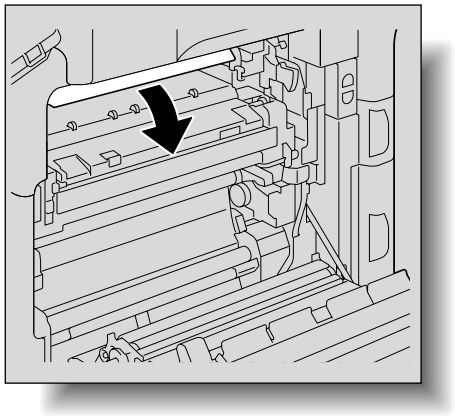
7 定着ユニット内につまっている用紙を取除きます。



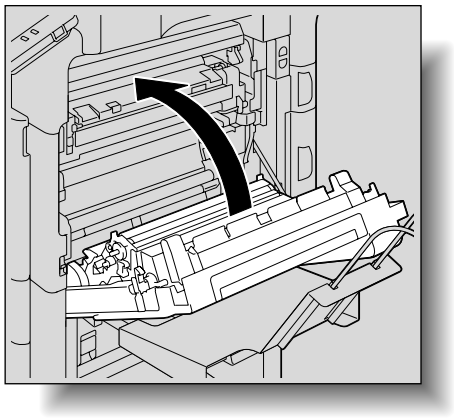
8 定着カバー【M2】を閉じます。



9 定着ユニット上カバーを閉じます。

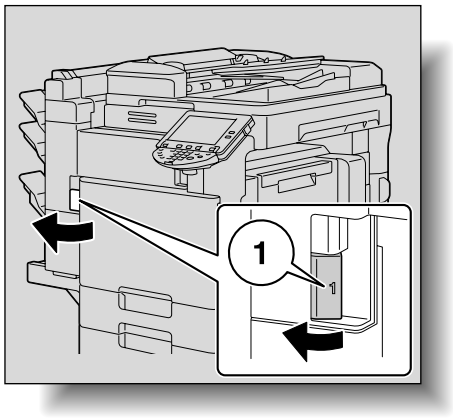


10 右上ドアを閉じます。

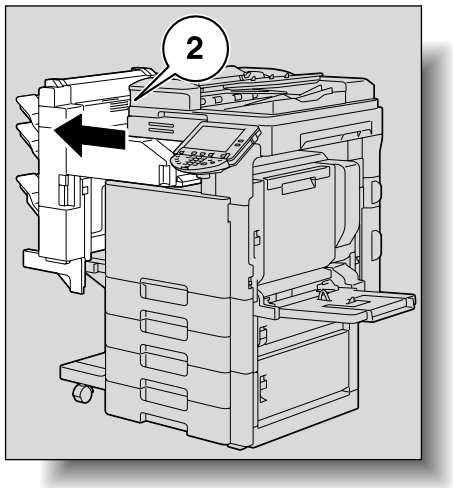


4.2.18 フィニッシャー FS-519 での紙づまり処理のしかた

1 フィニッシャー解除レバー【1】を引いて、ロックを解除します。



2 フィニッシャーの【2】を持って本体から引離します。



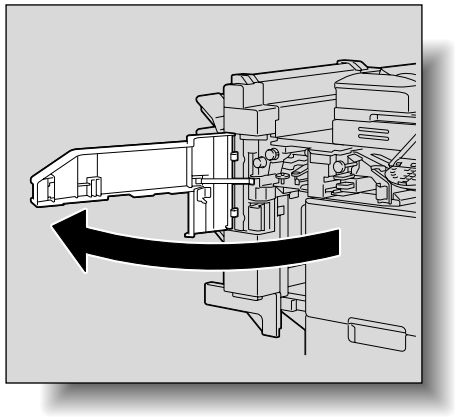
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4) をごらんください。

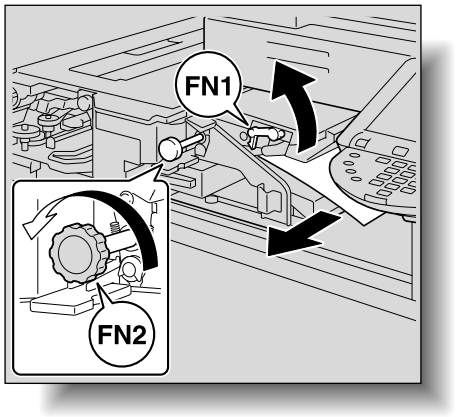
必ず守ってください

フィニッシャーを本体から離すときは、必ず【2】を持って移動してください。
メールビン、中綴じ機などを持っての移動は破損の原因となります。

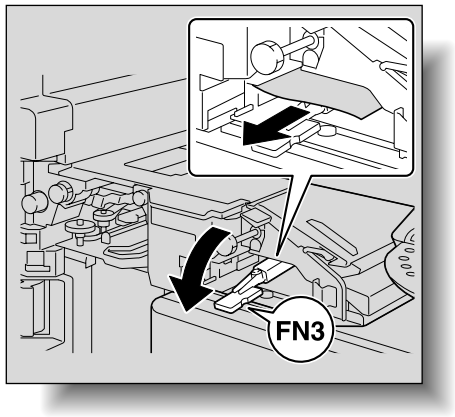
3 前ドアを開きます。



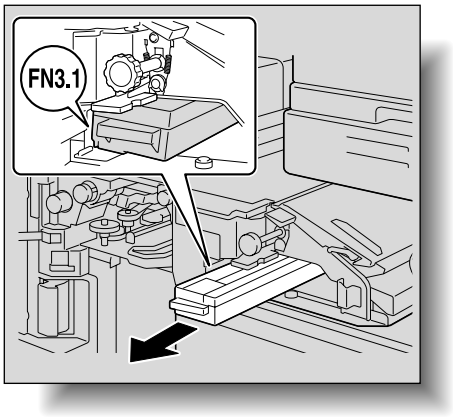
4 レバー【FN1】を上げ、ダイアル【FN2】を回して用紙を取除きます。



5 ガイド【FN3】を下げ、用紙を取除きます。



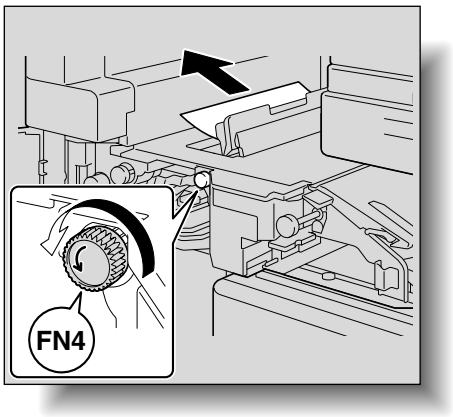
❍ パンチキット装着時は、パンチ廃棄ボックス【FN3.1】を引出してから行います。



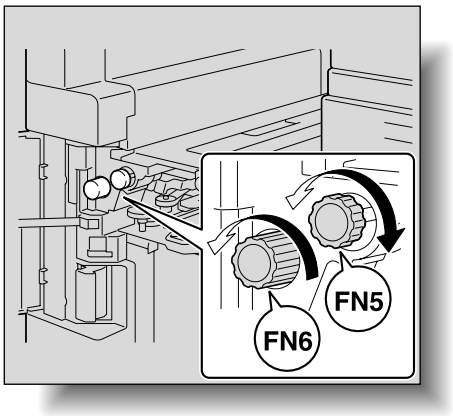
6 ガイド【FN3】を元の位置に戻します。

❍ パンチキット装着時は、パンチ廃棄ボックス【FN3.1】を元の位置に戻します。

7 ダイアル【FN4】を回して用紙を送り、搬送カバーを開いて用紙を取除きます。

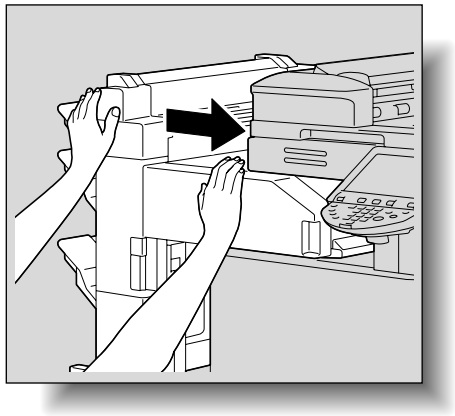


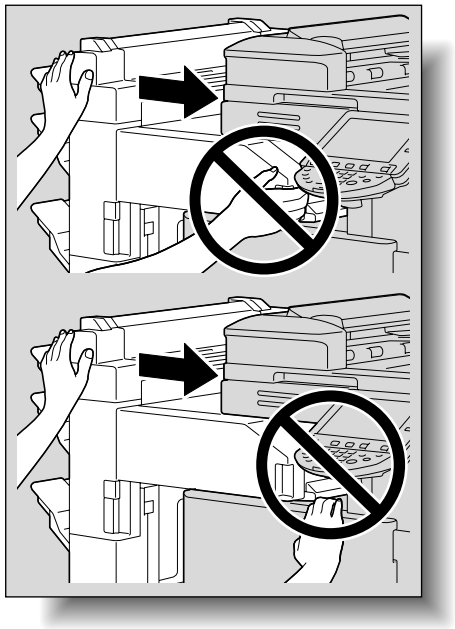
8 ダイアル【FN5】または【FN6】を回して用紙を取除きます。



9 前ドアを閉じます。

10 フィニッシャーを元の位置に戻します。



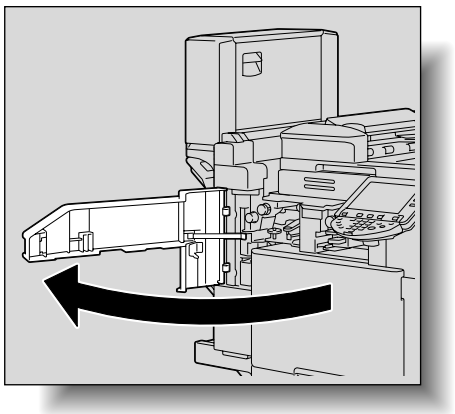


必ず守ってください

フィニッシャーを元の位置に戻すときは、前ドア取っ手部、操作パネル、メールビン、中綴じ機など持っての移動はしないでください。

4.2.19　メールビンでの紙づまり処理のしかた

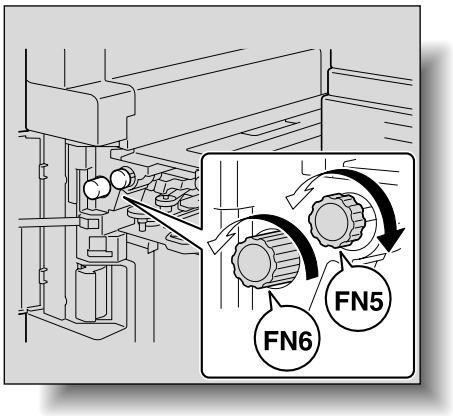
1 前ドアを開きます。



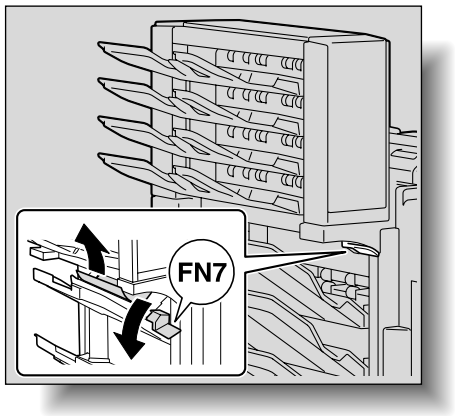
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4)をごらんください。

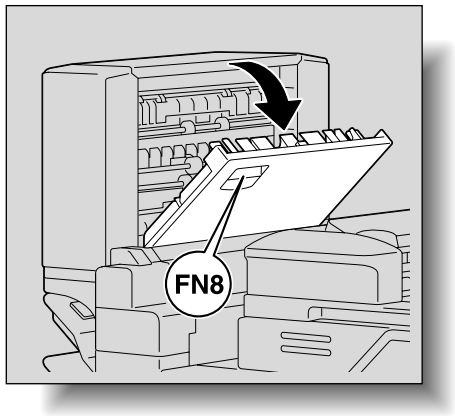
2 ダイアル【FN5】または【FN6】を回して用紙を送り出します。



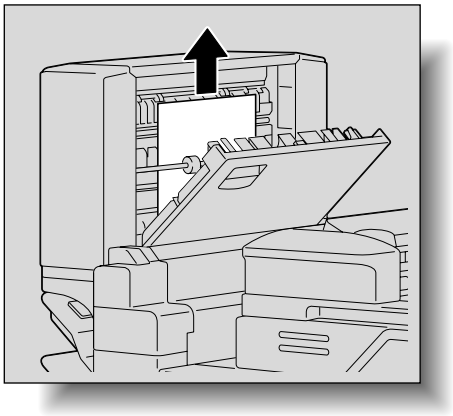
3 レバー【FN7】を押し下げながら用紙を取除きます。



4 レバー【FN8】を引き、紙づまり処理ドアを開きます。



5 メールビン内の用紙を取除きます。

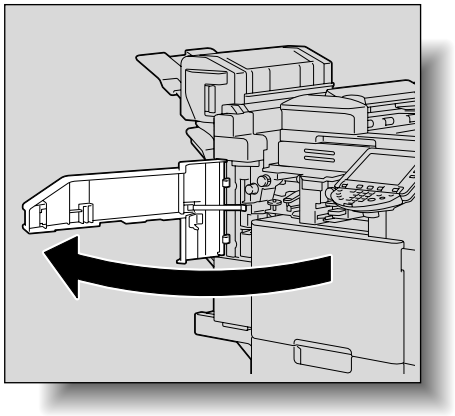


6 紙づまり処理ドアを閉じます。

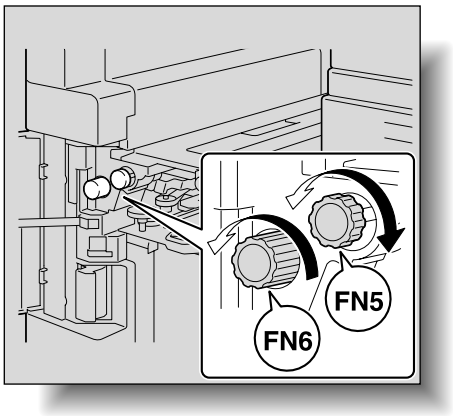
7 前ドアを閉じます。

4.2.20　中綴じ機での紙づまり処理のしかた

1 前ドアを開きます。



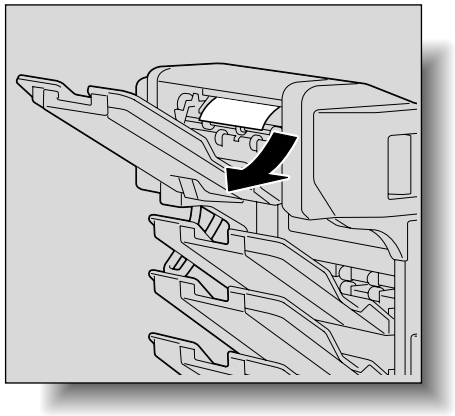
2 ダイアル【FN5】または【FN6】を回して用紙を送り出します。



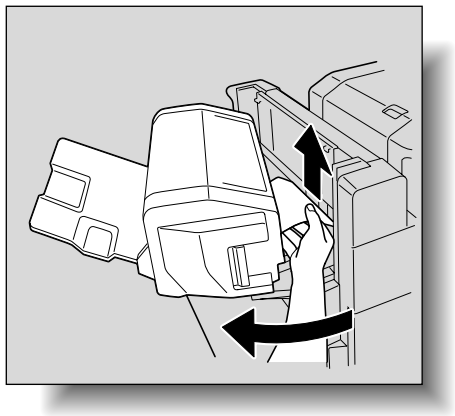
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」（p. 4-4）をごらんください。

3 排紙トレイの用紙を取除きます。



4 紙づまり処理ドアを開き、用紙を取除きます。

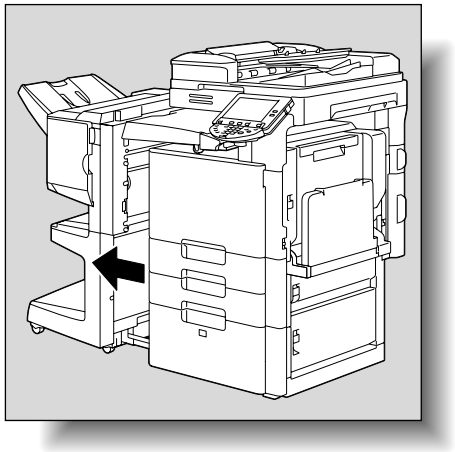


5 紙づまり処理ドアを閉じます。

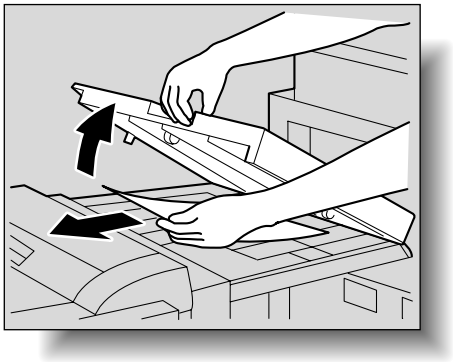
6 前ドアを閉じます。

4.2.21 フィニッシャー FS-609 での紙づまり処理のしかた

1 フィニッシャーを本体から引離します。

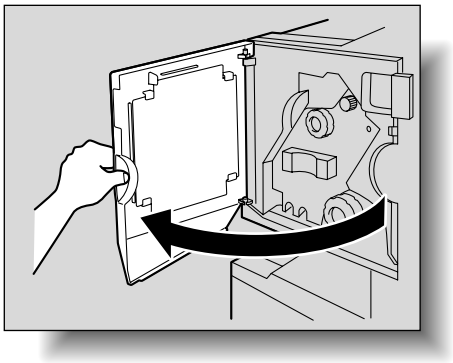


2 水平搬送ユニットカバーを開き、用紙を取除きます。



3 水平搬送ユニットカバーを閉じます。

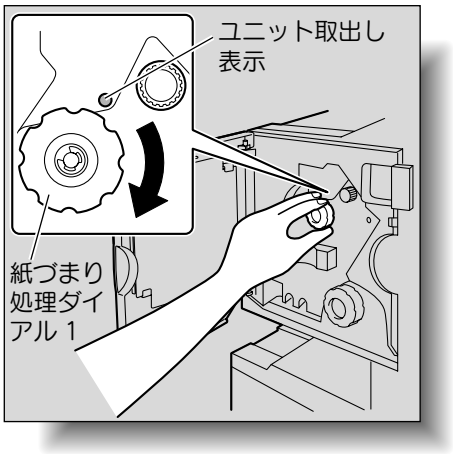
4 前ドアを開きます。



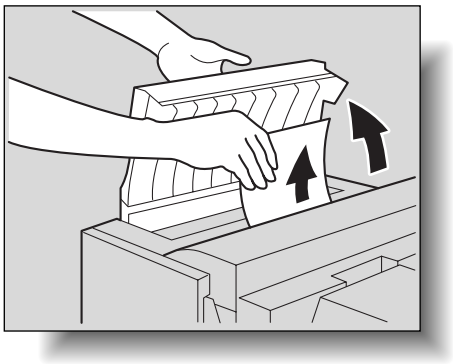
参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」(p. 4-4)をごらんください。

5 ユニット取出し表示が全面青色になるように、紙づまり処理ダイアル 1 を時計方向に回します。

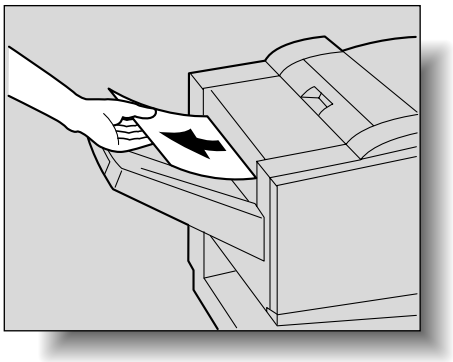


6 上カバーを開き、排紙部に残った用紙を取除きます。



7 上カバーを閉じます。

8 第 1 排紙トレイに排紙された用紙を取除きます。



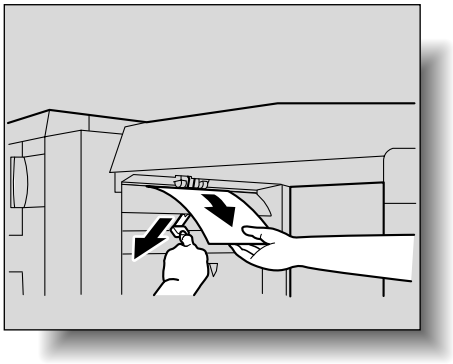
必ず守ってください

「紙づまりです」を表示した場合は必ずこの処理を行ってください。この処理を行わず、無理に用紙を取除くとフィニッシャーの破損の原因となります。

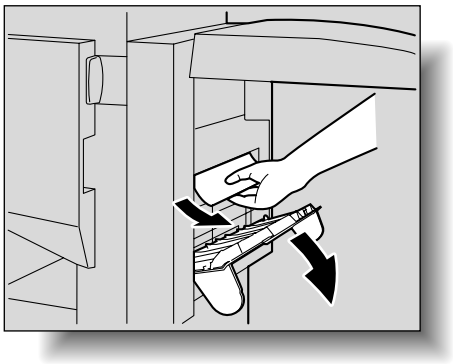
ひとこと

紙づまり処理ダイアル 1 を回しすぎた場合は、反時計方向に回して、微調整します。

9 紙づまり処理ガイドを開き、用紙を取除きます。



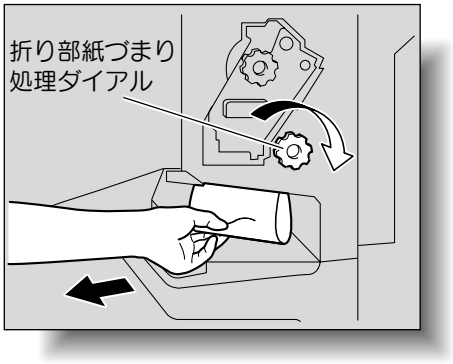
10 右ドアを開き、搬送部に残った用紙を取除きます。



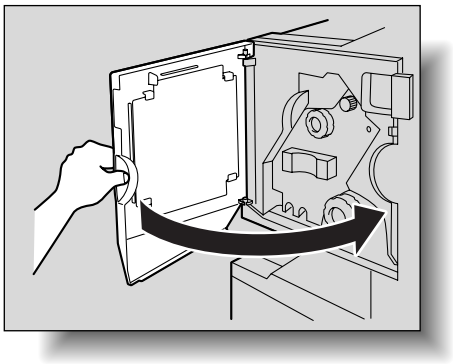
必ず守ってください

無理に用紙を取除かないでください。
無理に用紙を取除くと、折りユニットの破損の原因となります。

11 手順 10 で用紙が取除けない場合は、折り部紙づまり処理ダイアルを時計方向に回します。
用紙を第 2 排紙トレイに送り出し取除きます。



12 前ドアを閉じます。



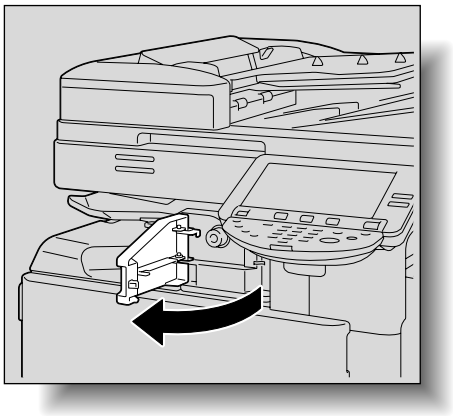
必ず守ってください

前ドアを元に戻すときには、指などを挟まないように注意してください。

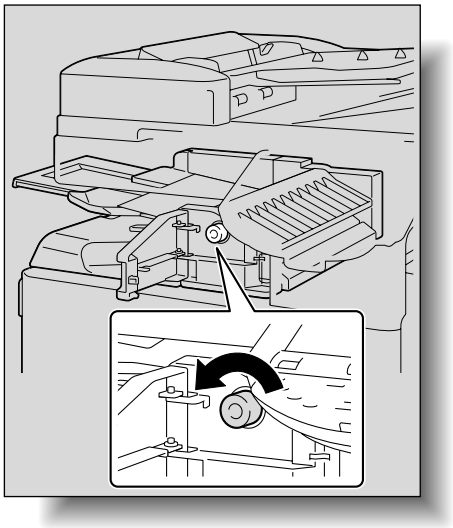
13 フィニッシャーを元の位置に戻します。

4.2.22　セパレータでの紙づまり処理のしかた

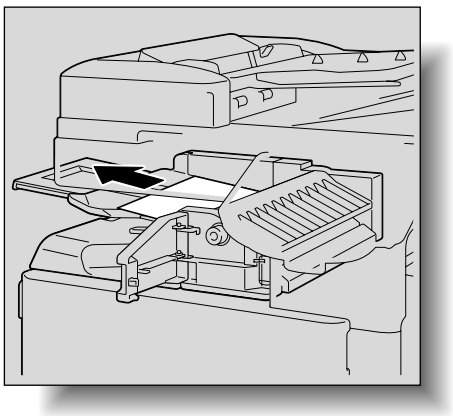
1 紙づまり処理ドアを開きます。



2 ダイアルを回して用紙を送り出します。



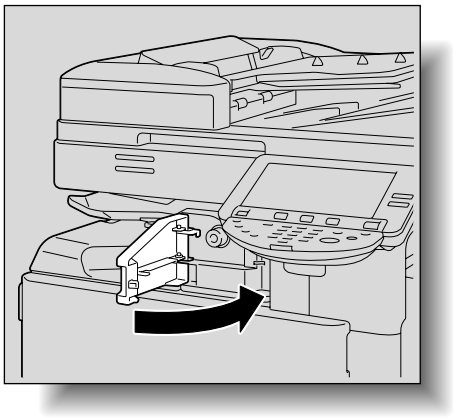
3 排紙トレイの用紙を取除きます。



参照

紙づまり位置については、「紙づまり位置表示」（p. 4-4）をごらんください。

4 紙づまり処理ドアを閉じます。



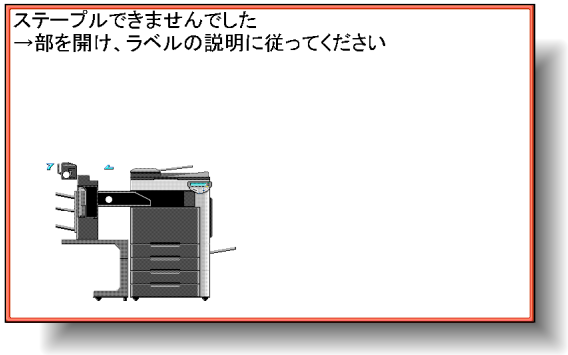
4.3 「ステープルできませんでした」と表示されたら

フィニッシャーでステープルの針づまりになると、下図のメッセージが表示されます。





＜拡大表示機能時の表示＞





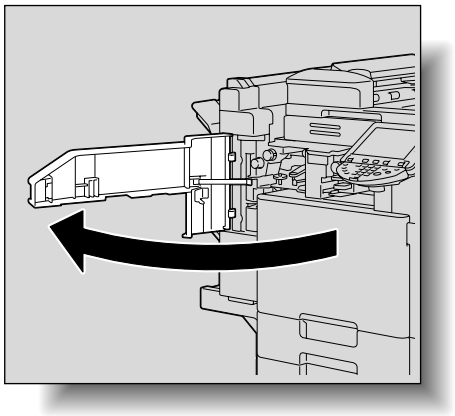
必ずお守りください

けがをするおそれがありますので、ステープルの針づまり処理にはご注意ください。

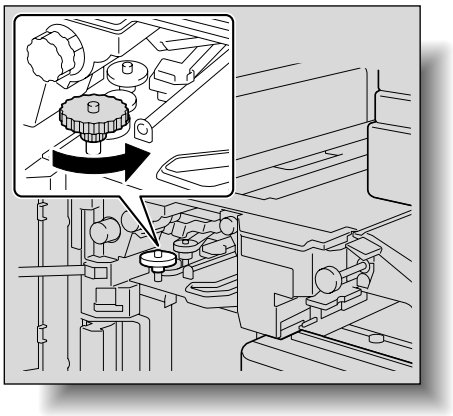
4.3.1 フィニッシャー FS-519 での針づまり処理のしかた

1 フィニッシャー内の用紙を全て取除きます。

2 前ドアを開きます。

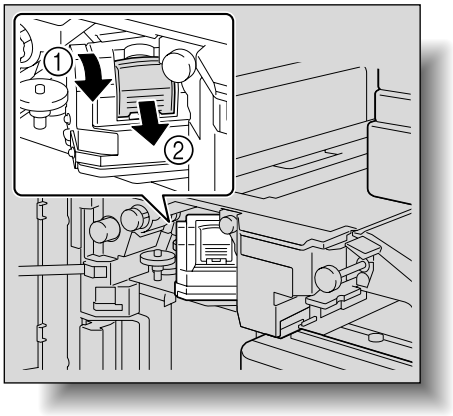


3 ダイアルを左側に回して、ステープラを手前に寄せます。



4 ステープルホルダーを取出します。

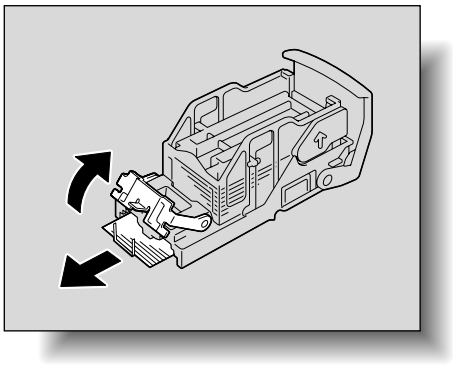
❍ ステープルホルダーを手前に引いて取出します。



参照

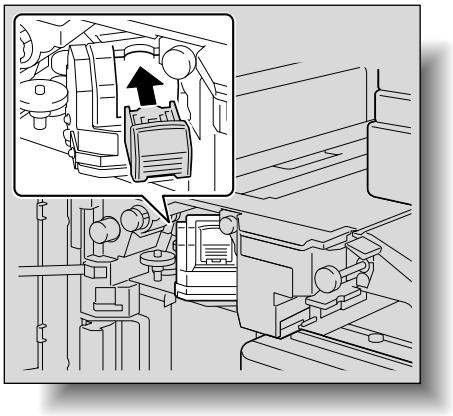
フィニッシャー内の用紙の取除きかたについては、「フィニッシャー FS-519 での紙づまり処理のしかた」（p. 4-45）をごらんください。

5 ステープルホルダーのガイドを上に押上げ、針シートを 1 枚取除きます。



6 ステープルホルダーのガイドを元に戻します。

7 ステープルホルダーを取付け部のレールに沿わせて挿入します。



❍ ステープルホルダーが奥までしっかり固定されていることを確認してください。

8 前ドアを閉じます。

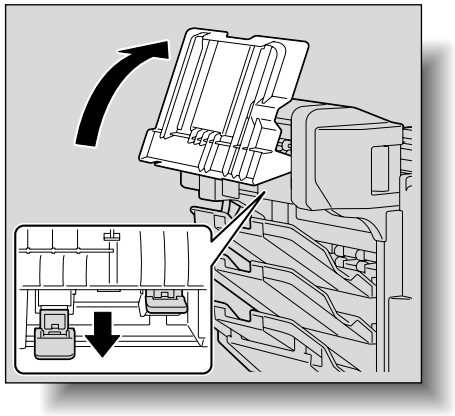
必ず守ってください

針づまり処理を行ってもステープルされない場合は、サービス実施店にご連絡ください。

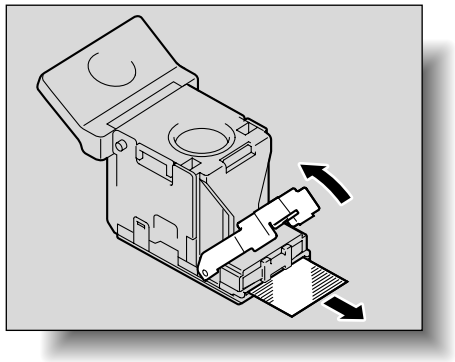
4.3.2 中綴じ機での針づまり処理のしかた

1 フィニッシャー内の用紙を全て取除きます。

2 排紙トレイを持上げ、ステープルホルダーを押下げて取外します。

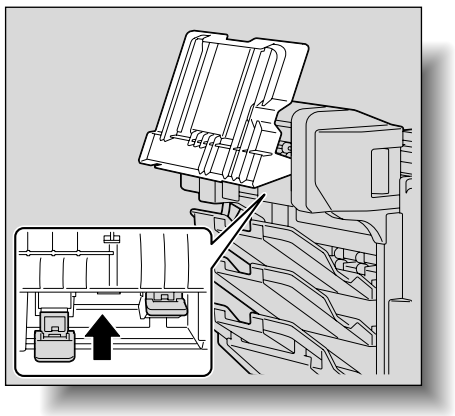


3 ステープルホルダーのガイドを上に押上げ、針シートを 1 枚取除きます。



4 ステープルホルダーのガイドを元に戻します。

5 ステープルホルダーを差込んで“カチッ”と音がするまで押上げます。



6 排紙トレイを元の位置に戻します。

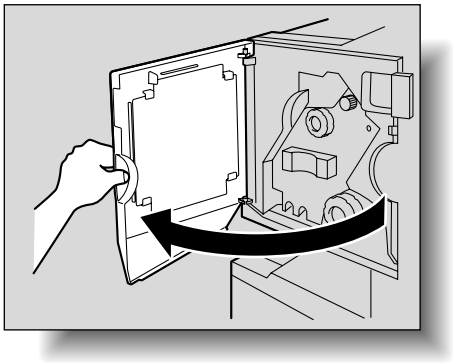
参照

フィニッシャー内の用紙の取除きかたについては、「フィニッシャー FS-519 での紙づまり処理のしかた」（p. 4-45）をごらんください。
中綴じ機内の用紙の取除きかたについては、「中綴じ機での紙づまり処理のしかた」（p. 4-50）をごらんください。

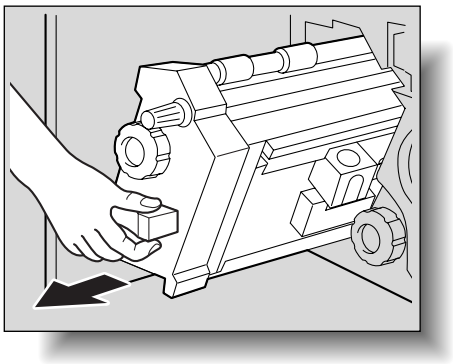
4.3.3 フィニッシャー FS-609 での針づまり処理のしかた

1 フィニッシャー内の用紙を全て取除きます。

2 前ドアを開きます。

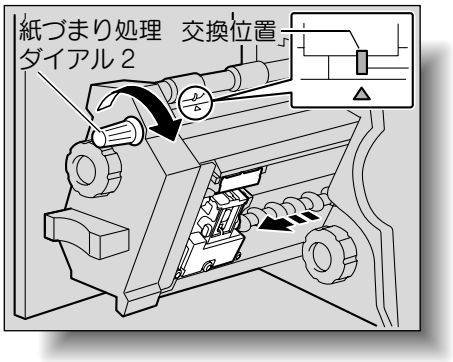


3 ステープルユニットを止まる位置まで、ゆっくりと引出します。



4 カートリッジ交換位置表示が一致するように、紙づまり処理ダイアル 2 を時計方向に回します。

ステープルカートリッジが交換位置まで移動します。



必ず守ってください

「ステープルできませんでした」が表示された場合は、必ず左記の手順の処理を行ってください。
左記の処理を行わず、無理に用紙を取除くとステープルユニットの破損の原因となります。

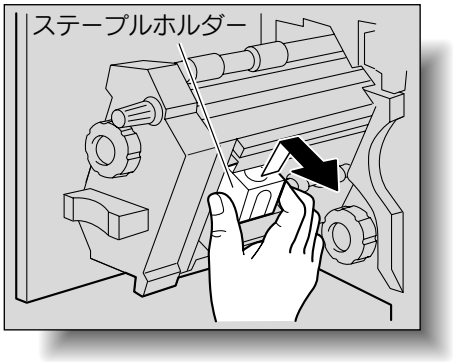
参照

フィニッシャー内の用紙の取除きかたについては、「フィニッシャー FS-609 での紙づまり処理のしかた」（p. 4-52）をごらんください。

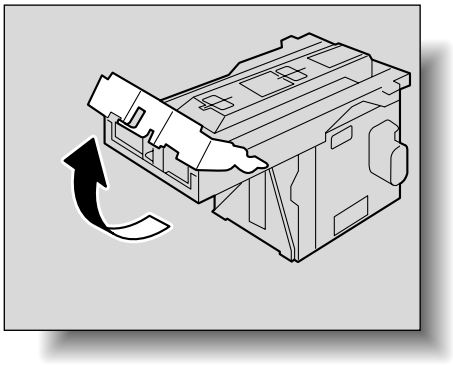
ひとこと

紙づまり処理ダイアル 2 を回しすぎてしまった場合は、紙づまり処理ダイアル 2 を反時計方向に回して、カートリッジ交換位置表示と一致するように紙づまり処理ダイアル 2 を微調整します。

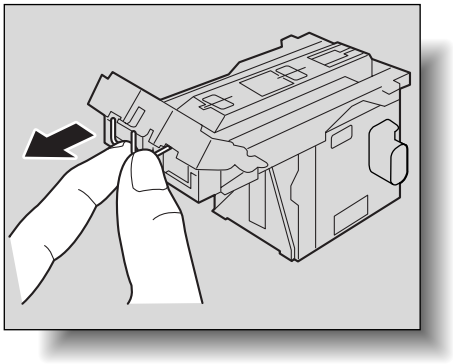
5 ステープルホルダーの両側を持ち取外します。



6 ステープルホルダーのガイドを持上げます。



7 ステープルホルダーの先端につまっているステープル針 2 本を手前側に抜取ります。

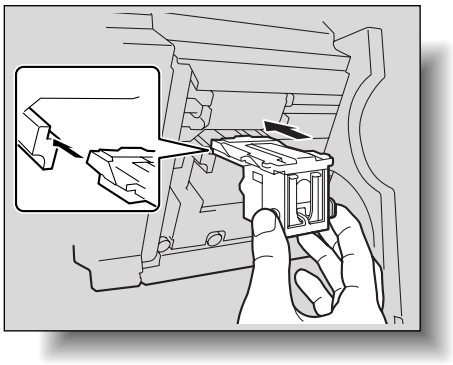


必ず守ってください

ステープル針は必ず 2 本取除いてください。1 本しか取除かなかった場合、次のステープルとじができない可能性があります。

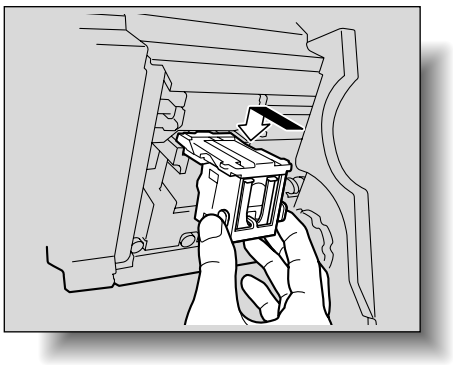
8 ステープルホルダーのガイドを元の位置に戻します。

9 ステープルホルダーの先端を、取付け部のレールに沿わせて挿入します。

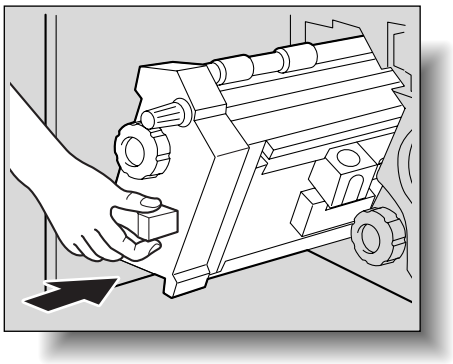


10 ステープルホルダーを“カチッ”という音がするまで押込みます。

❍ ステープルホルダーが奥までしっかり固定されたことを確認します。



11 ゆっくりステープルユニットを元の位置に戻します。



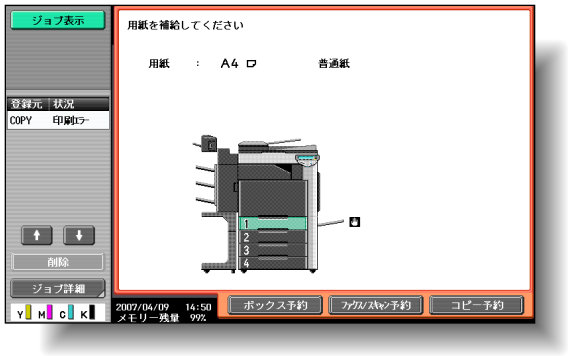
12 前ドアを閉じます。

必ず守ってください

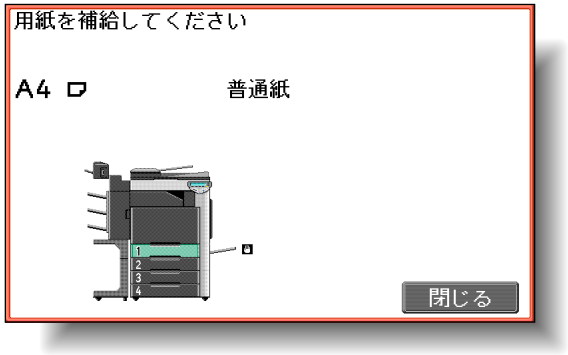
針づまり処理を行ってもステープルされない場合は、サービス実施店にご連絡ください。

4.4 「用紙を補給してください」と表示されたら

印刷中に用紙がなくなったときは、「用紙を補給してください」と表示されます。



＜拡大表示機能時の表示＞



➔ 色付き表示されているトレイを確認して、用紙を補給します。

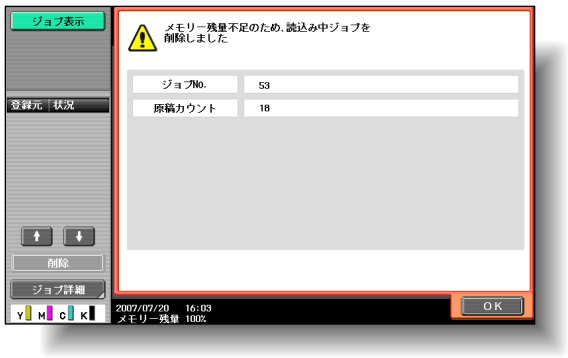
参照

用紙の補給について詳しくは、「トレイ 1/2/3/4 へ用紙をセットする」(p. 1-41)、「LCT へ用紙をセットする」(p. 1-43)、「手差しトレイへ用紙をセットする」(p. 1-45)をごらんください。

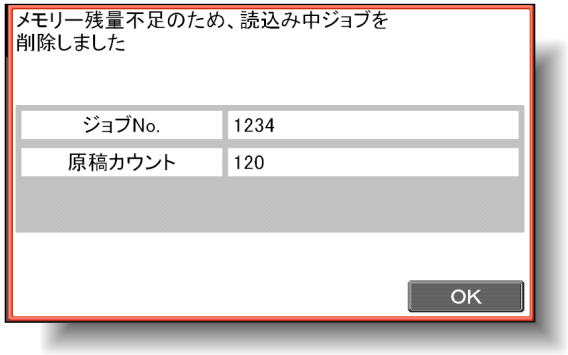
4.5 「メモリー残量不足のため、…」と表示されたら

本機はメモリーを使用してコピーを行っています。

コピー操作中にメモリー残量不足を起こした場合、「メモリー残量不足のため、読込み中ジョブを削除しました」のメッセージが表示されます。



＜拡大表示機能時の表示＞

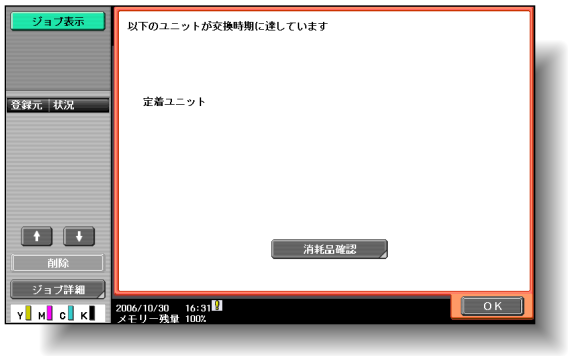


ひとこと

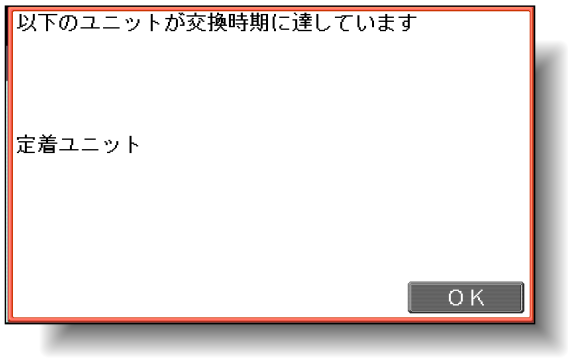
コピー操作中にメモリー残量不足を起こした場合、読込んだジョブは破棄されます。原稿カウントの枚数を確認して、読込み原稿枚数を調整してください。

4.6 「以下のユニットが交換時期に達しています」と表示されたら

本機内の各消耗品および交換部品が、交換時期が近づくと、タッチパネルに下図のようなメッセージが表示され、交換時期をお知らせします。



＜拡大表示機能時の表示＞



ひとこと

メッセージが表示されたら、保守契約にしたがって各消耗品および交換部品の交換の準備を行ってください。

詳しく説明します

「以下のユニットが交換時期に達しています」の表示後に、「…交換時期です」と表示し、本機は停止します。
「以下のユニットが交換時期に達しています」と表示してから、「…交換時期です」が表示するまでの印刷枚数は、印刷条件および各消耗品／交換部品によって異なります。

4.7 「…交換してください」と表示されたら

本機内の各消耗品および交換部品が交換時期になると、タッチパネルに下図のようなメッセージが表示されます。



＜拡大表示機能時の表示＞



ひとこと

メッセージが表示されたら、保守契約にしたがって各消耗品および交換部品の交換処理を行ってください。

詳しく説明します

使用済みの消耗品および交換部品はサービス実施店が回収しますので、捨てずに個装箱に入れて保管しておいてください。

4.8 「リモート操作中です 電源を切断しないでください」と表示されたら

本機へ PageScope Web Connection の管理者モードでアクセスしている場合や、サービス実施店によって CS Remote Care でアクセスしている場合に表示されます。



必ず守ってください

メッセージが表示されている間は電源を切断しないでください。PageScope Web Connection、CS Remote Care から本機へのアクセスをログアウトすると基本画面に戻ります。

4.9 簡単なトラブルの処理

	トラブルの内容	チェックポイント	処理のしかた
本体	【主電源スイッチ】を入れても機械が始動しない	コンセントへの接続は確実ですか？	電源プラグを正しくコンセントに接続してください。
		【副電源スイッチ】は ON になっていますか？	【副電源スイッチ】を ON にしてください。
	コピーがスタートしない	本体右上ドアを確実に閉じていますか？	本体右上ドアを確実に閉じてください。
		原稿に見合った適正な用紙が入っていますか？	適正なサイズの用紙を給紙トレイにセットしてください。
	画像がうすい／色がうすい	濃度の設定が、［うすく］になっていませんか？	濃度画面で［こく］を押して、お好みのコピー濃度でコピーしてください。（p. 2-51）
		用紙が湿気をおびていませんか？	用紙を新しいものに交換してください。（p. 1-41）、（p. 1-43）、（p. 1-45）
	画像がこい／色がこい	濃度の設定が、［こく］になっていませんか？	濃度画面で［うすく］を押して、お好みのコピー濃度でコピーしてください。（p. 2-51）
		原稿が原稿ガラス上から浮上がっていませんか？	原稿が原稿ガラス上に密着するようにセットしてください。（p. 2-7）
	画像がにじむまたはボケる	用紙が湿気をおびていませんか？	用紙を新しいものに交換してください。（p. 1-41）、（p. 1-43）、（p. 1-45）
		原稿が原稿ガラス上から浮上がっていませんか？	原稿が原稿ガラス上に密着するようにセットしてください。（p. 2-7）
	印刷の全体が汚れる 印刷にスジが表れる	原稿ガラスが汚れていませんか？	原稿ガラスを柔らかな布で乾拭きしてください。（p. 9-2）
		スリットガラスが汚れていませんか？	スリットガラスをスリットガラス清掃具で清掃してください。（p. 9-2）
		原稿押えパッドが汚れていませんか？	柔らかな布に中性洗剤をつけ、原稿押えパッドを清掃してください。（p. 9-3）
		第 2 原図、OHP フィルムなどの透明度の高い原稿を使っていませんか？	原稿の上に白紙をのせてコピーしてください。（p. 2-7）
		両面原稿を使っていませんか？	うすい紙の両面原稿の場合、ウラ面の原稿内容が透けて、おもて面の原稿に写ってしまうことがあります。下地調整画面で下地レベルをうすくしてください。（p. 2-52）
		帯電チャージャーワイヤーが汚れていませんか？	チャージャー清掃具で帯電チャージャーワイヤーの汚れを取除いてください。（p. 9-4）
	印刷の画像が傾いている	原稿が正しくセットされていますか？	原稿を原稿スケールに合わせて、正しくセットしてください。（p. 2-7） 原稿を ADF にセットし、ガイド板を原稿サイズに正しく合わせてください。（p. 2-6）
		ADF に適した原稿がセットされていますか？	ADF に適していない原稿の場合は、原稿ガラスを使用してコピーしてください。（p. 2-7）
		スリットガラスに異物が付着していませんか？（ADF 使用時）	スリットガラスをスリットガラス清掃具で清掃してください。（p. 9-2）
		給紙トレイのガイド板がきちんと用紙に合わせてありますか？	用紙端面にきちんとガイド板を合わせてください。
		カールの大きい用紙が給紙トレイにセットされていませんか？	用紙のカールを手でなおして給紙トレイにセットしなおしてください。

	トラブルの内容	チェックポイント	処理のしかた
	印刷された用紙が反っている	お使いになる用紙（再生紙など）によっては反りが発生する場合があります。	給紙トレイにセットされている用紙を裏返してセットしなおしてください。
			吸湿していない、新しい用紙に交換してください。 (p. 1-41)、(p. 1-43)、(p. 1-45)
	画像の周りが汚れる	原稿押えパッドが汚れていませんか？	柔らかな布に中性洗剤をつけ、原稿押えパッドを清掃してください。 (p. 9-3)
		原稿サイズより大きな用紙を選択していませんか？ （等倍 100.0% コピー時）	原稿と同じサイズの用紙を選択してください。 または、自動倍率を選択し、用紙に合わせた倍率で、拡大コピーをしてください。 (p. 2-31)
		原稿サイズと用紙の向きが違っていませんか？ （等倍 100.0% コピー時）	原稿と同じサイズの用紙を選択してください。または、原稿と同じ向きに用紙をセットしなおしてください。
		用紙サイズに合った縮小コピー倍率が選択されていますか？ （縮小コピー倍率手動入力時）	用紙サイズにあった倍率を選択してください。(p. 2-33) または、自動倍率を選択し、用紙に合わせた倍率で、縮小コピーをしてください。 (p. 2-33)
	紙づまり処理してもコピーできない	他にも紙づまりはありませんか？	紙づまり位置表示などを見て、他の場所につまっている用紙を取除いてください。 (p. 4-4)
	両面＞片面、両面＞両面機能にならない	組合わせできない設定を選んでいませんか？	選んでいる設定の組合わせをご確認ください。
	部門管理設定をしている機械でパスワードを入力してもコピーできない	「部門別カウンターが上限値です」が表示されていませんか？	管理責任者にご確認ください。
ADF	原稿が送られない	ADF が浮いていませんか？	ADF を確実に閉じてください。
		仕様以外の原稿を使用していませんか？	ADF にセットできる原稿の仕様を確認してください。(p. 6-19)、(p. 6-20)
		正しく原稿をセットしていますか？	原稿を正しくセットしてください。 (p. 2-6)
フィニッシャー	フィニッシャーが作動しない	コネクターへの接続は確実ですか？	コードをコネクターへ確実に接続してください。
	ステープルができない	ステープル針がなくなっていませんか？	ステープル針を補給してください。 (p. 8-16)
	ステープルの位置が 90˚ ずれる	ステープルの位置指定は合っていますか？	ステープルの位置を目的の位置に指定してください。(p. 2-61)
	排紙される用紙が均一に積載されず、パンチ穴やステープルの位置がずれる	用紙が大きくカールしていませんか？	給紙トレイ内にセットされている用紙を、裏表逆にセットしてください。
		用紙をセットしている給紙トレイのガイド板と用紙の間に隙間がありませんか？	給紙トレイのガイド板を用紙に突き当て、隙間ができないようにしてください。
	パンチを設定してもパンチされない（パンチキットが装着されたフィニッシャー）	「パンチキットのくずを廃棄してください」が表示されていませんか？	パンチ廃棄ボックスからパンチくずをすててください。(p. 8-25)

上記以外のメッセージが表示された場合は、メッセージにしたがい処理を行ってください。
上記処理を行ってもトラブルがなおらない場合は、サービス実施店にご連絡ください。

4.10　おもなメッセージと処理のしかた

メッセージ	原因	処理のしかた
原稿ガラス上に原稿が残っています	原稿ガラス上に原稿を置き忘れています。	原稿ガラス上の原稿を取除いてください。
最適用紙がありません 用紙を選択してください	適合するサイズの用紙が給紙トレイにセットされていません。	他のサイズの用紙を選択するか、適合するサイズの用紙をセットしてください。
手差しに用紙をセットしてください。	適合するサイズの用紙が手差しトレイにセットされていません。	適合するサイズの用紙を手差しトレイにセットしてください。
原稿サイズが検出できません 用紙を選択してください	① 原稿が正しくセットされていない。 ② 不定形サイズまたは、検出できない小サイズの原稿を使用している。	① 原稿を正しくセットしてください。 ② 用紙を選択して、コピーしてください。
用紙に画像が収まりません 原稿の方向を変えてセットしなおしてください	画像が用紙に収まらない場合に表示されます。	原稿を 90˚ 回転させ、セットしなおしてください。
○○○ とは同時設定できません	同時に設定できない機能を選択しています。	どちらか一方の機能でコピーしてください。
トレイの容量オーバーです →のトレイの用紙を取り除いてください	表示されているフィニッシャーの排紙トレイの容量が最大積載量に達したため、コピーができません。	表示されているトレイ上の用紙を全て取除いてください。
ログインするユーザー名とパスワードを入力し［ログイン］キー、または［ID］キーを押してください	ユーザー認証されています。ユーザー名と正しいパスワードを入力しないかぎりコピーはできません。	ユーザー名と正しいパスワードを入力してください。 (p. 1-32)
ログインする部門名とパスワードを入力し［ログイン］キー、または［ID］キーを押してください	部門管理されています。部門名と正しいパスワードを入力しないかぎりコピーはできません。	部門名と正しいパスワードを入力してください。(p. 1-34)
部門別カウンターが上限値です	印刷できる枚数が制限されており、その上限に達しました。	本機の管理者に連絡してください。
→部が開いています 確実に閉めてください	本体のドアやカバーが開いているかオプションが確実にセットされていないため、コピーができません。	本体のドアやカバー、オプションを確実にセットしてください。
トナーカートリッジを装着して全てのドアを閉めてください	表示されているトナーカートリッジが正しくセットされていません。	各消耗品および交換部品をセットしなおしてください。またはサービス実施店に連絡してください。
廃棄トナーボックスをセットして全てのドアを閉めてください	廃棄トナーボックスが正しくセットされていません。	
用紙を補給してください	表示されているトレイに用紙がありません。	用紙を補給してください。 (p. 1-41)、(p. 1-43)、(p. 1-45)
予備のトナーカートリッジ（X）を用意してください	表示されているトナーが残り少なくなったときに表示されます。	保守契約にしたがってトナーカートリッジ交換の準備をしてください。 (p. 8-2)
ステープル針がありません ステープルカートリッジを交換するか、ステープルを解除してください	ステープル針がなくなりました。	ステープルカートリッジを交換してください。(p. 8-16)
紙づまりです	紙づまりが発生し、コピーができません。	つまっている用紙を取除いてください。(p. 4-4)
以下の原稿枚数を戻してください ○○	紙づまり処理が終わったあと、ADF から排紙された原稿を戻す必要があるときに表示されます。	表示枚数の原稿を ADF にセットしなおしてください。
トラブルを検出しました。前ドアを開閉して解除してください。解除できない場合は、サービスにトラブルコードを連絡してください。	本機に何らかのトラブルが発生し、コピーできません。	画面のメッセージにしたがってトラブル処理をしてください。処理または解除できない場合は、画面に表示されているトラブルコードをサービス実施店に連絡してください。
トラブルを検出しました。主電源を OFF/ON して解除してください。解除できない場合はサービスにトラブルコードを連絡してください。		

メッセージ	原因	処理のしかた
トラブルです サービスにトラブルコードを連絡してください	本機に何らかのトラブルが発生し、コピーできません。	画面に表示されているトラブルコードをサービス実施店に連絡してください。
Now Downloading Program Data from the Firmware server.	①サービス実施店による CS Remote Care が行われています。 ② Internet ISW のダウンロード実行中です。	メッセージが表示されている間は、副電源スイッチを OFF しないでください。 副電源スイッチを OFF にした場合は、主電源スイッチを OFF にし、サービス実施店に連絡してください。
不正アクセスのため、入力した認証情報は無効です 管理者に連絡してください	認証に指定回数連続失敗したため、認証情報が無効となっています。	本機の管理者に連絡してください。
不正アクセスのため、現在管理者パスワードは無効となっています	認証に指定回数連続失敗したため、管理者パスワードが無効となっています。	本機の電源を OFF/ON します。 主電源を OFF にして、10 秒以上経過してから ON にしてください。
ログが上限に達しています 管理者に連絡してください	監査ログの書込み領域が上限に達し、認証やジョブの操作ができません。	本機の管理者設定で「TCP Socket」を［使用する］に設定してください。 さらに Log Management Utility で監査ログの取得を行ってください。

上記以外のメッセージが表示された場合は、メッセージにしたがい処理を行ってください。

第５章
仕様

本体およびオプションの仕様について説明します。

5.1　仕様 5-2

5.1 仕様

5.1.1 本体仕様

仕様	
形式	スキャナー・プリンター 一体卓上型／自立型
原稿台方式	原稿台固定方式（ミラースキャン）
感光体	OPC
光源	白色希ガス蛍光灯
複写方式	レーザー静電複写方式
現像方式	乾式 2 成分 HMT 現像方式
定着方式	ベルト定着方式
解像度	読取り：600 dpi × 600 dpi 出力：1800 dpi × 600 dpi
複写原稿	種類：シート、ブック（見開き）、立体物 サイズ：最大 A3（11 × 17） 重量：2 kg（立体物）
複写紙種類	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙 1（91 g/m^2 ～ 150 g/m^2）、 厚紙 2（151 g/m^2 ～ 209 g/m^2）、厚紙 3（210 g/m^2 ～ 256 g/m^2）、 厚紙 4（257 g/m^2 ～ 271 g/m^2）*、OHP フィルム*、はがき*、レターヘッド紙、 色紙、封筒*、ラベル用紙*、長尺紙（127 g/m^2 ～ 210 g/m^2）* 両面：普通紙（64 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙 1/2/3（91 g/m^2 ～ 256 g/m^2） * は手差しトレイのみ使用可能
複写紙サイズ	< トレイ 1> A3 ～ A5、11 × 17 ～ 8-1/2 × 11 /、8 × 13 *1、16K 、8K < トレイ 2> A3 ～ A5、12-1/4 × 18 *2、12 × 18 *2 ～ 8-1/2 × 11 /、 8 × 13 *1、16K 、8K < 手差しトレイ *> A3 ～ B6、A6 、はがき（100 mm × 148 mm）、長尺紙、 12-1/4 × 18 *2、12 × 18 *2 ～ 5-1/2 × 8-1/2 /、8 × 13 *1、16K /、 8K 幅：90 mm ～ 311.1 mm、長さ：139.7 mm ～ 1,200 mm * 厚紙 4 は A3 、A4 、11 × 17 、8-1/2 × 11 のみ印刷可能
用紙収容枚数	< トレイ 1/2> 普通紙：500 枚、厚紙 1/2/3：150 枚 < 手差しトレイ > 普通紙：150 枚、厚紙 1/2/3/4、OHP フィルム、はがき、ラベル用紙：20 枚、封筒：10 枚、長尺紙：10 枚
排紙トレイ積載枚数	普通紙：250 枚 厚紙：10 枚 OHP フィルム：1 枚
ウォームアップタイム	【主電源スイッチ】が ON の状態から【副電源スイッチ】を ON にして、印刷可能な状態になるまでの時間（室温 23 ℃） C353 フルカラー：41 秒以下 / ブラック：30 秒以下 C253/C203 フルカラー：37 秒以下 / ブラック：27 秒以下 【主電源スイッチ】を ON にして、印刷可能な状態になるまでの時間（室温 23 ℃） C353：75 秒以下 C253/C203：80 秒以下
画像欠け幅	先端：4.2 mm、後端：3 mm、右端：3 mm、左端：3 mm

仕様	
ファーストコピータイム	C353 フルカラー：8.5 秒以下 ブラック：5.9 秒以下 （A4 印刷時） C253/C203 フルカラー：11.7 秒以下 ブラック：7.7 秒以下 （A4 印刷時）
コピースピード	C353 フルカラー / ブラック：35 枚 / 分（片面 / 両面） C253 フルカラー / ブラック：25 枚 / 分（片面 / 両面） C203 フルカラー / ブラック：20 枚 / 分（片面 / 両面）
複写倍率	等倍：100.0% ± 0.5% 以下 拡大：115.4%、122.4%、141.4%、200.0% 縮小：86.6%、81.6%、70.7%、50.0%、小さめ（93.0%）* ズーム：25.0% ～ 400.0%（0.1% ステップ） 倍率登録 3 * 小さめ倍率（90.0% ～ 99.9%）
連続複写枚数	1 枚～ 999 枚
濃度調整	コピー濃度：マニュアル濃度調整（9 段階） 下地濃度：マニュアル濃度調整および自動濃度調整（9 段階）
電源	AC100 V、15 A、50/60 Hz
最大消費電力	1,500 W 以下
大きさ	幅 643 mm × 奥行 852 mm × 高さ 770 mm
機械占有寸法 *3	幅 1,668 mm × 奥行 1,178 mm（フィニッシャー FS-519 / 中綴じ機装着時） 幅 1,719 mm × 奥行 1,178 mm（フィニッシャー FS-609 装着時）
メモリー容量（ハードディスク容量）	1,024 MB（60 GB）
質量	約 99 kg

*1　Foolscap には、220 × 330 mm、8-1/2 × 13 、8-1/4 × 13 、8-1/8 × 13-1/4 、8 × 13 の 5 種類があります。いずれか 1 種類が選択可能です。詳しくはサービス技術者におたずねください。

*2　A3 よりひと回り大きい用紙サイズです。12-1/4 × 18 は 311.1 × 457.2 mm、12 × 18 は 304.8 × 457.2 mm です。

*3　機械占有寸法は、給紙トレイを引出した状態の寸法です。

この製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

5.1.2　自動両面ユニット

仕様	
用紙種類	普通紙（64 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙 1（91 g/m^2 ～ 150 g/m^2）、 厚紙 2（151 g/m^2 ～ 209 g/m^2）、厚紙 3（210 g/m^2 ～ 256 g/m^2）
用紙サイズ	A3 ◪ ～ A5 ◪/◧、12-1/4 × 18 ◪*1、12 × 18 ◪*1 ～ 5-1/2 × 8-1/2 ◪、 8 ×13 ◪*2、8K ◪、16K ◪/◧ 幅：139.7 mm ～ 311.1 mm、長さ：148 mm ～ 457.2 mm
電源	本体から供給

*1　A3 よりひと回り大きい用紙サイズです。12-1/4 × 18 は 311.1 × 457.2 mm、12 × 18 は 304.8 × 457.2 mm です。

*2　Foolscap には、220 × 330 mm ◪、8-1/2 × 13 ◪、8-1/4 × 13 ◪、8-1/8 × 13-1/4 ◪、8 × 13 ◪ の 5 種類があります。いずれか 1 種類が選択可能です。詳しくはサービス技術者におたずねください。

5.1.3　自動両面原稿送り装置 DF-611

仕様	
原稿通紙機能	標準機能：片面原稿、両面原稿 混載原稿機能：片面原稿、両面原稿混載
原稿種類	片面：普通紙（35 g/m^2 ～ 210 g/m^2） 両面・混載：普通紙（50 g/m^2 ～ 128 g/m^2）
原稿サイズ	片面原稿／両面原稿：A3 ◪ ～ A5 ◪/◧、B4 ◪ ～ B6 ◪、 はがき（100 mm × 148 mm）◪、11 × 17 ◪、8 × 13 ◪、8.5 × 11 ◪/◧ 混載原稿：表 1 を参照
原稿積載量	片面原稿／両面原稿：最大 100 枚以下（80 g/m^2）
電源	本体から供給
最大消費電力	60 W 以下
大きさ	幅 618 mm × 奥行 575 mm × 高さ 130 mm
質量	約 16.1 kg

表 1（混載原稿時の組合わせ表）

最大原稿幅→ ↓原稿サイズ	A3 ◪	A4 ◧	B4 ◪	B5 ◧	A4 ◪	A5 ◧	B5 ◪	A5 ◪	B6 ◪
A3 ◪	○	○	—	—	—	—	—	—	—
A4 ◧	○	○	—	—	—	—	—	—	—
B4 ◪	○	○	○	○	—	—	—	—	—
B5 ◧	○	○	○	○	—	—	—	—	—
A4 ◪	○	○	○	○	○	○	—	—	—
A5 ◧	—	—	○	○	○	○	—	—	—
B5 ◪	—	—	○	○	○	○	○	—	—
A5 ◪	—	—	—	—	—	—	○	○	—
B6 ◪	—	—	—	—	—	—	—	○	○

○：可
—：不可

5.1.4　給紙キャビネット PC-104

仕様	
用紙種類	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2） 厚紙 1（91 g/m^2 ～ 150 g/m^2） 厚紙 2（151 g/m^2 ～ 209 g/m^2） 厚紙 3（210 g/m^2 ～ 256 g/m^2）
用紙サイズ	A3 ～ A5、11 × 17 ～ 8-1/2 × 11 /、8 × 13 *、16K 、8K
収容枚数	トレイ 3 普通紙：500 枚、厚紙 1/2/3：150 枚
電源	本体から供給
最大消費電力	15 W 以下
大きさ	幅 600 mm × 奥行 578 mm × 高さ 301 mm
質量	約 24 kg
ユニット構成	給紙トレイ 1 段

*　Foolscap には、220 × 330 mm 、8-1/2 × 13 、8-1/4 × 13 、8-1/8 × 13-1/4 、8 × 13 の 5 種類があります。いずれか 1 種類が選択可能です。詳しくはサービス技術者におたずねください。

5.1.5　給紙キャビネット PC-204

仕様	
用紙種類	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2） 厚紙 1（91 g/m^2 ～ 150 g/m^2） 厚紙 2（151 g/m^2 ～ 209 g/m^2） 厚紙 3（210 g/m^2 ～ 256 g/m^2）
用紙サイズ	A3 ～ A5、11 × 17 ～ 8-1/2 × 11 /、8 × 13 *、16K 、8K
収容枚数	上段（トレイ 3） 普通紙：500 枚、厚紙 1/2/3：150 枚 下段（トレイ 4） 普通紙：500 枚、厚紙 1/2/3：150 枚
電源	本体から供給
最大消費電力	15 W 以下
大きさ	幅 600 mm × 奥行 578 mm × 高さ 301 mm
質量	約 28 kg
ユニット構成	給紙トレイ 2 段

*　Foolscap には、220 × 330 mm 、8-1/2 × 13 、8-1/4 × 13 、8-1/8 × 13-1/4 、8 × 13 の 5 種類があります。いずれか 1 種類が選択可能です。詳しくはサービス技術者におたずねください。

5.1.6　給紙キャビネット PC-405

仕様	
用紙種類	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2） 厚紙 1（91 g/m^2 ～ 150 g/m^2） 厚紙 2（151 g/m^2 ～ 209 g/m^2） 厚紙 3（210 g/m^2 ～ 256 g/m^2）
用紙サイズ	A4 ▯、8-1/2 × 11 ▯
収容枚数	普通紙：2,500 枚、厚紙 1/2/3：1,000 枚
電源	本体から供給
最大消費電力	45 W 以下
大きさ	幅 600 mm × 奥行 578 mm × 高さ 301 mm
質量	約 28 kg

5.1.7　フィニッシャー FS-519

仕様	
排紙トレイ	第 1 排紙トレイ、第 2 排紙トレイ
通紙機能	グループ、ソート、仕分けグループ、仕分けソート、ステープル
用紙種類	＜第 1 排紙トレイ、第 2 排紙トレイ＞ グループ / ソート：普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙（91 g/m^2 ～ 271 g/m^2）、OHP フィルム、はがき、封筒、ラベル用紙、レターヘッド 仕分けグループ / 仕分けソート：普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、 厚紙（91 g/m^2 ～ 271 g/m^2） ステープル：普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙（91 g/m^2 ～ 209 g/m^2）
用紙サイズ	＜第 1 排紙トレイ、第 2 排紙トレイ＞ A3 ▭ ～ B6 ▭、A6 ▭、12-1/4 × 18 ▭*、はがき（100 mm × 148 mm）
用紙積載量	＜第 1 排紙トレイ＞ 普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）：200 枚 厚紙（91 g/m^2 ～ 271 g/m^2）、OHP フィルム、はがき、封筒、ラベル用紙、レターヘッド：20 枚 ＜第 2 排紙トレイ＞ 普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）：A4 ▭ 以下 1000 枚、B4 ▭ 以上 500 枚 厚紙（91 g/m^2 ～ 271 g/m^2）、OHP フィルム、はがき、封筒、ラベル用紙、レターヘッド：20 枚
シフト量	30 mm
ステープル機能	用紙サイズ（とじ枚数）：A3 ▭ ～ A5 ▯（普通紙：2 ～ 50 枚）
パンチ機能	オプションのパンチキットによる
電源	本体から供給
最大消費電力	66 W 以下
大きさ	幅 352（471）mm × 奥行 558 mm × 高さ 573 mm（ ）はトレイ引出し時
質量	約 33.2 kg
消耗品	ステープル針 SK-602（5,000 針入り）× 1 個

* 12-1/4 × 18 は A3 よりひと回り大きい 311.1 × 457.2 mm です。

5.1.8 パンチキット PK-515

仕様	
パンチ穴数	2 穴
用紙種類	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙（91 g/m^2 ～ 256 g/m^2）
用紙サイズ	A3 ◪ ～ B5 ◪/◧
電源	フィニッシャーより供給
大きさ	幅 114 mm × 奥行 461 mm × 高さ 106 mm
質量	約 1.9 kg

5.1.9 中綴じ機 SD-505

仕様	
ビン数	1 ビン
用紙種類	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙（91 g/m^2 ～ 209 g/m^2）
用紙サイズ	A3 ◪、B4 ◪、A4◪、B5 ◪
用紙積載量	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）：最大 200 枚または 20 部
ステープル機能	とじ枚数：2 ～ 15 枚
大きさ	幅 445（576）mm × 奥行 478 mm × 高さ 203（281）mm （）内の数値はトレイ引出し時
質量	7.4 kg
消耗品	MS-2C 1 カートリッジ（2000 本用）
電源	フィニッシャーより供給

5.1.10 排紙トレイ OT-602

仕様	
ビン数	1 ビン
用紙種類	グループ / ソート：普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙（91 g/m^2 ～ 271 g/m^2）、OHP フィルム、はがき、封筒、ラベル用紙、レターヘッド 仕分けグループ / 仕分けソート：普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙（91 g/m^2 ～ 271 g/m^2） ステープル：普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙（91 g/m^2 ～ 209 g/m^2）
用紙サイズ	A3 ◪ ～ B6 ◪、A6 ◪、12-1/4 × 18 ◪*、はがき（100 mm × 148 mm）
用紙積載量	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）：200 枚 厚紙（91 g/m^2 ～ 271 g/m^2）、はがき、封筒、OHP フィルム、ラベル用紙、レターヘッド：20 枚
大きさ	幅 282 mm × 奥行 368 mm × 高さ 57 mm
質量	0.7 kg

* 12-1/4 × 18 は A3 よりひと回り大きい 311.1 × 457.2 mm です。

5.1.11　メールビンキット MT-502

仕様	
ビン数	4 ビン
用紙種類	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）
用紙サイズ	A4 ▯、B5 ▯、A5 ▭
用紙積載量	各ビン 125 枚まで
大きさ	幅 340 mm × 奥行 509 mm × 高さ 387 mm
質量	約 8 kg（製品質量）
電源	フィニッシャーより供給

5.1.12　フィニッシャー FS-609

仕様	
排紙トレイ	第 1 排紙トレイ、第 2 排紙トレイ
通紙機能	ノーマル機能：グループ、ソート、仕分けグループ、仕分けソート、ステープル、サドルステープル
用紙種類	＜第 1 排紙トレイ＞ グループ／ソート：普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙 （91 g/m^2 ～ 256 g/m^2）、OHP フィルム、はがき、封筒、ラベル用紙 仕分けソート／仕分けグループ：普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2） ステープル：普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2） ＜第 2 排紙トレイ＞ 普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）
用紙サイズ	＜第 1 排紙トレイ＞ グループ：A3 ▭ ～ A5 ▭/▯、A6 ▭、12-1/4 × 18 ▭*1、はがき ソート：A3 ▭ ～ A5 ▯ ステープル：A3 ▭ ～ B5 ▭/▯ ＜第 2 排紙トレイ＞ A3 ▭、B4 ▭、A4 ▭
用紙積載量	＜第 1 排紙トレイ＞ 普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）：A4 ▭ 以下 1,000 枚、B4 ▭ 以上 500 枚 厚紙 （91 g/m^2 ～ 256 g/m^2）、OHP フィルム、はがき、封筒、ラベル用紙：20 枚 ＜第 2 排紙トレイ＞ 10 部（とじ枚数 6 枚～ 15 枚）*2 20 部（とじ枚数 2 枚～ 5 枚）
シフト量	20 mm
ステープル機能	＜第 1 排紙トレイ＞ 用紙サイズ（とじ枚数）：A4 ▭/▯、B5 ▭/▯、A5 ▯（2 枚～ 50 枚） A3 ▭、B4 ▭（2 枚～ 25 枚） ＜第 2 排紙トレイ＞ 用紙サイズ（とじ枚数）：A3 ▭ ～ A4 ▭（2 枚～ 15 枚）
パンチ機能	オプションのパンチキットによる
電源	本体より供給
最大消費電力	65 W 以下
大きさ	幅 601 mm × 奥行 603 mm × 高さ 933 mm
質量	約 42 kg（水平搬送部を含む）
消耗品	ステープル MS-5D（50 枚とじ用 5,000 針入り）× 1

*1　12-1/4 × 18 は A3 よりひと回り大きい 311.1 × 457.2 mm です。

*2　とじ枚数は用紙種類により異なります。64 g/m^2 紙使用時 6 枚～ 15 枚、80 g/m^2 紙使用時 6 枚～ 10 枚までとなります。

5.1.13　パンチキット PK-501

仕様	
パンチ穴数	2 穴
用紙種類	普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙（91 g/m^2 ～ 209 g/m^2）
用紙サイズ	A3 ◪ ～ B5 ◪/◨
電源	フィニッシャーより供給
大きさ	幅 90 mm × 奥行 560 mm × 高さ 170 mm
質量	約 3 kg

5.1.14　セパレータ JS-505

仕様	
排紙トレイ	第 1 排紙トレイ、第 2 排紙トレイ
通紙機能	グループ、ソート、仕分けグループ、仕分けソート
用紙種類	＜第 1 排紙トレイ＞ 普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2） ＜第 2 排紙トレイ＞ 普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）、厚紙（91 g/m^2 ～ 271 g/m^2）、 OHP フィルム、はがき、ラベル用紙、封筒、長尺紙
用紙サイズ	A3 ◪ ～ B6 ◪、A6 ◪、12-1/4 × 18 ◪*、 はがき（100 g/m^2 ～ 148 g/m^2）◪、長尺紙、11 × 17 ◪ ～ 5-1/2 × 8-1/2 ◪/◨
用紙積載量	＜第 1 排紙トレイ＞ 普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）：50 枚 ＜第 2 排紙トレイ＞ 普通紙（60 g/m^2 ～ 90 g/m^2）：150 枚 厚紙（91 g/m^2 ～ 271 g/m^2）、OHP シート、はがき、ラベル用紙：20 枚 封筒：10 枚 長尺紙：1 枚
電源	本体より供給
最大消費電力	40 W 以下
シフト量	30 mm
仕分け機能	＜第 2 排紙トレイ＞ 普通紙、厚紙 A3 ◪ ～ B5 ◪、11 × 17 ◪ ～ 8-1/2 × 11 ◪/◨
大きさ	幅 413 mm/550 mm（補助トレイを引出した場合）× 奥行 477 mm × 高さ 129 mm
質量	約 5 kg

* 12-1/4 × 18 は A3 よりひと回り大きい 311.1 × 457.2 mm です。

第 6 章
用紙・原稿について

本機で使用する用紙と原稿の条件について説明します。

6.1　用紙について 6-2
6.2　用紙設定 6-7
6.3　原稿について 6-19

6.1 用紙について

以下の条件を満たす用紙をご使用ください。

6.1.1 使用できる用紙サイズ

不定形紙：

給紙口・その他	用紙幅	用紙長
手差しトレイ *1	90.0 mm ～ 311.1 mm	139.7 mm ～ 1200.0 mm
トレイ 1	—	—
トレイ 2		
1 段 /2 段給紙キャビネット		
LCT		
両面印刷	139.7 mm ～ 311.1 mm	148 mm ～ 457.2 mm

*1 長尺紙
用紙幅：210 mm ～ 297 mm
用紙長：457.3 mm ～ 1,200 mm

定形紙：

給紙口・その他	用紙サイズ
手差しトレイ	A3 ～ B6 、A6 、はがき *1、12-1/4 × 18 *2、12 × 18 *2 ～ 5-1/2 × 8-1/2 /、8 × 13 *3、16K /、8K
トレイ 1	A3 ～ A5 、11 × 17 ～ 8-1/2 × 11 /、8 × 13 *3、16K 、8K
トレイ 2	A3 ～ A5 、12-1/4 × 18 *2、12 × 18 *2 ～ 8-1/2 × 11 /、8 × 13 *3、16K 、8K
1 段 /2 段給紙キャビネット	A3 ～ A5 、11 × 17 ～ 8-1/2 × 11 /、8 × 13 *3、16K 、8K
LCT	A4 、8-1/2 × 11
両面印刷	A3 ～ A5 /、12-1/4 × 18 *2、12 × 18 *2 ～ 5-1/2 × 8-1/2、8 × 13 *3、8K 、16K /

*1 はがきとは、100 × 148 mm（郵政はがき）を指します。100 × 148 mm（郵政はがき）以外のはがきを使用する場合は、使用するはがきのサイズを確認したうえで、不定形サイズ画面にてサイズ設定したのちご使用ください。

*2 A3 よりひと回り大きい用紙サイズです。12-1/4 × 18 は 311.1 × 457.2 mm、12 × 18 は 304.8 × 457.2 mm です。

*3 Foolscap には、220 × 330 mm 、8-1/2 × 13 、8-1/4 × 13 、8-1/8 × 13-1/4 、8 × 13 の 5 種類があります。いずれか 1 種類が選択可能です。詳しくはサービス技術者におたずねください。

積載する装置	積載可能サイズ
フィニッシャー FS-519	＜第 1 排紙トレイ、第 2 排紙トレイ、増設排紙トレイ＞ A3 ～ B6 、A6 、12-1/4 ×18 *1、はがき（100 mm × 148 mm） グループ／ソート：A3 ～ A5 ステープル：A3 ～ A5 パンチ機能 *2：A3 ～ B5 /
増設排紙トレイ OT-602	
中綴じ機 SD-505	中とじ / 中折り：A3 、B4 、A4 、B5
メールビンキット MT-502	A4 、B5 、A5

積載する装置	積載可能サイズ
フィニッシャー FS-609	<第 1 排紙トレイ> グループ：A3 ～ A5 /、A6 、12-1/4 × 18 *1 ソート：A3 ～ A5 ステープル：A3 ～ B5 / パンチ機能 *2：A3 ～ B5 / <第 2 排紙トレイ> A3 ～ A4
セパレータ JS-505	<第 1 排紙トレイ、第 2 排紙トレイ> A3 ～ B6 、A6 、12-1/4 × 18 *1、はがき（100 mm × 148 mm）、 11 × 17 ～ 5-1/2 × 8-1/2 /

*1　12-1/4 × 18 は A3 よりひと回り大きい 311.1 × 457.2 mm です。
*2　フィニッシャーにオプションのパンチキットを装着した場合に使用できます。

6.1.2　用紙種類および用紙容量

用紙種類 坪量（g/m²） 給紙口・その他	普通紙 60 g/m² ～ 90 g/m²	厚紙 1 91 g/m² ～ 150 g/m²	厚紙 2 151 g/m² ～ 209 g/m²	厚紙 3 210 g/m² ～ 256 g/m²	厚紙 4*1 257 g/m² ～ 271 g/m²
手差しトレイ	150 枚	20 枚	20 枚	20 枚	20 枚
トレイ 1/2	500 枚	150 枚	150 枚	150 枚	-
1 段 /2 段給紙キャビネット	500 枚	150 枚	150 枚	150 枚	-
LCT	2,500 枚	1,000 枚	1,000 枚	1,000 枚	-

用紙種類 給紙口・その他	OHP フィルム	はがき	封筒	ラベル用紙	長尺紙 *2 127 g/m² ～ 210 g/m²
手差しトレイ	20 枚	20 枚	10 枚	20 枚	10 枚
トレイ 1/2	-	-	-	-	-
1 段 /2 段給紙キャビネット	-	-	-	-	-
LCT	-	-	-	-	-

*1　厚紙 4 は A3 、A4 、11 × 17 、8-1/2 × 11 のみ印刷することができます。
*2　プリンター機能使用時に設定できます。

6.1.3　専用紙について

OHP フィルムや色紙など、普通紙以外の用紙を専用紙と呼びます。給紙トレイに OHP フィルムや色紙などをセットした場合、必ず正しい種類の専用紙に設定してください。用紙種類が正しくない場合、紙づまりなどの原因となります。

用紙種類		アイコン	説明
片面専用用紙			坪量 60 g/m^2 ～ 90 g/m^2 の普通紙で、両面に印刷したくない用紙（すでに 1 面目に印刷がされている用紙など）をセットする場合に選択します。 片面印刷時には、自動用紙設定で優先して選択されます。 両面印刷時、用紙を自動選択しません。
特殊紙			坪量 60 g/m^2 ～ 90 g/m^2 の普通紙で、上質紙などの特別な用紙をセットする場合に選択します。 自動用紙設定時、用紙を自動選択しません。
レターヘッド紙			坪量 60 g/m^2 ～ 90 g/m^2 の普通紙で、あらかじめ社名や定型文などが印刷された用紙をセットする場合に選択します。 自動用紙設定時、用紙を自動選択しません。
色紙			坪量 60 g/m^2 ～ 90 g/m^2 の普通紙で、カラーペーパーをセットする場合に選択します。 自動用紙設定時、用紙を自動選択しません。
OHP フィルム			OHP フィルムをセットする場合に選択します。 自動用紙設定時、用紙を自動選択しません。OHP フィルムを選択するときは、カラー設定で［ブラック］を指定してから用紙種類を選択してください。
厚紙 1			坪量 91 g/m^2 ～ 150 g/m^2 の厚手の用紙をセットする場合に選択します。 自動用紙設定時、用紙を自動選択しません。
厚紙 2			坪量 151 g/m^2 ～ 209 g/m^2 の厚手の用紙をセットする場合に選択します。 自動用紙設定時、用紙を自動選択しません。
厚紙 3			坪量 210 g/m^2 ～ 256 g/m^2 の厚手の用紙をセットする場合に選択します。 自動用紙設定時、用紙を自動選択しません。
厚紙 4			坪量 257 g/m^2 ～ 271 g/m^2 の厚手の用紙をセットする場合に選択します。 自動用紙設定時、用紙を自動選択しません。
封筒			封筒をセットする場合に選択します。 自動用紙設定時、用紙を自動選択しません。
両面 2 面目	普通紙		片面に印刷された用紙をセットする場合に選択します。 両面 2 面目は、手差しトレイで普通紙、厚紙 1、厚紙 2、厚紙 3、厚紙 4 のときにのみ設定できます。
	厚紙 1		
	厚紙 2		
	厚紙 3		
	厚紙 4		

6.1.4　用紙使用上の注意

以下の用紙は使用しないでください。
印刷品質の低下や、紙づまり、故障の原因になります。

- 1 度通紙した OHP フィルム（白紙状態で排紙された OHP フィルムでも再使用できません。）
- 熱転写プリンターやインクジェットプリンターで印刷された用紙
- 厚すぎる用紙や薄すぎる用紙
- 折り目、反り、しわ、破れのある用紙
- 開封後長期間経過した用紙
- 吸湿した用紙、バインダー用の穴が開いている用紙、ミシン目のある用紙
- 表面が滑らかすぎる用紙、表面が粗すぎる用紙、表面が一様でない用紙
- カーボン紙、感熱紙、感圧紙のような表面が加工された用紙
- 箔押し、エンボスなどの加工が施されている用紙
- 形が不規則な用紙（長方形でない用紙）
- のり、ステープル、クリップなどでとじられている用紙
- ラベルが貼られている用紙
- リボンやフック、ボタンなどの付いている用紙

6.1.5　用紙の保管

- 用紙は、湿気の少ない冷暗所に保存してください。
- 用紙が湿気をおびると、紙づまりの原因になります。
  トレイにセットしきれなかった用紙は、包装紙に包み、または包装紙から取出した用紙はポリ袋に入れ、湿気の少ない冷暗所に保管してください。
- 用紙は、立てて置かずに水平に保管してください。用紙にカールがついて、紙づまりの原因になります。
- 幼児や子供の手の届くところには置かないようにしてください。

6.1.6　ATS 機能（自動トレイ切換え機能）

連続印刷中、選択した給紙トレイの用紙が無くなった場合、以下の動作条件を満たした他の給紙トレイがあれば、自動的に給紙トレイを切換えて印刷を続けます。オプションの LCT を装着した場合、最大 3,650 枚（A4▯ の場合）の連続印刷が可能となります。（設定メニュー機能の ATS 許可で「許可する」が設定されている場合のみ可能となります。）

＜動作条件＞

- 同じサイズの用紙
- 同じ向きの用紙
- 同じ種類の用紙
- 給紙トレイ自動選択で選択されている給紙トレイ

参照

給紙トレイ自動選択で選択される給紙トレイの設定については、「環境設定」（p. 11-14）をごらんください。

6.1.7　給紙トレイ切換え順位

出荷時設定では ATS 機能（自動トレイ切換え機能）がはたらいた場合、以下の優先順位で給紙トレイが選択されます。

標準トレイ時

トレイ 1 →トレイ 2 →手差しトレイ

1 段給紙キャビネット装着時

トレイ 1 →トレイ 2 →トレイ 3 →手差しトレイ

2 段給紙キャビネット装着時

トレイ 1 →トレイ 2 →トレイ 3 →トレイ 4 →手差しトレイ

LCT 装着時

トレイ 1 →トレイ 2 →トレイ 3 →手差しトレイ

参照

給紙トレイの優先順位を変更したい場合は、「環境設定」（p. 11-14）をごらんください。

6.2 用紙設定

ここでは、各給紙トレイにセットされた用紙サイズおよび用紙種類の設定方法について説明します。

6.2.1 用紙サイズを自動で検出させる（自動検出）

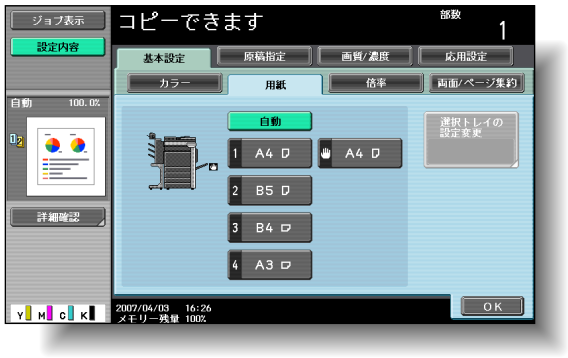
トレイ 1/2/3/4 と手差しトレイの用紙サイズを自動的に検出します。
ここではトレイ 1 での自動検出の設定方法を説明します。

1 基本設定画面の［用紙］を押します。



用紙画面が表示されます。

2 トレイ 1 のキーを押します。



3 ［選択トレイの設定変更］を押します。

4 ［自動検出］を押します。



出荷時設定では［自動検出］が選択されています。

5 ［OK］を 2 回押します。

基本設定画面に戻ります。

参照

・トレイ 1/2/3/4 の用紙のセットについては、「トレイ 1/2/3/4 へ用紙をセットする」（p. 1-41）をごらんください。
・手差しトレイの用紙のセットについては、「手差しトレイへ用紙をセットする」（p. 1-45）をごらんください。

詳しく説明します

トレイ 2/3/4 または手差しトレイで自動検出の設定をする場合は、該当するトレイのキーを押します。

6.2.2　用紙サイズを指定する（サイズ指定）

手差しトレイの用紙サイズを指定し、指定した用紙サイズ専用のトレイとして使用できます。

たとえば、はがきやインチサイズの用紙など、自動的にサイズが検出されない用紙を設定しておくと便利です。

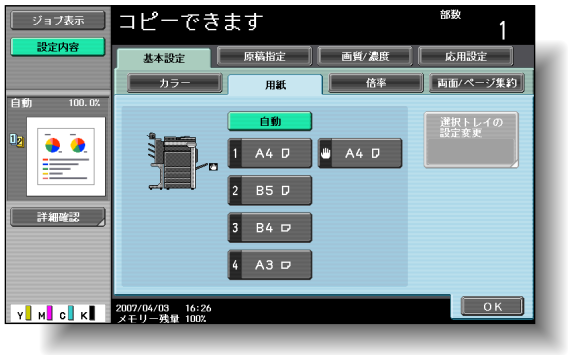
ここでは手差しトレイをはがき専用に設定する方法を説明します。

1 基本設定画面の［用紙］を押します。



用紙画面が表示されます。

2 手差しトレイのキーを押します。



3 ［選択トレイの設定変更］を押します。

4 ［定形サイズ］を押します。



定形サイズ画面が表示されます。

必ず守ってください

サイズ指定された用紙サイズ以外の用紙をセットした場合、用紙サイズを自動検出しないため、紙づまりの原因となります。

参照

手差しトレイの用紙のセットについては、「手差しトレイへ用紙をセットする」（p. 1-45）をごらんください。

詳しく説明します

トレイ 2 では、［12-1/4 × 18］の用紙キーを選択できます。

5 ［↓］を 2 回押し、［はがき ］を押します。



6 ［OK］を 3 回押します。

基本設定画面に戻ります。
手差しトレイの用紙サイズが設定されます。

6.2.3　不定形紙をセットする（不定形）

不定形紙は、手差しトレイにセットできます。
不定形紙を使用する場合は、用紙サイズを入力する必要があります。

1 基本設定画面の［用紙］を押します。



用紙画面が表示されます。

2 手差しトレイのキーを押します。



3 ［選択トレイの設定変更］を押します。

詳しく説明します

・［↑］または［↓］を押して、目的の用紙サイズのキーを押します。
・［はがき ］を選択すると［厚紙 3］が自動的に設定されます。はがき以外をセットした場合は、用紙種類の変更を行ってください。用紙種類の設定については、「専用紙として設定する」（p. 6-16）をごらんください。

参照

手差しトレイの用紙のセットについては、「手差しトレイへ用紙をセットする」（p. 1-45）をごらんください。

4 ［不定形サイズ］を押します。



不定形サイズ画面が表示されます。

5 用紙の長さ［X］／幅［Y］を入力します。

- ［X］が反転していることを確認し、テンキーで X 辺の長さを設定します。（139.7 mm ～ 457.2 mm）
- ［Y］を押して反転させ、テンキーで Y 辺の長さを設定します。（90.0 mm ～ 311.1 mm）



6 ［OK］を 3 回押します。

基本設定画面に戻ります。

参照

- 5 つの用紙サイズを登録できます。
- 登録した用紙サイズは、メモリーキーを押して呼出します。
- 「memory1」～「memory5」の名称は変更できます。変更のしかたについては、「目的の用紙サイズを登録する（不定形）」（p. 6-11）の手順 5 をごらんください。
- 用紙サイズの登録については、「目的の用紙サイズを登録する（不定形）」（p. 6-11）をごらんください。

詳しく説明します

- 設定可能範囲を超える数値を入力した場合、「入力エラー」となります。設定可能範囲の数値を入力しなおしてください。
- 入力を間違えたときは、【C】を押し、正しい数値を入力します。

ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

6.2.4　目的の用紙サイズを登録する（不定形）

5 つの不定形紙を登録できます。

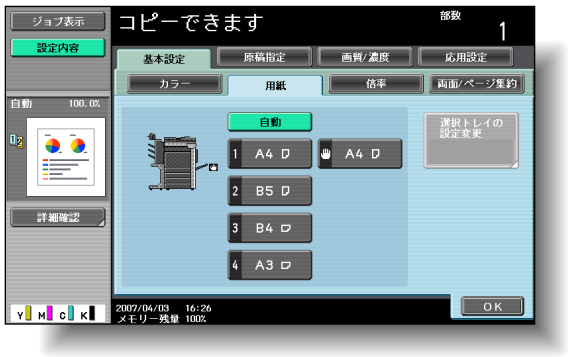
よく使用する用紙サイズを登録しておけば、次回使用するときに用紙サイズを入力する必要がなくなります。

1 基本設定画面の［用紙］を押します。



用紙画面が表示されます。

2 手差しトレイのキーを押します。



3 ［選択トレイの設定変更］を押します。

4 ［不定形サイズ］を押します。



不定形サイズ画面が表示されます。

参照

手差しトレイの用紙のセットについては、「手差しトレイへ用紙をセットする」（p. 1-45）をごらんください。

5

X 辺サイズ／Y 辺サイズを設定し、[メモリー登録] を押します。

- [X] が反転していることを確認し、テンキーで、X 辺の長さを設定します。(139.7 mm ～ 457.2 mm)
- [Y] を押して反転させ、テンキーで、Y 辺の長さを設定します。(90.0 mm ～ 311.1 mm)



6

登録するメモリーキーを押します。



- メモリーキーの名称を変更する場合は、[不定形名称変更] を押し、変更するキーを押します。



詳しく説明します

- X 辺、Y 辺は、画面のイラストで確認してください。
- 設定可能範囲を超える数値を入力した場合、「入力エラー」となります。設定可能範囲の数値を入力しなおしてください。
- 入力を間違えたときは、【C】を押し、正しい数値を入力します。

ひとこと

[中止] を押すと設定は変更されません。

詳しく説明します

画面に表示されるキーボードを押して入力します。文字の入力のしかたは、「文字を入力するには」(p. 12-2) をごらんください。

表示されるキーボードで登録名称を入力し、［OK］を押し、［閉じる］を押します。



7

［OK］を 4 回押します。

基本設定画面に戻ります。

6.2.5　ワイド紙の設定をする

原稿サイズに対して、ひと回り大きいサイズの用紙をワイド紙として設定することで、原稿の画像を欠損させることなく用紙の中央に配置してコピーします。

ワイド紙は、トレイ 1/2/3/4 および手差しトレイに設定できます。

ここでは手差しトレイでのワイド紙の設定方法を説明します。

詳しく説明します

・トレイ 1/2/3/4 には定形サイズのみワイド紙が設定できます。
・手差しトレイでワイド紙を設定する場合、定形サイズ以外に不定形サイズの用紙が設定できます。不定形サイズの用紙を使用する場合は、サイズ入力を行ってください。

1

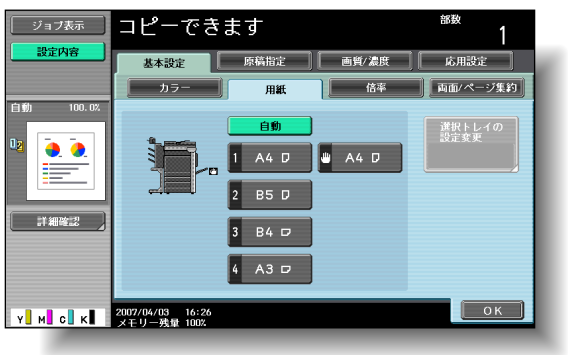
基本設定画面の［用紙］を押します。



用紙画面が表示されます。

2

手差しトレイのキーを押します。



参照

・トレイ 1/2/3/4 の用紙のセットについては、「トレイ 1/2/3/4 へ用紙をセットする」（p. 1-41）をごらんください。
・手差しトレイの用紙のセットについては、「手差しトレイへ用紙をセットする」（p. 1-45）をごらんください。

詳しく説明します

トレイ 1/2/3/4 の用紙サイズを指定する場合は、該当するトレイのキーを押します。

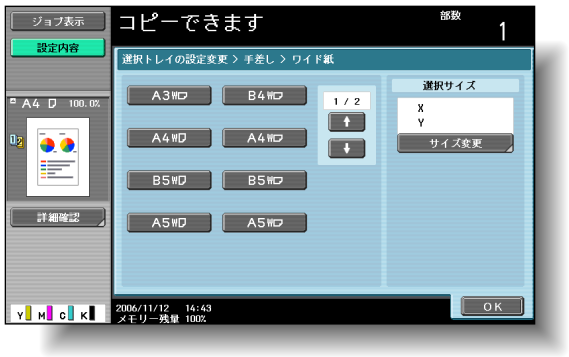
3 ［選択トレイの設定変更］を押します。

4 ［ワイド紙］を押します。



ワイド紙画面が表示されます。

5 セットする用紙のサイズを選択します。



6 サイズの変更をしたい場合は、［サイズ変更］を押します。
ワイド紙のサイズ変更画面が表示されます。

詳しく説明します

・［↑］または［↓］を押して、目的の用紙サイズのキーを押します。
・トレイ 1/2/3/4 でワイド紙を設定する場合、サイズ変更はできません。

7

X 辺サイズと Y 辺サイズを設定し、［OK］を押します。

［X］または［Y］を押し、【C】を押し数値を取消してから、テンキーで入力します。



8

［OK］を 3 回押します。

基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

- 12 × 18 ◪（304.8 × 457.2 mm）サイズの用紙を登録したい場合は、［12 × 18 ◪］を押します。［X］、［Y］にそれぞれ数値が入力されます。
- 入力したサイズは、サイズキーに登録されます。次回からは、サイズの入力は不要です。また、サイズを変更することもできます。
- 設定可能範囲を超える数値を入力した場合、「入力エラー」となります。設定可能範囲の数値を入力しなおしてください。設定可能範囲は、用紙のサイズによって異なります。
- セットした用紙の向きと X 辺、Y 辺のサイズが合っていない場合は、設定可能範囲内でも「入力エラー」となります。また、X 辺、Y 辺の同一サイズでの入力は行わないでください。
- 入力を間違えたときは、【C】を押し、正しい数値を入力します。

ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

6.2.6　専用紙として設定する

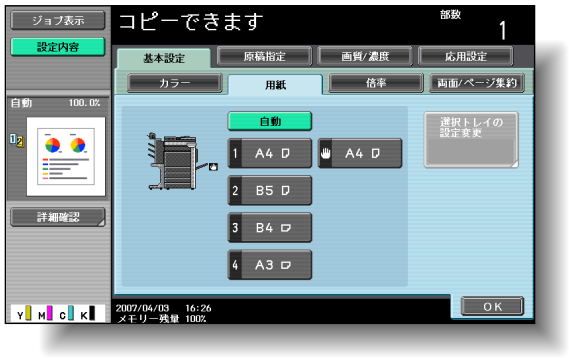
普通紙以外の OHP フィルムや特殊紙などをトレイにセットする場合には、トレイの用紙種類の設定を変更してください。
ここではトレイ 1 での専用紙の設定方法を説明します。

1 基本設定画面の［用紙］を押します。



用紙画面が表示されます。

2 トレイ 1 のキーを押します。



3 ［選択トレイの設定変更］を押します。

4 専用紙の種類を設定します。

❍ 目的の用紙種類のキーを押します。



5 ［OK］を 2 回押します。

基本設定画面に戻ります。

必ず守ってください

特殊紙をセットしたトレイは、必ず該当する用紙種類に設定してください。誤った設定を行うと紙づまりの原因となります。

参照

- トレイ 1/2/3/4 の用紙のセットについては、「トレイ 1/2/3/4 へ用紙をセットする」（p. 1-41）をごらんください。
- 手差しトレイの用紙のセットについては、「手差しトレイへ用紙をセットする」（p. 1-45）をごらんください。

詳しく説明します

- トレイ 2/3/4、手差しトレイに専用紙を設定する場合は、該当するトレイのキーを押します。
- 専用紙として設定した給紙トレイは、自動用紙機能による選択の対象になりません。ただし、両面不可紙については、片面印刷時には優先的に選択の対象となります。
- 自動トレイ切換え機能は同一の用紙種類を設定したトレイ間にかぎり動作します。

詳しく説明します

給紙トレイによりセットできる専用紙に制限があります。セット可能な用紙種類については、「仕様」（p. 5-2）をごらんください。

必ず守ってください

はがきをセットしたときは、［厚紙 3］を設定してください。

6.2.7　手動で両面印刷をする

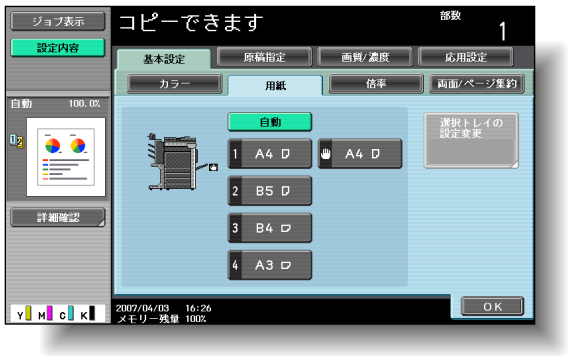
自動両面ユニットに通紙できない用紙へ両面印刷したい場合は、［両面 2 面目］を使用して印刷します。
両面 2 面目の用紙は、手差しトレイにセットできます。

1 基本設定画面の［用紙］を押します。



用紙画面が表示されます。

2 手差しトレイのキーを押します。



3 ［選択トレイの設定変更］を押します。

4 セットした用紙の種類を選択します。



ひとこと

自動用紙選択機能では［両面 2 面目］を設定したトレイを選択しません。

参照

手差しトレイの用紙のセットについては、「手差しトレイへ用紙をセットする」（p. 1-45）をごらんください。

5

［両面 2 面目］を押します。



6

［OK］を 2 回押します。

基本設定画面に戻ります。

6.3 原稿について

原稿をコピーするときは、ADF または原稿ガラス上にセットします。
ADF にセットできない原稿は、原稿ガラス上に直接セットしてコピーしてください。

6.3.1 ADF にセットできる原稿

ADF を使用する場合、3 つの設定があります。

- 通常設定
- 混載原稿設定
- Z 折れ原稿設定

各設定によりセット可能な原稿種類に制限があります。

通常設定

	片面原稿	両面原稿
原稿種類／坪量	普通紙：35 g/m^2 ～ 210 g/m^2	普通紙：50 g/m^2 ～ 128 g/m^2
原稿サイズ	A3 ～ A5 /、B4 ～ B6 、はがき（100 mm × 148 mm）、11 × 17 、8 × 13 、8-1/2 × 11 /	
積載量	100 枚（80 g/m^2）	

混載原稿設定

	片面原稿	両面原稿
原稿種類／坪量	普通紙：50 g/m^2 ～ 128 g/m^2	
原稿サイズ	混載原稿一覧参照	
積載量	100 枚（80 g/m^2）	

混載原稿一覧

「混載原稿」で使用できる定形紙の組合わせは以下のとおりです。

最大原稿幅 *1 → ↓原稿サイズ *2	A3	A4	B4	B5	A4	A5	B5	A5	B6
A3	○	○	—	—	—	—	—	—	—
A4	○	○	—	—	—	—	—	—	—
B4	○	○	○	○	—	—	—	—	—
B5	○	○	○	○	—	—	—	—	—
A4	○	○	○	○	○	○	—	—	—
A5	—	—	○	○	○	○	—	—	—
B5	—	—	○	○	○	○	○	—	—
A5	—	—	—	—	—	—	○	○	—
B6	—	—	—	—	—	—	—	○	○

○：可
—：不可

詳しく説明します

*1 混載原稿の中で、最も幅（ガイド板の開き幅）が長い原稿を示します。
*2 最大原稿幅と同時にセットできる原稿サイズを示します。

6.3.2　ADF にセットする原稿についての注意

以下のような原稿は、原稿づまりや原稿破損の原因となるため、ADF にはセットしないでください。

- しわ、折れ、カール、破れなどのひどい原稿
- OHP フィルム、第 2 原図などの透明度の高い原稿
- カーボン紙などの表面がコーティング処理された原稿
- 210 g/m^2 以上の厚手の原稿
- 両面コピー時の 128 g/m^2 以上の原稿
- クリップ、ステープルなどでとじられた原稿
- 本など製本されている原稿
- のりなどで貼り合わせてある原稿
- 切取りや切抜きのある原稿
- ラベル用紙
- オフセットマスター
- とじ穴の開いた原稿
- 本機で印刷した直後の原稿



2 つ折り、Z 折れ原稿など折り目のついた原稿を ADF にセットするときは折り目をよく伸ばしてください。

6.3.3　原稿ガラス上にセットできる原稿

ADF にセットできない原稿などを、原稿ガラス上に直接セットしてコピーします。

原稿種類	シート、ブック（見開き）、立体物
原稿サイズ	A3 ～ B6、A6、 11 × 17 ～ 8.5 × 5.5 /、8K、16K /、 はがき
最大質量	2 kg

6.3.4　原稿ガラス上にセットする原稿についての注意

以下のような原稿を原稿ガラス上にセットする場合は注意が必要です。

- 不定形の原稿をセットした場合、原稿サイズを自動検出できないため、自動用紙および自動倍率機能が使用できません。不定形の原稿をセットした場合は、使用する用紙トレイと倍率を選択するか、［原稿サイズ］を押してサイズを指定してください。
- OHP フィルムや第 2 原図などの透明度の高い原稿をセットした場合、原稿サイズを自動検出できません。原稿と同じサイズの白紙を重ねてセットしてください。
- 質量が 2 kg を超えるような立体原稿は、故障の原因となりますので、原稿ガラス上にはセットしないでください。
- 厚手の本などをセットした場合、強い力で上から押さえつけないでください。故障の原因となります。

第 7 章
応用機能

便利な応用機能を使ってコピーする方法について説明します。

7.1　カラー画質機能とサンプル 7-2
7.2　OHP フィルムの間に白紙を差込んでコピーする（OHP 合紙）..... 7-21
7.3　表紙をつける（カバーシート）..... 7-23
7.4　別の用紙を挿入してコピーする（インターシート）..... 7-26
7.5　追加原稿を指定したページに差込む（差込みページ）..... 7-29
7.6　指定したページを必ずオモテ面に配置する（章分け）..... 7-31
7.7　原稿ごとに異なる設定で読込みまとめてコピーする（プログラムジョブ）..... 7-34
7.8　カラー反転や補色してコピーする（ネガポジ反転）..... 7-38
7.9　原稿の左右を反転してコピーする（鏡像）..... 7-39
7.10　原稿の白地部分に色をつけてコピーする（ベースカラー）..... 7-42
7.11　カラー画質を調整する 7-44
7.12　見開き原稿を左右 1 ページずつ分けてコピーする（ブック連写）..... 7-47
7.13　指定した範囲を繰り返しコピーする（リピート）..... 7-51
7.14　画像を複数の用紙に分割して拡大コピーする（拡大連写）..... 7-55
7.15　カタログをコピーする（カタログ連写）..... 7-58
7.16　とじしろをつくってコピーする（とじしろ）..... 7-60
7.17　原稿を用紙サイズに合わせてコピーする（画像の収め方）..... 7-63
7.18　雑誌や週刊誌のようなページレイアウトでコピーする（小冊子）..... 7-66
7.19　指定部分を消してコピーする（枠消し）..... 7-68
7.20　日付 / 時刻やページ数などを重ねてコピーする（スタンプ / ページ印字）..... 7-70
7.21　読込んだ原稿をボックスに保存する（ボックス保存）..... 7-97

7.1　カラー画質機能とサンプル

ここでは、フルカラーコピー機でできる多彩な機能を幅広く活用していただくときに役立つコピーサンプルを掲載しています。

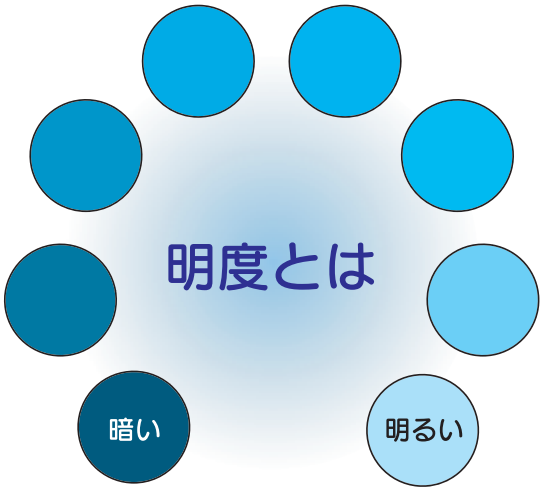
項目	説明	項目	説明
色についての知識 	色相、明度、彩度について説明します。(p. 7-3)	彩度 	鮮やかさを調節します。(p. 7-12)
赤色 	赤色を調節します。(p. 7-5)	シャープネス 	文字の鮮明度を調節します。(p. 7-13)
緑色 	緑色を調節します。(p. 7-6)	色相（色あい） 	色みを調節します。(p. 7-14)
青色 	青色を調節します。(p. 7-7)	コピー濃度 	コピー濃度を調節します。(p. 7-15)
カラーバランス（カラー CMYK 調整） 	CMYK での色の強さを調節します。(p. 7-8)	単色カラー 	選んだ 1 色（モノトーン）でコピーします。(p. 7-16)
明度 	明るさを調節します。(p. 7-10)	2 色カラー 	黒色と選んだ 1 色でコピーします。(p. 7-17)
コントラスト 	明暗の差を調節します。(p. 7-11)	ベースカラー 	背景色をいれてコピーします。(p. 7-18)
ネガポジ反転 	ネガティブ画像とポジティブ画像を反転してコピーします。(p. 7-19)	鏡像 	左右対称の画像を出力します。(p. 7-20)

※掲載されている写真は印刷サンプルです。実際のカラーコピーとは多少色が異なる場合があります。

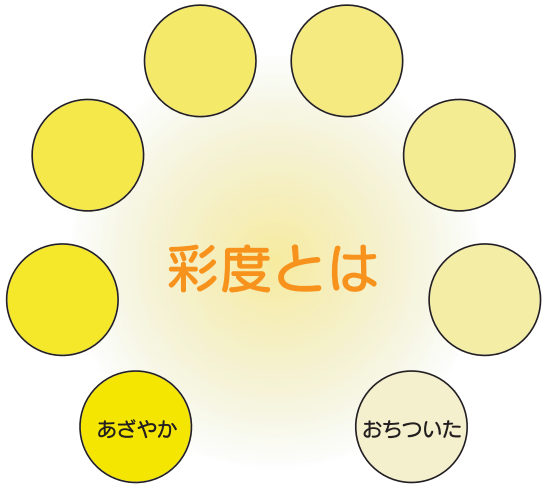
7.1.1　色についての知識



リンゴの色は赤、レモンの色は黄、空の色は青・・というように、誰でもその「色あい」を思い浮かべることができます。この赤、黄、青というように、それぞれ区別される「色あい」を色相といいます。



色と色を比較して、明るい色とか暗い色というように、色には「明るさ」の度合いがあります。たとえばレモンの黄色とグレープフルーツの黄色では、レモンの黄色の方が、より明るいですね。レモンの黄色とあずきの赤ではどうでしょう。やはり、レモンの黄色の方が明るい色ですね。このように、色相に関係なく比較できる「明るさ」の度合いを明度と呼んでいます。



同じ黄色でも、レモンと梨でくらべてみるとどうなるでしょう。「明るさ」というよりも、レモンはあざやかな黄色で、梨はにぶい黄色というように、「あざやかさ」にはおおきな違いがあることがわかります。このように色相や明度とはまた別に「あざやかさ」の度合いを示す性質を彩度と呼んでいます。

- 色相、明度、彩度の関係について（色立体図）
  色相、明度、彩度。この 3 つの要素は色の三属性と呼ばれ、図 1 のように色相を外周、明度を夕テ軸、彩度を中心からヨコ軸とした立体として考えることができます。図 1 で表した、三属性でつくられる立体に実際の色を配してみると図 2 のような色立体になります。彩度の段階が、色相と明度ごとにそれぞれ異なるため、色立体は複雑な形をしていますが、色相、明度、彩度、が変化していく様子がよくわかります。

図 1

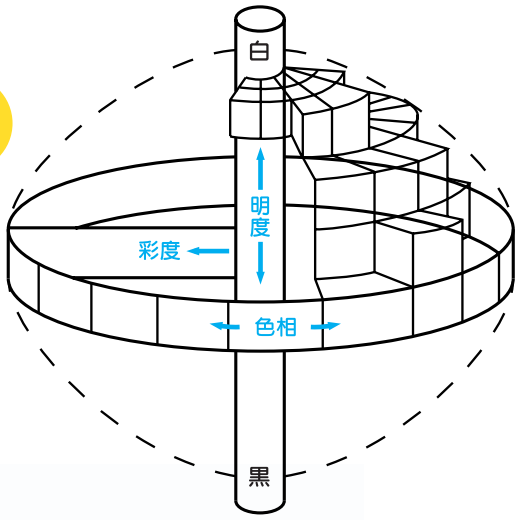
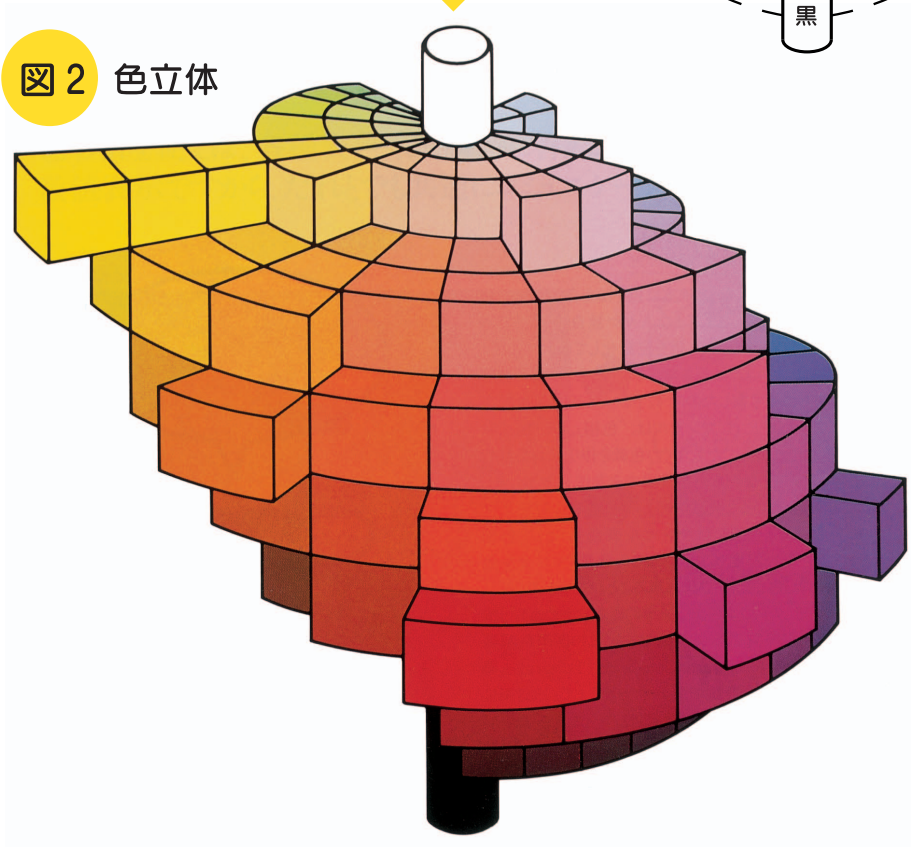
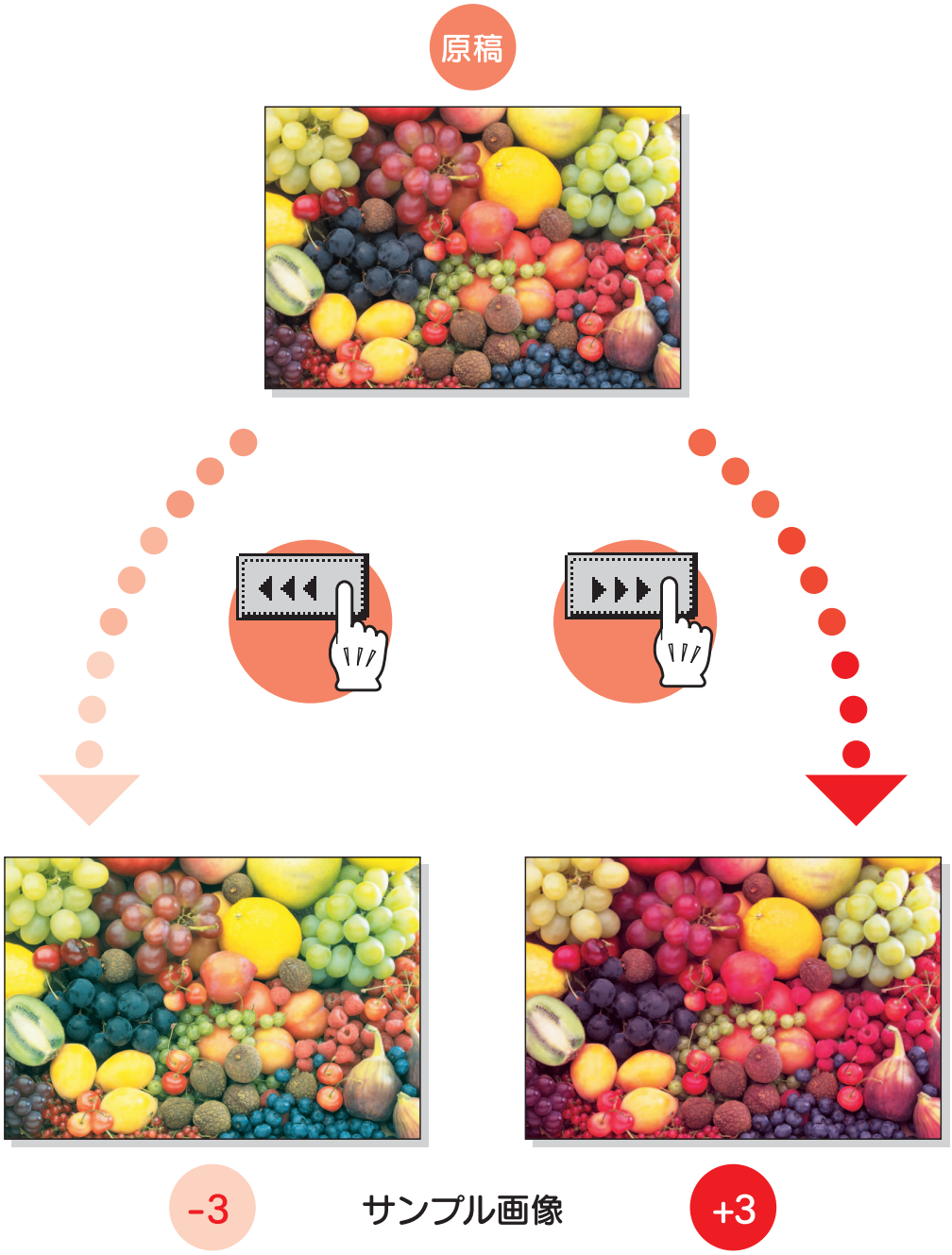


図 2 色立体



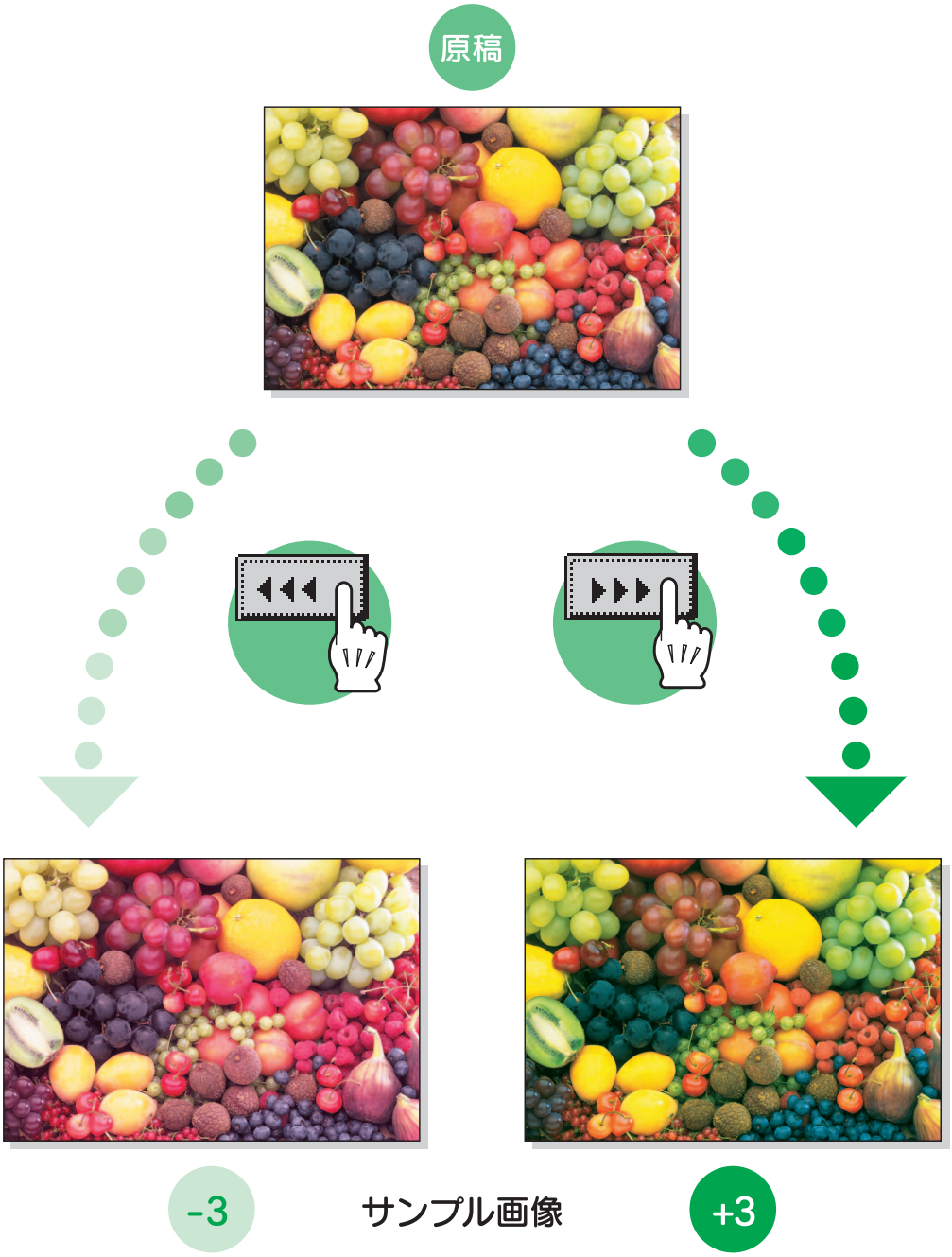
7.1.2　赤色

赤色の色あいを 19 段階に調整できます。
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。



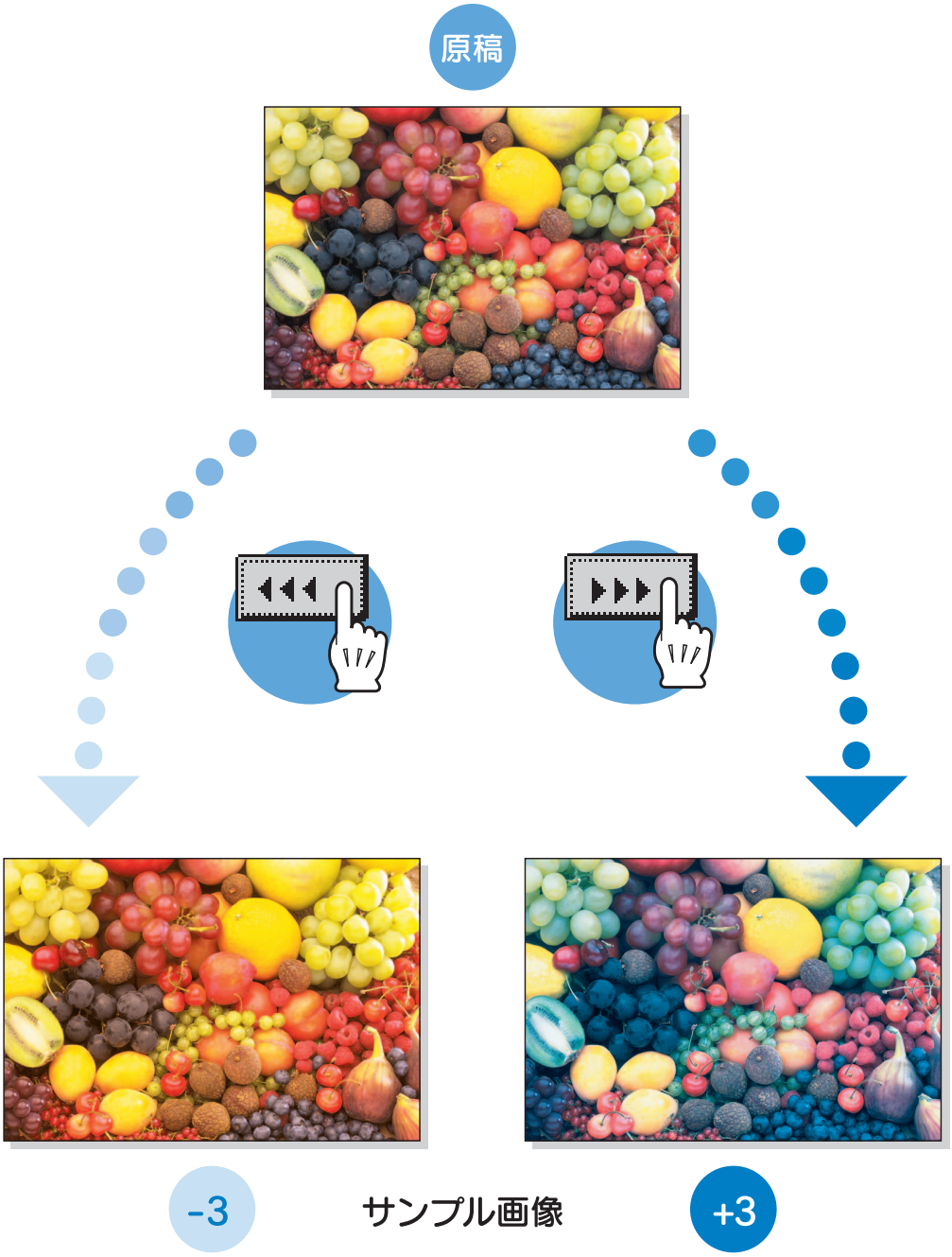
7.1.3　緑色

緑色の色あいを 19 段階に調整できます。
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。



7.1.4　青色

青色の色あいを 19 段階に調整できます。
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。

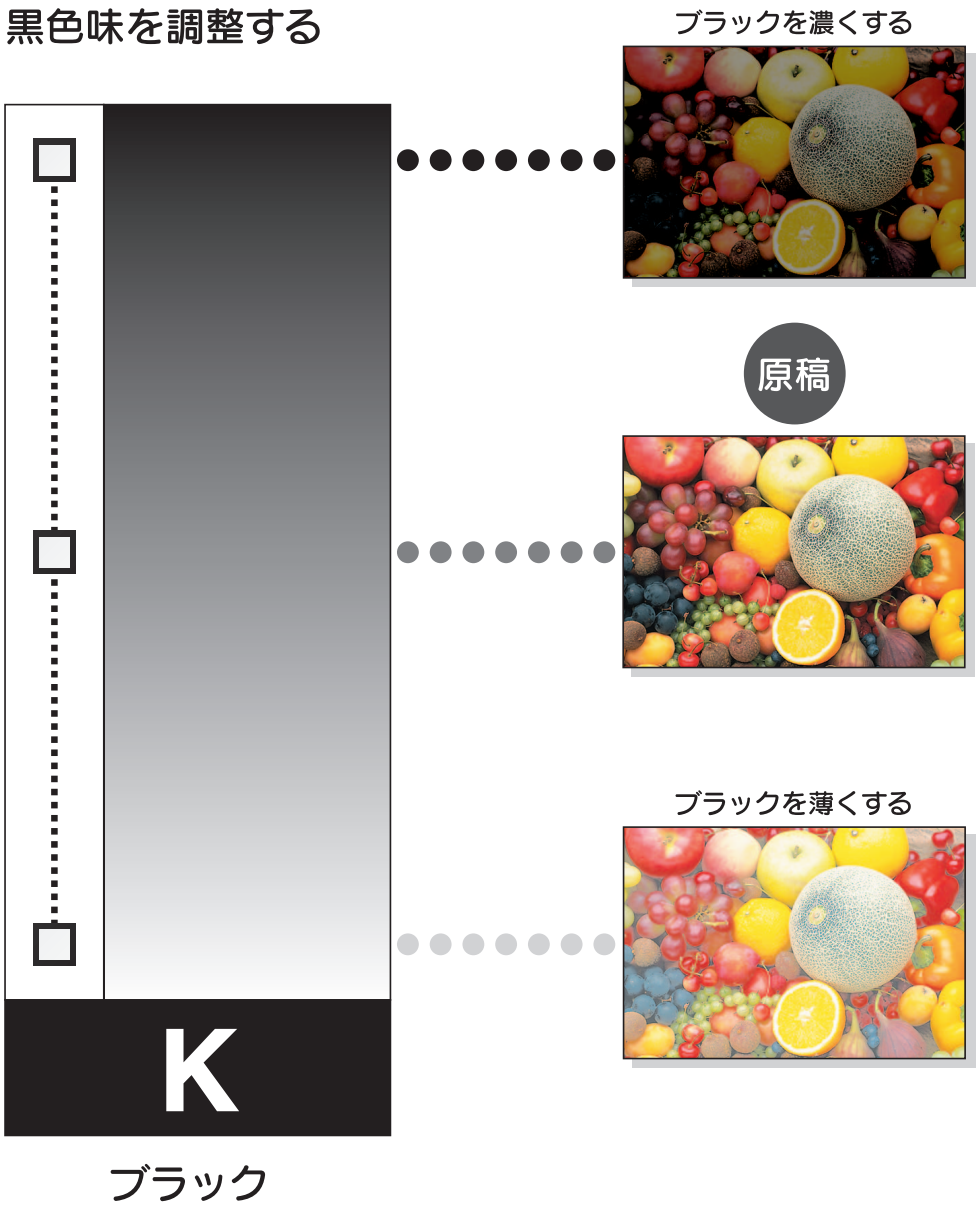


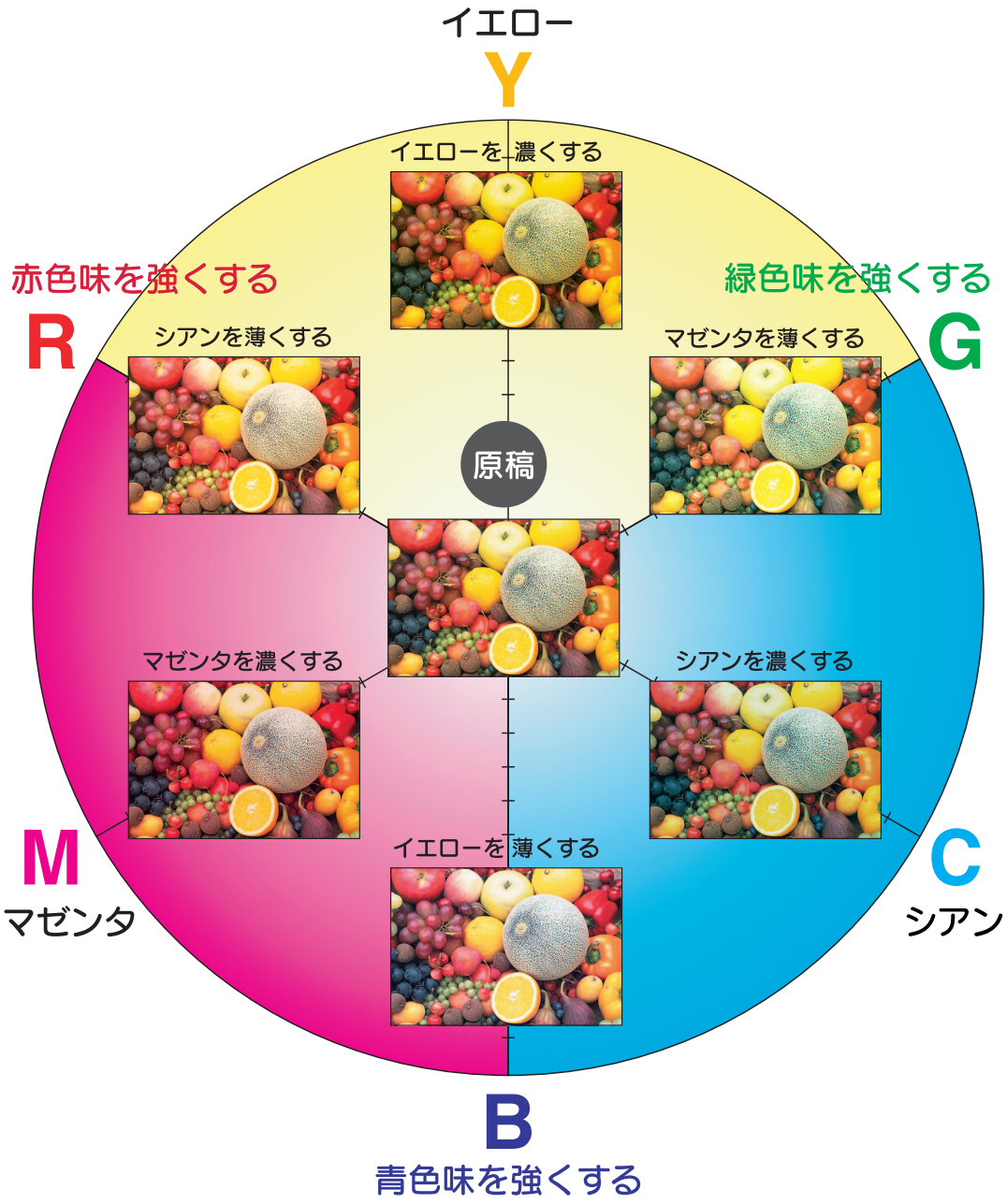
7.1.5　カラーバランス（カラー CMYK 調整）

フルカラーコピーは、イエロー・マゼンタ・シアンの 3 色にブラックを加えた計 4 色のトナーを混ぜ合わせることにより原稿の色を再現しています。

4 色のトナーそれぞれの分量を変えることで、コピーの色あいをきめ細かく調整できます。カラーバランスを 19 段階に調整できます。

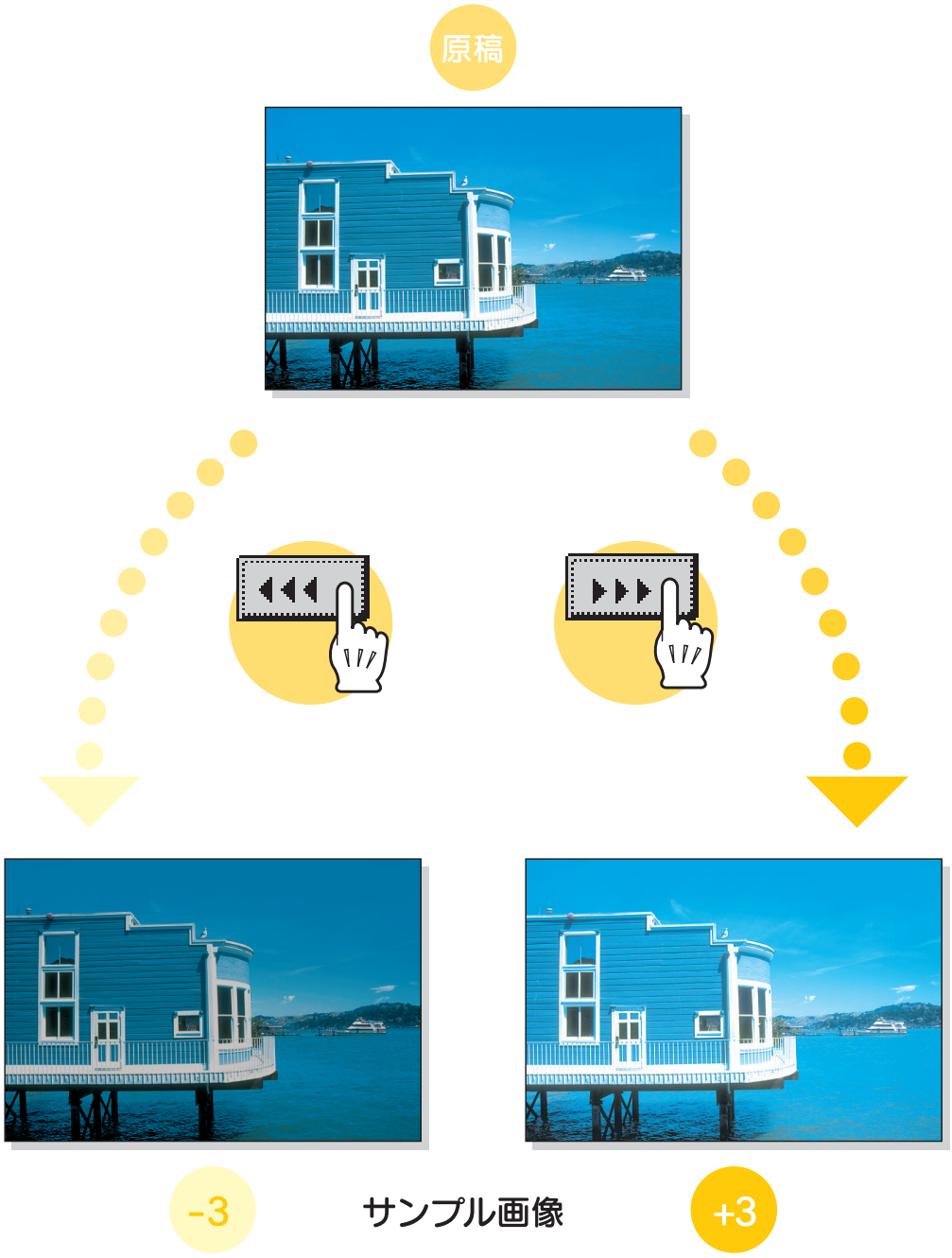
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。




イエロー
Y
イエローを濃くする
赤色味を強くする
R
緑色味を強くする
G
シアンを薄くする
マゼンタを薄くする
原稿
マゼンタを濃くする
シアンを濃くする
イエローを薄くする
M
マゼンタ
C
シアン
B
青色味を強くする

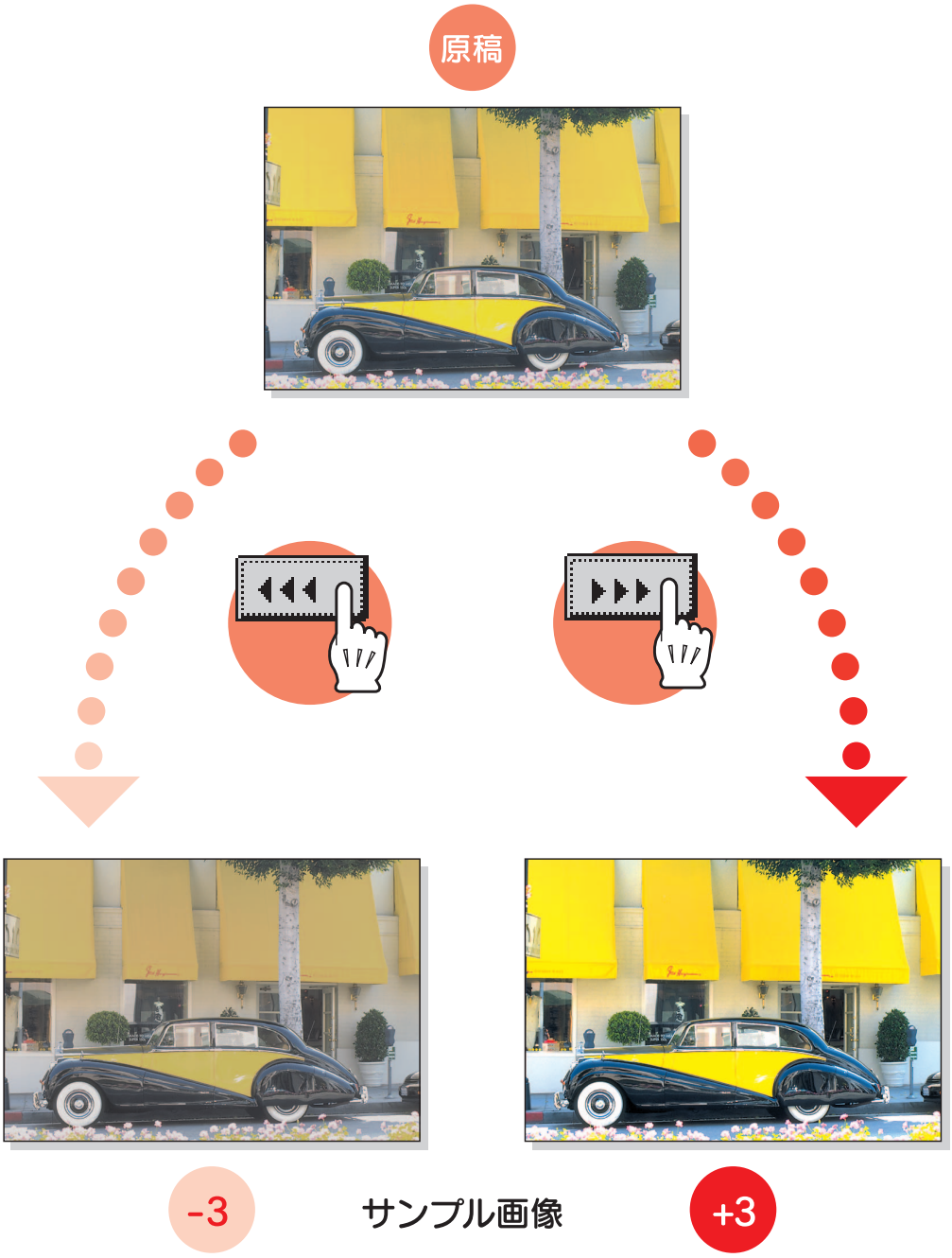
7.1.6　明度

画像の明暗を 19 段階に微調整できます。
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。



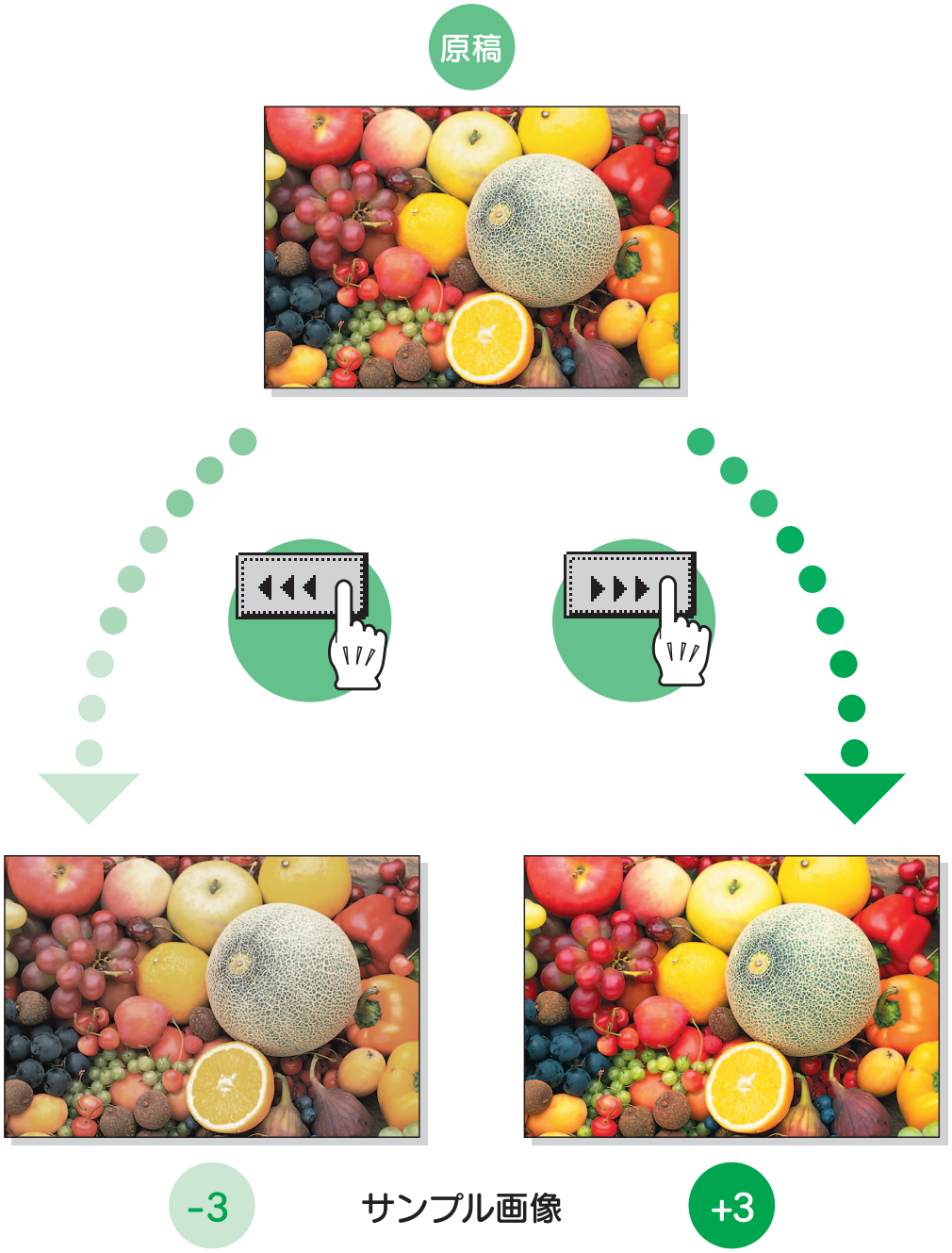
7.1.7　コントラスト

画像を、ソフトでなめらかなイメージからくっきりしたイメージまで 19 段階に微調整できます。
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。



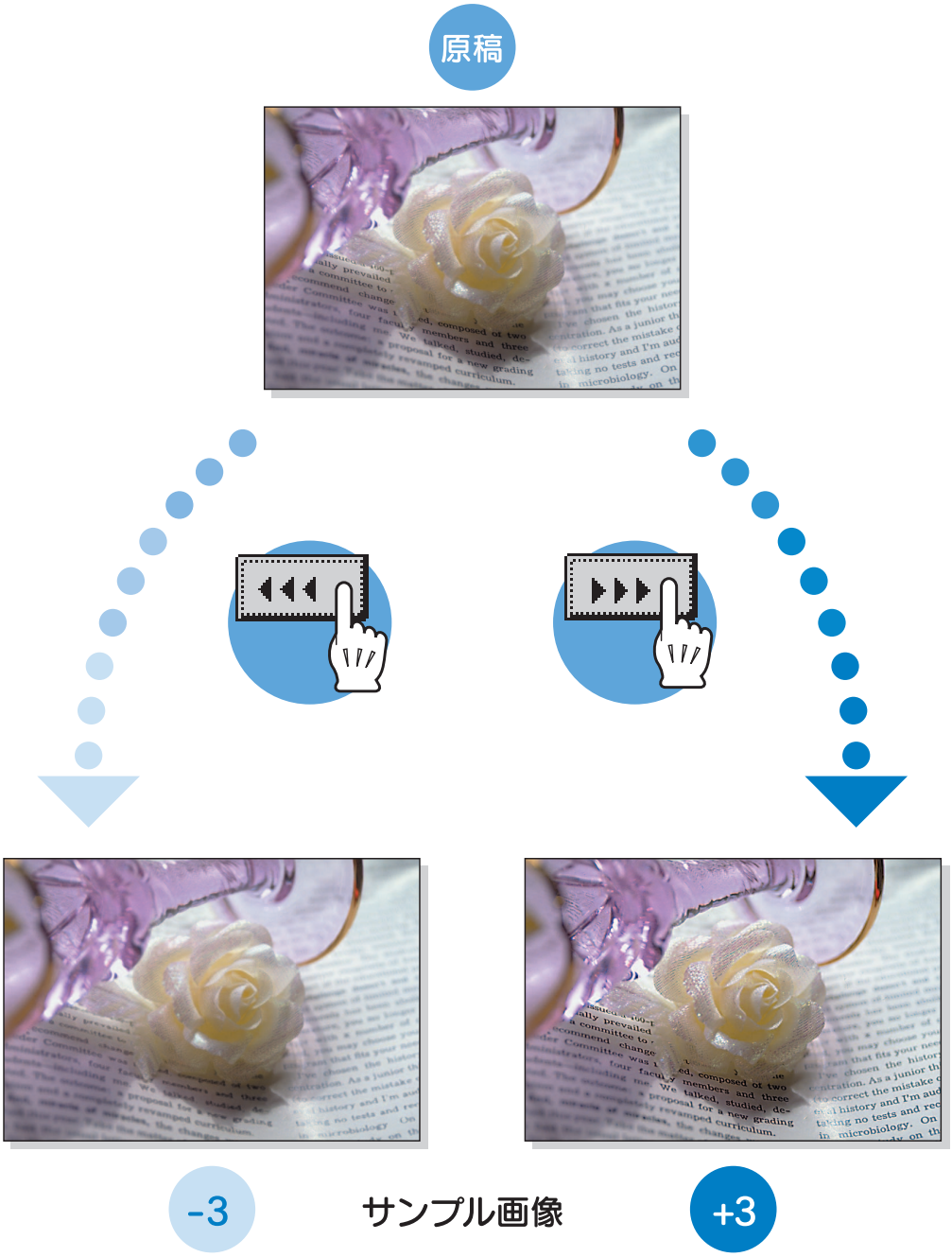
7.1.8　彩度

画像の鮮やかさを 19 段階に微調整できます。
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。



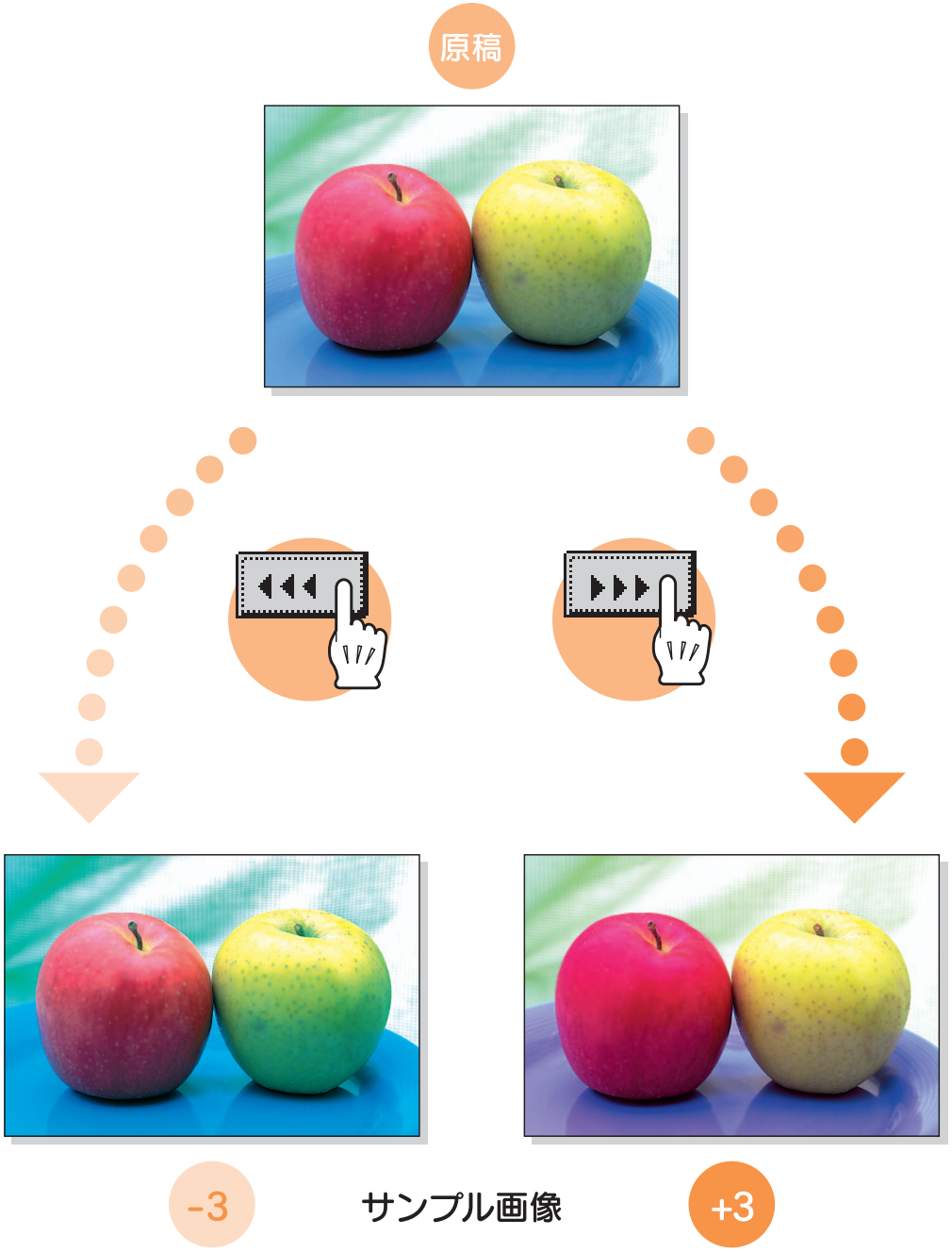
7.1.9　シャープネス

文字や画像の輪郭の強弱を 7 段階に調整できます。
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。



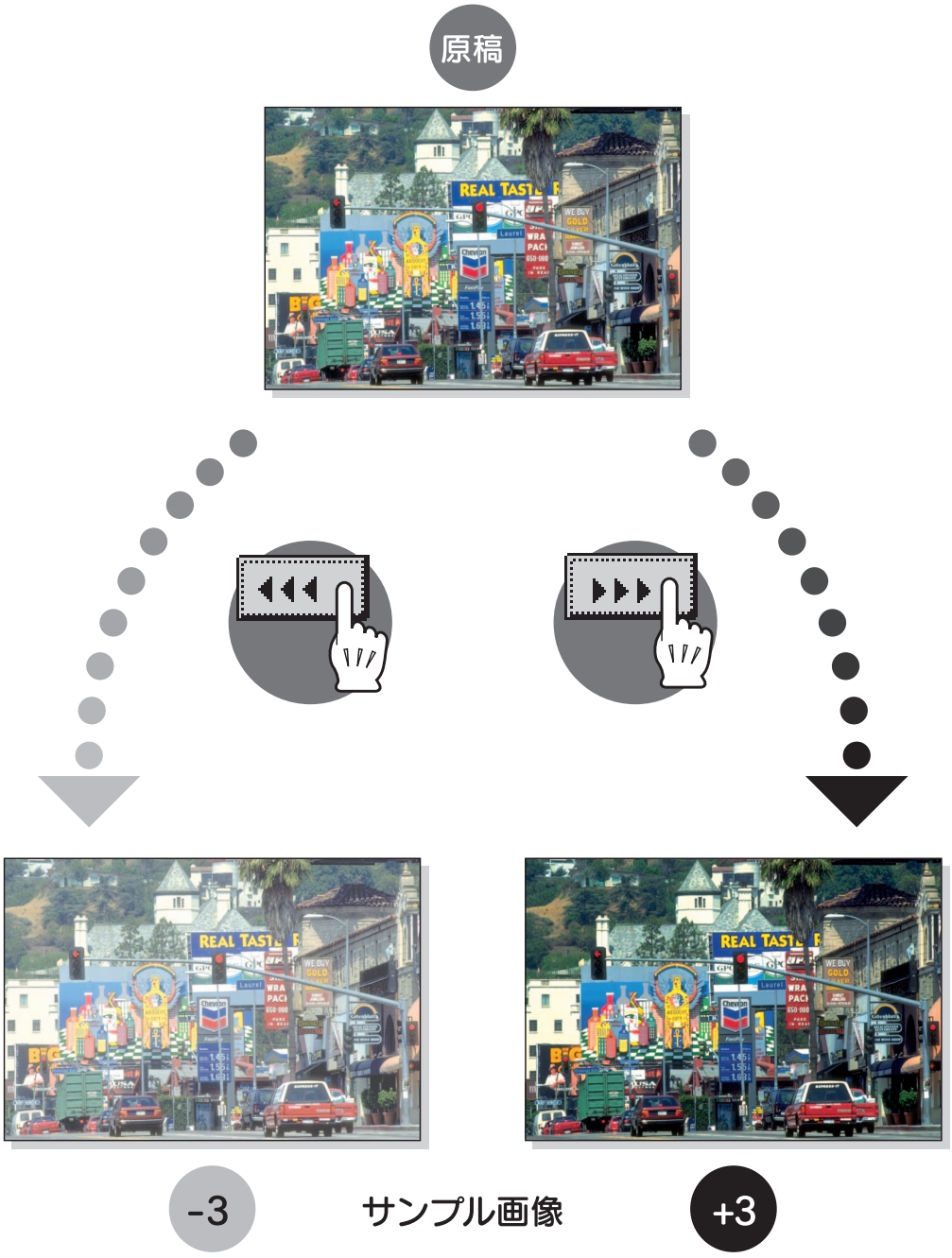
7.1.10　色相（色あい）

色あいを 19 段階に微調整できます。
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。



7.1.11　コピー濃度

画像の濃淡を 19 段階に微調整できます。
設定方法について詳しくは、p. 7-44 をごらんください。



7.1.12　単色カラー

21 色の中から指定した 1 色でモノトーンのコピーをとることができます。
設定方法について詳しくは、p. 2-27 をごらんください。



7.1.13　2 色カラー

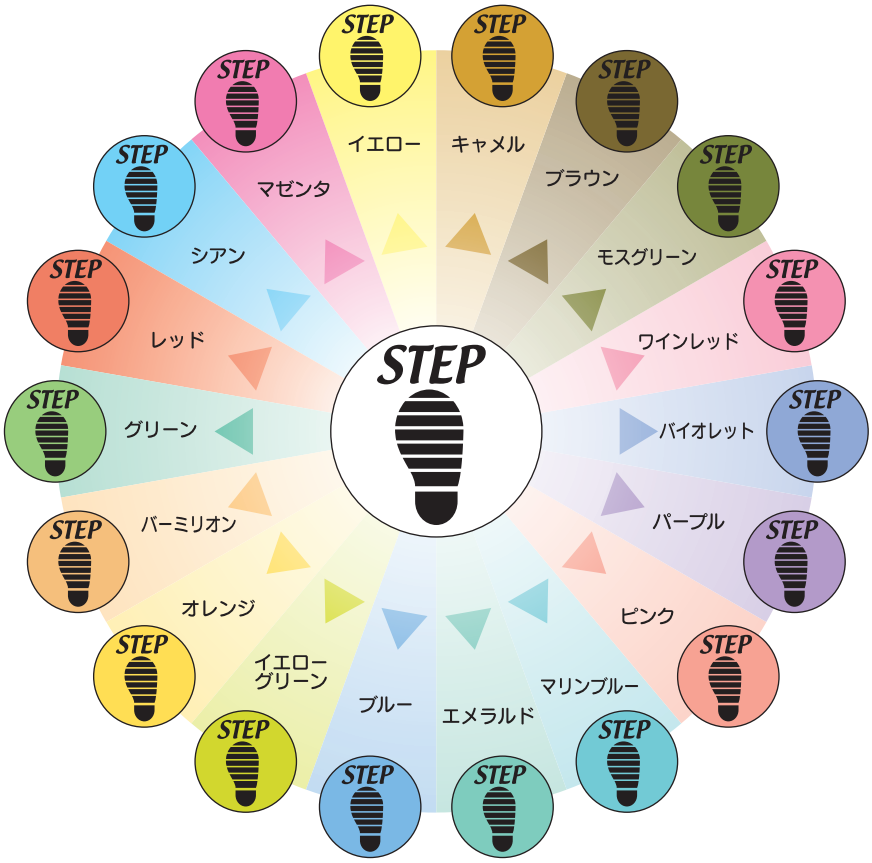
原稿の黒色部分は黒色で、カラー部分は 6 色の中から指定した 1 色のモノトーンでコピーをとることができます。

設定方法について詳しくは、p. 2-27 をごらんください。



7.1.14　ベースカラー

原稿の白地部分に 18 色の中から指定した色で背景色をつけてコピーをとることができます。
設定方法について詳しくは、p. 7-42 をごらんください。



7.1.15　ネガポジ反転

原稿の濃淡を反転してコピーできます。
設定方法について詳しくは、p. 7-38 をごらんください。

- 単色カラーコピー



- フルカラーコピー、ベースカラー



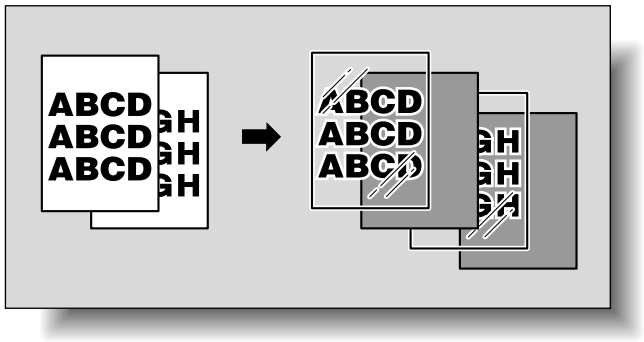
7.1.16　鏡像

原稿の画像を左右反転して鏡に映ったイメージでコピーできます。
設定方法について詳しくは、p. 7-39 をごらんください。



7.2 OHP フィルムの間に白紙を差込んでコピーする（OHP 合紙）

OHP フィルムにコピーする場合に、コピー後の熱で OHP フィルム同士が貼り付くのを防ぐために、間に用紙（合紙）を挿入します。



原則

フィニッシャー機能は使用できません。

1. 原稿をセットします。
2. 基本設定画面の［カラー］で［ブラック］を指定します。
3. OHP フィルムを手差しトレイにセットします。合紙用の用紙を目的の給紙トレイにセットします。
4. 手差しトレイの用紙種類を［OHP フィルム］に設定し、［OK］を押します。



5. ［応用設定］を押し、［ページ編集］を押します。



ページ編集画面が表示されます。

ひとこと

OHP フィルムはブラックのみに対応しています。

参照

- 原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。
- OHP フィルムの補給方法については、「用紙種類および用紙容量」（p. 6-3）、「手差しトレイへ用紙をセットする」（p. 1-45）をごらんください。
- 用紙種類の設定方法については、「専用紙として設定する」（p. 6-16）をごらんください。

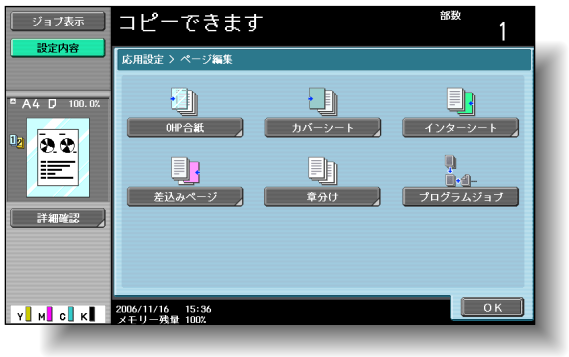
ひとこと

合紙用の用紙は OHP フィルムと同じサイズの用紙を使用してください。

ひとこと

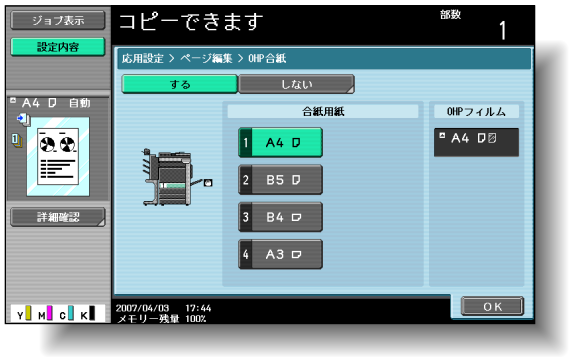
全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

6 ［OHP 合紙］を押します。



OHP 合紙画面が表示されます。

7 合紙用の用紙をセットした給紙トレイを選択します。



8 ［OK］を押します。

9 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

10 【スタート】を押します。

ひとこと

・【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。
・OHP 合紙機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

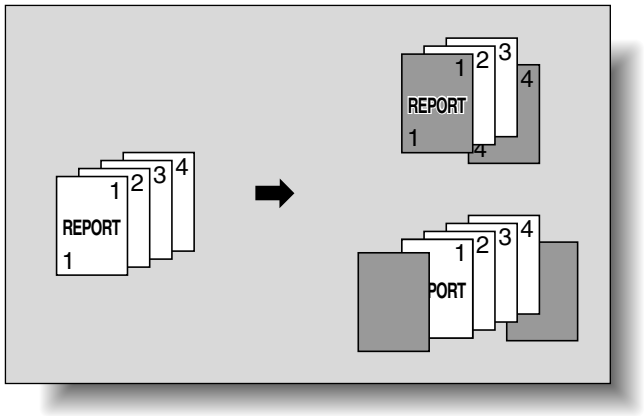
コピー部数は 1 です。設定変更できません。

7.3　表紙をつける（カバーシート）

表紙と表紙を除く本文原稿で異なる用紙を使ってコピーしたり、コピーに異なる用紙の表紙をつけたりします。

カバーシートには以下の種類があり、表カバー、裏カバーの設定ができます。

機能名		説明
表カバー	［表コピー］	原稿の 1 枚目が表カバー用の用紙にコピーされます。 両面コピーの場合、原稿の 2 枚目は表カバー用の用紙のウラ面にコピーされます。
	［表白紙］	コピーの 1 枚目に表カバー用の用紙が挿入されます。 両面コピーの場合も同様の結果となります。
裏カバー	［裏コピー］	原稿の最終ページが裏カバー用の用紙にコピーされます。 両面コピーの場合、原稿枚数が偶数のときは、原稿の最後 2 ページが裏カバー用の用紙に両面コピーされます。
	［裏白紙］	コピーの最終ページに裏カバー用の用紙が挿入されます。 両面コピーの場合も同様の結果となります。



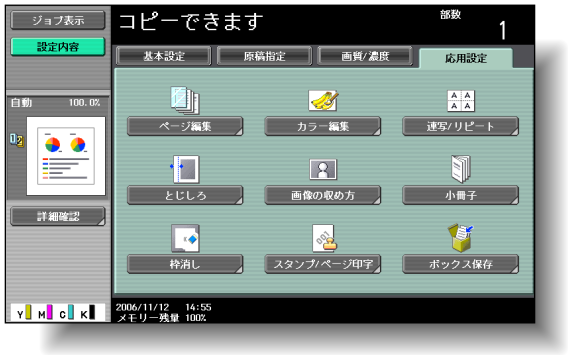
1　原稿をセットします。

参照

・原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。
・原稿枚数が 100 枚を超える場合は、「原稿を分割して読込む（連続読込み設定）」（p. 2-9）をごらんください。

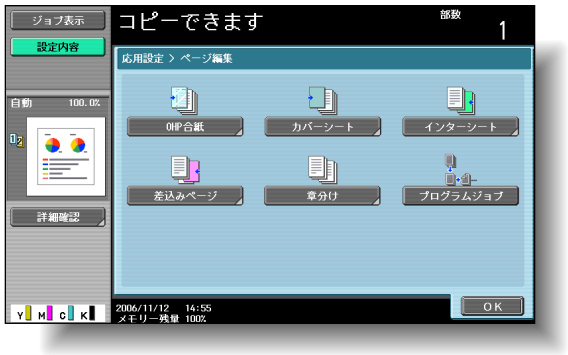
2 表紙用の用紙と本文用の用紙をそれぞれ目的の給紙トレイにセットします。

3 ［応用設定］を押し、［ページ編集］を押します。



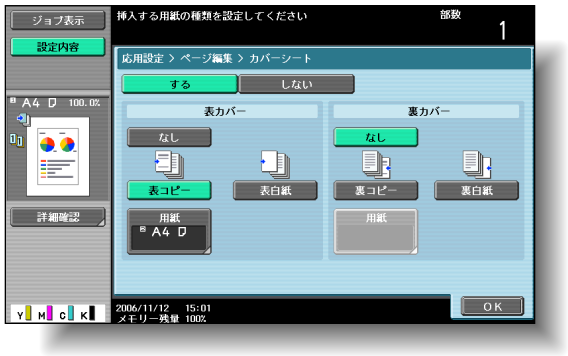
ページ編集画面が表示されます。

4 ［カバーシート］を押します。



カバーシート画面が表示されます。

5 表紙の設定を選択します。



6 設定に応じて、表カバーおよび裏カバーの［用紙］を押します。

それぞれのカバー用紙画面が表示されます。

ひとこと

表紙用の用紙と本文用の用紙は同じサイズの用紙を使用し、同じ方向にセットしてください。

参照

表紙に厚紙を使用する場合は、用紙の補給方法について「用紙種類および用紙容量」(p. 6-3)、「手差しトレイへ用紙をセットする」(p. 1-45) をごらんください。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

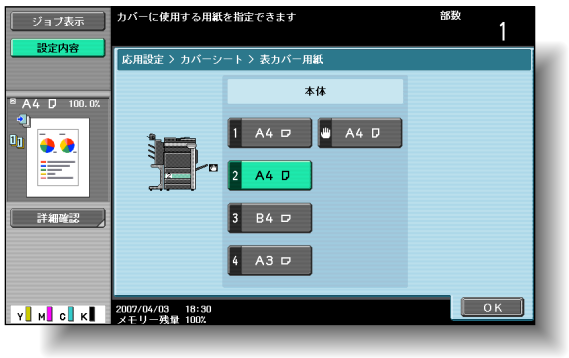
ひとこと

・【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。
・カバーシート機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

表紙用の給紙トレイの初期設定は設定メニューで変更することができます。詳しくは、「コピー設定」(p. 11-31) の「インターシートトレイ選択」をごらんください。

7 表紙用の用紙をセットした給紙トレイを選択します。



8 ［OK］を 3 回押します。

9 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

10 テンキーでコピー部数を入力します。

11 【スタート】を押します。

7.4　別の用紙を挿入してコピーする（インターシート）

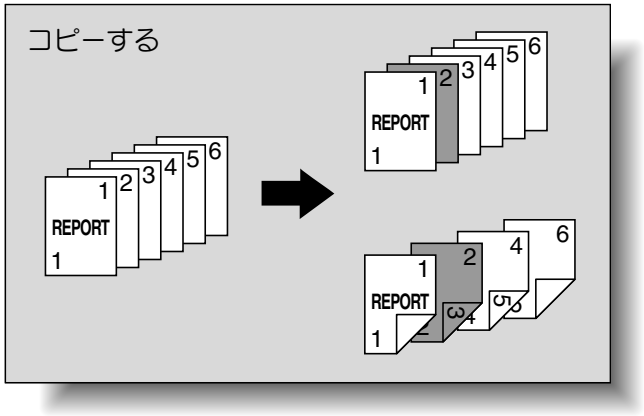
指定のページに別の用紙（色紙等）を挿入してコピーできます。

用紙の挿入方法には［コピーする］と［コピーしない］の 2 種類があり、挿入紙にコピーするかしないかを選択できます。片面コピーや両面コピーと組合わせると、以下のような仕上りになります。

［コピーする］を設定した場合、指定ページに指定用紙が挿入され、原稿がコピーされます。

指定ページを「2」に設定したとき

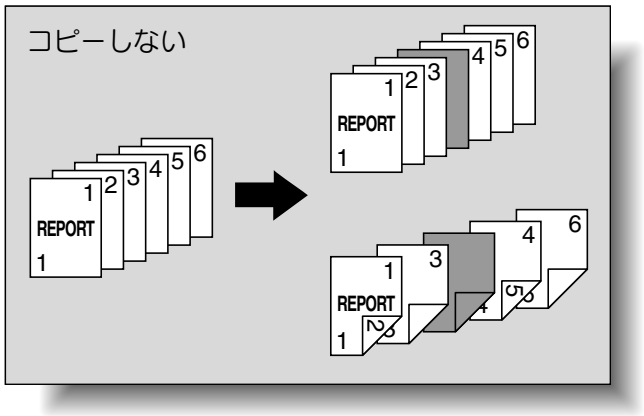
仕上り	説明
片面コピー	コピーの 2 枚目に指定用紙が挿入され、原稿 2 ページ目がコピーされます。
両面コピー	コピーの 1 枚目ウラ面が白紙でコピーされ、コピーの 2 枚目に指定用紙が挿入され、原稿 2 ページ目と 3 ページ目が両面コピーされます。



［コピーしない］を設定した場合、指定ページの後ろに指定用紙が挿入されます。

指定ページを「3」に設定したとき

仕上り	説明
片面コピー	コピーの 4 枚目に指定用紙が挿入されます。
両面コピー	コピーの 2 枚目ウラ面が白紙でコピーされ、コピーの 3 枚目に指定用紙が挿入されます。



詳しく説明します

- 最大 999 ページまでの原稿に、最大 30 箇所まで指定用紙を挿入することができます。
- 両面原稿の場合、両面原稿 1 枚は表裏 2 ページ分とみなして設定します。

1 原稿をセットします。

2 挿入用紙と本文用紙を、それぞれ目的の給紙トレイにセットします。

3 ［応用設定］を押し、［ページ編集］を押します。



ページ編集画面が表示されます。

4 ［インターシート］を押します。



インターシート画面が表示されます。

5 ページを入力するキーを押してから、テンキーで用紙を挿入するページを指定します。



6 ［挿入用紙］を押します。

挿入用紙画面が表示されます。

参照

・原稿のセット方法については「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。
・原稿枚数が 100 枚を超える場合は、「原稿を分割して読込む（連続読込み設定）」（p. 2-9）をごらんください。

ひとこと

・挿入紙と原稿用の用紙は同じサイズの用紙を使用し、同じ方向にセットしてください。
・全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

参照

挿入紙に厚紙を使用する場合は、用紙の補給方法について、「用紙種類および用紙容量」（p. 6-3）、「手差しトレイへ用紙をセットする」（p. 1-45）をごらんください。

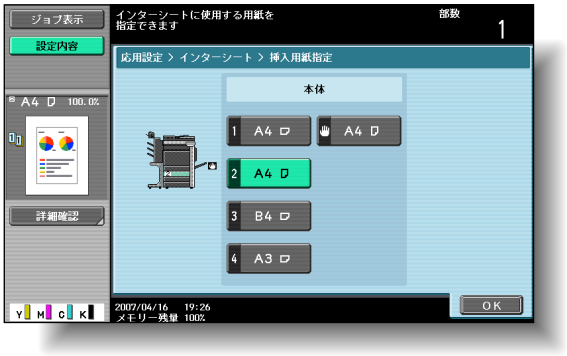
ひとこと

・【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。
・インターシート機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

・インターシート画面は 2 画面に分かれています。［↑］または［↓］で切換えて表示します。
・［ソート実行］を押すと、ページ順が小さい順に並びかわります。
・入力したページを削除する場合は、削除するページを押し、【C】で削除します。
・同じページが複数回入力されていると、コピーを実行することができません。重複しているページを削除してください。
・入力したページが原稿総ページ数より大きい場合、用紙は挿入されません。

7 挿入用紙をセットした給紙トレイを選択し、［OK］を押します。



8 「挿入方法」で、［コピーする］または［コピーしない］を押します。

9 ［OK］を 2 回押します。

10 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

11 テンキーでコピー部数を入力します。

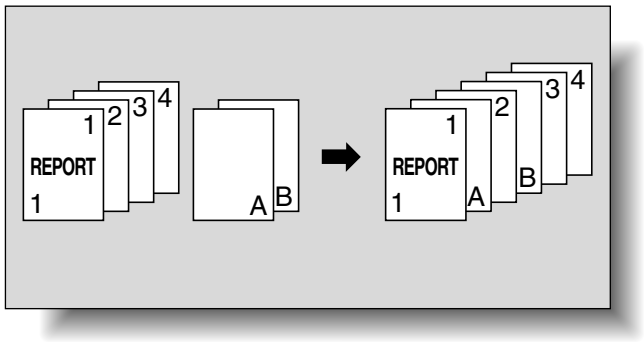
12 【スタート】を押します。

詳しく説明します

［コピーする］を設定した場合、指定ページに指定用紙が挿入され原稿がコピーされます。［コピーしない］を設定した場合、指定ページの後ろに指定用紙が挿入されます。

7.5　追加原稿を指定したページに差込む（差込みページ）

最初に ADF で読込んだ原稿に、あとから原稿ガラスで読込んだ複数の原稿を、指定の位置に差込みます。差込みページでは、指定したページの後ろに差込み原稿が挿入されます。



詳しく説明します

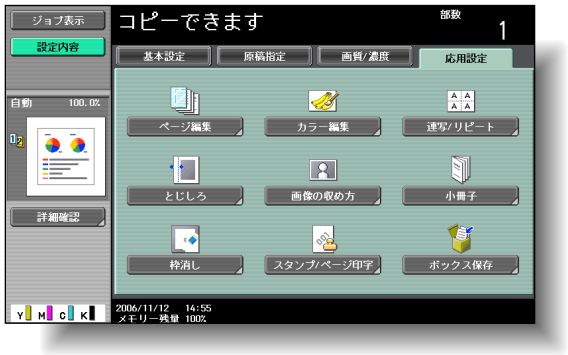
- 最大 999 ページまでの原稿に、最大 30 箇所まで別の原稿を差込むことができます。
- 両面原稿の場合、両面原稿 1 枚は表裏 2 ページ分とみなして設定します。

1 原稿を ADF にセットします。

参照

- 原稿のセット方法については「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。
- 原稿枚数が 100 枚を超える場合は、「原稿を分割して読込む（連続読込み設定）」（p. 2-9）をごらんください。

2 ［応用設定］を押し、［ページ編集］を押します。

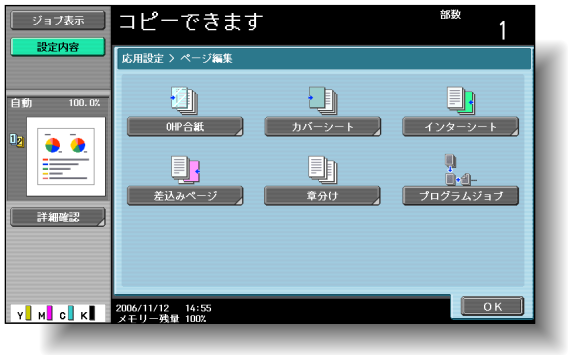


ページ編集画面が表示されます。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

3 ［差込みページ］を押します。



差込みページ画面が表示されます。

ひとこと

- 【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。
- 差込みページ機能を解除するときは［しない］を押します。

4 テンキーで差込みページを指定します。

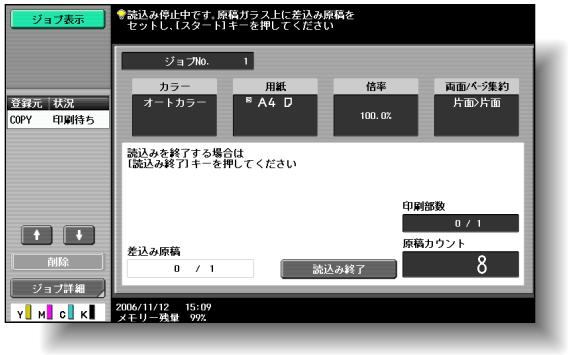


5 [OK]を押します。

6 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

7 テンキーでコピー部数を入力します。

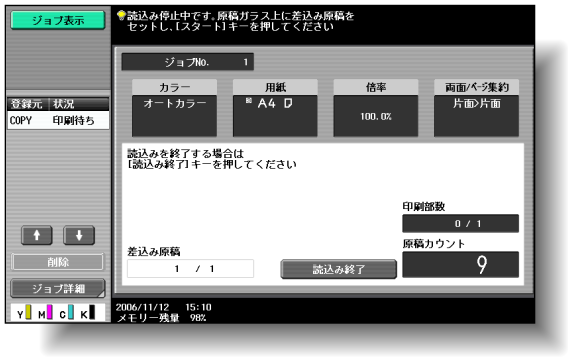
8 【スタート】を押します。
読込みが開始されます。



9 差込み原稿を、原稿ガラス上にセットします。

10 【スタート】を押します。
読込みが開始されます。

11 [読込み終了]を押します。



12 【スタート】を押します。

詳しく説明します

- 差込みページ画面は 2 画面に分かれています。[↑]または[↓]で切換えて表示します。
- 指定したページの後ろにあとから読込んだ原稿が差込まれます。
- [ソート実行]を押すと、ページ順が小さい順に並びかわります。
- 入力したページを削除する場合は、削除するページを押し、【C】で削除します。
- 差込みページ画面で指定したページ数よりも多い原稿を、原稿ガラスで読込んだ場合、残りの差込み原稿は最終ページのあとに続けて印刷されます。
- 差込みページ画面で指定したページ数よりも少ない原稿を、原稿ガラスで読込んだ場合、原稿が不足している差込みページは印刷されません。
- 同じページを 2 度入力した場合、該当箇所に差込み原稿 2 枚分が差込まれます。
- 入力したページが差込まれる原稿の総ページ数より大きい場合、該当の差込み原稿は最終ページの後ろに差込まれます。

参照

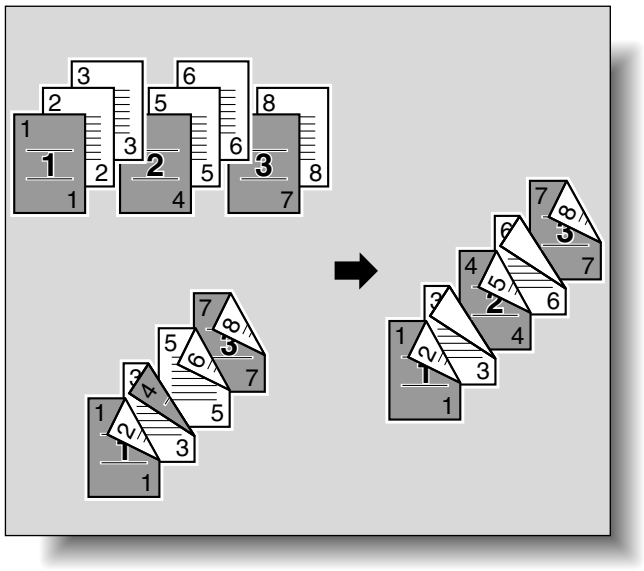
原稿のセット方法については「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

詳しく説明します

複数枚の原稿を差込む場合は、手順 9 と 10 を繰り返し、全ての差込み原稿を差込む順に読込みます。

7.6　指定したページを必ずオモテ面に配置する（章分け）

両面コピーする場合に、章の先頭ページを指定するとそのページが必ずオモテ面になるようにコピーします。指定ページがコピーのウラ面にくる場合には白紙ページが挿入され、指定ページは次のページのオモテ面にコピーされます。また指定ページを別の用紙でコピーできます。



詳しく説明します

・最大 999 ページまでの原稿で、最大 30 箇所までオモテ面にしたいページを指定できます。
・両面原稿の場合、両面原稿 1 枚は表裏 2 ページ分とみなして設定します。

原則

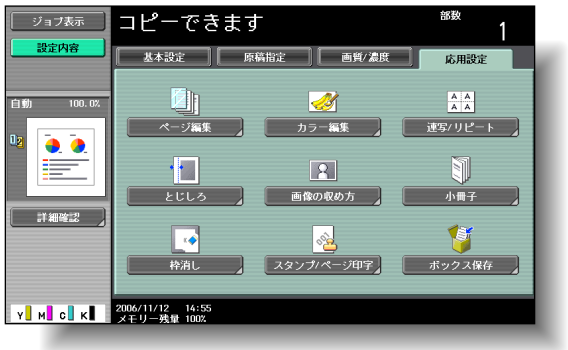
章分け紙と原稿用のコピー用紙が異なる場合は、用紙サイズと向きを合わせてセットします。

1　原稿をセットします。

参照

・原稿のセット方法については「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。
・原稿枚数が 100 枚を超える場合は、「原稿を分割して読込む（連続読込み設定）」（p. 2-9）をごらんください。

2　［応用設定］を押し、［ページ編集］を押します。

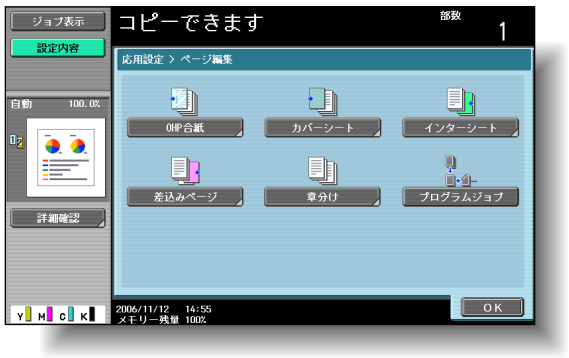


ページ編集画面が表示されます。

詳しく説明します

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

3 ［章分け］を押します。



章分け（編集）画面が表示されます。

4 テンキーで章の先頭ページを指定します。



5 「章分け紙」で［コピー挿入］または［なし］を押します。



詳しく説明します

- 章分け画面は 2 画面に分かれています。［↑］または［↓］で切換えて表示します。
- ［ソート実行］を押すと、ページ順が昇順に並びかわります。
- 入力したページを削除する場合は、削除するページを押し、【C】で削除します。
- 原稿＞コピー機能は片面＞両面に設定されます。
- 同じページが複数回入力されていると、コピーを実行することができません。重複しているページを削除してください。
- 入力したページが原稿総ページ数より大きい場合、無効になります。

ひとこと

- ［なし］を選択すると全て同じ用紙でコピーされます。
- 【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。
- 章分け機能を解除するときは［しない］を押します。

❍［コピー挿入］を選択すると［章分け紙］が表示されます。［章分け紙］を押し、章分け紙画面で章の先頭ページに使用する用紙を選択して［OK］を押します。



6 ［OK］を押します。

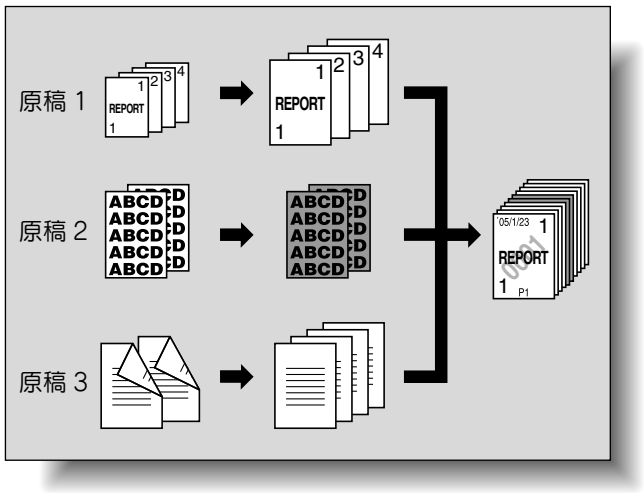
7 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

8 テンキーでコピー部数を入力します。

9 【スタート】を押します。

7.7　原稿ごとに異なる設定で読込みまとめてコピーする（プログラムジョブ）

セットする原稿ごとに異なる設定で読込み、1 度にまとめてコピーします。1 部の原稿のみ倍率や用紙を変更したり、全ての原稿を読込んだあとで仕上り機能やナンバリングを設定してコピーすることができます。

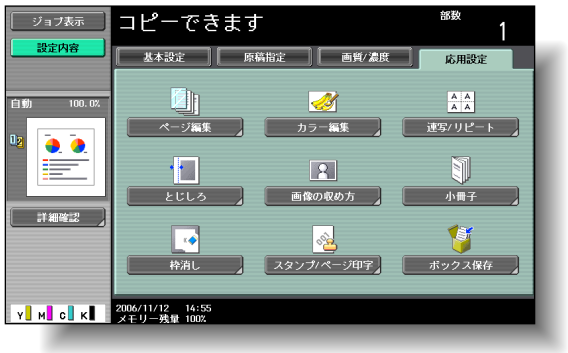


原則

原稿は 100 束まで設定できます。

1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［ページ編集］を押します。



ページ編集画面が表示されます。

ひとこと

プログラムジョブを設定する場合、仕上りの［グループ（ページごと）］を選択することはできません。［ソート（1 部ごと）］を選択してください。

参照

原稿のセット方法については「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

詳しく説明します

読込んだ原稿のデータをボックスに保存するとき、ボックス内のページ数が 10,000 ページを超えた場合、読込んだデータが破棄されます。

詳しく説明します

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

3 ［プログラムジョブ］を押し、［OK］を押します。



4 目的のコピー条件を設定して、【スタート】を押します。

❍【確認コピー】を押すとプレビュー画像または 1 部のみの印刷で、仕上りを確認できます。

読込みが開始されます。

5 ［読込み確定］を選択して［OK］を押します。



6 次の原稿をセットして［設定変更］を押します。



ひとこと

・原稿を原稿ガラス上にセットした場合は、表示される原稿読込み終了の確認画面で［読込み終了］を押します。
・［読み直し］を選択した場合、［設定変更］を押してコピー条件を変更できます。

7 目的のコピー条件を設定して、【スタート】を押します。



❍【確認コピー】を押すと 1 部のみ印刷され、仕上りを確認できます。

読込みが開始されます。読込んだあと、［読込み確定］を選択して［OK］を押します。

8 全ての原稿を読込んだあと、［読込み終了］を押します。

読込み終了の確認画面が表示されます。

9 ［はい］を選択して［OK］を押します。



10 必要に応じて、仕上りのコピー条件を設定します。



詳しく説明します

・手順 5 ～ 7 を繰り返して、全ての原稿を読込みます。画面左下部の［メモリー残量］表示で、メモリーの残量が確認できます。また［読込み束数］で原稿束数が確認できます。
・メモリー不足の場合、メッセージが表示されます。最後の原稿データを破棄して読込みなおす、または最後の原稿データを破棄して印刷する、または全ての原稿データを破棄するのいずれかを選択します。

参照

各設定方法については、各設定の説明ページをごらんください。

ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

ひとこと

［いいえ］を選択した場合、［設定変更］を押してコピー条件を変更できます。

参照

各設定方法については、各設定の説明ページをごらんください。

❍［印刷］を押すと、読込んだ全ての原稿に対して印刷方法を設定できます。



11 テンキーでコピー部数を入力します。

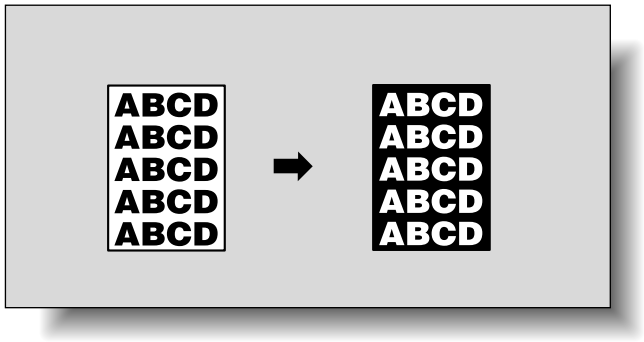
12 ［実行］または【スタート】を押します。

ひとこと

［中止］を押すとデータ破棄の確認画面が表示されます。印刷を中止する場合は、［はい］を選択して［OK］を押します。

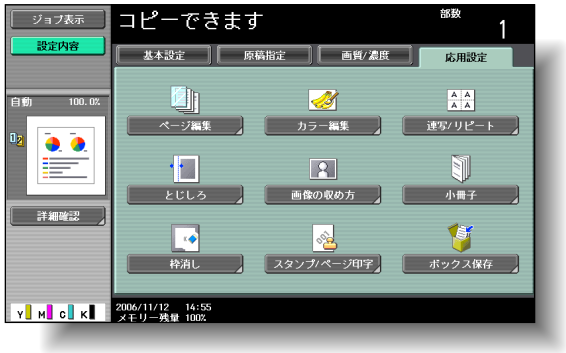
7.8　カラー反転や補色してコピーする（ネガポジ反転）

原稿の濃淡および色（階調）を反転させてコピーします。



1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［カラー編集］を押します。



カラー編集画面が表示されます。

3 ［ネガポジ反転］を押し、［OK］を押します。



4 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

5 テンキーでコピー部数を入力します。

6 【スタート】を押します。

参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

詳しく説明します

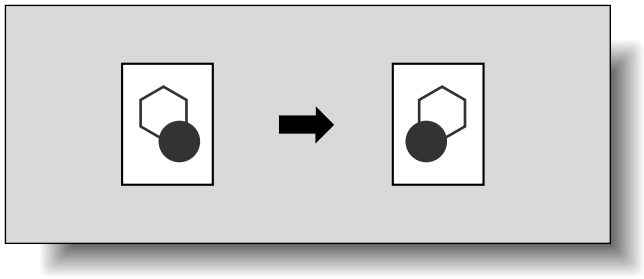
- 単色カラーが設定されている場合は、選択されている色でカラー反転されます。
- ベースカラーが設定されている場合は、選択されているベースカラーを含めてカラー反転されます。

ひとこと

ネガポジ反転機能を解除するときは再度［ネガポジ反転］を押します。

7.9　原稿の左右を反転してコピーする（鏡像）

鏡に映ったイメージで、原稿を左右反転してコピーします。



詳しく説明します

鏡像は、原稿の長さ方向に対して反転を行います。原稿の長さ方向については、「原稿と用紙の表示について」（p. 17）をごらんください。

参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［カラー編集］を押します。



カラー編集画面が表示されます。

3 ［鏡像］を押します。



鏡像画面が表示されます。

4

「原稿サイズ」を確認し、[OK] を押します。

❍ 原稿サイズが自動検出されなかったり、原稿サイズを指定する場合は、[原稿サイズ] を押し、目的の画面で原稿サイズを指定します。



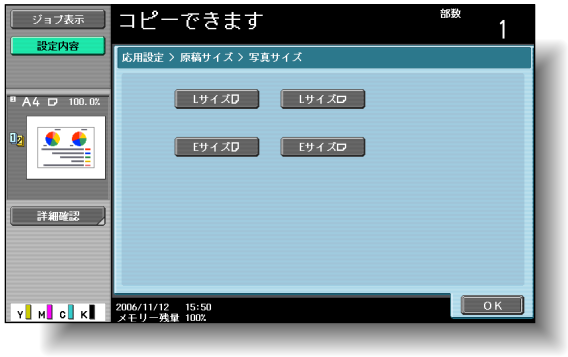
＜原稿サイズ画面＞



＜不定形サイズ画面＞



＜写真サイズ画面＞



ひとこと

鏡像機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

不定形サイズをセットした場合は、原稿サイズが検出されないため、不定形サイズ画面で原稿サイズを指定してから【スタート】を押します。

詳しく説明します

・［↑］または［↓］で、定形サイズの表示を切換えます。
・［不定形サイズ］を押すと、不定形サイズ画面が表示されます。［X］または［Y］を選択しテンキーで数値を入力します。（数値が入っている場合は、【C】を押してからテンキーで入力します。）
・範囲外の数値を入力した場合は「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または原稿サイズの入力を間違えた場合は、【C】を押して入力しなおします。
・［写真サイズ］を押すと写真サイズ画面が表示されます。

ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

5 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

6 テンキーでコピー部数を入力します。

7 【スタート】を押します。

ひとこと

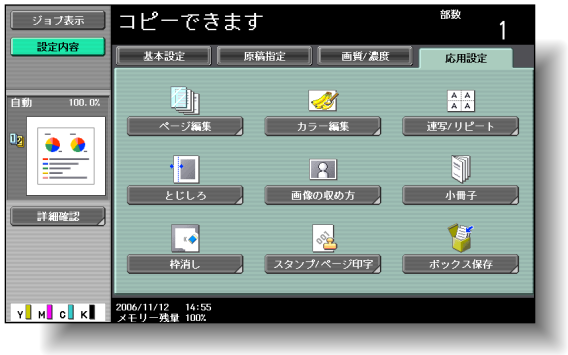
【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

7.10　原稿の白地部分に色をつけてコピーする（ベースカラー）

原稿の背景（白地部分）に 18 色の中から指定した 1 色をつけてコピーします。

1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［カラー編集］を押します。



カラー編集画面が表示されます。

3 ［ベースカラー］を押します。



ベースカラー画面が表示されます。

4 目的の背景色を設定します。

< 1/3 画面>



参照

ベースカラーのサンプルイメージについては、「ベースカラー」（p. 7-18）をごらんください。

参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

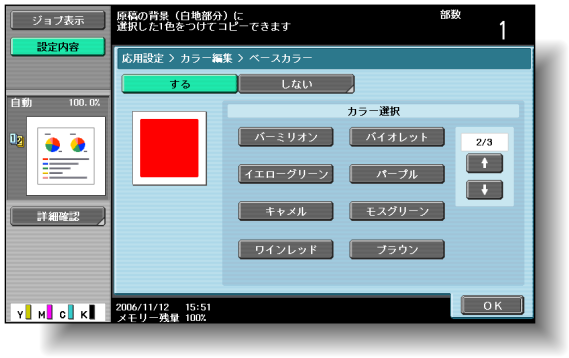
ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

ひとこと

・［↑］または［↓］で色の表示を切換えます。
・ベースカラー機能を解除するときは［しない］を押します。

＜2/3 画面＞



＜3/3 画面＞



5 ［OK］を押します。

6 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

7 テンキーでコピー部数を入力します。

8 【スタート】を押します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

7.11　カラー画質を調整する

カラーコピーの原稿をイメージに合った画質に調整します。

カラー画質調整には 10 種類の機能があり、各機能は組合わせて使用することもできます。また、サンプルコピーで仕上りを確認することもできます。

機能名	説明
明度	明るさの度合いを調整します。
コントラスト	濃淡のコントラストを調整します。
彩度	色のあざやかさの度合いを調整します。
赤色	赤色の色あいを調整します。
緑色	緑色の色あいを調整します。
青色	青色の色あいを調整します。
色相	色相を調整します。色相とは、赤、青、黄というようにそれぞれ区別される色あいのことです。赤みを強くしたり、青みを強くしたりします。
コピー濃度	コピー濃度を調整します。
シャープネス	文字のエッジ部分を強調させて読みやすくします。また、原稿のきつすぎる印象をなめらかな感じにさせたり、ぼやけた印象をくっきりさせたりします。
カラーバランス	イエロー（Y）、マゼンタ（M）、シアン（C）、ブラック（K）の各濃度を調整します。 ・ 赤色味を強くするには、イエローおよびマゼンタの濃度を増やす、またはシアンの濃度を少なくします。 ・ 緑色味を強くするには、イエローおよびシアンの濃度を増やす、またはマゼンタの濃度を少なくします。 ・ 青色味を強くするには、マゼンタおよびシアンの濃度を増やす、またはイエローの濃度を少なくします。 ・ 黄色味を強くするには、イエローの濃度を増やす、またはマゼンタおよびシアンの濃度を少なくします。 ・ 黒色味を強くするには、ブラックの濃度を増やします。

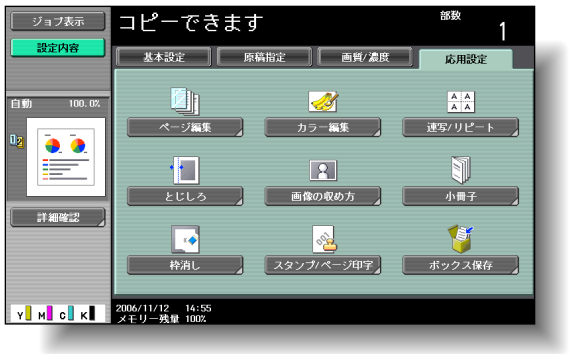
参照

カラー画質調整のサンプルイメージについては、「カラー画質機能とサンプル」（p. 7-2）をごらんください。

7.11.1　カラー画質機能の調整のしかた

ここでは、明度調整を例として説明します。

1 ［応用設定］を押し、［カラー編集］を押します。



カラー編集画面が表示されます。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

2 ［カラー画質調整］を押します。



カラー画質調整画面が表示されます。

3 ［明度］を押します。



暗い⇔明るい（明度）画面が表示されます。

4 [◀◀◀]、[◀]、[▶]、[▶▶▶] で、調整値を設定します。



5 ［OK］を 2 回押します。

詳しく説明します

カラー画質調整画面で目的の機能を選択します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

詳しく説明します

- 調整値は -3 ～ +3 の範囲を 1 ステップまたは 1/3 ステップで設定します。
- シャープネス機能は 1 ステップのみで設定します。
- カラーバランス画面では、色のキーを選択してから調整値を設定します。
- カラーバランス画面では［サンプルコピー］が表示されません。

参照

現在の設定での仕上りを確認するには、［サンプルコピー］を押します。サンプルコピーについては、「カラー画質調整の仕上りを確認する（サンプルコピー）」（p. 7-46）をごらんください。

ひとこと

1/3 ステップで設定した場合、カラー画質調整画面では、最も近い 1 ステップの目盛で表示されます。

7.11.2　カラー画質調整の仕上りを確認する（サンプルコピー）

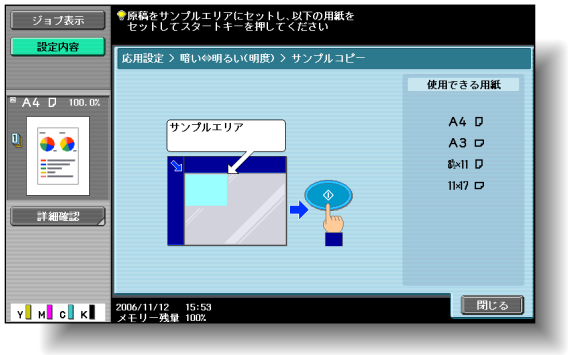
カラー画質調整の設定により実際どのような仕上りになるかを、サンプルコピーをとって確認します。
ここでは明度調整を例として説明します。

1 暗い⇔明るい（明度）画面で［サンプルコピー］を押します。



サンプルコピー画面が表示されます。

2 「使用できる用紙」に表示された用紙を給紙トレイにセットします。



3 原稿ガラス上のサンプルエリア内に、原稿をセットします。

4 【スタート】を押します。
サンプルコピーが印刷されます。

5 ［閉じる］を押します。
各機能の画面に戻ります。

参照
カラー画質調整の各機能画面の表示方法については、「カラー画質を調整する」（p. 7-44）をごらんください。

ひとこと
サンプルコピー画面が表示されているときは、【リセット】、【スタート】以外のキーが無効になります。

ひとこと
原稿内の画像で確認したい部分を、サンプルエリア内にセットします。原稿の端が原稿ガラス上からはみ出してもサンプルがコピーされます。

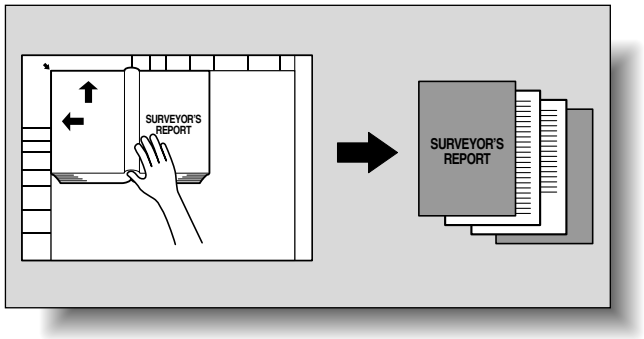
ひとこと
サンプルコピーは印刷枚数としてカウントされます。

7.12　見開き原稿を左右 1 ページずつ分けてコピーする（ブック連写）

本やカタログなどをコピーする場合に、左右のページが分割され、それぞれ 1 ページとしてコピーできます。

ブック連写には以下の種類があり、設定を変えずに本の表カバー、裏カバーのコピーをつけることもできます。

機能名	説明
［見開き］	見開き原稿が 1 ページ分の原稿としてコピーされます。
［分割］	見開き原稿がページ順に左右 1 ページずつ分割してコピーされます。使用する用紙サイズに合わせて原稿を読込みます。
［表カバー］	表カバー + ページ順の分割コピーの順でコピーされます。
［表 + 裏カバー］	表カバー + ページ順の分割コピー + 裏カバーの順でコピーされます。



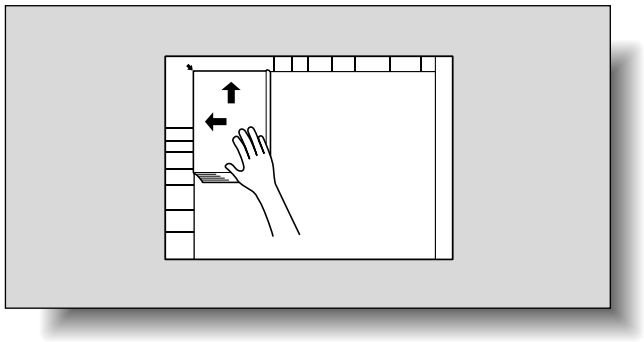
原則

原稿は原稿ガラス上にセットします。

1

原稿ガラス上に最初のページからセットします。

❍ 表紙のコピーをつける場合は、最初に表カバーをセットします。



2

使用する用紙を目的の給紙トレイにセットします。

参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

必ずお守りください

［表 + 裏カバー］を選択する場合、原稿の読込みは、表カバー、裏カバー、見開き本文原稿の順に行ってください。

3 ［応用設定］を押し、［連写 / リピート］を押します。



連写 / リピート画面が表示されます。

4 ［ブック連写］を押します。



ブック連写画面が表示されます。

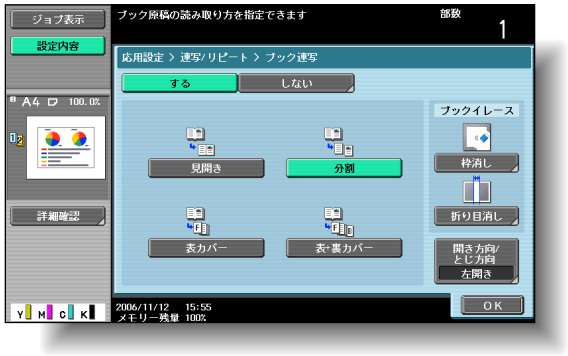
ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

詳しく説明します

オプションのフィニッシャー FS-609 が装着されている場合、またはオプションのフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されている場合、［カタログ連写］が表示されます。

5 目的の仕上り設定を選択します。



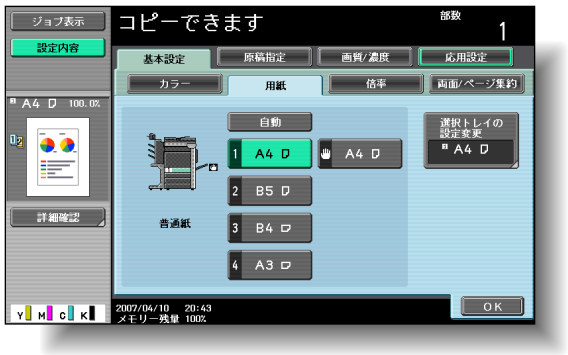
- ［分割］［表カバー］［表 + 裏カバー］を選択すると、「開き方向 / とじ方向」が表示されます。原稿のとじ方向に合わせて選択します。
- 必要に応じて、「ブックイレース」を設定します。イレース方法を選択し、消去幅を［-］、［+］で設定して、［OK］を押します。

＜折り目消し画面＞



6 ［OK］を押し、［閉じる］を押します。

7 基本設定画面で［用紙］を押し、用紙をセットした給紙トレイを選択します。



8 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

9 テンキーでコピー部数を入力します。

ひとこと

ブック連写機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

「ブックイレース」を設定すると、周囲や中央部にできる黒い影を消すことができます。「ブックイレース」は組合わせて使用できます。

参照

［枠消し］については、「指定部分を消してコピーする（枠消し）」（p. 7-68）をごらんください。

ひとこと

応用設定画面で枠消し機能を設定している場合は、「ブックイレース」の［枠消し］が反転されます。

詳しく説明します

・テンキーで設定する場合は、【C】を押して入力します。
・範囲外の数値を入力した場合は「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または消去幅の入力を間違えた場合は、【C】を押して入力しなおします。

ひとこと

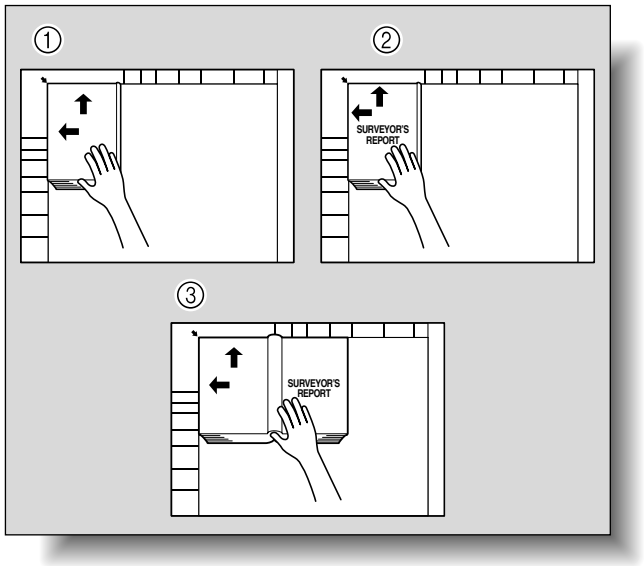
【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

10 【スタート】を押します。

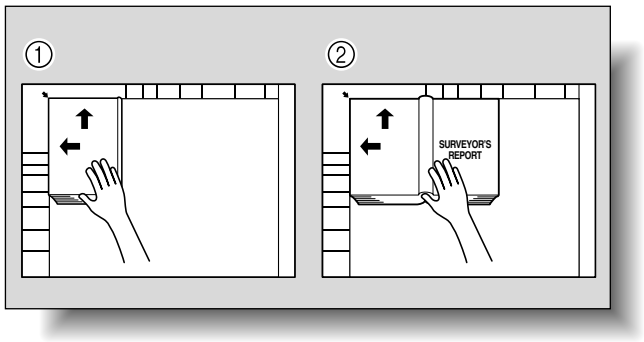
読込みが開始されます。
［見開き］または［分割］を選択している場合は、出力が開始されます。
［表カバー］または［表 + 裏カバー］を選択している場合は、手順 11 へ進みます。

11 全ての原稿を読込み、［読込み終了］を押します。

- ［表 + 裏カバー］を選択した場合は、表カバーを読込んだあと、裏カバーを読込み、最後に見開き本文原稿をページ順に読込みます。



- ［表カバー］を選択した場合は、表カバーを読込んだあと、見開き本文原稿をページ順に読込みます。



12 【スタート】を押します。

参照

原稿の読込みについては、「複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットする」（p. 2-12）をごらんください。

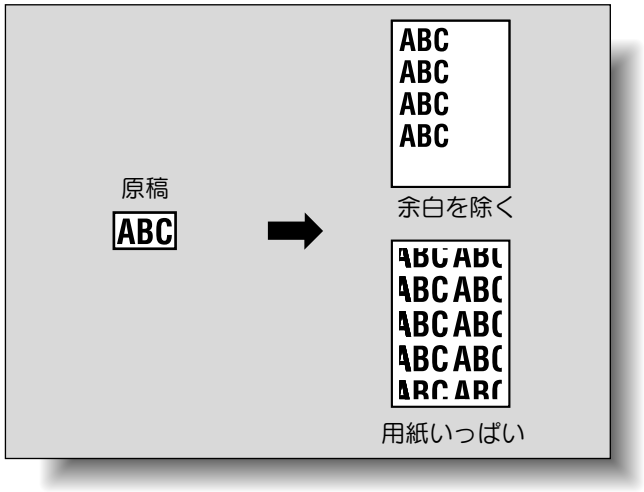
詳しく説明します

原稿をセットしたあと、手順 10 の操作を繰り返し、全ての原稿を読込みます。

7.13　指定した範囲を繰り返しコピーする（リピート）

1 枚の原稿の画像を 1 枚の用紙に繰り返してコピーできます。
原稿と用紙のサイズまたは倍率により、繰り返し可能な画像の数を自動的に検出してコピーします。
リピートには以下の種類があり、仕上りを設定できます。

機能名	説明
［余白を除く］	画像の選択範囲が全て収まるように複数コピーされます。選択範囲が収まりきらない部分は余白として残されます。
［用紙いっぱい］	画像の選択範囲が用紙サイズいっぱいまで複数コピーされます。ただし、画像の欠ける部分があります。
［定型リピート］	画像の選択範囲を一定の回数のみ用紙に繰り返してコピーします。繰り返し回数は 2、4、8 回から選べます。ただし、用紙の分割範囲に収まりきらない画像は欠けた状態になります。



1 原稿をセットします。

2 使用する用紙を目的の給紙トレイにセットします。

3 ［応用設定］を押し、［連写 / リピート］を押します。



連写 / リピート画面が表示されます。

参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

4 ［リピート］を押します。



リピート画面が表示されます。

5 「配置方向」の「余白を除く」または「用紙いっぱい」を押すか、「定型リピート」を押します。



❍ ［定型リピート］を押した場合は、表示される定型リピート画面でリピート回数と間隔を設定します。



詳しく説明します

オプションのフィニッシャー FS-609 が装着されている場合、またはオプションのフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されている場合、［カタログ連写］が表示されます。

ひとこと

リピート機能を解除するときは［しない］を押します。

6

「読込み範囲」を確認し、［OK］を押し、［閉じる］を押します。

❍「読込み範囲」に原稿サイズが自動検出されなかったり、読込み範囲を指定する場合は、［範囲指定］を押し、いずれかの画面で読込み範囲を指定します。

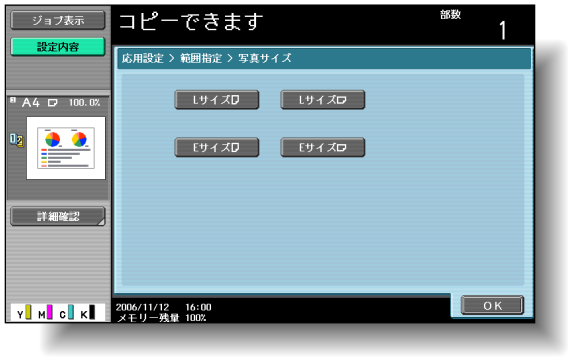
＜範囲指定画面＞



＜不定形サイズ画面＞

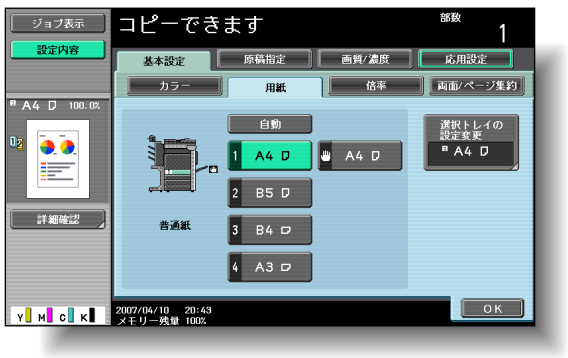


＜写真サイズ画面＞



7

基本設定画面で［用紙］を押し、用紙をセットした給紙トレイを選択します。



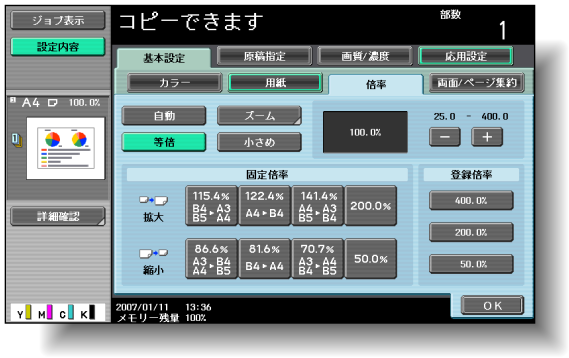
詳しく説明します

・［↑］または［↓］で、定形サイズの表示を切換えます。
・［不定形サイズ］を押すと、不定形画面が表示されます。［X］または［Y］を選択しテンキーで数値を入力します。（数値が入っている場合は、【C】を押してからテンキーで入力します。）
・範囲外の数値を入力した場合は「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または原稿サイズの入力を間違えた場合は、【C】を押して入力しなおします。
・［写真サイズ］を押すと、写真サイズ画面が表示されます。

ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

❍［定型リピート］を選択した場合は、基本設定画面で［倍率］を押して倍率設定をします。



8 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

9 テンキーでコピー部数を入力します。

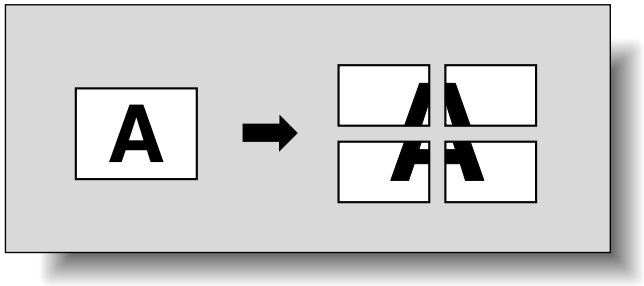
10 【スタート】を押します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

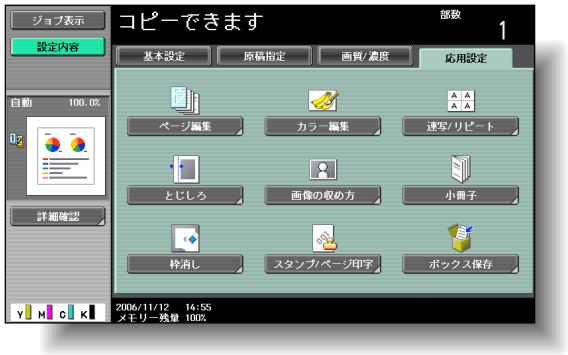
7.14　画像を複数の用紙に分割して拡大コピーする（拡大連写）

原稿の画像を分割し、それぞれの分割画像を拡大コピーします。できあがりサイズは、画像サイズ、倍率、用紙サイズから指定します。



1 原稿を原稿ガラス上にセットします。

2 ［応用設定］を押し、［連写 / リピート］を押します。



連写 / リピート画面が表示されます。

3 ［拡大連写］を押します。



拡大連写画面が表示されます。

参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

詳しく説明します

オプションのフィニッシャー FS-609 が装着されている場合、またはオプションのフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されている場合、［カタログ連写］が表示されます。

4

「できあがり」の［画像サイズ］、［用紙サイズ］、［倍率］から 1 種類を設定します。



❍［画像サイズ］を押し、できあがり画像サイズを選択して［OK］を押します。



❍［用紙サイズ］を押し、できあがり用紙サイズを選択して［OK］を押します。



❍［倍率］を押し、テンキーで数値を入力して［OK］を押します。



ひとこと

出荷時設定では、できあがり用紙サイズ「A2」が設定されています。

詳しく説明します

・［↑］または［↓］で、定形サイズの表示を切換えます。
・［不定形サイズ］を押すと、不定形画面が表示されます。［X］または［Y］を選択しテンキーで数値を入力します。

詳しく説明します

［↑］または［↓］で、用紙サイズの表示を切換えます。

5

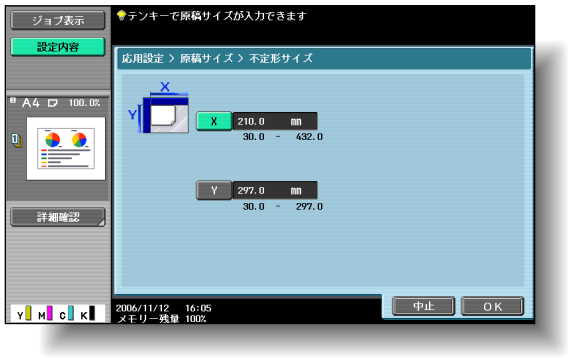
原稿サイズを確認し、［OK］を押します。

❍ 原稿サイズが自動検出されなかったり、原稿サイズを指定する場合は、［原稿サイズ］を押し、目的の画面で原稿サイズを指定します。

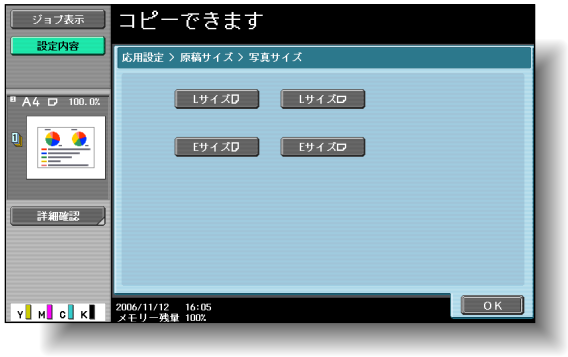
＜原稿サイズ画面＞



＜不定形サイズ画面＞



＜写真サイズ画面＞



6

必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

7

【スタート】を押します。

詳しく説明します

・［↑］または［↓］で、定形サイズの表示を切換えます。
・［不定形サイズ］を押すと、不定形サイズ画面が表示されます。［X］または［Y］を選択しテンキーで数値を入力します。（数値が入っている場合は、【C】を押してからテンキーで入力します。）
・範囲外の数値を入力した場合は「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または原稿サイズの入力を間違えた場合は、【C】を押して入力しなおします。
・［写真サイズ］を押すと、写真サイズ画面が表示されます。

ひとこと

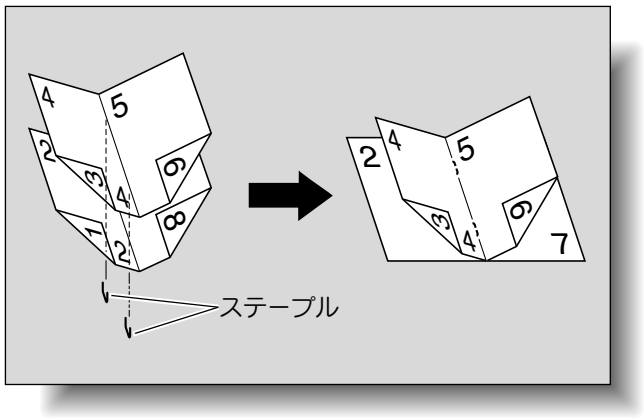
［中止］を押すと設定は変更されません。

詳しく説明します

コピー部数は 1 です。設定変更できません。

7.15　カタログをコピーする（カタログ連写）

ステープルを取外したカタログを原稿とし、元のカタログと同じように用紙の中央をステープルとじしてコピーします。



参照

・ステープルとじについては、「用紙の中央をとじて排紙する（中とじ）」（p. 2-68）をごらんください。
・カタログ連写では、原稿の中央部（ステープルでとじてある部分）も全てコピーされます。

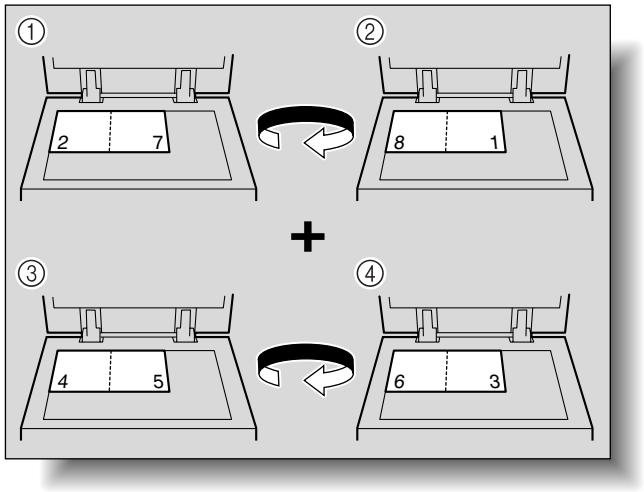
原則

オプションのフィニッシャー FS-609 が装着されている場合、またはオプションのフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されている場合に使用できます。

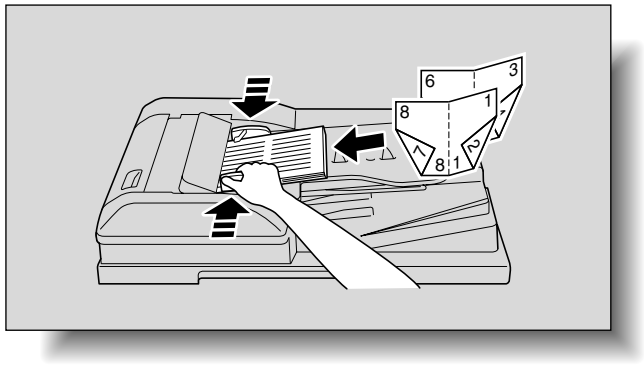
1

原稿をセットします。

❍ 原稿ガラスを使用する場合は、1 ページ目を含む面、2 ページ目を含む面、3 ページ目を含む面という順番にセットします。



❍ ADF を使用する場合は、1 ページ目を含む面が 1 番上になるようにセットします。



必ず守ってください

カタログはステープルを外した状態でセットしてください。

参照

・ステープルのとじ枚数は最大 15 枚までで、用紙種類により異なります。詳しくは、「紙折り機能を選ぶ」（p. 2-66）をごらんください。
・原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

2 ［応用設定］を押し、［連写 / リピート］を押します。



連写 / リピート画面が表示されます。

3 ［カタログ連写］を押します。

＜フィニッシャー FS-609 ＞



❍ ［通常印刷］または［製本印刷］を選択して［OK］を押します。

4 ［閉じる］を押します。

5 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

6 テンキーでコピー部数を入力します。

7 【スタート】を押します。

❍ 原稿ガラス上に原稿をセットした場合、読込みが開始されます。

8 全ての原稿を読込んだあと、［読込み終了］を押し、【スタート】を押します。

ひとこと

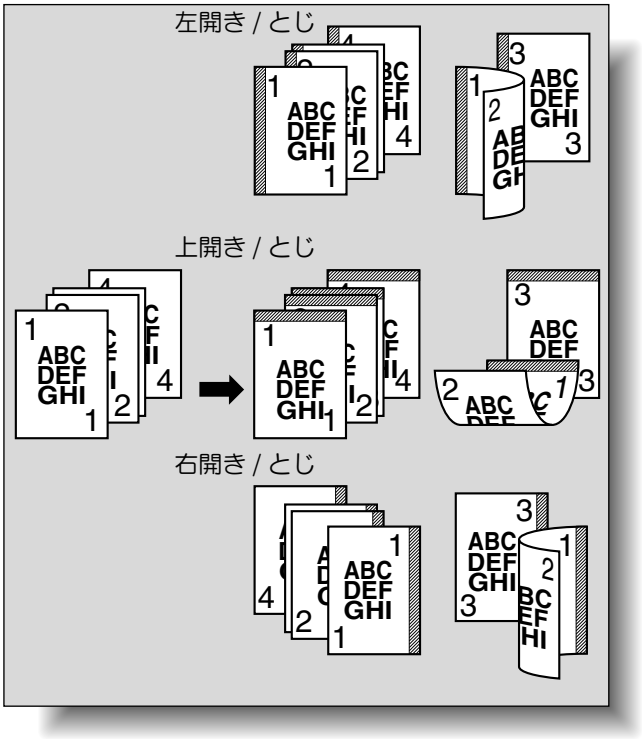
全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

参照

原稿ガラスを使用した原稿の読込みについては、「複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットする」（p. 2-12）をごらんください。

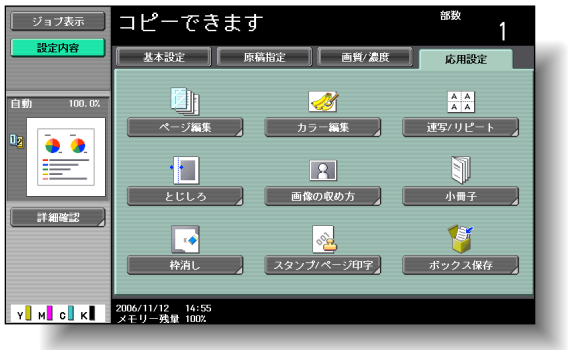
7.16　とじしろをつくってコピーする（とじしろ）

原稿の画像をファイリングしやすいように、用紙にとじしろ（余白）をつくってコピーします。両面コピーする場合、とじしろ位置を指定することにより画像の向きを補正できます。また、とじしろはつくらずに画像の向きのみを補正することもできます。



1　原稿をセットします。

2　［応用設定］を押し、［とじしろ］を押します。



とじしろ画面が表示されます。

詳しく説明します

ステープルやパンチの位置指定ととじしろの位置が異なる場合、ステープルやパンチ位置の設定が優先されます。

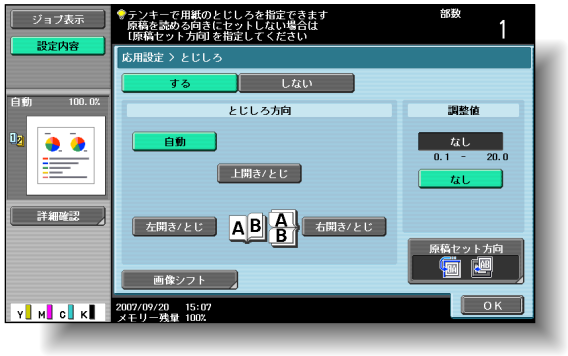
参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

3 とじしろ方向を選択します。



4 テンキーでとじしろ幅を入力します。

- ［なし］が設定されている場合、とじしろ幅が 0 mm に設定されます。両面コピーする場合に、とじしろはつくらずに画像の向きのみを補正することができます。

5 必要に応じて、［画像シフト］を押します。

画像シフト画面が表示されます。

6 画像の位置を調整して、［OK］を押します。

- ［左］［右］［上］［下］から調整する方向を押し、テンキーでシフト幅を入力するか、［+］［-］を押してシフト幅を設定します。
- シフトを解除するには、［シフトしない］を押します。



- ［裏面編集］を押すと、両面コピー時のウラ面の画像位置を調整できます。



ひとこと

- 【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。
- とじしろ機能を解除するときは［しない］を押します。
- 出荷時設定では［自動］が設定されています。
- ［自動］を押すと、原稿の方向から用紙へのとじしろ位置を自動的に判断し、原稿の長辺が 297 mm 以下の場合、用紙の長辺にとじしろ位置を設定し、原稿の長辺が 297 mm を超える場合、用紙の短辺にとじしろ位置を設定します。
- ［自動］を設定した場合は、上側または左側のとじしろ位置が設定されます。
- ［自動］によりとじしろの位置を指定する場合は、必ず原稿の天部が奥側になるようにセットしてください。それ以外の向きだと、正しく設定できません。

詳しく説明します

- 範囲外の数値を入力した場合は「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、またはとじしろ幅の入力を間違えた場合は、［なし］または【C】を押して入力しなおします。
- とじしろ幅の数値を保持したまま、とじ位置を変更できます。

参照

原稿セット方向については、「原稿のセット方向を設定する（原稿セット方向）」（p. 2-20）をごらんください。

7 必要に応じて、［原稿セット方向］を押し、原稿のセットされている向きを指定します。

8 ［OK］を押します。

9 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

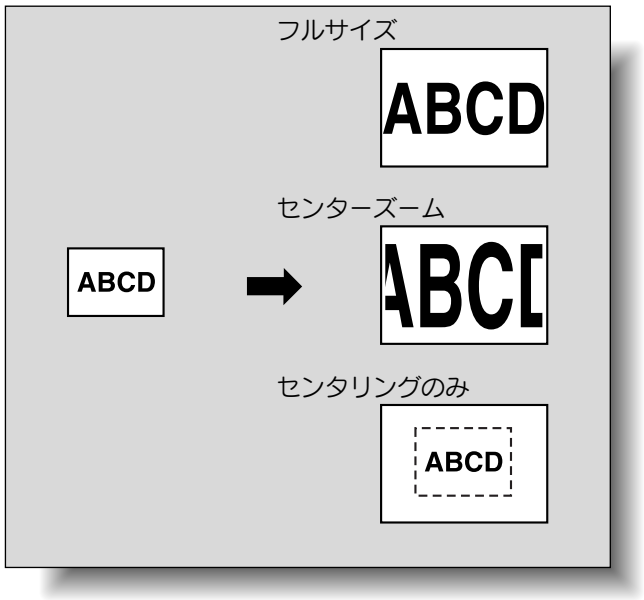
10 テンキーでコピー部数を入力します。

11 【スタート】を押します。

7.17　原稿を用紙サイズに合わせてコピーする（画像の収め方）

原稿に対して用紙が大きい場合に、画像を用紙サイズいっぱいに拡大し、用紙の中央に配置してコピーできます。
画像の収め方には以下の種類があります。

機能名	説明
［フルサイズ］	画像が全て収まる範囲で、用紙サイズに合わせて拡大され、用紙の中央にコピーされます。
［センターズーム］	画像が用紙サイズに合わせて拡大され、用紙いっぱいにコピーされます。ただし、画像の欠ける部分があります。
［センタリングのみ］	画像が拡大されずに、用紙の中央にコピーされます。

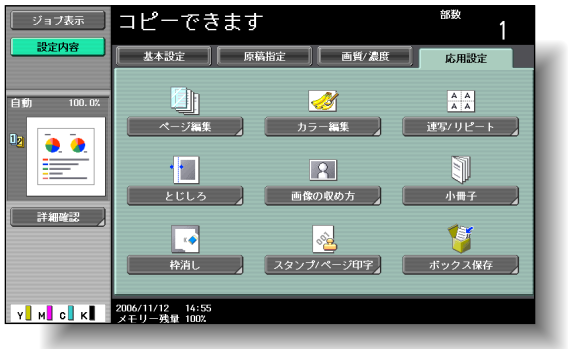


1　原稿をセットします。

参照
原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと
フルサイズまたはセンターズームを設定する場合は、原稿を原稿ガラス上にセットします。

2　［応用設定］を押し、［画像の収め方］を押します。



画像の収め方画面が表示されます。

ひとこと
全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

3 目的のキーを押します。



4 原稿サイズを確認し、[OK] を押します。

❍ 原稿サイズが自動検出されなかったり、原稿サイズを指定する場合は、[原稿サイズ] を押し、目的の画面で原稿サイズを指定します。

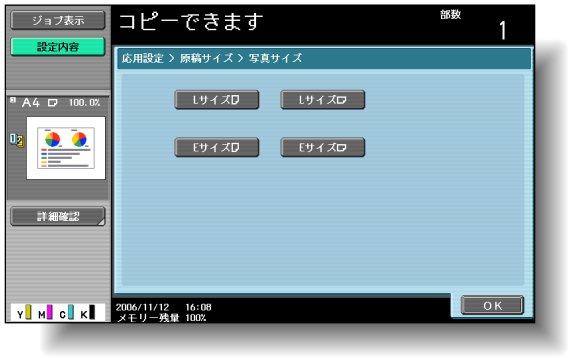
＜原稿サイズ画面＞



＜不定形サイズ画面＞



＜写真サイズ画面＞



ひとこと

画像の収め方機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

不定形サイズをセットした場合は、原稿サイズが検出されないため、不定形サイズ画面で原稿サイズを指定してから【スタート】を押します。

詳しく説明します

・［↑］または［↓］で、定形サイズの表示を切換えます。
・［不定形サイズ］を押すと、不定形サイズ画面が表示されます。［X］または［Y］を選択しテンキーで数値を入力します。（数値が入っている場合は、【C】を押してからテンキーで入力します。）
・範囲外の数値を入力した場合は「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または原稿サイズの入力を間違えた場合は、【C】を押して入力しなおします。
・［写真サイズ］を押すと、写真サイズ画面が表示されます。

ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

5 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

6 テンキーでコピー部数を入力します。

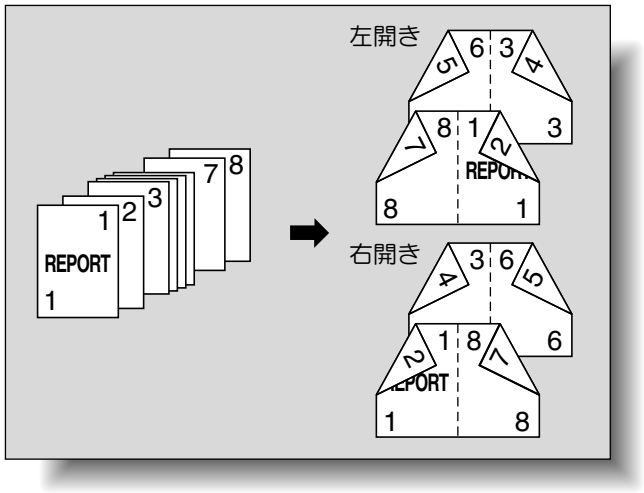
7 【スタート】を押します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

7.18　雑誌や週刊誌のようなページレイアウトでコピーする（小冊子）

雑誌や週刊誌のように中とじ用のページレイアウトになるよう、読込んだ原稿のページ順を自動的に入れ換えて両面コピーします。オプションのフィニッシャー FS-609 が装着されている場合、またはオプションのフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されている場合、ステープルでとじることができます。



詳しく説明します

原稿枚数は片面原稿の場合は 4 の倍数、両面原稿の場合は 2 の倍数が基本です。足りない場合は、自動的に白紙画像を末尾に挿入します。

参照

ステープルとじについては、「用紙の中央をとじて排紙する（中とじ）」（p. 2-68）をごらんください。

1 原稿をセットします。

参照

・原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。
・原稿枚数が 100 枚を超える場合は、「原稿を分割して読込む（連続読込み設定）」（p. 2-9）をごらんください。

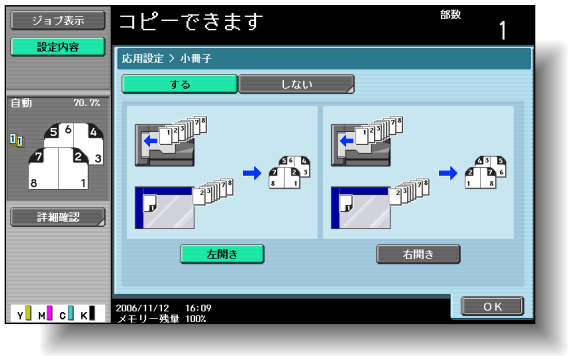
2 ［応用設定］を押し、［小冊子］を押します。



ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

3 ［左開き］または［右開き］を押します。



ひとこと

・【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。
・小冊子機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

・とじしろ幅は自動的に設定されます。
・原稿がランドスケープ原稿のみの場合、どちらを選択しても上とじになります。

4 ［OK］を押します。

5 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

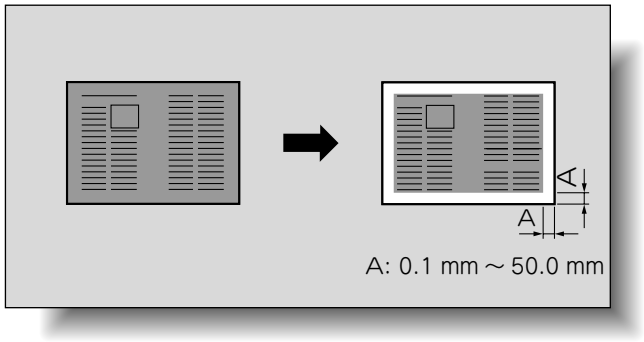
6 テンキーでコピー部数を入力します。

7 【スタート】を押します。

7.19　指定部分を消してコピーする（枠消し）

受信したファクス用紙の受信記録や、パンチ穴の影など、原稿の周囲の不要部分を消去してコピーします。

枠消しには、原稿の周囲 4 辺を同じ幅で消去する設定と、辺ごとに異なる幅で消去する設定があります。

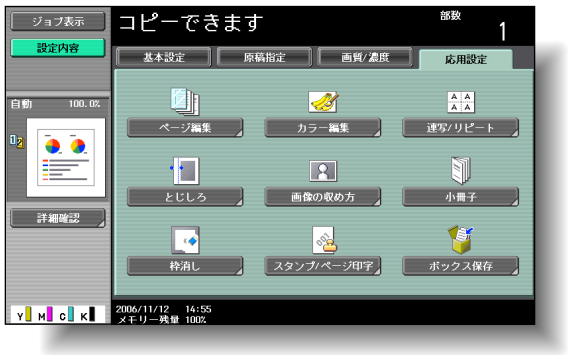


1 原稿をセットします。

参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

2 ［応用設定］を押し、［枠消し］を押します。



枠消し画面が表示されます。

3 消去位置を選択します。



ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

ひとこと

- 【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。
- 枠消し機能を解除するときは［しない］を押します。
- 出荷時設定では「枠全体」が設定されています。
- ［枠全体］は、原稿の周囲 4 辺が同じ幅で消去されます。
- ［枠全体］はその他のキー（［枠：上］、［枠：左］、［枠：右］、［枠：下］）と同時設定できません。

4 [-]、[+]または［消去しない］で消去幅を設定します。
- ❍ 消去位置によって異なる消去幅を設定する場合、［枠：上］、［枠：左］、［枠：右］、［枠：下］の全てをそれぞれ設定します。

5 ［OK］を押します。

6 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

7 テンキーでコピー部数を入力します。

8 【スタート】を押します。

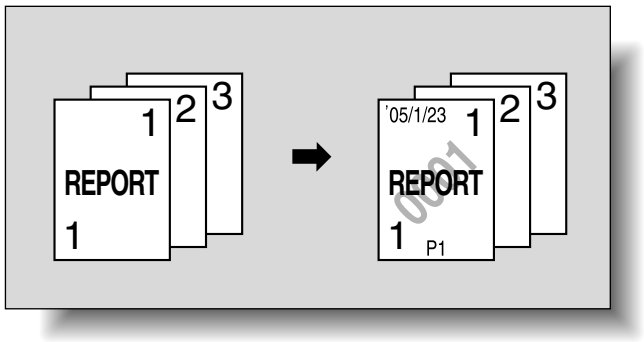
詳しく説明します

・テンキーで設定する場合は、【C】を押して入力します。
・範囲外の数値を入力した場合は「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または消去幅の入力を間違えた場合は、【C】を押して入力しなおします。

7.20　日付 / 時刻やページ数などを重ねてコピーする（スタンプ / ページ印字）

印字位置を指定して日付 / 時刻やページ番号を入れたり、複数部コピーする場合に管理番号を入れてコピーします。
スタンプには以下の種類があり、組合わせて使用できる機能もあります。

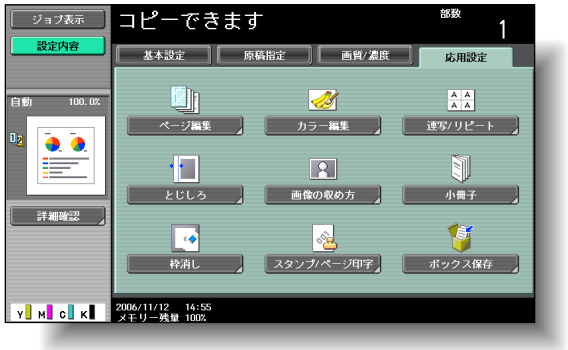
機能名	説明
［日付 / 時刻］	表記形式を選択し、指定したページに日付や時刻を印字します。
［ページ番号］	表記形式を選択し、指定した番号からページ数を印字します。
［スタンプ］	・定型スタンプ あらかじめ登録された定型スタンプをページに重ねて印字します。 ・登録スタンプ Copy Protection Utility で登録したスタンプをページに重ねて印字します。
［コピープロテクト］	定型スタンプや日付などのコピープロテクト（不正コピー防止用の隠し文字）を印字します。
［繰り返しスタンプ］	登録スタンプ、定型スタンプ、日付などをページ上に繰り返し印字します。
［オーバーレイ］	原稿の 1 枚目の内容をオーバーレイ画像として、2 枚目以降の内容と重ね合わせて印字します。
［ヘッダー / フッター］	ページごとに日付・時刻や配布番号を印字します。 管理者が設定した場合にのみ使用できます。



7.20.1　日付 / 時刻を印字するには（日付 / 時刻）

1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［スタンプ / ページ印字］を押します。



スタンプ / ページ印字画面が表示されます。

参照

・日付や時刻の印字設定については、p. 7-70 をごらんください。
・ページ番号の印字設定については、p. 7-74 をごらんください。
・スタンプの印字設定については、p. 7-77 をごらんください。
・コピープロテクトの印字設定については、p. 7-80 をごらんください。
・繰り返しスタンプの印字設定については、p. 7-85 をごらんください。
・オーバーレイの印字設定については、p. 7-90 をごらんください。
・ヘッダー / フッターの印字設定については、p. 7-95 をごらんください。

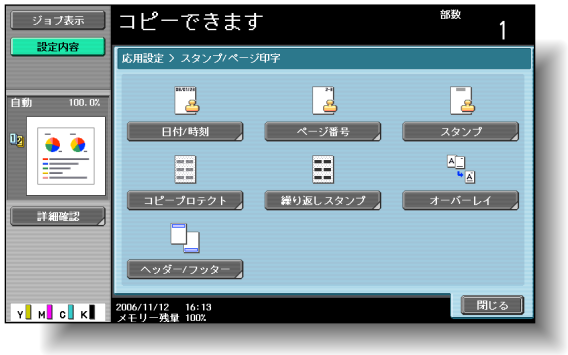
参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

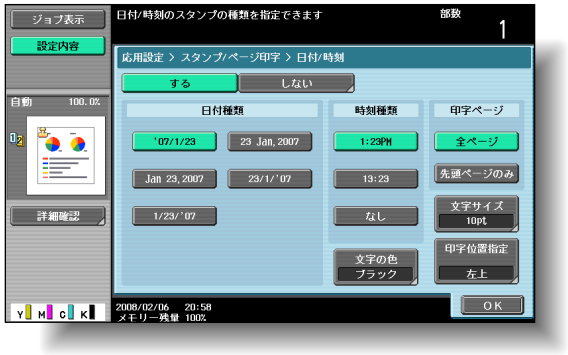
全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

3 ［日付 / 時刻］を押します。



日付・時刻画面が表示されます。

4 「日付種類」、「時刻種類」、「印字ページ」をそれぞれ選択します。



5 ［印字位置指定］を押します。

印字位置指定画面が表示されます。

6 印字位置を選択し、［OK］を押します。



ひとこと

- 日付 / 時刻機能を解除するときは［しない］を押します。
- 「時刻種類」で［なし］を設定すると、時刻が印字されません。

詳しく説明します

- ［先頭ページのみ］を選択した場合、先頭ページのみ印字されます。
- カバーシート機能、インターシート機能、章分け機能の同時設定によって挿入される白紙ページには、印字されません。

ひとこと

- 印字位置の微調整は 0.1 mm 単位で設定します。
- ［調整しない］を設定した場合は、左右方向および上下方向への調整が行われません。
- 範囲外の数値を入力した場合は「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または調整値の入力を間違えた場合は、［調整しない］または【C】を押して入力しなおします。
- 出荷時設定では、「左上」に設定されています。

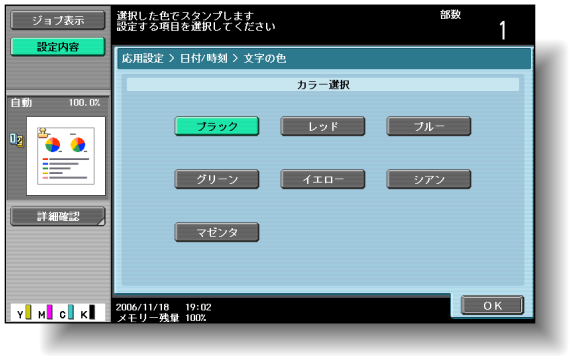
❍ 印字位置を微調整する場合は［位置調整］を押します。「左右調整」および「上下調整」でそれぞれ方向を選択し、テンキーまたは［-］、［+］で調整値を入力して、［OK］を押します。



7 ［文字の色］を押します。

文字の色画面が表示されます。

8 カラーを選択し、［OK］を押します。



9 ［文字サイズ］を押します。

文字サイズ選択画面が表示されます。

10 文字サイズを選択し、［OK］を押します。



11 ［OK］を押し、［閉じる］を押します。

ひとこと

出荷時設定では、「ブラック」に設定されています。

ひとこと

出荷時設定では、「10pt」に設定されています。

12 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

13 テンキーでコピー部数を入力します。

14 【スタート】を押します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

7.20.2　ページ数を印字するには（ページ番号）

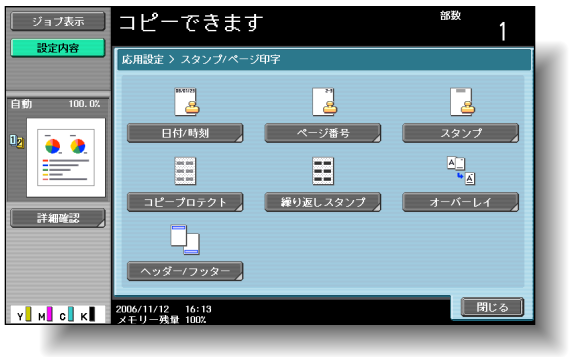
1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［スタンプ / ページ印字］を押します。



スタンプ / ページ印字画面が表示されます。

3 ［ページ番号］を押します。



ページ番号画面が表示されます。

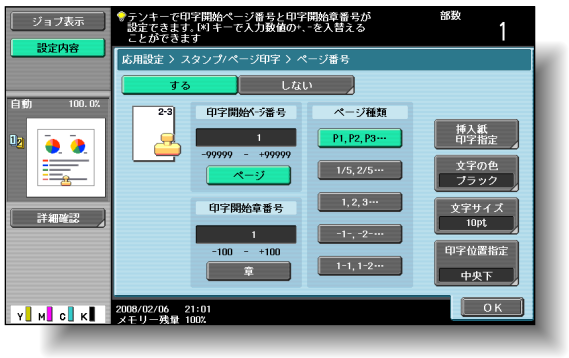
参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

4 テンキーで印字を開始するページ番号を入力します。



❍ 必要に応じて［章］を押し、テンキーで章番号を入力します。入力した章番号は、ページ種類で「1-1,1-2…」を選択した場合に印字されます。

5 「ページ種類」を選択します。

6 ［印字位置指定］を押します。

印字位置指定画面が表示されます。

7 印字位置を選択し、［OK］を押します。



❍ 印字位置を微調整する場合は［位置調整］を押します。「左右調整」および「上下調整」でそれぞれ方向を選択し、テンキーまたは［-］、［+］で調整値を入力して、［OK］を押します。



ひとこと

ページ番号機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

・開始ナンバーの［ページ］は -99999 ～ 99999 の範囲で、［章］は -100 ～ 100 の範囲で設定します。
・「開始ナンバー」の設定では【*】で設定値の正負を入換えることができます。
・－の値を設定すると、1 になるまで印字されません。たとえば「-1」を設定した場合、コピー 3 ページ目の「1」から印字されます。
・複数の章を印刷する場合は、あらかじめ章分け機能で章の先頭ページを指定しておきます。詳しくは、「指定したページを必ずオモテ面に配置する（章分け）」（p. 7-31）をごらんください。

ひとこと

・印字位置の微調整は 0.1 mm 単位で設定します。
・［調整しない］を設定した場合は、左右方向および上下方向への調整が行われません。
・範囲外の数値を入力した場合は、「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または調整値の入力を間違えた場合は、［調整しない］または【C】を押して入力しなおします。
・出荷時設定では、「中央下」に設定されています。

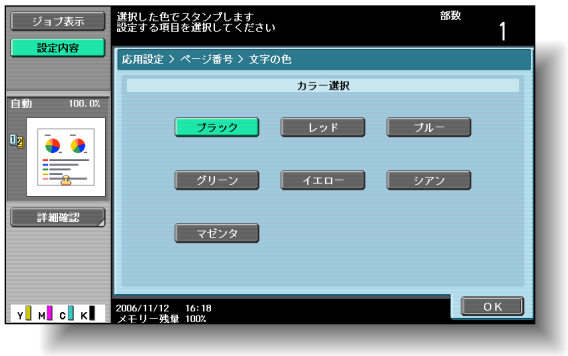
8 ［挿入紙印字指定］を押します。
挿入紙印字指定画面が表示されます。

9 印字ページを選択し、［OK］を押します。



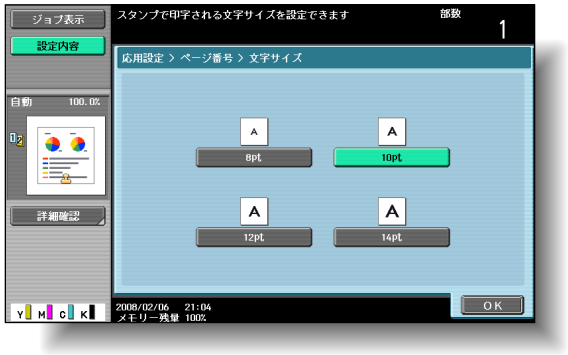
10 ［文字の色］を押します。
文字の色画面が表示されます。

11 カラーを選択し、［OK］を押します。



12 ［文字サイズ］を押します。
文字サイズ画面が表示されます。

13 文字サイズを選択し、［OK］を押します。



14 ［OK］を押し、［閉じる］を押します。

詳しく説明します

- ［挿入紙印字指定］は応用機能の［カバーシート］や［インターシート］、［章分け］と同時設定する場合に設定します。
- カバーシート機能、インターシート機能、章分け機能の同時設定によって挿入される白紙ページは、カウントされるのみで印字されません。
- カバーシートで［裏カバーのみ印字］または［カバーシートに印字しない］を選択した場合、片面コピーは「2」から、両面コピーは「3」からページが印字されます。
- ［印刷しない］を選択した場合、挿入ページはカウントされるのみで印字されません。［スキップ］を選択した場合、挿入ページはカウントも印字もされません。

ひとこと

出荷時設定では、「ブラック」に設定されています。

ひとこと

出荷時設定では、「10pt」に設定されています。

15 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

16 テンキーでコピー部数を入力します。

17 【スタート】を押します。

7.20.3　あらかじめ登録されたスタンプを印字するには（スタンプ）

1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［スタンプ / ページ印字］を押します。



スタンプ / ページ印字画面が表示されます。

3 ［スタンプ］を押します。



スタンプ画面が表示されます。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

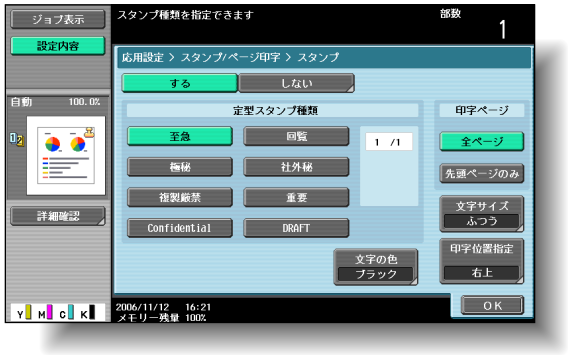
参照

・登録スタンプを登録するには、Copy Protection Utility を使用します。スタンプの登録方法については、Copy Protection Utility ユーザーズガイドをごらんください。
・原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

4 「定型スタンプ種類」または「登録スタンプ種類」から、目的のスタンプを選択します。

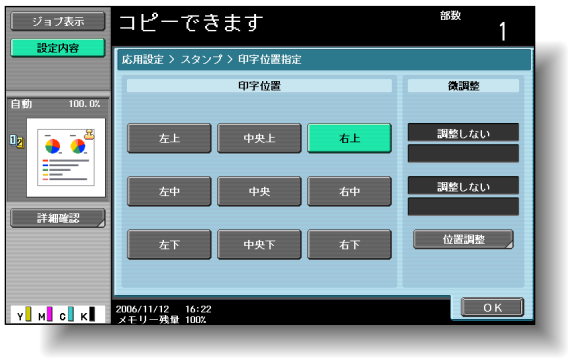


5 「印字ページ」を選択します。

6 ［印字位置指定］を押します。

印字位置指定画面が表示されます。

7 印字位置を選択し、［OK］を押します。



❍ 印字位置を微調整する場合は［位置調整］を押します。「左右調整」および「上下調整」でそれぞれ方向を選択し、テンキーまたは［-］、［+］で調整値を入力して、［OK］を押します。



8 ［文字の色］を押します。

文字の色画面が表示されます。

ひとこと

スタンプ機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

・［↑］または［↓］で、定型スタンプと登録スタンプの表示を切換えます。
・「登録スタンプ種類」のスタンプは Copy Protection Utility で登録した場合のみ表示されます。
・スタンプの複数選択はできません。

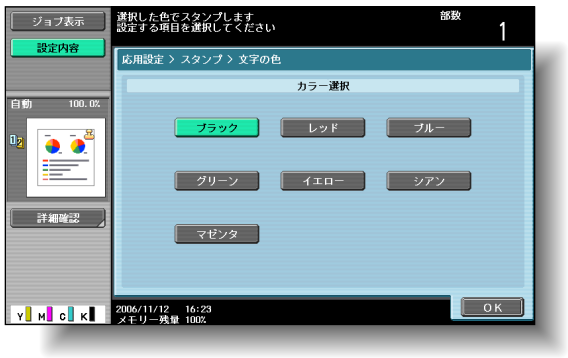
詳しく説明します

・［先頭ページのみ］を選択した場合、表カバーのみ印字されます。
・カバーシート機能、インターシート機能、章分け機能の同時設定によって挿入される白紙ページには、印刷されません。

ひとこと

・印字位置の微調整は 0.1mm 単位で設定します。
・［調整しない］を設定した場合は、左右方向および上下方向への調整が行われません。
・範囲外の数値を入力した場合は、「入力エラー」が表示されます。「入力エラー」が表示された場合、または調整値の入力を間違えた場合は、［調整しない］または【C】を押して入力しなおします。
・出荷時設定では、「右上」に設定されています。

9 カラーを選択し、[OK] を押します。



10 [文字サイズ] を押します。
文字サイズ画面が表示されます。

11 文字サイズを選択し、[OK] を押します。



12 [OK] を押し、[閉じる] を押します。

13 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

14 テンキーでコピー部数を入力します。

15 【スタート】を押します。

ひとこと

出荷時設定では、「ブラック」に選択されています。

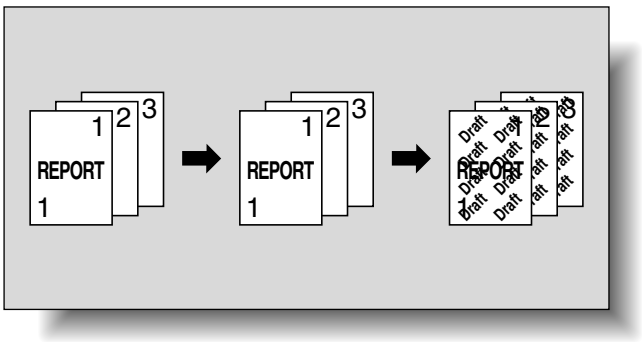
ひとこと

出荷時設定では、「ふつう」に設定されています。

ひとこと

印刷カラーが単色カラーに設定されている状態で、印刷カラーとスタンプのカラー設定が異なる場合、セールスカウンターは 2 色でカウントされます。
印刷カラーが 2 色カラーに設定されている状態で、2 色目の色とスタンプの文字の色が異なる場合、セールスカウンターはフルカラーでカウントされます。

7.20.4　コピープロテクトを印字するには（コピープロテクト）



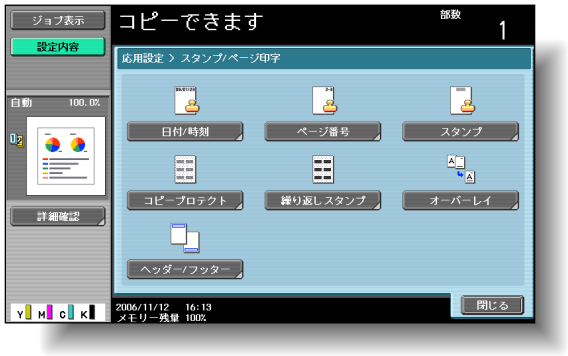
1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［スタンプ / ページ印字］を押します。



スタンプ / ページ印字画面が表示されます。

3 ［コピープロテクト］を押します。



コピープロテクト画面が表示されます。

詳しく説明します

・［コピープロテクト］を設定すると不正コピー防止用の隠し文字が印字されます。コピープロテクトが印字された文書をコピーすると、隠し文字が原稿よりはっきりと用紙全体に繰り返し現れ、コピー文書であることが分かるようになります。
・コピープロテクトは全ページに印字されます。ページ指定はできません。

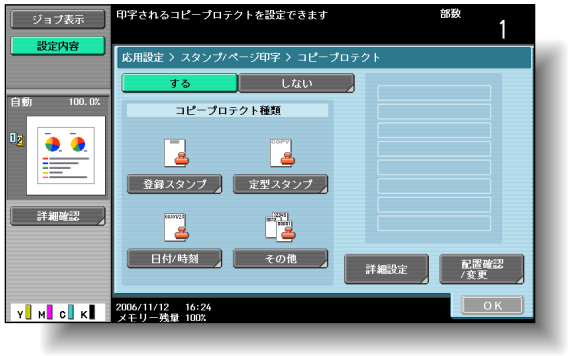
参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

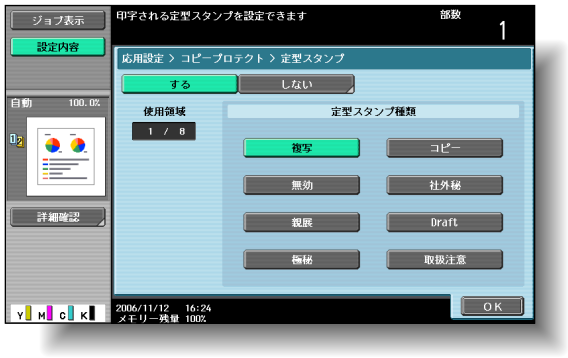
ひとこと

全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。

4 コピープロテクト種類を選択します。



❍［登録スタンプ］または［定型スタンプ］を押すと、スタンプキーの画面が表示されます。目的のキーを選択して［OK］を押します。



❍［日付 / 時刻］を押すとコピープロテクトの日付 / 時刻画面が表示されます。「日付種類」と「時刻種類」を選択して［OK］を押します。



ひとこと

コピープロテクト機能を解除するときは［しない］を押します。

詳しく説明します

- 登録スタンプには、Copy Protection Utility で登録したスタンプが表示されます。スタンプの登録については、Copy Protection Utility ユーザーズガイドをごらんください。
- 選択したコピープロテクトは中央に配列順が表示され、8 行分まで組合わせて使用できます。
- 登録スタンプまたは定型スタンプでの複数選択はできません。
- コピープロテクトの日付や時刻は、読込み時のものが印字されます。

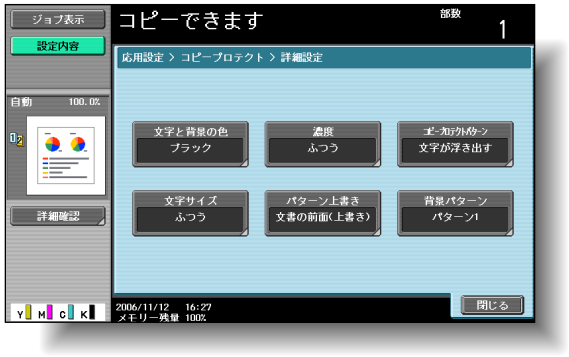
❍［その他］を押すと、その他のスタンプの設定画面が表示されます。目的のキーを選択して［OK］を押します。



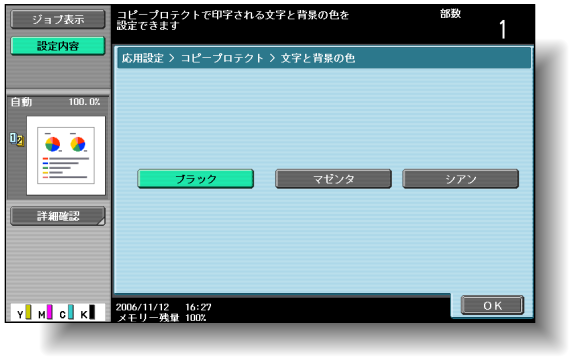
5 ［詳細設定］を押します。

詳細設定画面が表示されます。

6 目的のキーを押して、各設定画面で設定値を変更し［閉じる］を押します。



＜文字と背景の色画面＞



ひとこと

コピープロテクト種類の各設定画面で、［しない］を押すと各画面での設定のみが解除されます。

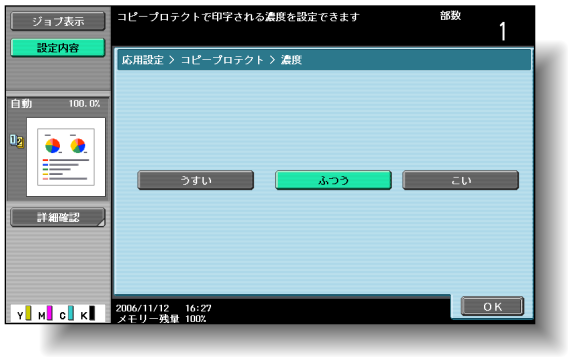
詳しく説明します

・「ジョブ番号」の［する］を押すと、コピーのジョブ番号が印刷されます。
・「シリアル番号」の［する］を押すと、本機のシリアル番号が印刷されます。シリアル番号の設定については、サービス実施店にお問い合わせください。
・「部数管理番号」の［する］を押すと、コピーの部数管理番号が印刷されます。部数管理番号は 1 ～ 99999999 の範囲で設定します。

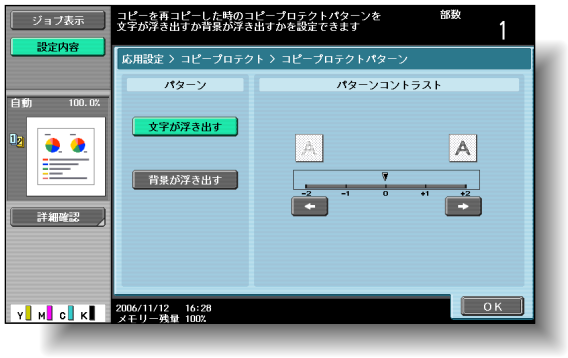
ひとこと

出荷時設定では、以下のように選択されています。
・［文字と背景の色］：ブラック、［濃度］：ふつう、［コピープロテクトパターン］：文字が浮き出す、［文字サイズ］：ふつう、［パターン上書き］：文書の前面（上書き）、［背景パターン］：パターン 1
・コピープロテクトパターン画面のパターンコントラスト設定は、-2 ～ +2 の範囲を 1 ステップで設定します。

＜濃度画面＞



＜コピープロテクトパターン画面＞



＜文字サイズ画面＞



＜パターン上書き画面＞



＜背景パターン画面＞



7 ［配置確認 / 変更］を押します。

配置確認 / 変更画面が表示されます。

8 文字の角度を選択し、［OK］を押します。

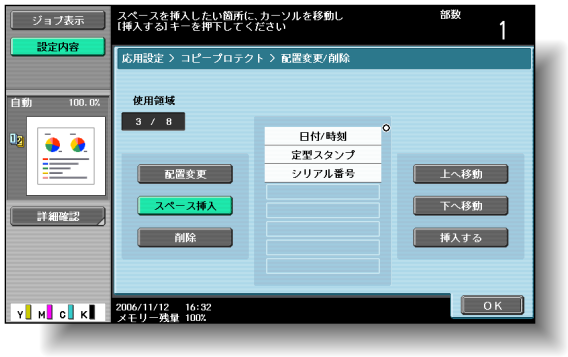


❍ 必要に応じて、配置確認 / 変更画面で［配置変更 / 削除］を押し、配置順などを設定します。

＜配置変更画面＞



＜スペース挿入画面＞



ひとこと

出荷時設定では「0 度」に設定されています。

詳しく説明します

選択されているコピープロテクトが 4 行分までの場合に、角度の変更ができます。

詳しく説明します

・配置順を変更する場合は、［配置変更］を押し、目的のコピープロテクトを選択して、［上へ移動］または［下へ移動］を押します。
・コピープロテクトにスペースを入れる場合は、［スペース挿入］を選択します。設定したコピープロテクト種類の横に表示された○を［上へ移動］または［下へ移動］で移動させ、［挿入する］を押します。
・コピープロテクトを削除する場合は、［削除］を押して目的のコピープロテクトを押します。

＜削除画面＞



9 ［OK］を押し、［閉じる］を押します。

10 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

11 テンキーでコピー部数を入力します。

12 【スタート】を押します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

ひとこと

印刷カラーが単色カラーに設定されている状態で、印刷カラーとコピープロテクトのカラー設定が異なる場合、セールスカウンターは 2 色でカウントされます。
印刷カラーが 2 色カラーに設定されている状態で、2 色目の色とコピープロテクトの文字の色が異なる場合、セールスカウンターはフルカラーでカウントされます。

7.20.5　繰り返しスタンプを印字するには（繰り返しスタンプ）

1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［スタンプ / ページ印字］を押します。



スタンプ / ページ印字画面が表示されます。

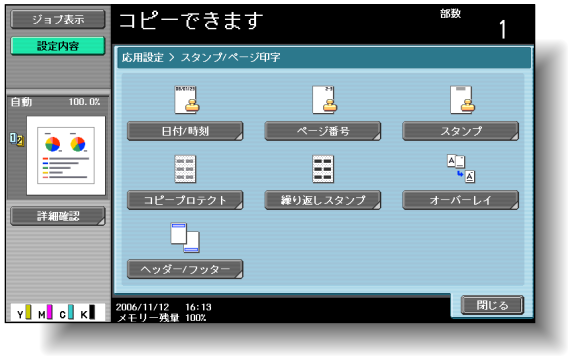
参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

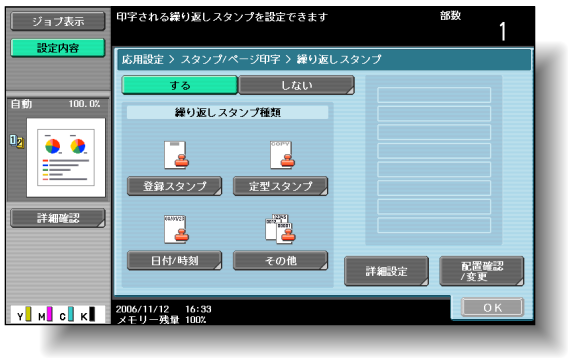
全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。

3 ［繰り返しスタンプ］を押します。

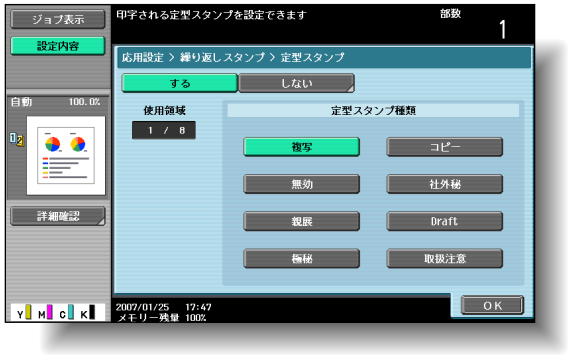


繰り返しスタンプ画面が表示されます。

4 繰り返しスタンプ種類を選択します。



❍ ［登録スタンプ］または［定型スタンプ］を押すと、スタンプキーの画面が表示されます。目的のキーを選択して［OK］を押します。



ひとこと

繰り返しスタンプ機能を解除するときは、［しない］を押します。

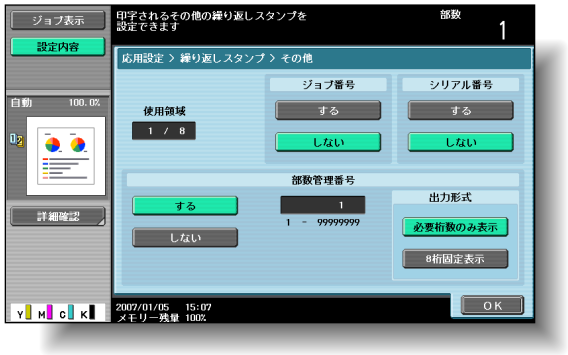
詳しく説明します

- 登録スタンプには、Copy Protection Utility で登録したスタンプが表示されます。スタンプの登録については、Copy Protection Utility ユーザーズガイドをごらんください。
- 選択した繰り返しスタンプは中央に配列順が表示され、8 行分まで組合わせて使用できます。
- 登録スタンプまたは定型スタンプでの複数選択はできません。
- 繰り返し印刷の日付や時刻は、読込み時のものが印字されます。

❍［日付 / 時刻］を押すと繰り返しスタンプの日付 / 時刻画面が表示されます。「日付種類」と「時刻種類」を選択して［OK］を押します。



❍［その他］を押すと、その他のスタンプの設定画面が表示されます。目的のキーを選択して［OK］を押します。



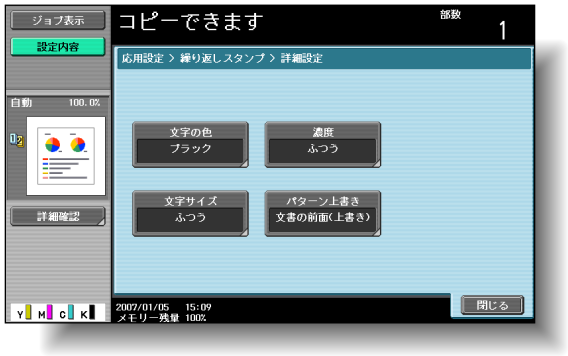
5

［詳細設定］を押します。

詳細設定画面が表示されます。

6

目的のキーを押して、各設定画面で設定値を変更し［閉じる］を押します。



ひとこと

繰り返しスタンプの各設定画面で、［しない］を押すと各画面での設定のみが解除されます。

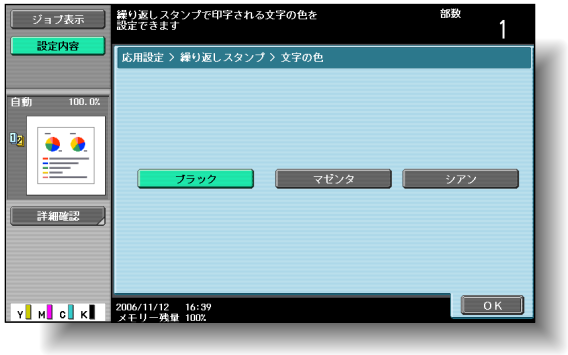
詳しく説明します

・「ジョブ番号」の［する］を押すと、コピーのジョブ番号が印刷されます。
・「シリアル番号」の［する］を押すと、本機のシリアル番号が印刷されます。シリアル番号の設定については、サービス実施店にお問い合わせください。
・「部数管理番号」の［する］を押すと、コピーの部数管理番号が印刷されます。部数管理番号は 1 ～ 99999999 の範囲で設定します。

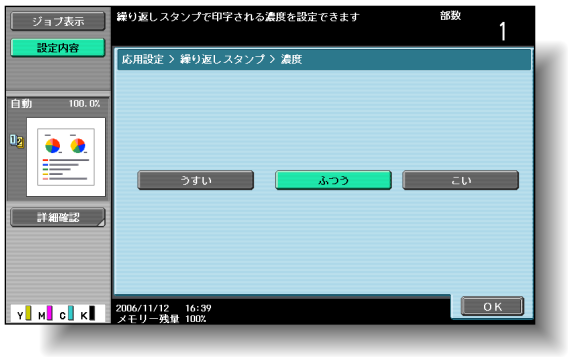
詳しく説明します

出荷時設定では、以下のように選択されています。
［文字の色］：ブラック、［濃度］：ふつう、［文字サイズ］：ふつう、［パターン上書き］：文書の前面（上書き）

＜文字の色画面＞



＜濃度画面＞



＜文字サイズ画面＞



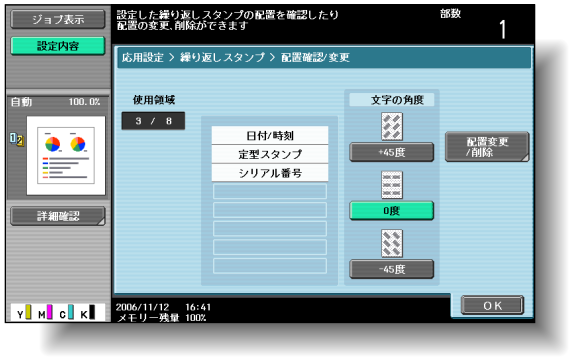
＜パターン上書き画面＞



7 ［配置確認 / 変更］を押します。

配置確認 / 変更画面が表示されます。

8 文字の角度を選択し、[OK] を押します。

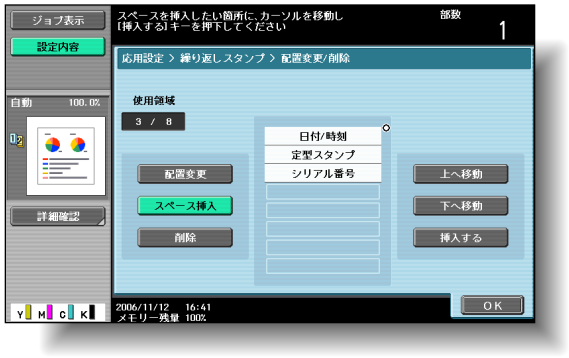


❍ 必要に応じて、配置確認 / 変更画面で [配置変更 / 削除] を押し、配置順などを設定します。

＜配置変更画面＞



＜スペース挿入画面＞



＜削除画面＞



9 [OK] を押し、[閉じる] を押します。

ひとこと

出荷時設定では「0 度」に設定されています。

詳しく説明します

- 選択されている繰り返しスタンプが 4 行分までの場合に、角度の変更ができます。
- 配置順を変更する場合は、[配置変更] を押し、目的の繰り返しスタンプを選択して、[上へ移動] または [下へ移動] を押します。
- 繰り返しスタンプにスペースを入れる場合は、[スペース挿入] を選択します。設定した繰り返しスタンプ種類の横に表示された○を [上へ移動] または [下へ移動] で移動させ、[挿入する] を押します。
- 繰り返しスタンプを削除する場合は、[削除] を押して目的の繰り返しスタンプを押します。

10 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

11 テンキーでコピー部数を入力します。

12 【スタート】を押します。

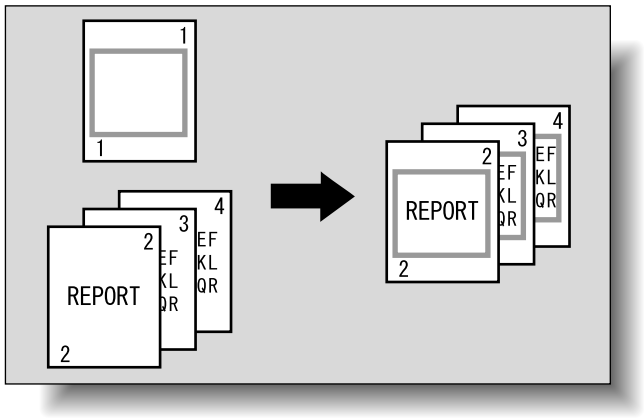
ひとこと

原稿がモノカラーで、繰り返しスタンプのカラーを［マゼンタ］または［シアン］に設定した場合、セールスカウンターは 2 色でカウントされます。原稿がブラック以外のモノカラーで、繰り返しスタンプのカラーを［ブラック］に設定した場合も同様です。

7.20.6　最初に読込んだ画像を、他の全ての画像と重ね合わせてコピーする（オーバーレイ）

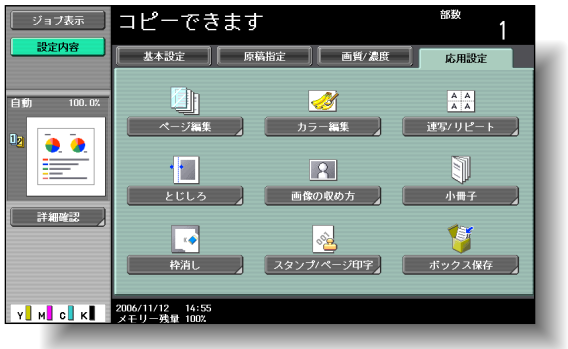
1 枚目に読込んだ原稿の画像を、2 枚目以降の原稿と重ね合わせてコピーします。

また、読込んだ原稿を登録オーバーレイとして保存しておき、あとで呼出して使用することもできます。



1 重ね合わせたい原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［スタンプ / ページ印字］を押します。

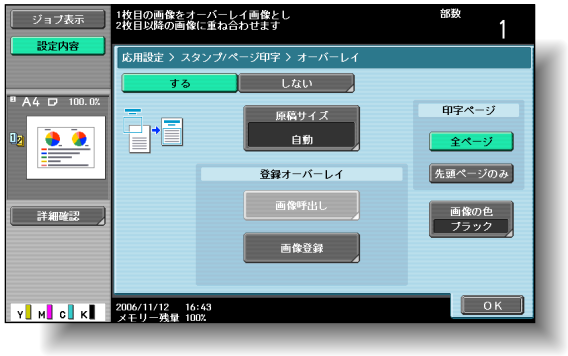


スタンプ / ページ印字画面が表示されます。

3 ［オーバーレイ］を押します。

オーバーレイ画面が表示されます。

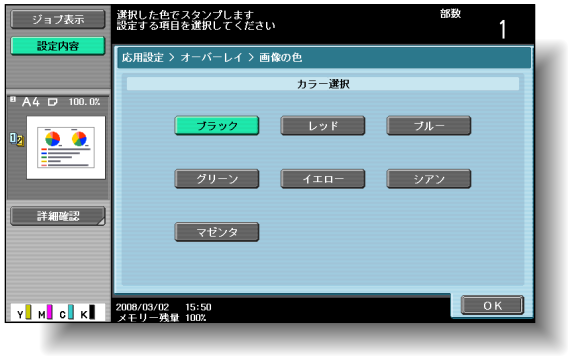
4 「印字ページ」で印字するページを選択します。



5 ［画像の色］を押します。

画像の色画面が表示されます。

6 カラーを選択し、［OK］を押します。



7 ［原稿サイズ］を確認し、［OK］を押します。

- 原稿サイズが自動検出されなかったり、原稿サイズを指定する場合は、［原稿サイズ］を押し、目的の画面で原稿サイズを指定します。

＜原稿サイズ画面＞



ひとこと

オーバーレイ機能を解除するときは、［しない］を押します。

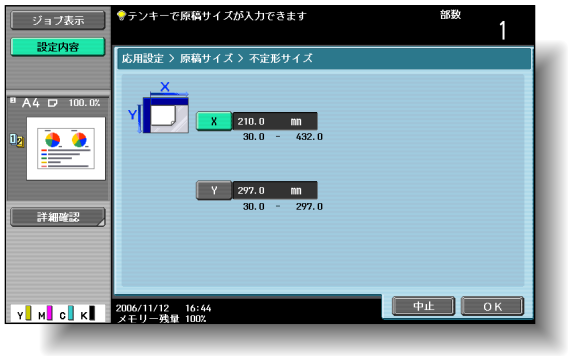
詳しく説明します

「印字ページ」で［先頭ページのみ］を選択した場合、コピーされる先頭ページのみにオーバーレイ画像が印字されます。

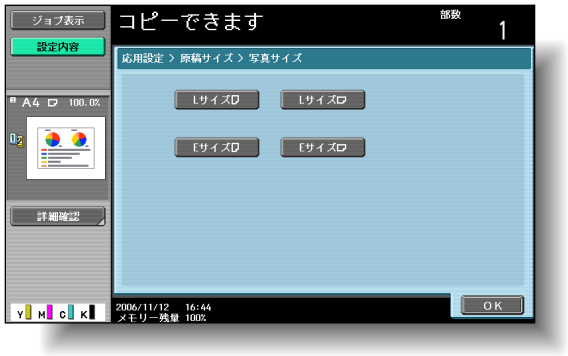
ひとこと

出荷時設定では「ブラック」に設定されています。

＜不定形サイズ画面＞



＜写真サイズ画面＞



8 ［閉じる］を押します。

9 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

10 テンキーでコピー部数を入力します。

11 【スタート】を押します。

7.20.7　読込んだ画像を、登録オーバーレイとして保存する（オーバーレイ）

繰り返しオーバーレイとして使用する画像は、登録オーバーレイとして保存しておくことにより、一覧から呼出すだけで使用できるようになります。

1 オーバーレイ画面で、「登録オーバーレイ」の［画像登録］を押します。

画像登録画面が表示されます。

ひとこと

［中止］を押すと設定は変更されません。

2 ［新規登録］を押します。



画像名称登録画面が表示されます。

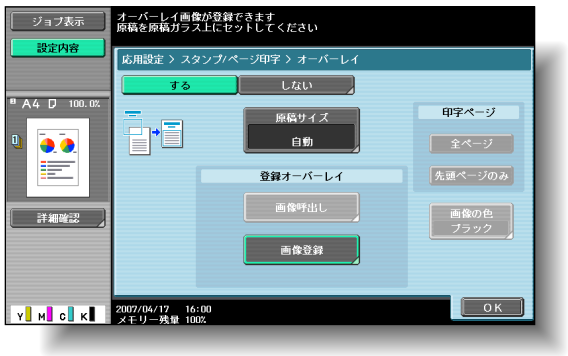
- ❍ 既存の登録オーバーレイを選択して［上書き］を押すと、登録された内容を新しく登録する画像で上書きします。
- ❍ 既存の登録オーバーレイを選択して［削除］を押すと、登録された内容を削除します。



3 画像名称を入力して、［OK］を押します。



4 ［OK］を押し、［閉じる］を押します。



詳しく説明します

管理者設定の［ユーザー操作禁止設定］により、管理者の許可なく登録オーバーレイを変更することを禁止できます。

ひとこと

登録オーバーレイのキーを押すと、オーバーレイの登録日が表示されます。

詳しく説明します

画面に表示されるキーボードを押して入力します。文字の入力のしかたは、「文字を入力するには」（p. 12-2）をごらんください。

5 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

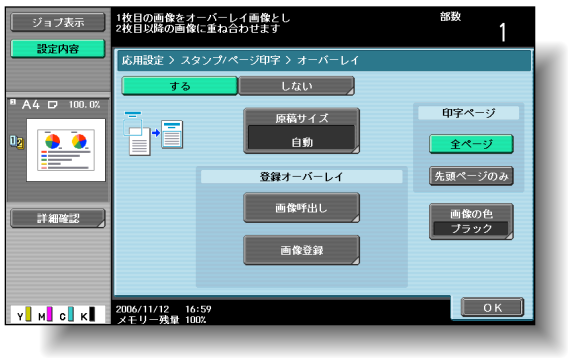
6 【スタート】を押します。

7 原稿が読込まれ、登録オーバーレイとして保存されます。



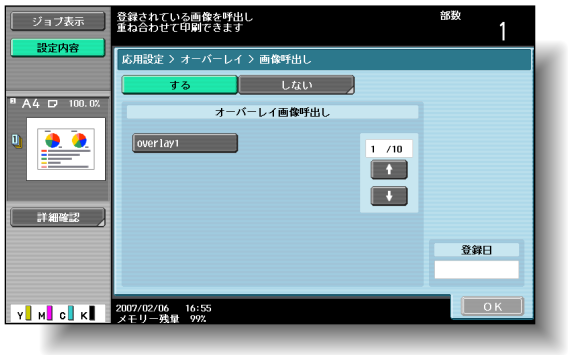
7.20.8　登録オーバーレイを使用する（オーバーレイ）

1 オーバーレイ画面で［画像呼出し］を押します。



オーバーレイ画像呼出し画面が表示されます。

2 使用する登録オーバーレイのキーを押し、［OK］を押します。



3 ［OK］を押し、［閉じる］を押します。

4 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

ひとこと

・登録オーバーレイ機能を解除するときは、［しない］を押します。
・登録オーバーレイのキーを押すと、オーバーレイの登録日が表示されます。

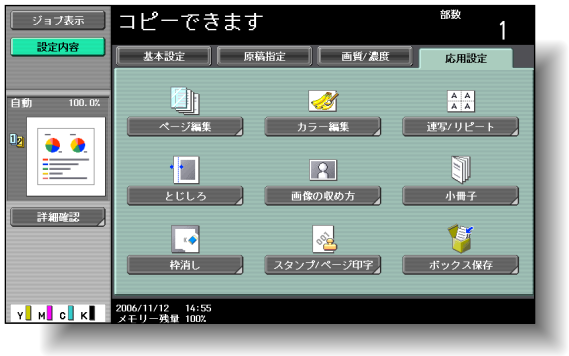
5 テンキーでコピー部数を入力します。

6 【スタート】を押します。

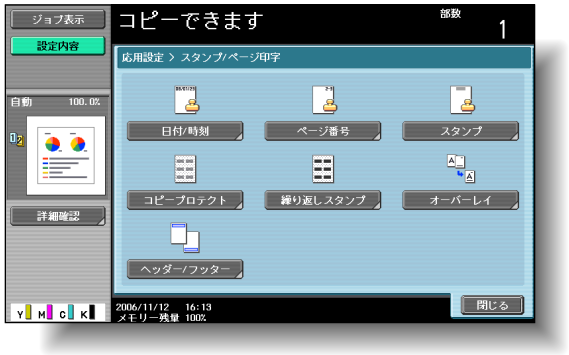
7.20.9　ヘッダー / フッターを印字するには（ヘッダー / フッター）

1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［スタンプ / ページ印字］を押します。



3 ［ヘッダー / フッター］を押します。



ヘッダー / フッター画面が表示されます。

詳しく説明します

ヘッダー / フッターを使用するには、あらかじめ管理者設定でヘッダー / フッターを登録しておく必要があります。
登録の方法については、「ヘッダー / フッターを設定する」（p. 11-62）をごらんください。

参照

原稿のセット方法については、「原稿をセットする」（p. 2-6）をごらんください。

ひとこと

・全ての応用設定を解除する場合は、【リセット】を押します。初期設定から変更された設定は全て解除されます。
・管理者設定でヘッダー / フッターが登録されていない場合、［ヘッダー / フッター］は表示されません。

4 「ヘッダー / フッター呼出し」から使用するヘッダー / フッターを押し、［OK］を押します。



❍ ヘッダー / フッターの設定を確認または一時的に変更する場合は、［確認 / 一時変更］を押します。



5 ［OK］を押し、［閉じる］を押します。

6 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

7 テンキーでコピー部数を入力します。

8 【スタート】を押します。

ひとこと

印刷カラーとヘッダー / フッターのカラー設定が異なる場合、セールスカウンターは 2 色でカウントされます。
印刷カラーが 2 色カラーに設定されている状態で、2 色目の色とスタンプの文字の色が異なる場合、セールスカウンターはフルカラーでカウントされます。

7.21　読込んだ原稿をボックスに保存する（ボックス保存）

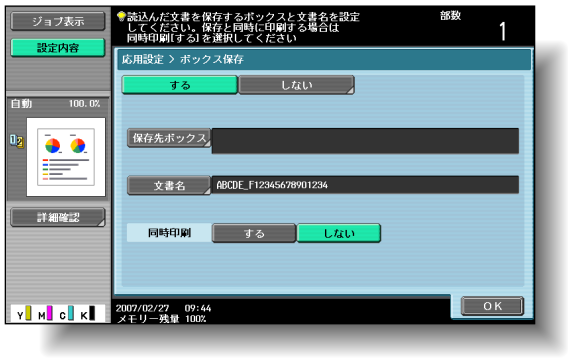
読込んだ原稿をボックスに保存できます。ボックスに保存された文書は、必要に応じて印刷できます。

1 原稿をセットします。

2 ［応用設定］を押し、［ボックス保存］を押します。



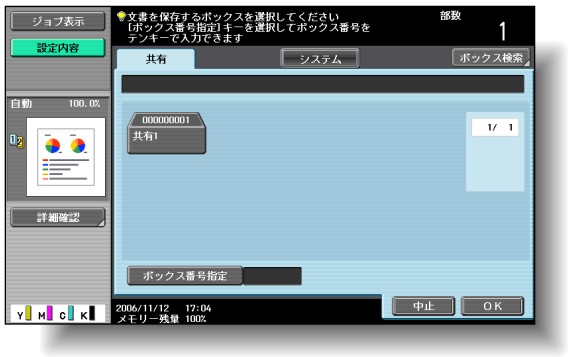
3 ［保存先ボックス］を押します。



ボックスの選択画面が表示されます。

4 保存するボックスを選択します。

❍ 保存するボックスのタブを押して選択し、ボックスキーを押して指定します。



参照

ボックス機能については、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。

ひとこと

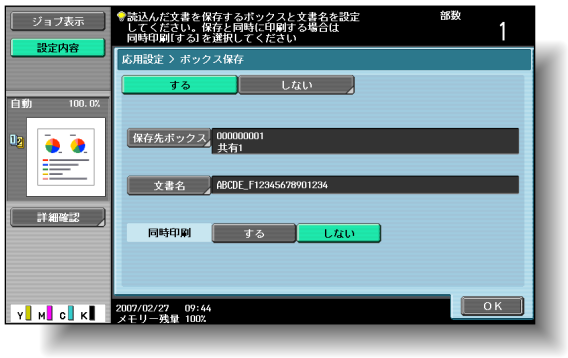
・［ボックス番号］を押してボックス番号を入力しても指定できます。
・ボックスにパスワードが設定されている場合でも、保存するときにパスワードの入力は必要ありません。

❍［ボックス検索］タブを押すと、ボックス検索画面が表示されます。
ボックス名の先頭文字による検索ができます。
かな（［あ］～［らわ］）または英字（［ABC］～［etc］）を押すと、その文字から始まるボックスが一覧表示されます。
この画面からボックスを選択できます。



5 ［OK］を押します。

6 保存する文書の名称を確認します。自動的につけられる名称を変更する場合は、［文書名］を押します。



7 名称を入力したら［OK］を押します。



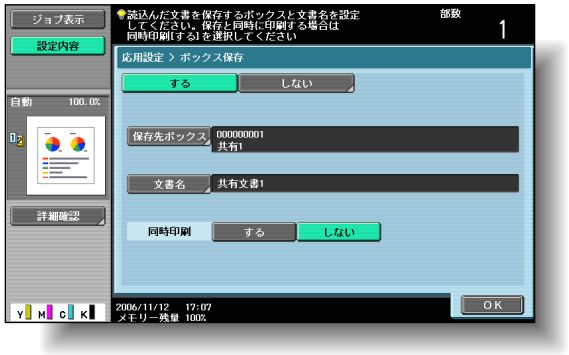
詳しく説明します

先頭文字のキーは［かなに切替］［英字に切替］で切換えて表示します。

参照

文字の入力のしかたは、「文字を入力するには」（p. 12-2）をごらんください。

8 保存するときにコピーも出力するかしないかを選択します。コピーを出力するときは、「同時印刷」で［する］を選択します。



9 ［OK］を押します。

応用設定画面に戻ります。

10 必要に応じて、そのほかのコピー条件を設定します。

11 【スタート】を押します。

「同時印刷」を［する］と選択したときは、読込まれた原稿がコピーされ、文書データが指定したボックスに保存されます。

「同時印刷」を［しない］と選択したときは、読込まれた原稿のデータが指定したボックスに保存されます。

ひとこと

ボックス保存機能を解除するときは、［しない］を押します。

ひとこと

ボックスに保存した文書の使用については、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。

第８章
トナーカートリッジ交換／ステープルカートリッジ交換／パンチくず処理

トナーカートリッジの交換やステープルカートリッジの交換、処理などについて説明します。

8.1　トナーカートリッジを交換する 8-2
8.2　廃棄トナーボックスを交換する 8-6
8.3　イメージングユニットを交換する 8-9
8.4　ステープルカートリッジを交換する 8-16
8.5　パンチくずを処理する 8-25

8.1　トナーカートリッジを交換する

トナーが残り少なくなると、下図のような事前通知メッセージが表示されます。

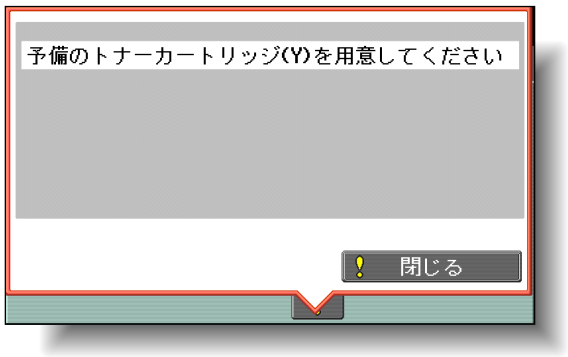


トナーがなくなると、下図のようなトナー交換処理メッセージが表示されます。

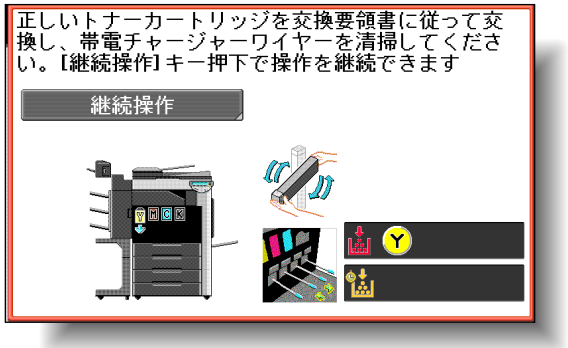


＜拡大表示機能時の表示＞

トナーが残り少なくなると、下図が表示されます。



トナーがなくなると、下図が表示されます。



ひとこと

メッセージが表示されたら、保守契約にしたがってトナーカートリッジの交換の準備を行ってください。

ひとこと

・メッセージ表示後に本機は停止します。保守契約にしたがってトナーカートリッジの交換を行ってください。また表示された色以外のトナーカートリッジの交換をしないでください。

・ブラック以外のトナーがなくなった場合は、ブラックでの強制出力ができます。
［継続操作］を押して、出力するジョブを選択してください。

参照

トナーカートリッジの交換のしかたについては、「トナーカートリッジ交換のしかた」（p. 8-3）をごらんください。

⚠注意

トナーおよびトナーカートリッジの取扱い
トナーまたはトナーカートリッジを火中に投じないでください。
トナーが飛び散り、やけどのおそれがあります。

⚠注意

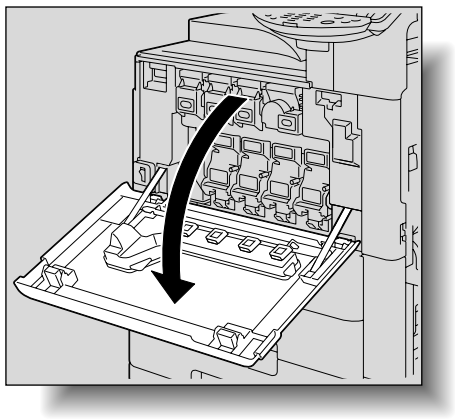
トナーで本体内や衣服または手などを汚さないように注意して取扱ってください。
トナーで手を汚してしまった場合は、水や中性洗剤などを使って洗い流してください。
目に入ってしまった場合は、すぐ水で洗い流し、医師にご相談ください。

8.1.1　トナーカートリッジ交換のしかた

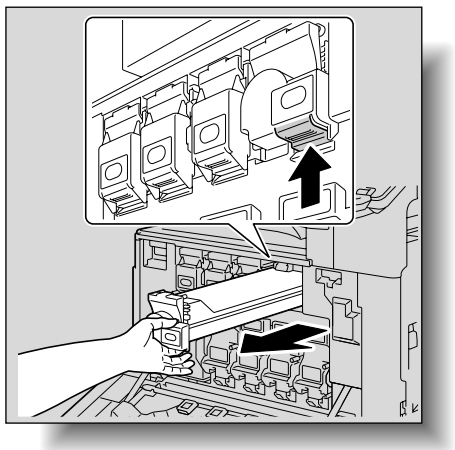
トナーカートリッジの交換のしかたは、全ての色（イエロー Y、マゼンタ M、シアン C、ブラック K）とも同じ交換手順です。

例：ブラックトナーカートリッジの交換のしかた

1 前ドアを開きます。



2 使い終わったトナーカートリッジのロックヅメを押上げ、ロックを解除します。トナーカートリッジが止まる位置まで手前に引いてから上に持上げて引抜きます。



ひとこと

交換するトナーカートリッジの色と交換用に準備したトナーカートリッジの色が同じか確認します。

必ず守ってください

・他の色のトナーカートリッジは取付け位置が異なりますのでご注意ください。
・ブラックのトナーカートリッジと他の色のトナーカートリッジでは形が異なります。

必ず守ってください

使用済みトナーカートリッジはサービス実施店が回収しますので、捨てずに個装箱に入れて保管しておいてください。

3

新しいトナーカートリッジを用意します。

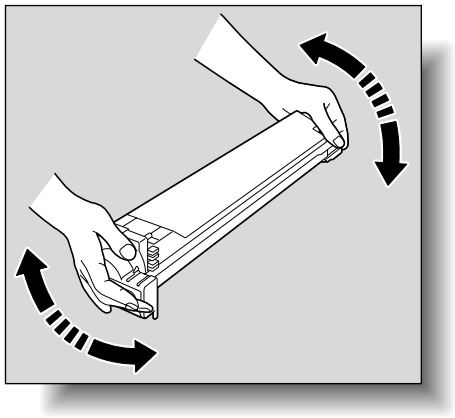
❍ トナーカートリッジの色と本体側のラベルの色が同じであることを確認してください。

必ず守ってください

他の色のトナーカートリッジは取付けることができないようになっています。
無理に取付けようとすると故障の原因になります。

4

新しいトナーカートリッジを個装箱から取出して、上下に 5 ～ 10 回程度よく振ります。

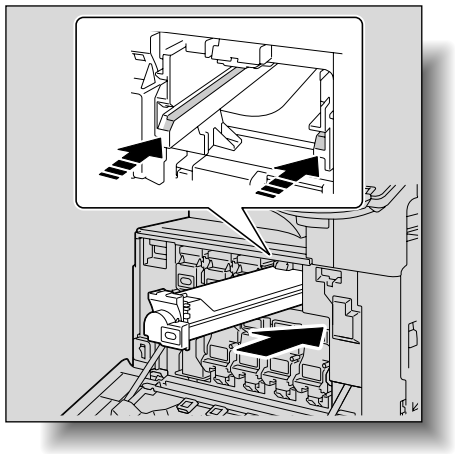


必ず守ってください

トナーカートリッジ内でトナーが固まっていることがありますので、必ずこの動作を行って、トナーをよく砕いてからトナーカートリッジの交換をしてください。

5

トナーカートリッジを本体側の溝に合わせて挿入し、ロックヅメがロックするまで差込みます。

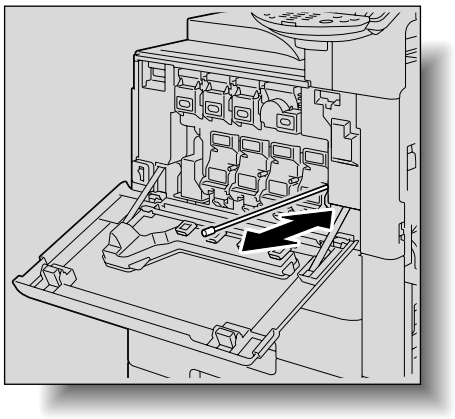


必ず守ってください

新しいトナーカートリッジを差込むときは、“カチッ”と音がするまで確実に差込んでください。

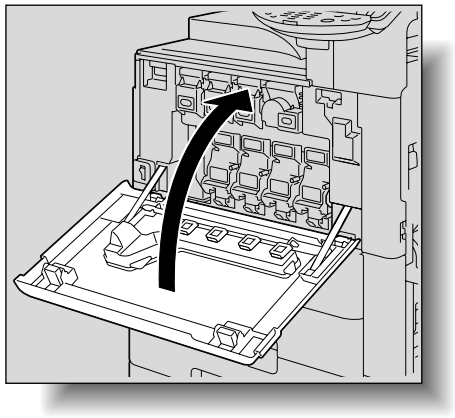
6

チャージャー清掃具を手前側に止まる位置までゆっくり引出します。
次に奥側に当たる位置までゆっくりと押込みます。
上記の操作を 3 回程度行います。



7

前ドアを閉じます。



必ず守ってください

トナーカートリッジを交換した場合は、必ず交換した色に合った帯電チャージャーワイヤーの清掃を行ってください。

8.2　廃棄トナーボックスを交換する

廃棄トナーボックスの交換時期が近づくと、タッチパネルに下図のメッセージが表示され、交換時期をお知らせします。（ユーザー交換の場合）

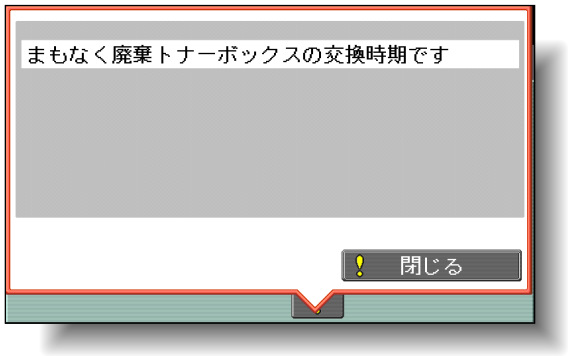


廃棄トナーボックスの交換時期になると、交換時期メッセージが表示され、本機は停止します。（ユーザー交換の場合）



＜拡大表示機能時の場合＞

交換時期が近づくと下図が表示されます。



交換時期になると下図が表示されます。



ひとこと

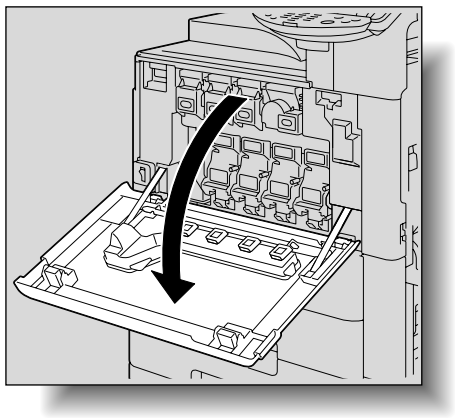
メッセージが表示されたら、保守契約にしたがって廃棄トナーボックスの交換の準備を行ってください。

詳しく説明します

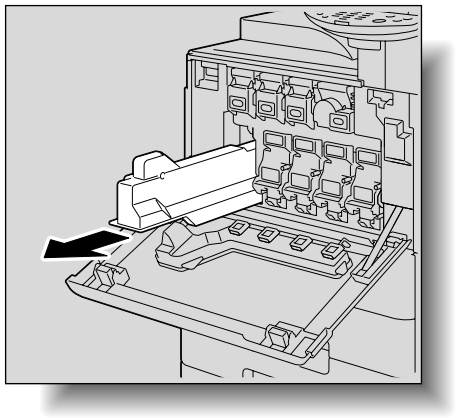
「まもなく廃棄トナーボックスの交換時期です」が表示されてから、「廃棄トナーボックスの交換時期です」が表示されるまでの印刷枚数は、印刷条件および各消耗品 / 交換部品によって異なります。

8.2.1　廃棄トナーボックス交換のしかた

1 前ドアを開きます。



2 廃棄トナーボックスを持上げて取外します。



必ず守ってください

取外した廃棄トナーボックスを傾けて放置しないでください。廃棄トナーがこぼれるおそれがあります。

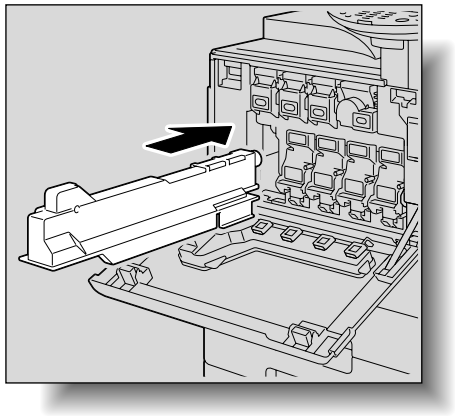
⚠注意

トナーまたは廃棄トナーボックスを火中に投じないでください。
トナーが飛散り、やけどのおそれがあります。

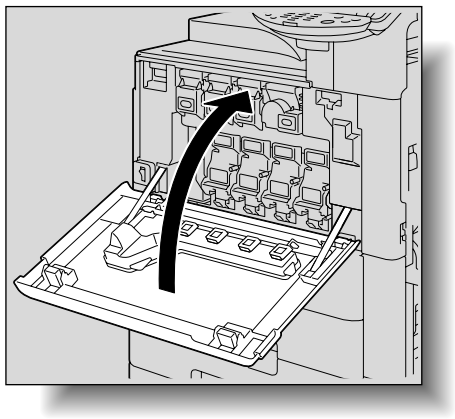
⚠注意

トナーで本体内や衣服または手などを汚さないように注意して取扱ってください。
トナーで手を汚してしまった場合は、水や中性洗剤などを使って洗い流してください。
目に入ってしまった場合は、すぐ水で洗い流し、医師にご相談ください。

3 新しい廃棄トナーボックスを取付けます。



4 前ドアを閉じます。

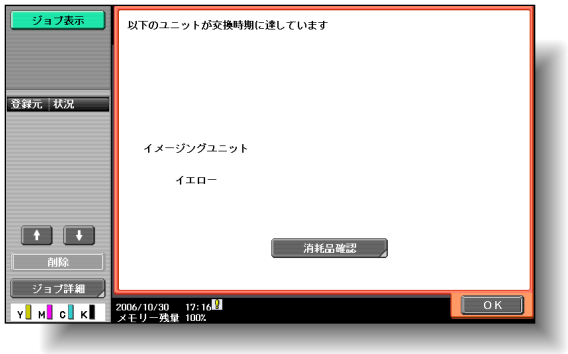


必ず守ってください

使用済みの廃棄トナーボックスはサービス実施店が回収しますので、捨てずに個装箱に入れて保管しておいてください。

8.3　イメージングユニットを交換する

イメージングユニットの交換時期が近づくと、下図のような事前通知メッセージが表示されます。（ユーザー交換の場合）

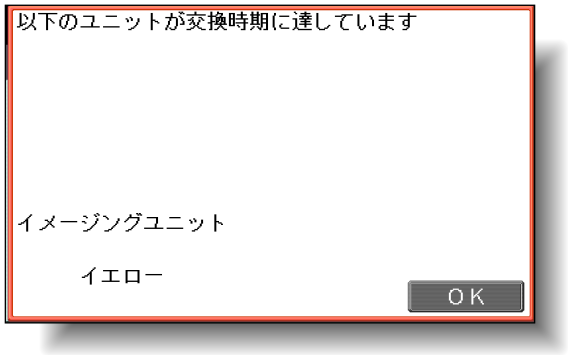


イメージングユニットの交換時期に達しますと、下図のような事前通知メッセージが表示されます。

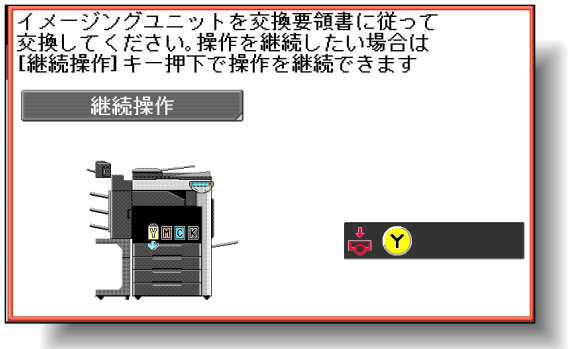


＜拡大表示機能時の表示＞

交換時期が近づくと下図が表示されます。



交換時期になると下図が表示されます。



ひとこと

メッセージが表示されたら、保守契約にしたがってイメージングユニットの交換の準備を行ってください。

ひとこと

・メッセージが表示されたら、保守契約にしたがってイメージングユニットの交換を行ってください
・ブラック以外のイメージングユニットが交換時期になった場合は、ブラックでの強制出力ができます。
［継続操作］を押して、出力するジョブを選択してください。

参照

イメージングユニットの交換のしかたについては、「イメージングユニット交換のしかた」（p. 8-10）をごらんください。

必ず守ってください

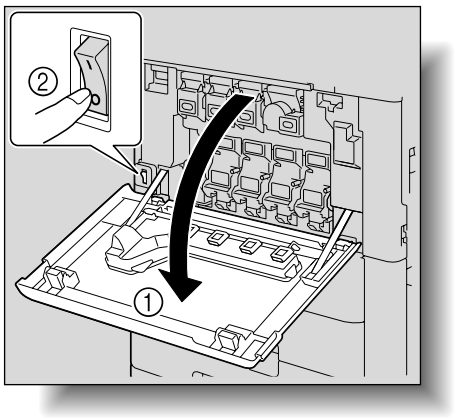
「交換時期に達しています」が表示されるまでは、イメージングユニットの交換をしないでください。また表示された色以外のイメージングユニットの交換をしないでください。

8.3.1　イメージングユニット交換のしかた

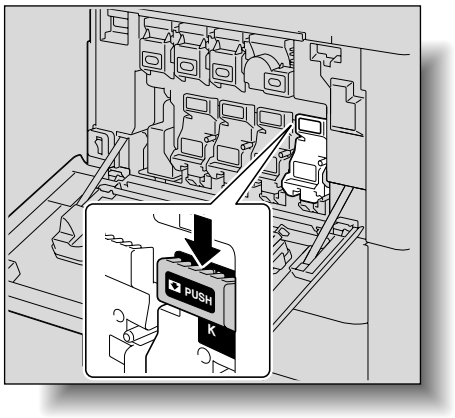
1 【副電源スイッチ】を押します。

タッチパネルの表示が消えたことを確認します。

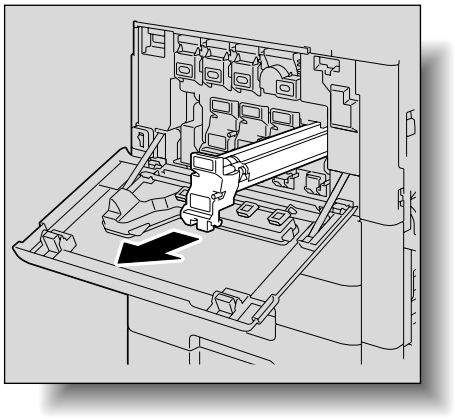
2 前ドアを開き、【主電源スイッチ】の【○】を押します。



3 交換するイメージングユニットのロック解除つまみを押下げ、ロックを解除します。



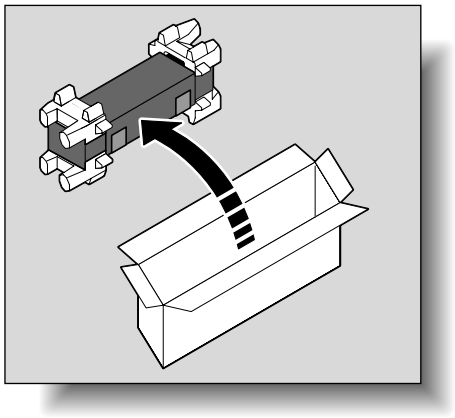
4 イメージングユニットを手前に引いて取外します。



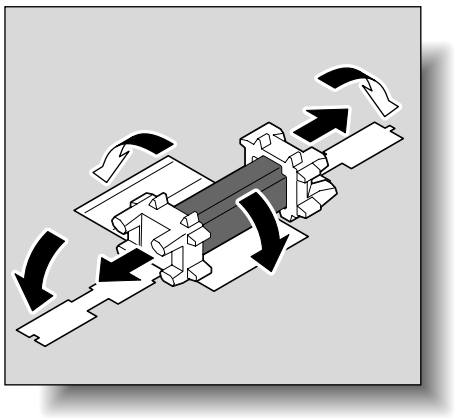
ひとこと

交換するイメージングユニットの色と交換用に準備したイメージングユニットの色が同じか確認します。

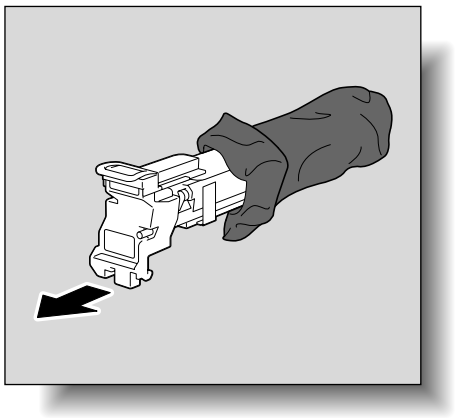
5 イメージングユニットを個装箱から取出します。



6 テープをはがし、梱包材を取外します。

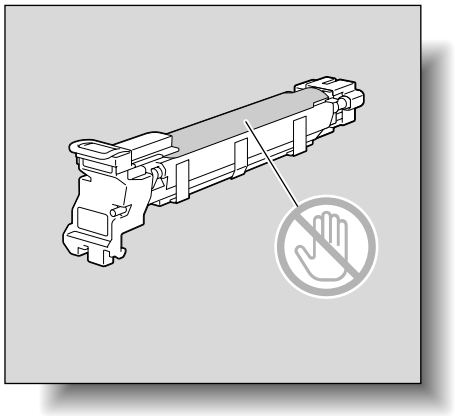


7 黒ビニール袋からイメージングユニットを取出します。



必ず守ってください

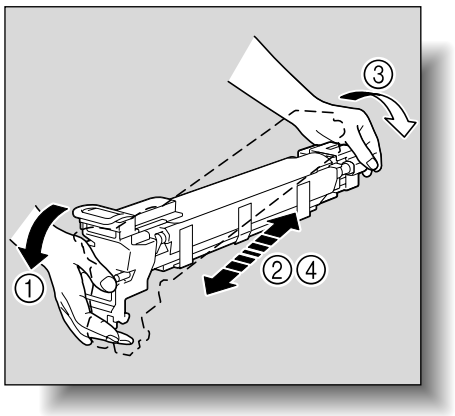
・イメージングユニットは光によるダメージを受けることがあります。取付ける直前まで黒ビニール袋から取出さないでください。
・イメージングユニットの上部を持たないでください。感光体に傷が付き、画像品質が低下するおそれがあります。



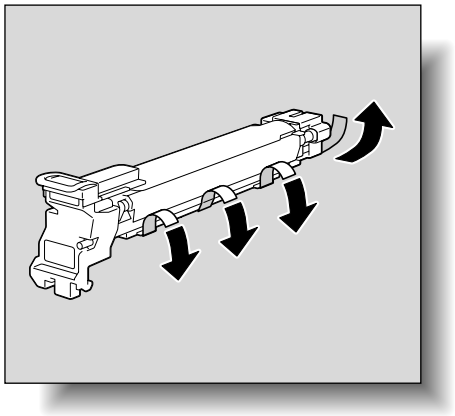
必ず守ってください

感光体には手を触れないでください。

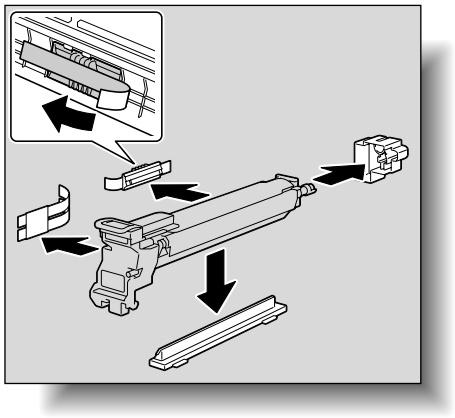
8 イメージングユニットを右に傾けて小さく 2 回、左に傾けて小さく 2 回振ります。



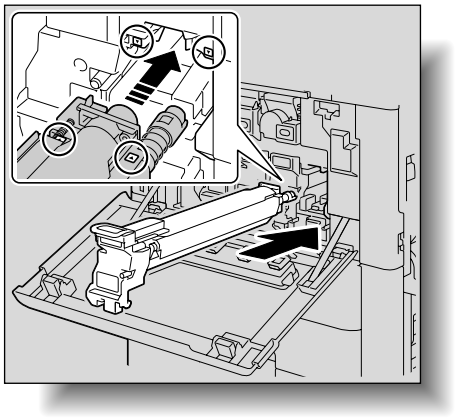
9 テープをはがします。



10 梱包材、固定材を取外します。



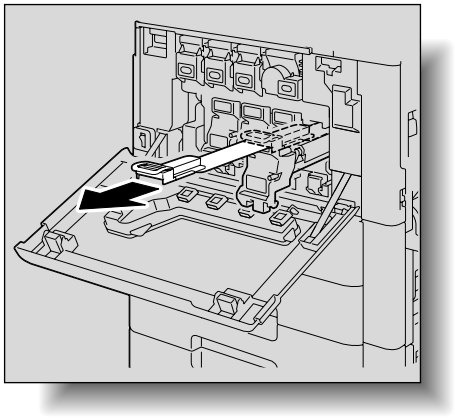
11 イメージングユニットの▲マークと本体の▼マークを合わせます。
イメージングユニットを本体に挿入します。



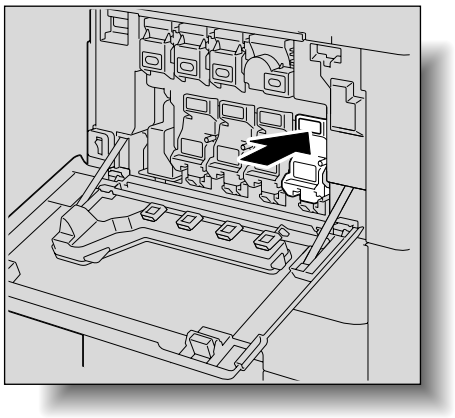
必ず守ってください

・イメージングユニットの色と本体挿入口のカラー表示ラベルの色が合っていることを確認してください。
・イメージングユニットを傾けた状態で、取付け部に挿入しないでください。
・イメージングユニットが確実に挿入されていることを確認してください。

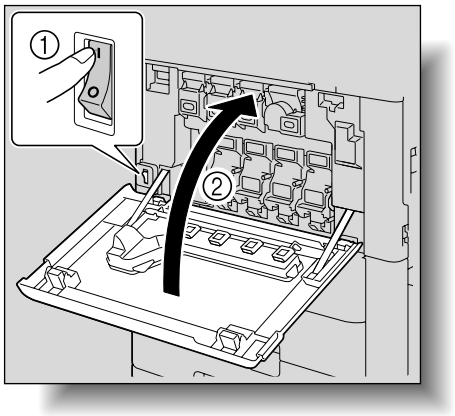
12 感光体保護シート取手を持上げてゆっくりと引抜きます。



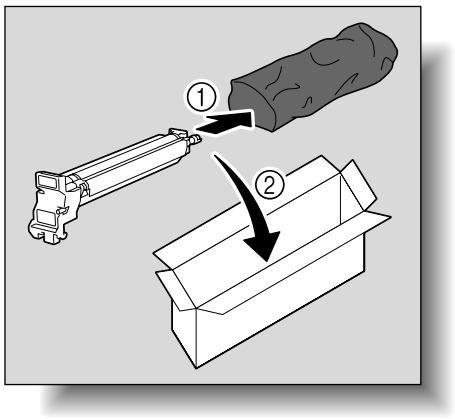
13 イメージングユニットを奥まで押込みます。



14 【主電源スイッチ】の【I】を押して、前ドアを閉じます。



15 交換したイメージングユニットを空になった黒ビニール袋に入れてから、個装箱に戻します。



⚠注意

トナーで本体内や衣服または手などを汚さないように注意して取扱ってください。
トナーで手を汚してしまった場合は、水や中性洗剤などを使って洗い流してください。
目に入ってしまった場合は、すぐ水で洗い流し、医師にご相談ください。

必ずお守りください

使用済みイメージングユニットはサービス実施店が回収しますので、捨てずに個装箱に入れて保管しておいてください。

16 階調補正を行います。

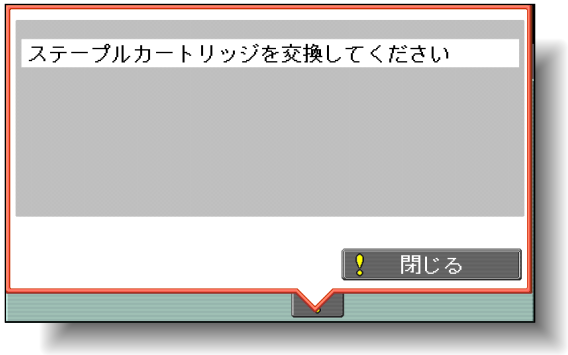
参照
階調補正のしかたについては、「階調補正」（p. 11-60）をごらんください。

8.4　ステープルカートリッジを交換する

ステープル針がなくなると、「ステープルカートリッジを交換してください」のメッセージが表示されます。
ステープルカートリッジを交換してください。



＜拡大表示機能時の表示＞



必ず守ってください

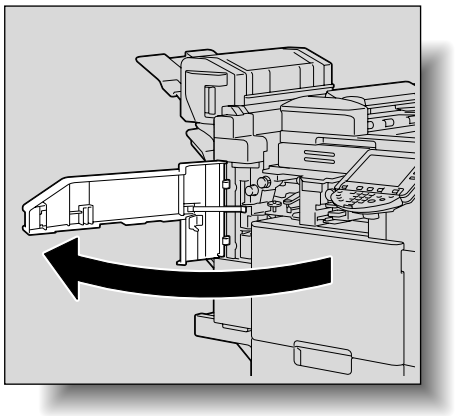
ステープルカートリッジの交換は、必ずメッセージが表示されたあとに行ってください。メッセージが表示される前にステープルカートリッジを取外すと故障の原因になります。

8.4.1　フィニッシャー FS-519 のステープルカートリッジ交換のしかた

必ず守ってください

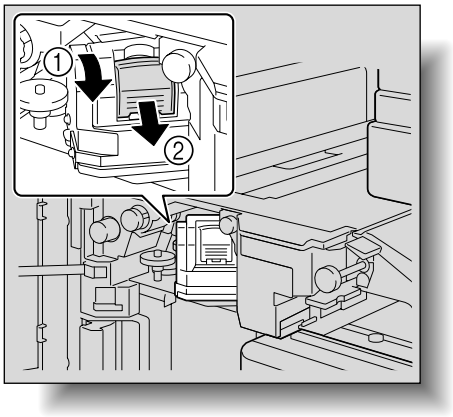
ステープルカートリッジの交換は、必ずメッセージが表示されたあとに行ってください。
メッセージが表示される前にステープルカートリッジを取外すと故障の原因になります。

1　前ドアを開きます。

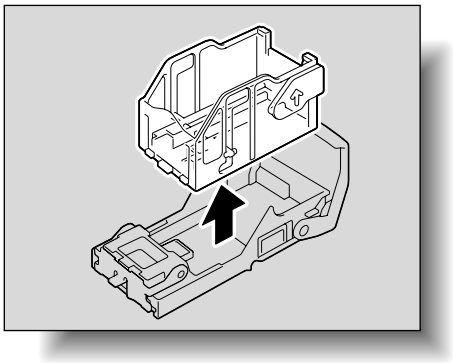


2 ステープルホルダーを取出します。

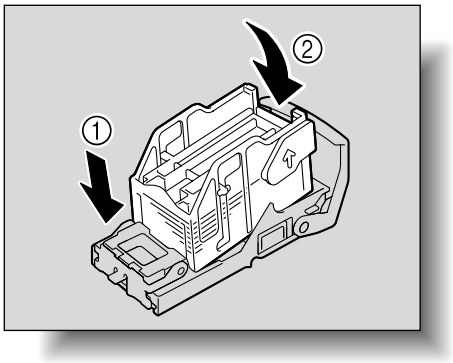
❍ ステープルホルダーを手前に引いて取出します。



3 ステープルホルダーから空になったカートリッジを取出します。



4 新しいカートリッジをステープルホルダーにセットします。



必ず守ってください

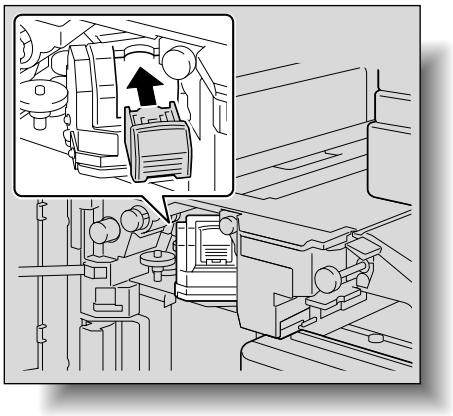
ステープルカートリッジの青色の部分以外には触れないでください。

必ず守ってください

残っている針は取除かないでください。取除くと交換後のステープルは空とじされステープルできません。

5

ステープルホルダーを取付け部のレールに沿わせて“カチッ”と音がするまで挿入します。



❍ ステープルホルダーが奥までしっかり固定されていることを確認してください。

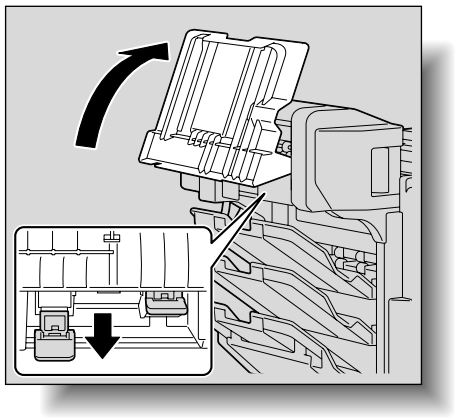
6

前ドアを閉じます。

8.4.2　中綴じ機のステープルカートリッジ交換のしかた

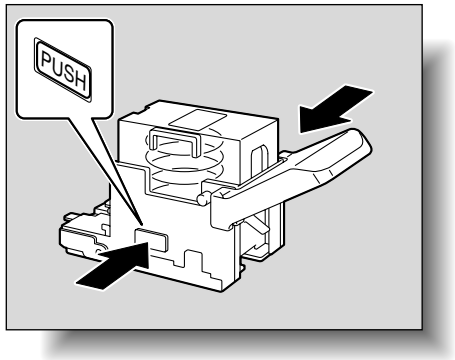
1

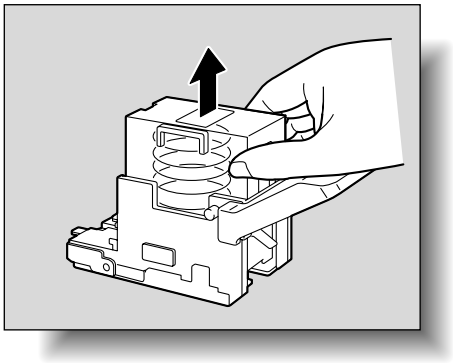
排紙トレイを持上げ、ステープルホルダーを押下げて取外します。



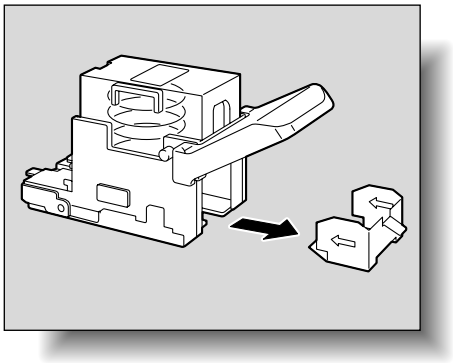
2

【PUSH】部分を押します。ステープルホルダーのロックが解除されます。

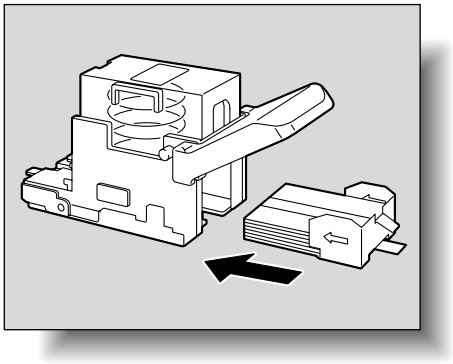


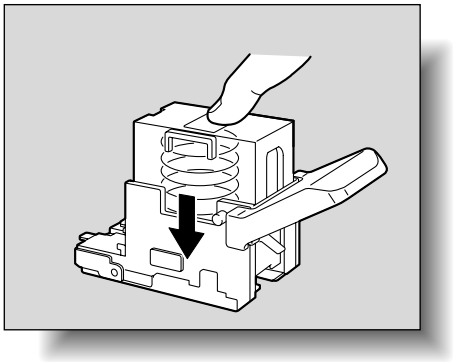


3 ステープルホルダーから空になったステープルカートリッジを引抜きます。

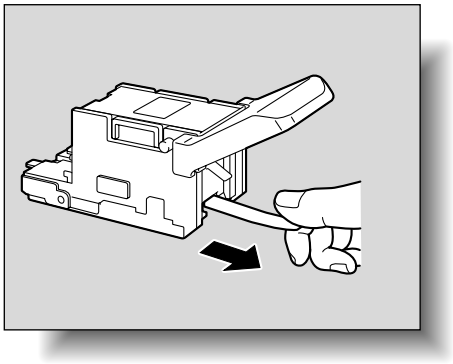


4 新しいステープルカートリッジをステープルホルダーにセットします。

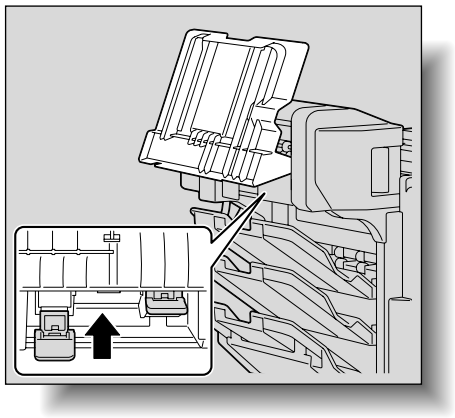




5 ストッパーシールをゆっくり引抜きます。

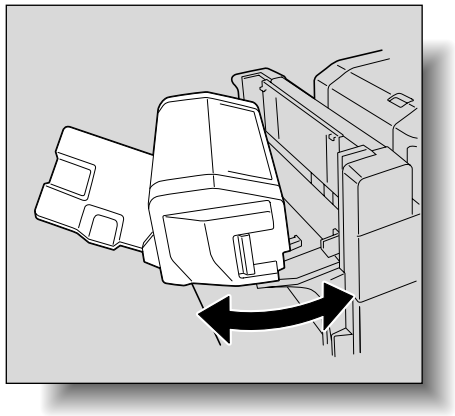


6 新しいステープルホルダーを差込んで“カチッ”と音がするまで押上げます。



7 排紙トレイを元の位置に戻します。

8 紙づまり処理ドアのつまみを引き、ドアを開閉します。

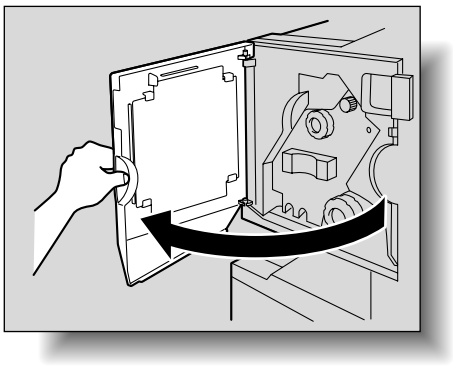


必ず守ってください

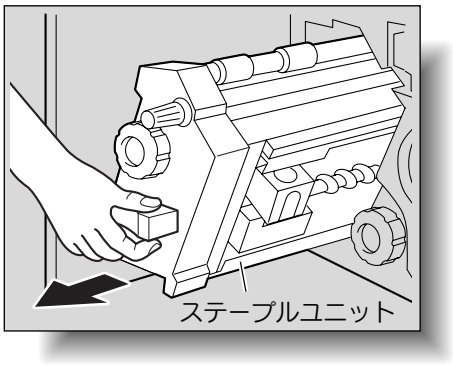
ステープルホルダーを取付けるときは、向きを間違えないように差込んでください。

8.4.3　フィニッシャー FS-609 のステープルカートリッジ交換のしかた

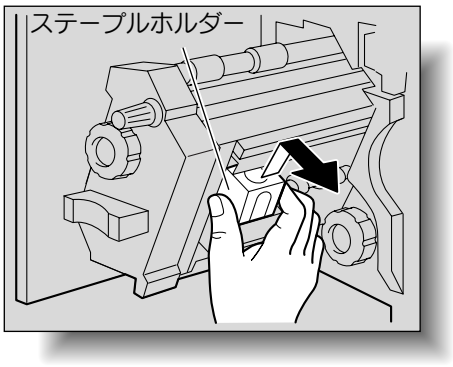
1 前ドアを開きます。



2 ステープルユニットが止まる位置までゆっくりと引出します。



3 ステープルホルダーの両側を持ち取外します。

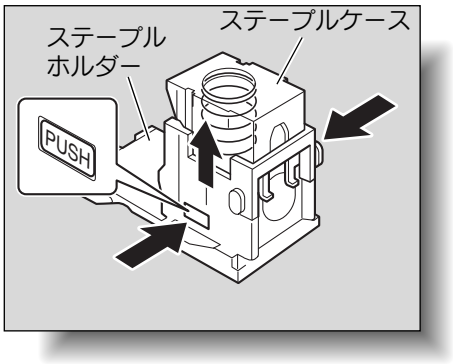


必ず守ってください

ステープルカートリッジの交換は、必ずメッセージが表示されたあとに行ってください。メッセージが表示される前に、ステープルカートリッジを取外すと故障の原因になります。

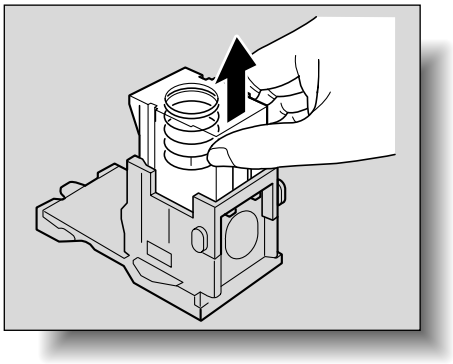
4

ステープルホルダーの【PUSH】部分を押します。
ステープルケースのロックが解除されます。



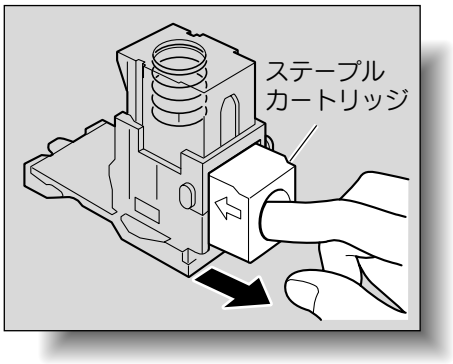
5

ステープルケースを矢印の方向に引上げます。



6

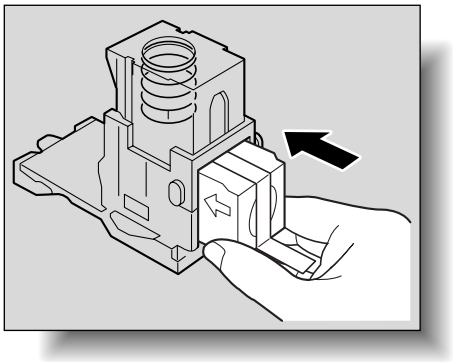
ステープルケース内に残ったステープルカートリッジを取出します。



7

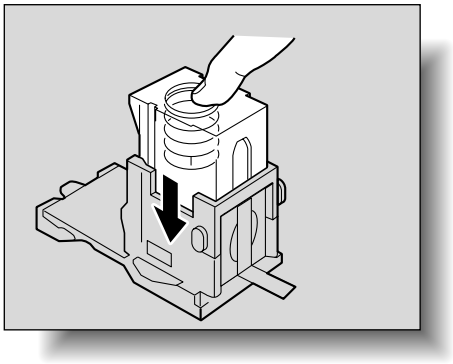
新しいステープルカートリッジをステープルホルダーにセットします。

❍ 奥まで確実に押込んでください。



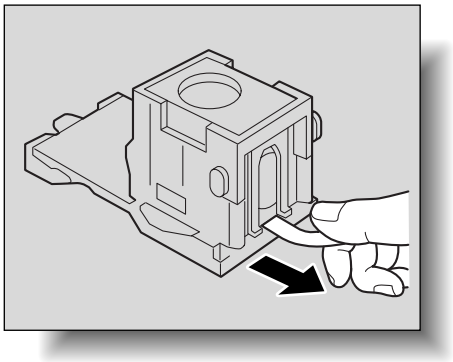
8

ステープルケースを矢印の方向に押下げます。

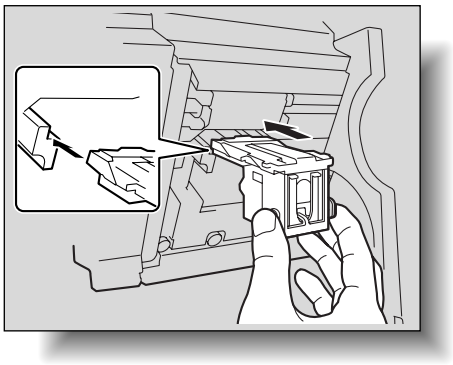


9

ステープルカートリッジのシールテープを引抜きます。

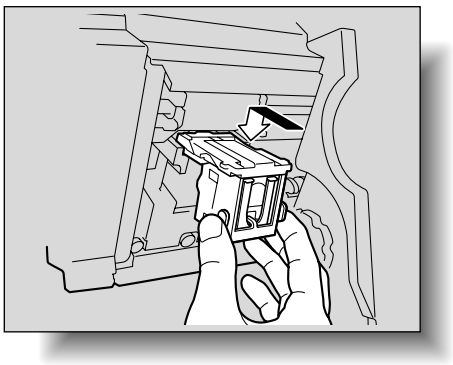


10 ステープルホルダーの先端を、取付け部のレールに沿わせて挿入します。



11 ステープルホルダーを“カチッ”という音がするまで押込みます。

❍ ステープルホルダーが奥までしっかり固定されたことを確認します。



12 ゆっくりステープルユニットを元の位置に戻します。

13 前ドアを閉じます。

8.5　パンチくずを処理する

フィニッシャーでパンチキットを装着している場合、パンチくずがいっぱいになると下図のメッセージが表示されます。（ユーザー処理の場合）

<パンチ設定時の表示>





<ジョブ実行中の表示>





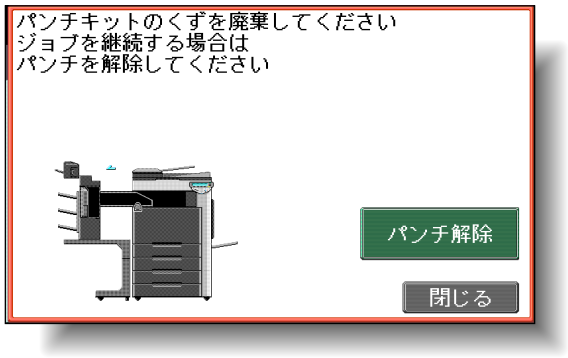
ひとこと

・パンチくずの処理のしかたについての設定は、サービス技術者が行います。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。
・出荷時設定では［サービス］が設定されています。メッセージが表示された場合、速やかにサービス実施店にご連絡ください。

詳しく説明します

<ユーザー処理の場合>
ジョブ実行中にパンチくずがいっぱいになった場合、実行中のジョブは一時停止します。パンチ機能を解除せずにジョブを継続する場合は、パンチくずの処理を行ってください。パンチ機能を解除してジョブを継続する場合は、［パンチ解除］を押してください。
<サービス処理の場合>
ジョブ実行中にパンチくずがいっぱいになった場合、実行中のジョブは一時停止します。ジョブを継続する場合は［パンチ解除］を押してください。ただし、継続されたジョブはパンチされずに印刷されます。

＜拡大表示機能時の表示＞

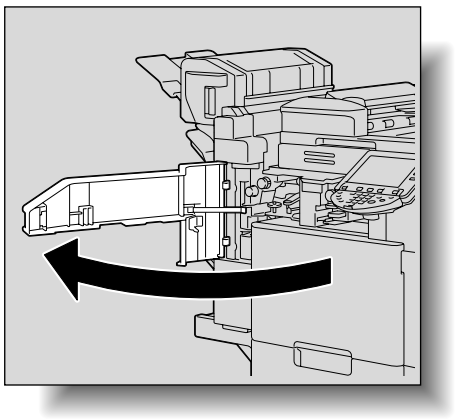

パンチキットのくずを廃棄してください
ジョブを継続する場合は
パンチを解除してください
パンチ解除
閉じる


パンチキットのくずを廃棄してください
ジョブを継続する場合は
パンチを解除してください
パンチ解除
閉じる

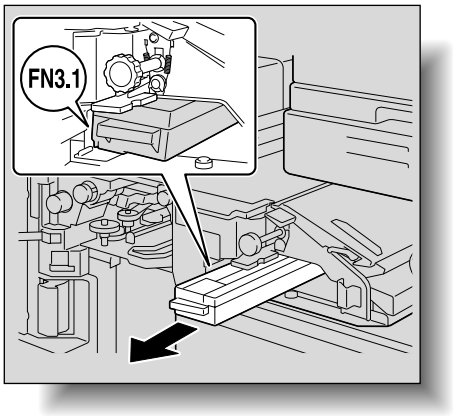
8.5.1　フィニッシャー FS-519 のパンチくず処理のしかた

以下の手順にしたがって、パンチくずを廃棄してください。

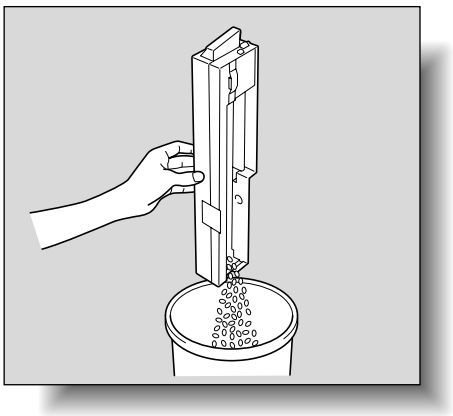
1 前ドアを開きます。



2 パンチ廃棄ボックス【FN3.1】を引出します。



3 パンチくずを廃棄します。



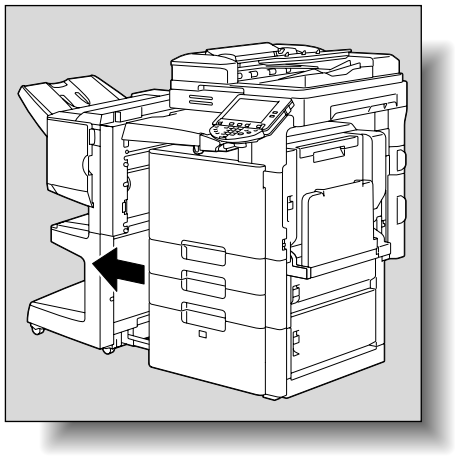
4 パンチ廃棄ボックスを元の位置にはめ込みます。

5 前ドアを閉じます。

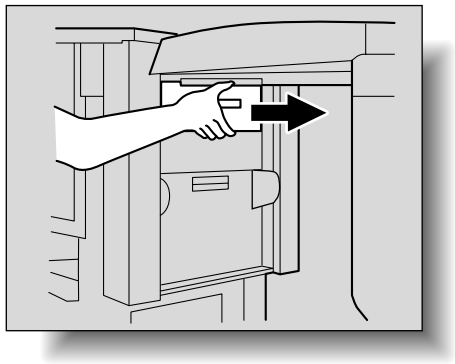
8.5.2　フィニッシャー FS-609 のパンチくず処理のしかた

以下の手順にしたがって、パンチくずを廃棄してください。

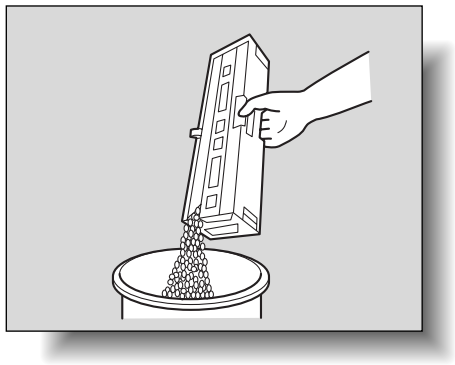
1 フィニッシャーを本体から引離します。



2 パンチ廃棄ボックスを引出します。



3 パンチくずを廃棄します。



4 パンチ廃棄ボックスを元の位置に取付けます。

5 フィニッシャーを元に戻します。

第 9 章
日頃の管理

本機の日頃の管理について説明します。

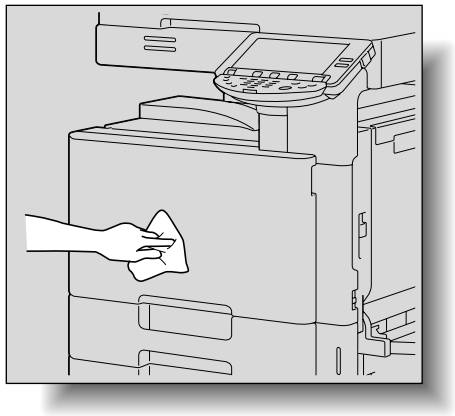
9.1　清掃のしかた 9-2
9.2　カウントを確認する 9-6
9.3　「装置の定期点検時期です」と表示されたら 9-8

9.1 清掃のしかた

ここでは各部の清掃のしかたについて説明します。

9.1.1 外装カバー

➔ 柔らかな布に家庭用中性洗剤をつけ、外装カバーの表面の汚れを拭取ります。



必ず守ってください

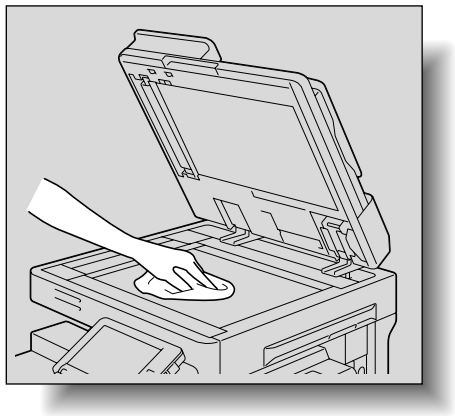
・清掃時は必ず本体の【主電源スイッチ】を OFF【○】にしてください。
・外装カバーの清掃に、ベンジンやシンナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。

参照

電源の切りかたについては、「電源の切りかた」（p. 1-28）をごらんください。

9.1.2 原稿ガラス

➔ 柔らかな布で原稿ガラスの表面を乾拭きし、汚れを拭取ります。

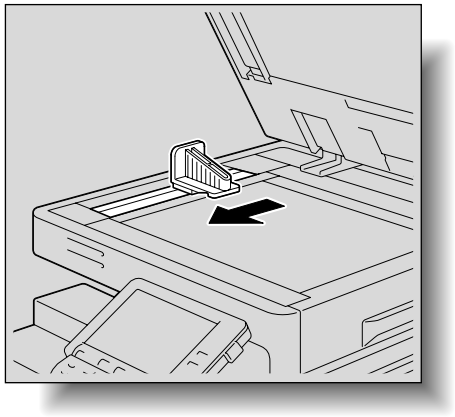


必ず守ってください

原稿ガラスの清掃に、ベンジンやシンナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。

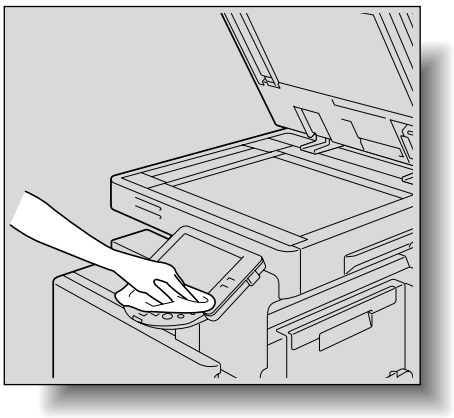
9.1.3 スリットガラス

➔ スリットガラス清掃具でスリットガラスの汚れを拭取ります。



9.1.4　操作パネル

柔らかな布で操作パネルの表面を乾拭きし、汚れを拭取ります。

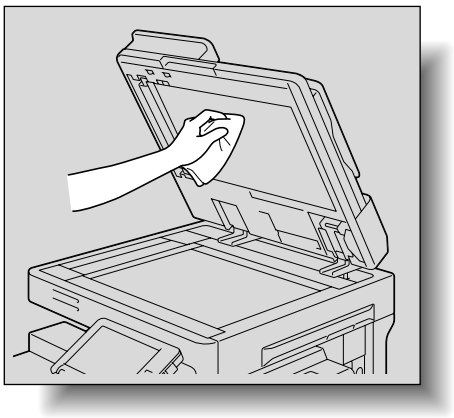


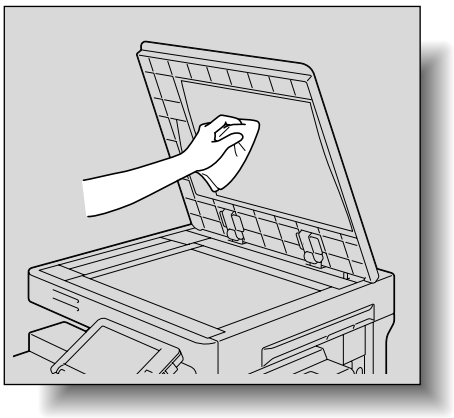
必ず守ってください

操作キー、タッチパネルを傷めるおそれがあるため、強く押さえないでください。また、家庭用中性洗剤、ガラスクリーナー、ベンジン、シンナーなどは絶対に使用しないでください。

9.1.5　原稿押えパッド

柔らかな布に家庭用中性洗剤をつけ、パッド面の汚れを拭取ります。





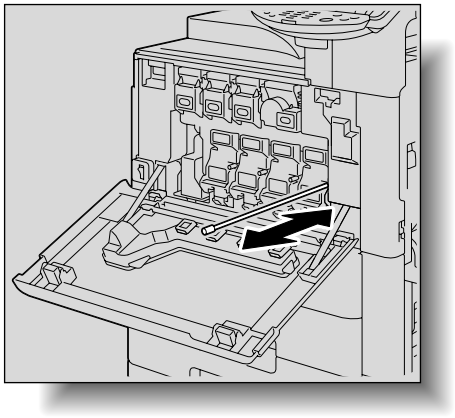
必ず守ってください

パッド面の清掃に、ベンジンやシンナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。

9.1.6　帯電チャージャーワイヤー

帯電チャージャーワイヤーが汚れると、印刷画像にスジのような汚れが出ることがあります。以下の手順にしたがって帯電チャージャーワイヤーを清掃してください。

1. 本体前ドアを開きます。
2. チャージャー清掃具を手前側に止まる位置までゆっくり引出します。
次に奥側に当たる位置までゆっくりと押込みます。
上記の操作を 3 回程度行います。

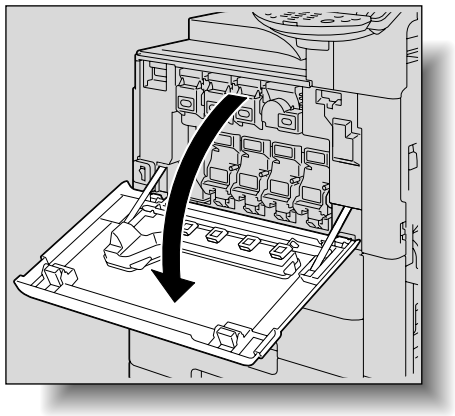


3. チャージャー清掃具を確実に押込み、本体前ドアを閉じます。

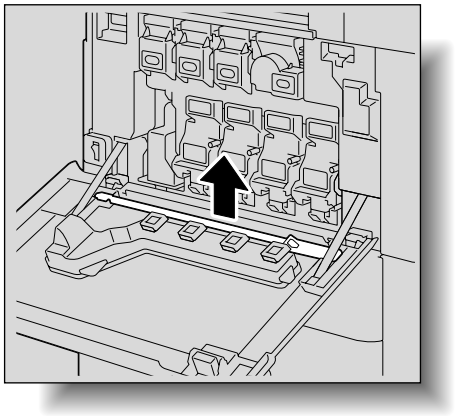
9.1.7　プリントヘッド

プリントヘッドが汚れると、印刷画像に異常をきたすことがあります。
以下の手順にしたがってプリントヘッドを清掃してください。

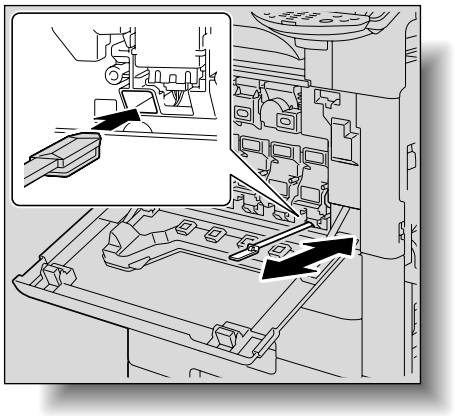
1 本体前ドアを開きます。



2 本体前ドアからプリントヘッド窓清掃具を取出します。



3 プリントヘッド窓清掃具をプリントヘッド清掃口に挿入して前後に 2、3 回往復します。



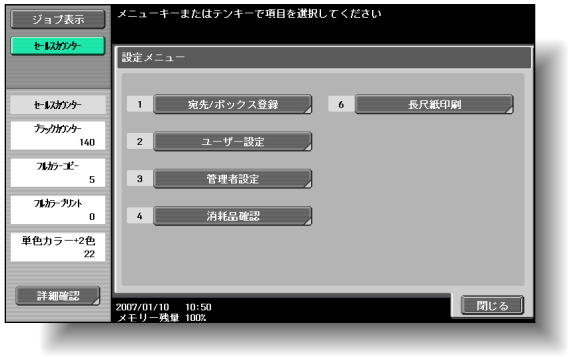
9.2　カウントを確認する

9.2.1　　セールスカウンターを確認する

セールスカウンター表示画面を表示させて、カウント開始日からのトータルカウントを確認できます。
また、カウンターリストを印刷できます。

1 【設定メニュー / カウンター】を押します。

2 左エリアの［セールスカウンター］を押し、［詳細確認］を押します。



カウンターリスト表示画面が表示されます。



❍ カウンターリストを印刷する場合は、［印刷］を押し、用紙を選択して【スタート】を押します。

3 ［閉じる］を 2 回押します。

基本設定画面に戻ります。

ひとこと

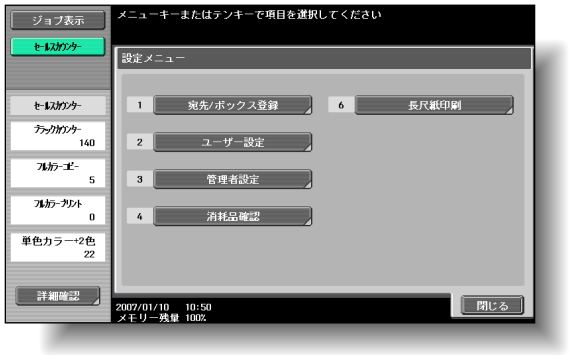
コピー／印刷中でもカウンターリスト表示画面を表示させることができます。

9.2.2　カバレッジレートを確認する

カバレッジレート表示画面ではトナーの使用率を確認できます。

1 【設定メニュー / カウンター】を押します。

2 左エリアの［セールスカウンター］を押し、［詳細確認］を押します。



カウンターリスト表示画面が表示されます。



3 ［カバレッジレート］を押します。



4 ［閉じる］を 2 回押します。

基本設定画面に戻ります。

9.3 「装置の定期点検時期です」と表示されたら

「装置の定期点検時期です」と表示されたら、サービス実施店にご連絡し、定期点検を受けてください。



第 10 章
ジョブ確認

本機に登録されたジョブの確認、操作について説明します。

10.1　ジョブ表示画面の概要 10-2
10.2　ジョブ操作をする 10-6

10.1　ジョブ表示画面の概要

10.1.1　　ジョブについて

コピーの準備をし、【スタート】を押すと、1 件のコピー動作が本機に登録されます。登録された動作をジョブと呼びます。同様に、読込み動作やスキャナー、コンピューターからの印刷指示もジョブとして登録されます。

- ジョブ表示画面で、実行中のジョブやジョブ履歴を確認できます。
- 実行中リストの一番上にあるジョブから印刷されます。
- ジョブは、登録された順にジョブ番号が付けられ印刷など動作実行の順番を待ちます。

ひとこと

・ジョブ番号は識別番号です。印刷順を示す番号ではありません。またジョブ番号はジョブが削除されるまで変更されません。
・優先出力機能を使うと、指定したジョブを先に印刷できます。

10.1.2　　マルチジョブ機能について

- 1 つのジョブの印刷中でも、別のジョブを登録できます。全てのジョブを合わせて最大 251 件まで登録できます。
  - ❍ 機能によるジョブ件数の詳細については下表をごらんください。

機能名	ジョブ件数
コピー	5
割込みコピー	1
スキャン	5
TWAIN（Push，Pull）	1
印刷	10
ファクス（クイックメモリー送信）	1
ファクス（メモリー送信）	50
ファクス（タイマー送信）	20
ファクス受信	100
ファクス（ポーリング受信）	1
ファクス（ポーリング送信）	1
共用	56
合計	251

※ 上記数値はあくまでも参考値であり、各設定条件により実際の値とは異なる場合があります。

- 1 つのジョブの印刷が完了すると、次に登録された印刷ジョブを自動的に開始します。

ひとこと

印刷ジョブ、スキャナー送信ジョブ、ファクス送信ジョブ、受信／保存ジョブ全てを含めて 251 件まで登録できます。

10.1.3　ジョブ表示画面について

ジョブ表示画面では、本機の実行中ジョブおよび実行済みジョブを一覧表示し、内容の確認や設定の変更を行うことができます。

詳しく説明します

ジョブ表示画面は、画面左エリアの［ジョブ表示］を押し、表示される［ジョブ詳細］を押すと表示されます。

ひとこと

出荷時設定では、ジョブ表示画面の初期表示は「印刷」の実行中リストが設定されています。

- ジョブ表示画面は以下の機能ごとに表示されます。
  - ❍ 印刷
    コピー、コンピューターからの印刷、受信ファクスの印刷のジョブリストです。
  - ❍ 送信
    スキャナー、ファクス送信のジョブリストです。
  - ❍ ファクス受信
    受信ファクスのジョブリストです。
  - ❍ 保存
    ボックスへ文書を保存したジョブリストです。

各機能切換えは、どのジョブ表示画面でも行えます。ただし、設定変更中に切換えたときは、その設定は取消されます。

- 各機能のジョブリストは、それぞれ実行中リストと履歴リストがあります。
  - ❍ 実行中リスト：
    登録済みジョブ、現在実行中のジョブのリストです。現在の状況を確認できます。
  - ❍ 履歴リスト：
    動作終了ジョブのリストです。エラーなどで実行できなかったジョブも含みます。ジョブ履歴、実行結果を確認できます。
- 実行中リストと履歴リストは、表示するジョブの種類を選択できます。たとえば、印刷画面の実行中リストの場合は蓄積ジョブまたは動作中ジョブから、履歴リストの場合は消去ジョブ、終了ジョブ、全ジョブから選択できます。画面によって選択できるジョブの種類は異なります。
- ジョブ表示画面の各キーの機能は、以下のとおりです。



名称	説明
［印刷］	ジョブ確認の印刷画面に切換わります。
［送信］	ジョブ確認のファクス / スキャン送信画面に切換わります。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。

名称		説明
［ファクス受信］		ジョブ確認の受信画面に切換わります。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
［保存］		ジョブ確認の保存画面に切換わります。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。
［実行中リスト］	反転表示されているキーが、現在表示されているジョブリストの条件を示しています。	履歴リストから実行中リストに切換わります。現在実行中のジョブと印刷待ち（待機中）ジョブが表示されます。
［履歴リスト］		実行中リストから履歴リストに切換わります。実行済みジョブが表示されます。
［削除］*1		実行中リストのジョブを削除できます。詳しくは、「ジョブを削除する」（p. 10-6）をごらんください。
［優先出力］（印刷画面実行中リストの場合に表示）		印刷中ジョブの次に印刷するジョブを変更できます。詳しくは、「優先出力の設定をする」（p. 10-12）をごらんください。 ここに表示されるキーは、画面や実行中／履歴リストによって異なります。
［蓄積解除］ （印刷機能実行中リスト画面の場合に表示）		蓄積されたジョブのリストに切換わります。蓄積ジョブの設定変更、印刷、削除ができます。
［設定内容］*1		実行中リストのジョブの設定を確認できます。詳しくは、「ジョブの設定内容を確認する」（p. 10-7）、をごらんください。
［消去ジョブ］ ［終了ジョブ］ ［全ジョブ］ （印刷機能履歴リスト画面の場合に表示）		ジョブリストに表示するジョブの種類を指定できます。キーを押すと表示が切換わります。
［詳細］		実行中／履歴リストのジョブの状態、実行結果、エラー詳細、ユーザー名、登録時間、終了時間、原稿枚数、部数などを確認できます。詳しくは、「ジョブの詳細確認をする」（p. 10-7）をごらんください。
［↑］［↓］		ジョブの件数が、1 度に表示できる件数（7 件）を超えた場合にキーを押すと、現在表示されているジョブより印刷順位の高いジョブ、または印刷順位の低いジョブが表示されます。
［閉じる］		ジョブ確認機能は解除され、［ジョブ確認］を押す前の画面に戻ります。

*1　実行中リストを表示しているときに表示されます。

印刷画面の内容は以下のとおりです。

名称	説明
No.	ジョブの登録時につけられる、ジョブの識別番号を表示します。
登録元	ジョブの種類を表示します。コピージョブは“COPY”と表示されます。

名称	説明
状態（実行中リストのみ）	ジョブの状態を表示します。
文書名	PC 印刷ジョブ時にファイル名を表示します。 ユーザー認証時は、他のユーザーには文書名を表示しません。 セキュリティー文書の場合、文書名は表示しません。
登録時間	ジョブの登録時間を表示します。
原稿	原稿枚数を表示します。
部数	印刷部数を表示します。 実行中リストでは、ジョブが「印刷中」になると印刷部数をカウント表示します。
実行結果（履歴リストのみ）	ジョブの実行結果（正常終了、エラー消去、ユーザー消去、モード解除）を表示します。

10.1.4　左エリアジョブリスト

基本設定画面の左エリアに、ジョブ一覧またはジョブの状態に関する情報を表示できます。

➔ 左エリアの［ジョブ表示］を押します。

左エリアがジョブ一覧の表示に切換わります。



❍ ユーザー設定でジョブ表示設定を「状態表示」にしている場合、左エリアにはジョブの状態が表示されます。



❍ ［ジョブ詳細］を押すと、ジョブ表示画面が表示されます。

❍ ジョブ一覧のジョブを選択し、［削除］を押すと、そのジョブを削除できます。

❍ ジョブの件数が、一覧に表示できる件数（7 件）を超えた場合は、［↑］［↓］キーを押して表示するジョブを切換えます。

ひとこと

・出荷時設定では、左エリアの初期表示は［ジョブ表示］の［リスト表示］が設定されています。
・左エリアの初期表示や左エリアジョブリストの表示方法の設定については、「画面カスタマイズ設定」（p. 11-16）をごらんください。

10.2　ジョブ操作をする

10.2.1　　ジョブを削除する

登録されたジョブや印刷中のジョブ（動作中リストのジョブ）を削除できます。

1

画面左エリアの［ジョブ表示］を押し、［ジョブ詳細］を押します。



ジョブ表示画面が表示されます。

2

印刷タブを選択し、削除したいジョブを表示させます。

3

削除したいジョブを選択し、［削除］を押します。



削除確認画面が表示されます。

4

内容を確認し、該当ジョブであれば、［はい］を押し、［OK］を押します。



［削除］を押す前の画面に戻り、実行中リストからジョブが削除されます。

ひとこと

・ユーザー認証を行っている場合に、他のユーザーがジョブを削除できない設定をしていると、削除できません。
・実行中のジョブについては、左エリアでジョブを選択し、［削除］を押しても削除できます。

ひとこと

履歴リストのジョブは削除できません。

詳しく説明します

・削除したいジョブが表示されていないときは、［↑］または［↓］で、表示を切換えます。
・ジョブを間違えて選択したときは、ジョブを押しなおすか、反転されたキーをもう 1 度押すと選択は取消されます。

詳しく説明します

削除を中断する場合は、［いいえ］を押し、［OK］を押します。

5 ［閉じる］または【リセット】を押します。

基本設定画面に戻ります。

10.2.2　ジョブの設定内容を確認する

登録されたジョブや印刷中のジョブ、印刷待ち、蓄積ジョブなどの設定内容を確認できます。

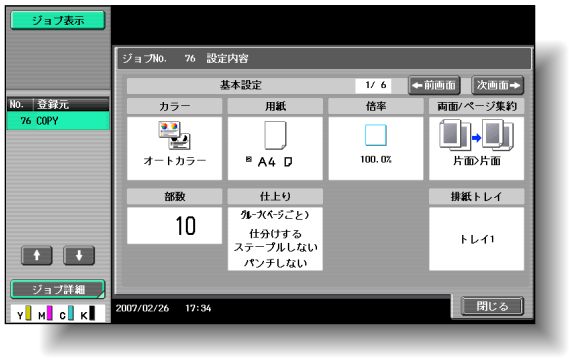
1 画面左エリアの［ジョブ表示］を押し、［ジョブ詳細］を押します。

ジョブ表示画面が表示されます。

2 設定内容を確認したいジョブを表示させます。

3 確認したいジョブを選択し、［設定内容］を押します。

設定内容画面が表示されます。



4 設定内容の確認が終了したら、［閉じる］、【リセット】のいずれかを押します。

- ［閉じる］を押すと、［設定内容］を押す前の画面に戻ります。
- 【リセット】を押すと、基本設定画面に戻ります。

10.2.3　ジョブの詳細確認をする

ジョブ表示画面で、以下の内容を確認できます。

- 印刷画面
  状態（受信中、印刷待ち、印刷中、印刷停止、印刷エラー、蓄積中）*1、実行結果（正常終了、エラー消去、ユーザー消去、一部のモード解除）*2、エラー詳細 *2、登録元 / ユーザー名、文書名、排出先、時間（登録、終了 *2）、枚数、部数
- 送信画面
  状態（送信中、送信待ち、ダイアル中、リダイアル待ち）*1、実行結果（正常終了、エラー消去、ユーザー消去）*2、エラー詳細（エラー内容）*2、登録元 / ユーザー名、文書名、宛先種類（E-Mail、ファイル FTP、ファイル SMB、TWAIN、ファクス、その他）、宛先（詳細 *3）、時間（登録時間、通信時間）、原稿枚数、外部サーバー情報 *4

詳しく説明します

ジョブを間違えて選択したときは、ジョブを押しなおすか、反転されたキーをもう 1 度押すと選択は取消されます。

詳しく説明します

・設定内容画面の内容、画面数は、ジョブによって異なります。
・［←前画面］の左の数字の分子が現在表示されている画面番号、分母が総画面数を示しています。
・［←前画面］を押すと 1 つ前の画面に、［次画面→］を押すと次の画面に切換わります。

- ファクス受信画面
  状態（受信中、ダイアル中（ポーリング受信時のみ）、印刷待ち、印刷中、印刷停止、印刷エラー、メモリ保存中）*1、実行結果（正常終了、エラー消去、ユーザー消去、モード解除）*2、エラー詳細（エラー内容）*2、登録元 / ユーザー名、文書名、排出先、時間（登録時間、通信時間）、原稿枚数
- 保存画面
  状態（受信中、メモリ保存中）*1、実行結果（正常終了、エラー消去、ユーザー消去、モード解除、書込みエラー）*2、文書名、登録元／ユーザー名、登録時間、原稿枚数

*1　実行中リストのジョブのみ表示
*2　履歴リストのジョブのみ表示
*3　実行中リストの複数宛先へ送信ジョブのみ表示
*4　外部サーバー認証時のみ表示

1 画面左エリアの［ジョブ表示］を押し、［ジョブ詳細］を押します。

ジョブ表示画面が表示されます。

2 詳細確認をしたいジョブを表示させます。

3 詳細確認をしたいジョブを選択し、［詳細］を押します。

詳細確認画面が表示されます。



4 確認が終了したら、［閉じる］、【リセット】のいずれかを押します。

❍［閉じる］を押すと、［詳細］を押す前の画面に戻ります。
❍【リセット】を押すと、基本設定画面に戻ります。

詳しく説明します

ジョブを間違えて選択したときは、ジョブを押しなおすか、反転されたキーをもう 1 度押すと選択は取消されます。

詳しく説明します

・詳細確認画面で、［削除］を押すとジョブを削除できます。
・送信画面の詳細確認画面で［詳細］が表示されたら、同報宛先で送信した複数の宛先詳細情報があります。［詳細］を押すと確認できます。

10.2.4　実行中リスト（蓄積ジョブまたは動作中ジョブ）を表示する

コピー機能、PC 印刷機能、ファクス機能の受信印刷の実行中リストが表示されます。

1 画面左エリアの［ジョブ表示］を押し、［ジョブ詳細］を押します。

ジョブ表示画面が表示されます。

2 目的のリストのキーを押します。



❍ 蓄積ジョブを確認する場合は、［蓄積解除］を押し、蓄積解除画面を表示します。



［中止］を押すと、ジョブ表示画面に戻ります。

10.2.5　履歴リストを表示する

1 画面左エリアの［ジョブ表示］を押し、［ジョブ詳細］を押します。

ジョブ表示画面が表示されます。

2 ［履歴リスト］を押します。

印刷の履歴リスト画面が表示されます。

参照

各キーのはたらきについては、「ジョブ表示画面について」（p. 10-3）をごらんください。

参照

- 蓄積解除画面では、蓄積ジョブを 1 部印刷して確認できます。詳しくは、「蓄積ジョブを 1 部印刷して確認する」（p. 10-10）をごらんください。
- 蓄積解除画面では、蓄積ジョブを印刷できます。詳しくは、「蓄積ジョブを印刷する」（p. 10-11）をごらんください。
- 実行中リスト画面で［優先出力］を押すと、目的のジョブを優先出力できます。詳しくは、「優先出力の設定をする」（p. 10-12）をごらんください。

3 目的のリストのキーを押します。



- 消去ジョブ：終了前に消去したジョブのみを表示
- 終了ジョブ：正常終了したジョブのみを表示
- 全ジョブ：全てのジョブを表示

10.2.6　蓄積ジョブを 1 部印刷して確認する

確認のために蓄積ジョブを 1 部印刷できます。
蓄積ジョブリストには、確認コピー中にシステムオートリセットが機能したジョブなどが表示されます。

1 印刷の実行中リストで［蓄積解除］を押します。



蓄積解除画面が表示されます。

2 ジョブリストから確認印刷をするジョブを選択し、【確認コピー】を押します。



- 1 部印刷されますので、印刷結果を確認します。

参照

表示のしかたは、「実行中リスト（蓄積ジョブまたは動作中ジョブ）を表示する」（p. 10-9）をごらんください。

詳しく説明します

- 蓄積解除をしたいジョブが表示されていないときは、［↑］または［↓］で、表示を切換えます。
- ジョブを間違えて選択したときは、選択したジョブをもう 1 度押すと選択は取消されます。
- 確認印刷を中止する場合は、【ストップ】を押します。
- 設定を変更したい場合は、蓄積解除画面で［設定変更］を押します。詳しくは、「蓄積ジョブを印刷する」（p. 10-11）をごらんください。

10.2.7　蓄積ジョブを印刷する

蓄積を解除し、ジョブを印刷します。

1 印刷の実行中リストで［蓄積解除］を押します。



蓄積解除画面が表示されます。

2 ジョブリストから蓄積解除をするジョブを選びます。



❍ 設定されているコピー条件を変更しない場合は、手順 5 へ進みます。

3 ［設定変更］を押します。

設定変更画面が表示されます。

4 設定変更画面でコピー条件を変更して、［OK］を押します。



参照

表示のしかたは、「実行中リスト（蓄積ジョブまたは動作中ジョブ）を表示する」（p. 10-9）をごらんください。

詳しく説明します

・蓄積解除をしたいジョブが表示されていないときは、［↑］または［↓］で、表示を切換えます。
・ジョブを間違えて選択したときは、ジョブを押しなおすか、選択したジョブをもう 1 度押すと選択は取消されます。

参照

各設定方法については、各設定の説明ページをごらんください。

5 蓄積解除画面で［実行］または【スタート】を押します。
蓄積ジョブは動作中ジョブリストに表示され、印刷されます。

詳しく説明します
・確認印刷をしたい場合は、p. 10-10 をごらんください。
・蓄積解除を中止する場合は、［中止］を押します。

10.2.8　優先出力の設定をする

印刷中のジョブの次に印刷するジョブを変更できます。

原則

管理者設定のジョブ優先順位変更を禁止に設定している場合は、［優先出力］は表示されず、優先出力は設定できません。

1 印刷の実行中リスト画面を表示します。

2 ［優先出力］を押します。



優先出力画面が表示されます。

3 ジョブリストの優先出力をしたいジョブを押して反転させてから、［実行］を押します。



選択したジョブがリストの一番上に移動し、印刷を開始します。

詳しく説明します
・印刷中のジョブが割込み可能な設定の場合は、印刷を中断して優先出力ジョブを印刷します。中断されたジョブは、割込んだジョブの印刷が完了すると自動的に印刷を再開します。
・印刷中のジョブが割込み不可な設定の場合（割込みコピー中、および優先出力中）は、現在の印刷の完了後に割込み印刷を開始します。

参照
表示のしかたは、「実行中リスト（蓄積ジョブまたは動作中ジョブ）を表示する」（p. 10-9）をごらんください。

詳しく説明します
・優先出力をしたいジョブが表示されていないときは、［↑］または［↓］で、表示を切換えます。
・ジョブを間違えて選択したときは、ジョブを選択しなおすか、選択したジョブをもう 1 度押すと選択は取消されます。
・優先出力を中止する場合は、［中止］を押します。

第 11 章
設定メニュー

日頃の使い方に合わせて、本機の設定を変更、管理する方法について説明します。

11.1　設定メニューの概要 11-2
11.2　宛先登録を選択する 11-7
11.3　ユーザー設定を選択する 11-14
11.4　管理者設定を選択する 11-22
11.5　消耗品確認 11-38
11.6　ウィークリータイマーの設定の概要 11-39
11.7　プリンター調整 11-40
11.8　フィニッシャー調整 11-49
11.9　色重ねズレの補正をする 11-57
11.10　階調補正 11-60
11.11　ヘッダー / フッターを設定する 11-62
11.12　認証方式 11-65
11.13　ユーザー認証設定 11-70
11.14　部門管理設定 11-79
11.15　パスワード規約 11-84
11.16　セキュリティー強化設定 11-85

11.1 設定メニューの概要

11.1.1 登録・設定項目一覧表

【設定メニュー / カウンター】を押したときに表示されるキーを記載します。

ひとこと

設定メニューに表示されるキーは設定により異なります。

設定メニュー一覧

メニュー第 1 階層	メニュー第 2 階層	メニュー第 3 階層	詳細
[1] 宛先 / ボックス登録	[1] ファクス / スキャン宛先登録	[1] 短縮宛先（共有）	「ファクス / スキャン宛先登録」（p. 11-7）をごらんください。
		[3] グループ宛先	
		[4] E-mail	
		[5] 着信拒否宛先	
	[2] ボックス登録	[1] 共有 / 個人ボックス	「ボックス登録」（p. 11-7）をごらんください。
		[2] 掲示板ボックス	
		[3] 中継ボックス	
	[3] 参照許可設定	[1] 宛先レベル設定	「参照許可設定」（p. 11-7）をごらんください。
[2] ユーザー設定	[1] 環境設定	[1] 言語選択	「環境設定」（p. 11-14）をごらんください。
		[2] 単位系設定	
		[3] 給紙トレイ設定	
		[4] オートカラーレベル調整	
		[5] パワーセーブ設定	
		[6] 出力設定	
		[7] AE レベル調整	
		[8] 小サイズ原稿	
		[9] 白紙ページ印字設定	
	[2] 画面カスタマイズ設定	[1] コピー設定	「画面カスタマイズ設定」（p. 11-16）をごらんください。
		[2] ファクス / スキャン設定	
		[3] コピー動作中画面	
		[4] ファクス動作中画面	
		[5] 選択色設定	
		[6] 左エリア初期表示設定	
		[7] 検索オプション設定	

メニュー第 1 階層	メニュー第 2 階層	メニュー第 3 階層	詳細
	［3］コピー設定	中とじ時小冊子選択	「コピー設定」（p. 11-17）をごらんください。
		集約 / 小冊子倍率	
		ソート / グループ自動切替え	
		コピー初期設定	
		拡大表示初期設定	
		AMS 方向不可時動作	
		連続読込み方法	
		拡大ローテーション	
		原稿ガラス自動倍率	
		ADF 自動倍率	
		APS 解除時のトレイ指定	
		インターシートトレイ選択	
		コピー操作時の印刷受付	
		自動画像回転	
	［4］ファクス / スキャン設定	JPEG 圧縮方法	「ファクス / スキャン設定」（p. 11-19）をごらんください。
		白黒 2 値圧縮方法	
		TWAIN 操作ロック時間	
		ファクス / スキャン初期設定	
		拡大表示初期設定	
		コンパクト PDF/XPS 圧縮方法	
	［5］プリンター設定	［1］基本設定	「プリンター設定」（p. 11-20）をごらんください。
		［2］用紙設定	
		［3］PCL 設定	
		［4］PS 設定	
		［5］XPS 設定	
		［6］レポート出力	
	［6］パスワード変更		現在ログイン中のユーザーのパスワードを変更します。
	［7］E-mail アドレス変更	E-mail アドレス	現在ログイン中のユーザーの E-mail アドレスを変更します。
	［8］アイコン変更		現在ログイン中のユーザーのアイコンを変更します。

メニュー第 1 階層	メニュー第 2 階層	メニュー第 3 階層	詳細
[3] 管理者設定	[1] 環境設定	[1] パワーセーブ設定	「環境設定」(p. 11-22) をごらんください。
		[2] 出力設定	
		[3] 日時設定	
		[4] サマータイム設定	
		[5] ウィークリータイマー設定	
		[6] ユーザー操作禁止設定	
		[7] エキスパート調整	
		[8] リスト／カウンター	
		[9] リセット設定	
		[0] ボックス設定	
		(次画面)	
		[2] スタンプ設定	
		[3] 白紙ページ印字設定	
		[5] アプリケーションキー設定	
	[2] 管理者 / 本体登録	[1] 管理者登録	「管理者 / 本体登録」(p. 11-27) をごらんください。
		[2] 本体アドレス登録	
	[3] 宛先 / ボックス登録	[1] ファクス / スキャン宛先登録	「宛先 / ボックス登録」(p. 11-27) をごらんください。
		[2] ボックス登録	
		[3] 宛先登録リスト	
		[4] 最大ボックス数設定	
	[4] ユーザー認証 / 部門管理	[1] 認証方式	「ユーザー認証 / 部門管理」(p. 11-28) をごらんください。
		[2] ユーザー認証設定	
		[3] 部門管理設定	
		[4] 認証指定なし印刷	
		[5] 使用管理カウンターリスト	
		[6] 外部サーバー設定	
		[7] 参照許可設定	
		[8] 認証装置設定	
		[9] ユーザー認証 / 部門共通設定	

メニュー第 1 階層	メニュー第 2 階層	メニュー第 3 階層	詳細
	［5］ネットワーク設定	［1］TCP/IP 設定	「ネットワーク設定」（p. 11-31）をごらんください。
		［2］NetWare 設定	
		［3］http サーバー設定	
		［4］FTP 設定	
		［5］SMB 設定	
		［6］LDAP 設定	
		［7］E-mail 設定	
		［8］SNMP 設定	
		［9］AppleTalk 設定	
		［0］Bonjour 設定	
		（次画面）	
		［1］TCP Socket 設定	
		［2］ネットワークファクス設定	
		［3］WebDAV 設定	
		［4］Web サービス設定	
		［6］詳細設定	
	［6］コピー設定	原稿ガラス自動倍率	「コピー設定」（p. 11-31）をごらんください。
		ADF 自動倍率	
		APS 解除時のトレイ指定	
		インターシートトレイ選択	
		コピー操作時の印刷受付	
		自動画像回転	
	［7］プリンター設定	USB タイムアウト	「プリンター設定」（p. 11-32）をごらんください。
		ネットワークタイムアウト	
		XPS エラー印刷	
	［8］ファクス設定	［1］発信元 / ファクス ID 登録	「ファクス設定」（p. 11-32）をごらんください。
		［2］発信元 / 受信情報	
		［3］回線パラメーター設定	
		［4］送信 / 受信設定	
		［5］機能設定	
		［6］PBX 接続設定	
		［7］レポート出力設定	
		［8］設定値リスト	
		［9］増設回線設定	
		［0］ネットワークファクス設定	
	［9］システム連携	OpenAPI 設定	「システム連携」（p. 11-33）をごらんください。

メニュー第 1 階層	メニュー第 2 階層	メニュー第 3 階層	詳細
	[0] セキュリティー設定	[1] 管理者パスワード	「セキュリティー設定」(p. 11-33) をごらんください。
		[2] ボックス管理者設定	
		[3] ユーザー開放レベル	
		[4] セキュリティー詳細	
		[5] セキュリティー強化設定	
		[6] HDD 管理設定	
		[7] 管理機能設定	
		[8] スタンプ設定	
		[0] ドライバーパスワード暗号化設定	
	(次画面)		
	[1] ライセンス管理設定	[1] リクエストコード発行	「ライセンス管理設定」(p. 11-36) をごらんください。
		[2] 機能有効化	
		[3] 有効機能一覧	
[4] 消耗品確認	印刷		「消耗品確認」(p. 11-38) をごらんください。
[6] 長尺紙印刷	許可する		長尺紙印刷については、「ユーザーズガイド プリンター機能編」をごらんください。
	許可しない		

11.2　宛先登録を選択する

ここでは【設定メニュー / カウンター】を押し、[宛先 / ボックス登録]で設定できる主な登録および機能について紹介します。

11.2.1　ファクス / スキャン宛先登録

設定項目	機能説明
短縮宛先（共有）	ファクスおよびスキャナーに関する登録を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
グループ宛先	
E-Mail	
着信拒否宛先	

ひとこと

・ユーザー認証を行う設定にした場合、ユーザーがログアウト状態のとき［1 宛先 / ボックス登録］は表示されません。ただし、ユーザー認証によりログインしているとき［1 宛先 / ボックス登録］は表示されます。
・ファクスに関連する登録項目は、FAX キットを装着している場合、またはインターネットファクス機能が使用可能な場合に表示されます。

11.2.2　ボックス登録

設定項目	機能説明
共有 / 個人ボックス	ボックスに関する登録を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
掲示板ボックス	
中継ボックス	

ひとこと

FAX キットを装着している場合、またはインターネットファクス機能が使用可能な場合に、［2 掲示板ボックス］［3 中継ボックス］は表示されます。

11.2.3　参照許可設定

＜参照許可レベル＞

本機では、「参照許可レベル」を使用し、登録された宛先のそれぞれに対して、内容の閲覧やファクス送信時の使用などを許可・不許可して、セキュリティーを管理することができます。

参照許可レベルには、レベル 0 ～レベル 5 までの 6 段階があり、数字が高いほどセキュリティーレベルも高くなります。

＜レベル設定＞

全てのユーザーおよび宛先に、参照許可レベルを設定することができます。

ユーザーの参照許可レベルと宛先の参照許可レベルの大小を比較することによって、ユーザーの参照できる宛先を制限できます。

たとえば、レベル 2 のユーザーであれば、レベル 0 ～レベル 2 までの宛先を参照でき、レベル 3 ～レベル 5 の宛先については参照できません。レベル 5 のユーザーは、レベル 0 ～レベル 5 までの全ての宛先を参照できます。

ひとこと

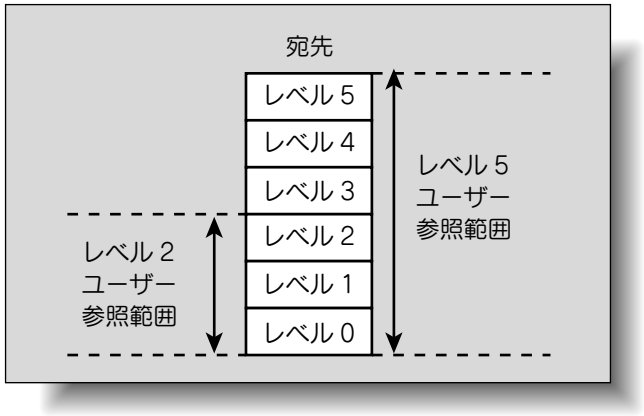
参照許可設定で設定したユーザー、宛先、グループのレベルは、ユーザー認証時に利用することができます。

参照

ユーザーの参照許可レベルの設定については、「＜参照許可設定＞」(p. 11-30)をごらんください。

ひとこと

初期状態では、パブリックユーザーに対してレベル 0 の参照許可レベルが設定されています。



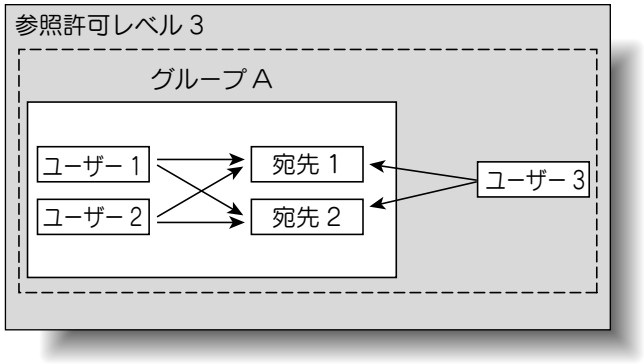
<グループ>

個別のユーザーおよび宛先のほかに、任意の名称で参照許可のためのグループを作成できます。

このグループには複数のユーザーおよび宛先を登録することができ、グループに登録された宛先は、同じようにグループに登録されたユーザーから参照できるようになります。

また、グループそのものにも参照許可レベルがあり、グループに登録されていないユーザーであっても、レベル条件による参照許可が可能になります。

1 つの宛先は、1 つのグループのみに登録できます。また、1 人のユーザーは、複数のグループに登録することができます。



<グループの設定のしかた>

1 管理者設定画面を表示させます。

2 [4 ユーザー認証 / 部門管理] を押します。

ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。

3 [7 参照許可設定] を押します。

参照許可設定画面が表示されます。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」(p. 11-36) をごらんください。

4 ［1 グループ登録］を押します。
グループ登録画面が表示されます。

5 目的のグループキーを押し、［編集］を押します。



各グループの編集画面が表示されます。

6 ［グループ名］を押します。



グループ名画面が表示されます。

7 グループ名を入力し（半角 64 文字まで）、［OK］を押します。
グループ名が設定されます。



8 目的の参照可能レベルを押します。
グループの参照可能レベルが設定されます。

9 ［OK］を押します。

詳しく説明します

・グループは合計 20 件まで登録できます。
・グループ登録画面でグループキーを押し［詳細］を押すと、そのグループに所属するユーザー名および宛先の確認ができます。

参照

文字の入力のしかたは、「文字を入力するには」（p. 12-2）をごらんください。

＜宛先レベルの設定のしかた＞

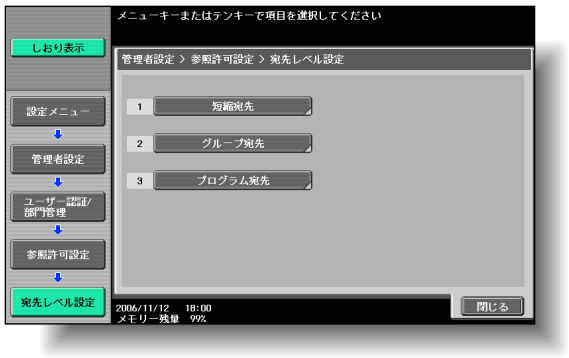
1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［4 ユーザー認証 / 部門管理］を押します。
ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。

3 ［7 参照許可設定］を押します。
参照許可設定画面が表示されます。

4 ［2 宛先レベル設定］を押します。
宛先レベル設定画面が表示されます。

5 目的の宛先項目を押します。





参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

詳しく説明します

短縮宛先の場合、宛先の頭文字の検索キーを押し、宛先を検索します。

6 目的の項目のキーを押します。

❍ 宛先のグループを設定する場合は、[参照許可グループ設定] を押します。目的のグループを選択し、[OK] を押します。



❍ 宛先のレベルを設定する場合は、[参照許可レベル設定] を押します。目的のレベルを選択し、[OK] を押します。



<ユーザーレベルの設定のしかた>

1 管理者設定画面を表示させます。

2 [4 ユーザー認証 / 部門管理] を押します。

ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。

3 [7 参照許可設定] を押します。

参照許可設定画面が表示されます。

4 [3 ユーザーレベル設定] を押します。

ユーザーレベル設定画面が表示されます。

詳しく説明します

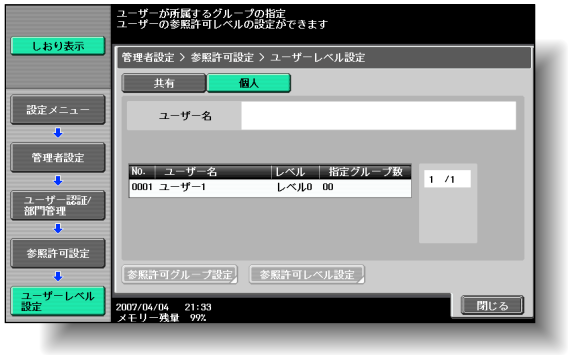
・1 つの宛先には、参照許可レベルと参照許可グループのどちらか一方のみを設定できます。
・1 つの宛先に設定できる参照許可グループは 1 つのみです。
・グループキーを押し [詳細] を押すと、そのグループに所属するユーザー名および宛先の確認ができます。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」(p. 11-36)をごらんください。

5

ユーザーの種類を［共有］［個人］から選択し、目的の宛先項目を押します。



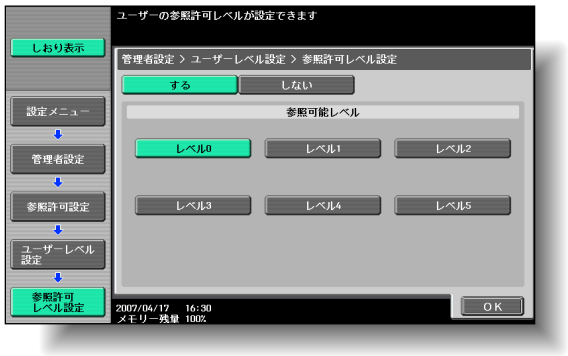
6

目的の項目のキーを押します。

❍ ユーザーのグループを設定する場合は、［参照許可グループ設定］を押します。［する］を押して目的のグループを選択し、［OK］を押します。



❍ ユーザーのレベルを設定する場合は、［参照許可レベル設定］を押します。［する］を押して目的のレベルを選択し、［OK］を押します。



・［共有］［個人］の選択項目が表示されるのは、パブリックユーザーを許可している場合のみです。
・パブリックユーザーの使用を許可している場合、共有ユーザー項目に「Public」という名称で表示されます。初期状態ではレベル 0 に設定されています。

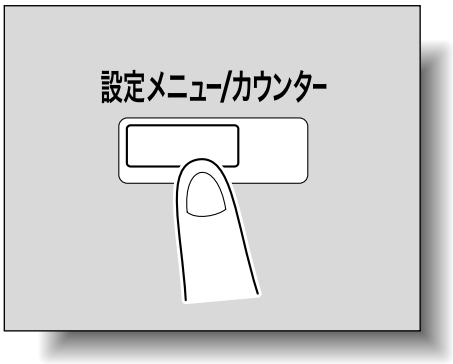
詳しく説明します

・1 人のユーザーに、参照許可レベルと参照許可グループの両方を設定できます。
・1 人のユーザーには、複数の参照許可グループを設定できます。
・グループキーを押し［詳細］を押すと、そのグループに所属するユーザー名および宛先の確認ができます。

11.2.4　宛先登録画面を表示させる

【設定メニュー / カウンター】を押し、［宛先登録］を表示させるまでの手順を説明します。

1 【設定メニュー / カウンター】を押します。



2 ［1 宛先 / ボックス登録］を押します。



宛先 / ボックス登録画面が表示されます。



ひとこと

キーに表示されている番号をテンキーで入力しても選択できます。［1 宛先 / ボックス登録］の場合は、テンキーの【1】を押します。

ひとこと

設定メニューを終了するときは、【設定メニュー / カウンター】を押します。コピー、ファクス / スキャン、ボックスのいずれかの画面になるまで［閉じる］を押しても終了できます。

11.3　ユーザー設定を選択する

ここでは、【設定メニュー / カウンター】を押し、［ユーザー設定］で設定できる主な登録および機能について紹介します。

11.3.1　　環境設定

< 言語選択 >

機能説明	出荷時設定
タッチパネルに表示される言語を以下の中から設定できます。 日本語、英語	日本語

< 単位系設定 >

機能説明	出荷時設定
タッチパネルに表示される数値の単位を以下の中から設定できます。 mm（数値）、インチ（数値）、インチ（分数）	mm（数値）

< 給紙トレイ設定 >

設定項目	機能説明	出荷時設定
給紙トレイ自動選択	自動用紙機能がはたらいたとき、自動選択の対象となるトレイを設定できます。また、自動トレイ切換え機能がはたらいたとき、トレイを切換える優先順位を設定できます。	トレイの優先順： トレイ 1 →トレイ 2 →トレイ 3[*1*2] →トレイ 4[*1]
ATS 許可	給紙トレイを手動で選択し、コピー中にそのトレイの用紙がなくなった場合に、同じサイズの用紙がセットされている給紙トレイに自動的に切換えるかを設定できます。	許可しない
指定給紙トレイ不一致動作	指定した給紙トレイに該当する用紙がない場合の動作を設定できます。 ・［指定給紙トレイ固定］： 動作を停止します。 ・［指定給紙トレイ優先］： 指定給紙トレイに該当する用紙の有無を優先して判断し、ない場合、他の給紙トレイに該当する用紙があればその給紙トレイを選択します。	指定給紙トレイ固定
リスト印刷出力設定	セールスカウンター、ユニットチェックなどのリストを出力するときの給紙トレイを設定できます。	トレイ 1、片面

*1　オプションの 2 段給紙キャビネット装着時に表示されます。
*2　オプションの 1 段給紙キャビネットまたは LCT 装着時に表示されます。

< オートカラーレベル調整 >

機能説明	出荷時設定
オートカラー設定時のカラー原稿と白黒原稿の判定基準レベルを調整できます。判定基準レベルは 5 段階から設定できます。	標準（3）

＜パワーセーブ設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
低電力設定	低電力モードがはたらくまでの時間を 2 分～ 240 分から設定できます。	15 分
スリープ設定	スリープモードがはたらくまでの時間を 2 分～ 240 分から設定できます。	20 分

＜出力設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
受信印刷出力設定	ファクス機能、プリンター機能に関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」、「ユーザーズガイド プリンター機能編」をごらんください。	
排紙トレイ設定	コピー、プリンター、レポート出力、ファクスのそれぞれのジョブに、優先出力される排紙トレイを設定できます。	コピー：トレイ 1*1 プリンター：トレイ 1*1 レポート出力：トレイ 3*2 ファクス：トレイ 3*2
ビン割当て	トレイ 1 をビン 5 に、増設排紙トレイをビン 6 に指定できます。	指定しない

*1　セパレータ装着時は出荷時設定でトレイ 2 が設定されています。
*2　セパレータ装着時は出荷時設定でトレイ 1 が設定されています。

＜ AE レベル調整＞

機能説明	出荷時設定
AE （Auto Exposure ）の初期値を設定します。設定値が大きくなるほど、原稿の下地が強調されます。	標準（2）

＜小サイズ原稿＞

機能説明	出荷時設定
自動用紙設定時に原稿ガラス上にセットした原稿サイズが小さくサイズ検出できないとき、または原稿がセットされていないときのコピー設定ができます。 ・［小サイズでコピー可］： A5 サイズの原稿と判断し、A5 サイズの用紙にコピーします。 ・［A4 でコピー可］： A4 サイズの原稿と判断し、A4 サイズの用紙にコピーします。 ・［コピー不可］： 原稿サイズが検出できないためコピーされません。【スタート】を押す前に給紙トレイ（印刷したい用紙）を選択する必要があります。	コピー不可

＜白紙ページ印字設定＞

機能説明	出荷時設定
白紙ページにスタンプ / ページ印字の印字を行うか設定できます。	印字しない

ひとこと

管理者設定のユーザー開放レベルが［レベル 1］、［レベル 2］に設定されている場合にのみ、［パワーセーブ設定］は表示されます。

参照

ユーザー開放レベルについては、「セキュリティー設定」（p. 11-33）をごらんください。

ひとこと

・管理者設定のユーザー開放レベルが［レベル 2］に設定されている場合にのみ、［出力設定］、［AE レベル設定］、［白紙ページ印字調整］が表示されます。
・排紙トレイ設定は、オプションのフィニッシャー FS-519 またはセパレータを装着している場合にのみ有効になります。
・オプションのフィニッシャー FS-519 に増設排紙トレイを装着した場合、［排紙トレイ設定］で増設排紙トレイはトレイ 2 に、トレイ 2 はトレイ 3 に割当てられます。
・オプションのフィニッシャー FS-519 にメールビンを装着している場合のみ、［ビン割当て］は表示されます。
・オプションのフィニッシャー FS-519 に増設排紙トレイを装着している場合のみ、［ビン割当て］の［トレイ 2］は表示されます。

11.3.2　画面カスタマイズ設定

＜コピー設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
基本画面表示	コピー機能の基本設定画面の表示を設定できます。 ・［基本設定］： 通常の基本表示です。 ・［基本（一括）］： 用紙、倍率、両面 / ページ集約の各機能について、選択可能な項目が一括表示されます。カラー機能についても一括表示が可能です。通常の［基本設定］画面も、別のタブとして表示されます。	基本設定
ショートカットキー 1	よく使用するコピー応用機能のショートカットキーをコピーの基本設定画面に配置できます。	使用しない
ショートカットキー 2		

＜ファクス / スキャン設定＞

設定項目	機能説明
基本画面表示	ファクスおよびスキャナー機能に関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
プログラム初期表示	
アドレス帳初期表示	
ショートカットキー 1	
ショートカットキー 2	
「登録宛先から」初期表示	

＜コピー動作中画面＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
印刷中画面表示	印刷動作中の画面表示を設定できます。 ・［する］：印刷動作中に印刷中画面が表示され［次ジョブ予約］を押すとジョブの予約ができます。 ・［しない］：コピー機能の基本設定画面が表示され、コピー予約ができます。	しない

＜ファクス動作中画面＞

設定項目	機能説明
送信中画面表示	ファクス機能に関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
受信中画面表示	

＜選択色設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
選択色	キーの選択状態を示す色を指定できます。	グリーン

ひとこと

C353/C253 でイメージコントローラのアイコンが表示されている場合、基本設定画面に設定できるショートカットキーは 1 つのみになります。

＜左エリア初期表示設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
左エリア初期表示	左エリアで初期表示される内容を設定できます。 ・ジョブ表示： 実行中および待ち状態のジョブの一覧が表示されます。 ・設定内容： 現在のコピー設定の内容が表示されます。	ジョブ表示
ジョブ表示設定	左エリアのジョブ表示の内容を設定できます。 ・リスト表示： 実行中および待ち状態のジョブを一覧で表示します。 ・状態表示： 実行中のジョブの進行状況を表示します。	リスト表示

＜検索オプション設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
英大文字と英小文字	宛先検索で大文字、小文字を区別するかしないか設定できます。	区別する
検索オプション画面	［英大文字と英小文字］の設定を宛先検索の詳細検索で表示するかしないか設定できます。	表示しない

11.3.3　コピー設定

設定項目	機能説明	出荷時設定
中とじ時小冊子選択	中とじを選択したとき自動で小冊子の設定をするかしないかの設定ができます。オプションのフィニッシャー FS-609 またはフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されている場合に有効です。	自動選択する
集約 / 小冊子倍率	自動用紙設定時に集約または小冊子を選択すると、自動で適した倍率にするかしないかを設定できます。 ・［お勧め倍率］： 以下のように倍率が設定されます。 2in1、小冊子・・・70.7% 4in1・・・50.0% 8in1・・・35.3% ・［設定しない］： 倍率は自動で設定されません。	お勧め倍率
ソート / グループ自動切替え	1 ジョブで印刷する用紙枚数が 2 枚以上ある場合、ソートする／しないの自動切換えをするかしないかを設定できます。 ・［する］： ADF に原稿をセットし、【スタート】を押したときに、原稿枚数が 1 枚の場合は自動的にソートしないを選択し、原稿枚数が 2 枚以上の場合は自動的にソートするを選択します。 ・［しない］： ソートする／しないの自動切換えは行いません。	する

ひとこと

・管理者設定のユーザー開放レベルが設定されている場合にのみ、［原稿ガラス自動倍率］、［ADF 自動倍率］、［APS 解除時のトレイ指定］、［インターシートトレイ選択］、［自動画像回転］は表示されます。
・管理者設定のユーザー開放レベルが［レベル 2］に設定されている場合にのみ、［コピー操作時の印刷受付］は表示されます。

参照

ユーザー開放レベルについては、「セキュリティー設定」（p. 11-33）をごらんください。

設定項目	機能説明	出荷時設定
コピー初期設定	コピー機能の初期設定値を設定できます。 電源スイッチを ON【｜】にしたとき、または【リセット】を押したときに選択されるコピー条件を設定できます。 ・［現在の設定値］： 設定メニュー画面に入る前にタッチパネル上で設定された各項目がコピー機能の初期設定として登録されます。 ・［出荷時の設定値］： 出荷時の設定値がコピー機能の初期設定に登録されます。	出荷時の設定値
拡大表示初期設定	コピー機能での拡大表示時の初期設定値を設定できます。 コピー機能であらかじめ拡大表示にしていた場合に表示されます。 ・［現在の設定値］： 設定メニュー画面に入る前にタッチパネル上で設定された各項目がコピー機能の初期設定として登録されます。 ・［出荷時の設定値］： 出荷時の設定値がコピー機能の初期設定に登録されます。	出荷時の設定値
AMS 方向不可時動作	自動倍率を設定しているときに、原稿と用紙の方向が適さない場合に印刷するかしないかを設定できます。 ・［プリントする］： 設定したサイズの用紙に、設定した方向のままで自動的に倍率設定してコピーされます。 ・［ジョブ破棄］： ジョブが破棄され、コピーされません。	プリントする
連続読込み方法	原稿を分割して読込んだり、複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットするときに、原稿読込み中でも印刷するか、原稿読込み終了後に印刷するかを設定できます。 ・［自動出力］： 原稿読込み中でも出力可能な印刷が開始されます。 ・［一括出力］： 全ての原稿読込み終了後に印刷が開始されます。	自動出力
拡大ローテーション	主走査方向（ADF または原稿ガラスの左右方向）が 297 mm を超える画像を回転してコピーを行うかを設定できます。 ・許可： 拡大ローテーションを行います。ただし、カラーの設定がブラックの場合にかぎり有効です。 ・禁止： カラーの設定によらず、拡大ローテーションを禁止します。	禁止
原稿ガラス自動倍率	原稿ガラス上に原稿がセットされている状態で給紙トレイを選択したとき（自動用紙選択時は除く）に、自動倍率に自動的に切換えるか切換えないかを設定できます。	OFF
ADF 自動倍率	ADF に原稿がセットされている状態で給紙トレイを選択したとき（自動用紙選択時は除く）に、自動倍率に自動的に切換えるか切換えないかを設定できます。	ON

参照

初期設定、出荷時設定については、p. 1-26 をごらんください。

詳しく説明します

スキャン機能やファクス機能の初期設定を変更する場合、【ファクス / スキャン】を押し、設定メニュー画面を表示してからこれらの設定を行います。

設定項目	機能説明	出荷時設定
APS 解除時のトレイ指定	自動用紙（APS）が解除されたときに、どのトレイを使用するかを設定できます。 ・［APS 選択前トレイ］： APS を選択する前に設定したトレイを使用します。 ・［初期設定トレイ］： トレイ 1 を使用します。	APS 選択前トレイ
インターシートトレイ選択	カバーシート（表紙）、インターシート、章分け紙用の用紙をセットするトレイの初期値を選択できます。	トレイ 2
コピー操作時の印刷受付	コピーを操作をしているときに印刷データやファクスデータの印刷受付をするかしないかを設定できます。 ・［印刷する］： 印刷データやファクスデータを受付け、印刷します。 ・［印刷抑制］： 印刷データやファクスデータは、コピー操作が終わると印刷されます。	印刷する
自動画像回転	原稿と用紙の方向が適さない場合に、どのような設定のとき画像を自動的に回転するか設定できます。 ・［自動用紙 / 自動倍率 / 縮小設定時］： 自動用紙（APS）、自動倍率（AMS）、縮小が設定されている場合に用紙の向きに合わせて画像が自動的に回転します。 ・［自動用紙 / 自動倍率設定時］： 自動用紙（APS）、自動倍率（AMS）が設定されている場合に用紙の向きに合わせて画像が自動的に回転します。 ・［自動倍率 / 縮小設定時］： 自動倍率（AMS）、縮小が設定されている場合に用紙の向きに合わせて画像が自動的に回転します。 ・［自動倍率設定時］： 自動倍率（AMS）が設定されている場合に用紙の向きに合わせて画像が自動的に回転します。	自動用紙 / 自動倍率設定時

11.3.4　ファクス / スキャン設定

設定項目	機能説明
JPEG 圧縮方法	スキャナー機能に関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
白黒 2 値圧縮方法	
TWAIN 操作ロック時間	
ファクス / スキャン初期設定	
拡大表示初期設定	
コンパクト PDF/XPS 圧縮方法	
カラー TIFF 形式	

ひとこと

［拡大表示初期設定］は、ファクス / スキャン機能での拡大表示時の初期設定値を設定できます。ファクス / スキャン機能であらかじめ拡大表示にしていた場合に表示されます。

11.3.5　プリンター設定

設定項目	機能説明
基本設定	プリンター機能に関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編」をごらんください。
用紙設定	
PCL 設定	
PS 設定	
XPS 設定	
レポート出力	プリンター機能に関する設定内容をレポートとして印刷できます。詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編」をごらんください。

11.3.6　パスワード変更

機能説明
現在ログインしているユーザーのパスワードを変更できます。 現在のパスワードを入力したあと、新しいパスワードを入力してください。 この項目は、ユーザー認証が［本体装置認証］に設定されている場合に使用できます。

11.3.7　E-mail アドレス変更

機能説明
現在ログインしているユーザー自身により、E-mail アドレスを変更できます。 この項目は、パブリックユーザー以外のユーザーとしてログインしている場合にのみ表示されます。

ひとこと

管理者設定のユーザー開放レベルが［レベル 2］に設定されている場合にのみ、［E-mail アドレス変更］は表示されます。

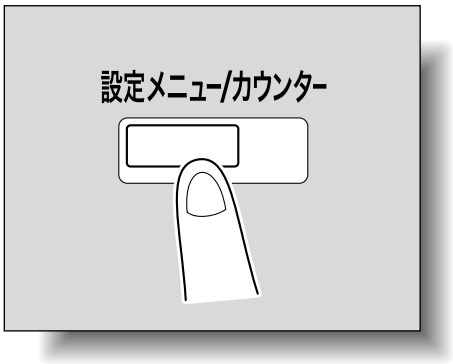
11.3.8　アイコン変更

機能説明
現在ログインしているユーザー自身により、ユーザー登録されているアイコンを変更できます。 この項目は、パブリックユーザー以外のユーザーとしてログインしている場合にのみ表示されます。

11.3.9　ユーザー設定画面を表示させる

【設定メニュー / カウンター】を押し、［ユーザー設定］を表示させるまでの手順を説明します。

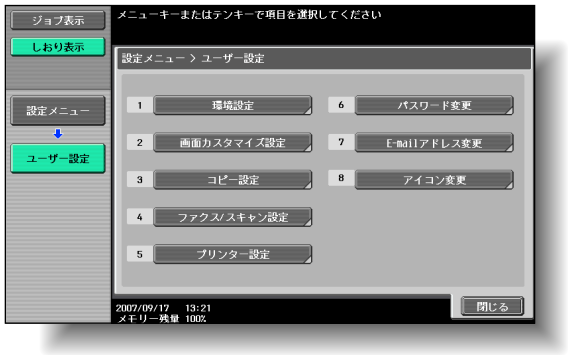
1 【設定メニュー / カウンター】を押します。



2 ［2 ユーザー設定］を押します。



ユーザー設定画面が表示されます。



ひとこと

キーに表示されている番号をテンキーで入力しても選択できます。［2 ユーザー設定］の場合は、テンキーの【2】と入力します。

ひとこと

設定メニューを終了するときは、【設定メニュー / カウンター】を押します。コピー、ファクス / スキャン、ボックスのいずれかの画面になるまで［閉じる］を押しても終了できます。

11.4　管理者設定を選択する

ここでは、【設定メニュー / カウンター】を押し、［管理者設定］で設定できる主な登録および機能について紹介します。

11.4.1　　環境設定

＜パワーセーブ設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
低電力設定	低電力モードがはたらくまでの時間を 2 分～240 分から設定できます。	15 分
スリープ設定	スリープモードがはたらくまでの時間を 2 分～ 240 分から設定できます。	20 分
パワーセーブキー節電切替	【パワーセーブ】を押したときに開始されるパワーセーブ機能の種類を設定できます。 ・［低電力］： タッチパネルの表示を消し、節電状態となります。 ・［スリープ］： 低電力モードよりも節電効果が得られます。しかし、再操作時にウォームアップを必要とするため、準備時間は低電力モードよりもかかります。	低電力
パワーセーブ移行	ファクス機能に関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。	即時

＜出力設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
受信印刷出力設定	ファクス機能、プリンター機能に関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」、「ユーザーズガイド プリンター機能編」をごらんください。	
排紙トレイ設定	コピー、プリンター、レポート出力、ファクスのそれぞれのジョブに、優先出力される排紙トレイを設定できます。	コピー：トレイ 1*1 プリンター：トレイ 1*1 レポート出力：トレイ 3*2 ファクス：トレイ 3*2
ビン割当て	トレイ 1 をビン 5 に、増設排紙トレイをビン 6 に指定できます。	指定しない
ジョブ毎の仕分け設定	オプションのフィニッシャーまたはセパレータ装着時に仕分け機能を設定した場合、コピーの完了した用紙をシフトして（ずらして）排出するかしないかを設定できます。 ・［する］：用紙がシフト排出されます。 ・［しない］：用紙がシフトせずに排出されます。	する

*1　セパレータ装着時は出荷時設定でトレイ 2 が設定されています。
*2　セパレータ装着時は出荷時設定でトレイ 1 が設定されています。

＜日時設定＞

機能説明	出荷時設定
現在の日付、時刻を設定できます。また、タイムゾーンを -12:00 ～ 13:00 から 30 分単位で設定ができます。日本国内のタイムゾーンは +9:00 が標準です。	タイムゾーン：+00:00

詳しく説明します

・排紙トレイ設定は、オプションのフィニッシャー FS-519 またはセパレータを装着している場合にのみ有効になります。
・オプションのフィニッシャー FS-519 に増設排紙トレイを装着した場合、［排紙トレイ設定］で増設排紙トレイはトレイ 2 に、トレイ 2 はトレイ 3 に割当てられます。
・オプションのフィニッシャー FS-519 にメールビンを装着している場合のみ、［ビン割当て］は表示されます。
・オプションのフィニッシャー FS-519 に増設排紙トレイを装着している場合のみ、［ビン割当て］の［トレイ 2］は表示されます。

＜サマータイム設定＞

機能説明	出荷時設定
本機の時刻表示にサマータイムを適用するかしないかを設定できます。ON に設定した場合、現在の時刻に指定した時間分進めた時刻を表示します。サマータイムとして適用できる時間は、1 分～ 150 分から 1 分単位で設定できます。	しない

＜ウィークリータイマー設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
ウィークリータイマー使用設定	ウィークリータイマー機能を使用するかしないかを設定できます。	しない
タイマー予約時刻設定	本体電源の ON/OFF 時刻を曜日ごとに設定できます。	-
動作日設定	本体電源の ON/OFF を 1 日づつ個別に、または曜日ごとに設定できます。	-
昼休み OFF 機能設定	昼の休憩中などの一定時間に本機の電源を OFF する場合、電源の OFF/ON する時刻を設定できます。	しない
時間外パスワード設定	ウィークリータイマー機能で電源が OFF 状態のときに、本機を使用する場合、パスワードによって使用者を制限するかしないかを設定できます。また、この機能を［する］にした場合に、入力するパスワードを英数字 8 文字までで設定します。	しない

＜ユーザー操作禁止設定＞

設定項目		機能説明	出荷時設定
コピープログラムロック設定		登録されたコピープログラムの変更や削除を禁止する設定ができます。	-
コピープログラム削除		登録されたコピープログラムを削除できます。	-
変更禁止設定	ジョブ優先順位変更	ジョブの印刷優先順位の変更を許可／禁止します。	許可
	他ユーザージョブ削除	ユーザー認証されている場合に、他のユーザーがジョブを削除することを許可／禁止します。	禁止
	登録宛先変更	登録されている宛先の変更を許可／禁止します。	許可
	登録倍率変更	登録されている倍率の変更を許可／禁止します。	許可
	From アドレス変更	設定されている From アドレスの変更を許可／禁止します。	許可
	登録オーバーレイ変更	登録されているオーバーレイの変更を許可／禁止します。	許可
操作禁止設定	複数宛先禁止	ファクスジョブの送信で、複数の宛先設定を禁止する設定ができます。	しない

詳しく説明します

・ウィークリータイマーを設定すると、指定した日時に電源を ON/OFF できます。また、タイマーで電源を OFF したとき、ON するためのパスワードを設定できます。
・ウィークリータイマーの設定は、ウィークリータイマー設定画面に表示されるそれぞれの機能を組合わせて行います。設定の概要は、「ウィークリータイマーの設定の概要」（p. 11-39）をごらんください。

＜エキスパート調整＞

設定項目		機能説明	出荷時設定
AE レベル調整		AE （Auto Exposure ）の初期値を 0 ～ 4 から設定します。設定値が大きくなるほど、原稿の下地が強調されます。	標準（2）
プリンター調整	印刷位置：先端	用紙排紙方向に対しての用紙先端部分の印刷開始位置を -3.0 mm ～ 3.0 mm から調整できます。用紙種類ごとに設定できます。	0.0 mm
	印刷位置：側端	用紙排紙方向に対しての用紙左端部分の印刷開始位置を -3.0 mm ～ 3.0 mm の間で調整できます。給紙トレイごとに設定できます。	0.0 mm
	両面印刷位置：先端	自動両面印刷時の 2 面目の印刷画像の用紙先端部分の印刷開始位置を -3.0 mm ～ 3.0 mm の間で調整できます。用紙種類ごとに設定できます。	0.0 mm
	両面印刷位置：側端	自動両面印刷時の 2 面目の印刷画像の用紙左端部分の印刷開始位置を -3.0 mm ～ 3.0 mm の間で調整できます。給紙トレイごとに設定できます。	0.0 mm
	メディア調整	用紙種類の特性により、プリント画像不良（白抜け、白斑点、ザラツキ）が発生した場合、用紙種類に応じてパラメータを -8 ～ +7 から調整できます。	
フィニッシャー調整	センターステープル位置調整	中とじ機能で印刷するときのステープル位置を以下の間で調整できます。 フィニッシャー FS-519: -10 ～ 10 フィニッシャー FS-609: -7 mm ～ 7 mm	0 0 mm
	中折り位置調整	中とじ機能で印刷するときの中折り位置を以下の間で調整できます。 フィニッシャー FS-519: -10 ～ 10 フィニッシャー FS-609: -7 mm ～ 7 mm	0 0 mm
	パンチ横位置調整 *	パンチ穴の横方向の位置を -10 ～ 10 の間で調整できます。	0
	パンチレジストループ量調整 *	両面出力やカバーシート出力時のパンチの位置ずれを -4 ～ 4 の間で調整できます。	0
濃度補正	厚紙 - イエロー	厚紙、OHP フィルムの印刷画像濃度の補正ができます。濃度補正は、色ごと（カラー画像のイエロー、マゼンタ、シアン、ブラック、モノクロ画像濃度）に補正できます。数値が大きいほど濃度は濃くなります。 イエロー、マゼンタ、シアン、ブラックは、-5 ～ +5 から調整できます。 モノクロ画像濃度は -2 ～ +2 から調整できます。	0
	厚紙 - マゼンタ		0
	厚紙 - シアン		0
	厚紙 - ブラック		0
	モノクロ画像濃度		0
画像安定化		階調補正を行っても画像が安定しない場合に、画像安定化を行うことができます。 ・［画像安定化実行］： 通常の画像安定化を行います。 ・［初期化 + 画像安定化実行］： ［画像安定化実行］を行っても効果が得られない場合に行います。	画像安定化実行

参照

・プリンター調整の手順については、「プリンター調整」（p. 11-40）をごらんください。
・フィニッシャー調整の手順については、「フィニッシャー調整」（p. 11-49）をごらんください。
・色重ねズレ補正の手順については、「色重ねズレの補正をする」（p. 11-57）をごらんください。
・階調補正の手順については、「階調補正」（p. 11-60）をごらんください。

ひとこと

［フィニッシャー調整］は、オプションのフィニッシャー FS-609 を装着している場合、またはフィニッシャー FS-519 に中綴じ機を装着している場合に表示されます。

ひとこと

OHP フィルムについては、モノクロ画像濃度のみが有効です。

設定項目		機能説明	出荷時設定
色重ねズレ補正	色重ねズレ補正（イエロー）	印刷結果に色ずれが見られる場合、色ずれを補正できます。	-
	色重ねズレ補正（マゼンタ）		-
	色重ねズレ補正（シアン）		-
階調補正	画像安定化実行	階調補正を行う場合、まずはじめに【スタート】を押して画像安定化を行ってください。	-
	圧縮優先	印刷画像の色階調が変化した場合に、階調を補正できます。メモリーへ保存する画像枚数を増やすことを重視して補正します。	-
	階調優先	印刷画像の色階調が変化した場合に、階調を補正できます。画像の階調表現を重視して補正します。	-
	解像度優先	印刷画像の色階調が変化した場合に、階調を補正できます。文字や線などの再現性を重視して補正します。	-
筋検出設定	事前検出設定	スリットガラスが汚れているときに、警告を表示するかしないかの設定と、汚れの検出レベルを設定します。ADF で原稿を読込む前や読込んだあとに、汚れの検出が行われます。	する 警告表示：TYPE2 検出レベル：ふつう
	通紙中検出設定	ADF を使用して原稿を読込むときに、汚れを検出するレベルを設定します。 ・［除去しない］(0)：筋除去動作は行われません。 ・［除去する］(1)：筋除去動作を行います。	1

* フィニッシャーにパンチキット装着時のみ表示

＜リスト / カウンター＞

設定項目		機能説明
マシン管理リスト印刷	設定値リスト	本機の各設定値を印刷できます。
用紙サイズ / 種類カウンター		特定の用紙サイズと用紙種類を組合わせて登録し、カウントする設定ができます。

＜リセット設定＞

設定項目		機能説明	出荷時設定
システムオートリセット		システムオートリセット機能がはたらくまでの時間を設定できます。 ・「優先機能」： システムオートリセット時などに表示する機能を［ボックス］、［ファクス / スキャン］、［コピー］から設定できます。 ・「システムオートリセット時間」： システムオートリセット機能がはたらくまでの時間を 1 分～ 9 分または［使用しない］から設定できます。	優先機能： コピー システムオートリセット時間：1 分
オートリセット		［コピー］、［ファクス / スキャン］、［ボックス］の各機能でのオートリセット機能がはたらくまでの時間を 1 分～ 9 分または［しない］から設定できます。	コピー：1 分 ファクス / スキャン：1 分 ボックス：1 分
モードリセット	使用者変更	使用者が変更したときに、機能をリセット（初期化）するかしないかを設定できます。本機はオプションのキーカウンターを抜き取ったときやユーザー認証時および部門管理設定時、ユーザーがログアウトしたときに本機は使用者が変更した（交代した）と判断します。	初期化する
	ADF 原稿セット	ADF に原稿をセットした場合に、機能をリセットするかしないかを設定できます。	リセットしない
	次ジョブ	ステープル設定： ステープル設定されたジョブが開始されたあと、次のジョブ設定が可能になったとき、同じ設定にするか解除するかを設定できます。	解除しない
		原稿セット / とじ方向： 原稿のセット方向または原稿のとじ方向が設定されたジョブが開始されたあと、次のジョブ設定が可能になったとき、同じ設定にするか解除するかを設定できます。	解除しない
		送信後設定解除： スキャンまたはファクス送信後の宛先、設定内容の解除について設定します。 「ユーザーに確認」を設定するとスキャンまたはファクス送信後、宛先と設定内容を継続するかしないかを設定します。	全て解除

＜ボックス設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
不要ボックス削除	ボックスに関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。	
セキュリティー文書削除		
セキュリティー文書削除時間設定	ボックスに関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。	1 日
暗号化 PDF 削除時間設定		1 日
認証 & プリント削除時間設定		1 日
文書保持設定		する

詳しく説明します

・システムオートリセット時間を［使用しない］に設定しても、ユーザー認証 / 部門管理中に本機を使用しない状態が 1 分経過すると、システムオートリセット機能がはたらきます。しかし拡大表示機能は、システムオートリセット機能がはたらきません。

・ユーザー認証またはセキュリティー強化設定が有効な場合、システムオートリセット時間の設定により、管理者設定モードおよびユーザー認証モードをログアウトします。

設定項目		機能説明	出荷時設定
外部メモリー機能設定	文書保存	ボックスに関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。	OFF
	文書印刷		ON

＜スタンプ設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
ヘッダー / フッター設定	ヘッダーおよびフッターに印字する日付や時刻などを登録します。ヘッダー / フッター機能を使用する場合、あらかじめヘッダー / フッターの登録を行ってください。	-
ファクス送信設定	スタンプの設定をファクス送信時に解除するかしないかを設定できます。	解除する

＜白紙ページ印字設定＞

機能説明	出荷時設定
白紙ページにスタンプ / ページ印字を印字するかしないかを設定できます。	印字しない

＜アプリケーションキー設定＞

機能説明	出荷時設定
キー 1 とキー 2 に機能を割付けることができます。	キー 1：ファクス / スキャン キー 2：コピー

11.4.2　管理者 / 本体登録

設定項目	機能説明
管理者登録	ヘルプのサービス / 管理者情報画面で表示する管理者情報や、本機からの E-Mail 送信の From アドレスを登録できます。
本体アドレス登録	本機の装置名と E-Mail アドレスを登録できます。登録した装置名は送信ファイルのファイル名や、ボックスに登録する文書の名称を自動生成する場合に付加します。出荷時設定では、KMBT_C353/C253/C203 が設定されています。登録した E-Mail アドレスは、インターネットファクスを利用する場合に使用します。

ひとこと

本体アドレス登録の装置名を登録するときは、OS によって扱えない文字を使用しないでください。

11.4.3　宛先 / ボックス登録

設定項目	機能説明
ファクス / スキャン宛先登録	ファクス機能、スキャン機能、ボックス機能に関する登録を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。
ボックス登録	
宛先登録リスト	短縮宛先リスト、グループ宛先リスト、プログラム宛先リスト、件名 / 本文リストを印刷し、確認できます。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。

設定項目	機能説明
最大ボックス数設定	ユーザーごとにボックスの最大数を設定できます。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。

11.4.4　ユーザー認証 / 部門管理

＜認証方式＞

機能説明	出荷時設定
本機の使用を制限するユーザー認証や部門管理の設定ができます。 ・「ユーザー認証」： ［外部サーバー認証］、［本体装置認証］からユーザー認証の方法を選択します。ユーザー認証をしない場合は、［認証しない］を押します。 ・「パブリックユーザー」： 認証されているユーザー以外が本機を使用することを許可するかしないかを設定します。「ユーザー認証」が［認証しない］を選択しているときは選択できません。［許可後ログイン］を押すと、パブリックユーザーとしてログインする場合、認証なしで本機を使用できます。認証されているユーザーとしてログインするときは、はじめに【ID】を押し、認証画面を表示する必要があります。 ・「部門管理」： 部門管理をするかしないかを設定します。 ・「部門管理認証方式」： 部門名＋パスワード］を押します。パスワードのみで認証する場合は、［パスワードのみ］を押します。「部門管理」が［管理しない］を選択しているときには、設定できません。ユーザー認証と部門管理の両方を設定した場合、［部門名＋パスワード］しか設定できません。 ・「ユーザー認証 / 部門認証の連動」： ユーザー認証と部門認証を連動するかしないかを設定します。「ユーザー認証 / 部門認証の連動」は、「ユーザー認証」が［外部サーバー認証］または［本体装置認証］を選択して「部門管理」が［管理する］を選択しているときに、表示されます。 ・「上限値到達時の動作」： 部門管理またはユーザー認証で設定した上限値に到達したときに印刷中のジョブを停止させ次のジョブの印刷を開始させる場合は、［ジョブ飛越し］を押します。上限値に到達したときに全てのジョブを停止する場合は、［ジョブ停止］を押します。 ・「ユーザーカウンター割当て数」： 「ユーザーカウンター割当て数」の数値により、ユーザー登録可能件数と部門登録可能件数を調整できます。 例：「ユーザーカウンター割当て数」の数値を 50 個にした場合、部門登録可能件数は 950 個となります。 ・「チケット保持時間設定」： Kerberos 認定チケットの保持時間を 1 分～ 60 分から設定できます。認証サーバータイプが Active Directory を選択したときに適用されます。	ユーザー認証：認証しない 部門管理：管理しない 上限値到達時の動作：ジョブ飛越し チケット保持時間設定：60 分

＜ユーザー認証設定＞

設定項目		機能説明	出荷時設定
管理設定	ユーザー名一覧	ユーザー認証画面でユーザー名の一覧キーを表示するかしないかを設定できます。	表示しない
	初期機能制限設定	外部サーバーとの認証時、本機での操作を制限することができます。	コピー操作： 許可する スキャン操作： 許可する ファクス操作： 許可する プリンター印字： 許可する 蓄積文書操作： 許可する 送信文書印字： 許可する 外部メモリー保存： 許可する 手動宛先入力： 許可する
	認証 & プリント設定	認証 & プリントを使用するかしないかを設定できます。また認証されていないジョブやパブリックユーザージョブを即時印刷するか、認証 & プリントボックスに蓄積するかを設定します。	認証 & プリント： 使用しない 認証 / パブリックユーザージョブ： 即時印刷
	認証 & プリント動作設定	認証 & プリントを使用するときの印刷方法を設定できます。 ・全ジョブ印刷： 1 回の認証で全てのジョブが印刷されます。 ・1 ジョブ印刷： 蓄積されたジョブが 1 ジョブずつ印刷されます。	全ジョブ印刷
ユーザー登録		本機を使用するユーザーを登録できます。ユーザーごとに、パスワード、出力許可、印刷枚数の上限値、認証情報、使用できる機能を設定できます。	-
ユーザーカウンター		ユーザーごとにコピー、プリンター、ファクス / スキャンの使用状況を確認できます。	-

＜部門管理設定＞

設定項目	機能説明
部門登録	本機を使用する部門を登録できます。部門ごとに、パスワード、出力許可、印刷枚数の上限値を設定できます。
部門カウンター	部門ごとにコピー、プリンター、ファクス / スキャンの使用状況を確認できます。

＜認証指定なし印刷＞

機能説明	出荷時設定
ユーザー、部門が特定できない印刷を許可するか禁止するかの設定ができます。許可した場合印刷枚数は、パブリックユーザーとしてカウントされます。	禁止

ひとこと

・ユーザー認証設定の各設定項目は、［認証方式］で「ユーザー認証」が［認証しない］以外に設定されている場合に表示されます。
・部門管理設定の各設定項目は、［認証方式］で「部門管理」が［管理する］に設定されている場合に表示されます。
・「外部メモリー保存」は、［環境設定］の［ボックス設定］で［外部メモリー機能］の［文書保存］を［ON］にした場合に表示されます。

詳しく説明します

オプションの認証装置でユーザー認証を行っている場合は、指または IC カードを置くことにより、認証 & プリントボックスに蓄積されたジョブを印刷することができます。

ひとこと

PageScope Authentication Manager で認証を行っている場合は、［ユーザー登録］は表示されません。

ひとこと

PageScope Authentication Manager で認証を行っている場合は、［部門管理設定］は表示されません。

＜使用管理カウンターリスト＞

機能説明	出荷時設定
本機にユーザー認証または部門管理をすると、表示されます。ユーザーまたは部門ごとに使用状況を確認できます。	トレイ 1、片面

＜外部サーバー設定＞

機能説明
ユーザー認証を行う外部サーバーを設定できます。

＜参照許可設定＞

設定項目	機能説明
グループ登録	宛先の参照許可のためのグループの登録・編集をすることができます。
宛先レベル設定	宛先ごとに参照許可レベルまたは参照許可グループを設定できます。
ユーザーレベル設定	ユーザーごとに参照許可レベルおよび参照許可グループを設定できます。

＜認証装置設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
認証方式	装着されている認証装置の設定キーのみが表示されます。 ・［IC カード認証］： IC カードタイプと動作設定を設定できます。 ・［生体認証］： 報知音と動作設定を設定できます。	認証装置（IC カード認証タイプ）を装着している場合 IC カードタイプ：FeliCa 動作設定：IC カード認証 認証装置（指静脈 生体認証タイプ）を装着している場合 報知音：ON 動作設定：1 対多認証
ログアウト設定	スキャン送信やファクス送信、コピーで原稿読込み終了時にログアウトするかしないか設定できます。	ログアウトしない

＜ユーザー認証 / 部門共通設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
ログアウト確認画面表示設定	【ID】を押したあと、ログアウト確認画面を表示するかしないか設定できます。	表示する

詳しく説明します

・認証装置設定は、オプションの認証装置を装着している場合にのみ有効になります。
・認証装置（IC カード認証タイプ）と認証装置（指静脈 生体認証タイプ）は同時に装着することができません。

ひとこと

IC カードタイプで［SSFC］を選択した場合は、会社コードや会社識別コードなどを設定します。詳しくは認証装置に同梱されているマニュアルをごらんください。

11.4.5　ネットワーク設定

設定項目	機能説明
TCP/IP 設定	ネットワークに関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
NetWare 設定	
http サーバー設定	
FTP 設定	
SMB 設定	
LDAP 設定	
E-mail 設定	
SNMP 設定	
AppleTalk 設定	
Bonjour 設定	
TCP Socket 設定	
ネットワークファクス設定	
WebDAV 設定	
Web サービス設定	
詳細設定	

11.4.6　コピー設定

設定項目	機能説明	出荷時設定
原稿ガラス自動倍率	原稿ガラス上に原稿がセットされている状態で給紙トレイを選択したとき（自動用紙選択時は除く）に、自動倍率に自動的に切換えるか切換えないかを設定できます。	OFF
ADF 自動倍率	ADF に原稿がセットされている状態で給紙トレイを選択したとき（自動用紙選択時は除く）に、自動倍率に自動的に切換えるか切換えないかを設定できます。	ON
APS 解除時のトレイ指定	自動用紙（APS）が解除されたときに、どのトレイを使用するかを設定します。 ・［APS 選択前トレイ］： APS を選択する前に設定したトレイを使用します。 ・［初期設定トレイ］： トレイ 1 を使用します。	APS 選択前トレイ
インターシートトレイ選択	カバーシート（表紙）、インターシート、章分け紙用の用紙をセットするトレイの初期値を選択できます。	トレイ 2
コピー操作時の印刷受付	コピーを操作しているときに印刷データやファクスデータの印刷受付をするかしないかを設定できます。 ・［印刷する］： 印刷データやファクスデータを受付け、印刷します。 ・［印刷抑制］： 印刷データやファクスデータは、コピー操作が終わると印刷されます。	印刷する

設定項目	機能説明	出荷時設定
自動画像回転	原稿と用紙の方向が適さない場合に、どのような設定のとき画像を自動的に回転するか設定できます。 ・［自動用紙 / 自動倍率 / 縮小設定時］： 自動用紙（APS）、自動倍率（AMS）、縮小が設定されている場合に用紙の向きに合わせて画像が自動的に回転します。 ・［自動用紙 / 自動倍率設定時］： 自動用紙（APS）、自動倍率（AMS）が設定されている場合に用紙の向きに合わせて画像が自動的に回転します。 ・［自動倍率 / 縮小設定時］： 自動倍率（AMS）、縮小が設定されている場合に用紙の向きに合わせて画像が自動的に回転します。 ・［自動倍率設定時］： 自動倍率（AMS）が設定されている場合に用紙の向きに合わせて画像が自動的に回転します。	自動用紙 / 自動倍率設定時

11.4.7　プリンター設定

設定項目	機能説明
USB タイムアウト	プリンターに関する登録を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編」をごらんください。
ネットワークタイムアウト	
XPS エラー印刷	

11.4.8　ファクス設定

設定項目	機能説明
発信元 / ファクス ID 登録	ファクスに関する登録を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。
発信元 / 受信情報	
回線パラメーター設定	
送信 / 受信設定	
機能設定	
PBX 接続設定	
レポート出力設定	
設定値リスト	
増設回線設定	
ネットワークファクス設定	

ひとこと

FAX キットを装着している場合、またはインターネットファクス機能が使用可能な場合に、［8 ファクス設定］は表示されます。

11.4.9　システム連携

設定項目	機能説明
OpenAPI 設定	ネットワークに関する登録を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。

11.4.10　セキュリティー設定

＜管理者パスワード＞

機能説明
管理者設定での認証時に必要な管理者パスワードの設定、変更ができます。管理者パスワードは、0 ～ 8 桁から設定できます。ただし、パスワード規約を［ON］に設定する場合、8 桁以外の管理者パスワードは設定できません。

＜ボックス管理者設定＞

機能説明
ボックスに関する設定を行います。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。

＜ユーザー開放レベル＞

機能説明	出荷時設定
ユーザーに許可する管理者機能の範囲を設定できます。 ・［レベル 1］： パワーセーブ設定、原稿ガラス自動倍率、ADF 自動倍率、APS 解除時のトレイ指定、インターシートトレイ選択、自動画像回転をユーザーに許可します。 ・［レベル 2］： パワーセーブ設定、出力設定、AE レベル調整、白紙ページ印字設定、原稿ガラス自動倍率、ADF 自動倍率、APS 解除時のトレイ指定、インターシートトレイ選択、自動画像回転、コピー操作時の印刷受付、E-mail アドレス変更をユーザーに許可します。 ・［開放しない］： ユーザーにレベル 1、レベル 2 の設定のどちらも許可しません。	開放しない

＜セキュリティー詳細＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
パスワード規約	パスワード規約を適用するかしないかを設定できます。	無効
認証操作禁止機能	ユーザーが認証に失敗した場合に、本機操作の禁止を設定できます。 ・[モード 1]：一定時間、操作ができません。 ・[モード 2]：認証失敗を繰り返すと操作パネルの操作ができません。認証失敗回数は 1 ～ 5 回から設定できます。パネル操作禁止になった場合は、[操作禁止解除] を押して、操作禁止を解除する項目を選択します。 ・[ユーザー + 部門]：ユーザー認証、部門管理に対する操作 ・[セキュリティー文書]：セキュリティー文書に対する操作 ・[ボックス]：パスワード付きボックスに対する操作 ・[SNMP]：SNMP v3 Write ユーザーの認証に対する操作 ・[WebDAV サーバー]：WebDAV サーバーに対する操作 ・[操作禁止解除時間設定]：操作禁止の状態から自動的に解除するまでの時間を設定します。1 分～ 60 分の間で調整できます。	モード 1、操作禁止解除時間 5 分
セキュリティー文書アクセス方式	セキュリティー文書に対する操作方式を確認できます。認証操作禁止機能が [モード 1] の場合、[モード 1] が設定されます。認証操作禁止機能が [モード 2] の場合、[モード 2] が設定されます。 [モード 1]：セキュリティー文書 ID とパスワードを入力し、文書を選択します。 [モード 2]：セキュリティー文書 ID を入力し、文書を選択したあとパスワードにより認証します。	モード 1
手動宛先入力	宛先入力画面で、手動宛先入力を許可するか禁止するかを設定できます。この設定を禁止にすると、LDAP 検索もできなくなります。	許可
プリントデータキャプチャー	印刷ジョブデータのキャプチャーを許可するかしないかを設定します。詳しくは、「ユーザーズガイド プリンター機能編」をごらんください。	
FAX 送信禁止	FAX 送信を禁止するかしないかを設定できます。	OFF
個人情報非表示	ジョブ履歴のファイル名や宛先を非表示にします。	OFF
通信履歴表示	通信の履歴を表示します。	ON
ジョブ履歴削除	全てのジョブ履歴を削除します。	-

＜セキュリティー強化設定＞

機能説明
セキュリティー強化設定を適用するために必要な設定が表示されます。必要な設定がされている場合は、セキュリティー強化設定を適用するかしないかを設定できます。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

詳しく説明します

・認証操作禁止機能の対象になるのは、以下のパスワードです。ユーザーパスワード、部門パスワード、ボックスのパスワード、セキュリティー文書のパスワード、管理者パスワード

・認証操作禁止機能の［操作禁止解除］で解除を設定しても操作パネルが操作できない場合や、管理者パスワードの認証失敗で操作できない場合は、本機を再起動してください。再起動後、［操作禁止解除時間設定］で設定されている時間が経過したあと管理者認証を行ってください。

必ず守ってください

【主電源スイッチ】を OFF/ON する場合は、主電源を OFF にして、10 秒以上経過してから ON にしてください。間隔をあけないと、正常に機能しないことがあります。

＜HDD 管理設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
HDD 容量確認	ハードディスクの容量に関する情報を表示します。	
一時データ上書き削除	コピー、スキャン、ファクス、PC 印刷時の全ての機能において、ハードディスクに一時的に画像データを書込みするかしないかを設定します。設定モードについては、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。一時データ上書き削除の設定を行うと、印刷やデータ送信後に画像データが保存されたハードディスクエリアに上書き処理を行い、完全にデータを削除します。この処理によりハードディスク内の画像データの漏洩を防ぎます。	しない
全データ上書き削除	本機をリース返却または廃棄する場合に、ハードディスク内の全領域に対してモード 1 からモード 8 の指定したパターンでデータを上書き削除し、データ漏洩を防ぎます。設定モードについては、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。この機能を実行する前に、サービス実施店へお問い合わせください。	モード 1
HDD ロックパスワード	ハードディスクのデータを守るためのパスワードを設定します。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。	
HDD フォーマット	ハードディスクのフォーマットを行います。 詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。	
HDD 暗号化設定	オプションのセキュリティキット装着時に表示されます。ハードディスク内のデータを暗号化するために暗号化ワードを設定します。詳しくは、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。この設定を行うとハードディスクに書込むデータが全て暗号化され、ハードディスク内のデータを守ることができます。なお暗号化の設定を変更した場合には、ハードディスクの再フォーマットが必要です。	

＜管理機能設定＞

設定項目	機能説明	出荷時設定
ネットワーク機能使用設定	管理機能使用時に、カウント管理が困難なネットワーク機能の設定ができます。	使用する

＜スタンプ設定＞

設定項目	機能説明
スタンプ付加設定	印字および送信時に、スタンプを付加するかしないかを設定できます。
登録スタンプ削除	コピープロテクトの登録スタンプを削除するかしないかを設定できます。

＜ドライバーパスワード暗号化設定＞

機能説明	出荷時設定
プリンタードライバーの暗号化ワードを変更できます。 詳しくは「ユーザーズガイド プリンター機能編」をごらんください。	出荷時を使用

詳しく説明します

「ネットワーク機能使用設定」を「使用しない」に変更した場合、以下の機能が使用できません。

- PC FAX 送信
- HDD Twain ドライバーによるボックス内の文書の参照／取り出し
- PageScope Box Operator によるボックス内の文書の参照／取り出し
- PageScope Scan Direct によるボックス内の文書の取り出し
- PageScope Web Connection によるボックス操作機能（ボックスタブが表示されません。）

ひとこと

「スタンプ付加設定」で付加する印字を設定すると、「応用設定」の「スタンプ / ページ印字」で印字の設定を変更できません。

11.4.11　ライセンス管理設定

設定項目	機能説明
リクエストコード発行	ライセンス管理サーバー（LMS）に登録する、本機のリクエストコードを発行します。
機能有効化	有効化する機能を選択し、ライセンス管理サーバー（LMS）から取得したライセンスコードを入力します。
有効機能一覧	有効機能を確認することができます。

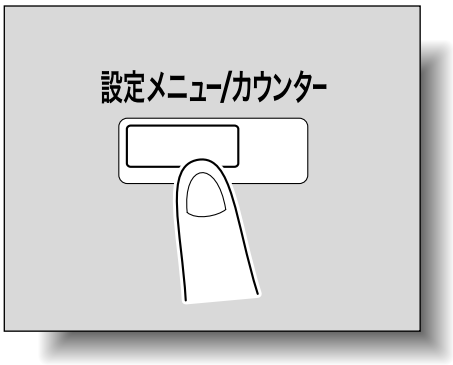
参照

機能有効化について詳しくは「すぐに使える操作ガイド」をごらんください。

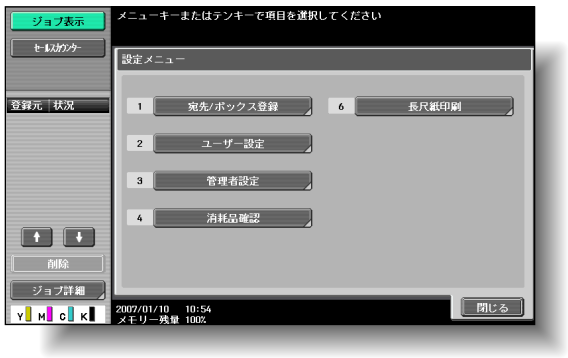
11.4.12　管理者設定画面を表示させる

【設定メニュー / カウンター】を押し、［管理者設定］を表示させるまでの手順を説明します。

1　【設定メニュー / カウンター】を押します。



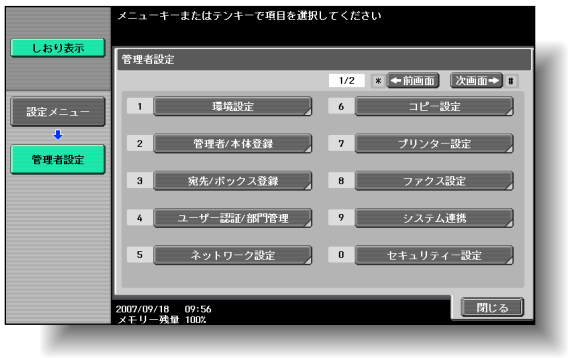
2 ［3 管理者設定］を押します。



3 管理者パスワードを入力し、［OK］を押します。



管理者設定画面が表示されます。



ひとこと

設定メニューでは、キーに表示されている番号をテンキーで入力しても選択できます。［3 管理者設定］の場合は、テンキーの【3】を入力します。

詳しく説明します

・管理者パスワードは絶対に忘れないでください。管理者パスワードを忘れた場合、サービス技術者による設定が必要です。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。

参照

文字の入力のしかたは、「文字を入力するには」（p. 12-2）をごらんください。

ひとこと

設定メニューを終了するときは、【設定メニュー / カウンター】を押します。目的の画面になるまで［閉じる］を押しても終了できます。

11.5　消耗品確認

ここでは、【設定メニュー / カウンター】を押し、［消耗品確認］で確認できる項目について紹介します。

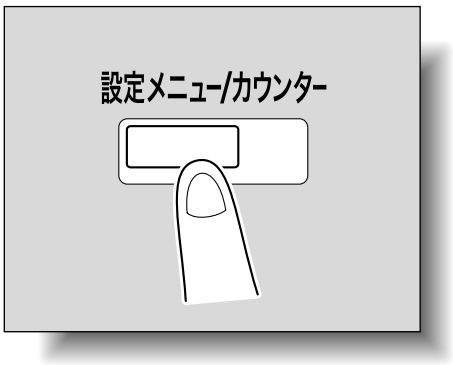
消耗品確認画面では以下の消耗品の状態（消耗レベル）を確認できます。

- イメージングユニット（C）
- イメージングユニット（M）
- イメージングユニット（Y）
- イメージングユニット（K）
- 定着ユニット
- 転写ベルトユニット

消耗レベルはグラフで表示されます。

11.5.1　消耗品確認画面を表示させる

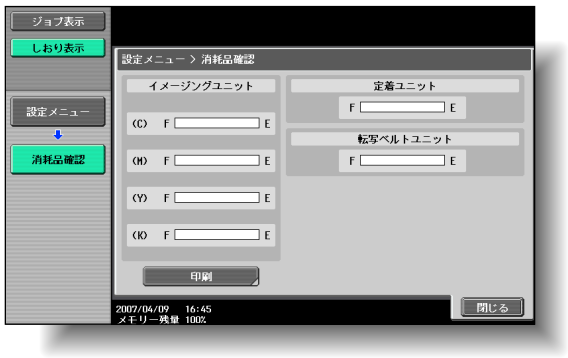
1 【設定メニュー / カウンター】を押します。



2 ［4 消耗品確認］を押します。



消耗品確認画面が表示されます。



❍ 消耗レベルのリストを印刷する場合は、［印刷］を押し、［実行］または【スタート】を押します。

ひとこと

左記消耗品はサービス交換です。交換の場合はサービス実施店までご連絡ください。

ひとこと

・設定メニューでは、キーに表示されている番号をテンキーで入力しても選択できます。［4 消耗品確認］の場合は、テンキーの【4】と入力します。
・設定メニューを終了するときは、【設定メニュー / カウンター】を押します。コピー、ファクス / スキャン、ボックスのいずれかの画面になるまで［閉じる］を押しても終了できます。

11.6　ウィークリータイマーの設定の概要

ウィークリータイマーの設定はそれぞれの機能を組合わせて行います。
概要は以下のとおりです。

原則

ウィークリータイマーが設定されているときは、電源が OFF のときでも本機の電源プラグをコンセントに接続したままにしてください。
設定メニュー／管理者設定／環境設定／日時設定を正確に設定してください。

1. ウィークリータイマー使用設定を［する］にします。
2. タイマー予約時刻設定をします。
3. 動作日の設定をします。
4. 昼休み OFF 機能、時間外パスワードの必要な機能を設定します。

ウィークリータイマーが設定されます。

11.7　プリンター調整

11.7.1　　印刷位置：先端

用紙排紙方向に対して用紙先端部分の印刷開始位置を用紙ごとに調整できます。

原則

印刷開始位置は出荷時に調整済みです。通常の場合、設定値を変更する必要はありません。

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［1 環境設定］を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 ［7 エキスパート調整］を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4 ［2 プリンター調整］を押します。
プリンター調整画面が表示されます。

5 ［1 印刷位置：先端］を押します。
印刷位置調整：先端画面が表示されます。

6 設定する用紙種類のキーを押します。



7 【スタート】を押します。
テストパターンが印刷されます。

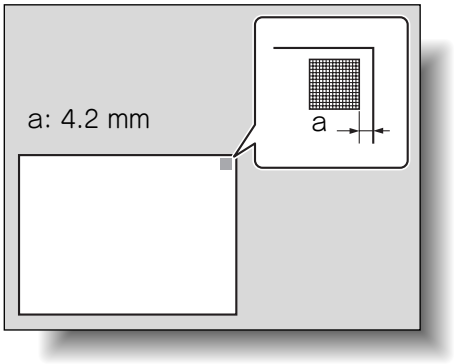
参照
管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

ひとこと
手差しトレイにセットした用紙のみが使用できます。

8

用紙の先端からテストパターンの印刷開始位置の幅（a）が 4.2 mm であることを確認します。

- 幅が 4.2 mm 以下の場合は、[+] を押して補正値を増やします。(0.2 mm ～ 3.0 mm)
- 幅が 4.2 mm 以上の場合は、[-] を押して補正値を減らします。(-0.2 mm ～ -3.0 mm)



9

【スタート】を押します。

補正されたテストパターンが印刷されます。

10

用紙の先端からテストパターンの印刷開始位置の幅を確認します。

- 幅が 4.2 mm に補正されたことを確認します。
- 調整が必要な場合は、手順 8 ～ 9 を繰り返します。
- 別の用紙種類の印刷位置調整する場合は、手順 6 に戻ります。

11

[OK] を押します。

印刷位置が調整されます。

ひとこと

[+] または [-] を押しつづけると、数値が連続で変化します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

11.7.2　印刷位置：側端

用紙排紙方向に対して用紙左端部分の印刷開始位置を給紙トレイごとに調整できます。

原則

印刷開始位置は出荷時に調整済みです。通常の場合、設定値を変更する必要はありません。

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［1 環境設定］を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 ［7 エキスパート調整］を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4 ［2 プリンター調整］を押します。
プリンター調整画面が表示されます。

5 ［2 印刷位置：側端］を押します。
印刷位置調整：側端画面が表示されます。

6 設定する給紙トレイのキーを押します。



7 【スタート】を押します。
テストパターンが印刷されます。

ひとこと

手差しトレイの調整に使用できる用紙は、A4 普通紙のみです。

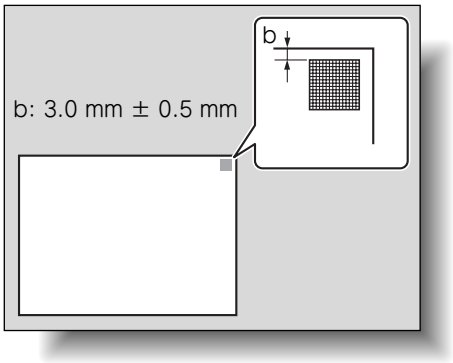
参照

管理者設定画面の表示のしかたは「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

8

用紙の端からテストパターンの印刷位置の幅（b）が 3 mm（± 0.5 mm）であることを確認します。

- 幅が 2.4 mm 以下の場合は、[+] を押して補正値を増やします。(0.2 mm ～ 3.0 mm)
- 幅が 3.6 mm 以上の場合は、[-] を押して補正値を減らします。(-0.2 mm ～ -3.0 mm)
- 幅が 2.5 mm ～ 3.5 mm の範囲内の場合は、手順 10 へ進みます。



9

【スタート】を押します。

補正されたテストパターンが印刷されます。

10

用紙の端からテストパターンの印刷開始位置の幅を調整します。

- 幅が 2.5 mm ～ 3.5 mm の範囲内に補正されたことを確認します。
- 調整が必要な場合は、手順 8 ～ 9 を繰り返します。
- 別の給紙トレイの印刷位置調整をする場合は、手順 6 に戻ります。

11

[OK] を押します。

印刷位置が調整されます。

ひとこと

[+] または [-] を押しつづけると、数値が連続で変化します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

11.7.3　両面印刷位置：先端

自動両面印刷の 2 面目を印刷するときに用紙先端部分の印刷開始位置を用紙ごとに調整できます。

原則

印刷開始位置は出荷時に調整済みです。通常の場合、設定値を変更する必要はありません。

1

管理者設定画面を表示させます。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」(p. 11-36)をごらんください。

2

[1 環境設定] を押します。

環境設定画面が表示されます。

3

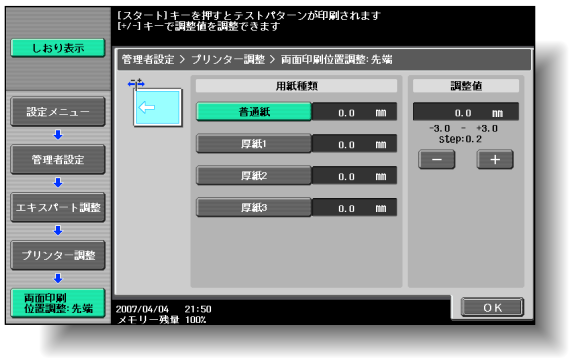
[7 エキスパート調整] を押します。

エキスパート調整画面が表示されます。

4 ［2 プリンター調整］を押します。
プリンター調整画面が表示されます。

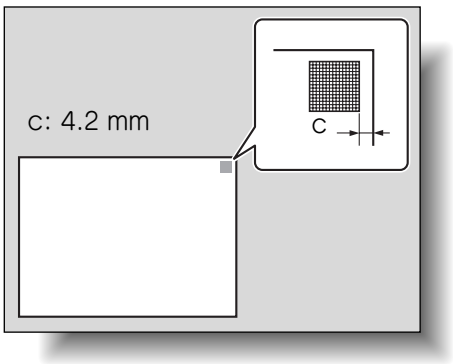
5 ［3 両面印刷位置：先端］を押します。
両面印刷位置調整：先端画面が表示されます。

6 設定する用紙種類のキーを押します。



7 【スタート】を押します。
テストパターンが印刷されます。

8 用紙の先端からテストパターンの印刷開始位置の幅（c）が 4.2 mm であることを確認します。
- 幅が 4.2 mm 以下の場合は、［+］を押して補正値を増やします。（0.2 mm ～ 3.0 mm）
- 幅が 4.2 mm 以上の場合は、［-］を押して補正値を減らします。（-0.2 mm ～ -3.0 mm）



9 【スタート】を押します。
補正されたテストパターンが印刷されます。

ひとこと
手差しトレイにセットした用紙のみが使用できます。

ひとこと
［+］または［-］を押しつづけると、数値が連続で変化します。

10 用紙の先端からテストパターンの印刷開始位置の幅を確認します。
- 幅が 4.2 mm に補正されたことを確認します。
- 調整が必要な場合は、手順 8 ～ 9 を繰り返します。
- 別の用紙種類の印刷位置調整をする場合は、手順 6 に戻ります。

11 ［OK］を押します。
印刷位置が調整されます。

11.7.4　両面印刷位置：側端

自動両面印刷の 2 面目を印刷するときに左端部分の印刷開始位置を給紙トレイごとに調整できます。

原則

印刷開始位置は出荷時に調整済みです。通常の場合、設定値を変更する必要はありません。

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［1 環境設定］を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 ［7 エキスパート調整］を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4 ［2 プリンター調整］を押します。
プリンター調整画面が表示されます。

5 ［4 両面印刷位置：側端］を押します。
両面印刷位置調整：側端画面が表示されます。

6 設定する給紙トレイのキーを押します。



7 【スタート】を押します。
テストパターンが印刷されます。

ひとこと

手差しトレイの調整に使用できる用紙は、A4 普通紙のみです。

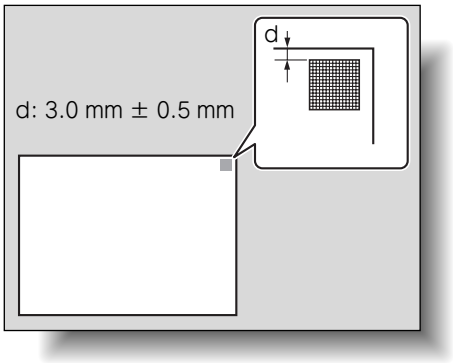
参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

8

用紙の端からテストパターンの印刷位置の幅（d）が 3 mm（± 0.5 mm）であることを確認します。

- 幅が 2.4 mm 以下の場合は、[+] を押して補正値を増やします。(0.2 mm ～ 3.0 mm)
- 幅が 3.6 mm 以上の場合は、[-] を押して補正値を減らします。(-0.2 mm ～ -3.0 mm)
- 幅が 2.5 mm ～ 3.5 mm の範囲内の場合は、手順 10 へ進みます。



9

【スタート】を押します。

補正されたテストパターンが印刷されます。

10

用紙の端からテストパターンの印刷開始位置の幅を調整します。

- 幅が 2.5 mm ～ 3.5 mm の範囲内に補正されたことを確認します。
- 調整が必要な場合は、手順 8 ～ 9 を繰り返します。
- 別の給紙トレイの印刷位置調整をする場合は、手順 6 に戻ります。

11

[OK] を押します。

印刷位置が調整されます。

ひとこと

[+] または [-] を押しつづけると、数値が連続で変化します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

11.7.5　メディア調整

プリント画像不良を用紙種類ごとに調整できます。

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［1 環境設定］を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 ［7 エキスパート調整］を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4 ［2 プリンター調整］を押します。
プリンタ調整画面が表示されます。

5 ［5 メディア調整］を押します。
メディア調整画面が表示されます。

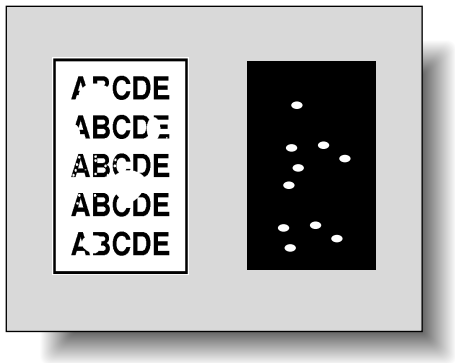
6 調整する用紙種類キーを押します。



- 片面コピー時に画像不良が発生した場合は、1 面目の用紙種類を選択します。
- 両面コピー時のウラ面に画像不良が発生した場合は、2 面目の用紙種類を選択します。

7 ［+］、［-］を押して調整値のパラメータを調整します。（-8 ～ +7）

- プリント画像に白抜けや白斑点がある場合、［-］を押して調整します。



参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

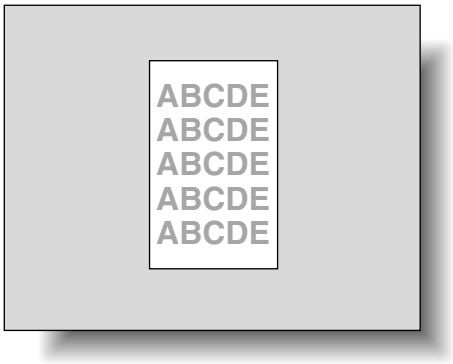
ひとこと

［+］または［-］を押しつづけると、数値が連続で変化します。

詳しく説明します

白抜けや白斑点の白点部分の大きさが 0.5 mm 以下のものに対して調整が可能です。

❍ プリント画像にザラツキがある場合、[+] を押して調整します。



8 [OK] を押します。

9 [閉じる] を押します。

再度コピーを行います。

10 プリント画像を確認し、画像不良がなくなっていれば調整を終了します。

❍ まだ調整が必要な場合は、手順 1 ～ 9 を繰り返します。

詳しく説明します

画像不良の度合いが悪化しているようであれば、手順 7 の調整を [+]、[-] 逆方向に調整してください。

11.8　フィニッシャー調整

11.8.1　　センターステープル位置調整

センターステープル機能で印刷するときのステープル位置を用紙サイズ別に調整できます。

原則

- 中折り位置調整後に、センターステープル位置を調整してください。
- 調整を始める前に、センターステープル機能を使い、1 冊のコピーサンプルを作成します。調整は作成したサンプルを見ながら行います。

詳しく説明します

オプションのフィニッシャー FS-609 を装着していない場合、またはフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されていない場合、［センターステープル位置調整］は表示されません。

ひとこと

ステープルの傾き調整は、サービス実施店にご連絡ください。

参照

- センターステープル機能については、「用紙の中央をとじて排紙する（中とじ）」（p. 2-68）をごらんください。
- 中折り位置調整については、「中折り位置調整」（p. 11-51）をごらんください。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［1 環境設定］を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 ［7 エキスパート調整］を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4 ［3 フィニッシャー調整］を押します。
フィニッシャー調整画面が表示されます。

5 ［1 センターステープル位置調整］を押します。
センターステープル位置調整画面が表示されます。
<フィニッシャー FS-519 + 中綴じ機>



❍ オプションのフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されている場合は、用紙サイズと用紙種類を選択します。

<フィニッシャー FS-609 >

詳しく説明します

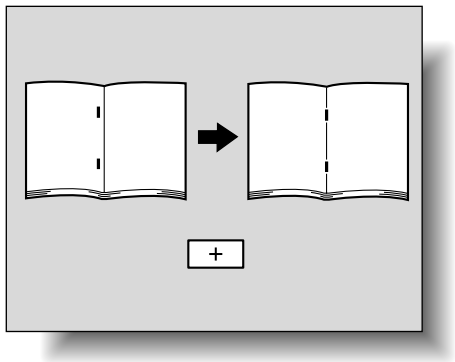
調整したい用紙サイズが表示されていないときは、［↑］または［↓］で、表示を切換えます。



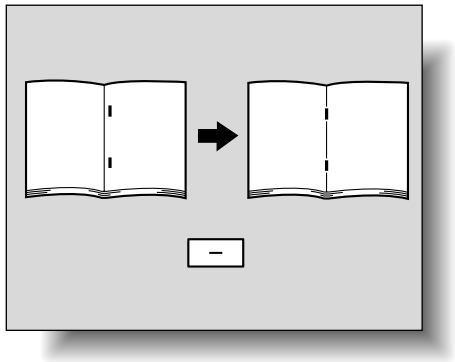
6

サンプルの左側のページと、右側のページの幅を比較し、用紙の中央を確認します。

❍ 用紙の中央に対して左側にステープル位置がずれている場合は、[+] を押して補正値を増やします。



❍ 用紙の中央に対して右側にステープル位置がずれている場合は、[-] を押して補正値を減らします。



7

[OK] を押します。

中とじ位置が調整されます。

手順 6 で用紙の中央にステープル位置がある場合は、ここで終了です。

8

再度、センターステープル機能を使用し、コピーサンプルを作成します。

ひとこと

・[+] または [-] を押しつづけると、数値が連続で変化します。
・フィニッシャー FS-519 の場合、-10 ～ 10 の範囲で設定が可能です。
・フィニッシャー FS-609 の場合、-7 mm ～ 7 mm の範囲で設定が可能です。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

9 サンプルで印刷結果を確認します。

- ステープル位置が用紙の中央に補正されたことを確認します。
- 調整が必要な場合は、手順 5 ～ 8 を繰り返します。

11.8.2　中折り位置調整

中折り機能で印刷するときの中折り位置を用紙サイズ別、用紙種類別に調整できます。

原則

調整を始める前に、中折り機能を使い、1 冊のコピーサンプルを作成します。調整は作成したサンプルを見ながら行います。

1 管理者設定画面を表示させます。

2 [1 環境設定] を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 [7 エキスパート調整] を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4 [3 フィニッシャー調整] を押します。
フィニッシャー調整画面が表示されます。

5 [2 中折り位置調整] を押します。
中折り位置調整画面が表示されます。
<フィニッシャー FS-519 + 中綴じ機>



- オプションのフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されている場合は、用紙サイズと用紙種類を選択します。

詳しく説明します

オプションのフィニッシャー FS-609 を装着していない場合、またはフィニッシャー FS-519 に中綴じ機が装着されていない場合、[中折り位置調整] は表示されません。

ひとこと

中折り位置の傾き調整は、サービス実施店にご連絡ください。

参照

中折り機能については、「用紙の中央をとじて排紙する（中とじ）」（p. 2-68）をごらんください。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

詳しく説明します

調整したい用紙サイズが表示されていないときは、[↑] または [↓] で、表示を切換えます。

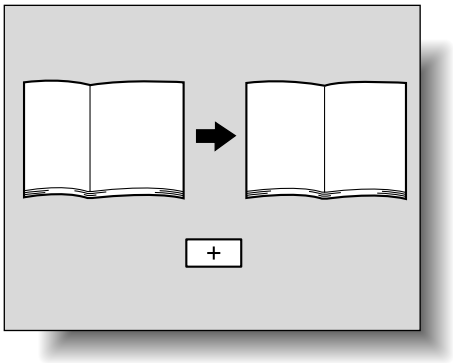
<フィニッシャー FS-609 >



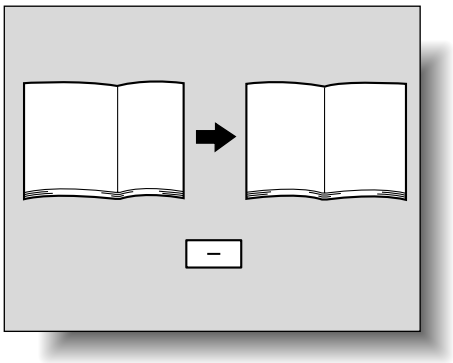
6

サンプルの左側のページと、右側のページの幅を比較し、用紙の中央を確認します。

❍ 用紙の中央に対して左側に折り位置がずれている場合は、［+］を押して補正値を増やします。



❍ 用紙の中央に対して右側に折り位置がずれている場合は、［-］を押して補正値を減らします。



7

［OK］を押します。

中折り位置が調整されます。

手順 6 で用紙の中央に折り位置がある場合は、ここで終了です。

8

再度、中折り機能を使用し、コピーサンプルを作成します。

ひとこと

・［+］または［-］を押しつづけると、数値が連続で変化します。
・フィニッシャー FS-519 の場合、-10 ～ 10 の範囲で設定が可能です。
・フィニッシャー FS-609 の場合、-7 mm ～ 7 mm の範囲で設定が可能です。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

9 サンプルで印刷結果を確認します。
- ❍ 折り位置が用紙の中央に補正されたことを確認します。
- ❍ 調整が必要な場合は、手順 5 ～ 8 を繰り返します。

11.8.3　パンチ横位置調整

パンチ機能で印刷するときのパンチ穴の横位置を用紙サイズ別に調整できます。

原則

調整を始める前に、パンチ機能を使い、1 枚のコピーサンプルを作成します。調整は作成したサンプルを見ながら行います。

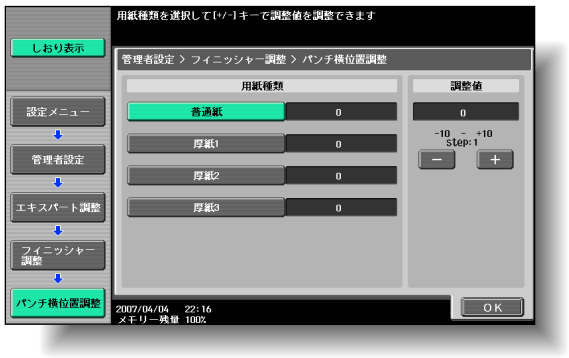
1 管理者設定画面を表示させます。

2 [1 環境設定] を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 [7 エキスパート調整] を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4 [3 フィニッシャー調整] を押します。
フィニッシャー調整画面が表示されます。

5 [3 パンチ横位置調整] を押します。
パンチ横位置調整画面が表示されます。



詳しく説明します
オプションのフィニッシャーにパンチキットが装着されていない場合、[パンチ横位置調整] は表示されません。

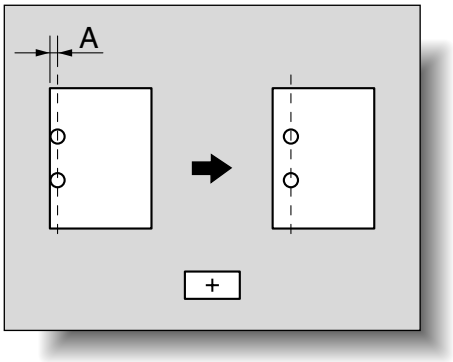
参照
パンチ機能については、「パンチ穴をあけて排紙する（パンチ）」（p. 2-64）をごらんください。

参照
管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

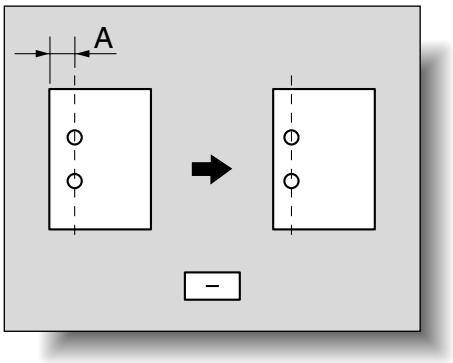
6

調整する用紙種類キーを押します。
パンチ穴の横位置を確認します。

❍ A 幅を広くする場合は、[+] を押して調整値を増やします。



❍ A 幅を狭くする場合は、[-] を押して調整値を減らします。



7

[OK] を押します。

パンチ穴の横位置が調整されます。

手順 6 でパンチ穴の横位置調整が不要な場合は、ここで終了です。

8

再度、パンチ機能を使用し、コピーサンプルを作成します。

9

サンプルで印刷結果を確認します。

❍ パンチ穴の横位置が補正されたことを確認します。

❍ 調整が必要な場合は、手順 6 ～ 9 を繰り返します。

ひとこと

・[+] または [-] を押しつづけると、数値が連続で変化します。
・-10 ～ 10 の範囲で設定が可能です。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

11.8.4　パンチレジストループ量調整

パンチ機能で印刷するときの、用紙の辺に対するパンチ穴位置の傾きを調整できます。

原則

調整を始める前に、パンチ機能を使い、1 枚のコピーサンプルを作成します。調整は作成したサンプルを見ながら行います。

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［1 環境設定］を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 ［7 エキスパート調整］を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4 ［3 フィニッシャー調整］を押します。
フィニッシャー調整画面が表示されます。

5 ［4 パンチレジストループ量調整］を押します。
パンチレジストループ量調整画面が表示されます。



6 パンチ穴位置の傾きを確認します。
❍ パンチ穴位置が傾いている場合は、［+］を押して調整値を変更します。［+］調整で傾きが補正できない場合、および用紙にしわ等が発生する場合は、［-］を押して調整値を変更します。

7 ［OK］を押します。
パンチ穴位置の傾きが調整されます。
手順 6 でパンチ穴位置の傾き調整が不要な場合は、ここで終了です。

8 再度、パンチ機能を使用し、コピーサンプルを作成します。

詳しく説明します
オプションのフィニッシャーにパンチキットが装着されていない場合、［パンチレジストループ量調整］は表示されません。

参照
パンチ機能については、「パンチ穴をあけて排紙する（パンチ）」（p. 2-64）をごらんください。

参照
管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

ひとこと
・［+］または［-］を押しつづけると、数値が連続で変化します。
・-4 mm ～ +4 mm の範囲で設定が可能です。

ひとこと
【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

9

サンプルで印刷結果を確認します。

- パンチ穴位置の傾きが補正されたことを確認します。
- 調整が必要な場合は、手順 6 ～ 7 を繰り返します。

11.9　色重ねズレの補正をする

11.9.1　色重ねズレ補正（イエロー、マゼンタ、シアン）

印刷結果に色ずれが見られる場合、色ずれを補正できます。
色ずれは、普通紙、厚紙 1、2、3、4 でそれぞれ補正できます。
色重ねズレ補正のしかたは、イエロー、マゼンタ、シアンで同じ手順です。
ここでは A3 サイズの普通紙を使用して、シアンの色重ねズレ補正をする場合の手順を説明します。

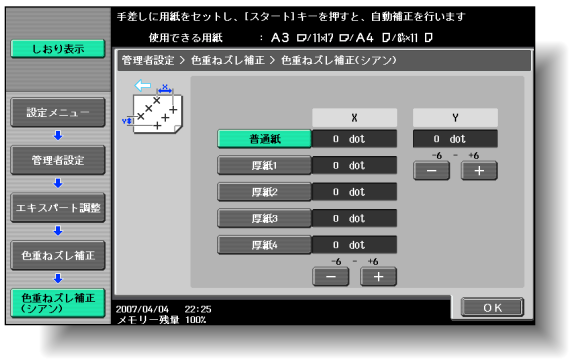
1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［1 環境設定］を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 ［7 エキスパート調整］を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4 ［7 色重ねズレ補正］を押します。
色重ねズレ補正画面が表示されます。

5 ［3 色重ねズレ補正（シアン）］を押します。
色重ねズレ補正（シアン）画面が表示されます。



6 手差しトレイに用紙をセットします。

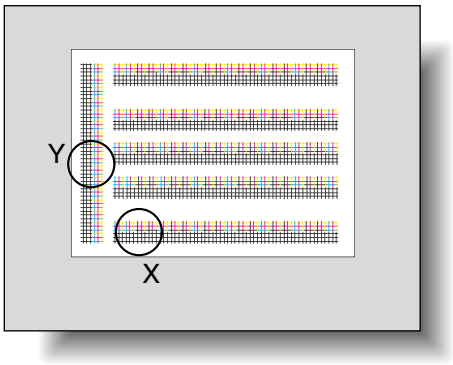
7 【スタート】を押します。
テストパターンが印刷されます。

参照
管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

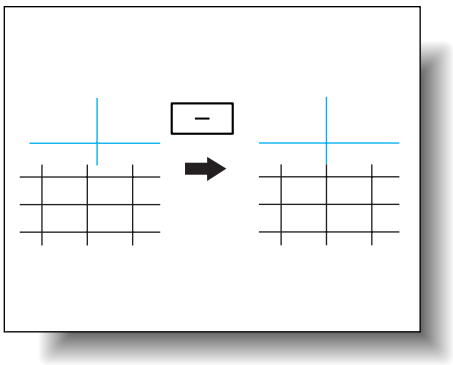
ひとこと
テストパターンは A3 ⊏、11 × 17 ⊏、A4 ⊐、8-1/2 × 11 ⊐ に印刷でき、手差しトレイのみにセットできます。

8

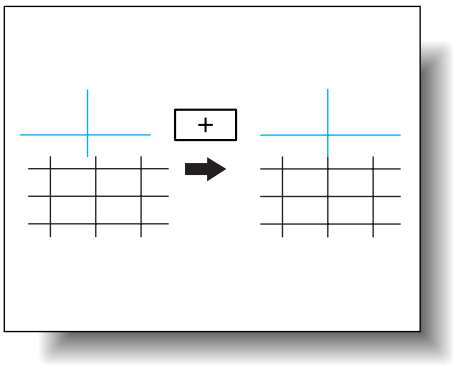
テストパターンのＸとＹ位置の、ブラック線の基準点からシアン線までの距離を確認します。



❍ Ｘ部の線が下図のようにずれている場合は、Ｘ値の［-］を押して補正値を減らしてください。



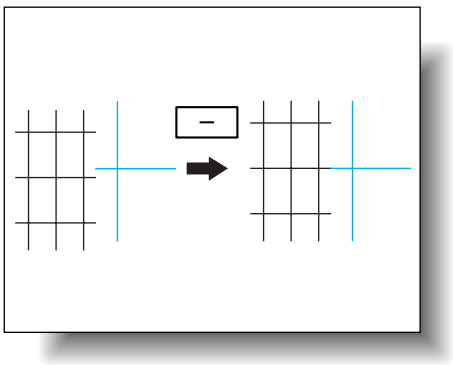
❍ Ｘ部の線が下図のようにずれている場合は、Ｘ値の［+］を押して補正値を増やしてください。



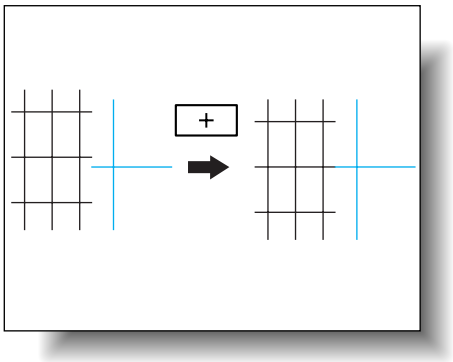
ひとこと

・［+］または［-］を押しつづけると、数値が連続で変化します。
・-6 dot ～ +6 dot の範囲で設定が可能です。

❍ Y 部の線が下図のようにずれている場合は、Y 値の［-］を押して補正値を減らしてください。



❍ Y 部の線が下図のようにずれている場合は、Y 値の［+］を押して補正値を増やしてください。



❍ 基準点にずれがない場合は、手順 10 に進んでください。

9 【スタート】を押します。

補正されたテストパターンが印刷されます。

10 印刷結果を確認します。

❍ ブラック線とシアン線のずれがない場合は、手順 11 に進みます。

❍ 調整が必要な場合は、手順 8 ～ 9 を繰り返します。

11 ［OK］を押します。

ひとこと

【スタート】を押すと補正値が確定されます。設定を取消すには、【スタート】を押す前に、【リセット】を押します。

ひとこと

【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

11.10　階調補正

印刷画像の色階調が変化した場合に、階調を補正できます。
以下の項目の階調を補正できます。

- 圧縮優先：
  メモリーへ保存する画像枚数を増やすことを重視して補正します。
- 階調優先：画像の階調表現を重視して補正します。
- 解像度優先：
  文字や線などの再現性を重視して補正します。

ここではコピーの階調補正手順を説明します。

原則

・　階調補正を行う前に、必ず本機を再起動してください。
・　イメージングユニット交換後は、必ず階調補正を行ってください。

1　管理者設定画面を表示させます。

2　［1 環境設定］を押します。
環境設定画面が表示されます。

3　［7 エキスパート調整］を押します。
エキスパート調整画面が表示されます。

4　［8 階調補正］を押します。
階調補正画面が表示されます。

5　【スタート】を押します。
画像安定化動作が開始されます。

6　補正する項目のキーを押します。



必ず守ってください

【主電源スイッチ】を OFF/ON する場合は、主電源を OFF にして、10 秒以上経過してから ON にしてください。間隔をあけないと、正常に機能しないことがあります。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

ひとこと

階調補正は、画像安定化を行わないと実行できません。

7 【スタート】を押します。



テストパターンが印刷されます。



8 テストパターンが印刷された用紙を原稿ガラス上にセットします。

❍ 画面を参考に、用紙の向きに注意してセットします。



9 テストパターンと同じサイズの白紙をテストパターンの上に 10 枚以上セットします。

10 ADF またはオリジナルカバーを閉じます。

11 【スタート】を押します。

印刷されたテストパターンが読込まれます。

12 手順 6 ～ 11 までの操作を 3 回繰り返します。

13 ［閉じる］を押します。

ひとこと

テストパターンは普通紙がセットされているトレイから、A3 ◪、11 × 17 ◪、A4 ▯、8-1/2 × 11 ▯ の優先順で自動選択された用紙に印刷されます。手差しトレイは選択されません。

ひとこと

原稿が透けないよう、白紙 10 枚をセットします。透けてしまうと、階調補正が正しく行われません。

ひとこと

テストパターンを読込むと、読込んだ画像を元に自動で階調補正が行われます。

11.11　ヘッダー / フッターを設定する

応用設定の［スタンプ / ページ印字］で使用するヘッダー / フッターを設定する手順を説明します。

11.11.1　ヘッダー / フッターの設定のしかた

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［1 環境設定］を押します。
環境設定画面が表示されます。

3 ［次画面→］を押し、［2 スタンプ設定］を押します。
スタンプ設定画面が表示されます。

4 ［1 ヘッダー / フッター設定］を押します。



ヘッダー / フッター設定画面が表示されます。

5 ［登録］を押します。



ヘッダー / フッター登録画面が表示されます。

参照
管理者設定画面の表示のしかたは「管理者設定画面を表示させる」(p. 11-36) をごらんください。

6 ［登録名］を押します。



ヘッダー / フッター名の登録画面が表示されます。

7 ヘッダー/ フッター名を入力し(全角で 8 文字まで、半角で 16 文字まで)、［OK］を押します。



ヘッダー / フッター名が設定されます。

8 ヘッダー設定またはフッター設定の［印刷する］を押し、印刷するヘッダー / フッターの種類を選択します。



9 ［印字ページ］［文字の色］［文字サイズ］をそれぞれ選択します。

10 ［OK］を押します。

参照

文字の入力のしかたは、「文字を入力するには」(p. 12-2) をごらんください。

詳しく説明します

［先頭ページのみ］を選択した場合、先頭ページのみにヘッダー / フッターが印字されます。

11.11.2　ヘッダー / フッターの編集のしかた

1 ヘッダー / フッター設定画面で、編集したいヘッダー / フッターキーを押します。

2 ［確認 / 変更］を押します。



確認 / 変更画面が表示されます。

❍ ヘッダー / フッターを削除する場合は、［削除］を押します。

3 ［OK］を押します。

11.12　認証方式

本機の使用を制限するユーザー認証や部門管理の設定ができます。

ユーザー認証は個人を管理するとき、部門管理はグループや複数のユーザーを管理するときに設定するのが適しています。

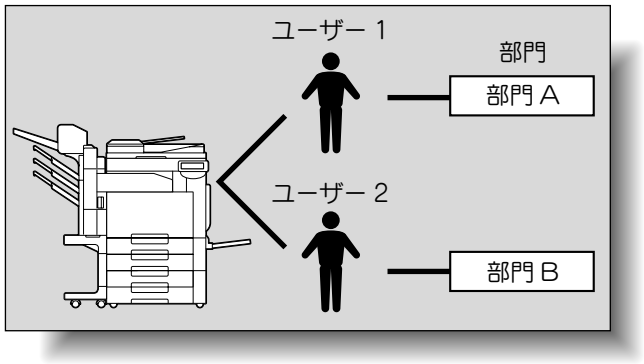
ユーザー認証と部門管理を組合わせて使用すると、ユーザー別に各部門のカウント管理ができます。

11.12.1　ユーザー認証と部門管理について

ユーザー認証と部門管理は、それぞれ以下の機能があります。

- ユーザー認証
  - 操作可能な機能を制限する（コピー操作／スキャン操作／ファクス操作／プリンター印字／蓄積文書操作／送信文書印字／外部メモリー保存／手動宛先入力）
  - ユーザーごとに出力／読込みのカウントを行う
  - カラー／ブラックの使用制限と枚数制限をする
  - 各ユーザー所有の個人ボックス、グループボックスの操作をする
  - 各ユーザの参照できる宛先の参照許可グループ / レベルの操作をする
  - 他のユーザーのジョブを削除禁止する
- 部門管理
  - 部門ごとに出力／読込みのカウントを行う
  - カラー／ブラックの使用制限と枚数制限をする
  - グループボックスの操作をする

11.12.2　ユーザー認証と部門管理を連動する場合



本機を複数の部署で使用する場合に、各社員を部署ごとに管理して利用するときに適しています。この設定をすると、社員別（ユーザー別）に集計をとったり、部署ごと（部門ごと）に集計をとることができます。

このように管理する場合、認証方式は以下のように設定します。

認証方式の設定メニュー	必要な設定
ユーザー認証	［外部サーバー認証］、［本体装置認証］のどちらかを選択します。
部門管理	［管理する］を選択し、部門名とパスワードを設定します。
ユーザー認証 / 部門認証の連動	［連動する］を選択します。
ユーザー登録 / 所属部門	本体装置認証選択時は、所属部門を設定します。

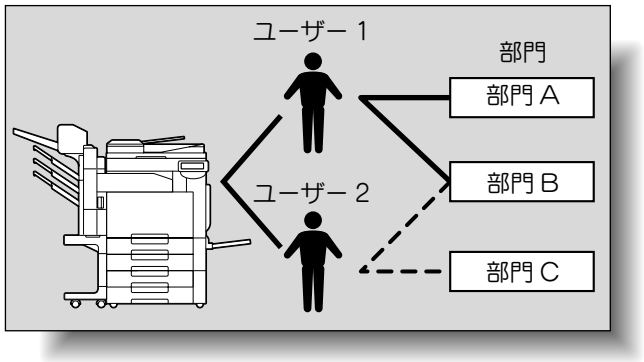
ひとこと

- 本機では、ユーザー認証と部門管理は合計 1,000 件まで登録できます。1,000 件以上登録したい場合は、PageScope Authentication Manager を利用してください。PageScope Authentication Manager を利用すると 30,000 件まで登録することができます。
- 認証方式が設定されていると、本機の待機中に認証画面が表示されます。ユーザー認証 / 部門認証して本機を使用するには、ユーザー名、パスワードなどを入力する必要があります。詳しくは、「ユーザーごとに本機の使用者を制限する（ユーザー認証）」（p. 1-32）をごらんください。
- ユーザー認証と部門管理は連動しないで設定することができます。

参照

外部サーバー認証については、「ユーザーズガイド ネットワーク管理者編」をごらんください。

11.12.3　ユーザー認証と部門管理でそれぞれ認証する場合



本機を複数の社員で使用する場合に、それぞれの社員が複数の業務を行い、業務単位の集計をとるときに適しています。この設定をすると、社員別（ユーザー別）に統計をとったり、業務別（部門別）に集計をとることができます。また社員 1、社員 2 で同じ業務をする場合も、社員別（ユーザー別）、業務別（部門別）に集計がとれます。

このように管理する場合、認証方式は以下のように設定します。

認証方式の設定メニュー	必要な設定
ユーザー認証	［外部サーバー認証］、［本体装置認証］のどちらかを選択します。
部門管理	［管理する］を選択し、部門名とパスワードを設定します。
ユーザー認証 / 部門認証の連動	［連動しない］を選択します。

11.12.4　認証方式の設定のしかた

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［4 ユーザー認証 / 部門管理］を押します。

ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。

3 ［1 認証方式］を押します。

認証方式画面が表示されます。

4 「ユーザー認証」を設定します。

- ユーザー認証をしない場合は、［認証しない］を押します。
- 外部サーバーを使用してユーザー認証を行う場合は、［外部サーバー認証］を押し、サーバーの種類を選択します。
- 本機の認証システムを使用してユーザー認証を行う場合は、［本体装置認証］を押します。

参照

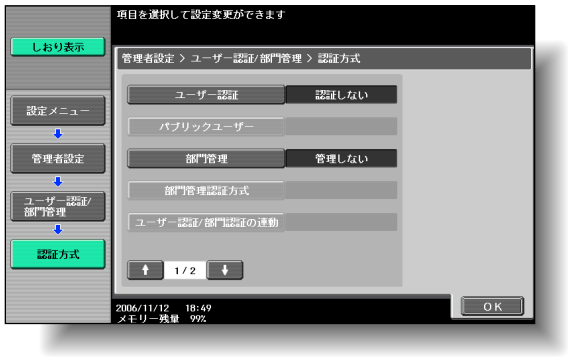
管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

詳しく説明します

外部サーバーを使用するには、あらかじめ外部サーバーを登録しておく必要があります。

参照

外部サーバー認証については、「ユーザーズガイド ネットワーク管理者編」をごらんください。



原則

外部サーバーのユーザー名には同一文字で大文字と小文字が入る名称は使用しないでください。C353/C253/C203 では大文字小文字の区別ができないため、正しく処理できないことがあります。

5

「パブリックユーザー」を設定します。

- ［許可しない］は本機に登録されていないユーザーは使用できない設定です。
- ［許可する］はユーザー認証設定をしている場合でも、認証画面で［パブリックユーザー］を押すと、ユーザー名やパスワードを入力しないで使用できる設定です。
- ［許可後ログイン］は、パブリックユーザーとしてログインするときは認証なしで本機を使用できる設定です。認証されているユーザーとしてログインするときは、はじめに【ID】を押し、認証画面を表示する必要があります。

6

「部門管理」を設定します。

- 部門管理をしない場合は［管理しない］を押します。
- 部門管理を行う場合は［管理する］を押します。

7

「部門管理認証方式」を設定します。

- ［部門名＋パスワード］は、部門認証画面で部門名とパスワードを入力してから本機を使用できる設定です。
- ［パスワードのみ］は、部門認証画面でパスワードを入力すると本機を使用できる設定です。

ひとこと

- 「ユーザー認証 / 部門認証の連動」は、「ユーザー認証」が［外部サーバー認証］または［本体装置認証］を選択して「部門管理」が［管理する］を選択しているときに、設定できます。
- パブリックユーザーの使用を［許可する］に設定した場合でも、「ユーザー認証 / 部門認証の連動」を［連動しない］に設定すると、パブリックユーザーの使用は［許可しない］が設定されます。

詳しく説明します

- ユーザー認証 / 部門認証の連動で［連動しない］を選択した場合、パブリックユーザーの使用を許可することはできません。
- ユーザー認証と部門管理の両方を設定した場合、部門管理認証方式は、「部門名＋パスワード」が設定されます。
- 「パブリックユーザー」は、本機を一時的に使用するユーザーの設定です。使用を許可する場合は機能制限設定することをおすすめします。詳しくは、「ユーザー登録」(p. 11-72)をごらんください。
- ［本体装置認証］［外部サーバー認証］を選択している場合に、部門管理を行うと、ユーザー認証画面でユーザー名とパスワードを入力し、次に部門認証画面で部門名とパスワードを入力します。
- PageScope Authentication Manager で認証を行っている場合は、［部門管理］を設定することができません。

8

「ユーザー認証 / 部門認証の連動」を設定します。

- ［連動する］
  ［本体装置認証］と部門管理を［管理する］に設定した場合、ユーザー登録時に所属部門を設定しておくことで、1 度目の認証からユーザー認証のみで本機を使用できる設定です。
  ［外部サーバー認証］と部門管理を［管理する］に設定した場合、1 度ユーザー認証と部門認証にて本機を使用すると、次回使用するときから認証された部門に連動されユーザー認証のみで、本機を使用できる設定です。
- ［連動しない］
  本機を使用するたびにユーザー認証と部門認証を行う設定です。

詳しく説明します

・［本体装置認証］と部門管理を［管理する］に設定した場合、1 度ユーザー認証と部門認証にて本機を使用すると、認証した部門が所属部門に登録されます。次回からはユーザー認証のみで使用できます。
・ユーザー認証 / 部門認証の連動で［連動しない］を選択した場合、パブリックユーザーの使用を許可することはできません。

9

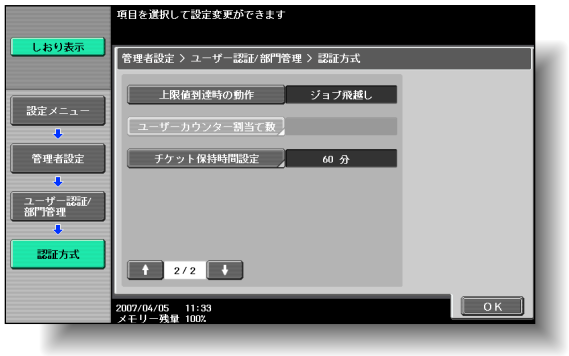
［↓］を押します。

2 ページ目が表示されます。

10

「上限値到達時の動作」を設定します。

- ユーザー認証または部門管理で設定した上限値に到達したときにジョブを飛越す場合は、［ジョブ飛越し］を押します。
- ユーザー認証または部門管理で設定した上限値に到達したときに全てのジョブを停止する場合は、［ジョブ停止］を押します。



11

「ユーザーカウンター割当て数」を設定します。

- 【C】を押しテンキーで数値を入力します。（1 個～ 999 個）
- ユーザー認証と部門管理を有効にしている場合は、カウンターを部門用とユーザー用の両方に割振ることができ、両方のカウント値も集計できます。

ひとこと

・「ユーザーカウンター割当て数」は、「ユーザー認証」が［外部サーバー認証］または［本体装置認証］を選択して「部門管理」が［管理する］を選択しているときに、設定できます。
・ユーザーカウンター割当て数を 50 個にした場合、部門数は 950 個まで登録できます。

12

「チケット保持時間設定」を設定します。

- テンキーで時間を入力します。（1 分～ 60 分）

詳しく説明します

Kerberos 認証チケットの保持時間を設定します。認証サーバータイプが Active Directory 選択時に適用されます。

13

［OK］を押します。

「ユーザー認証」や「部門管理」、「ユーザーカウンター割当て数」の設定を変更すると、「すべての使用管理データをクリアしますか？」というメッセージが表示されます。

14

［はい］を押し、［OK］を押します。

認証方式が設定されます。
続けてユーザー認証の設定や部門管理の設定をします。

ひとこと

・［いいえ］を押した場合は、使用管理データはクリアされませんが、設定を変更できません。
・以下の設定を変更したときは、データクリアされません。「パブリックユーザー」、「上限値到達時の動作」、「ユーザー認証 / 部門認証の連動」、「チケット保持時間設定」
・【リセット】を押すと設定は中止され、初期設定に戻ります。

11.13　ユーザー認証設定

ユーザー認証に関する設定ができます。

11.13.1　管理設定－ユーザー名一覧表示

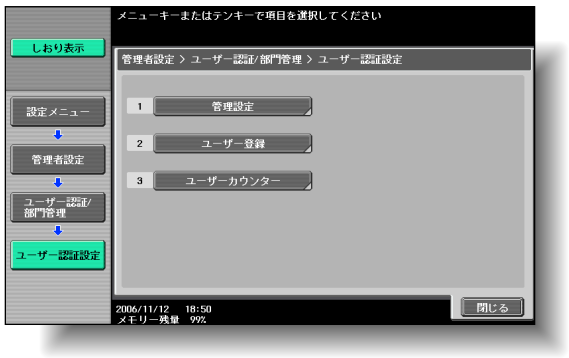
ユーザー認証設定をしているときに、ユーザー認証画面やユーザー名入力欄に［ユーザー名一覧］を表示することができます。［ユーザー名一覧］を押すと、本機に登録されているユーザー名が表示されるため、一覧から選択するだけでユーザー名を設定できます。（初期値：表示しない）

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［4 ユーザー認証 / 部門管理］を押します。
ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。

3 ［2 ユーザー認証設定］を押します。
ユーザー認証設定画面が表示されます。

4 ［1 管理設定］を押します。



5 ［ユーザー名一覧］を押します。
設定値選択キーが表示されます。

6 目的の設定値選択キーを押します。
ユーザー名の一覧キーの表示が設定されます。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

ひとこと

［2 ユーザー認証設定］は、認証方式でユーザー認証が［認証しない］に設定されていると選択できません。

11.13.2　初期機能制限

外部サーバー認証を設定している場合、認証したユーザーが本機で使用できる機能を制限できます。（初期値：許可する）

制限できるのは、以下の機能です。

- コピー操作
- スキャン操作
- ファクス操作
- プリンターからの印字
- ハードディスクに蓄積されている文書の操作
- 送信文書の印字
- 外部メモリー保存
- 手動宛先入力

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［4 ユーザー認証 / 部門管理］を押します。

ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。

3 ［2 ユーザー認証設定］を押します。

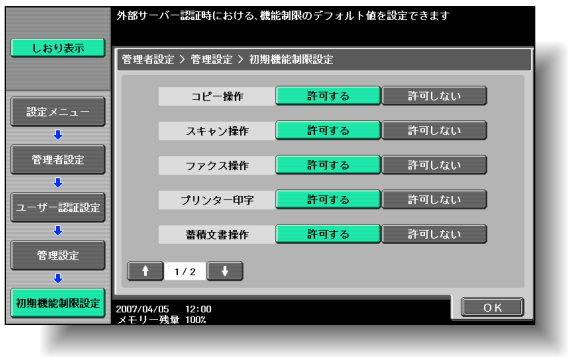
ユーザー認証設定画面が表示されます。

4 ［1 管理設定］を押します。

5 ［初期機能制限設定］を押します。

初期機能制限設定画面が表示されます。

6 目的のキーを押します。



7 ［OK］を押します。

初期機能制限が設定されます。

ひとこと

・登録済みのユーザーに使用制限をかけたい場合は、［ユーザー登録］で設定します。
・送信文書印字設定では、ボックスに保存した文書をスキャン送信やファクス送信する場合に、印字を禁止することができます。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

ひとこと

［2 ユーザー認証設定］は、認証方式でユーザー認証が［認証しない］に設定されていると選択できません。

11.13.3　パブリックユーザーの認証

ユーザー認証を設定し、パブリックユーザーの使用を許可している場合、パブリックユーザーの認証には 2 種類の方法があります。

［許可する］：認証画面に表示される［パブリックユーザー］を押すと、基本設定画面が表示され、本機の操作ができる状態になります。

［許可後ログイン］：パブリックユーザーとしてログインするときは、認証なしで本機を使用できる設定です。認証されているユーザーとしてログインするときは、はじめに【ID】を押し、認証画面を表示する必要があります。

（初期値：許可しない）

1. 管理者設定画面を表示させます。
2. ［4 ユーザー認証 / 部門管理］を押します。
   ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。
3. ［1 認証方式］を押します。
4. ［パブリックユーザー］を押します。
   設定値選択キーが表示されます。
5. 目的の設定値選択キーを押します。
   パブリックユーザーの認証方法が設定されます。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

ひとこと

・［パブリックユーザー］は、ユーザー認証が［認証しない］に設定されていると選択できません。
・パブリックユーザーの認証方法を［許可後ログイン］に設定した場合、一般ユーザーとしてログインするには、【ID】を押して認証画面を表示させます。

11.13.4　ユーザー登録

本機を使用するユーザーごとに、パスワード、印刷許可、印刷枚数の上限値、使用できる機能を設定できます。

また、本機に認証装置を装着した場合は、ユーザーの静脈パターンまたは IC カードの情報も登録できます。

ここでは本体装置認証時のユーザー登録を例に説明します。

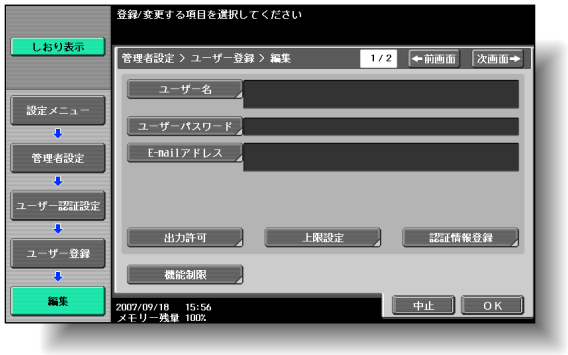
1. 管理者設定画面を表示させます。
2. ［4 ユーザー認証 / 部門管理］を押します。
   ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。
3. ［2 ユーザー認証設定］を押します。
   ユーザー認証設定画面が表示されます。
4. ［2 ユーザー登録］を押します。

参照

管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

5 目的のユーザーキーを押し、［編集］を押します。
各ユーザーの編集画面が表示されます。

6 ［ユーザー名］を押します。



ユーザー名画面が表示されます。

7 ユーザー名を入力し（全角 32 文字まで、半角 64 文字まで）、［OK］を押します。



ユーザー名が設定されます。

8 ［ユーザーパスワード］を押します。
パスワード画面が表示されます。

9 パスワードを入力し（64 文字まで）、［OK］を押します。
確認のため、パスワード画面が再び表示されますので、同じパスワードをもう 1 度入力し、［OK］を押します。
ユーザーパスワードが設定されます。

10 ［E-mail アドレス］を押します。
E-mail アドレス画面が表示されます。

11 E-mail アドレスを入力し（半角 320 文字まで）、［OK］を押します。
E-mail アドレスが設定されます。

詳しく説明します

・本機では、ユーザー認証と部門管理は合計 1000 件まで登録できます。
・認証方式でパブリックユーザーが［許可する］に設定されている場合は、Public が 1 件追加されます。パブリックユーザーの機能制限ができます。
・認証方式で部門管理を［管理する］に設定されている場合は、カウンター割当てで設定された件数まで登録できます。

参照

文字の入力のしかたは、「文字を入力するには」（p. 12-2）をごらんください。

ひとこと

・ユーザー名は 1 度登録すると変更できません。
・すでに登録されているユーザー名は、登録できません。

ひとこと

［ユーザーパスワード］は、認証方式でユーザー認証が［外部サーバー認証］に設定されていると表示されません。

ひとこと

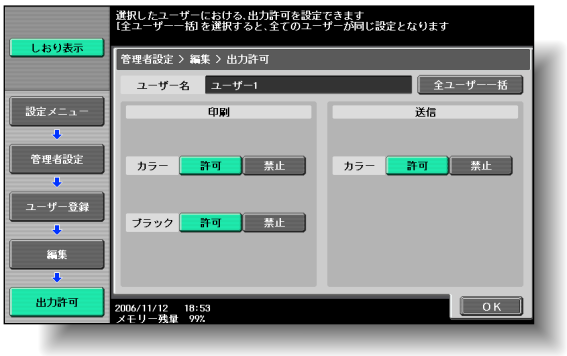
E-Mail アドレスが 101 文字以上になると、ユーザー登録画面に［詳細］が表示されます。［詳細］を押すと E-Mail アドレス詳細画面が表示され、E-Mail アドレスが表示されます。

12 部門管理を行う場合は、[所属部門]を押します。
所属部門画面が表示されます。

13 目的の所属部門キーを押し、[OK]を押します。
所属部門が設定されます。

14 [出力許可]を押します。
出力許可画面が表示されます。

15 「印刷」および「送信」でそれぞれの目的のキーを押し、[OK]を押します。
- このユーザーの出力を許可する場合は、[許可]を押します。
- このユーザーの出力を禁止する場合は、[禁止]を押します。



出力許可が設定されます。

16 [上限設定]を押します。
上限設定画面が表示されます。

ひとこと

[所属部門]は、認証方式で部門管理が[管理する]に設定されている場合にのみ表示されます。

参照

所属部門を選択する前に部門登録が必要です。
部門の登録のしかたは、「部門登録」(p. 11-79)をごらんください。

ひとこと

- [全ユーザー一括]を押すと、現在の画面の設定が、現在登録されている全てのユーザーに反映されます。[全ユーザー一括]を押して[OK]を2回押すとデータ処理中のメッセージが表示され、一括処理が行われます。このとき、主電源スイッチは絶対に“OFF”しないでください。
- 印刷のカラーを禁止した場合、オートカラー、フルカラー、2色カラー、単色カラーでの印刷ができません。
- 印刷のブラックを禁止した場合、オートカラー、ブラックでの印刷ができません。
- 印刷のカラー、ブラック両方を禁止した場合、正しく認証されても「コピーは禁止です」と表示されます。
- 送信のカラーを禁止した場合、カラーでのスキャン送信ができません。

17

［トータル管理］または［個別管理］を押します。

- カラーとブラックを分けずに上限を設定する場合は、［トータル管理］を押します。
- カラーとブラックを分けて上限を設定する場合は、［個別管理］を押します。
- カラーまたはブラックに上限を設定しない場合は、その項目の［無効］を押します。



18

［トータル］または［カラー］、［ブラック］を押して、テンキーで上限枚数を入力します。

19

［OK］を押します。

上限枚数が設定されます。

20

生体認証または IC カード認証を行う場合は、［認証情報登録］を押します。

認証情報登録画面が表示されます。

21

［編集］を押します。

- 認証装置（指静脈 生体認証タイプ）を利用する場合は、認証装置に指を置いて静脈パターンを登録します。
- 認証装置（IC カード認証タイプ）を利用する場合は、認証装置に IC カードを置きカードの情報を登録します。

22

［機能制限］を押します。

機能制限画面が表示されます。

ひとこと

［全ユーザー一括］を押すと、現在の画面の設定が、他のユーザー登録にも反映されます。［全ユーザー一括］を押して［OK］を 2 回押すと一括処理が行われます。

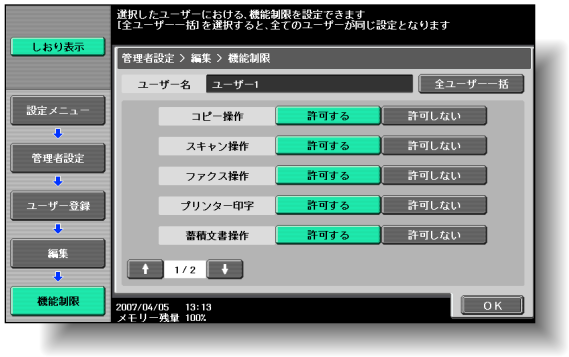
参照

認証装置の使い方については、認証装置に付属のマニュアルをごらんください。

ひとこと

［認証情報登録］は、本機に認証装置が装着されている場合にのみ表示されます。

23 それぞれの項目の目的のキーを押し、［OK］を押します。
- ❍ 操作を許可する場合は、［許可する］を押します。
- ❍ 操作を許可しない場合は、［許可しない］を押します。



機能制限が設定されます。

24 ［次画面→］を押し、［アイコン］を押します。



アイコン選択画面が表示されます。

25 ユーザー一覧に表示するアイコンを選択し、［OK］を押します。

アイコンが設定されます。

26 ［OK］を押します。

ひとこと

- ［全ユーザー一括］を押すと、現在の画面の設定が、他のユーザー登録にも反映されます。［全ユーザー一括］を押して［OK］を 2 回押すと一括処理が行われます。
- 送信文書印字設定では、ボックスに保存した文書をスキャン送信やファクス送信する場合に、印字を禁止することができます。
- 機能制限の設定によって、ログイン時の基本設定画面が切換わります。基本設定画面切換えの優先順位は、コピー→スキャナー→ファクス→ボックスです。
- どの機能も許可されていない場合は、ユーザー認証されません。

ひとこと

- ［中止］を押すと、現在の画面の設定が、取消されます。
- ユーザー登録画面で［削除］を押すと、選択中のユーザー情報が削除されます。

11.13.5　ユーザーカウンター

ユーザーごとに以下の項目を確認できます。

＜全プリント＞

コピー、プリンターの総印刷枚数が表示されます。

- トータル：全色、ブラック、フルカラー、2 色、単色カラーの総印刷枚数
- 上限値：ユーザー登録で設定した全色（トータル）、またはカラー（フルカラー、単色カラー、2 色カラー）、ブラックの印刷枚数の上限設定値
- 大サイズ：大サイズ用紙での全色、ブラック、フルカラー、2 色、単色カラーの総印刷枚数

＜コピー＞

コピーの総印刷枚数が表示されます。

- トータル：全色、ブラック、フルカラー、2 色、単色カラーの総コピー印刷枚数
- 大サイズ：大サイズ用紙での全色、ブラック、フルカラー、2 色、単色カラーの総コピー印刷枚数

＜プリンター＞

プリンターの総印刷枚数が表示されます。

- トータル：全色、ブラック、フルカラー、2 色の総プリンター印刷枚数
- 大サイズ：大サイズ用紙での全色、ブラック、フルカラー、2 色の総プリンター印刷枚数

＜ファクス / スキャン＞

- トータル：ファクス、スキャンでの、総読取り枚数／ブラック、カラーの総印刷枚数
- 大サイズ：ファクス、スキャンの大サイズ用紙での、総読取り枚数／ブラック、フルカラーの総印刷枚数

＜原稿枚数＞

- 読込んだ原稿枚数が表示されます。

＜用紙枚数＞

- 印刷時に使用した用紙枚数が表示されます。

＜ファクス送信枚数＞

- ファクス送信枚数：ファクスでの総送信枚数

詳しく説明します

・外部サーバー認証時のユーザーカウンターは、自動的にカウント処理されます。
・パブリックユーザーはカウンターの「public」にカウントされます。
・ボックス管理者はカウンターの「BoxAdmin」にカウントされます。

11.13.6　ユーザーカウンターの表示のしかた

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［4 ユーザー認証 / 部門管理］を押します。
ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。

3 ［2 ユーザー認証設定］を押します。
ユーザー認証設定画面が表示されます。

4 ［3 ユーザーカウンター］を押します。

5 目的のユーザーキーを押し、［カウンター詳細］を押します。
各ユーザーのカウンター詳細画面が表示されます。

6 確認する項目のキーを押し、カウンターを確認します。



7 ［閉じる］を押します。

参照
管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

詳しく説明します
- 各ユーザーカウンター画面で表示されている［カウンタークリア］を押すと、表示しているユーザーのカウンターをクリアします。［カウンタークリア］を押すと、カウンタークリアの確認画面が表示されます。確認画面で［はい］を押し、［OK］を押すと、表示しているユーザーのカウンターがクリアされます。上限値はクリアされません。
- ユーザーカウンター画面で表示されている［一括カウンタークリア］を押すと、全てのユーザーのカウンターをクリアします。［一括カウンタークリア］を押すと、カウンタークリアの確認画面が表示されます。確認画面で［はい］を押し、［OK］を押すと、全てのユーザーのカウンターがクリアされます。上限値はクリアされません。

11.14　部門管理設定

11.14.1　部門登録

本機を使用する部門ごとに、パスワード、印刷許可、印刷枚数の上限値を設定できます。

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［4 ユーザー認証 / 部門管理］を押します。
ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。

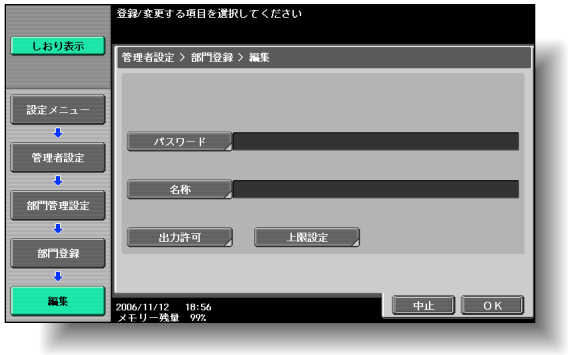
3 ［3 部門管理設定］を押します。
部門管理設定画面が表示されます。

4 ［1 部門登録］を押します。

5 目的の部門キーを押し、［編集］を押します。
各部門の編集画面が表示されます。
＜部門名＋パスワードの場合＞



＜パスワードのみの場合＞



6 ［部門名］を押します。
部門名画面が表示されます。

参照
管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

ひとこと
・本機では、ユーザー認証と部門管理は合計 1,000 件まで登録できます。
・部門管理の認証方式の設定により表示される画面が異なります。

詳しく説明します
部門名＋パスワードの場合、同じ部門名は使用できません。

7 部門名を入力し（英数字 8 文字まで）、[OK] を押します。



部門名が設定されます。

8 [パスワード] を押します。

パスワード画面が表示されます。

9 パスワードを入力し（半角 8 文字まで）、[OK] を押します。
確認のため、パスワード画面が再び表示されますので、同じパスワードをもう 1 度入力し、[OK] を押します。

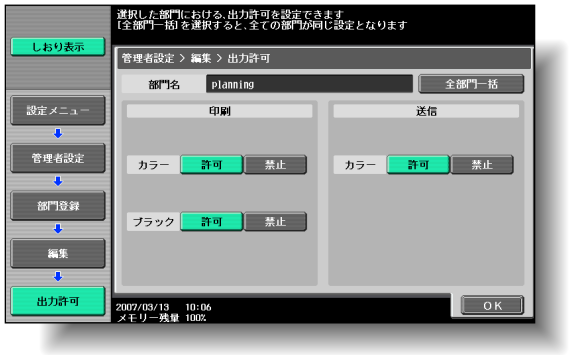
ユーザーパスワードが設定されます。

10 [出力許可] を押します。

出力許可画面が表示されます。

11 「印刷」および「送信」でそれぞれの目的のキーを押します。

- この部門の出力を許可する場合は、[許可] を押します。
- この部門の出力を禁止する場合は、[禁止] を押します。



12 [OK] を押します。

出力許可が設定されます。

13 [上限設定] を押します。

上限設定画面が表示されます。

参照

文字の入力のしかたは、「文字を入力するには」（p. 12-2）をごらんください。

ひとこと

- [名称] が表示されている場合は、部門名称を入力し、（全角 10 文字、半角 20 文字まで）[OK] を押します。
- 認証方式が [部門名 + パスワード] に設定されている場合、同じ部門名は登録できません。

ひとこと

認証方式が [パスワードのみ] に設定されている場合、同じパスワードを登録できません。

詳しく説明します

- [全部門一括] を押すと、現在の画面の設定が、現在登録されている全ての部門に反映されます。[全部門一括] を押して [OK] を 2 回押すとデータ処理中のメッセージが表示され、一括処理が行われます。このとき、主電源スイッチは絶対に “OFF” しないでください。
- 印刷のカラーを禁止した場合、オートカラー、フルカラー、2 色カラー、単色カラーでの印刷ができません。
- 印刷のブラックを禁止した場合、オートカラー、ブラックでの印刷ができません。
- 印刷のカラー、ブラック両方を禁止した場合、正しく認証されても「コピーは禁止です」と表示されます。
- 送信のカラーを禁止した場合、カラーでのスキャン送信ができません。

14 ［トータル管理］または［個別管理］を押します。

- ❍ カラーとブラックを分けずに上限を設定する場合は、［トータル管理］を押します。
- ❍ カラーとブラックを分けて上限を設定する場合は、［個別管理］を押します。
- ❍ カラーまたはブラックに上限を設定しない場合は、その項目の［無効］を押します。



15 設定する項目を選択し、テンキーで上限枚数を入力します。

16 ［OK］を押します。

上限枚数が設定されます。

17 ［OK］を押します。

詳しく説明します

［全部門一括］を押すと、現在の画面の設定が、現在登録されている全ての部門に反映されます。［全部門一括］を押して［OK］を 2 回押すとデータ処理中のメッセージが表示され、一括処理が行われます。このとき、主電源スイッチは絶対に“OFF”しないでください。

ひとこと

［削除］を押すと、選択中の部門情報が削除されます。

11.14.2　部門カウンター

部門ごとに以下の項目を確認できます。

＜全プリント＞

コピー、プリンターの総印刷枚数が表示されます。

- トータル：全色、ブラック、フルカラー、2 色、単色カラーの総印刷枚数
- 上限値：部門登録で設定した全色（トータル）、またはカラー（フルカラー、単色カラー、2 色カラー）、ブラックの印刷枚数の上限設定値
- 大サイズ：大サイズ用紙での全色、ブラック、フルカラー、2 色、単色カラーの総印刷枚数

＜コピー＞

コピーの総印刷枚数が表示されます。

- トータル：全色、ブラック、フルカラー、2 色、単色カラーの総コピー印刷枚数
- 大サイズ：大サイズ用紙での全色、ブラック、フルカラー、2 色、単色カラーの総コピー印刷枚数

＜プリンター＞

プリンターの総印刷枚数が表示されます。

- トータル：全色、ブラック、フルカラー、2 色の総プリンター印刷枚数
- 大サイズ：大サイズ用紙での全色、ブラック、フルカラー、2 色の総プリンター印刷枚数

＜ファクス / スキャン＞

- トータル：ファクス、スキャンでの、総読取り枚数／ブラック、カラーの総印刷枚数
- 大サイズ：ファクス、スキャンの大サイズ用紙での、総読取り枚数／ブラック、フルカラーの総印刷枚数

＜原稿枚数＞

- 読込んだ原稿枚数が表示されます。

＜用紙枚数＞

- 印刷時に使用した用紙枚数が表示されます。

＜ファクス送信枚数＞

- ファクス送信枚数：ファクスでの総送信枚数

詳しく説明します

パブリックユーザーはカウンターの「public」にカウントされます。

11.14.3　部門カウンターの表示のしかた

1 管理者設定画面を表示させます。

2 ［4 ユーザー認証 / 部門管理］を押します。
ユーザー認証 / 部門管理画面が表示されます。

3 ［3 部門管理設定］を押します。
部門管理設定画面が表示されます。

4 ［2 部門カウンター］を押します。

5 目的の部門キーを押し、［カウンター詳細］を押します。
各部門のカウンター詳細画面が表示されます。

6 確認する項目のキーを押し、カウンターを確認します。



7 ［閉じる］を押します。

参照
管理者設定画面の表示のしかたは、「管理者設定画面を表示させる」（p. 11-36）をごらんください。

詳しく説明します
- 各部門カウンター画面で表示されている［カウンタークリア］を押すと、表示している部門のカウンターをクリアします。［カウンタークリア］を押すと、カウンタークリアの確認画面が表示されます。確認画面で［はい］を押し、［OK］を押すと、表示している部門のカウンターがクリアされます。上限値はクリアされません。
- 部門カウンター画面で表示されている［一括カウンタークリア］を押すと、全ての部門のカウンターをクリアします。［一括カウンタークリア］を押すと、カウンタークリアの確認画面が表示されます。確認画面で［はい］を押し、［OK］を押すと、全ての部門のカウンターがクリアされます。上限値はクリアされません。

11.15　パスワード規約

パスワード規約を適用すると、パスワードに対して以下のような制約がかかり、セキュリティーを強化することができます。

パスワード規約を適用したときに、すでに設定してあるパスワードがパスワード規約に合わない場合、そのパスワードを入力しても受け付けなくなります。その場合は、管理者に依頼して、以下の条件をみたすパスワードに設定しなおしてもらってください。

詳しく説明します

パスワードに使用される文字には、以下の条件があります。

・英字の大文字と小文字は区別されます。
・使用できる記号は、半角記号です。「"」「+」「スペース」は一部設定が制限されています。

11.15.1　パスワード規約による制約

＜管理者パスワード＞

文字数の制約	登録 / 変更時の制約
8 文字の半角英数字および記号	・同一文字のみのパスワードは登録できません。 ・変更前のパスワードと同じパスワードの登録はできません。

ひとこと

管理者設定を行う場合に使用します。

＜ユーザーパスワード＞

文字数の制約	登録 / 変更時の制約
8 文字以上の半角英数字および記号	・同一文字のみのパスワードは登録できません。 ・変更前のパスワードと同じパスワードの登録はできません。

ひとこと

ユーザー認証を行う場合に使用します。

＜部門パスワード＞

文字数の制約	登録 / 変更時の制約
8 文字の半角英数字および記号	・同一文字のみのパスワードは登録できません。 ・変更前のパスワードと同じパスワードの登録はできません。

ひとこと

部門認証を行う場合に使用します。

＜ボックスのパスワード＞

文字数の制約	登録 / 変更時の制約
8 文字の半角英数字および記号	・同一文字のみのパスワードは登録できません。 ・変更前のパスワードと同じパスワードの登録はできません。

ひとこと

ボックスのファクス通信パスワードは、半角数字、＊、＃で 8 文字のパスワードを登録します。

＜セキュリティー文書パスワード＞

文字数の制約	登録 / 変更時の制約
8 文字の半角英数字および記号	・同一文字のみのパスワードは登録できません。

ひとこと

パスワード規約に合わないパスワードを設定するとセキュリティー文書を印刷することができません。

11.16　セキュリティー強化設定

本機にセキュリティー強化設定を適用すると、さまざまなセキュリティー機能設定が連動して切換えられ、スキャンされたデータの管理において安全性をより高めることができます。ユーザーの操作には制限がかかり、パブリックユーザーの使用を禁止したり、ボックス操作が制限されたりします。

セキュリティー強化設定を ON にするには、あらかじめ必要な機能設定や強制的に切換えられる機能設定があります。セキュリティー強化設定を ON にする前に、各セキュリティー機能の設定を確認しておく必要があります。

＜必要な設定＞

セキュリティー強化設定を ON にするには、あらかじめ以下の設定が必要です。

管理者設定の設定メニュー	必要な設定
ユーザー認証 / 部門管理／認証方式／ユーザー認証	［外部サーバー認証］、［本体装置認証］のどちらかを選択します。
システム連携／ OpenAPI 設定／ SSL 使用	キーが表示された状態にします。
セキュリティー設定／管理者パスワード	パスワード規約を満たすパスワードに設定します。
セキュリティー設定／ HDD 管理設定／ HDD ロックパスワード ※または、オプションのセキュリティキットを装着し、暗号ワードを設定します。	HDD ロックパスワードを設定します。
セキュリティー設定／セキュリティー詳細／認証操作禁止機能／操作禁止解除時間設定	5 分以上に設定します。

必ずお守りください

セキュリティー強化設定に適合しない機能設定がある場合、セキュリティー強化設定を［ON］にすることができません。

詳しく説明します

・セキュリティー強化設定を適用するには、必要な条件があります。詳しくは、サービス実施店にお問い合わせください。
・セキュリティー強化設定を［ON］にすると、必要な設定や強制的に切換えられた設定は変更できません。

詳しく説明します

・認証方式で部門管理を設定する場合は、部門管理認証方式で［部門名 + パスワード］を選択します。
・SSL 使用は PageScope Web Connection で証明書が登録済の場合に表示されます

＜変更される設定＞

セキュリティー強化設定を ON にすると、セキュリティーを強化するため連動して以下のように設定変更されます。

管理者設定の設定メニュー	変更される設定
環境設定／ユーザー操作禁止設定／変更禁止設定／宛先登録変更	［禁止］に設定されます。
ユーザー認証 / 部門管理／認証方式／パブリックユーザー	［許可しない］に設定されます。
ユーザー認証 / 部門管理／ユーザー認証設定／管理設定／ユーザー名一覧表示	［表示しない］に設定されます。
ユーザー認証 / 部門管理／認証指定なし印刷	［禁止］に設定されます。
セキュリティー設定／ボックス管理者設定	［認めない］に設定されます。
セキュリティー設定／セキュリティー詳細／パスワード規約	［有効］に設定されます。
セキュリティー設定／セキュリティー詳細／認証操作禁止機能	［モード 2］、チェック回数 3 回に設定されます。
セキュリティー設定／セキュリティー詳細／セキュリティー文書アクセス方式	［モード 2］に設定されます。
セキュリティー設定／ HDD 管理設定／一時データ上書き削除	［モード 1］に設定されます。

＜ユーザーの操作制限＞

セキュリティー強化設定を ON にすると、タッチパネルにアイコンが表示され、ユーザーに対して以下のように操作が制限されます。

- パブリックユーザーは本機を使用できません。
- ユーザー認証画面でユーザー一覧が表示されません。
- ユーザーが認証に指定回数連続失敗した場合、操作パネルの操作ができなくなります。パネル操作禁止になった場合は、［操作禁止解除］を押して、操作禁止を解除する項目を選択します。
- ユーザーによる、宛先の変更ができません。
- PageScope Net Care、PageScope VISUALCOUNT-MASTER で、本機内のカウンターデータの取出しができません。
- SNMP v1/v2c で write を行うアプリケーションは、接続できません。
- SNMP v3 で、Write ユーザーは認証が必要になります。

ひとこと

・認証操作禁止機能の設定で、チェック回数は 1 回～ 3 回から変更することができます。
・変更された設定は、セキュリティー強化設定を OFF に戻した場合、変更されません。
・パスワード規約が ON に設定されると、規約を満たしていないパスワードは認証時に認証失敗になります。パスワード規約については、「パスワード規約」（p. 11-84）をごらんください。

参照

変更されるネットワーク設定については、「ユーザーズガイド ネットワークスキャン／ファクス／ネットワークファクス機能編」をごらんください。

ひとこと

一時データ上書き削除で［モード 2］に設定していた場合は、変更されません。

参照

・ユーザーに対するボックス操作の制限については、「ユーザーズガイド ボックス機能編」をごらんください。
・ユーザーに対する印刷方法の制限については、「ユーザーズガイド プリンター機能編」をごらんください。
・認証失敗による操作禁止の解除方法について、詳しくは「＜セキュリティー詳細＞」（p. 11-34）をごらんください。

第 12 章
付録

文字入力のしかたの説明と用語集について書いてあります。

12.1　文字を入力するには 12-2
12.2　入力文字一覧 12-7
12.3　用語集 12-14

12.1　文字を入力するには

ユーザー登録や不定形紙の登録などで名前を入力するときに表示される、文字入力画面の操作について手順を説明します。数字を入力するときはテンキーから直接入力もできます。

文字入力画面には以下のような種類があります。

例

ユーザー名入力画面：



不定形紙名称変更画面：



12.1.1　キーボードの拡大表示

キーボードを拡大して見やすく表示することができます。

1. キーボードの表示中に、［拡大 ON］を押します。

   キーボードが拡大表示されます。



2. 拡大表示中に［拡大 OFF］を押すと、拡大表示を解除して通常の表示に戻ります。

ひとこと

ユーザー名、プログラム名、ボックス名、グループ名、アドレス帳に「¥」や「~」を使用した場合、コンピューターから参照すると文字化けをおこすことがあります。

ひとこと

拡大表示した状態でも、キーボードの操作方法は同じです。

12.1.2　英数字を入力する

➔ 表示されているキーボードから、入力する文字のキーを押します。

- ❍ 大文字、記号を入力する場合は、[Shift] を押します。
- ❍ 全角の英数字を入力する場合は [全角] を押します。
- ❍ 半角数字はテンキーからでも入力できます。

文字ボックスに入力した文字が表示されます。



12.1.3　ひらがなを入力する

1. [ひらがな] を押します。
2. 表示されているキーボードから、入力する文字のキーを押します。
   - ❍ 濁音（「がぎぐげご」など）や半濁音（「ぱぴぷぺぽ」）、拗音（「きゃきゅきょ」など）を入力する場合は、[他かな] を押します。

   文字ボックスに入力した文字が反転表示されます。



3. [無変換] を押します。

   文字ボックスに確定した文字が表示されます。

詳しく説明します

- 入力した文字や数字を修正する場合は、[←]、[→] で修正する文字にカーソルを合わせ、[削除] を押し、文字や数字を入力します。
- 入力した文字を全て取消す場合は、【C】を押します。

ひとこと

- [元に戻す] を押すとキーボードが表示されたときの状態に戻ります。
- 一部のキーは、文字入力の対象によっては表示されない場合があります。

詳しく説明します

- 入力した文字や数字を修正する場合は、[←]、[→] で修正する文字にカーソルを合わせ、[削除] を押し、文字や数字を入力します。
- 入力した文字を全て取消す場合は、【C】を押します。

ひとこと

一部のキーは、文字入力の対象によっては表示されない場合があります。

ひとこと

[元に戻す] を押すとキーボードが表示されたときの状態に戻ります。

12.1.4　カタカナを入力する

1 ［カタカナ］を押します。

2 表示されているキーボードから、入力する文字のキーを押します。

- 濁音（「ガギグゲゴ」など）や半濁音（「パピプペポ」）、拗音（「キャキュキョ」など）を入力する場合は、［他かな］を押します。
- 半角のカタカナを入力する場合は［半角］を押します。

文字ボックスに入力した文字が表示されます。



12.1.5　漢字を入力する

1 ［ひらがな］を押します。

2 表示されているキーボードから、入力する文字のキーを押します。

- 濁音（「がぎぐげご」など）や半濁音（「ぱぴぷぺぽ」）、拗音（「きゃきゅきょ」など）を入力する場合は、［他かな］を押します。

文字ボックスに入力した文字が反転表示されます。



詳しく説明します

・入力した文字や数字を修正する場合は、［←］、［→］で修正する文字にカーソルを合わせ、［削除］を押し、文字や数字を入力します。
・入力した文字を全て取消す場合は、【C】を押します。

ひとこと

・［元に戻す］を押すとキーボードが表示されたときの状態に戻ります。
・一部のキーは、文字入力の対象によっては表示されない場合があります。

3 ［変換］を押します。

変換候補選択画面が表示されます。

4 表示された候補の中から入力したい漢字のキーを押します。



5 ［OK］を押します。

文字ボックスに確定した文字が表示されます。

詳しく説明します

・熟語単位で変換できます。
・入力した文字が、変換の対象になります。
・変換を中止するときは、［中止］を押します。

詳しく説明します

候補が 18 個以上ある場合に、［↑］または［↓］のキーが現れます。
・［↑］を押すと前候補が表示されます。
・［↓］を押すと次候補が表示されます。

詳しく説明します

・入力した文字や数字を修正する場合は、［←］、［→］で修正する文字にカーソルを合わせ、［削除］を押し、文字や数字を入力します。
・入力した文字を全て取消す場合は、【C】を押します。

ひとこと

・［元に戻す］を押すとキーボードが表示されたときの状態に戻ります。
・一部のキーは、文字入力の対象によっては表示されない場合があります。

12.1.6　文字コードで入力する

16 進数（1 ～ 0、A ～ F の組合わせ）の文字コードで、文字や記号を入力します。

1 ［文字コード］を押します。

2 表示されているキーボードから、文字コードを入力し、［入力］を押します。



文字コードにしたがって、文字ボックスに文字が表示されます。

詳しく説明します

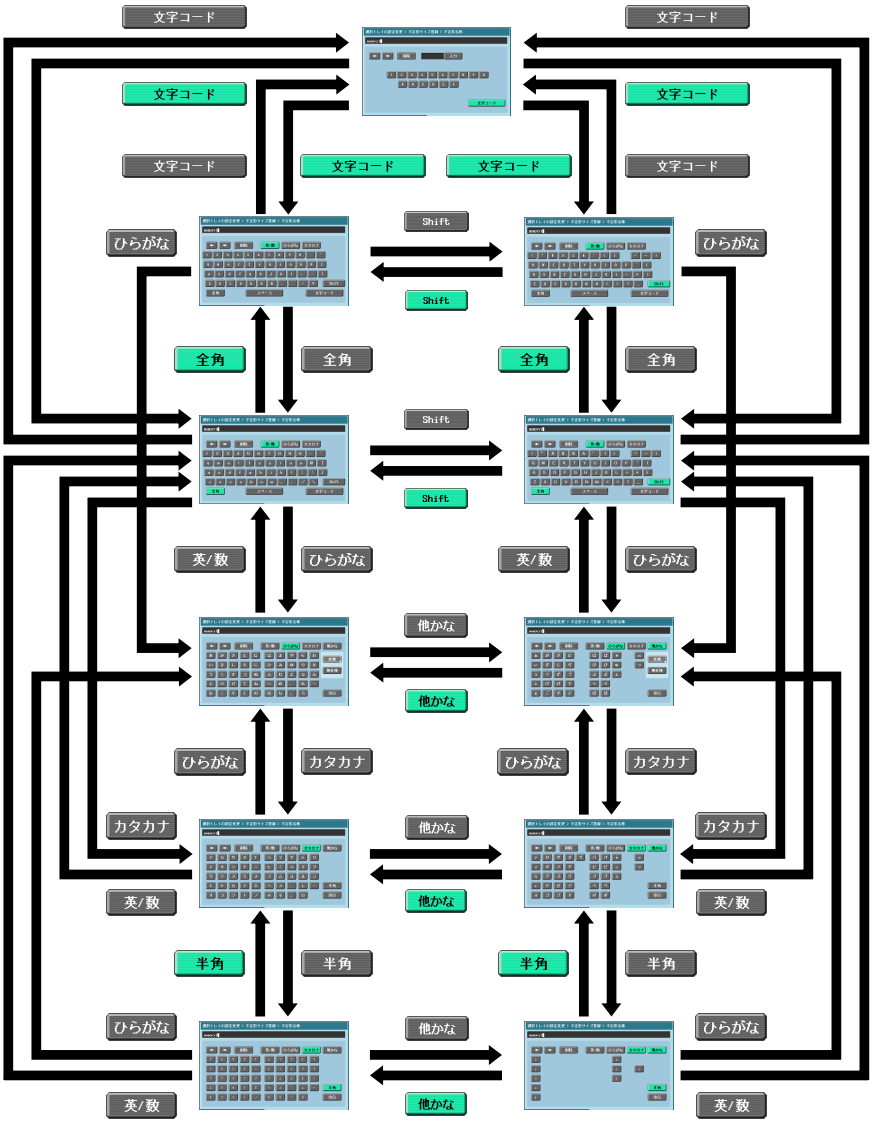
- 本機の文字コードは Shift-JIS コードです。文字コードと文字の対応については、Shift-JIS コード表（p. 12-8 ～）をごらんください。
- 入力した文字や数字を修正する場合は、［←］、［→］で修正する文字にカーソルを合わせ、［削除］を押し、文字や数字を入力します。
- 入力した文字を全て取消す場合は、【C】を押します。
- 設定する項目によって、使用できない文字コードがあります。

ひとこと

- ［元に戻す］を押すとキーボードが表示されたときの状態に戻ります。
- 一部のキーは、文字入力の対象によっては表示されない場合があります。

12.2　入力文字一覧

入力画面



ひらがな	あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねのはひふへほまみむめもやゆよらりるれろわをんがぎぐげござじずぜぞだぢづでどばびぶべぼぱぴぷぺぽ ぁぃぅぇぉゃゅょわっ　　ー、。
カタカナ（全角）	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルレロワヲンガギグゲゴザジズゼゾダヂヅデドバビブベボパピプペポヴ ァィゥェォャュョヮッ　　ー、。
カタカナ（半角）	ｱｲｳｴｵｶｷｸｹｺｻｼｽｾｿﾀﾁﾂﾃﾄﾅﾆﾇﾈﾉﾊﾋﾌﾍﾎﾏﾐﾑﾒﾓﾔﾕﾖﾗﾘﾙﾚﾛﾜﾝ ｧｨｩｪｫｬｭｮｯ　ｰ､｡
英数字／記号（全角）	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵＶＷＸＹＺａｂｃｄｅｆｇｈｉｊｋｌｍｎｏｐｑｒｓｔｕｖｗｘｙｚ 　（スペース）！”＃＄％＆’（）＋，－．／＼：；＜＝＞？＠［］＾＿‘｛｜｝～＊０１２３４５６７８９
英数字／記号	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz 　(スペース)!”#$%&’()+,-./¥:;<=>?@[]^_`{|}~*0123456789

Shift-JIS コード
（一部入力できないものもあります）

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
8140	、。，．・：；？！゛゜´｀¨＾
8150	￣＿ヽヾゝゞ〃仝々〆〇ー―‐／＼
8160	～∥｜…‥‘’“”（）〔〕［］｛
8170	｝〈〉《》「」『』【】＋－±×
8180	÷＝≠＜＞≦≧∞∴♂♀°′″℃￥
8190	＄¢£％＃＆＊＠§☆★○●◎◇◆
81A0	□■△▲▽▼※〒→←↑↓〓
81B0	∈∋⊆⊇⊂⊃∪∩
81C0	∧∨￢⇒⇔∀∃
81D0	∠⊥⌒∂∇≡
81E0	≒≪≫√∽∝∵∫∬
81F0	Å‰♯♭♪†‡¶◯
8240	０
8250	１２３４５６７８９
8260	ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪＫＬＭＮＯＰ
8270	ＱＲＳＴＵＶＷＸＹＺ
8280	ａｂｃｄｅｆｇｈｉｊｋｌｍｎｏ
8290	ｐｑｒｓｔｕｖｗｘｙｚ ぁ
82A0	あぃいぅうぇえぉおかがきぎくぐけ

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
82B0	げこごさざしじすずせぜそぞただち
82C0	ぢっつづてでとどなにぬねのはばぱ
82D0	ひびぴふぶぷへべぺほぼぽまみむめ
82E0	もゃやゅゆょよらりるれろゎわゐゑ
82F0	をん
8340	ァアィイゥウェエォオカガキギクグ
8350	ケゲコゴサザシジスズセゼソゾタダ
8360	チヂッツヅテデトドナニヌネノハバ
8370	パヒビピフブプヘベペホボポマミ
8380	ムメモャヤュユョヨラリルレロヮワ
8390	ヰヱヲンヴヵヶ Α
83A0	Β Γ Δ Ε Ζ Η Θ Ι Κ Λ Μ Ν Ξ Ο Π Ρ
83B0	Σ Τ Υ Φ Χ Ψ Ω α
83C0	β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ ν ξ ο π ρ
83D0	σ τ υ φ χ ψ ω
83E0	
83F0	
8440	А Б В Г Д Е Ё Ж З И Й К Л М Н О
8450	П Р С Т У Ф Х Ц Ч Ш Щ Ъ Ы Ь Э Ю
8460	Я

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
8470	а б в г д е ё ж з и й к л м н
8480	о п р с т у ф х ц ч ш щ ъ ы ь э
8490	ю я —
84A0	─ │ ┌ ┐ ┘ └ ├ ┬ ┤ ┴ ┼ ━ ┃ ┏ ┓ ┛ ┗
84B0	┣ ┳ ┫ ┻ ╋ ┠ ┯ ┨ ┷ ┿ ┝ ┰ ┥ ┸ ╂
84C0	
84D0	
84E0	
84F0	
8540	
8550	
8560	
8570	
8580	
8590	
85A0	
85B0	
85C0	
85D0	
85E0	
85F0	
8640	
8650	
8660	
8670	
8680	

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
8690	
86A0	
86B0	
86C0	
86D0	
86E0	
86F0	
8740	
8750	
8760	
8770	
8780	
8790	
87A0	
87B0	
87C0	
87D0	
87E0	
87F0	
8840	
8850	
8860	
8870	
8880	
8890	亜

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
88A0	唖娃阿哀愛挨姶逢葵茜穐悪握渥旭葦
88B0	芦鯵梓圧斡扱宛姐虻飴絢綾鮎或粟袷
88C0	安庵按暗案闇鞍杏以伊位依偉囲夷委
88D0	威尉惟意慰易椅為畏異移維緯胃萎衣
88E0	謂違遺医井亥域育郁磯一壱溢逸稲茨
88F0	芋鰯允印咽員因姻引飲淫胤蔭
8940	院陰隠韻吋右宇烏羽迂雨卯鵜窺丑碓
8950	臼渦嘘唄欝蔚鰻姥厩浦瓜閏噂云運雲
8960	荏餌叡営嬰影映曳栄永泳洩瑛盈穎頴
8970	英衛詠鋭液疫益駅悦謁越閲榎厭円
8980	園堰奄宴延怨掩援沿演炎焔煙燕猿縁
8990	艶苑薗遠鉛鴛塩於汚甥凹央奥往応押
89A0	旺横欧殴王翁襖鴬鴎黄岡沖荻億屋憶
89B0	臆桶牡乙俺卸恩温穏音下化仮何伽価
89C0	佳加可嘉夏嫁家寡科暇果架歌河火珂
89D0	禍禾稼箇花苛茄荷華菓蝦課嘩貨迦過
89E0	霞蚊俄峨我牙画臥芽蛾賀雅餓駕介会
89F0	解回塊壊廻快怪悔恢懐戒拐改
8A40	魁晦械海灰界皆絵芥蟹開階貝凱劾外
8A50	咳害崖慨概涯碍蓋街該鎧骸浬馨蛙垣
8A60	柿蛎鈎劃嘩各廓拡撹格核殻獲確穫覚

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
8A70	角赫較郭閣隔革学岳楽額顎掛笠樫
8A80	橿梶鰍潟割喝恰括活渇滑葛褐轄且鰹
8A90	叶椛樺鞄株兜竃蒲釜鎌噛鴨栢茅萱粥
8AA0	刈苅瓦乾侃冠寒刊勘勧巻喚堪姦完官
8AB0	寛干幹患感慣憾換敢柑桓棺款歓汗漢
8AC0	澗潅環甘監看竿管簡緩缶翰肝艦莞観
8AD0	諌貫還鑑間閑関陥韓館舘丸含岸巌玩
8AE0	癌眼岩翫贋雁頑顔願企伎危喜器基奇
8AF0	嬉寄岐希幾忌揮机旗既期棋棄
8B40	機帰毅気汽畿祈季稀紀徽規記貴起軌
8B50	輝飢騎鬼亀偽儀妓宜戯技擬欺犠疑祇
8B60	義蟻誼議掬菊鞠吉吃喫桔橘詰砧杵黍
8B70	却客脚虐逆丘久仇休及吸宮弓急救
8B80	朽求汲泣灸球究窮笈級糾給旧牛去居
8B90	巨拒拠挙渠虚許距鋸漁禦魚亨享京供
8BA0	侠僑兇競共凶協匡卿叫喬境峡強彊怯
8BB0	恐恭挟教橋況狂狭矯胸脅興蕎郷鏡響
8BC0	饗驚仰凝尭暁業局曲極玉桐粁僅勤均
8BD0	巾錦斤欣欽琴禁禽筋緊芹菌衿襟謹近
8BE0	金吟銀九倶句区狗玖矩苦躯駆駈駒具
8BF0	愚虞喰空偶寓遇隅串櫛釧屑屈

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
8C40	掘窟沓靴轡窪熊隈粂栗繰桑鍬勲君薫
8C50	訓群軍郡卦袈祁係傾刑兄啓圭珪型契
8C60	形径恵慶慧憩掲携敬景桂渓畦稽系経
8C70	継繋罫茎荊蛍計詣警軽頚鶏芸迎鯨
8C80	劇戟撃激隙桁傑欠決潔穴結血訣月件
8C90	倹倦健兼券剣喧圏堅嫌建憲懸拳捲検
8CA0	権牽犬献研硯絹県肩見謙賢軒遣鍵険
8CB0	顕験鹸元原厳幻弦減源玄現絃舷言諺
8CC0	限乎個古呼固姑孤己庫弧戸故枯湖狐
8CD0	糊袴股胡菰虎誇跨鈷雇顧鼓五互伍午
8CE0	呉吾娯後御悟梧檎瑚碁語誤護醐乞鯉
8CF0	交佼侯候倖光公功効勾厚口向
8D40	后喉坑垢好孔孝宏工巧巷幸広庚康弘
8D50	恒慌抗拘控攻昂晃更杭校梗構江洪浩
8D60	港溝甲皇硬稿糠紅紘絞綱耕考肯肱腔
8D70	膏航荒行衡講貢購郊酵鉱砿鋼閤降
8D80	項香高鴻剛劫号合壕拷濠豪轟麹克刻
8D90	告国穀酷鵠黒獄漉腰甑忽惚骨狛込此
8DA0	頃今困坤墾婚恨懇昏昆根梱混痕紺艮

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
8DB0	魂些佐叉唆嵯左差査沙瑳砂詐鎖裟坐
8DC0	座挫債催再最哉塞妻宰彩才採栽歳済
8DD0	災采犀砕砦祭斎細菜裁載際剤在材罪
8DE0	財冴坂阪堺榊肴咲崎埼碕鷺作削咋搾
8DF0	昨朔柵窄策索錯桜鮭笹匙冊刷
8E40	察拶撮擦札殺薩雑皐鯖捌錆鮫皿晒三
8E50	傘参山惨撒散桟燦珊産算纂蚕讃賛酸
8E60	餐斬暫残仕仔伺使刺司史嗣四士始姉
8E70	姿子屍市師志思指支孜斯施旨枝止
8E80	死氏獅祉私糸紙紫肢脂至視詞詩試誌
8E90	諮資賜雌飼歯事似侍児字寺慈持時次
8EA0	滋治爾璽痔磁示而耳自蒔辞汐鹿式識
8EB0	鴫竺軸宍雫七叱執失嫉室悉湿漆疾質
8EC0	実蔀篠偲柴芝屡蕊縞舎写射捨赦斜煮
8ED0	社紗者謝車遮蛇邪借勺尺杓灼爵酌釈
8EE0	錫若寂弱惹主取守手朱殊狩珠種腫趣
8EF0	酒首儒受呪寿授樹綬需囚収周
8F40	宗就州修愁拾洲秀秋終繍習臭舟蒐衆
8F50	襲讐蹴輯週酋酬集醜什住充十従戎柔

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
8F60	汁渋獣縦重銃叔夙宿淑祝縮粛塾熟出
8F70	術述俊峻春瞬竣舜駿准循旬楯殉淳
8F80	準潤盾純巡遵醇順処初所暑曙渚庶緒
8F90	署書薯藷諸助叙女序徐恕鋤除傷償勝
8FA0	匠升召哨商唱嘗奨妾娼宵将小少尚庄
8FB0	床廠彰承抄招掌捷昇昌昭晶松梢樟樵
8FC0	沼消渉湘焼焦照症省硝礁祥称章笑粧
8FD0	紹肖菖蒋蕉衝裳訟証詔詳象賞醤鉦鍾
8FE0	鐘障鞘上丈丞乗冗剰城場壌嬢常情擾
8FF0	条杖浄状畳穣蒸譲醸錠嘱埴飾
9040	拭植殖燭織職色触食蝕辱尻伸信侵唇
9050	娠寝審心慎振新晋森榛浸深申疹真神
9060	秦紳臣芯薪親診身辛進針震人仁刃塵
9070	壬尋甚尽腎訊迅陣靭笥諏須酢図厨
9080	逗吹垂帥推水炊睡粋翠衰遂酔錐錘随
9090	瑞髄崇嵩数枢趨雛据杉椙菅頗雀裾澄
9A0	摺寸世瀬畝是凄制勢姓征性成政整星
9B0	晴棲栖正清牲生盛精聖声製西誠誓請
9C0	逝醒青静斉税脆隻席惜戚斥昔析石積
9D0	籍績脊責赤跡蹟碩切拙接摂折設窃節
9E0	説雪絶舌蝉仙先千占宣専尖川戦扇撰

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
90F0	栓栴泉浅洗染潜煎煽旋穿箭線
9140	繊羨腺舛船薦詮賤践選遷銭銑閃鮮前
9150	善漸然全禅繕膳糧噌塑岨措曾曽楚狙
9160	疏疎礎祖租粗素組蘇訴阻遡鼠僧創双
9170	叢倉喪壮奏爽宋層匝惣想捜掃挿掻
9180	操早曹巣槍槽漕燥争痩相窓糟総綜聡
9190	草荘葬蒼藻装走送遭鎗霜騒像増憎臓
91A0	蔵贈造促側則即息捉束測足速俗属賊
91B0	族続卒袖其揃存孫尊損村遜他多太汰
91C0	詑唾堕妥惰打柁舵楕陀駄騨体堆対耐
91D0	岱帯待怠態戴替泰滞胎腿苔袋貸退逮
91E0	隊黛鯛代台大第醍題鷹滝瀧卓啄宅托
91F0	択拓沢濯琢託鐸濁諾茸凧蛸只
9240	叩但達辰奪脱巽竪辿棚谷狸鱈樽誰丹
9250	単嘆坦担探旦歎淡湛炭短端箪綻耽胆
9260	蛋誕鍛団壇弾断暖檀段男談値知地弛
9270	恥智池痴稚置致蜘遅馳築畜竹筑蓄
9280	逐秩窒茶嫡着中仲宙忠抽昼柱注虫衷
9290	註酎鋳駐樗猪猪苧著貯丁兆凋喋寵帖
92A0	帳庁弔張彫徴懲挑暢朝潮牒町眺聴脹
92B0	腸蝶調諜超跳銚長頂鳥勅捗直朕沈珍

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
92C0	賃鎮陳津墜椎槌追鎚痛通塚栂掴槻佃
92D0	漬柝辻蔦綴鍔椿潰坪壷嬬紬爪吊釣鶴
92E0	亭低停偵剃貞呈堤定帝底庭廷弟悌抵
92F0	挺提梯汀碇禎程締艇訂諦蹄逓
9340	邸鄭釘鼎泥摘擢敵滴的笛適鏑溺哲徹
9350	撤轍迭鉄典填天展店添纏甜貼転顛点
9360	伝殿澱田電兎吐堵塗妬屠徒斗杜渡登
9370	菟賭途都鍍砥砺努度土奴怒倒党冬
9380	凍刀唐塔塘套宕島嶋悼投搭東桃梼棟
9390	盗淘湯涛灯燈当痘祷等答筒糖統到董
93A0	蕩藤討謄豆踏逃透鐙陶頭騰闘働動同
93B0	堂導憧撞洞瞳童胴萄道銅峠鴇匿得徳
93C0	涜特督禿篤毒独読栃橡凸突椴届鳶苫
93D0	寅酉瀞噸屯惇敦沌豚遁頓呑曇鈍奈那
93E0	内乍凪薙謎灘捺鍋楢馴縄畷南楠軟難
93F0	汝二尼弐迩匂賑肉虹廿日乳入
9440	如尿韮任妊忍認濡禰祢寧葱猫熱年念
9450	捻撚燃粘乃廼之埜嚢悩濃納能脳膿農
9460	覗蚤巴把播覇杷波派琶破婆罵芭馬俳
9470	廃拝排敗杯盃牌背肺輩配倍培媒梅
9480	楳煤狽賁売賠陪這蝿秤矧萩伯剥博拍

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
9490	柏泊白箔粕舶薄迫曝漠爆縛莫駁麦函
94A0	箱硲箸肇筈櫨幡肌畑畠八鉢溌発醗髪
94B0	伐罰抜筏閥鳩噺塙蛤隼伴判半反叛帆
94C0	搬斑板氾汎版犯班畔繁般藩販範釆煩
94D0	頒飯挽晩番盤磐蕃蛮匪卑否妃庇彼悲
94E0	扉批披斐比泌疲皮碑秘緋罷肥被誹費
94F0	避非飛樋簸備尾微枇毘琵眉美
9540	鼻柊稗匹疋髭彦膝菱肘弼必畢筆逼桧
9550	姫媛紐百謬俵彪標氷漂瓢票表評豹廟
9560	描病秒苗錨鋲蒜蛭鰭品彬斌浜瀕貧賓
9570	頻敏瓶不付埠夫婦富冨布府怖扶敷
9580	斧普浮父符腐膚芙譜負賦赴阜附侮撫
9590	武舞葡蕪部封楓風葺蕗伏副復幅服福
95A0	腹複覆淵弗払沸仏物鮒分吻噴墳憤扮
95B0	焚奮粉糞紛雰文聞丙併兵塀幣平弊柄
95C0	並蔽閉陛米頁僻壁癖碧別瞥蔑箆偏変
95D0	片篇編辺返遍便勉娩弁鞭保舗鋪圃捕
95E0	歩甫補輔穂募墓慕戊暮母簿菩倣俸包
95F0	呆報奉宝峰峯崩庖抱捧放方朋
9640	法泡烹砲縫胞芳萌蓬蜂褒訪豊邦鋒飽
9650	鳳鵬乏亡傍剖坊妨帽忘忙房暴望某棒

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
9660	冒紡肪膨謀貌貿鉾防吠頬北僕卜墨撲
9670	朴牧睦穆釦勃没殆堀幌奔本翻凡盆
9680	摩磨魔麻埋妹昧枚毎哩槙幕膜枕鯖柾
9690	鱒桝亦俣又抹末沫迄侭繭麿万慢満漫
96A0	蔓味未魅巳箕岬密蜜湊蓑稔脈妙粍民
96B0	眠務夢無牟矛霧鵡椋婿娘冥名命明盟
96C0	迷銘鳴姪牝滅免棉綿緬面麺摸模茂妄
96D0	孟毛猛盲網耗蒙儲木黙目杢勿餅尤戻
96E0	籾貰問悶紋門匁也冶夜爺耶野弥矢厄
96F0	役約薬訳躍靖柳薮鑓愉愈油癒
9740	諭輸唯佑優勇友宥幽悠憂揖有柚湧涌
9750	猶猷由祐裕誘遊邑郵雄融夕予余与誉
9760	輿預傭幼妖容庸揚揺擁曜楊様洋溶熔
9770	用窯羊耀葉蓉要謡踊遥陽養慾抑欲
9780	沃浴翌翼淀羅螺裸来莱頼雷洛絡落酪
9790	乱卵嵐欄濫藍蘭覧利吏履李梨理璃痢
97A0	裏裡里離陸律率立葎掠略劉流溜琉留
97B0	硫粒隆竜龍侶慮旅虜了亮僚両凌寮料
97C0	梁涼猟療瞭稜糧良諒遼量陵領力緑倫
97D0	厘林淋燐琳臨輪隣鱗麟瑠塁涙累類令
97E0	伶例冷励嶺怜玲礼苓鈴隷零霊麗齢暦

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
97F0	歴列劣烈裂廉恋憐漣煉簾練聯
9840	蓮連錬呂魯櫓炉賂路露労婁廊弄朗楼
9850	榔浪漏牢狼篭老聾蝋郎六麓禄肋録論
9860	倭和話歪賄脇惑枠鷲亙亘鰐詫藁蕨椀
9870	湾碗腕
9880	
9890	弋
98A0	丐丕个丱丶丼丿乂乖乗亂亅豫事舒弍
98B0	于亞亟一亢亰亳亶从仍仄仆仂仗仞仭
98C0	仟价伉佚估佛佝佗佇佶侈侏侘佻佩佰
98D0	侑佯來侖儘俔俟俎俘俛俑俚俐俤俥倚
98E0	倨倔倪倥倅俾倶倡倩倬俾俯們倆偃假
98F0	會偕偐偈做偖偬偸傀傚傅傴傲
9940	僉僊傳僂僖僞僥僭僣僮價僵儉儁儂儖
9950	儕儔儚儡儺儷儼儻儿兀兒兌兔兢競兩
9960	兪兮冀冂冏冊冐冑冓冕冖冤冦冢冩
9970	冪冫决冱冲冰况冽凅凉凛几處凩凭
9980	凰凵凾刄刋刔刎刧刪刮刳刹刺刮剋剌
9990	剞剔剪剴剩剳剿剽劍劒劔劔劈劑辨瓣
99A0	劬劭劼劵勁勍勗勠勢勣勦飭勠勳勵勸勹
99B0	匆匈甸匍匐匏匕匚匣匯匱匳匸區卆卅

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
99C0	丗卉卍準卞卩卮夘卻巻厂厖厠廈厥厮
99D0	廠厶參簒雙叟曼燮叮叨叭叺吁吋呀听
99E0	吭吼吮吶吩吝呎咏呵咎咳呱呻呰呪呵
99F0	咀呟咄咐咆哇唸咸咥咬哄哈咨
9A40	咫哂咤唾唇哽哮哦唏唔哿唄哮哭哺哢唹
9A50	喔唧唸售啜啅啖啗唸唳唬唱喨唇喩喫喙喀喊喟
9A60	啻啾喘喞單啼喃喩喇喨嗚嗅嗟嗄嗜嗤
9A70	嗔嘔嗷嘖嗾嗽嘛嗹噎噐嘗嚊嘶嘲嘸
9A80	噫噤噸噬噪噛噂噴噺噥噠噌嚊嚀嚴囂
9A90	嚇囁囃囀囈囂囘囑囓口囮囹囿圄圊圉圈
9AA0	國圍圓團圖嗇圜圦圷圸坎圻址坏坩埀
9AB0	垈坡坿垉垓垠垳垤垪垰埃埆埔埒埓堊
9AC0	埣埲埴堝塲堡塢塋塰毀塒墅塹墟墫墺壞
9AD0	墟墫奧壙墻壔壜壓壑壗壙壘壛壜壤
9AE0	壟壯壻壹壻壼壽夂夊夐夛梦夥夬夭本
9AF0	夸夾竒奕奐奎奚奘奢奩奧奬奩
9B40	妤妁妝佞侫妣妲姆姨姜妍姙姚娥娟娑
9B50	娜娉娚婀婬婉娵娶婢婪媚媼媾嫋嫂媲
9B60	嫣嫗嫦嫩嫖嫺嫻嬌嬋嬖嬲嫐嬪嬶嬾孃
9B70	孀孅孑孕孚孛孰孳孵學斈孺宀
9B80	它宦宸寃寇寉寔寐寤實寢寞寥寫寰寶

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
9B90	寳尅將專對尓尠尢尨尸尹屁屆屎屓屐屏
9BA0	屏孱屬屮山岑屹峅岌岑岱岳岼岷岻峇峅
9BB0	峡峺峩峙峺峽峻峭嶌峪崋崕崗嵜崟崛崘
9BC0	崟崔崢崚崙崘嵌嵎嵋嵬嵳嵶嶇嶄巌嶂嶝
9BD0	嶢嶬嶮嶽嶷嶹巉巍嶼嶺嶽巓巒巖巛巫已
9BE0	巵帋帚帙帑帛帶帷幄幃幀幎幗幔幟幢
9BF0	幣幇幵并幺麼广庠廁廂廈廐廏
9C40	廖廣廝廚廛廢廡廨廩廬廱廳廰廴廸廾
9C50	弁弉彝彜弋弍弖弩弭弸弼彁彈彌彎弯彑
9C60	彖彗彙彡彭彳彷徃徂彿徊很徑徇從徙
9C70	徘徠徨徭徼忖忻忤忸忱忝悳忿怡恠
9C80	怙怐怩怎怱怛怕怫怦怏怵恿恚恁恪恷恟
9C90	恊恆恍恣恃恤恬恫恙悁悍惧悃悚悋悸悩
9CA0	悛悖悗悒悧悋惡悸惠惓悴忰悽惆悵惘
9CB0	慍愕愆惶愈慚慌慉慂慊悸慚慥慱慟慳慷
9CC0	慼愧慊愿愼愬愴愽慱憑憖憇憧憮慫慚慳憩
9CD0	憫憺憶憺憊憺應懷懈憖憺懋罹懍憬憔憑憫
9CE0	憊戁懃懽戁戄戇戞戉戍戌戔戛
9CF0	戝戡截戮戯戦戲戳扁扎扞扣扛扠扨扼抂
9D40	抉找抒抓抖拔抃抔拗拑抻挌拿拆擔拈

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
9D60	拜	拌	拊	拂	拇	抛	拉	挌	拮	拱	挧	挂	挈	拯	拵	捐
9D70	挾	捍	搜	捏	掖	掎	掀	掫	捶	掣	掏	掉	掟	掵	捫	
9D80	捩	掾	揩	揀	揆	揣	揉	插	揶	揄	搖	搴	搆	搓	搦	搶
9D90	攝	搗	搨	搏	摧	摯	摶	摎	攪	撕	撓	撥	撩	撈	撼	據
9DA0	擒	擅	擇	撻	擘	擂	擱	擧	舉	擠	擡	抬	擣	擯	攬	擶
9DB0	擴	擲	擺	攀	擽	攘	攜	攅	攤	攣	攫	攴	攵	攷	收	攸
9DC0	畋	效	敖	敕	敍	敘	敞	敝	敲	數	斂	斃	變	斛	斟	斫
9DD0	斷	旃	旆	旁	旄	旌	旒	旛	旙	无	旡	旱	杲	昊	昃	旻
9DE0	杳	昵	昶	昴	昜	晏	晄	晉	晁	晞	晝	晤	晧	晨	晟	晢
9DF0	晰	暃	暈	暎	暉	暄	暘	暝	曁	暹	曉	暾	暼			
9E40	曄	暸	曖	曚	曠	昿	曦	曩	曰	曵	曷	朏	朖	朞	朦	朧
9E50	霸	朮	朿	朶	杁	朸	朷	杆	杞	杠	杙	杣	杤	枉	杰	枩
9E60	杼	杪	枌	枋	枦	枡	枅	枷	柯	枴	柬	枳	柩	枸	柤	柞
9E70	柝	柢	柮	枹	柎	柆	柧	檜	栞	框	栩	桀	桍	栲	桎	
9E80	梳	栫	桙	档	桷	桿	梟	梏	梭	梔	條	梛	梃	檮	梹	桴
9E90	梵	梠	梺	椏	梍	桾	椁	棊	椈	棘	椢	椦	棡	椌	棍	棔
9EA0	棧	棕	椶	椒	椄	棗	棣	椥	棹	棠	棯	椨	椪	椚	椣	椡
9EB0	棆	楹	楷	楜	楸	楫	楔	楾	楮	椹	楴	椽	楙	椰	楡	楞
9EC0	楝	榁	楪	榲	榮	槐	榿	槁	槓	榾	槎	寨	槊	槝	榻	槃
9ED0	榧	樮	榑	榠	榜	榕	榴	槞	槨	樂	樛	槿	權	槹	槲	槧
9EE0	樅	榱	樞	槭	樔	槫	樊	樒	櫁	樣	樓	橄	樌	橲	樶	橸

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
9EF0	橇	橢	橙	橦	橈	樸	樢	檐	檍	檠	檄	檢	檣			
9F40	檗	蘗	檻	櫃	櫂	檸	檳	檬	櫞	櫑	櫟	檪	櫚	櫪	櫻	欅
9F50	蘖	櫺	欒	欖	鬱	欟	欸	欷	盜	欹	飮	歇	歃	歉	歐	歙
9F60	歔	歛	歟	歡	歸	歹	歿	殀	殄	殃	殍	殘	殕	殞	殤	殪
9F70	殫	殯	殲	殱	殳	殷	殼	毆	毋	毓	毟	毬	毫	毳	毯	
9F80	麾	氈	氓	气	氛	氤	氣	汞	汕	汢	汪	沂	沍	沚	沁	沛
9F90	汾	汨	汳	沒	沐	泄	泱	泓	沽	泗	泅	泝	沮	沱	沾	沺
9FA0	泛	泯	泙	泪	洟	衍	洶	洫	洽	洸	洙	洵	洳	洒	洌	浣
9FB0	涓	浤	浚	浹	浙	涎	涕	濤	涅	淹	渕	渊	涵	淇	淦	涸
9FC0	淆	淬	淞	淌	淨	淒	淅	淺	淙	淤	淕	淪	淮	渭	湮	渮
9FD0	渙	湲	湟	渾	渣	湫	渫	湶	湍	渟	湃	渺	湎	渤	滿	渝
9FE0	游	溂	溪	溘	滉	溷	滓	溽	溯	滄	溲	滔	滕	溏	溥	滂
9FF0	溟	潁	漑	灌	滬	滸	滾	漿	滲	漱	滯	漲	滌			
E040	漾	漓	滷	澆	潺	潸	澁	澀	潯	潛	濳	潭	澂	潼	潘	澎
E050	澑	濂	潦	澳	澣	澡	澤	澹	濆	澪	濟	濕	濬	濔	濘	濱
E060	濮	濛	瀉	瀋	濺	瀑	瀁	瀏	濾	瀛	瀚	潴	瀝	瀘	瀟	瀰
E070	瀾	瀲	灑	灣	炙	炒	炯	烱	炬	炸	炳	炮	烟	烋	烝	
E080	烙	焉	烽	焜	焙	煥	煕	熈	煦	煢	煌	煖	煬	熏	燻	熄
E090	熕	熨	熬	燗	熹	熾	燒	燉	燔	燎	燠	燬	燧	燵	燼	燹
E0A0	燿	爍	爐	爛	爨	爭	爬	爰	爲	爻	爼	爿	牀	牆	牋	牘
E0B0	牴	牾	犂	犁	犇	犒	犖	犢	犧	犹	犲	狃	狆	狄	狎	狒

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
E0C0	狢	狠	狡	狹	狷	倏	猗	猊	猜	猖	猝	猴	猯	猩	猥	猾
E0D0	獎	獏	默	獗	獪	獨	獰	獸	獵	獻	獺	珈	玳	珎	玻	珀
E0E0	珥	珮	珞	璢	琅	瑯	琥	珸	琲	琺	瑕	琿	瑟	瑙	瑁	瑜
E0F0	瑩	瑰	瑣	瑪	瑶	瑾	璋	璞	璧	瓊	瓏	瓔	珱			
E140	瓠	瓣	瓧	瓩	瓮	瓲	瓰	瓱	瓸	瓷	甄	甃	甅	甌	甎	甍
E150	甕	甓	甞	甦	甬	甼	畄	畍	畊	畉	畛	畆	畚	畩	畤	畧
E160	畫	畭	畸	當	疆	疇	畴	疊	疉	疂	疔	疚	疝	疥	疣	痂
E170	疳	痃	疵	疽	疸	疼	疱	痍	痊	痒	痙	痣	痞	痾	痿	
E180	痼	瘁	痰	痺	痲	痳	瘋	瘍	瘉	瘟	瘧	瘠	瘡	瘢	瘤	瘴
E190	瘰	瘻	癇	癈	癆	癜	癘	癡	癢	癨	癩	癪	癧	癬	癰	癲
E1A0	癶	癸	發	皀	皃	皈	皋	皎	皖	皓	皙	皚	皰	皴	皸	皹
E1B0	皺	盂	盍	盖	盒	盞	盡	盥	盧	盪	蘯	盻	眈	眇	眄	眩
E1C0	眤	眞	眥	眦	眛	眷	眸	睇	睚	睨	睫	睛	睥	睿	睾	睹
E1D0	瞎	瞋	瞑	瞠	瞞	瞰	瞶	瞹	瞿	瞼	瞽	瞻	矇	矍	矗	矚
E1E0	矜	矣	矮	矼	砌	砒	礦	砠	礪	硅	碎	硴	碆	硼	碚	碌
E1F0	碣	碵	碪	碯	磑	磆	磋	磔	碾	碼	磅	磊	磬			
E240	磧	磚	磽	磴	礇	礒	礑	礙	礬	礫	祀	祠	祗	祟	祚	祕
E250	祓	祺	祿	禊	禝	禧	齋	禪	禮	禳	禹	禺	秉	秕	秧	秬
E260	秡	秣	稈	稍	稘	稙	稠	稟	禀	稱	稻	稾	稷	穃	穗	穉
E270	穡	穢	穩	龝	穰	穹	穽	窈	窗	窕	窘	窖	窩	竈	窰	
E280	窶	竅	竄	窿	邃	竇	竊	竍	竏	竕	竓	站	竚	竝	竡	竢

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
E290	竦	竭	竰	笂	笏	笊	笆	笳	笘	笙	笞	笵	笨	笶	筐	筺
E2A0	笄	筍	笋	筌	筅	筵	筥	筴	筧	筰	筱	筬	筮	箝	箘	箟
E2B0	箍	箜	箚	箋	箒	箏	筝	箙	篋	篁	篌	篏	箴	篆	篝	篩
E2C0	簑	簔	篦	篥	籠	簀	簇	簓	篳	篷	簗	簍	篶	簣	簧	簪
E2D0	簟	簷	簫	簽	籌	籃	籔	籏	籀	籐	籘	籟	籤	籖	籥	籬
E2E0	籵	粃	粐	粤	粭	粢	粫	粡	粨	粳	粲	粱	粮	粹	粽	糀
E2F0	糅	糂	糘	糒	糜	糢	鬻	糯	糲	糴	糶	糺	紆			
E340	紂	紜	紕	紊	絅	絋	紮	紲	紿	紵	絆	絳	絖	絎	絲	絨
E350	絮	絏	絣	經	綉	絛	綏	絽	綛	綺	綮	綣	綵	緇	綽	綫
E360	總	綢	綯	緜	綸	綟	綰	緘	緝	緤	緞	緻	緲	緡	縅	縊
E370	縣	縡	縒	縱	縟	縉	縋	縢	繆	繦	縻	縵	縹	繃	縷	
E380	縲	縺	繧	繝	繖	繞	繙	繚	繹	繪	繩	繼	繻	纃	緕	繽
E390	辮	繿	纈	纉	續	纒	纐	纓	纔	纖	纎	纛	纜	缸	缺	罅
E3A0	罌	罍	罎	罐	网	罕	罔	罘	罟	罠	罨	罩	罧	罸	羂	羆
E3B0	羃	羈	羇	羌	羔	羞	羝	羚	羣	羯	羲	羹	羮	羶	羸	譱
E3C0	翅	翆	翊	翕	翔	翡	翦	翩	翳	翹	飜	耆	耄	耋	耒	耘
E3D0	耙	耜	耡	耨	耿	耻	聊	聆	聒	聘	聚	聟	聢	聨	聳	聲
E3E0	聰	聶	聹	聽	聿	肄	肆	肅	肛	肓	肚	肭	冐	肬	胛	胥
E3F0	胙	胝	胄	胚	胖	脉	胯	胱	脛	脩	脣	脯	腋			
E440	隋	腆	脾	腓	腑	胼	腱	腮	腥	腦	腴	膃	膈	膊	膀	膂
E450	膠	膕	膤	膣	腟	膓	膩	膰	膵	膾	膸	膽	臀	臂	膺	臉

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
E460	臍膰臙臘臈臚臟臟臧臺臻與舁舂舅與
E470	舊舍舐舖舩舫舸舳艀艙艘艝艚艟艤
E480	艢艨艪艫艮艱艷艸艾芍芒芫芟芻芬苡
E490	苣苟苒苴苳苺苻范苻苹苞茆苔茉苙茵
E4A0	茴茖茲茱荀茹荐荅茯茫茗荔荏莛莪莒
E4B0	莢莖莫莎莇莊莽莵莧莵荻莠利莨菴菅菫
E4C0	菎菽萃菘萋菁菷長菠菲萍萓萠莽萸蔆
E4D0	菻葭萪萼蒄蒐葡萸葆蒂葩葆萬葯葹
E4E0	萵蓊葢蒹蒿蒟蓙蓊蓚蓯蓼蓆蓖蔕蔘蔡
E4F0	蓿蓴蔗蔘蔬蔟蔕蔔蓼蔣蔣蔦蓴
E540	蓴藥蔍獪薀雍薈薑薊薨蕭薔薛藪薇薜
E550	蘋蕾蘂藉薺藏薹藐藕藝藥藜藹蘊蘓蘋
E560	藕藺蘆蘢蘚蘰蘿虍乕虔號虧虱蚓蚣蚩
E570	蚰蚯蚌蚶蚯蛄蛆蛔蛞蛑蝮蛹蛔蛞蛩蛬
E580	蛟蛛蛯蜒蜆蜈蜀蜃蛻蜑蜉蝣蜩蜥蜴蜿
E590	蜷蜻蜥蝪蝮蝠蝓蝣蝪蠑蝟蝗蝨蝮蝙蝓
E5A0	蝣蝪蠅螢螟螂螯蟋蟲蟀蟐雖螫蟄螳蟇
E5B0	蟆螻蟯蟲蟠蠏蠍蟾蟶蟷蠎蟒蠑蟆蠏
E5C0	蠑蠖蠶蠹蠧蠻衄衂衒衙衛衢衫袁衾袞
E5D0	袒衽袢袖袂袗袒袮袒袢袍袤袰袿袱袴
E5E0	袮裔裘裙裝裹褂裼裨裲褄褌褊褓襃

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
E5F0	襠褥褪褫襲褻褶褸褽褾襁襃
E640	襦襤襭襪襯襴襷襾覃覆覊覓覘覡覦覩覬
E650	覯覲覺覽覿覰覷觀觚觜觝觧觴觸訃訖訐
E660	訌訛訝訥訶詁詛詒詆詈詼詭詬詢詵詼詿
E670	誄誨誡誑誥誦誚誣諄諍諂諚諫諳諧
E680	諤諱謔諠諢諷諞諛謌謇謚謦謫謳謐謗謠
E690	謾謨譁譌譏譎證譖譛譚譫譟譬譯譴譽
E6A0	譱譴譲譴讀讌讎讒讖讙讚谺豁谿豈
E6B0	豌豎豐豕豢豬豸豺貂貉貅貍貎貔豼
E6C0	貘貶貭貪貽貲貳貮貶賈賁賤賣賚賽賺
E6D0	賻贄贅贇贏贍贐齎贓賍贔贖赧赭赱
E6E0	赳趁趙跂趾趺跏跚跖跌跛跋跪跫跟跣
E6F0	跼跿跟跬踝踞踐踟蹂踵踰踴蹊
E740	蹇蹉蹌蹐蹈蹙躄蹠蹤蹟蹕躁躇躋躊躓躑躔
E750	躙躪躡躣躕躚躰躱躾躅躄躬躭躪躬躰軅
E760	軈軋軛軦軼軻軫軾軹軺軽軿輊輒輙輓輜輟
E770	輛輌輦輳輻輹輸輶輾轂轅轄轉轆轎轗轜
E780	轣轤轤辜辟辣辭辯辷迚迥迢迪迯邇迴
E790	逅迹迺逑逕逡逍逞逖逋逧逶逵逹逞迸遏遐
E7A0	遑遒逎遉逾遖遘遞遨逖遯遘隨遲邂遽邁
E7B0	邀邊邉邏邨邯邱邵郢郤扈郛鄂鄒鄙鄲

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
E7C0	鄴鄰酊酖酘酣酥酩酳酲醋醉醂醢醫醯
E7D0	醪醸醴醺釀釁釉釋釐釖釜釣釦釵鈑鈔
E7E0	鈎釿鈔釈鈕鈑鉞鉗鉅鉉鉤鉈銕鈿鉋鉚
E7F0	銜銖銓銛鉚鋏銹銷鋩錏鋺鍬錏錆鍋
E840	錙錢錚錣錺錆錻鍜鍠鍼鍮鍖鎰鎬鎭鎔
E850	鎹鏖鏗鏨鏥鏘鏃鏝鏐鏈鏤鐚鐔鐓鐃鐇鐐
E860	鐶鐫鐺鐵鐡鐺鑁鑄鑞鑠鑢鑞鑪鑰鑵鑼鈩鑑
E870	鑿钁鑚鑚鑷鑽鑾鑼鑿閂閇閊閔閖閘閙
E880	閖閨閧閭閼閻閹閾閼澗闌閤閨關闔闌
E890	闕闡闥闢阡陋阮阯陂陌陏陋陷陜陞陝
E8A0	陟陦陲陬隍隘隕隗險隧隱隲隰隴隶隷
E8B0	隹雎雋雉雍襍雜霍雕雹霄霆霈霓霎霑
E8C0	霏霖霙霤霪霰霹霽霾靄靆靈靂靉靜靠
E8D0	靤靦靨勒靫靱靹鞅靼鞁靺鞆鞄鞋鞏靹鞜
E8E0	鞨鞦鞣鞳鞴韃韈韲韮韜韭齏韲竟韶韵
E8F0	頏頌頸頤頡頷頽顆顏顋顯顰
E940	顱顴顳颪颯颱颶飄飃飩飫餃餉餒餔餘
E950	餘餡餝餞餤餠餬餮餽餾饂饉饅饐饋饑
E960	饒饌饗馗馘馥馭馮馼駟駛駝駘駑駭駮駱
E970	駸駻駽駾駷駹騏騅騁騙騒騒驅驂驀騾
E980	騾驕驍驛驗驟驢驥驤驩驫驪骭骰骼髀

	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F
E990	髏髑髓體髞髟髡髣髦髯髫髮髴髱髷髻
E9A0	鬆鬘鬚鬟鬢鬣鬥鬧鬨鬩鬮鬯鬲魄魃
E9B0	魏魍魎魑魘魴觚魯魴魚魨魯鮃鮑鮖鮗鮟鮠鮨鮴鯀
E9C0	鯊鮹鯆鯏鯑鯒鯣鯢鯤鯔鯡鰺鯲鯱鯰鰹鯉鰰鱇
E9D0	鰄鰈鰓鰌鰆鰈鰕鰔鰉鰲鰮鰯鰲鰥鰤鱆鰭鱒鱠
E9E0	鱚鱒鱧鱶鱸鱧鱮鱶鱸鳧鳬鳰鴉鴈鳫鴎鴟
E9F0	鴪鴦鶯鴣鴟鵁鵄鵆鵈鵝鵆鵐鵙鵲鶉鶇鶫
EA40	鵯鵺鶚鶤鶩鶲鵄鶴鶸鶺鶯鷁鶻鶸鷺鷯
EA50	鷲鷹鷆鷸鷦鷭鷯鷽鸚鷛鸛鸞鹵鹹鹽鹿
EA60	麈麕麒麑麝麥麩麸麪麭靨黌黍黎黏黹
EA70	黝黜黴黼黽鼇鼈皷鼕鼡鼬鼾齁齊齒
EA80	齔齟齣齟齠竜虧兔兖龠龕龢龝龜龠
EA90	龡龝龤齓齔齦齬齪齲齶龕龜龠堯
EAA0	槇遙瑤凜熙
EAB0	
EAC0	
EAD0	
EAE0	
EAF0	
EB40	
EB50	

12.3　用語集

本体コピー機能に使われる用語について説明します。

	用語	説明
アルファベット	ADF	自動両面原稿送り装置のことです。原稿を自動で読込ませることができます。（ADF = Automatic document feeder）
	AE レベル調整	原稿の下地を調節する機能です。設定値が大きくなるほど、原稿の下地が強調されます。（AE = Auto Exposure）
	APS	自動用紙機能のことです。（APS = Auto Paper Select）
	ATS	自動トレイ切換え機能のことです。（ATS=Auto Tray Switch）
	OHP 合紙	OHP フィルムを 1 枚コピーするごとに、白紙を OHP フィルムの間に合紙として挿入する機能です。OHP フィルムどうしが密着するのを防ぐ機能です。
あ行	青色	水や空の色をより青々とさせたいときなど、青色の色合いを調整する機能です。
	赤色	人の肌に赤みをつけたいときなど、赤色の色合いを調整する機能です。
か行	カバーシート	指定した給紙トレイの用紙を表紙としてつける機能です。
	カラー	指定したカラーでコピーできる機能です。“2 色カラー” 機能を使うと、指定したカラーとブラックの 2 色でコピーできます。
	カラー画質調整	カラーコピーの原稿のイメージに合った画質でコピーするための設定ができます。
	カラーバランス	シアン（C）、マゼンタ（M）、イエロー（Y）、ブラック（K）の色ごとに濃度のバランスを調整する機能です。各色 -3 から +3 の間の 19 段階で微調整できます。
	カラー編集	コピーの編集目的に合わせて画像イメージを設定できます。
	確認コピー	大量部数のコピーをするとき、1 部のみを仕上げていったん停止させる機能です。大量のミスコピーを未然に防止できます。
	鏡像	原稿イメージを左右対称にして鏡に映ったイメージでコピーする機能です。
	グループ（コピー / 仕上り）	コピーをページ単位で出力する機能です。1 ページ目が指定した部数分出力されたあと、2 ページ目が指定した部数分出力されます。
	グループ（参照許可）	各ユーザーの参照できる宛先を制限し、セキュリティーを管理するための機能です。
	原稿画質	原稿の文字や画像のタイプに合わせて機能を選択し、よりよいコピー画質に調整できる機能です。
	原稿セット方向	ADF や原稿ガラス上にセットした原稿のセット方向を設定する機能です。
	原稿のとじしろ	セットした原稿の、片側の余白位置を指定する機能です。片面原稿を両面コピーする場合や、両面原稿を片面コピーする場合に、コピーの上下が逆にならないように設定できます。
	光沢コピー	画像の光沢度を向上させることができる機能です。
	コピー濃度	コピー濃度を -3 から +3 の間の 19 段階で微調整する機能です。
	コピープロテクト	不正コピー防止用の隠し文字を印字する機能です。コピープロテクトが印字された文書をコピーすると、隠し文字が原稿よりはっきりと全ページの用紙全体に繰り返し現れ、コピー文書であることが分かるようになります。
	混載原稿	異なるサイズが混じった原稿を、自動両面原稿送り装置にセットしても、原稿ごとに原稿サイズを検知し、適正な用紙にコピーされる機能です。
	コントラスト	コントラストの濃淡を調整する機能です。

	用語	説明
さ行	彩度	色のあざやかさの度合いを調整する機能です。
	仕上り	コピーを排紙トレイに出力するときの仕分け方法や仕上り方法を設定できます。
	仕上りプレビュー	印刷する前に、仕上り状態をプレビュー画像で確認することができる機能です。
	仕分け	コピーを仕分けして出力する機能です。
	色相	色相調節により、赤みを強くしたり、青みを強くする機能です。
	下地調整	下地に色がついている原稿の下地濃度を 9 段階に設定してコピーする機能です。
	自動倍率	ADF や原稿ガラス上に原稿をセットし、用紙のサイズを選択すると、適正な倍率を自動で選択する機能です。
	自動用紙	ADF や原稿ガラス上にセットされた原稿サイズを検知し、等倍のときは同じサイズの用紙を、変倍のときは倍率に対応したサイズの用紙を自動で選択する機能です。
	シャープネス	文字のエッジ部分を強調して、読みやすくする機能です。また、原稿の印象を調整する機能です。
	集約	1 枚の用紙に、複数の原稿を縮小し並べてコピーする機能です。集約する枚数により 2in1、4in1、8in1 の機能を選択できます。
	ステープル	コピー書類を止め金でとじる機能です。
	ズーム	セットした原稿をテンキーで指定した倍率で拡大／縮小し、用紙にコピーする機能です。
	選択トレイの設定変更	給紙トレイにセットされていない用紙サイズや、普通紙以外の用紙にコピーする設定ができます。
	ソート	コピーを部数単位で出力する機能です。1 部目が出力されたあと、2 部目のコピーが出力されます。
た行	小さめ	原稿の画像をわずかに縮小しコピーする機能です。
な行	中とじ	用紙を半分に折り、中央にステープルでとじて出力する機能です。
	ネガポジ反転	原稿の濃淡および色（階調）を反転してコピーする機能です。
	濃度	印刷画像濃度を 9 段階で設定してコピーする機能です。
は行	倍率	コピー倍率を変更できます。
	パンチ	コピーにファイリング用のパンチ穴をあける機能です。
	ページ編集	コピーの目的に合わせて編集機能を設定できます。
	ベースカラー	原稿の背景（白紙部分）に 18 色から指定した 1 色をつけてコピーする機能です。
	ボックス保存	ジョブをいったんハードディスクに保存しておき、あとから呼出して再利用できる機能です。
ま行	緑色	森や樹々の葉をより青々とさせたいときなど、緑色の色合いを調整する機能です。
	明度	明るさの度合いを調整する機能です。
	文字再現	原稿の写真（図やグラフなど）と文字が重なっている場合（背景文字）などに、コピー上の文字の再現性を設定する機能です。
や行	用紙	印刷する用紙の種類とサイズを設定できます。
ら行	両面 2 面目	片面に印刷されている用紙を使用して印刷するとき設定する機能です。
	両面 / ページ集約	原稿の読込み面と用紙の印刷したい面を片面にするか、両面にするか指定する機能です。
	連続読込み設定	原稿の枚数が ADF にセットできる最大枚数（100 枚）を超える場合に、原稿をいくつかに分けて読込む機能です。原稿を読込ませ、ひとつのコピージョブとして一括してコピーできます。また、途中で原稿ガラス上にセットして読込ませたり、ADF に切換えることもできます。

第 13 章
索引

13.1　使用別索引 13-2
13.2　項目別索引 13-7

13.1　使用別索引

■ あ行

合わせる
原稿を用紙サイズに合わせてコピーする（画像の収め方） 7-63

印字する
日付 / 時刻、ページ、管理番号を印字してコピーする（スタンプ） 7-70

選ぶ
宛先登録を選択する 11-7
印刷カラーを選ぶ 2-27
紙折り機能を選ぶ 2-66
仕上り機能を選ぶ 2-55
ページ集約を選ぶ 2-44
ユーザー設定を選択する 11-14

■ か行

かえる
操作パネルの角度をかえる 1-23

確認する
1 部印刷してコピーの仕上りを確認する（確認コピー） 3-5
カウントを確認する（セールスカウンタ） 9-6
カラー画質調整の仕上りを確認する（サンプルコピー） 7-46
コピー条件を確認する（設定内容） 3-2
消耗品の状態を確認する 11-38
ジョブの詳細確認をする 10-7
ジョブの設定内容を確認する 10-7
設定メニュー 11-2
蓄積ジョブを 1 部印刷して確認する 10-10
プレビュー画像でコピーの仕上りを確認する（仕上りプレビュー） 3-8
用語集 12-14

紙づまり
「紙づまりです」と表示されたら 4-4

カラー
色についての知識 7-3
カラー画質機能 7-2
カラー画質を調整する 7-44
原稿の白地部分に色をつけてコピーする（ベースカラー） 7-42

繰り返す
指定した範囲を繰り返しコピーする（リピート） 7-51

消す
指定部分を消してコピーする（枠消し） 7-68
ジョブを削除する 10-6

原稿
ADF にセットする原稿についての注意 6-20
ADF にセットできる原稿 6-19
折りぐせのついた原稿をセットする（Z 折れ原稿） 2-19
原稿および用紙の呼び方と表示 17
原稿ガラス上にセットする原稿についての注意 6-20
原稿ガラス上にセットできる原稿 6-20
原稿の画質を選ぶ 2-47
原稿をセットする 2-6

原稿＞コピー機能を選ぶ 2-40
サイズの異なる原稿をセットする（混載原稿） 2-18
複数枚の原稿を原稿ガラス上にセットする 2-12

交換する
イメージングユニットを交換する 8-9
「…交換してください」と表示されたら 4-67
ステープルカートリッジを交換する 8-16
トナーカートリッジを交換する 8-2
廃棄トナーボックスを交換する 8-6

■ さ行

指定する
用紙サイズを指定する（サイズ指定） 6-8

自動
ATS 機能（自動トレイ切換え機能） 6-5
自動的に機能画面を取消す（システムオートリセット） 1-28
自動的に設定を取消す（オートリセット） 1-28
用紙サイズを自動で検出させる（自動検出） 6-7

準備する
「以下のユニットが交換時期に達しています」と表示されたら 4-66

ステープル
「ステープルできませんでした」と表示されたら 4-57

セキュリティー
参照許可設定 11-7
認証装置（IC カード認証タイプ）を使って本機の使用者を制限する 1-39
認証装置（指静脈 生体認証タイプ）を使って本機の使用者を制限する 1-37
認証方式 11-65
部門管理設定 11-79
部門ごとに本機の使用者を制限する（部門認証） 1-34
ユーザーごとに本機の使用者を制限する（ユーザー認証） 1-32
ユーザー認証設定 11-70

設定する
原稿ごとに異なる設定で読込みまとめてコピーする（プログラムジョブ） 7-34
専用紙として設定する 6-16
操作パネルの設定をする（ユニバーサル設定） 3-23
不定形紙をセットする（不定形） 6-9
ヘッダー / フッターを設定する 11-62
優先出力の設定をする 10-12
ワイド紙の設定をする 6-13

節電
自動的に節電状態にする（スリープ） 1-29
自動的に節電状態にする（低電力） 1-29
手動で節電状態にする 1-30

セットする
折りぐせのついた原稿をセットする（Z 折れ原稿） 2-19

掃除する
外装カバー 9-2
原稿押えパッド 9-3
原稿ガラス 9-2
スリットガラス 9-2

操作パネル 9-3
帯電チャージャーワイヤー 9-4
プリントヘッド 9-5

挿入する

OHP フィルムの間に白紙を差込んでコピーする（OHP 合紙） 7-21
追加原稿を指定したページに差込む（差込みページ） 7-29
別の用紙を挿入してコピーする（インターシート） 7-26

■ た行

調整する

タッチパネルの調整をする 3-23
フィニッシャー調整 11-49
プリンター調整 11-40
文字の再現レベルを調整する 2-53

つける

表紙をつける（カバーシート） 7-23

停止

読込み・印刷を一時停止する 2-73

点検

「装置の定期点検時期です」と表示されたら 9-8

電源

自動的に電源を OFF ／ ON する（ウィークリータイマー） 1-30
電源の入れかた 1-26
電源の切りかた 1-28

登録する

コピー条件を登録する（プログラム登録） 3-14
登録したコピー条件でコピーする（コピープログラム呼出し） 3-17
目的の倍率を登録する 2-38
目的の用紙サイズを登録する（不定形） 6-11

とじ

カタログをコピーする（カタログ連写） 7-58
とじしろをつくってコピーする（とじしろ） 7-60

トラブル

簡単なトラブルの処理 4-69
「トラブルです」と表示されたら（サービスコール） 4-2

■ な行

名前とはたらきを確認する

各部の名称とはたらき 1-2

入力する

濃度を選ぶ 2-50
文字を入力するには 12-2

■ は行

配置する
雑誌や週刊誌のようなページレイアウトでコピーする（小冊子） 7-66
指定したページを必ずオモテ面に配置する（章分け） 7-31
見開き原稿を左右 1 ページずつ分けてコピーする（ブック連写） 7-47

倍率
倍率を選ぶ 2-31

パンチ
パンチくずを処理する 8-25

反転させる
原稿の左右を反転してコピーする（鏡像） 7-39

反転する
カラー反転や補色してコピーする（ネガポジ反転） 7-38

表示させる
宛先登録画面を表示させる 11-13
管理者設定画面を表示させる 11-36
管理者設定を選択する 11-22
機能説明画面を表示させる（ヘルプ機能） 3-19
実行中リスト（蓄積ジョブまたは動作中ジョブ）を表示する 10-9
ヘルプ基本画面を表示させる 3-21
ユーザー設定画面を表示させる 11-21
履歴リストを表示する 10-9

分割する
画像を複数の用紙に分割して拡大コピーする（拡大連写） 7-55
原稿を分割して読込む（連続読込み設定） 2-9

保管する
用紙の保管 6-5

補正する
色重ねズレの補正をする 11-57
階調補正 11-60

保存する
読込んだ原稿をボックスに保存する（ボックス保存） 7-97

■ ま行

メッセージ
おもなメッセージと処理のしかた 4-71

メモリー
「メモリー残量不足のため、…」と表示されたら 4-65

■ や行

用紙
LCT へ用紙をセットする 1-43
原稿および用紙の呼び方と表示 17
使用できる用紙サイズ 6-2

専用紙について 6-4
手差しトレイへ用紙をセットする 1-45
トレイ 1 へ用紙をセットする 1-41
用紙種類および用紙容量 6-3
用紙使用上の注意 6-5
用紙の保管 6-5
用紙を選ぶ 2-29
「用紙を補給してください」と表示されたら 4-64

読込み

ウォームアップ中に読込みする 1-27

予約する

印刷中に次のコピー原稿を読込む（コピー予約） 2-72

■ わ行

割込む

割込んでコピーする（割込み） 3-13

13.2 項目別索引

Numerics

2 in 1 2-44
2 色カラー 2-27, 7-17
4 in 1 2-44
8 in 1 2-44

A

ADF 1-6, 2-6, 4-7, 5-4, 6-19
ATS 機能 6-5

E

E-mail アドレス変更 11-20

I

IC カード認証 1-39

L

LCT 1-43, 4-39, 5-6

O

OHP 合紙 7-21

Z

Z 折れ原稿 2-19

あ行

アイコン 1-22
アイコン変更 11-20
青色 7-7
赤色 7-5
宛先 / ボックス登録 11-27
宛先登録 11-7, 11-27
一時停止 2-73
イメージングユニット 8-9
色あい 7-14
色重ねズレ補正 11-57
印刷位置：先端 11-40
印刷位置：側端 11-42
印刷カラー 2-27
インターシート 7-26
ウィークリータイマー 1-30, 11-39
ウォームアップ 1-27
オートカラー 2-27
オートリセット 1-28
オートリセット設定解除確認 3-28
音設定 3-32
オプション 1-2

か行

外装カバー 9-2
階調補正 11-60
拡大表示切換え確認 3-29
拡大連写 7-55
確認コピー 3-5
各部の名称 1-2
画像の収め方 7-63
片面コピー 2-41
カタログ連写 7-58
カバーシート 7-23
カバレッジレート 9-7
紙折り機能 2-66
紙づまり 4-4, 4-52
紙づまり位置表示 4-4
画面カスタマイズ設定 11-16
カラー CMYK 調整 7-8
カラー画質 7-44
カラーバランス 7-8
環境設定 11-14, 11-22
管理者 / 本体登録 11-27
管理者設定 11-22
キーリピート開始 / 間隔時間 3-24
基本設定画面 1-20
基本（一括）画面 1-20
給紙 1-41, 1-43, 1-45
給紙キャビネット PC-104 5-5
給紙キャビネット PC-204 5-5
給紙キャビネット PC-405 5-6
鏡像 7-20, 7-39
グループ 2-55, 2-59
原稿 6-19
原稿押えパッド 9-3
原稿画質 2-47, 12-14
原稿ガラス 2-7, 6-20, 9-2
原稿セット方向 2-20, 12-14
原稿セット方法 2-6
原稿のとじしろ 2-22, 12-14
原稿の向き 17
原稿＞コピー機能 2-40
光沢コピー 2-50, 2-54
固定倍率 2-35
コピー設定 11-17, 11-31
コピー濃度 7-15
コピープログラム呼出し 3-17
コピー予約 2-72
混載原稿 2-18, 12-14
コントラスト 7-11

さ行

サービスコール 4-2
彩度 7-12
差込みページ 7-29
参照許可設定 11-7

サンプルコピー 7-46
仕上り機能 2-55
仕上りプレビュー 3-8
色相 7-14
システムオートリセット 1-28
システムオートリセット設定解除確認 3-26
システム連携 11-33
下地調整 2-50, 2-52
実行中リスト 10-9
自動トレイ切換え機能 6-5
自動倍率 2-31
自動用紙 2-29
自動両面原稿送り装置 5-4
自動両面ユニット 1-5, 4-27, 5-4
シャープネス 7-13
主電源スイッチ 1-26
小冊子 7-66
状態表示ランプ 1-6
消耗品 8-2, 8-6, 8-9, 8-16
消耗品確認 11-38
章分け 7-31
ジョブの削除 10-6
ジョブ表示画面 10-2
仕分け 2-55
ズーム 2-33
スタンプ / ページ印字 7-70
ステープル 2-56, 2-61
ステープルカートリッジ 8-16
ステープル針 8-16
スリープモード 1-29
スリットガラス 9-2
清掃 9-2
生体認証 1-37
セールスカウンター 9-6
セキュリティー設定 11-33
設定内容 3-2
設定メニュー 11-2
節電 1-29, 1-30
セパレータ JS-505 ..... 1-16, 5-9
センターステープル位置調整 11-49
専用紙 6-4, 6-16
操作パネル 1-18, 1-23, 9-3
ソート 2-55, 2-58

た行

帯電チャージャーワイヤー 9-4
タッチパネル 1-20, 3-23
単色カラー 2-27, 7-16
小さめ 2-34
蓄積ジョブ 10-10, 10-11
長尺紙 4-41, 6-2, 11-6
定期点検 9-8
定着部 1-9, 4-21
低電力モード 1-29
手差しトレイ 1-5, 1-45, 4-28
等倍 2-32
独立ズーム 2-36
とじしろ 7-60
トナーカートリッジ 8-2
トラブルコード 4-2
トラブルの処理 4-69
トレイ 1 ..... 1-5, 1-41, 4-32
トレイ 2 ..... 1-5, 4-35
トレイ 3 ..... 1-6, 4-37
トレイ 4 ..... 1-6, 4-37

な行

中折り 2-66
中折り位置調整 11-51
中とじ 2-56, 2-68
中綴じ機 SD-505 ..... 1-12, 4-50, 4-60, 5-7, 8-18
認証装置 1-37, 1-39
認証方式 11-65
ネガポジ反転 7-19, 7-38
ネットワーク設定 11-31
濃度 2-50, 2-51

は行

廃棄トナーボックス 8-6
排紙トレイ OT-602 ..... 1-10, 5-7
倍率登録 2-38
パスワード規約 11-84
パスワード変更 11-20
針づまり 4-57, 4-61
パワーセーブ 1-29, 1-30
パンチ 2-56, 2-64
パンチキット PK-515 ..... 1-10, 5-7
パンチくず 8-25
パンチ横位置調整 11-53
パンチレジストループ量調整 11-55
左エリアジョブリスト 10-5
ファクス / スキャン宛先登録 11-7
ファクス / スキャン設定 11-19
ファクス設定 11-32
フィニッシャー FS-519 ..... 1-10, 5-6
フィニッシャー FS-609 ..... 1-14, 5-8
フィニッシャー調整 11-49
副電源スイッチ 1-26
ブック連写 7-47
不定形紙 6-9
部門管理 1-34
部門管理設定 11-79
部門認証 1-34
ブラック 2-27
プリンター設定 11-20, 11-32
プリンター調整 11-40
プリントヘッド 9-5
フルカラー 2-27

プログラムジョブ 7-34
プログラム登録 3-14
ページ集約 2-44
ベースカラー 7-18, 7-42
ヘッダー / フッター 11-62
ヘルプ機能 3-19
ボックス登録 11-7
ボックス保存 7-97
本体内部 1-9, 4-24

ま行

緑色 7-6
明度 7-10
メールビンキット MT-502 ..... 1-13, 4-48, 5-8
メッセージ
..... 4-65, 4-66, 4-67, 4-68, 4-71, 9-8
メッセージ表示時間 3-31
メモリー 4-65
メンテナンス 9-2
文字再現 2-53

や行

ユーザー設定 11-14
ユーザー認証 1-32
ユーザー認証 / 部門管理 11-28
ユーザー認証設定 11-70
優先出力 10-12
ユニット交換時期 4-66
ユニバーサル 3-23
用紙エンプティーランプ 1-5
用紙サイズ 6-2
用紙種類 6-3
用紙設定 6-7
用紙セット 1-41, 1-43, 1-45
用紙の保管 6-5
用紙補給 4-64
用紙容量 6-3
汚れ軽減モード 2-24

ら行

ライセンス管理設定 11-36
リピート 7-51
両面印刷位置：先端 11-43
両面印刷位置：側端 11-45
両面コピー 2-42
履歴リスト 10-9
連続読込み 2-9

わ行

ワイド紙 6-13
枠消し 7-68
割込み 3-13

お問い合わせは

■ 販売店連絡先

《販売店 連絡先》

販売店名

電話番号

担当部門

担当者

■ 保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ

この商品の保守・操作方法・修理・サポートについてのお問い合わせは、お買い上げの販売店、サービス実施店にご連絡ください。

《保守・操作・修理・サポートのお問い合わせ先》

TEL

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

〒103-0023　東京都中央区日本橋本町1丁目5番4号

当社についての詳しい情報はインターネットでご覧いただけます。　**http://bj.konicaminolta.jp**

当社に関する要望、ご意見、ご相談、その他お困りの点などございましたら、お客様相談室にご連絡ください。
お客様相談室電話番号　フリーダイヤル：0120-805039（受付時間 ： 土、日、祝日を除く9:00～12:00 / 13:00～17:00）



国内総販売元
コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社

製造元
コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービルディング

Copyright
2007 KONICA MINOLTA BUSINESS TECHNOLOGIES, INC.

A02E-9570-33

2008. 4